四庫提要著錄叢書

《四庫提要著錄叢書》編纂委員會編纂

國家古籍整理出版重點項目

北京出版社

四庫提要著錄叢書

《四庫提要著錄叢書》編纂委員會編纂

國家古籍整理出版重點項目

北京出版社

子部第一五九冊目次

六藝之一錄四百六卷目錄十卷續編十二卷 存四百二卷（卷一至三百三十）
三百三十七至三百三十九 三百四十六至三百五十一
三百五十五至三百六十九 三百七十三至三百八十四 三百九十至四百六
目錄卷一至三 七至十 續編卷一至十二（九） （清）倪濤撰 稿本

六藝之一錄四百六卷目錄十卷續編十二卷 存

四百二卷（卷一至三百三十 三百三十九 三百四十一 三百四十六至三百五十七至三百六十九 三百七十三至三百七十五至三百七十九 三百八十四 三百九十至四百六 目錄卷一至三）（九）

（清）倪濤撰

稿本

錢塘 倪濤 撰

歷朝書譜

明

李時

李時字宗易任丘人弘治壬戌進士改庶吉士嘉靖三年進侍讀學士陞禮部侍郎歷少傳兼太子太師吏部尚書華蓋殿大學士贈太保謚文康 列卿紀

資福寺碑嘉靖初山西按察使司僉事錢俊民擢書之者禮部左侍郎任丘李時也 日下舊聞

夏言

夏言字公謹貴溪人少警敏能屬文尤長筆札正德丁丑舉進士嘉靖十五年為吏部尚書華蓋殿大學士陞慶初賜謚文愍 列卿紀

文愍以才高居首接天下重其書貞珉法錦視若拱璧正行亦遒美但肥過而滯老過而推耳榜署書尤可觀藝苑卮言

夏桂洲五言絕句帖行書 式古堂書畫彙考

顧鼎臣

顧鼎臣字九和崑山人弘治乙丑舉進士第一授修撰嘉靖中為禮部尚書武英殿大學士贈太保謚文康 列卿紀

王世貞國朝名賢遺墨有顧鼎臣書 弇州續稿

許繼

許繼字廷美河南靈寶人弘治丙辰進士嘉靖中為吏部尚書文淵閣大學士加少傅平生喜慾於古稀之年簡作細楷政暇閱經史與籍老而不倦贈少師謚文簡 列卿紀

張治

張治字文邦茶陵州人七歲揮墨成巨字稍長諸史百氏靡

不綜貫正德庚辰舉進士第一入翰林為庶吉士嘉靖二十八年以禮部尚書兼文淵閣大學士贈少保謚文隱 列卿紀

徐階

徐階字子升華亭人嘉靖初及第第三人授翰林編修累遷吏部尚書建極殿大學士贈太師謚文貞 名山藏

公名臣不擬以詞翰名然亦自穩密 王世貞國朝名賢墨蹟

徐文貞與白谷詩帖 徐太師五嶽詩帖俱行草書 式古堂書畫彙考

嚴訥

嚴訥字敏卿常熟人嘉靖二十年進士授編修四十四年以

吏部尚書兼武英殿大學士贈少保謚文靖工文善書（俞州續揭）

文靖好習鍾王書（陳繼儒眉公集）

嚴文靖臨趙文敏四十二章經

少保嚴文靖公故精八法第於魏國趙文敏公書不甚規規故聲令觀所摹文敏佛說四十二章經筆妙擊之周昉貌趙即殆得其神彩情性固公臨池之力深要於此經有神鮮冥契者固不覺其轉蛣中鵲之妙至此也公雖不名佛其操行制念與此經亦悲慈平實鮮不合者眉山氏謂范蜀公為學佛作家而自說臨成都講堂帖為得右軍三昧則文靖公我經云以此深心奉塵刹是則名為大報恩公之子有焉（俞州續揭）

嚴澍

嚴澍字道時文靖公第三子長於書偶得屢永興米南宮真蹟臨池竟日忘倦往往得兩家之妙邑之慧日寺殿楞道時筆也筆勢飛動識者賞其逸韻（程法程間初集）

嚴澤

嚴澤字道潭文靖公子仕中書舍人神宗見澤書摘善人多

嚴濟

寶之常熟志

嚴澍字道行文靖公子善書得會稽碑筆意（常熟志）

嚴澍書學雖无常而多姿態好寫佛經乞者如市（李維楨大泌山房集）

秦金

秦金字國聲無錫人弘治癸丑進士嘉靖二年為戶部尚書贈少保謚端敏（列卿紀）榮壽寺碑秦金書

羅欽順

羅欽順字允昇泰和人弘治癸丑進士授編修嘉靖六年為吏部尚書贈太子太保謚文莊（列卿紀）

王世貞國朝名賢遺墨有羅文莊公欽順書（俞州續揭）

顧清

顧清華亭人弘治癸丑進士嘉靖中為南京禮部尚書謚文僖（列卿紀）

顧文僖公書與羅文莊公筆俱清勁（俞州續揭）

朱希周

朱希周字懋忠其先崑山人徙居吳初釋褐為翰林修撰累遷南京吏部尚書贈太子少保謚恭靖（王世貞國朝名賢遺墨跋）

公生平不作一行草筆書極謹細（李維楨大泌山房集）

劉麟

劉麟字元瑞號南坦饒州人家金陵弘治丙辰進士嘉靖七
年為工部尚書致仕好接居力不能營索文徵明繪神樓圖
字之曰高明所集古詩十六題以自況書法宗羲獻尺牘片
簡人爭寶之李默劉南坦小傳

劉司空書醇古簡足可玩今人好奇作異之病墨林快事

周倫

周倫字伯明號甬巷崑山人弘治乙未進士官至南京刑部
尚書贈太子少保謚康僖善大書有眉山豫章風骨王世貞吳中往

哲像
賢

康僖公性嗜書善行草今刑部壁有其書識者謂似山谷山
人物 周貞菴同年燕集詩帖行楷書式古堂書畫彙考

周用

周用字行之號白川吳江人弘治壬戌進士拜行人司行人
孝宗時為吏部尚書贈太子太保謚恭簡世經堂集

公喜為詩動盈卷帙書法俊逸到朝詩集

劉節

劉節字介夫世稱梅岡先生大庾人弘治乙丑進士嘉靖十
一年為刑部右侍郎刑部題名記 劉節書倣賴魯公書史會要

唐錦儼山陸公行狀云國初吾松多以書學名天下久已絕
響公近畨起遂凌駕前人而處其上張電以書學際遇當出
公所指授識者謂公趙文敏後一人非腴詞也龍江集

陸文裕自言吾與吳興同師北海海內人以吾為取法於趙
學字何得放過董其昌畫
禪室隨筆

陸深真草行書如鐵畫銀鉤遒勁有法頡頏北海而伯仲子
昂一代之名筆雲間
志畧

陸文裕夜宴詩帖草書 陸儼山
陸子淵白鷴詩卷行書 陸文裕藏

望夫石樂府帖行書 陸子淵書南山野倡記 陸文裕藏
書目序楷書 陸儼山节劉生賦楷書 式古堂書
畫彙考

陸儼山書

陸文裕公儼山先生書法雅宗趙松雪晚窮李北海西晉風
格宛然具存足傳不朽人言先生平居雖尺劄裁答必精鋟
繫必工結搆即於所甚睡者造次應之不廢也其用力蓋勤
如是今觀東濱朱君所藏諸帖信哉而奉君鴻臚後沙乘濶
塔也宜彙輯成卷以備珍賞則公雖往而神標揮映已在二

名氷玉間笑榮蘭
館集

陸子淵白鷴詩卷

文裕公嘗云我與松雪翁同參李北海其自負如此然實從
吾鄉沈學士得來故梁叔實之與先世墨蹟并藏不作野鶩
視也若白鷴諸詩氣骨高邁變化感愴直可平抗海叟矣陳

繼儒題

邵銳

邵銳仁和人正德戊辰進士改庶吉士授編修嘉靖十一年
為太僕寺卿謚康僖
列卿紀

王世貞國朝名賢遺墨有邵銳書
嘉興府
志稿

周金

周金字子庚號約菴武進人徙南京正德戊辰進士擢給事
中嘉靖時為南京戶部尚書善字書有晉人風骨贈太保謚
襄敏
唐順之劉
川文集

許成名

許成名字思仁卿城人正德辛未進士選庶吉士授編修嘉
靖初為禮部左侍郎書初學逸少已沉酣吳興小變之通逸
能動甚為海內鑒賞
分省人
物考

成名作真行筆頗簡勁然結構疎而醜藝苑卮言

韓玉　一

韓玉字廷瑞通許人舉於鄉拜郟城知縣棄官歸梅寄傲子嗜古詩奇字嘉靖二年七十歲矣尚作蝿頭楷字即片字未見一畫苟也李華陽空同集

徐江山　一

徐江山字六橋錢塘人正德辛未進士官尚寶卿工真草法世宗愛其書御製詩文必命江山書之杭州府志

許宗魯

許宗魯字伯誠成寧人正德丁丑進士受庶吉士嘉靖中為右僉都御史終太常少卿以善書名海內王廷幹縣志

宗魯書有聖教遺意藝苑卮言

徐獻忠

徐獻忠字伯臣號長谷華亭人嘉靖乙酉舉於鄉知崇化縣謝政歸葺舊廬治梅圃讀書其中真草書法蘇趙松江志

張文憲

伯臣本非當家用筆圈圈而時吐鋒意王世貞三吳楷法跋

徐伯臣與子元礼　徐長谷五言律詩帖行楷書式古堂書畫彙考

張文憲字廷鑑吳山人流寓桐鄉士人法孝宗名試乾坤二大字縉旨令讀書翰林院嘉靖癸未舉進士終工部尚書桐鄉志

豐坊

豐坊字人叔鄞南門外史鄞人為人逸出法紀外而書學極博五體並能諸家自魏晉以及國朝靡不兼通規矩盡從手出蓋工于執筆者也以故其書大有腕力特神韻稍不足氏雋小辨

列朝詩集云字存禮改名道生字人翁嘉靖二年進士除禮部主事

豐考功晚癖而跌株連臂於書不無少妨徐文長集

坊家藏古碑刻甚富臨摹亂真為人撰定法書以真易贋不可窮詰

列朝詩集

坊草書自晉唐而來無今人一筆態度唯喜用枯筆之風韻

書史會要

豐道生臨續書譜并識帖行楷書　豐南禺臨養生論并題行草書　豐西農詠史并登瑞石山詩帖行書式古堂書畫彙考

豐人翁甚卷

昔王逸少人品為書法所掩天下知其書不能盡知其人豐

人翁實有筆人望不副天下惡其人并廢其書非也今觀諸帖雖多老年秃筆然時出入二王兼存米顛風致玉山程孟孫最善鍾顛二家書故特寶存此考遺筆亦宋人不廢京卞書意 王奉常集

豐史部論書真蹟

本朝知書者推豐史部而吳人往往短之四明李生子初出此帖相示楷篆八分行凡四體大都論書法及舉魏晉人名墨而未終者然其議論刻核非精其技者不能也余筆札最拙亦願以暇日臨摹古人而未及安能窺豐先生藩籬哉姑跋數語以塞子初之請 馮夢禎快雪堂集

徐蘭

徐蘭字芳遠號南塘其先餘姚人後徙鄞為鄞諸生累舉不第遂潛心書法正書師鍾繇宣示帖行草師王獻之授衣天寶節過鵝還等帖皆淳古遒勁度越流俗尤精六書考究點畫正其訛謬作古文奇字得遷魯生筆法八分初法蔡邕淳于長碑不失矩度而晚年參以己意時人謂其書與程南雲並馳遠近求者踵虛日蘭亦高自矜負間有挾勢位使與縑致之輒白眼叱去曰吾豈被役者耶以是益重之 張時徹寧波志

王慎中

王慎中字道思號南江吏號遵巖晉江人 嘉靖丙戌進士授户部主事為古文詞與唐順之陳束輩號八才子仕至河南參政 名山藏

慎中行草亦遒逸而不諧八法未脫塵氣藝苑巵言

馬呈道

馬呈道閩南江嘉靖二年貢士四體俱工極有書學 金陵瑣事

楊儀

楊儀字夢羽常熟人嘉靖五年進士授工部主事以山東按

榮劇使楊疾歸購萬卷樓多聚宋元舊本名人鼇跋其古器之屬江左推為博雅 常熟志

王世貞國朝名賢畫墨有楊儀書 金州 續稿

袁褧

袁褧字尚之吳縣人晚耕謝湖之上因以自號博學善倣文

尤長於詩書法入米元章之室 蘇州志

袁褧

袁褧字永之號胥臺褧弟舉進士選庶吉士左官刑部主事改

兵部論成湖州褧工文章精筆札而湖當山水間誠誦著述

傳遠近雖在戍而名益重起南武部主事遷廣西提學僉事

楊循吉吳中往哲記

永之詩名噪一時然能舉其書者而書却有風態可賞 金州續稿

袁尊尼

袁尊尼字魯望袁子文待詔引為忘年交性善書亦任能

品嘉靖乙丑成進士授刑部主事至山東提學副使吳縣志

顧聞

顧聞字行之吳縣人舉嘉靖戊子鄉試上公車輒下利寄傲

閉才華偉麗鋪序典贍長至于梁鍾人並稱美 岳倫今雨堂集

羅洪先

羅洪先字德夫吉水人嘉靖八年進士連試第一人授修撰

進左春坊贊善龍溪家居閉關習學求端性命有時能前知

洪先書頓秀閫出聖母帖而豐肉少骨纏綿有之蓍老不足

藝苑卮言

唐順之

唐順之字應德一字義修武進人嘉靖己丑會試第一人授

兵部武選主事改翰林院編修用胡宗憲薦超拜僉都御史

延撫淮揚論襄文刻朝詩集

順之書王明齋奉云明齋以古文書六十四卦名貴余而索

余為之草書精詩於冊用以相報草書出東漢艾豸以後昌

黎氏郎之以為俗書也君惠我以科斗頌氏大古

之書而余乃報之以效丘俗奏媚之書其不相稱甚矣荊川文集

王慎

王慎字明齋昆山人博學厲行嘗取古文諸書正小篆之譌

名曰同文備考 雜俎 卷集

王明謝情史謂氏之學嘗以古文書六十四卦名以屬科斗
之蕭(載川文集)

沈愷

沈愷字舜臣別號厲峰華亭人嘉靖己丑進士授刑部主事.
穆宗時以太僕少卿致仕書倣張旭有龍蛇飛動一勢(松江志)

吳子孝

吳子孝字純叔別號海峯長洲人嘉靖己丑進
士選翰林庶吉士出為湖廣右參議字學虞歐楷書法
皇甫汸(司勳集)

王問

王問字子裕學者稱為仲山先生常之無錫人嘉靖壬辰進
士授户部主事歷車駕司郎中權廣東按察僉事行至桐江能
(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(六十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(七十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(八十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(九十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百二十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百三十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百四十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百五十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百六十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百七十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百八十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(一百九十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百二十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百三十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百四十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百五十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百六十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百七十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百八十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(二百九十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百二十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百三十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百四十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百五十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百六十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百七十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百八十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(三百九十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百二十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百三十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百四十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百五十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百六十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百七十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百八十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十一)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十二)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十三)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十四)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十五)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十六)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十七)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十八)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(四百九十九)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五百)

(一齋跋朱仲山先生書)

(朱高二十七)

(五百一)

(一齋跋朱

字張禹不識則正字許敬宗不識忠孝字抑宗元不識節義

字令江陵兼之寧識我字邪竟不為跋陳有年忠介公集

方元煥

方元煥字晦叔山東人嘉靖甲午鄉貢作行草自矜以為雄偉有力而踈野粗放著書稍勝藝苑卮言

潘德元

潘德元字鄰玉崑山人領嘉靖甲午鄉薦壯至應天府治中能詩兼工書翰為歸太僕所稱到朝詩集

吳山

吳山高安人嘉靖十四年及第第三人未年為禮部尚書名山藏祐聖觀碑吳山書

張翰

張翰字子文別號元洲仁和人嘉靖乙未進士官至吏部尚書謚恭毅書法大令智永最善為人書兵燹稍快雪堂帖

陳鳳

陳鳳字羽伯金陵人嘉靖乙未進士官至陝西僉議與許仲貽齊名刻朝詩集 陳羽伯行書筆筆晉人 金陵 鴻爪

許穀

許穀字仲貽上元人嘉靖乙未會試第二人官至南京尚寶司卿上元志 仲貽工行書金陵 鴻爪事

莫如忠

莫如忠字子良號中江華亭人嘉靖戊戌進士授南禮部主事累官浙江布政書法以二王為宗尤工草書翥若龍蛇虎卧松江志

如忠行草風骨朗朗亦為署書藝苑卮言

莫其昌云吾鄉莫中江方伯書學右軍自謂得之聖教序然與聖教序體小異其沉著遒古處當代名公未能或之先也

予每詢其所由公謙遜不肯應及見王右軍官奴帖真蹟纔然莫公書始知公深于二王盡神筆 中江書法自右軍大令而下不廢夫李處州趙承旨雖行斷楷人莫不奪之鼠鬚之口而製之匿筍之服唐文獻集

莫中江崇蘭館帖

今天下墨池一汲推重三吳而吾鄉獨以工書遇主前有二沈後有二張沈公度至學士粲起翰林至大理少卿張公天駿至大宗伯毫至少宗伯其後如張南安東海以草書賜得顧素節淮學士儼山以行楷賜得李梧州趙吳興筆自莫方

伯父子出聲寔掩蔽其上令展玩崇蘭館帖神明煥然名不虛得真莫氏之山淩義獻也吾鄉書家如任子明仁發王伯靜默朱孟辯若宋文東璧衛立中德辰章共辰卿魯心傳遇禍謹中棟皆名載書史而以子孫彫零無從簡拓其一點一畫若後有賢者如君令兄弟豈至泯滅不傳於吾表而出之庶幾托莫氏以不朽云 晉公集

莫雲卿

莫雲卿初名是龍後以字行改字廷韓別號後期文端秋水方伯子民之子也補郡博士弟子攻詩古文書去紙所不窺而獨宗獻宗米楷宗鍾孫於書崇黃大癡然亦極意於摹不輕落筆 何三畏數六爾公集

是龍小楷精工過于挑撚行草豪逸有態 藝苑卮言

莫雲卿筆塵行書 雲卿與劉生手簡 莫廷韓詩詞墨蹟

碧山樵論帖論文合卷 莫廷韓真行合卷 式古堂書畫彙攷

莫雲卿書筆塵

廷韓作敘語有蘇黃之致書法米顛亦咄咄逼人此數則乃得之不經意草草者而天真朗然中載天上立世宗敕為奇語晴窓一展為之拍拍竹懶李日華識 怡雲堂集

陳鎏

陳鎏字子衮號兩泉吳縣人嘉靖戊戌進士除工部營繕主事累官至四川右布政使詩文沖遠有致書法尤精絕楷署得者以為榮 中時行賜閒堂集

陳鎏工小楷出入鍾歐自行草學寫以逮楞署書尤豐娟遒逸有天然趣 會州續集

兩泉於書法為最工小楷象錄出入晉唐其他行草及方尺以上豐縮約有鵝鴨群鵠之態 莫是龍坤廣門集

兩泉善行草尤工楞署書 姑蘇名賢小紀

陳爾見

陳爾見鎏子亦能書 申文定公摘

吳維嶽

吳維嶽字峻伯號容蒙孝豐人嘉靖戊戌進士以參都御史維嶽正行取豐媚而少遒勁藝苑卮言

馮惟重

馮惟重字汝成號芹泉應寧人嘉靖戊戌進士授行人工詩 余紹燈滄葊書畫錄

陸師道

陸師道字子傳號五湖長洲人嘉靖戊戌進士拜都水主事改儀部入直內閣以母老乞歸起為尚寶少卿師事待詔刻意為文章及書畫皆入能品姑蘇名賢小記

師道工小楷及古隸 清 汪砢玉 珊瑚網 明 文徵明 甫田集

陸安道

陸安道師道弟也亦善書 俞 允文 尚絅齋稿

陸子傳全得麻姑壇法而以色澤傳之遂為一時書家 王世貞 弇州山人續稿

貞三吳楷法跋 陸子傳詩牋行書式古堂書畫彙考

王穀祥

王穀祥字祿之長洲人嘉靖己丑進士改庶吉士授工部主事轉吏部文選員外郎乞歸家居二十年陰慶初起南吏部辭不受美姿容善書畫書詞致清雅鈔錄古文篇至數百千卷 明 文徵明 甫田集

改精好令人不忍觸手人以書畫求者不輒應一生之內琳琅金璧識如也 清 馮元成 玉堂集

許初

穀祥書倣晉人不墜右軍大令之風家藏八體並臻妙品 清 汪砢玉 珊瑚網

許初字復初一字元復以蔭生歷官授教職書法師二王尤工篆籀譽與公卿間擅南太僕寺主簿遷漢陽通判吳縣志

許初工小篆莊整而秀兼善楷法小篆 詹景鳳 東圖玄覽

初頗自高抗不屑下人有文學工大書不輕與人書萬姓統譜

吳達

吳達字近光號雲泉新淦人嘉靖己丑進士授兵部主事終四川按察副使長于歌詞草書 雒 遵 雒念菴集

陸樹聲

陸樹聲字與吉號平泉華亭人嘉靖己丑進士還殿吉士授編修陞庶中為禮部尚書耦耕乞歸為 明 陳繼儒 晚香堂集

樹聲曰余晚年知纂八法然衰老指腕多強復傾放不能抑首臨池毋忘慈摹放杜恕抗在清署 清 王澍 虛舟題跋

陸平泉龍灣閒札行書 陸尚書帖 墨彙考

邢一鳳

邢一鳳字羽伯一字雄山嘉靖辛丑進士第三人為翰林編修累官太常少卿左遷參政能歸小築師徐子仁周詩江寧縣志

張寰

張寰字允清崑山人登嘉靖辛丑進士知濟寧州陞刑部員外郎至通政司右參議致仕歸惟以圖史自娛臨摹法書惟
輸竟日不倦震川集

望甫濂

皇甫濂字子約嘉靖甲辰進士除工部主事調河州布政理問應興化同知投劾不赴家居好養生家言嘗撰述惟詩不
廢閒臨晉唐人帖皆臻佳妙蘇州府志

朱曰藩

朱曰藩字子價應人舉嘉靖甲辰進士為烏程令終九江知府常閉戶讀書素工篆尤門外持縑素求詞翰者絡繹不
絕歐大任
勢山集

九江閻臨晉法書絕喜祝希哲而以己意出之婉秀蒲澗紀
有姿態而結法失之踈蓼園
毛書苑

羅汝芳

羅汝芳字惟德南城人學者稱為近溪先生登嘉靖甲辰進
士仕至雲南大參小楷有鍾元常筆法書史會要

周思兼

周思兼字叔夜號蓼峰華亭人嘉靖丁未進士授平度知州
趙拜廣西提學副使私謚貞靖先生善行草松江志

周紹元

周紹元字希安思兼子隱居藻里工八分精篆刻松江志

周裕度

周裕度字公遠紹元子工楷篆松江志

張天復

張天復字復亨山陰人登嘉靖二十六年進士仕至行太僕
卿博學工文亦善書紹興志

馬一龍

馬一龍字負圖號孟河溧陽人嘉靖丁未進士為南京國子
司業列卿紀

一龍用筆本流迅而之字源濃淡大小錯綜不可識折肴亦
不成章藝苑卮言

一龍法素師聖母文頃得筆法唐氏小辨

一龍作字懸腕運肘落管如蜕頃刻滿幅自謂釀素以後一
人然評者謂其奇怪為書法一大變

羅龍於

羅龍於書師馬一龍稍變為圓美而多作俗筆藝苑卮言

馬汝儁

馬汝儁字試甫號駒江江寧人嘉靖壬子舉鄉薦仕慶元令
書法逼右軍江寧
府志
誠望刻意聖教序幼年者佳 金陵
瑣事

周思久

周思久字柳塘麻城人嘉靖癸丑進士任瓊州守抗志希古
品諧卓犖其治行見錢於海剛峰工詩善書法 湖廣
通志

王可大

王可大字元簡嘉靖癸丑進士初授刑曹出補瓊州轉台州
知府書法趙松雪大數寸者尤佳 江寧
府志

胡汝嘉

胡汝嘉字懋禮歸秋宇嘉靖癸丑進士官編修錄書師鍾元
常草書師張伯英崔子玉嘗取三人書之在閣帖者從宋搨
本手摹刻之 江寧
府志
秋宇得意之筆酷似枝指生 金陵
瑣事

胡懋禮書為金陵名品行草出二王父子緑書規模元常大

倪曾字惟黃號碓菴涇陽人嘉靖癸丑進士授戶部主事
歷兵部尚書文宗司馬子長書宗晉俱得其逸趣分省人
物考

晁東吳

晁東吳字叔泰開州人嘉靖癸丑進士改歷吉士善摛古書
法每自心得偶睨作趙松雪書散置案中見者莫能辨 大名
府志

郭斗

郭斗字應秀嘉靖癸丑進士歷浙江左轄致政歸賦詩作書
搆小樓於進耳山扁舟往來會心自適者十餘年 雲南
通志

姚汝循

姚汝循字叔卿江寧人嘉靖丙辰進士知杞縣擢南刑部主
事出守大名 江寧
府志 汝循善真行書繪訣 部

張榕

張榕字湘如雲南府人嘉靖己未進士授水部主政擢寧夏
兵備副使事罷歸精心墳典自六經子史旁及真詮釋典律官
小說靡不研究尤精書法至今得其隻字尊之 雲南
通志

臧元佐

臧元佐字嘉仲號中岳秀水人嘉靖壬戌進士仕至尚寶卿
長於詩文又善書畫 嘉興
府志

成中乐精楷法與文徵仲頡頏六研齋筆記

沈士華

沈士華字君伯嘉興人嘉靖壬戌進士杜門著述喜飲左持觴右執卷伊吾至丙夜字法趙松雪仕至南京大理卿卒贈光禄

張簡

張簡字子謙世家盱城南金斗篆別墅斗陽工古文詞及真草書嘉靖戊辰成進士為蘇州府通判卽元錫撰墓銘

章公美

章公美字簡華吳人嘉靖進士官四川憲副書倣祝京兆書史

一卷雲根井中藏之

卷第三十六七 三七

徐文溥

會要

徐文溥初名鳳更名溥字可大自號岳峰又號夢漁教諭蒼梧靖時官廣東憲副書史會要

連鑛

連鑛字百金號白石更號明山永年人文追先泰詩步盛唐

字法端勁如其為人嘉靖丙戌進士選歷吉士仕至都察院右副都御史分省人物考

華鑰

華鑰字德啓別號水西無錫人嘉靖癸未進士授戶部主事終職方郎中嘗筮易得賁白之明夷更號白賁子陳學明諸經文章精健古詩似魏晉律似杜書法似虞柳鄭瑞簡公集

左國璣

左國璣字懌齋大梁人嘉靖中舉於鄉性嗜酒作詩賦古文出語輒驚人字畫頗勁古分省人物考

梁懷仁

梁懷仁字元之晉江人生而智絕慧嘗識字三歲誦書四歲善草書吟詩子史經傳聽不能忘十六夏禮部二十登嘉靖

一卷雲根井中藏之

卷第三十六七 三八

己丑進士奉命賜冠授南吏部驗封主事居三月死年二十三明書

蔡一梶

蔡一梶字景明晉江人嘉靖己未進士除戶部即出為湖廣會事遷廣東參議善小楷行草閩書

王問臣

王問臣字正叔號鄭川嘉靖間進士累官吏部文選員外郎

書畫行繫長洲志

張莫峰

張景賢眉州人世廟時為右僉都御史博古好奇時文高法
俱妙絕一世 川紀大

歷朝書譜

明

黃道周

黃道周字幼玄一字螭若號石齋漳州人授庶吉士改翰林院檢討改左中允改左庶子改左諭德改南京國子監祭酒改吏部右侍郎改禮部尚書兼東閣大學士改武英殿大學士進庶吉士授編修通討文集皐皆自成一家天啟壬戌會試主考

歷官禮部尚書 行狀

黃幼玄奏摺 黃銅山與蔣八公札二卷 黃石齋簡牘手扱

一帶雲根井堂藏書 卷四 三

禮詩帖草書式古堂書畫彙考

黃銅山與蔣八公札二卷 黃石齋簡牘手扱

外附解相印鼐鼎偶然安頭見石公 黃先生手書二冊近附

葉昏詔獄中與倪道烺論學牘之先生臨沈言妙不必言至道次與沈中信論五書新箭相得不失尺寸斯堂與沈之於手

抱朴獨黃先生雖之七十櫻綠俊虎甘刀俎如飴回吾翁獨頓身擁護百計脫黃先生於厄時鉤黨漸興鉗網四射先生

草頭一將之謀作徐慶卿王孝公張毓淵二君手吾鳥手全寂其爭幾罹不測噫才危矣史籍所載零鄉孔融翼奉諸相

死皆一時矜激無數豪傑數君子匪節友誼何如哉然使此
數君子不幸而以匪節友誼特著又豈世道之福乎吾今及
此閱筆三嘆甲申朋黨之禍望周建儲元立謹識式古堂書
石齋先生中黨人之禍以直不測至有以白冤龍逢之說洗
者生平教好大都屏跡以謂事無可如何徒自及爾獨五師
力為營救義不反顧卒先生所感服者聲兵師之力也當是
時遊有賢語及師同志實悚石師可不為聯大之事罷吾鄉
徐家舉曰若輩之伎倆有盡八翁之不見不聞無窮哉益
吾師義篤友朋實愛深君久試恐望風下石之徒塵黷聖德
為天下萬世慮至深遠也方先生下詔獄師告之曰自明夷
演易後名賢巨製皆著書自見君不能脫子於阮我責也子
無咸書子責也故先生被中江著乃春秋論斷詩序正易衆
正等書又手寫者經百本頒示諸侯宗盟孝令觀性果諸牖啓履險
經危之具而兩臂孜孜道誼獨立不懼之槩具可想見即其
文辭奚啻書法一大重之何其從來不若此古人之美何
足以云華亭門人張壽孫謹跋

洪周祿

洪周祿字幸石黃岡人天啟壬戌進士授戶部主事出知常

州府解組歸里肆志詩文行草書妙絕一時為董思白所賞

湖廣通志

諸清臣

諸清臣字清之會稽人工臨魏晉隨唐諸帖歸志其疲來會稽

姜堅

姜堅字子柔嘉定人性明行篤學者稱為大師五十貢於春

官不仕而歸書法妙天下與日暗矣筆意精良方欣然染翰

不文促刻朝詩集

朱玨

宋玨字比玉青田人善八分書規摹漢魏深得蔡邕法

新刻朝詩集

陳元素

陳元素字古白書法歐陽率更精楷入神氣勢

志

陳古白書海叙卷小記

北卷在周山下乃午化當今居所自記者陳太學古白風

為書碑石而又縮小書此以便學者古白天心筆陳不下長

公而猶介不苟有秉老之濱其於篇志之居乎千古可無愧

色已矣林快書

常得之
魯得之字孔修為大僧李日華入室弟子工篆竹兼工畫
書法嘉興志
何白
何白字元咎永嘉人幼時為郡小史能君物為留理與其才
為加冠集諸名士賦詩以贈之為延譽於海內遂有盛名而
趙涧泉南窗湘流歸隱梅岫山中能書善畫刻
詩集
吳周生
吳周生新安人董其昌墨禪軒說云周生坐擁萬卷博雅好
古尤精入法谷臺
李
朱茂暉
朱茂暉字蓄秀水人文格公國祚之孫為郡學生工行楷
書為董文敏所稱點論安處先生
文集
朱茂晚
朱茂晚字蓄補諸生以學古問隱經餘史籍
頭細書盤筐滿筒未嘗少暇息命注言
詩集
汪淮
汪淮字汝人休寧人好稱詩九工書法常書陽山李穎董宗
伯其畫過休寧見之歎曰此中有人數
命可進
命可進字子漸婺源人精鍾王書法雲間董玄宰陳眉公見
其所書黃庭心經稱為仙品上
李永昌
李永昌休寧人善書與董思白齊名思白雅重之所書如董

洪度
洪度黃梅人精書法一日洪濤淨數管發之乃宋僧道肯集
篆金剛經字久磨礲精思七晝夜重臨刻石宗伯董其昌稱
以小楷筑京師序訶卷烟庵逸士
沈瑞徵
沈瑞徵字靈均號玄圃博學工詩文書法鍾元常見知董文
敏海岳志
徐弘澤
徐弘澤字問卿蘇春門書法從吳興取徑晚愛張伯雨逸興
子丘頭有仿致堂集
沈叔淳
沈叔淳

沈叔淳更名自新字曼倩學寧州樊井又能篆籀上同

陸鳴和

陸鳴和字三孺隱竹橋里李日華六君詠云七歲誦經賦十年華右單藝翰而寺能之載起華群六研齋三筆

吳秋林

吳秋林歙人寓春波里門無雜窺時時襆被訪人釋子假牖蒙者莫若喜蕭如也書法趙吳興雅玩

陸元厚

陸元厚嵊貧為畫子師性方嚴行止舉舉喜蓄異書書畫

乾皖遺有無上同

沈行叔

沈行叔富有六書之學其所剖析務極水源助上遂篆指下建隸分所遺必收有書必奇

朱燮

朱燮字清父嘉定八年小篆及行楷不多為詩而閒一書其中所收言悠然之味常在言外上同

安紹芳

安紹芳字茂齋居無錫之勝山山有游硯亭因自號硯亭居士字昭智城碑陳繼儒傳晚香堂集

李夢仲

李夢仲詩才清敏書法過古尤長於草又大字美稱格有王

樹臨風之翠張鴻磐西川詩話

厲衍

厲衍字永思博學好奇隱居教授善書法作擘窠大字更奇

倦翁定西志

沈弘嘉

沈弘嘉字叔雅嘉興人工篆隸八分董氏戲鴻堂帖其手摹

勒石之細珊瑚

項真

項真字不損嘉興人汪珂玉云不損為吾邑書家龍鳳惜其作字北海畫頭陀珊瑚細

項不損昭東坡墨妙亭詩帖 項不損既陵道中詩帖行楷古言

宋獻

宋獻字獻孺號如圃宦山東參議行草道勁尤善楞嚴晚年書式古堂書畫彙攷一

寫冬體疎妙書史會要

童朝儀

童朝儀字令侯山陰人天啟壬戌武進士歷官後軍都督工書畫善詩詞文采風流一時名公鉅卿競相推服山陰志

孫幼如

孫幼如真書如王璨墨蘭而有致行草師米元章無胡學記碑如優孟之視叔敖江寧府志

張振英

張振英字玄度為諸生有聲家徒四壁而左圖右史焚香煮地狄如也字法雲麾碑宮於隸地種竹數十竿用號苦竹上月

高松聲

高松聲字谷傳嘉興人志行峻潔一介自嚴揣水肥紫於西如焚香掃地載竹賦詩淡如也書法五入二王堂廡嘉興府志

王淑

王淑字子遠嘉興人書法宗趙承旨公高松卷故姓王淑為松聲叔第世以雙隱自號嘉興府志

吳高節

吳高節字希夷小楷行書入神境與文衡山俊趙吳興文超吳興神境與文衡山俊趙書又傳寧館摹趙帖如出一手徐州府志

洪墨卿

洪墨卿休寧人善書徑丈大字以尺量壁全抹而成極飛舞生動之致徽州府志

文震孟

文震孟字文起別號湛持特詔之旨移生而奇偉眉稜上指日光射人與世所傳文信國像無異年五十始成進士為熹廟改元之疾理對大壯天下榮祖初拜禮部左侍郎東閣大學士溫文肅書蹟遍天下一時碑版署額與待詔埒文氏族譜文湛持與眉公札 文文起與仇公札 文湛持與九夫二札式古堂書畫彙攷

文震亨

文震亨字啟美文起之弟少學於韶秀善畫亦有家風為中書舍人給事武英殿仍加俸典籍

文從簡

文從簡字彥可元善子書法北海最得其神逸蓋始唐歲薦需次待選不就歸文氏族譜

文彥可與文蘅札式古堂書畫彙攷

文蓀光

文蓀光號傳雲從龍子能書文氏族譜

文譲光

文譲光字去盈為縣學生善臨池行楷仿晉人神骨俱肖嘉慶志

文寵光

文寵光字仲吉譲光弟亦善書文氏族譜

傅汝循

傅汝循字孟博為泰州訓導學宗禎初陞濟南通判書摹晉唐

家諸名家俱有法度嘉慶志

陳師泰

陳師泰字文甫黃岡人宇祖庚午來官蘇州知府好

吟咏書法直逼大蘇湖廣通志

王一翥

王一翥字子雲黃岡人天啟時遊京師鄒漪欽邀為記室一

名通鑑宗禎庚午舉於鄉後隱廬山智林能詩善草書全上

陶汝鼐

陶汝鼐寧鄉人崇禎癸酉舉於鄉高尚不仕詩宗漢魏書法

鍾王一時名為樂安之游湖廣通志

陳丹衷

陳丹衷字昭宗禎癸未進士為文閎奥自成一家詩原本

離騷出入少陵長古工書能畫江寧府志

魯憲學

魯憲學字儆章南潭人崇禎中領鄉薦為博學善屬文工詩善

書畫湖廣通志

林田本

林田本字原長崇禎間辟為中書不就楹邊多植梅人稱為

梅隱善詩歌亦工書酒酣揮翰似意所之伸眉之流亞紹興

郡引

郡引字僧彌清嘉興秀好學多才藝於詩宗陶韋於書仿宋

元於華書出入大小米而相法過唐楮稱絶工平生揮灑小

幅尺幅人皆藏弆以為重或購之累數十金梅村集

程嘉書

程嘉書字阿白精於書兼畫古法尤善大字自負直於鍾王

把臂頗抑而下不屑也無生人庭掌記書自給以其身金正

浦文治字君錫無錫人少頗異攻詩文楷書法歐陽率更遒
勁有晉法徙家廣山菊巾枕杖游行山澤間城市之中足跡
可數初學集

嚴調御

嚴調御字印持錄杭人以高才為諸生癸酉博雅好古能楷
書初學集

房宏申

房宏申字子潤一字仙洞善古文詩詞貌頎而癯嗜酒能
書崇禎丁丑李妻子觀然長往後有清涼寺僧西度於匡山

見之云江寧志

戴笠

戴笠字曼公杭州人特學能詩負工篆隸崇禎中從番禺人
乘槎入海後不知所終杭州府志

景耀

景耀不知何許人或以景清後也崇禎間從粵東赴試揚一
舉夜嘈嘈彈不為詩善飲酒好奕文士交書法類懷素疏蕩
通志

陳振琦

陳振琦號二瞿黃巖人博洽能詩尤精顧氏書法結社海文

一時文雅字之客杭來年任安州守事白
通志

周埏

周埏字原惇性敏好讀書善行楷秀媚中饒有骨力一時祝
司埏字原惇性敏好讀書善行楷秀媚中饒有骨力一時祝
書自起字
筆記

吳應箕

吳應箕字次尾貴池人師學生行掌書早學節山谷
中學宋元參新安公皆出盡其工五石
篇

俞安

俞安字長體善酒人少孤客建會度不能歸自更其姓為狷

狂精究易理工楷書善醫江寧府志

劉世鵬

劉世鵬字九生上元人隱通山中汎舶發墨有以詩贈之語

池子者能操意間隱山府志

鄭雲

鄭雲字誼若句曲生工大小篆八分行書詩出晚唐集

王琦

王琦字王根吳明人隱安寧山中以詩酒自放醉甚處筆作

書淑海通健類李北海書而
尚志

王華山樵

王華山樵名民或自稱大
通閘

縣東山僕寒夜偕吳之寧見其歌及播王姓者因
亦不慮修其邑里姓名終莫知之寧見其歌及播王姓者因
宗見是必王其姓而建文朝忠臣也

友松居士

友松居士姓申屠氏名悦其
博物好古善吟咏工書尤善寫性
客鬱沈精軒其上環植松數株人呼曰友松處士因以自號

桃溪文敬
公遺書

周翰居士

周翰居士
周翰居士幼哭父腊長祝生理以善增法
名氏王門曰居士
游於貴卿之門刺朝
詩集

周卿

周卿人或書論字書纖勁風逸有二王筆意雖紙底雜筆
或梁者未能過也容重
集

吳十九

吳十九著浮梁人能吟詩書通趙吳興隱陶輪圖所製精磁
如他人巧自號壺隱老人榮桃軒
融松

太監蕭敬

蕭敬南平人英宗初以長隨侍藏春宗朝入掌司禮通翰
典籍能詩明筆書名山
藏

高麗崔滋

崔滋字彥沖別號楊浦高麗海州人工詩文隸書祖述東晉
筆書逼真懷素楊凝
集

道家

車晚春

車晚春當田人生嘉靖間自號無仙子嘗曰上陽子人呼曰
小仙初楓行乞言休咎事皆奇中知不識字十四能詩十六
著草書唐顛之作小仙草書歌有瓊瑤東海黃公符蒼古太

張宇初

天師張宇初字嗣瑞五歲讀詩十行俱下洪武十年一召駕
龍虎宮道教領袖章詩墨寶極精如列仙
詩集

張理哲

道士張理哲字如愚號服山福州長樂人篆隸書俱精洪武

十七年命上清宮挹鶴張宇初
提東集

吳伯理

道士吳伯理號藥雲子居廣信龍虎山永樂中來朝賜張三
丰後居嘉定之鶴鳴山博通經史詩書精篆隸皇明書
畫史

張復

道士張復字復陽居南宮自幼學書沿法古人能運筆作大
字秀水
志

周禎

道士周禎字世昌號虛白善詩文工書法能習道書精玄帶
一帶雲根卅堂藏書 卷為三十三 十二

法臨安
志

黃棠

道士黃棠字丹霞號虛舟道人讀書明理善詩筆皆張即之
字上虞
志

釋氏

釋德祥

釋德祥號止庵仁和人書法擅名一時有飛書銀釣之妙詩
刻苦高處過知島東善杭
州志

姚廣孝祥光華書歌云祥師只今為臣學上虛閒寺爭巖此

錢唐山水甲天下季氣晚子為楓梢十年不出筆成冢中山
先兔雖安時斬小試烏王玦雙龍隨手撥波濤昨將一紙
遠寄我天孫機錦千花猶頓帥切莫置鐵門限從他須雪來下
官揮神相與歡莫及便欲奪去加巾冠厥聲已播不知息箱
篋盛貯光燭燭其為一時推重如此遠度
子集

釋宋泐

釋宋泐字季潭昭海人於姓周氏篤意詞章九精隸古尚
精黃文敏張公皆推重為方外交洪武初詔舉高行沙門
結吾其首列朝
詩集

釋來復

釋來復字見心究箭泉顧姓黃氏洪武初與沐季潭用高僧
召至京除僧錄寺左覺義詔住蔣陽牧羊山因通陵川朝
來復書法小楷受學趙文敏書史
會要

釋惠照

釋惠照字本明善書有詩名與高季迪為友自號芝庵杭州府
志

海上人

海上人字玄津以解吟工書嘗於祥林珊湖

釋大智

釋大智字南溟住天台正書文會要

釋惟寅

釋惟寅號樗菴太倉人永樂中奉修二藏賜法服工書亦能詩為士林推重書史會要

釋無辨

釋無辨名覺同號雪峯大同人姓康氏攻詩文著立軌善化寺記數千言瀕輸作草書雄健諸集石龍校感舊人稱之明詩綜

釋聖首

禪草聖毛晉明僧弘秀集

釋康雪庭

一瓻雲根舟堂藏書 卷第二十二 十二

釋康雪庭書法學松雪極有筆力烏程志

釋知

釋知住嘉興本覺寺善書永樂中召校藏典籍書畫甚多府志

釋道聯

釋道聯杭州人兩被召繕寫修大典海鹽縣圖經曰咸豐之後坐逃矣宗悼之勅葬於藕花居之東杭州府志

釋守仁

釋守仁字一初號寄傲軒富春人能文辭草書宗晉永能篆隸皇明書畫史 釋一初蜡山隱士歌見式古堂書畫彙攷

釋萬全

釋萬全字日句吳江人居吳之報積寺詩文字畫皆精絕書史會要

釋定徵

釋定徵善請僧書詞翰妙有前人風範於家藏集

釋宗泰

釋宗泰杭州人祝允明至上人暑書贊曰雄顏偉貌實如其書

一瓻雲根舟堂藏書 卷第二十三 十九

淳光自而耳目警誰敢褻玩衆夫瞻仰老史作贊 祝氏集略

釋戒襲

釋戒襲姓李氏校文徵仲游能書 明畫錄 圖經

釋福慈

釋福慈字大林竹堂李修少有戒行書遵文大史徵明之門 嘉興府志

釋定瞎

釋定瞎字東白嘉定人成化中住修禪寺善書法治間寫經 嘉興府志

釋智永皇甫汸長洲志

第一權左善世明僧弘集

釋完敬

釋完敬號碧庵長於梁都邱法廣世南深造其妙詩才清俊

名播於時御製事蹟

釋德清

釋德清號憨山初住曹溪萬曆時說法匡廬文史妙紙一篇

千言善行草體書史

釋宏秣

釋宏秣號蓮池姓沈氏萬歷時人住越之雲棲寺以修淨土弘範一世書法端楷可宗書史會要

一帶雲根艸堂叢書　卷第三十二三　三

釋洪恩

釋洪恩號雪浪金陵黃氏子年十二出家長于寺情通經史

攻習梵墨列朝詩集

雪浪善詩書法通婿通名理有江左支許風韻嘉定縣志

釋彬公

釋彬公神宗時人字化侯號慧空充振宏風雅通翰墨明詩

釋宗公

釋宗公神宗時人能詩善顏書公書題跋

釋如淵

釋如淵號竹堂性僻潔若一小樓明牕淨几不置

雜物作小詩有濮致書法顏柳學桃溪又絕

釋智能

釋智能字普如別號秋潭晚更號黃葉頭陀俗姓周氏嘉興長水鄉人能詩工書性致堂集

黃葉老人書力祖顏行指法雙井烟系義成氣如霜後磨柑者味俱純正

釋同六

釋同六黃岩人親易禪戒清苦臨黃庭經足踪跡山作室

一帶雲根艸堂叢書　卷第三十二三　三

吳悟玄堂集

釋智訥

釋智訥石門人性穎悟佛書一覽即通九工書住持徑山志

釋永倓

釋永倓字斗南扶桑人書宗虞永興筆致

釋如曉

釋如曉字淨躋蕭山人失其姓初不知書年二十餘以罪逃西安山中獨樓古廟十餘年深山月朗見竹影在地點然有有折枝畫艷庚逐基書業稍閒結茅烏石峰側名曰叢桂軒志

釋道生

釋道生字九齡楚之黃梅人住靜廬山實積初來遊江城以詩著名右手胎孿能以左運筆如飛紙上施指超逸有鐵門限之風（畢楊堂筆麈）

名媛 一

高妙堂

高妙瑩字叔琬解結毋忘通經史傳記著小楷曉音律築數女工極其致妙名山藏

蔡氏

一帶雲根神堂叢書 卷為三十三 三三

蔡氏陰士韓夭妻也讀書通大義善筆札嘗書經刻以行世（吳中人物志）

徐氏

徐氏南出昊之天玉山歸水泉陰出泉陰出泉陰讀書通大義知楷法子聲人翰林封楊人雲澤一集

馬氏

馬氏名閒卿字芷居金陵人陳翰林嘗南之徙室也書法蘇黃公得其筆意顧與高菊相頡頏詩集

黃氏

一帶雲根神堂叢書 卷為三十三 三四

黃氏陸士秀夫妻也少工楷法讀書通曉大義初學（畫墨考）

邢慈靜

邢慈靜貴州左布政馬梓妻少細荊條也書宗李衛武定苦靜善行兄書（列朝詩集）邢夫人自述詩帖見式古堂書畫彙考

金元寶妻

金元寶妻萬曆時人元寶為屢吉上又故書法亦用之絕麗多態石間幢之氣未除（王世貞書畫跋）

魏氏

魏氏號青城居士秀州人姚家琉女弱冠歸之琴瑟相和日讀漢魏以文詩集晉諸家書法吟味多載快不孟傳（王鴛湖繡谷亭薰習錄）

陸氏

陸氏名卿子始蘇尚寶卿師道之女人余越官先生夫之妻也九夫家廬墓與卿子偕隱寒山手闢荒穢隨泉石壁書自楷置引合勝流石卿子又工於詞章與墨浣在一時名聲籍甚以為高人逸妻如靈真仙侶不可梯接也（列朝詩集）

徐媛

徐媛字小玉副使范允臨之室也多讀書好吟咏與寒山陸卿子唱和稱吳門二大家（列朝詩集）

袁氏

袁氏名九淑字君馥通州人錢良眉之妻四川左布政袁洪愈之女也少讀經史尤深四典詩文清麗書法遒媚（列朝詩集）

沈伯姬

沈伯姬聘黃履素年十八卒七書法似歐陽率更（公集）

葉紈紈

葉紈紈字昭齊三歲能誦唐詩長根敬十二能詩書法遒勁有晉風歸趙田遠民（列朝詩集）

張微卿

張微卿清淨人柯孝廣配寓自下苦書（明詩）

雲濤　月波

雲濤月波微卿女弟子清瑤君贈詩云妙模樂毅行波牋錢畫銀鉤字樣圓娉婷嬌地洗瑞石妹先題葉葉軒煙（明詩綜）

女士徐範

一帶雲巢仲堂藏書　卷第三十三　二十五

女士徐範嘉興人十三齡能纂諸家體書字自活（明詩綜）

徐範編書聖教序無一筆不肖亦無一筆差謬閒帳熊恬致（雲集）

何玉仙

何玉仙號白雲道人史痴翁之妾能篆書（列朝詩集）

張天駿眉叔

張天駿有厥參婦善書觀者嘖嘖賞咤賞學抵訴又絕

美卿王

美卿王號竹雪居士隆慶間舊院妓工詩兼楷書（列朝詩集）

馬如玉

馬如玉字楚嶼本張姓寄金陵南市樓妓君舊院魁精文選唐音善小楷及八分書（列朝詩集）

朱無瑕

朱無瑕字春王桃葉渡邊女子幼學歌舞長而淫通文史工詩善書時人以方馬湘蘭云（列朝詩集）

顧文英

顧文英善書以碧紈作小行楷編之盛鏡奩以遺所歡（名媛詩歸）

梁小玉

梁小玉武林人七歲依韻賦落花詩八歲摹大令帖長而遊

擬屋書作而勒賦半載而就著珊瑚集三卷列朝詩集

楊宛

楊宛字宛叔金陵名妓也能詩有麗句善草書歸荅上茅止生止生重其才以殊禮遇之列朝詩集

董其昌云楊宛書非直媚秀取姿而迴腕出鋒絶無婦骨書畫

薛素素

薛五素素姿度妍雅能書作黃庭小楷九工蘭竹下筆迅捷各具意態又善鼓琴而彈先先後發使後彈學前彈碎於空中甲乙剩言

卞賽

卞賽字賽賽自號玉京道人築詞所自出或曰泰淮人知書工小楷能畫蘭琴倚虎丘之山塘所居湘簾紫几巖淨無纖塵雙眸汝甘日與佳賓良儔相映徹晚休更鬻保愉之刻古玉為書法華經既成自為文序之梅村集

王少君

王少君名曼容白皙而莊清揚巧笑殊有閨閫風其居表以長楊人遂呼為長楊君學字於周公瑕學詩於余宗漢學琴於許太初爭以文雅相尚潘之恒中志

楊蕙媛

楊蕙媛名勝芙來泊女即精黃庭小楷研翁

沙宛在

沙宛在名彩蛛擅臨帖閨秀上同

郭藝城

郭藝城名宛君工寫宣示帖上同

楊玉卿

楊玉卿名修孝喜學麻姑壇一染齊紈可易百錦大足抵映林下卿上同

歷朝書譜

式古堂書畫彙考曰前有蔣里書帖已見前者茲不重錄

錢塘 倪濤 撰

姜漸 字羽儀仕吳為淮南行中書省都事洪武初太常博士諸暨人有吳 姜羽儀義塾序

宋克見前 高啓見前

宋濂見前 宋璲見前

劉秩 字伯序元末進士明知崇明州提點鹽法豐城人 劉伯序題留春軒詩

一帶雲泉草堂藏書 卷第三百七十四 一

蘇伯衡 字平仲官處州教授宋文定公濂九世孫黎之全華人 蘇平仲勤荷春念帖小行書

陳璧見前

呂敏 字志學號迂叟生洪武中舉明經官無錫教諭無錫人 呂志學梁溪泰別帖行書

周砥見前 張紳見前

桂彥良 名德一名德稱以字行元末平江教授明官晉府相改長史慈溪人 桂右傳教帖甚恭礼行草書

張簡見前 盧熊見前

童冀 字中州浙江金華人 童中州書古用軒記八分書

顧祿見前

沈貫 字希曾 人 沈希曾贈王古用帖楷書

徐達 字文矧 人 徐文矧與雪窗寫詩簡楷書

桂衡見前 俞貞木見前

解縉見前 解祖期見前

羅汝敬 名肅以字行號寅菴永樂二年進士官至工部侍郎

吉水人 羅寅菴雲山詩帖楷書

一帶雲泉草堂藏書 卷第三百七十四 二

會稽見前 楊黎見前

楊士奇見前 楊溥見前

王紘 字孟弘永樂十年進士第三人官至江西提學僉事諸暨人 楚人 王僉事發龍泉詩簡行書

張益見前 王英見前

李時勉見前 于謙見前

陳敬宗見前 徐有貞見前

許彬 字道中人稱為東溪先生永樂十三年進士官至禮部侍郎詔誥家敏寧陽人 許道中朝退詩帖行書

丘霽見前

張弼見前

張泰見前

趙輔　字良佐興都堂札行書

趙良佐興都堂札行書

侯方　字公矩號東樵成化五年進士官至湖廣僉事松江筆亭人　侯東樵孤於帖草書

姚綬見前

陳完　字玉芙號末巷南康人　陳孟英寸善堂扇楷書

陳獻章見前

劉珏見前

錢溥見前

吳寬見前

文林　字宗儒成化八年進士官至溫州知府翰林待詔徵明父長洲人　文宗儒無逸卷札楷書

文彭見前

文徵明見前

文嘉見前

文伯仁　字德承號五峰又號葆生擬山先徵明從長洲人　文五峰與世重札行書

文仲義　字道承號楠灣山人長洲人　文道承詩帖行書

文肇祉見前

文讓光見前

文元發　字子悔隆慶二年貢士官衡輝同知父博士彭子柬閣大學士寬孟長洲人　文子悔與璽爺札行書

文鴻光　字　長洲人　文鴻光與璽爺札行書

文虹光　字　長洲人　文虹光與靈均札行書

文懋光　字　長洲人　文懋光與兄夫札行書

文震孟見前

文從簡見前

文震亨見前

錢福　字與謙號鶴灘成化廿二年褒卿試弘治三年進士及第俱第一官修撰華亭人　錢鶴灘五言絕句帖行楷書

錢同愛　字孔周長洲人　錢孔周與陽湖札行書

錢穀見前

黃雲　字鹿隱號丹巖弘治中貢士授瑞州府學訓導崑山人　黃鹿隱書宋吳大有詩帖

徐禎卿見前

沈周見前

朱存理見前

孫燧　字德成弘治六年進士官至都御史巡撫江西贈兵部尚書謚忠烈鄞縣人　孫忠烈與楊湖札行書

李廷相　字夢弼弘治十五年進士官至禮部尚書謚文敏濮陽人　李夢弼與鶴松札行書

唐寅見前
王鏊見前
君節 字士貞一作士卿號商谷吳郡人 君士貞知華川札
祝允明見前
王寵見前
張潮見前
方鳳 字時鳴正德三年進士官至廣東提學僉事崑山人
方時鳴北岡山詩來行草書
顧可久見前
都穆見前
一册雲煙堂藏書 第三十二册 十二
張寀 字補之正德十六年進士官至國子祭酒江陰人 張
補之與宮詹帖行書
楊延和見前
楊循見前
楊慎見前
陸深見前
徐階見前
許初見前
許殿卿見前
王敬祥見前
彭年見前
錢師周 字君輔嘉靖十年鄉薦官至思府知府華亭人
錢君輔承愛帖行草書
沈霖 字子公正德六年進士官至貴州參政華亭人 沈子

公舊日詩帖行草書
徐中行 字子與號天目第進士官至江西布政長興人 徐
子與送聊聊王氏昆季詩草 珊瑚網云向謂作枝山書竹
懶翁見之曰此天目先生筆也遂改入此
袁福徵見前
黃姬水見前
張淏 字里供鈔 張淏舊作詩帖行書
何良俊 字元朗是貢入監官南禮部郎中良俊爭華
何良傅 字叔皮嘉靖二十年進士官南禮部郎中良俊爭華
春中東歸札行草書
一册雲煙堂藏書 第三十二册 十三
何元朗 字元朗是貢入監官南禮部郎中良俊爭華亭人 何元朗
何叔皮無長谷札小行楷書
豐坊見前
陳淳見前
方岳 字鈇嘉靖間知崇寧縣崑山人 方岳醉歌
馮恩 字子仁嘉靖五年進士官至御史上海人 馮子仁與
孫丕揚札行書
陸師道見前
馮大受恩之孫見前
錢允治 字功父吳人 錢功父詩帖楷書
徐階見前
張元忭見前
王畿 字汝中號龍溪嘉靖五年進士官至兵部主事浙江山

陳人　王龍溪與石山札　王汝中畊者登堂札俱行草書

王世貞見前

陸樹聲見前

龔德洪　字洪甫號緒山嘉靖五年進士官至刑部員外郎江

錢姚人　發緒山舟過札草書

王世懋見前

墨光　字子勳隆慶二年進士官至江西副使無錫人　墨子

動遊井首　詩帖行草書

莫是龍見前

周天球見前

徐渭見前

金鑾　一作鸞字在衡蘭西人　金在衡楷墨隱居行

項德新　字又新一字復初元汴子嘉興人　項又新欲生花

項元汴見前

項德純見前

前札行書

項良枋　字欽萬曆戊子鄉薦嘉興人　項良枋夜詩帖行

草書　項良枋九日詩帖行草書

項真見前

那伯見前

李贄　字卓吾號禿翁萬曆四年舉鄉試官至雲南姚安知府

福建晉江人　李卓吾答札小楷書

黃輝見前

陳書　陳櫻寧書銀臺贈汪王永序　珊瑚網云

余年十三四時又會于天學之晁廬間凡六載一時社友蓋

言考　為陳櫻寧去職張華平壽昌歌怪補妍優憂不相下也

余十七而貶值萬曆癸卯李冬春旦有故舊銀臺姚公欲遣

暗言　時況櫻寧代華并書陳石簣雅風流健筆應題風雨惜

文作若我之鬼每念之悒悒感詰此式後

何三畏　字士抑為萬曆十年鄉薦官至給與府推官松江人

何士抑送友南遊詩帖行書

顧應陽　字欽宿王慶州同知松江人　顧同知與後附札草書

唐文獻　字元徵萬曆十四年進士及第第一官至禮部尚書

大子少保諡文恪松江人　唐元徵與公觀札小行書

王樨登見前

丁雲鵬　字南羽號聖華居士　人　丁南羽詩帖楷書

錢龍惕　字稚文號機山萬曆三十五年進士官至禮部尚書

吏閣大學士大子太保松江人　錢稚文別來札行書

徐光啓　字子先萬曆三十二年進士官至禮部尚書文淵閣

大學士諡文定松江人　徐子先煙吹蘿附帖小行書　徐

文定夏初札小行書　徐子先自笑札小行書

董其昌見前　陳繼儒見前

薛明益見前　湯煥見前

俞參正　字里俱缺　俞參正寫白居易知足吟

秦瀚廣　字里俱缺　秦瀚廣書白居易池上篇

段全　字子幸號白石卷人　廬山人　段子幸地理通波詩

沈俊　字俊民吳興人　沈俊民不律引詩帖楷書

滕季達　字晉生　滕晉生留別少石詩帖草書

滑荃　號芝田　滑芝田送少石詩帖草書

郭鎮　號菊軒　郭菊軒寸善堂詩帖楷書

陳誼　字欽宛丘人　陳誼寸善堂詩帖行草書

伊元珍　字玉汝號鴻寶天啓二年進士官至戶部尚書謚文正紹興人　倪鴻寶晴山詩草書

曹學佺　字能始號石倉萬曆廿三年進士官至禮部侍郎建侯官人　曹能始花朝社集詩

黃道周見前

釋夢簡　字易道號同卷又號南屏山人閩浙於平山林和尚

洪武間住南京天界寺除僧錄司左善世義興人　釋夢簡

佳侶帖行書

女郎為靜見前

不知姓字諸書帖

俠姓徐舜文衡山詩行書

俠姓用興　登室札行書

俠姓仁字鶴仙　鶴仙指花詩帖行楷書

俠姓資山雲間人　資山書香壁賦草書

明人書綺生詩帖行書　明人登金峰詩帖行草書

明人書酷吏六年二詩帖草書

明人合卷

明徐賁陳節婦卷　監陳思忠妻莊氏泉州人子賢生名彥應

王棨陳節婦贊序　王禕陳節婦賦并序

忠啓陳節婦詞　謝徽詩

袁華黃鵠詞并序　王行節婦賦

包松陳母節義詞并序　張昱陳母節義詞并序

奉約游水探　余謙游水探

向范題　胡龍臣詩　陸仁詩　王謨題

阮維則陳節婦行　吳偉詩　倪瓚詩
呂楨次倪徵君韻　殷奎詩　張紳題
明人題陳氏春草堂卷春草堂陳彥廣春母節婦莊之所作也
高啟春草堂記　余詮春草詩并序
春約春草曲并序　王行春草說
王冕春草詞　袁華春草詞
謝徵春草堂賦　倪瓚詩　張適詩
張宣詩　徐一夔詩　阮維則詩　陸仁詩
高啟詩　王冕詩　張宣詩　張憲詩
申屠衡銘　張紳記　盧熊詩
明人題泉州兩義士卷孫天宥陳宥生者皆泉州人也天宥字惟善宥生字彥扁
王冕泉州兩義士傳　鳥斯道泉州兩義士歌
張紳序　林常序　袁華詩　謝徵識
倪瓚詩　阮維則行　陸仁賦　張適贊并序
張孟泉州二義士述
明人題鳧山水節婦卷節婦李名惠蘇之良家人水德之妻也
陳潛夫節婦傳　金詮識傳後
金文徵節婦詩序　袁華詩　吳偉詩

盧熊詩　沈中詩　范中立詩
孔克表詩　法謝詩　宋敏先詩
張淵詩　余煜題　曹亨序
王嘉會頌　郭子泮詩　吳沈詩
黃肅詩　石光霽詩　沈丙詩
呂昭題　胡逵詩　謝文詩
盧彭祖序　周敘跋　黃茬詩
錢霍詩　盧熊詩　林鍾跋
鐵網珊瑚云于莊鳧山書過其旌門下嘉然雙想不勝感慨
沈本其地得觀節行之卷錄之于行篋中不久卷尋為他人所藏是亦得其所也錄本計一十二翻
明人題沈氏植芳堂卷鳴虞夫記云沈居敬言投紵令門又曾大父之學治居之堂扁曰植芳
楊維楨植芳堂記　孫作序
申屠衡植芳堂銘并序　殷弼植芳堂藏
甘瑾詩　唐肅詩　袁華詩　管訥詩
樊圃詩　王冕詩　李鶴詩　金珙葉陶詩
朱復詩　烏斯道銘　何與詩　林右詩
朱武詩　林鼎詩　馮子詩　許伯旅詩

王璞記　劉真記
明人贈雲霄上人卷
薛同贈内姪曇霄詩　趙壎贈霄上人序
宋濂題
明人題崔氏友竹軒記
莫禮友竹軒記
陸仁詩　徐奕詩　秦約詩　薛麥詩（案此詩衆說作麥衆音義商歷也）
秦禹詩　高啓詩　潘敩詩　黃廣居詩
許善詩　郭經詩　潘牧詩　沈啓明詩
周敏詩　謝常賦　金鉉詩　魏荃詩
書友竹卷後　崔君誼後序

秦文仲賦五言古詩一天台詹麥則五言律淮南潘牧則五言絕句謝常賦名曰雲根石人黃廣居吳郡人各七言律
高孝廸皆五言還郭仲義龍石人
潘敩不詳其地必在之里曲獨七言絕句謝常賦名曰雲根石人
賦後作亂使於前之鋪叙君誼自叙於衆作後往甚六世孫
澄持來于桐郭乞題識簡卷則王雪坡瘦王節齋尤佳蓋君
誼仕元適古爾之秋歸隱西洋溪上慕膏兖州之鹿輒與此

君而友諸君子多蒙古氏遵老義君之高踏而高之言固宜
莫得即之記則君誼之子齡請為之二君子方出仕新朝
特手澤是重卿先達之風義可砥礪名節故乞而與之澄篤
行力學其益知重矣哉子重其遠至宜乞不靳也況皆百年
前人物詞意有足起後輩景仰不容已於逐逐其逸駕也或
仕登卯登高後三日八十三翁嘉木周鴨書
旦在庵序時書緣篇題志於几古今人物無不借録而登載
焉因得以知崔氏者溪之舊族也君誼仕為元金玉局副
使而其子大年洪武中以人材拜刑部主事與先侍即同時
立朝同日辭祿而又同生臺綱而殁今百年於茲矣主事君
之曾孫隆出其先世友竹軒卷見寸而記文則先侍即之所
作也不勝今昔之感嗟夫吳在勝國時實為雍容門館
旅遊苑囿等臺所以藏歌而舒舞者何限孰知友竹之趣
哉聖朝更化詠颺無遺百僚年來緬文遺基廢此憑已易主
而吾儕幸存於此可以告知世德矣登讀書尚義遠大有
期而只不才不能顯揚有辱先德蓋有愧於崔氏為多今觀
此卷先澤在焉而又有清明奉侍即文仲長洲為太史季迪
吳江謝徵士唐銘諸名筆珠玉森然安得不為之起敬異時

解組歸休當過君軒上觀化龍而覽棲鳳與君重訂歲寒之盟未晚也弘治元年春王正月初吉門邑莫逆書於石湖書樓堂

明人畫江勝感接待寺八詠詩序卷

陳繼八詠序 渥卷八詠

陳繼雲泉處記 王大化詩 傅夢弼詩

周仲仁詩 周翰詩 江昱科詩

明人畫虹別意卷

戴冠序 沈司詩 謝素詩 祝允明詩

吳龍詩 文璧詩 陳鍵詩 唐寅詩

楊循吉詩 顧福詩 仇俊復詩 練同惠詩

陳儀詩 朱桐詩 陸稷詩 徐子立詩

黃紋詩 浦瑞詩 俞符詩 陳全璧詩

魯泰詩 祝續詩 俞全詩 釋德璇詩

邢參詩 戴冠詩 陳儀又詩 周同人詩

朱存理詩 俞金又詩 應祥詩 朱存理又詩

詩面詩 顧桐詩 欽通詩 王偉詩

跋重虹別意卷後

蘇微古越地今俱直隸為鄉封故徵之客于蘇者甚衆也山久至震幾星霜忘歸者必其山川人物可嘉而可樂歟蘇多名士善詩賦為諸藩耦首載君明吾與之遊屢詩累卷神明當未言語事為志信篤敬可欽而可慕歟不然何客蘇者非一明浦別重虹者亦非一明當而獨能致諸名士重之以辭若是也明甫得此誠知重珍玩矣使徒知重之而不知所以重恐非贈言者之本意惟勉于學慎于德所謂忠信篤敬者益加修省而精進焉則徵士將不忍舍之別而去蘇士又不忍與之別而歸矣豈非吾徵之光歟卷之華識窮意暗言者之意固如此余敢附言於卷末者意亦如此也君夫紀述之詳勉進之切則標卷先生之意言誠然余復何言正德甲戌

孟冬月既望春生顧齋正書

明人碧筠精舍卷秀水汪子卿霞閣鑒藏

明名公詩翰前卷 凝霞閣鑒藏

許初 李樂龍 劉謙 王穉登

王守 陳鎏 王問 胡儼

況璐　鄒有光

張志　謝時臣

周繩祖　君節

復初

明名公詩餘卷收宜園藏

王世貞　豐南禺

文彭　文壽祖

袁尊尼　戚元佐

元淇又詩　少岳山人　項元汴　雪居

心原野夫　張服采

張廣望　王稚登

張元舉　項道民

杜義敘　洪思

董玄宰　其昌又詩

明名公談叙聯句詩

去管窺味八分書奉訓大夫禮部員外郎前直文華殿太常

寺丞甬東金湻書

周庾錄聯句二首

明名公詩餘卷收宜園藏

王世貞　豐南禺

文彭　文壽祖

袁尊尼　戚元佐

元淇又詩　少岳山人　項元汴　雪居

心原野夫　張服采

張廣望　王稚登

張元舉　項道民

杜義敘　洪思

董玄宰　其昌又詩

明名公談叙聯句詩

去管窺味八分書奉訓大夫禮部員外郎前直文華殿太常

寺丞甬東金湻書

周庾錄聯句二首

成鶚　陸容詩　陳璚詩　李經詩

瑤泰和縣明仲司經局洗馬顯山海篇文明兵科給事中鐸

黃寬謝鳴治音著明陳師石東陽長沙李賓之皆翰林侍講

寬長洲吳原博太倉張方父錢鼎山陸鵬儀皆修撰庚古

吳周希旦太醫院御醫吳山朱希仁石有野學教論聯句

董兵部郎中邑同鄉儀璠王汝嘉同文明經士常監察御史

姓邑自見不復註明年辛丑四月八日寬書

沈明詩并識明字時陽　廣東進士

癸寬又詩并引次成憲府博定後再問金物各城一詩

邵珪甸詩　李傑赤東詩

徐顯月餅詩　趙寬登泰詩

丁鎬蕨茅詩

朝建靖明司方無事士大夫燕會多以文字相娛樂更唱迭

和動成鉅卷其聯句則惟城西李侍講葉為最予去京師五

年不意城東聯句為尤盛蓋同鄉多聚於此而鄙庵病逸石

城諸公又才氣相敵故會則以此為歡所謂鼓瑟琴合著

一家者而吾咸憑於其間殫為趨救九可愛乎也洛倒無能
將欲會諸君與剡衆吟之陰從雪和手以觀劫敵或者求濟
師亦得以贊一著今咸憑遽有千里之行合盛時之難遇款
朋遊之不遇因其出示茲卷輒書以識咸化十八年秋季月
忽忽振誦輒復舍去雖欲如君謙之頻還故與亦不可得矣
文灝識

翠日塵土中無復知有文字之樂及請此卷頻還故與吳門

楊循吉奉題

讀諸公倡和之作猶昨日事而其間存亡離合已有不勝其
可感者矣王荃

予至京師造府博憑卿先生所坐話移時家示與文諸
君子聯句一大卷時晚莫不暇觀因袖歸街東寓舍觀自燈
下卒未竟倦且卧明日觀始竟悅若閱武庫甲兵光彩森然
奪目噫歟真可畏矣哉莫復自他歸燈下披寫不可耐乃不
自量追次卷首二韻藁成而臥又明日始填寫卷尾畏而避
之固不趨三舍而已也借使府博復後會舉故事或一招引

予將量敵後進未省敢操戈入室吾而於我乎扶傾濟弱尚
有望於府博焉草無斬　江湖本走二毛生正值車書屬聖
明行李又為燕市客羈留頗動楚鄉情故人遺愛遺長卷海
味能甜勝大美把玩孜燈燄碧懷感雙類因皮頻漫空笙
鶴鳥聲沸滿紙龍蛇筆陣橫戰劇雖魔潛退鶴披衣乍坐了
殘更　歲逢東漲不復還無情造物一何慳每嫌白髮來催
老卿就紅塵暫乞閒逕宜從教衆在別吠詩排得骨都寒生
娛孤館苦凝紅夢憶諸兒袖舞斑文執會同全盛世雲霞綠
統太行山皇忠許大雖為報二復低眉會厚顏　禹金陵蘇

人沈鍾丙午九月廿六日鍾字伸律
明名公石湖夜泛詩卷
沈周夜泛詩引　孫一元詩　沈周詩
般雲霄詩　錢仁夫詩一錢承德詩　文璧詩
一元六韻　顧鳴臣詩　彭澤詩　勤吾夫詩
張傑次韻
明女王臺卿墨卿芳萬曆間名妓
徐媛小敘　趙氏陸　雲濤　月波
張微卿　楊門吳氏

近代名閨以書畫著者吳中為范夫人徐小淑趙大家陸卿子清澤為柯孝廣配張微卿卿曾白下有女弟子雲溪月波與余清瑤君投分所遺詩札翔鸞為舅岳壁鵝哥婚也清瑤有贈二及溪液其一云外楹樂教衍波牋鍼書銀釣字樣同婷止臨池洗硯石妹先題葉葉輕翅更喜東楊聚永夫人九興清瑤子善別後殊苦郵筒稀若清冰瀉玉亞高時奉淮女和楊憲孃曉英精賈庭小楷沙尼在彩妹惜蘭亭卸數娟妙照工宣示楊叔卿妙素喜作麻姑壇潘翼稱得其一染督紙可易百鎰大足捲映林下風而吾未有十三齡女童徐範能摹諸家體書字自活為洗伯姬風華所書古詩十九首八石泠媛跋有云筆彩生芳墨香合素歐率更允拜下風衛夫人終當北面至自慚每草揖便作凍蛇其推重可知矣伯姬妹瑤華詞翰亦往惜咸豐世月香居士徙柳玩琦皆追之耳又范夫人為清瑤書五言於便面別筑無為道人尚憶兩句扣齒風雷響挑燈日月光落筆洒洒應是墨池仙子駕水定香居士玉識於書帶草草牘

六藝之一錄卷第三百七十五

歷朝書譜

鑒藏

唐韋述敘書錄

開元十六年五月內出二王真草及張芝張超等真蹟總一百五十卷竹紙雙院令集字搨進其本竟不果進自太宗臬觀中賜諸王及屬車駕入都却進真卷本竟不果進自太宗臬觀中搜諸王右軍等真蹟出御府會昌重為騐實由是人間古本頗亦得真行二百九十紙裝為七十卷草書一千紙裝為八十卷小王及張芝等亦各隨多少勒為卷帙以見觀字為印印處及卷之首尾用草書小字帖紙影之其古本亦有是梁隋官本者梁則裝縫標簽依經史部類其後大宋又令魏徵等卷下要署名記其後爾亭一時相傳云呼入時陵玄宮長安神龍之際太平安樂公主奏借出外搨寫敕論因此遂失所在開元五年勅陸元悌就智永禪師傳檢校搨得一卷為兩卷總見在

有八十卷餘並墜失元悰等又割去前代名號押署之跡惟
以已之名氏代焉上自書開元二字為印以印記之右軍書
凡一百三十卷小王二十八卷張芝張超書各一卷右軍真
行書唯有黃庭告誓等四卷存焉都令秦處州人家獻右
軍扇上真書宣示及小王行書白騎逮等二卷勅令淨州給
膊翫書本赴京其書扇有良觀鷹停城成題字基進上書本
留內賜絹一百疋以遺之竟亦不問傳書門由事狀
唐盧元卿法書錄

吾平南將軍荊州刺史卿柱國王虞字世將書一卷

沈域文 隋蕭

徐僧權

身觀十三年十二月十九日起居郎臣褚遂良

司空許州都督趙國公臣無忌

開府儀同三司尚書左僕射太子少師梁國公臣玄齡

特進尚書右僕射申國公臣士廉

特進鄭國公臣徵

支部尚書公進人侯君集加開府儀同三司梁國公臣楊師道

中書令駙馬都尉安德郡開國公臣杜如晦

右衛大將軍武陽縣開國公臣李大亮

光祿大夫户部尚書莒國公臣唐儉

光祿大夫禮部尚書兼開府儀同三司梁國公臣李靖

刑部尚書郕縣開國公臣劉德威

兼太常卿扶陽縣開國男臣韋挺

銀青光祿大夫行尚書左丞參南縣開國男臣庾敬

散騎常侍弘文館學士上柱國舒國公臣褚無量

宣義郎行左司禦率府錄事參軍臣劉懷信監

宣德郎行左驍衛倉曹參軍臣陸元悌監

永說郎行食官衛長史臣魏哲監

少府監安昌好開國男臣馮長命

文林郎直秘書省臣王知遜監

銀青光祿大夫行尚書左丞參南縣開國男臣庾敬

兼鳥部侍郎臣許敬宗

門元五年十一月五日陪戎副封臣張善慶裝

開府儀同三司中書門下平章事監修國史上柱國魏國公臣魏徵

秘書監修證日文館學士上柱國常山縣開國公臣虞世南

開府儀同三司上柱國梁國公臣姚崇

銀青光祿大夫行中書侍郎同中書門下平章事監修國史上柱國許國公臣蘇頲

銀青光祿大夫守吏部尚書兼侍中監修國史上柱國虞

平郡開國公臣梁肅
右按工部侍郎韋公云奧觀中搜訪王右軍等真蹟出御府
金帛重為購賞人間古本紛然軍集太宗令魏少師虞永興
褚河南等定其真偽右軍之跡凡得真行二百九十紙裝為
七十卷草書二十八紙裝為八十卷小王張芝等亦合少多勒
為卷帙以貞觀字為印印縫及卷之首尾其草蹟又令河南
真書小字帖紙影之其古本亦有是吳隋官本者裏則滿蹙
徐僧權沈越文來尋隋則江總姚察等署記太宗又令魏徵
等卷下更署名記開元五年勅陸元悌魏哲劉懷信等檢校

進禮分一卷為兩卷總見在有八十卷餘並墜失元悌等又
刻去前代名賢押署以已名氏代之自書開元二字為印
記之王右軍書凡一百三十卷小王二十八卷張芝張超書
一卷侍會稽云大宋圖書內庫有鍾繇張芝張超王羲
之父子書四百卷及吳魏晉宋齊梁雜跡三百卷奧觀十三
年十二月裝成部帙以奧觀字印連命起居郎楊遂良押署
起居郎臣楊遂良
開府儀同三司尚書左僕射太子少師上柱國梁國公臣杜
於
右前件卷是官庫目錄第三十卷共四帖都一百六十一字武
元卿見建中已後翰林中雜錄開翰林印印縫和蘭等署
名又云貞元十一年正月於都官郎中竇泉興化宅見王廙
書鍾會書各一卷武都公李遜押名又兩卷並古錦褾玉軸

瑞軸古錦標有貞觀印字及李氏印證具跋尾如前元和二
年四月六日盧元卿觀
唐武平一徐氏法書記
先賢所許子敬之比
二王之跡歷代寶之梁大同中武帝勅周興嗣撰千字文使
殷鐵石模次義之之迹以賜八王右軍之書咸歸梁室屬侯
景之亂兵火之後多從湮缺而西臺諸宮尚獲殘簡元帝之
死一皆自焚唐至隋初并天下大集之始復求其書
往往有獻之者及隋之季王帥入秦又於洛陽捨二王主兩
京秘閣之寶揚都慮從之書皆為我有太宗於右軍之書特
留意購求始盡遺逸萬機之暇傍加執玩開
元中又詔寫令搨書人湯普徹等搨梁公孝
孝樂毅九間寶章寶玉女宝玉宝之
玄齡已下八人在外方有洵大聖天后御極也尤為貴
平一任柳州日與太平子薛崇胤崇元連官說太平之
敗崇徹懷恨搨以出故在外傳之及太宗晏駕本
入玄宮至高宗又勅馬承素諸葛貞楊樂毅論及雜帖數本
賜長孫無忌等六人
書平一跋記之歲見有宮中切觀先后閱古書數軸特搨以
賜藩邸時見宮人出六十餘函於億歲殿曝之多裝以鏤牙
軸紫羅標云是大宗時所裝其中有故青紋褾玳瑁軸者云

是梁朝舊跡標首各題篇目行字等數章章書多於其側帖
以真字楷書每函可二十餘卷別有一小函可有十餘卷於
所記憶者是前書樂毅塔碑黃庭當時秘詔所主女學閱其
函出重石蓉云尚有未知載許至中宗神龍中重厥龍盛宮
華不及御府之珍多入秘室先畫金壁文及書法趙主之家
因此搨出或有報安樂公主者主於內出二十餘函對馬武
延秀久踐虜庭無功於此特閱二王之跡強學質重乃呼薛
稷勸酒及平一評其善惡諸人隨事荅狀為上者登時去牙
軸紫標易以漆軸黃麻紙標題云特健樂云是虜語其書合
作者時有太宗御筆於後題之歎其雅遒太平公主聞之盧
於內取數函及樂毅等小函以歸延秀之跡側聞肅宗命薛
稷擇而進之薛稷住者十數軸餘皆歸延秀之跡也為等級宮所遺
平一任柳州日與太平子薛崇胤崇元連官說太平之
敗崇徹懷恨搨以出故在外傳之及太宗晏駕本
入玄宮至高宗又勅馬承素諸葛貞楊樂毅論及雜帖數本
賜長孫無忌等六人
免此書因歸如等輩御府而朝士大夫亦往
書亦為其所有後薛曜請五張書歸御府而朝士大夫亦往
往有之豫州刺史東海徐公嶠之季子浩並有獻之之妙待
詔金門家多法書見託斯題其屬月行宇到之如後屢事張

是珪之家抑其次也

唐徐浩古蹟記

目伏羲畫八卦史籀造籀文李斯作篆書程邈起隸法王次仲為八分體漢章帝始為章草名欵後流傳工能間出史籀石鼓文崔子玉張伯英皇象吾彩望張衡碑李斯嶧山會稽山碑蔡邕鴻都之體石經八分西岳元和欵垂馮敦等欵碑并伯喈章草並為瞻絕及張芝章草鍾繇正楷時莫其先衛恒索靖章草王羲之真行章草柏玄草謝安王獻之羊欣王僧虔孔琳之蕭子雲真章虞世南歐陽詢楷遒良薄紹之真行章草永禪師蕭子雲真章虞世南歐陽詢楷遒良

果師逸師真行草陸東之暗書臣先祖故益州九隴縣尉贈秘書監張旭師道臣先考故洛州刺史贈左常侍鳴之真行草史部侍郎師道臣先考故洛州刺史贈左常侍鳴之真行草皆名逸古今無與為比爾果以後侍秘此書仍屬作傳猶應懷充蛾懷珍尚寡來章等署名太宗皇帝肇開帝業大購圖書寶於內庫鍾許張芝羊祜王羲之父子書四百卷及漢魏晉宋齊梁雜迹三百卷貞觀十三年十二月裝成部帙以貞觀宇印印縫命起居郎褚遂良排署如後

司空許州都督趙國公臣無忌

開府儀同三司尚書左僕射太子少師梁國公臣玄齡

特進尚書左僕射申國公臣士廉

特進鄫國公臣徵

逆人侯君集初罔著把法後搨印

中書令駙馬都尉安德郡開國公臣楊師道

左衛大將軍武陽縣開國公臣李大亮

光祿大夫禮部尚書河間王臣孝恭

光祿大夫民部尚書莒國公臣唐儉

兼太常卿扶陽縣開國男臣令狐德棻

從十三年書更不出外人莫見真至大定中則天太后賞翫言狄仁傑就書仁傑云臣自幼以來不見好本只率意性何由得能則天乃內出二王真迹二十卷遣五品中使示諸宰相看記表謝登時將入至中宵時申書令宗楚客奏事承恩乃已大小二王真跡初賜二十卷大小各十軸楚客遂裝作十二扇屏風以拂逆良開居帙材賦為脚因大人貴要張以示之時薛稷薛純陳戚用廢食數美大復窒樂安樂公主賜宰臣金銀器各一床觀之蝌蚪古文及明詔見頗有紀言命令開緻傾庫遂映之延秀復會賓客舉觴令看竹散朝庭無復

寶惜太平公主取五
三十卷將軍駙馬爺
主愛樂教論以織成
寵幸袖中縑吏寻覺
里不可度得天寶中
書跡往往以織成裨
開元五年十一月五
卷大王正書三卷
正卷書兩卷草書一
一卷 宋米芾書史
正書兩卷 論語一
卷為成為第一
跋尾排署如後
右散騎常侍崇文館學士舒國公臣褚無量
秘書監兼侍講昭文館學士上柱國常山縣公臣馬懷素
開府儀同三司上柱國梁國公臣姚崇
銀青光祿大夫行中書侍郎同中書門下平章事監修國
史上柱國許國公臣蘇頲
銀青光祿大夫守吏部尚書兼侍中監修國史上柱國虞
平即開國公臣璟

至十七年出付集賢院搨二十本賜皇太子諸王學士
及入內十八年十二月二十八日書左丞相集賢大學士
燕國公張說記明年二月以中書令蕭嵩為大學士令詣二
王書乃於潤州司法路琦家得羲之正書扇書一卷是貞觀
仔筆王羲之正書卷等四幅高二百尺其書遒出令集賢院
進奉賜路琦錢二百五十貫文小王行書一紙非常合作亦既
揚賜太子以下及潘陽夫守內庫法書皆散失初收城後陸
又充使搜訪圖書收獲二王書二百餘卷訪黃庭經真蹟或
云張通儒將向幽州莫知去處侍御史集賢直學士史惟則
奉使晉州推事所在博訪書畫能鄧賞侍之時趙城倉督隨
沒么貨種多推集承伏遂云有好書欲請贖罪惟則索看過
出扇書告誓等四卷并二王真蹟四卷問其得處云綠山下
將過向太原停於舍館家三月餘日其乙紙供稱意有懷悅
之心乃留此書相贈惟則將至闕下肅宗賜絹百匹擢授本
縣尉臣從中書舍人兼尚書右丞集賢學士副知院事改國
子祭酒尋轉廣州長史永前偽逆臣所乘有盡被收置皆獲

官賞不復簡退人莫知之及吐蕃入寇圍請無遠徃徃市廛時有真迹代興鑒者詐偽莫分臣今暮年心惛眼暗恐先朝露敢舉所知其別書人謹録如右前試國子司業兼太原縣令賈黍等校定古迹使定古迹亦勝常人其餘士庶之間應有精別之者臣所未見非敢自擇天高聽卑伏希俯察建中四年三月日

唐張懷瓘二王等書録

夫翰墨之美多以見後賢聲二王之書當世見貴獻之會與簡文帝十紙題最後云下官此書甚合作顧眄神存之此書為枕玄所寶玄敗重二王不能釋手乃漫練素及紙書正行之尤美者為帙常置左右及南奔雖甚狼狽猶以自隨及好敢並投于江晉代裝書真草潭雜皆紙歟起宪暉裝治似為小勝宋孝武又使徐爰治襲十紙為一卷明帝科閱舊秘並遣便二吳楊集散佚語廣和集向之徐希秀孫奉伯等更加編次成以二丈為度二王縑素書册湖軸二帙二十四卷紙書金軸二帙二十四卷又紙書紙瑚軸五帙五十卷並今題

玉躞織成帶又扇書二卷又紙書飛白章草二帙十五卷並梅檀軸又以書戲字一帙十二卷並書之冠冕也自此以下別有二品書凡五十二帙五百二十卷並梅檀軸其新舊搜著為六帙一百二十卷既經喪亂多所遺失齊高帝朝書府古跡惟有十二帙以示王僧虔僧虔以還就求能者之進僧虔伯儒吳大皇帝景帝歸命侯王帙中所載者得張芝索靖衛恒索紞張昶衛瓘王洽王珉張翼桓玄等十卷其與帙中所同者王恬王珣王珉之王徽之王凡之並秦入秘閣梁武帝尤好聚書搜訪天下大有所獲以晉宋墨跡張字有損壞天監中勑朱异條僧權唐懷瓘如僊珍沈熾文柵而裝之更加題檢二王書大凡七十八帙七百六十七卷並裝為十帙為一函金題玉躞侯景纂逆藏在書府侯平景後王僧辯復招送江陵承聖末魏師襲荊州城陷元帝將降其夜乃聚古今圖書十四萬卷并大小二王遺迹遺後閣舍人高善寶焚之吳趨寶劒並將所柱乃歎曰書世誠迹至於此文武之道今夜窮乎歷代秘寶並為恨矣周將于謹善六書知忠等捃拾遺逸凡四千卷將歸長安大業末煬帝幸江都秘府圖書多將從行中道船沒大半論纂其間得存所餘無幾賦逆之後並歸宇文化及至

遂改為寶建德所破並皆亡失留東都者後入王世充世充
平始歸天府貞觀十三年勅購求右軍書並皆償酬之四方
妙蹟靡不畢至勅起居郎褚遂良校書郎王知敬等於玄武
門西長波門外料簡內出右軍書相共參校令典儀王行真
裝之梁朝舊裝紙見存者但裁剪而已右軍書大凡二千二
百九十紙裝為十三帙一百二十八卷草書五十紙一帙八
卷隨本長短為度行書二百四十紙四帙四十卷四尺為度
草書二十紙八帙八十卷以一丈二尺為度並金鏤雜寶裝
軸織成帙其書每縫首用小印印之其文曰貞觀大令書不
之璽也天府之內儲有春焉古之名書歷代帝王莫不珍重
睿宗以前大有散失及梁武帝鳩集所獲尚不可勝數並珊
瑚軸織成帙金題玉躞二王書大凡一萬五千紙元帝狂悖
焚燒好盡文皇帝重價購求天下畢至大王真書惟得五十
紙行書二百四十紙並以金寶裝飾今天府所
有真書不滿十紙行書數十紙草書數百紙共有二百一十
八卷張芝一卷並稱楷軸錦褾而已既所不尚散
在人間或有進獻多堆於翰林雅書中玉石混雜重蘭罔芸
然書惟不易不以寶之則工棄之則拙豈徒書也人亦如之

宋歐陽修集古錄序

物衆於所好而常得於有力之強有力而不好好之而無
力雖近且易有不能致之象庶夷戎山海我人之獸然
其齒角皮革可愛而有也玉出崑崙流沙萬里之外經千餘
譯乃至乎中國珠出南海常性深淵採者腹絕而入水形色
非人性性不出則丁鮑蚊龍金礦於山巖深而穴遠篝火燔
糧而後進其崖崩窟塞則遂棄於中者率常數十百人其遠
且難而又多死禍常如此然而金玉珠璣世常寶聚而有
也凡物好之而有力則無不至也湯盤孔鼎岐陽之鼓岱山

鄱嶧會稽之刻石與夫漢魏以來聖賢哲士相碑摹器銘詩
序記下至古文籀篆分隸諸家之字書自三代以來至寶傳
奇偉瑰工妙可喜之物其去人不遠其取之無禁然而風霜
兵火湮沒磨滅散棄於山崖墟莽之間未嘗收拾者由世之好
者少也幸而有好之者又其力或不足故僅得其一二而
不能使其聚也夫力莫如好莫如一予性頗嗜古凡世
人之所貪者皆無欲於其間故得一其所好於斯好之至篤
則力雖未足猶能致之故上自周穆王以來下更傳寫隋唐
五代以至四海九州名山大澤窮崖絕谷廣林破冢神仙鬼
物詭怪所傳莫不皆有以為集古錄以謂傳寫失真故圖其
石本軸而藏之有卷帙次第而無時世之先後蓋其取多而
未已故隨其所得而錄之又以謂聚多而終必散乃撮其大
要別為目錄則吾未暇悉收拾者由世之好
書摭之人事迹之始終所立之時世而著之為一十卷以附
於跋尾之後夫此千卷之書皆刻之金石在山崖未嘗不
為無窮之計也然必待集錄而後著者豈非以其繁而難於
盡傳故著其大略而不道其詳第公之志也熙寧二年三
月記

宋趙明誠金石錄序

予自少小喜從當世學士大夫訪問前代金石刻詞以廣異
聞得後歐陽公集古錄讀而愛之以為是正譌謬有功於後
學者甚大惜其尚有所蒐集又無成書先後之次思欲廣而成

書以傳學者於是蓋訪求藏蓄凡十二年而後廣備上自三代下訖隋唐五季內自京師達於四方遐邦絶域所傳金史以來古文奇字大小二篆分隸行草之書鐘鼎鑒尊款識碑碣誌銘之文章名卿鉅公之詩歌賦頌碑誌敘記之文事迹之可以資多聞博雅之士其必有補於明誠序

南渠朽之銘詞人墨客詩歌賦頌碑誌敘記之文章名卿鉅公之詩歌賦頌碑誌敘記之文事迹之可以資多聞博雅之士其必有補於明誠序

士之功烈行治至於浮屠老子之說凡古物奇器豐碑巨刻所載無大殘章斷畫虧缺而僅有者略無遺矣因次其先後為二千卷予之攻力於斯可謂勤且久矣非特區區為玩好之具而已矣蓋嘗嘗以謂詩書以後君臣行事之跡悉載於史雖是非褒貶出於衆筆予竊意或失其實然其善惡大節有不可誣而文理當依據若夫啟刀地里官爵世次以金石刻考之其牴牾十常三四蓋史牒出於後人之手不能無失而刻詞當時所立可信不疑則又考其異同參以他書為金石錄三十卷至於文辭之媿起字書之工拙覽者當自得之茲不復論嗚呼自三代以來聖賢遺事著於金石者多矣蓋其風雨侵蝕缺壞論棄之餘幸而存者止此爾是金石之固猶不足恃然則所謂二千卷者終歸於磨滅而予之是書有時而或傳予已能校讎於毫釐之間矣其與所用心難矣不有博奕者乎為之猶賢乎已是書之成其費於紙所用人

物日力而不與焉

學每月朔望謁告出質衣取半千錢步入相國寺市碑文書畫之志傳寫未見書賈名人書畫古奇器有持徐熙牡丹圖求錢二十萬留信陌計鋪所得捲置之夫郤相向惋悵者數日及連宇兩即竭傾入以事欵緊每獲一書即日勘校裝緝裡名畫奇器亦摩玩舒卷摘指疵病盡燭一為率故紙札精緻字畫全整冠於諸家每飯罷坐歸來堂烹茶指堆積書史言其事在某書某卷第幾葉第幾行以中否勝負為飲茶先後中則舉杯大笑或多茶覆懷中不得飲而起凡書史百家字

子159-049

不刊缺本不誤者則市之儲作副本清康丙午德甫守淄川
聞虜犯京師視盈箱溢篋戀戀悵快知其必不為已物逮交
丁未奔太夫人喪南來既支物不能盡載乃先去書之印本
重大者書之多幅者器之無款識者已又去書之點本者書
之平常者器之重大者所載尚十五車連艫渡淮江其淄州
故第所頓十間屋期以明年具舟載之又化為煨燼已酉歲
六月德甫駐家池陽獨赴行都自岸上望舟中告別予意甚
悲乎呼曰如傳聞擲中緩急棄何遑慮曰從衆必不得已先
棄輜重次衣衾次書冊次卷軸次古器獨宋瓷者可自隨
與身俱存亡勿忘之但恥焉耳秋八月德甫以病不起明年
官往江西予遣二吏部前存書之鳥巷金石刻二千本先往
洪州至冬虜陷洪邊盡委棄所謂連艫渡江者又散為雲烟
吳摭餘輕小卷軸寫本李杜韓柳集世說歐陽論石刻數十
副軸最最十數及南唐書數篋偶在卧內纔脫猶存上江既
不可住乃之台溫之越之杭寄物於嵊縣庾氏春官軍收
叛卒悉取去入故李將軍家幾燼者十失五六猶有五七屬
及舉家竄越城一夕為盜穴壁負五屬去盡為吳說里使賊
僧得之僅存不成部帙殘書策數種忽閱此書如見故人因悵

宋洪适隸釋序

秦燔書廢古訓而官獄多事乃令下杜人程邈作小篆而趨
便獻隸書所以施之徒隸趨簡易也亦曰佐書撥亂之阯蓋

皇極錄梁鵠即鄧淳俱有書名後魏酈道元注水經漢碑之
並川者始見其書蓋數十百餘種陵谷變火焚風剥至宣政
和間已亡其什八本朝歐陽公趙明誠好獵金石刻漢隸之
為錄者歐陽氏七十五卷趙氏多歐陽九十三卷而闕其六
自中原危於兵南北壞斷遺刻耗矣予二十年訪求尚闕趙
錄四之一而近歲新出者亦三十餘趙蓋未見也既法其字
為之釋復輯其文為之釋使學隸者籍書以讀碑則歷歷在
目而咀味書畫亦筆墨之一助惟老子張公神賢廟三數碑
有撰人名氏若華山亭為衛覬之文見於他說者財一二爾

其文或疾而難解澀而太繁者譬之紀匽部罰罪三代佳存之器其剝蝕不成章與銘初之文數篇附於後如斷圭殘璧亦可寶自劉秦費遷已下字畫不足取者皆不著載凡二卷

正月八日鄱陽洪适景伯序

宋喻良能題洪适隸續

觀使大觀文鄱陽公所撰也頃帥越嘗會稽漢隸一百八十九為二十七卷曰隸釋續有得者列之十卷曰隸續既墨於版亦已詳矣猶以為未也復采搜旁訪又得六十有五為九卷所謂憂樂遺恨者書成示門下士良能良能既得之一春宅兼舟中義事上宿二十二

敬白安撫大資吳興公一見大喜曰謂可開閣從學乃命鏤之墜緒以修其傳噫番陽公之好古有承公之樂善俱然成言核稽十三科翁公曰裝潢之佳自高祖時始陸放翁跋漢說即特添差通判紹興軍府事喻良能謹題

方密之通雅　裝治

粘葉謂之蝴蝶裝　王原叔云書冊粘葉為上線縫亂已斷却張子賢言宋宣獻令家僕作粘法予藏景三館書黃本白本皆粘葉上下欄界出于紙葉孫華老鋭於收文亦如此孟奇言秘閣宋版書如試錄謂之蝴蝶裝王古心筆錄有宋僧永光言藏經

接縫用楮汁飛超白度糊則堅如膠漆造澄心紙亦用麥糊滿治者裝潢也　岐王範傳圖書經敕募詩稍出長安初張易之奏滿治乃使奉宸府其藏于家敕陽修言秘閣初為太宗藏書之府并以黃紙裝滿謂之太清本滿猶池也外加緣則內為池裝成卷冊謂之裝滿治者　即表背也唐告皆色背綾白背綾隋正御書皆裝背筆錦寶軸錦標必已有其法矣能改齋漫錄曰楊以雞別子前謂之裝背子自唐已有此語程泰之曰庸韻滿匝引釋名曰褾書也唐六典掌文翰有裝滿匠五人松書省有熟紙匠裝滿匠十人王氏談錄言公好永禪師書手自裝褾褙即裝滿也今回紙褾元美引晉思歸小箋入滿其紙滅白便是時紙褾為裝滿蓋為馬大年所教相沿久矣九成言核褾十三科翁公曰裝潢之佳自高祖時始陸放翁跋漢說即特添差通判紹興軍府事喻良能謹題言海伯摹親裝褾又云裝視白黃國發辛棘識有內府裝視谷科格式有粘裁褾界染古等又言閣道標合

卷軸引首後以綾貼褾曰瞳　用修言有樓錦堂鐘竭紙瞳褾蒲錦瞳唐人曰玉池綠暑言當和殺畫褾卷即瞳也陶九成言瞳卷紙有夾背綢機紋引首核裡等皆方拱費勝八答暈諸錦周密記莊宗古核畫畫有球路柿紅龜背納錦玉龍簪頂軸標

裝尾裝標也　武帝紀注封神金策玉函金泥玉檢謂以玉物檢束也一曰俗謂裝尾今世書裝裝公孫曠傳皇叢施檢注曰今俗謂之排公紹曰又今俗謂文書稱為檢子以此觀之則自今手卷書裝外之籤頭簽條銘所言書函之蓋或同名耳今避御諱以簡字代之或有書作檢亦約古之檢乃匣也後借以指東卷帶頭之小楔或以牙玉為之玉於許璽圖白玉檢寶係亦謂之籤其曰裝尾者蓋畫上之標誌也

黃表牒帙也或謂之皆黃長廣以為書題若籤以為籤牌古史記明章總帙四方鴻生鉅儒負笈自遠而至華化別傳化以綠為書裝揭廖傳祖眷卿命子就已吾神裝中有秘記眷中聚書以綠為旛攀裳作帙即一字直一切隋正御詠書帙詩六書故以為旛攀裳作帙即一字直一切隋正御書皆裝簡華綢唐內庫皆有軸帶帙籤裝插牒也書衣也今世謂之套套裝裹過珊瑚樹一帖寫治中傳序董北上即書樓也避暑錄話晏元獻不棄一紙千百為偕諸集即筆貓即筆套也宋志金銘有金鏤銅套簡始見于此可知今日套古曰皆一聲轉耳凡夫謂礦大長谷也俗莫以大長二字合

為套卉卷引元稹從騎愛奴縑布衫臂鷹小兒雲錦裁衣亞利已安僧差天子瞳軒空憫悼又徐幹七喻縣明珠于長諸亦音義皆按大射設決拭朱極三鄭玄注韜指也而詩童子佩韘注史云韘之言藏所以捍指也而詩童子佩韘注韘玦也皆所以捍弦者蓋玉質乾燥堅韌故著之阮氏七錄以玉善為一帙其制見此

和諸書表有金玉題玉緘織成帶注金題押頭也猶今書面載題也王深言帶頭小楔或以牙玉為之玉於許璽圖白玉檢寶黃金題研北雜志張伯雨歸智永墨以為贈陳古一等六朝神品上上後有明昌七印況金題載今在梁溪況元鎮家月儀家請所書帖名黃

凡言軸帶者皆卷也唯登謂之偵曰君題一覽便請然見卷軸未必多僕隋煬帝秘閣書上品以琉璃軸中品以紺琉璃軸下品法帖唐集賢院書要生記隋煬帝用麗陵麻紙寫作蠶子楷赤軸綠帶舊祕籍志開元時甲乙丙丁四部書各自為一庫皆以益州麻紙寫經庫鈿白牙軸黃帶紅牙籤史庫鈿青牙軸綠帶綠牙籤子庫雕紫檀軸紫帶碧牙籤集庫綠牙軸朱帶白牙籤可謂綠字金銀之屬矣郭侯祭文遺注劉歆分四色牙籤文選注劉歆

七略曰尚書有青絲編目錄木記軸帶帙籤也宋武入關收秦
姚書赤軸青帙
跋尾書卷尾也　卷前謂之序卷後謂之跋亦謂之書後題
疊上台曼觀御書宰相書尾臣位卑請與宰相聯名跋尾不
從

歷朝書譜
鑒藏
宋米芾書章待詔錄
晉右軍王羲之書雪時帖
古摹蹟在承務郎吳郡蘇家度集賢校理舜欽子也帖尾有
古跋君倩字及楊氏字印
陳僧智永真草書歸田賦
古摹蹟在襄陽魏泰處故南昌人裝題曰唐世南白麻紙有
古跋曰開成五年白馬寺臨過津記集官津泰游湖外攜
行當跋累日
唐李更令歐陽詢書前後出師頌
右真蹟用一尺高兩書多渴筆詞云正大厦者柱石之力匡
帝業者輔相之功生則保其雄名沒猶称其盛德今在其孫
曲江人嶺南縣令張仲容處李官於桂林借留半月仍以紙

覆裹欲為重荀仲容惜其印縫古紙不許九齡神道碑亦沽
書
唐中書令褚遂良枯木賦
右唐粉蠟紙摹書也在承徽郎合肥段倫處收以為真蹟觀
跋刻石某官杭過閩借觀於百靈寺
唐太師顏真卿乞米帖
右真蹟楮紙書在鄉書述中子序
筆描二大印其文剝仍書銘字其中幸不名賸豫求銘筆重
累墨實某佐貳文於薄屋經賞閱
一帶雲根卅堂藏書
陳僧智永千文
右唐粉蠟紙摹書有古法云契闊艱難不敢失墜信好事也
在嘉興國子監直講楊褒處得於外舅王安閭其元豐五年過
金陵見之以二真字墨鉤填入猶未信為摹為
陳僧智永千文
右楮紙書唐人臨寫在宣德郎陳行處恭公於作梵夾刷雖
非真蹟秀潤圓活通真今已罕得某嘗三閱
陳僧智永千文卷末
右黃麻紙唐人臨書在刑部尚書毋煚家頗處

王右軍蘭亭無集序
右唐粉蠟紙雙鉤摹本在蘇教厚耕神掌力毫髮畢備下真
蹟一等此雖馮承素摹搨賜大臣辨欽文集贈校理書者蹟
於罰僧元靄集與邀友善每過公必一出遂親為背飾
唐太師顏真卿乞米帖
右真蹟楮紙在朝請郎蘇舜元處文郎中舜元子也得於閩
中安氏士人多有臨搨本此卷古玉軸題有舜元字印范仲
淹而下題跋其實十餘開
唐峯府長史張旭四帖
十帶雲根卅堂藏書
右真蹟在杭州陸氏大姓也舊有五帖第一秋深第二前發
第二次官第四昨日第五承須今所有四帖次官後有一古
印文記不可辨昨日承須二帖襲紙也陸氏子素從春議郎
閱景仁學閱因借與三大帖今非見石本於鎮戎軍及宏官
桂林朝奉大夫閱紀為使者語及始知石在閩凡二十五官
滯杞通判邵州以石本見奇三十五官杭而景仁為錢塘令
陸氏子登進士第者來謁與閱謝而閱之既見真蹟獨秋深
一帖皆之良文攀慶而言嘉祐中太宇沈文通借觀折留不
還自此不復借出固亦不復借閱遣工摹得之即歸詰遣使

趣時為郡從事乃言在其姪延嗣處復獲閒令錄余家

王右軍來戲帖

右麻紙六朝人行臨寫字註小真字數枝復以雄黃塗之在

蘇州故相丁謂孫景處後以一萬貫於鄆州梁子恵處故相

呆過孫也又有唐雙鉤樂帖亦在丁景嘉集皆有題跋

韓擇木八分 ㄨ

右其蹟楮紙在丁景處第二行書官位以大字改為中字

唐太師顏魯公書命名兩字

右黃麻書在龍圖閣直學士吳郡滕元發處滕以為韓求書

一帶雲根仲宣藏書 卷第三百二十六 四五

唐辨才第子草書千文

右黃麻書龍圖閣直學士吳郡滕元發處滕以為韓求書

唐辨才第子草書千文

其間其前空兩才字全不書固以疑之後復空承字遂定為

辨才第子所書故特開其祖師二名耳

唐虞世南枕卧帖

右雙鉤唐摸本在朝奉大夫錢塘閔汝圖書古

印閔嘗謂某曰昔越州一寺佛殿於梁棟內覓藏一函古

撫數十本所可記者王右軍十七帖世南枕卧帖十開九帖

褚遂良奉書寧帖上皆有倣字圖書字印段功精絕墨氣乾

濃畢備閔與僧善瞞得枕卧十開九書寧三帖

唐秘書少監虞世南臨時帖

右古雙鉤摹本在承議郎沿陽李熙處翰林學士維之孫亦

綾有魏氏印某借模石

唐僧高閑草書千文

右楮紙真蹟在承議郎李熙處

唐禮部尚書沈傳師書道林詩

右在潭州道林寺四絕堂以杉板等略布粉不蓋紋故歲久

不脫裝休書杜甫詩只存一甫字基嘗為杜板行以紀其事

沈眸景宣潭借留書爾半歲獨得其原本為撫石僧希白務

一帶雲根仲宣藏書 卷第三百二十六 四六

於劾快多改落筆端直無復縈絕蒙劾動而成有別板本又江南盧

唐太子率更令歐陽詢書漢書節

右楮冊小楷在潭州南楚門胡世寧故物其祖師二名耳

唐歐陽詢書道林之寺碑

右在潭州道林寺筆力險勁句勒而成有別板本又江南盧

山多裝休題寺塔諸額雖乏筆力皆種種可愛

羲之千文

右楮紙書字筆力圓熟在宣州觀察支使王仲說處故相珪

之姪謝題贊知章書四字於韻字下亦也

顏魯公頓首夫人

右真蹟楮紙破爛過半在駙馬都尉王晉卿家

孫過庭草書千文

右真蹟雙鉤雙關字印王氏圖書四字隨圖

四轉其異製也

懷素詩一首

右真蹟絹書在王晉卿家

張長史虎兒等二帖

右楮紙真蹟在王晉卿家

晉武帝王濛王戎王汝南王祥郭舒陸玩桓温陸雲謝安謝萬等

十四帖

右真蹟在駙馬都尉李公炤家武帝王戎書字有藻箱氣象

奇古墨色如漆皆歷歲上有開元二字小印太常平公主

胡書印也之奇書也王羲永存珍秘印段浩之印梁秀收閱

古書記字印內郝惜一帖即閣本法帖所錄者首至著取傳

家書與閣下書雜模模此卷中獨取惜內行餘在所棄謝安

慰問帖字清古在二王之上宜字批予數帖尾也

晉謝安謝安相三帖

右真蹟麻紙書在李公炤家上有鍾紹京書印數家蓄定字

印謝安一帖為後人臨摹淡復用深墨填過使人惋惜與前

卷並有絹帖書附流自為名筆

黃庭經

黃素黃庭經

右同上字孔古無俗媚體約六朝人所作經有鍾紹京印後

有陶弘景時珍此書在李太師家列是甲觀

顏魯公郭定襄爭坐位第一帖

右楮紙真蹟用朱墨填過草秃筆字字意相連屬飛動現形狀得於意外也世之臨行第一書也逸有

顏氏守一閣書多印在宣教即安師文處長安大姓也為醉

酣池句當官指入京故有予得見之云李明文處購帖

在其家

晉王右軍恭應鎮帖

右麻紙書跋後有太常卿蘇易簡弘在官著作郎王仲修處

晉王羲之官奴帖

右雙幅麻紙本亦在平仲修處

唐張右史季明賀八清鑑等帖

右楮紙真蹟筆法勁古不類他書李明第一書也在永興即
蘇液處
懷素千文
右絹書真蹟在蘇液處況遒刻板本是也
懷素書任華草書歌
右真蹟兩幅絹書字法清遒歌詞奇偉在駙馬都尉王晉卿
第尚有三幅乃其後幅也完寄請出第觀後跋尚方
李邕多熱要烏粉帖
古白麻紙真蹟上有唐氏雜蹟字印陳氏圖書字印自德元
一帶雲棲外史藏書
圖書記字印案微舍人石揭休物今在其侄前宿州判史處
庶庚前一帖與九八郎謝惠庶帖真蹟余尚上於庶庚
購得之
懷素草書祝融高庶帖
古絹書兩行此字入神右案微宮刻石有六行今不見前四
行聞庶庚云在王荊公參政家此亦為其子孫臨去矣
陳暐草書帖
右六七紙字奇兔雖稚如日本書上亦有唐氏雜蹟字印在
駙馬都尉李公炤家

顏真卿祭侄稿草書
古真蹟楊紙書改抹多在長安安氏子師文携至京
顏真卿祿拙帖
右麻紙書真字高勁秀拔亦與李大夫時顏書換州別駕此
顏第一帖也
懷素三帖
右絹帖云賀道朐中如刀割第二帖見顏公第三帖律公於
懷素不與世之第一帖也亦見於臨文
懷素自敘
一帶雲棲外史藏書

右在湖北運判承議郎蘇必庶前一帖改碎不存其又舜欽
神之
庾冀帖全幅上有書家審定印
張芝玉冀二帖非真
唐世南汝南公主墓銘
歐陽詢碧雲二帖草聖
顏真卿與李大夫春事張敖二帖
懷素草書三幅楊凝式書二帖
皇象急就唐楷奇絕

右在故相張公裔賢孫名五倉字次欽處今為楚州山陽主簿

王右軍桓溫破姚萇帖有開元印唐模充政

右筆法入神奇絕帖樂王仲修學士家雅恭帖同是神物有開元印懷素破在蘇潛道淵之子之純處今為欽州判官

王欽之送梨帖有琴氏印連柳公權跋王右軍言牧帖

兩行有顧平印徐僧權字

右在玄藏庫副使劉李孫處據柳公權跋於唐大宗書前裝出獻之書乃將其父書却黏於獻之帖後云又一帖柳誤以

父為子矣況不知書者乎

李邕四帖內一幅鬼使有唐人雜述印勾德元圖書記印陳氏圖書印樂石夫庶所藏多款帖同

右在章子厚家

王右軍陣圖前有自跋真跡墨蹟如金葉紫茶有聲

右同上章公自云借於趙姊今為蔡河撥發

王右軍紈扇精帖有顧視印王大令日貢帖有唐氏雜述印

右故相王曾家物在其孫景融處後為前龍圖待制沈括存

中取之古跋右軍作羊欣大令作薄品之仍將大中改跋刮去數字填為薛邕記之而故相薛居正題曰和傳遺令此蓋和凝為薛氏故物歸居正耳唐大宗雅不善于敬書故時人以他名名之以應慕所謂紹之書曰乃於耳字不到去及不次獻之頓首字猶在一分許可識大中所跋既不能辨復為不鑒之人所收遂使至寶永失其真吁可痛也

唐僧懷素自序

右在朝奉郎蘇液處杭州沈氏皆刻板本似激皆舜欽子蘇氏自參知政事易簡之子蓄蓄子舜欽舜欽子激曰世好事有精鑒亦張彥遠之比也上三事並出云見之

洪光集右軍越州兩碑

右真蹟在越州僧正子文處言通計借來

褚遂良書蓄鹿柱

右開絲綫所書丁謂張借處賢在無錫氏家士多因官借出

王右軍書家譜

右在山陰張氏王氏家越州教授王渙之以書校某異言有此

書

唐世南書評

右同上在趙州上廣

晉中令王獻之已復此節帖

右在翊請大夫新昌石元之家閱景仁屢見之當摸石某見

兩本字札精妙

廣世南書波南公生銘起草

右在通直郎右陽王讓處見摸本給事中舉元子云真蹟在

洛陽好事家有古蹟

歐陽詢四帖

右同上

顏魯公書韻海

右閩大書朱字魯公書小字他人作蘇軾云在其父刑部尚

書處

柳公權書柳尊師墓誌

右真蹟在錢塘磨堝處

張長史千文三帖

右同上摸石乃李師中也沒洛陽人

歐陽詢鄰陽帖

右同上摸石在豐隱寺

褚遂良臨王右軍二帖

右同上並稱自云未曾輕出

老子西昇經褚遂良書閻立本畫

右在觀文殿學士洛陽馮京處

晉王薄真草帖晉張翼帖宋元嘉帖

右在觀馬都尉李瑋處集並見石本復見李云在高橋楊氏

未雅見

顏真卿寒食帖

右綾紙書在中書舍人錢忠惠世多石本

王右軍王閩帖

右蘇州教授閻丘簡云在承議郎建安王寔處有古蹟今裝

書人胃久不還及前卯半蹟皆磨名公也付理不可得匠人

顧陪四十千即知其篇真得金已多

簡學摸本

右正議大夫韋悰跋蘇敬所收閻立本云此與吾家所收同

褚遂良奉書等帖

右在閔和集見石本

晉高玄飛白天台字

右見石本真蹟聞在台州

唐東宮長史陸柬之書十八學士贊

右西京留臺王壯云在舍弟庭厚

唐高閑書令狐楚詩

右真蹟在戶部尚書康季榮家見其石本在湖州

臥陽詞二帖

右在朝議大夫鼎端厚處其本與蘇州進士周冯

懷素書藏常侍日下三帖

右同上

宋羊欣采翼二帖并補令採蘭亭

右見中書舍人蘇軾云在故相王隨之孫景昌處採石在湖

州墨妙亭屢見石本今在沈存中括家

柳公權紫桂辭蘭亭詩二帖

右侍制王庭淵撫石跋云龍圖大諫李公帥府昭日出諸撫

石李師中必洛陽人

張長史全本千文

右見臨淮令曾孝蘊云在京師謝氏亦寶文公遠族也

顏魯公帖一軸五帖

右見湖州趙模供奉官石爾駙馬之孫云在其兄處

王子敬帖

右宣義王硯云其父所收未得將出

宋米芾書史已見章惇
林保者不載

金匱石室汗簡校書感是傳錄河閒古簡為法書祖張彥遠

志在多聞上列祖脊按史設論世咸不傳疏欵後人有識所

罪至於後愚妄作詆訶神鬼止可發笑余但以平生目愍陋

別無疑集曰書史所以指南識者不點俗目

余閱書仍苗無款遠慮故斷自兩晉

太宗皇帝文德化成請無他好留意翰墨潤色太平淳化中

當借王氏所收書集入閣帖十卷內初惜兩行二十四日帖

乃此卷中若仍於謝安帖尾御書親跋三字以還王氏其

帖在李瑋家余同王原之欵於李氏園池閒書畫竟日未

盡出此帖余題曰李氏法書第一非天下法書第一也

李瑋有唐摹右軍帖雙鈎精絕、摹來後一帖是奉橘三百頭

霜未降未可多摘閏皇十八年三月二十七日參軍學士

諸葛縝記議參軍閻府判士柳述告輝智果跋其尾

晉王獻之十二月帖黃麻紙一印曰彈書楚唐相王鎛印從
有君倩字前有編小帖是褚遂良題尤與快雪帖相連蘇
太簡家物上有開元才劉子美題跋云僧守一所藏先今
以命服得之于吳子激字志東與余勿藏以書畫質玩易
之
王右軍東方朝像贊廢破處歐陽詢補之在丁謂學士家歸
宇宙今時劉涇以僧歸書梁武帝像易去
樂毅論智永跋梁世葬出天下珍之與閻書誤兩字是以雖
黃治定然猶用筆今世與此以誤兩字本流傳余於杭州

天竺僧處得一本上有以及兩字又不闕唐諱是梁本也
撰州李丞相家多書書其孫直秘閣李考處收右軍黃麻紙
十餘帖一樣連成卷字先而連葬母書也後有先君名印
下一印曰尊德樂道今印見在余家先君嘗官濮與事吏
之歩即以基友善意其美勝之余時未生此帖一卷世未
見其山故是右軍名札也又有數陽詞故事十餘帖皆筆
相連其子通書評書一卷張顛醉帖一卷七八帖乃少時
書並在李華處
中貴高樓楊氏收數帖贋思話表一思話字有鍾法此乃無

而武帝批答四字君臣業氣一同紙古復破前完此是唐
人所為然亦佳作今人不能為也又王珉書真草書是真蹟
有鍾張法張藏當是作家摹褚人亦真又吳研草帖奇古
非僞又一帖如竹片書市好多若為之基與古印版可為
吾鄉子通真君有歐陽詢草書千文最最為精永興真
世示今後版卷以必改許乃版最被燒過於古紙上版必

蘇蒼家蘭亭三本一是參政蘇易簡雙鉤第二本在蘇舜元
唐上有易簡子蒼天聖戚跋范文正王堯臣參政跋云才
翁東齋書當盡鬼蘇舍才翁子也與余友善以王維雪
景六幅李王卿毛一幅作照樂毅大折枝易得之最愛備
盡少長字世傳本均不及長字其字二筆相近來復摹
筆動回筆鋒直至起筆處換字內折筆駐筆皆轉側裹而
見鋒整字內行字足字轉筆跋豪隨之於折筆處跋豪直
出其中世之摹本未嘗有也此定是馮承素湯普徹鶴道
政超模諸舊真之流揣賜王公者張花真王軸紫錦裝背
在蘇氏弊元房題為稽逸良摹余跋曰樂毅論正書第一
此乃行書第一也觀其改誤字多率意為之有楷體餘皆

盡妙此書下真蹟一等非深知書者未易道也第三本唐
粉蠟紙摹在群欽房第二本所論故字精妙處此本或不
及然固在第一本上也是其缺人所摹益第二本最嗄不
甚世當有十餘本一絹本在蔣長孺處一紙本在其子之
文處是將欵本一本歸余家一本在之友處

米芾秘玩天下蘭亭法書第一唐太宗購此書命趙模
逐良楷拓馮承素摹搨道政諸模諸葛政湯普徹之流摸勒
王公貴人暮於張房遠法書要錄此軸在蘇氏題為搨模
觀其意易改誤數字真是精法省筆意蓋筆斜字皆鉤填

清潤有動秀氣轉折象能備書與真無異亦深知書者所
不能到世俗所收或肥或瘦乃是工人所作攷當以此本
為定于丹閻六日文江潤川洲畏廬觀竟晉唐鬳對案金浮
玉羣山迎快風銷暑儿日手裘

宗室叔益收蘭亭逸不及吾家本在婿欽本上因重為其
後省紙逸乏精彩然在都門景為任本主舉見求余家本
曰此帛書徹所摹與贈王說家本同今其思之欲得之
此以自解爾錢唐閔景仁收唐石本蘭亭佳於定本不及
余家校本也

洞州南山杜氏父為尚書郎家世杜陵人收唐刻本蘭亭與
吾家所收不差有解勢筆法余得之以摹本刻板田規定
本及近世妄刻之本異也此書不亡於後世者賴有此本
過好事者見求即與一本不可再得世謂之三米蘭亭

朱巨川告顏書其採擷圖屬特入秀州某德邑中不用為魔
余以金換易之又一告類法浩書在邑人王裏處亦巨川
告也劉涇得余顏告背紙上有五旬墨至今裝為秘玩欵
如係告粗有係法耳王說與余序善愛之寫一日見語曰

固願得之遂以韓馬易去喜於劉氏處第一石也此書重
今在王說處

顏書述劉太沖序碧落書王欽臣故物後有王參政名印或
謂宏為王說竊去

薛子才收碧落文係一幅書公妙蹟又有與夫人帖一幅當
是其婿今在王說家

懷素絹帖一軸雜論故事後人分剪為二十餘處王說累年
遂求足元數又一云史陵著絹帖以六朝古賢一幀為與

王說

馮京家收懷素絹上詩一首張伯高少時絹上草書兩幅張

書今歸薛紹彭

薛紹彭家所藏二軸書劇字行書縑紙千文購於錢某洪
處又王仲至處借書麻紙一幅楊凝式小字書麻紙一幅
余皆見之歐陽詢考經一卷許昭寄錢公未見真跡
張伯高五帖黃經紙步時書在楊傑家傑文學草故双樹生
語斷處即勇作一軸黃油箋紙與王仲至千文一同並
無古印跋

蘇子瞻藏張顛草書又蘇泌房所藏詞云閩士何日得至南
中省非伯高真蹟亦無古印跋

唐烟處昔楊凝伯高千文兩幅與刁約家一同是幕客真蹟
刁氏者後有李王作鉉跋為人偽刻建業文房之印印之
連合縫印破字每見令人歎息

慶曆南頭臨東方雙鉤板本在歐忠傳家後為佑人添入載
之兩字傳入晉州法帖以為右軍書聲跡可笑

李錡收唐人歐行書兵馬劉沖之巫相家物

劉涇得莫玉跋永侍中孫為守得摹帖一卷乃胄曾參軍考
懷琳偽作七帖後人所摸也後余以書易於劉涇分前

楊凝式書類顏魯公爭坐位帖秘閣校理蘇舜欽有三帖與
薛紹彭家所藏正書相似余二次易得後以第一易於王
詵第一易於晁

張直方家楊凝式數帖真行甚好

劉瑾收碧落王帖上有司徒元圖書記係合太和印及題顯
德成官吹吾家顏恒之淨名天女散以畫易吾琴以名有
子敬帖便可為伯玉谷日此猶拔沙揀金此語甚妙

余收子敬范新婦唐摹帖後於蘇教家後有倩仲跋余題詩
黃庭畦和題於後蔣子奇和三首呂升卿和二首劉涇和
兩首余章和二首余後二首共和為一軸林子虛

倩去未還

劉涇收許渾烏絲欄手寫詩一百篇字法極不俗果一篇湘
潭雲盡暮煙出巴蜀雨消春水來畫是兩觀西南世界一
段物色自有識者知之前一幅易與杜介一幅在王詵

處

劉涇在宿州平生初收白麻紙暗顏書太中年乃其秘笈第
一物至鴻漸封敖行李文饒太慰告詩軍詩次得智永校
本千文其後得余家十七帖日本及日本告吳融司空圖

贈譽光歌張顛譽光亞栖等書韓馬戴牛

劉涇於楊惇處得見觀御府內史官奴帖余以十七帖以下諸物易歸余家先於唐摹得右軍尚書帖云得於僧清道亦有正觀印印文連復合仍帶元截縫痕一條故一物也林希見余承此軸數云柘府所有猶不過是當見閻下一卷字印相去五寸許不相連若真印印則四枚理無平均若偽雖必只一鈕用省費一也余聞之愧喜懶展閱輒試取視之左右上下無一相當者疾呼林過欵語所以公擊節曰公此書愈妙也余寄書云書畫間文不見薛米余十五年始得子鷺字帖云是右軍余云恐陳子鷺未絕今日復薛紿劉亦云六朝書

薛紿劉以書畫情好相同嘗寄書云書畫間文不見薛米余答以詩云世言米薛或薛米猶言第兄與先第四海論年我不甲品定多知定如是劉從過薛見書大叫書來云余答以詩云唐高書參晉不收却緣自不信雙時於狂為報秦龍子不怕人稱米薛劉劉君獲不收昌帖云與真趙

收唐帖故有是句

余臨大令法帖一卷在常州士大家不知何人取作唐帖裝

皆以歌此指一日林希會車懷張詢及余於甘露寺淨名廨各出書畫至此帖余大驚曰此蓋書也沈劉然曰某家所收久矣豈是君書第笑曰豈有變主不得記物耶

余居蘇與葛藻近居每見余學臨帖即收去逐裝粘作一卷字印相去五寸許不相連若真印印則四枚理無平均若偽雖必只一鈕用省費一也余聞之愧喜懶展閱輒試取視之左右上下無一相當者疾呼林過欵語所以

餘帖做名畫記所載印記作一軸裝背一日出示不覺大笑葛與江都陳雯友善遂賠之君以為真余借不肯出今

在黃村家

余臨張直清家慶永興汝南公主墓誌渭中好事者以為真

劉石右軍帖尤多

右軍唐摹四帖一帖有褒餘字薛肯相所收余為褒餘帖

錯是冷金硬黃一幅是楷薄紙摹右軍暮年更妙帖也其一幅云数與房仁集君上平自可且何所詣人乃王道平

子其平寺者使又見晉人語與氣上有弘文印印在帖心面上不印縫面是亦有小閒元字印御府帖也

米子房收得唐開元摹右軍帖未有李林甫等至陵今歸王

說新林印省在也內異快一帖歸薛福詩

王詵收勃一道是賜浙西節度推節與顏魯公前中書門下

如今制授部子儀書名

許彥先有刺史告真卿二字史部尚書時字迹浮動
蘇眷書畫記述與鼎臨帥真閣數日內史與王述帖到在江南
十八家帖中本朝以碑本刻入十卷中敘之不差豪髮
又二帖云增慨安西是也上有筆精墨妙印蘇眷題二字余
得於王誅以文皇手詔易之文皇詔宋素往尚書家拓
泉端彥收懷素與皇少卿東大狂一帖筆勢簡古
呂昌道家有懷素兩帖少年所書也今歸錢聽家又玉欽丘
有懷素以詩代懷客洛公碧綠地雜色絹上草書老筆時
妙

呂穉仲行部枚李陽冰白麻紙一卷細與諸雲石刻相似
文勛有一軸黃麻紙一卷是唐朝言余未見
蘇白文牧張從申墨蹟一卷是唐朝言余未見
唐玄度諸體詩粗有古意李瑋家一樣有兩冊
閻景輝家刻石子敬帖卽是獨事云云甚奇妙云真蹟在石
元之大夫家今在其子孫尉處
蘇州卽元伯收蘇沂所摹張顛賀八清鑒帖與真史無少與
又摹懷素自敘管歸余家今歸吾友李錞一如真蹟
程師孟語余四十年置得古摹蘭亭一本白玉軸欲出示我
不曾眼今在子宏處王欽臣浮動
唐人摹右軍兩舍帖摹年書在呂文靖丞相家收閒處法書
要錄載是臨鍾繇帖薛紹彭得刑本一以見遺
柳公權書陰符經有會昌日月姓名為馬玩借去未還今知
其子永孫能保惜在合肥江南文房物也
王仲修收唐湖州刺史楊凝公書有鍾法與裴陽雖讓能書
碑同余家亦收一紙後題會昌年臨寫鍾表今為歸薛紹
彭家
鹿司議卽陸東之書頭陀寺碑前少兩幅獲於吳卽世未有
此書南空山字復筆以氏族志檢之又名山才及王誅處
救錢氏臨陸蘭亭智空山字王仲敎蘭亭詩一卷余以
頭陀碑一幅及智永帖換宋室令攜收書語殿一幅與薛
紹彭分收
李邕勝和帖余以六朝書右賢藏為銀悟山金華洞天石古
鼎復忘記數物當得於呂公孫孫端問處余嘗以碧箋臨
李三帖與真與呂攜去裝褫矣
有人收得虞永興與圓機書一段剪開字字賣之至蜀御二
字得麻一斗鶴口二字得銅研一枚房卿二字得羊千頭

隨人好之爲恐

李氏書帖云書稍有和南近奉勅寫急就章通不得與師書

但書不能援當隨世所學規模鍾張通多歷年二十著

詩論草隸通解不敢上呈書有一弟子王鬼少甚能學書

真書咄咄逼人筆勢周靖字體道姻師可謂善出書能書

耳仰要至鑒大不可言矣子孝氏書和南此帖比今間帖

字亦多亦其所撰也次無名帖次智超帖亦善英間帖中

次次陸機書恒帖書入間帖也復余以書易於劉涇

分前四帖與李錄省正觀間一種僞好物

豐豹羣歐帖上有印云清河張廷範印余按乃唐人所摹

歐陽詢黃麻紙草書芳經是馬季良龍圖大夫直溝所收今

歸薛紹彭家

宗室令穰收歐陽詢三帖第一帖蘇彥語歟次帖故事兩段

有開元縫印韓林之印李林甫等跋及知書樓官名字

末後唐賦薛元曦題官微兩院使印余以智永三行帖陸

智永臨右軍五帖薄於吳即用託薛絳彭書考此會稽公裘

陽丹陽二太夫人告贊爲潤筆薛以書畫還往出處必附

每以鑒定相高得失評較

薛書來云購得錢氏王帖余答以李公焰家二王以前帖宜

評書來云購得錢氏王帖余答以李公焰家二王以前帖宜

薛書來云新收錢氏手敕帖獻之上到去兩字余以爲操之

之字後人恐以爲操之故到去

無錫唐氏有僧右軍十七帖有精彩錢墳僧了性收一卷楮

紙一同唐胸家有一卷是錢氏物也紙白唐氏又收碧綾

黃庭經云是褚遂良書非也上有江南李重光清輝二字

小印云是丁晉公家族人所質錢氏所收浩博帖云王節

分殿外風與掌之所故不簿上而諸位臣有法書臨摹甚

多當時使君景憲房下往往爲人購去薛紹彭字子

文字上皆有秀聖字印忠孝之家圖籍印錢氏書堂印錢

趙房下有史孝山出師頌題作蘭子雲亦奇古又有寫白

樂天詩一首是唐人書亦秀潤天氣殊未佳顏魯公帖緣

素花綾是唐人句摸圖深畫淺

王詵每余到都下做過其第即大出書帖案令臨摹圖櫃中

行書故事皆有關元姚未印跋草帖乃慕年書精彩動人

行書少時書也

翻索書畫見余所臨王子敬鵝群帖染古色麻紙滿目識
紋錦裝玉軸裝簡勁書上鈐連於其後又以臨虞帖裝乘
使公卿跋余適見大笑王就手奪去諒其他尚多未出示
又余少時使一蘇州胥匠之子吕房直今在三鈐為晉王
詵嘗留門下便攜鈎摹帖又嘗見摹蕭庾經一卷上用所
刻曰德元圖書記乃余驗證者

六藝之一錄卷第三百七十七

歷朝書譜

聖藏

宣和書譜　御府所藏紀傳書凡載所錄書共若干卷

歷代諸帝王

晉武帝　草書二

唐太宗　正書一　行書九　草書四

唐肅宗　行書七

唐德宗　行書一

唐昭宗　行書一

梁太祖　行書一

周世宗　行書一

篆書

唐李陽水　篆書一

唐唐元度　篆書一　正書三

宋益端獻王　篆書一

宋章友直　篆書一

唐明皇　御書四　行書二十一

唐代宗　行書七

唐宣宗　行書三

唐則天皇后　行書一

梁末帝　行書一

唐衛包　初業篆書一

唐釋元雅　科斗小篆一

宋徐鉉　篆書七

隸書

唐韓擇木 隸書二 八分書

正書

魏鍾繇 正書一

齊王僧虔 正書二

唐褚遂良 正書五 草書四 行書五

唐徐浩 正書二

唐李商隱 正書一 行書一

唐蕭遘 正書一 行書一

唐李磎 正書一

唐顧紹孫 正書一

唐楊凭 正書一

唐張顛 正書一

唐戎昱 正書一

唐許渾 正書一

唐楊庭 正書一

唐鈕約 正書一

唐道士杜光庭 正書一

宋黃思話 正書一

隋薛道衡 正書一

唐顏真卿 正書六 行書二十二

唐元稹 正書一

唐柳公權 正書六 行書五

唐陸宸 正書一

唐房嵩 正書二

唐李磎 正書一

唐陸希聲 正書一

唐崔耆 正書一

唐鄭冥 正書一

唐柳模 正書一

唐張欽元 正書一

唐景審 正書一

唐女仙吳彩鸞 正書十一

唐道士梁元一 正書一

唐釋墨林 正書一

南唐主李璟 正書一

五代盧汝弼 正書一

五代王仁裕 正書一

宋宋綬 正書八

宋石延年 正書一

宋王子韶 正書一

宋山人蒲云 正書一

行書

晉王 行書一

晉桓溫 行書一

晉謝萬 行書二

晉張翼 行書一

晉王徽之 行書二

宋孔琳之 行書一

梁王筠 行書一

陳岑炅 行書一

唐歐陽詢 正書八 草書十

宋釋法暉 正書一

唐陸柬 正書一

唐房嵩 正書二

唐蕭遘 正書一 行書一

唐李磎 正書一

唐顧紹孫 正書一

唐楊凭 正書一

唐張顛 正書一

唐戎昱 正書一

唐許渾 正書一

唐楊庭 正書一

唐鈕約 正書一

唐道士杜光庭 正書一

宋黃思話 正書一

隋薛道衡 正書一

唐顏真卿 正書六 行書二十二

唐元稹 正書一

唐柳公權 正書六 行書五

唐陸宸 正書一

唐房嵩 正書二

唐李磎 正書一

唐陸希聲 正書一

唐崔耆 正書一

唐鄭冥 正書一

唐柳模 正書一

唐張欽元 正書一

唐景審 正書一

唐女仙吳彩鸞 正書十一

唐道士梁元一 正書一

宋宋綬 正書八

宋石延年 正書一

宋王子韶 正書一

宋山人蒲云 正書一

宋釋法暉 正書一

宋陸經 正書二 行書二

宋進士陳景元 正書六 行書二

宋蔡襄 正書二

五代楊凝 正書一

五代亘盧革 正書四 行書六

五代薛貽矩 正書一

五代王仁裕 正書一

五代盧汝弼 正書一

南唐主李璟 正書一

吳越國錢鏐 正書一

梁王筠 行書一

陳岑炅 行書一

唐歐陽詢 正書八 草書十 行書二十

唐歐陽通 行書二

唐虞世南 行書九 草書四

唐陳叔慶 行書一

梁陶弘景 行書六

晉王廙 行書一

晉王洽 行書

晉張翼 行書一

晉陸玩 行書一

晉謝安 行書二

晉謝奕 行書一

晉王 行書一

晉桓溫 行書一

晉謝萬 行書二

晉王徽之 行書二

宋孔琳之 行書一

唐陸柬之 行書五 草書一
唐吳通玄 行書三
唐張籍 行書一
唐杜牧 行書一
唐崔顥 行書一
唐盧知猷 行書一
唐韓偓 行書二
唐林藻 行書一
唐徐凝 行書二
唐任畴 行書一
唐吳融 行書一 草書一 正書三
唐司空圖 行書二
唐白居易 行書五
唐李景讓 行書一
唐裴潾 行書一
唐李邕 行書十
唐李白 行書二 草書二
唐韋滂 行書一
唐韋縠宗 行書五 正書一
唐婦人薛濤 行書一
唐釋懷仁 行書一 草書一
唐釋齊己 行書七 正書二
五代韋莊 行書一
五代潘佑 行書一
五代釋應之 行書二
宋李建中 行書四
宋王安石 行書一

宋米芾 行書二
草書
漢張芝 草書一 章草一
蜀諸葛亮 草書一
晉衛恒 草書一
晉索靖 章草一
晉陸機 章草一 行書一
晉杜預 草書一
晉郤鑒 草書一
晉王導 草書二
晉王敦 草書一
晉王悅 草書一
晉王珣 草書一 行書一
晉謝尚 草書一
晉王羲之 草書一百九十四 正書七 行書四
晉王獻之 草書五十三 正書二 行書二十
晉詹思遠 章草一
宋羊欣 草書一
宋於七 行書六
宋王晏石 行書一
劉正夫 行書二
宋內臣李宗旦 行書四
魏曹植 章草一
吳皇象 章草一
晉杜預 草書一
晉王渾 草書一
晉陸機 章草一 行書一
晉郤鑒 草書一
晉王廙 章草一 行書二
晉庾翼 草書一 行書一
晉王洽 草書一 行書三
晉王珉 草書一 行書一
宋王晉卿 草書一
宋謝靈運 草書一

宋薛紹之 草書二
梁沈約 草書一
梁院研 草書三
陳蔡景歷 草書一
陳陸繕 草書一
陳江總 草書一
陳陳遠 草書一 行書一
裴行儉 草書一
唐徐浩之 草書一
唐孫過庭 草書三
唐李霄遠 草書二
唐裴素 草書一
唐張庭範 草書三 行書四
唐張孝規 草書一
唐釋亞棲 草書十五
唐釋智永 草書十一 章草十
唐釋懷素 草書七 行書一
唐釋文楚 草書一
齊劉珉 草書一
梁蕭子雲 草書一 正書二
陳陳伯智 草書一
陳蔡薿 草書一
陳毛喜 草書
陳鄧伯 草書一
隋釋智永 草書十一 章草十
唐賀知章 草書十二
唐張旭 草書二十四
唐張彥遠 八分書二
唐貝令儀 八分書一
唐釋靈該 八分書
唐張彥遠 八分書四 草書七
宋周越 草書三
唐釋懷仁 草書
唐韋陟 草書
唐周義 草書一
唐張仲謀 草書一
唐章概 草書
唐胡孝良 草書五 行書五
唐釋懷素 草書一卷 行書一
唐高閑 草書一 行書二
唐釋亡名 草書一
唐釋夢龜 草書十
唐釋貫休 草書七 行書一
唐釋文楚 草書一
五代杜荀鶴 草書一
五代徐存實 草書九
神仙鍾離權 草書一
宋杜衍 草書一
八分書
唐于僖 八分書二
唐貝令儀 八分書一
制誥告命 附
唐詔
湯閒山
唐告
唐令狐之儀
許圉師
郭元振
魏處哲妻侯氏
張九齡考課二
馬定昔
庫令望
張庭詢
五代楊凝式 草書一 正書一 行書一
宋錢俶 草書二
宋周越 草書三

朱巨川
李術
渾城
湯休義
王審邽二
許渾
李愚
朱全忠
羅隱
唐牒
白寡詳
王審邽
五代制
後唐李彥超
五代告
蜀王宗綰二
五代牒
後唐趙仁資

張楚金
唐大圓
齊抗
白居易
李德裕
李載
郭知運
李能
白彥將
晉趙仁資

南唐國主師告

日本國康保使告二
大理國皆無隊
宋中興館閣儲藏
名畫墨蹟八十九軸朝廷續行降付并前後所獲書藏一百二十六軸一册門錄名氏于此
魏一軸鍾繇議事表一
晉十七軸王羲之十四日帖一因緣等九帖一二書帖一敬年帖一四月帖一送梨帖一奏誌帖一十月帖一敬有帖一書至帖一草書帖三王獻之帖三一東山帖一王恬簡尺一永和元年金剛經一
齊一軸蕭子雲奏表一
梁一軸簡文皇帝製過玄寺碑一
唐六十四軸明皇書數一跋一批答李令光表一批答李令光敕一批答李令光敕一賀宋璟表一賀宋璟李令光敕一賀瑞歲旦一批答裴耀卿等奏狀一敕一
詩一稿逸民臨王羲之黃庭經一鈎摹王羲之十七帖一
歐陽詢簡尺一新序帖一書度尚庚亮帖一夏侯帖一狀一
仁傑謝狀一李白廿日醉題詩一又送賀八歸越詩一胡英樂府詩一李邕簡尺二顏真卿敘一答文章一千秩字

一李陽水篆三本南陵月賦一張草聖帖一本意帖一
諸舍帖一人王羲評詩三李德裕答大一白居易劉大二
與劉夢得帖一崔騭回示字帖一李於建句一單諷啓狀
一柳公權伯氏帖一書劄甲投贈帖一王拾氏草書千文
一萬氏示三兒主日詩一史惟則義懷一褚庭誨法書一
顏氏家誥一孫虔禮乞恕東米帖一吳彩鸞切韻一真堂法定
天竺寺詩一神月大師手帖一僧亞栖草聖三文詩一傳
齋已落狀一謝狀一僧高閑草聖二草書長史一僧
懷素草書千文二孝經一白敏帖一上定襄郡王帖一僧
一帶雲根卅堂藏書目 卷第三百二十七 十
唐朝不知名者六十八軸一冊張九齡告一張楚告二張開
山曇告一朱臣川告二張元南告一張思惠告一楊美告
一桑如珪母王氏告一張令曉守賀州碧石將令告一李
袁告一魏洽告一張武告一張彬告一李紳祥告一許
開師告一李龍告一張庭詢告一許軍告一劉幕王義之
六帖一十三帖一桑敬論二劄幕王獻之洛神賦一帖王
獻之夏熱帖一劄幕開序二書李郢七言詩一元和名賢
書文館詞林一草聖千文一唐韻三又一冊琴手勢指序
一李陽水篆三本南陵月賦一張草聖帖一本意帖一
諸舍帖一人王羲評詩三李德裕答大一白居易劉大二
與劉夢得帖一崔騭回示字帖一李於建句一單諷啓狀
一柳公權伯氏帖一書劄甲投贈帖一王拾氏草書千文
一萬氏示三兒主日詩一史惟則義懷一褚庭誨法書一
顏氏家誥一孫虔禮乞恕東米帖一吳彩鸞切韻一真堂法定
天竺寺詩一神月大師手帖一僧亞栖草聖三文詩一傳
齋已落狀一謝狀一僧高閑草聖二草書長史一僧
懷素草書千文二孝經一白敏帖一上定襄郡王帖一僧
一帶雲根卅堂藏書目 卷第三百二十七 十一
唐朝不知名者六十八軸一冊張九齡告一張楚告二張開
山曇告一朱臣川告二張元南告一張思惠告一楊美告
一桑如珪母王氏告一張令曉守賀州碧石將令告一李
袁告一魏洽告一張武告一張彬告一李紳祥告一許
開師告一李龍告一張庭詢告一許軍告一劉幕王義之
六帖一十三帖一桑敬論二劄幕王獻之洛神賦一帖王
獻之夏熱帖一劄幕開序二書李郢七言詩一元和名賢
書文館詞林一草聖千文一唐韻三又一冊琴手勢指序
一卓書寄人詩一草書洛神賦一欵到帖一釋氏說一文
思傳要一節史十八節史二節史小楷一晉秋陽一清
淨經一又草書清淨經一佛本行集經一小字法華經一
桂軒書大中之寺二
五代十四軸南唐李後主書誦經回向詞一劵顧文一詩詞
一招賢詩一錢王牒一楊凝式二帖一人四帖一記崔處
士詩一宋承丘延宥亭記一徐鉉送尹公上人東遊詩一
徐知訓跋王羲之帖一南唐人跋
李陽水小篆一序洛詩集一
一帶雲根卅堂藏書目 卷第三百二十七 十二
皇朝四十九軸錢雅景伯南亭一冊勤
千文米芾送宏上詩一西山書院雜咏一請陳公住持疏
一個一和張君韻詩一送君多景樓詩一御書湯金詩一
又御書君相詩一雜書詩文三十八
皇朝相宗御書手帖十卷五十六段 太宗三十一段
仁宗九英宗一神宗一哲宗一徽宗五欽宗三祕書監沈
揆致文一以上石刻嘉定三年改會要所指書景為庫置
架設之榜曰御書石刻閣東廊書碑摹刻
太宗皇帝御書祕閣四祕閣字一御製御書祕閣贊序一設祕

閣下

高宗皇帝草聖歌詩摹刻泰屏二嘉定元年降付設于朝廷

逸山堂

徳壽殿福雨宮御書観音経共八段元在碑石庫嘉定三年

置架設于犀玉堂東偏

孝宗皇帝御書秋日幸秘書后近体詩一張石銘一七宗皇

帝御書壽聖皇帝聖政序一段上皆在秘閣西廂待詔御

書石刻

今上皇帝御書聖安壽仁大上皇帝聖政序一段秘閣下

淳熙秘閣續法帖十卷七十三段第一卷魏鍾繇晉王羲之

書第二卷王羲之献之書第三卷唐欧陽詢黄庭経

歩思廻伏仁帖張長史千字文第四卷唐明皇書第五

卷李白詩英李邕行書第六卷唐九人事細書第

七卷李陽冰李懇李商隠書第八卷唐懐素書第九

卷高閑亞栖書已書第十卷杪近式無名人書以上石刻

在西廊石庫之南碑石庫

犀玉堂法帖十卷共一百四十一段第一卷高宗皇帝御書

三生銘孝経孝宗皇帝御書典論先宗皇帝御書甘泉賦

憲聖慈烈皇后御書千文歸田賦第二卷王右軍王司徒

隋僧智永無名人書第三卷歐陽率更廣少監楮中令李

北海顕書公徐内史張司業高閑上人柳誠懸楊少師書

第四卷懐素千文第五卷晉元献杜正献范文正文忠刖

富文忠包孝肅趙清献唐質肅張文定韓献肅王文公司

馬文正韓門下劉忠肅蘇文定鄒忠公陳忠肅書第六卷

蘇東坡書第七卷黄山谷書第八卷米南宮書第九卷李

後主錢忠懿徐騎省李西臺楊文公錢内翰宋宣献石曼

卿蘇才翁蘇舍人石徂徠唐質肅歐陽文忠蔡忠惠

晁無咎晉南豊劉貢父林和靖錢文僖王仲至范内翰張

存誠張子休楊無為秦淮海張右史晁吏部李廷老李龍

眠賀慶湖劉三秀舒信道毛東堂吳傅朋真蔡襄欧蘇後洲

韓忠獻陽穆簡李端愿張無垢書第十卷米元章書第

劉元承安世所申發朝廷嘉定元年永嘉降下三年以

著廷東廊屋三間為庫屋架設之榜曰犀玉堂石刻著作

佐郎侍行簡書

王獻之保母磚一慶元間山陰有人發地得此嘉定元年朝

廷降下盛以漆匣咸手捜訪庫

韓魏公帖四十三段在碑石庫

宰輔三館題名一在館閣續題名二以上在道山堂

進中興館閣書目題名一在西廊拜閣待班所

著述記一嘉定二年著作佐郎揚簡撰並書

暴書會題名淳熙五年九月六年九月七年七月八年七月

慶元二年七月以上在東廊拜閣待班所淳熙九年七月

十一年七月紹熙元年七月三年七月四年

七月五年七月開禧元年七月以上在西廊拜閣待班所

宋宋紹興御府書畫式 周密原本 此卷

一菴雲根艸堂藏書畫

思恩技妙悟八法留神古雅訪求法書名畫不遺餘力清閟之燕展玩模摹不少怠蓋癖好之篤不憚勞費故四方争以奉上無虛日後人手櫂北方貴戚之物故紹興內府所藏不減宣政惜乎鑒定諸人如曹勛宋貺郭天錫平協劉炎黃冕魏茂實任原輩人品不高目力苦短凡經前輩品題者盡皆折去故今御府所藏多無題識其原委授受歲月考訂遂不可尋為可恨耳其裝錬裁制各有尺度印識標題具有成式余偶得其書稍加考正具列于後

出等真蹟書法兩漢三國二王六朝隋唐名匠墨蹟並作御題

紙各書妙字	
用克絲作樓臺錦標	青綠簇大錦裏
大畫牙雲鶴白綾引首	
高麗紙褫	
出等白玉婉就畫軸	玉婉花
檀香木捍	鈿匣盛
上中下等書真蹟為中上等	皆宋元名筆
用紅霞雲錦標	碧鶴綾裏
白鶴引綾首	高麗紙褫
一卷以上裝卅二軸書	卷三十二十一 十三
白玉軸上等用蒼雨徐用平等	檀香木捍
次等唐真蹟並石刻唐名帖	碧鶴綾裏
用紫鶴錦標	蠲紙褫
白鶴綾引首	
次等白玉軸	
引首後歸卷經用御府圖書印	
引首上下鈐用紹興印	
鈎摹六朝真蹟並係宋友仁跋	
用青樓臺錦標	碧鶴綾裏

白高綾引首　高麗紙牌
白玉軸
御府臨書六朝義献唐人法帖並雜詩賦等（一大篇不用紙不背）
用銭路錦
柿紅龜背錦
皐高綾標等
白高綾引首　碧色度裏
玉軸或瑪瑙軸臨時取旨
内廷世玩鈐摹者亦用袱錦標

蠟紙牌　瑪瑙軸
並降付蘇宋古郭忠恕今依真本紙色及印記對換並造牌
元拆下舊題改採用　碧高綾裏
五代本朝玉下臨帖真蹟　夾背蠟紙牌
用皐高綾標
白高綾引首
玉軸或瑪瑙軸
米芾臨晉唐雜書上等　紫駝尼裏
用紫高鶴錦標

指光紙牌
引首兩段用内府圖書小破書記印或有題跋于縫上用
御府圖籍印最後用銘興印並降付米友仁親書審定題
于牌卷後
蘇黄米芾薛昭彭蔡襄等雜詩賦書簡直蹟
用皐高綾標　白高綾引首
夾背蠟紙牌　象牙軸
用廉甲東閣印内府圖記
米芾書雜文簡牘

用皐高綾標　碧高綾裏
白高綾引首　蠟紙牌
象牙軸
並降付米友仁定於今書房明間共編第等第每十帖作
一卷　用内府書印銘興印
内雜帖作冊子
趙世元鈐摹下等諸雜法帖
用柬木錦標　瑪瑙軸
或牙軸

前引有用机緻清賞印縫用内府書記印後用紹興印仍
將元本拆下題跋攜用
宋宣和癸卯御府藏 銕劉山農跋
晉二王破羌洛神諸帖 有刻
唐人用硬黃臨二王帖至三十八
顔魯公墨蹟至八百
餘幅
歐虞褚薛及名匠李太白梁天等書字不可勝會命宋奇
宋潤州蘇氏家藏 張都墨莊逸跋 掌之後繼以米芾畫
太宗賜易簡御書宋玉大言賦並名真戒酒批答
一帶雲根井雪藏書 卷第三十七 十八
鍾繇賀吳減閘帥上文帝表 王右軍答會稽内史王述書
雪晴寄山陰張侯帖
梁蕭子雲節班固漢史
李大白天馬歌
張旭書逸人壁
讀李陽冰篆
永禪師真草千文
米南宮秘玩法書目 書畫舫
王右軍官舍尚書二帖
快雪時晴帖

吳融博士帖
謝安慰問帖
大令中秋帖
梁臨集發論
唐文皇手詔
歐陽詢春雨帖
唐摹大令芝鵝帖
徐浩古詩帖
李邕多熱要葛粉帖
一帶雲根井雪藏書 卷第三十七 十九
勝和帖
懷素去夏帖
顔魯公朱巨川告
楊凝式畫寢大仙二帖
趙承旨倪高士藏袁陽實重行訪錄直蹟 珊瑚網
存寢承須實重行訪錄蛇上此海岳遺蹟幸秘之不宣存和
南子昂承旨相公
倪瓚
秘閣宝重行訪錄大米小楷真蹟秀潤動目足壓倒蘇
破羌帖
晉賢十三帖
閻隱居朱陽帖
智永臨右軍五帖
歐陽詢度向庚亮二帖
褚模蘭亭
陸東之頭陀寺碑
張長史秋深帖
光八郎帖
司空圖贈廣歌 云瞻答歌

黃尤是用筆意與是錄正同世謂元章無楷法者誤矣王子簡
書者尤能深辨丁丑九日燕市重裝謹跋
海岳小楷世所罕覩此實章待訪錄趙承旨倪高士故物也近幸拜
歐褚筆伏定為盛年真蹟無疑張奉
米元章楷法原從歐褚脫胎實章待訪錄趙承旨倪高士故物也近幸拜
觀于陸氏乃逕贊以志之嘉靖甲子歲花大嘉 右軍楷
法有推黃庭實章待訪異世同神字已注目畫已抽心誰
其似之美玉精金

米元章楷法原從歐褚脫胎實章待訪錄與
出自之手何異宋人評張旭書謂實章待訪錄與
記是徒聞虛譽千里而未始知服裏之在法篇也憶張旭
又跋

米南宮實章帖裝成志喜一絕
南宮楷法本唐人雙字提為席上珍屢閱實章大鎔流
傳萬古韻常新
實似道悅生堂刻銀清河書畫舫一部
似道留心書畫家藏名蹟多至千卷其宣和紹興祕府故
物往往乞請出之今除但刻名蹟載悅生古蹟記者不錄
錄其刻意者若干篇
崔塤論史將急就章

王廙仲春帖

王導省示帖　衛恒往来帖　王獻之至節帖
王珣三月帖　張華鄭氏帖　王濛鈐抗帖
張翰思鄉帖　孔琳之日月帖　謝靈運古詩帖
梁武帝異趣帖　王銍王節帖　蘭思話奏事帖
王僧虔陳情帖　蔡景歷寂焉帖　陸繕稽古帖
唐代宗守歲詩　裴行俊千文　李陽冰篆書心經
李白乘興帖　徐崎之大章經
杜甫秋日夔府詠懷一百韻　杜牧之張好好詩
白居易豐年帖　張籍希深帖　李商隱正書月賦
陸希聲贈譽光詩　許渾烏絲欄詩稿
杜光庭詩帖　楊庭五莊論
薛濤堂草詩　韓偓芝蘭帖
蘇霊芝遺廣銘　王仁裕送王禹偁詩
錢鏐貢棠帖　歐陽修送蘇子美詩
石延年大字詩帖　陸經武林詩
陳景元巖桐賦　張九成小子黃庭經
釋法暉細書經塔

六藝之一錄卷第三百七十八

歷朝書錄

鑒藏

米周卿雲煙過眼錄

番邦之貢或齎中山所載

智永真草千文與羣賢題跋合全

李伯時士茂經相時自書措不出戶帖

智永真草千文徽宗題跋政和宣和印

顏魯公鳥病帖高宇題簽

燕邸鄉紳所藏

晉王逸少十七帖真蹟五紙　不出戶帖

唐孫過庭書譜真蹟上下全徽宗題跋政和宣和印

歸于伯機所藏

文忠傳要帝王一部唐類書也天寶十年十二月楷書臣胡

山南書字極良麗卷後有史館山南印用麻紙列館中典掌

之人及三校姓名睟卷皆鈐聖問人題跋其後如張元長周

美成晁說之葛紹彭及諸人在內有歷下周子然不知何許

錢塘　倪濤　撰

人史

吳彩鸞書切韻一本字畫尤古

沈傳師書積雪山陰馬過難殘更深夜饑未寒將軍破了單于陣更把兵書仔細看右御史大夫沈傳師詩書奇大府見

傳史

索靖章草月儀帖一短卷有希世小印及永興節度使印

晉武帝真蹟宣和御府物有唐人跋

王右軍無恒溫薦謝玄真蹟用蔴紙書字輕清不類右軍後有翰馬蔡琬跋楊和王故物也壯年歸禮官優然著色畫孟

宣和法錄也

蘇東坡書詞一云東武城南連堤築初湓令刊本作連

游初溫非也

雜帖一册內有劉涇巨濟墨蹟一紙印文曰劉巨濟行

伯機云太平州有重刻本疼鶴銘然不知以何物為別當叩

識者又云孔子廟堂碑京兆府本無裂乃佳葉森令收一本

乃饒州鄱江書院本極佳

張受益謚號古齋所藏

李西臺新竹詩後有蘇子美跋賈秋壑故物也

宋元筆帖十二册各以其類為册如手簡家書詩文各分題

閻是韓侂胄故物中間韓號公園池詩各有閑古珍玩大印

其後歸史衛王府凡如此五十六册一一精好末帖永書內有與友仁者有無寅哥者所謂厎兒是也花押乃兩樣

王子慶所藏

五字不損本葡萄原係堂後官盧家趙家物墨花滿面後一行空處後跋碑歸童道人墓亮章自重慶得之凡一册題跋上有白石生四扉之印又有唐楊用卬鄭儀震定印其奇為藏姓名二字後跋蕭千巖之姪況介文後有李秀岩跋既而後歸之俞壽松俞有夢鷗堂二跋及會稽內史等二古印最後為趙子固所得喜甚乘舟夜歸至湖中舟山舟覆幸值漢港行李俱濕子固獨持此卷立漫水中示從者曰蘭亭已在其他不足憂矣其跋語亦詳載且題八字於卷首曰性命可軼至寶是保其風致殊於未老子固垂世以此歸賈氏悅生堂今歸王子慶家後歸李玄圃家葉森會於其子仲膚參政處見此本仲膚重世屬之他人

趙太祖御批三卷

仁宗飛白便面六枚

真宗御書封泰山禁音樂敕

英宗舊名宗實監押禁私書及藥方

哲宗御書便面摺水月在手弄花香滿衣中有物押

高宗御書損齋二字并御劄損齋記左僕射沈詵已下聯名

親書柬在後

李西臺古篆并行書風后廟碑甚佳駙馬都尉王晉卿家物

也

欽宗城日開工蠟丸徵兵御書

王介石尺牘所載

康劉良驗告及江南用宗卿詔用書詔之印咸通

一帶雲根艸堂藏書 卷第三百二十八 四

吳通微書蕃賢告書體甚佳米老自跋

東坡書蔡君謨二小詩又杭妓周韶詩初杭妓營妓周韶能

詩蘇子容過杭述古飲之韶來觀籍手各金即席賦詩有云

隴上策宜盛月空忍看回首自杭開籠中若放雪不女多令

阿彌穉世專一時數佳籍中諸妓之內有胡楚龍靚二妓詩

最佳事在候鯖錄

陶弘景板帖見東觀餘論

又御書十餘卷 太祖者阿陽武林閔使身故乞差人齎

御筆上用印合同印

太宗廷尉時葉打捕榜後有御押及行移書字甚草草可

見五代之物苟簡用開封府印

真實數紙其後匡倫奏狀無衛位亦只押而不書名

徽宗數幅皆處分中有進呈經奏亦多不急之事皆御筆親

書照已畫旨

欽宗一幅係親事官節級除剋收捕其瘋耳人聚衆疑惑等

事御批示付程祁令追捕枝蔓配千里封皮用御前之寶

司徒用進所載

宋李建中書絕句寫已無聲花已老誰知三月晝頭時亦佳

一帶雲根艸堂藏書 卷第三百二十八 五

句也

張無可斯立號橋江所藏

陶隱居小字黃庭外景經 張旭草書古詩真蹟有六一翁跋

楊凝式千文 元微之轉官誥

韓祐之天馬號北山所藏

晉右軍得告帖又快雪時晴帖皆真蹟有柔老跋述以名齋

且刻石棗梨曾見此二帖神韻奇彩

唐模千文又開寧通考山房故物有老未卿又有李東川擇

長印葉森曾見載所書持此來售乃南唐板閣錦禪首

梁人臨重告等五帖　唐玄詰賓林寺詩真跡

歐陽率更碧梧行書誠陳後主詩又夢奠帖元先陳僧俞物

甚佳葉森芸香所收即此本亦有甫撰售也

震永興汝南公主墓記後有米老跋皆真跡也

稽中令小楷內景經後有遠山重疊傳古龍畫

王子才英孫號脩竹所藏

米元自作自書上清儲祥宮碑卷後有題與東坡同作米意極自得然

水東後歸員外郎子才題

非馬後文座倒此元必叫屈余家亦有米元自書天

末禪師第二碑字畫絕妙藏之甚久為德生衆奪去甚惜之

金一之應接帖有之字大於此帖宛不及也

雪竇和尚頌書詩一卷後有諸公題跋

張應所藏名帖

御府蘭亭類考十冊凡百餘種又高宗十七帖內臨入帖後

有跋

應端甫希雲號蘇林所藏

向蘇林靈壁卧石上有刻字并小詩皆蘇林伯英書

徐容齋竣手方所藏

朋舍公自書刑部尚書廷試書不可曉大曆十二年

唐人雙鈎蘭亭　孟簡細書六跋

朱希真雙鈎力命帖黃庭經

邦清浦注所藏

孫過庭書千文五色紙書共終四各有珍字印或謂唐太

宗或謂宋太宗印中唐文館印

張旭狀深不審帖上有雙龍圖印前後有政和宣和印

蕭子雲出師頌　唐摸蘭亭

李士弘佩蘅齋所藏

唐摸蘭亭杜瘦而自然高子奇跋云此乃馮承素等臨柳公

權小楷清淨經　元五年書於上都昭成觀

東坡書杜少陵驅驢橋并詩有子由跋山谷二絕句

又草堂書孟康詩

高仲嗣所藏

蕭遘前公帖明昌題　張芝九問帖宣和題

子卿昭號性齋所藏

東坡大字德威堂銘黃絹高綾摺書甚佳

東坡翰院樂語草書一大卷上有閻封題與懃小印及齊齋
印
山谷草書鸚鵡佳
又一帖云近有佳會牽人故不得往意食料禁不放即呵
呵又一帖云花四枝謹送餘春尚可賞否藏花人安否前
輩風流可想也
米帖一云胡不入城單外恐不堪久單外二字甚新
洪光春集王書勝業證高宗題
許渾烏絲闌上書大軸佳
一帶雲根卅堂藏書 卷第三百二十八 八
趙孟頫乙未自燕回時所收
京兆府所刻東方朔畫贊比之今本字稍大
天台謝安休養浩齋所藏
虞永興汝南公主誌帖有機緘清賞文治公言珍玩棄笠印軒亦有
紹興印
顏魯公鹿脯帖
楊少師手帖
蘇滄浪草書
陶隱居小楷大洞真經隱訣後有林希父子題

秦少游數帖 周越書劒器行
唐良驥元陵挽詞詰真元八年三月二十四日三省長官董
晉領吏部選杜黃裳書右丞趙景昇中章夏卿
唐陳尚庭驥尉語天寶三載丞相李林甫韋陟吏部侍郎
庾四十三載改年為載而人歲亦然可怪也昔身乃用羅紋
紙殊不可曉後有向若水跋
吳越承制大略如詰勅從書天下兵馬元帥尚父吳越王
王晉卿八帖皆與親賢宅諸王書內有送酒一帖云漉釀四
器納上以酒糟釀可謂好奇
一帶雲根卅堂藏書 卷第三百二十八 九
蘇氏諸系帖自淵明坡翁而下凡五世世各十餘帖為六巨
帙生平所觀蘇帖未有如是之多也
米老三小楷三帖又十帖珊瑚等帖 米老親書楷書畫法
并青山白雲子 米老雅印帖
參君謨來書青紙上大字 東坡書擒龍音賢
吳越王判狀二並晉卒狀忠懿王尊書判字一花押
已上益齋師憲故物後以此送謝堂堂不能保歸之起脊
翁今亦不向務也漸為陳氏所藏
菊坡趙氏待制與懃所藏

黃太史大字發願文

教化參政所藏

宋太祖御書一紙前據殿前軍馬數次有御筆兩行云祝自別刃當公事誰要次其人數來後祝太祖御書字且不封禪當簿使印印上書臣陳摩拍字當見汪龍溪彥章帖

高宗御府手卷畫前上有引錄閻用敵卦員印其下用希藏方印書卷盡處之下用紹興二字印墨跡不甚卷上合縫卦印止用其下希世小印其後仍用紹興小璽

徽宗朝墨蹟用天水雙龍縫及況金御題淩青霄頌著是也

米氏研山後歸宣和御府今在台州戴覺民家太行庫出信雜物時有靈璧小峰長僅五六寸高半許玲瓏秀潤所謂扣玉色徽宗御書八小字刻於峰傍云山高月小水落日出皓然峰傍云山高月小水落日出皓然奇珠刻之形真奇物也

元湯允謨雲煙過眼續錄

趙管大中樂陽趙伯仁奉家藏

王右軍司州帖古黃紙書連宋況金書藏明昌七印全又屏風帖硬黃紙書徽宗況金藏題首尾天水監政內府圖書等印及金題跋

明都穆寓意編

明金閶城西張氏家藏

鍾元常薦表上有書錦堂來芾真賞似道等

明趙琦美脞錄

靜絕彭四帖元張伯雨藏趙松雪金粟壁跋後歸倪雲林今在石田翁家李少卿近跋鍾書定為真蹟予不敢以為然也

宜興戶氏家藏

稽模禊帖中縫折處鈐墨寶小印後蘇易簡題有若衆大手一首按范文正蔡君謨蔡忠惠世富弼公梅都官吕汲公蘇氏兄弟米海岳諸公題名小米鑒定此卷後歸陳芥洲緝熙燬于火觀此則前聞皇祐蘇跋偽矣

米臨黃庭經本歸石田翁　度

廣文靖公稍書金剛經一卷

廣丞相允文手帖今歸黃應龍

李少卿貞伯家藏

懷素酒狂帖後有楊凝式峯定王晉卿跋山谷題名是光福人家物非真蹟

山谷草書一卷後有黃真字跋紙墨如新為黃書之最少物寄奉使湖湘道過江西於石亭寺僧處得之

寧波謝氏家藏

文待詔書真遠祖敬齋先生論蘇章事并丞相跋字約千餘行草稱後學文天祥書無印章王伯厚題語

馬主事物之家藏

潤齋公爭坐位帖上有賈似道印為袁文清公物按米氏書史云爭坐位帖在顏眞卿為撰思年少時臨一本不復記知所在後二十年謝景溫尹京云大豪朝氏分內一房收此帖至折八百千衆乃許取視之經有元章戲筆字印中間筆氣甚有如予書者而論之乃云家世收久不以公言為然觀東坡已載米臨天書史此帖豈真是耶東坡云中州手都山仙都觀朝全山谷書陰真君詩一卷公有跋云中州手都山仙都觀朝殿西壁有天成四年人書陰真君詩三章子固年許少處以為真漢人文章也偶得佳紙為抄此詩與王濛州之季子招聖四年四月丙午黙中禪月樓中書

南京梁中書家藏

陸宣公書陸士衡文賦小字章草

東坡謝陳后山惠巾詩上有大方印曰趙郡蘇氏江陰薛老收藏

陸放翁大行書字畫遒勁山陰杜思永跋

崑山項方伯家藏

宋文公李燾二帖燾發名光宋參知政事謚莊簡後人跋其帖見有光字遂以為司馬溫公筆可發一笑

常熟劉以則家藏

張長史完陵帖李西臺蘇才翁跋江陰士民物非真
光未朱學周墓表一卷亦非真
元李雪巷續書唐絕句軸真字大可數寸學顏書公
海鹽張貢門靜之家藏
顏魯公柽文果卿
于
宋人雙鈎唐模蘭亭漢中趙氏諸印
東武卿家藏
張伯雨自書詩五十五首後人裱為二冊題跋一冊楊廉夫
而下共十五人
一帶雲根州雲藏書 卷第三百二十八 十四
顧少參家藏
懷素草書十文一冊少參得之河南民家
趙東藩門文明家藏
宋徵文偕鄒忠公任伯雨而下三十一帖
松江曹涇楊氏家藏
李蘇黃米真蹟一卷 陸放翁自書詩一卷
金王革書絕句詩七首大字行草逕尺物
京兆徐閣老家藏
東坡小楷乞居常州奏狀謝表伯牧
蘇氏家藏
五代楊凝式書神仙起居法草字直瑣小本鑒定上有永興
畢節度使卽及賈丞相悅生堂圖書
范氏家藏
范文正公書伯夷頌黃絹小楷宋元名人題識甚多世謂首
陽之節韓子之文與文正之書同為三絕克氏子孫寶撲以
刻石真蹟今藏嘉興
趙氏家藏
歐陽公寄蘇子美詩真蹟趙少師崇為僧洪武中住北平得
此帖少師自有題今藏於其孫延恩
特郎吳公原博家藏
唐林慮深慰帖宋秘府物
金匱劉公廷美家藏
宋王巖叟李樂春梁克家趙令時范石湖李泰發諸名賢手
帖共一帖
相城沈氏家藏
蘇滄浪蔡端明蘇文忠蘇文定黃山谷米海嶽諸賢遺墨共
一冊

王文正奉淮海米襄陽樓攻媿楊慈湖諸賢手帖一卷

林和靖與僧二帖　蔡絛跋明自書絶句詩

蔡蘇黃米真蹟一卷

蘇子瞻前後赤壁賦李龍眠作圖隸字書part注云是海岳筆

共八節唯前賦不完

山谷大字馬伏波詩一卷谷自有跋

山谷書老杜律詩二首亦大真字

米元章自書詞一卷

李忠定張忠獻趙忠簡呂忠穆李莊簡五公手帖一卷

張忠獻父子與丞相劉子

鄧特丹程雪樓徐子方盧處輔諸公詩跋

吳江史明古家藏

趙模集晉字千文

褚河南書文皇哀冊文硬黃紙未友仁鑒定

歐陽率更夢奠帖行書缺足跋元朗昇天錫藏後入楊夫人

宋孝宗賜虞丞相手詔

趙子固書梅竹詩三首趙子真葉士朗董裕跋

元張師道書木蘭花慢詞一卷後元人題識

于晦臨大令帖并自書詩一卷

松雪書歸去來辭一卷

鄧子伯機自書詩一卷有鄧文書跋子敬跋

周伯温書四體千文一卷前畫伯温小像門人蔣冕作圖隸字書part注云是海岳筆

有自贊蓋用公書小照筆蘇廊人精篆隸

明古復有薛方功摹鍾書歌識真蹟二十卷後題云嘉熙

三年冬十有一月望後十一日外孫朝請郎新知臨江軍

事楊伯岳拜觀于廿四叔外翁書室後二十年丙寅周叅

得之外舅沐齋書房趙孟頫鑒定白跋

張伯雨柯九思跋此帖舊為吾鄉沈雄仲藏雄仲名洪元

臣寶藏為三之後墓草隸書老而貧故史氏得之或化戊

申子館授史氏九月其家大作書畫多付煨燼唯此帖及
歐諸趙模書數卷獨存豈奇寶鬼神固蔵之邪嘉慶部移
識
崑山黃鷹龍家藏
吳傳朋游綠壽
金扇宗酌竹上有張嗇齋跋
嘉興王廷槐家藏
張長史春草帖仍麻紙真蹟當入宋秘書題名并跋甚多
梁溪華氏真賞齋法書 晴湖細
宋高宗賜岳武穆手詔
一帶雲根卅雲藏書 卷第三百七十八 十八
文太史徵仲叙名
鍾太傅薦季直表真觀珍秘
王右軍袁生帖祐陵題
謝堂運書古詩帖
虞永興汝南公主墓銘起草
王方慶通天進帖上有建隆史館印
顏魯公朱巨川誥宣和譜藏
真卿與劉中使帖一曰瀛洲帖
徐季海絹上楷書道經
崇后謨手牘
黃山谷真行劉寶客經伏波神祠詩冬日二古兩柬草書諸
上座帖
太白憶舊遊詩
高宗黃素黃庭經、
岳鵬舉與奉使劉中舒子
趙承旨昭鷺鷗帖有鄧善之真仲章敬等跋 晴大令
洛神賦有虞伯生李鳴鳳袁仲長柳道傳等跋
嚴蘇公蚊賦卷行書
一帶雲根卅雲藏書 卷第三百七十八 十九
金石有周穆王壇山古刻 蔡中郎石經殘本 夏承婁壽
漢碑 蔡敬東方晉刻 定武蘭亭帖
晉題生賦云小楷諸帖刑樂數神刻之真所贊仍鶴之勝
無慶遺字之精容神全賦之量與夫廣之破和歌之白鹿
心經褚之陰符定人柳之尊勝清淨又云隸若云真之丹
識小樂敬論有青若盆綠蒙本印為張吉和也
淳化祖刻
賦石建筆色之古銀候素本之紋波老硃書之粹趙公
姓印之文

分宜嚴氏書品排軸目錄 十四年箱

張長史草書
梅谿墨妙
趙子昂真蹟詩字六軸
織字書錦堂一軸
草書四軸
金山農書歸去來辭
歸去來辭
徐霖畫扇雲記
四季詩八軸
李東陽詩
楊維楨字
祝枝山文賦草書二卷
名賢墨蹟各一卷
古今墨妙
嚴氏書畫冊葉目
鍾繇賀捷表
智永真草千文一卷
趙仲穆古策千文一卷
沈度書聖學傳心一卷
徐子仁未歷眼
沈周易象一卷
祝枝山文賦草書二卷
古今墨妙
嚴氏書畫冊葉目
鍾繇賀捷表
智永真草千文一卷
趙仲穆古策千文一卷
沈度書聖學傳心一卷
徐子仁未歷眼
沈周易象一卷
祝枝山文賦草書二卷
名賢墨蹟各一

計五千八百五十二部奏修各佛學館汎一應道佛各經
該計九百一十四部奏發各寺觀供誦而所繳金條金
餅金葉金沙金碎金及金器金佛共三萬四千五百餘兩
內首餅之奇者有大珠猫睛天上長庚人間壽斌二副淨
銀及銀器銀佛共二百二萬七千二百餘兩玉器計千件
最古者有漢始建國元年注水玉匜晉永和鎮宅世寶紫
玉盂盤玉帶計二百餘件內有玉犀象玳瑁諸香熏爐是金銀等
節二千餘斐珠寶琉珀共重五百七十餘兩珍奇器玩共

二千六百五十餘件內有商彝周鼎漢鏡唐琴宋硯之
寶益珍珠瑪瑙等寶計二十四件外有珊瑚六十株金
鑲龍卵盞五個古剌水晶瓶十三罐空青五枚硃砂計
六百四十餘觔沉檀奇南計五千餘觔織金紵苧良絹紗
綢紗羅紋葛瓊蕉布共一萬四千三百三十餘疋男女
衣服及貂裘猞猁共一千三百餘件內采錦二百餘疋馬鞍
之珍屬者至一千八百雙金銀鈸川扇墩扇裝扇傘扇團
扇戈折扇玳瑁諸香扇共一萬七千六百餘柄名琴共五
十四張有清泚春雪寒玉響泉冰泉秋月堇月霜鐘
秋風調古一天秋萬壑松雪下鐘秋洞泉玉珩琤玉壺冰

清潮之音咸通大寶鳴雪製雲九霄鳴佩月下水玉萬壑
松聲流水高山蒼龍嘯玉寒江落雁及鎏金古銅琴大理
石琴餘盡斷紋金徽水晶玉軫足古硯陰端溪龍尾外有
漢未央宮硯銅雀臺硯唐天策府寶硯真觀上苑硯宣和
殿硯蘇東坡天成硯玻瓈石二面硯兒壁硯白玉硯翡玉
文具六副內佳硯不可枚舉古銅鼎壺樽彝之類計一千
一百二十七件而寶翰楷之象策金經唾百祿堂之隨閒
大紅毯四塞處之間體陸者唾壺銀美人渦器不列也畫
品有甚多乃墨蹟法帖佳此足徵厤氏之好尚矣

文嘉厤氏書紀書畫舫

嘉靖乙丑五月提學何公寘慶撿拿往閩官籍叢天書畫
之分宜之籍宅袁州之新宅省城之諸宅所藏書畫書畫錄
以數目三開月始乞畢事當時學記數目以呈不假詳別
今月偶理籍匣之間重厥一過稍為區分隨筆登部一
二傳諸好事明窓淨几時一披展恍然神游于全題玉躞

清話一

魏一

問此陰慶戊辰冬十二月十七日文江筆堂書茂苑文嘉

鍾繇薦季直表一初藏吳中張氏後歸石田先生家復在王
元美處吳郡衛定庭蹟然非元常筆也　戎路帖一唐摹
本妙
晉六
王羲之此事帖一震澤王氏本乃章宗故物凡二十字紙墨
如新精神與發傳世之寶也　月半帖一真蹟也亦曾入
唐時內府者　大報帖一吳中王氏所藏墨采脫落蓋在
筆意耳　黃素黃庭內景經一字類元章所臨清逸絕世
或云楊羲書也

王獻之奉書帖一歌之真蹟傳世不多此書當在吳中見之
蓋其得意筆也余嘗摹一過
李靖出師頌一宋內府本前有高宗書簽吾家所藏本也余
兄弟皆有跋
法書二
唐十八
廣世南夫子廟堂碑一
歐陽詢千文一
唐人摹韭十七帖一唐搨晉帖世所少有凡十七帖奕逼
真大是佳曉
趙模集晉字千文一史明古藏本史氏法書第一亦天下法
書第一
褚河南倪寬贊一真筆上吳中大家本或云褚書係思陵
所臨紙非唐紙亦一証也
柳公權小楷度人經項吏部所藏名蹟也曾摹刻停雲館
帖中
顏魯公書話一黃紙上所書墨無毫髮動名蹟也即停雲館
中所刻朱巨川話　送梁將軍詩一錫山安氏藏本其家
已刻石行世怪怪奇奇前無古人矣蓋魯公劇蹟也　爭
坐位帖一全本馬和之故物來未幾所摹也後有吳梅跋

唐褚遂良書千文多一十二人
虞永興汝南公主誌一
李懷琳絕交書一妙
吳通微千文一楮紙上專擬聖教序乾隆庚申備古臺溫目唐
人書世不多見此真可寶者

張旭春草帖一 舊藏無錫華氏其家有春草堂益取諸此筆
雅直惜紙敵墨淪落存梗概猶陽霧看花惟想像神妙耳
終不失為名蹟也
懷素自敘帖一 舊藏宜興徐氏後歸吾鄉陸全卿氏其家已
刻石行世以余觀之似覺政勝 絹本草書千文一初藏
海鹽張氏其家云此帖一字值一金故號千金帖不知數
傳久去後今以墓價得之通用黃絹八幅經理精細識其
無損文穆處用渾司馬印鉗記亦曾摹刻于停雲館後歸
史氏自史氏歸嚴氏今已入內府矣益增光寶也

一卷 宋拓本 共三十二人 十三

盛唐墨寶一

鍾繇宣示帖一 即靈飛六甲經

草莊借書帖一 今皆在王懿恭家

法書三

宋五十四

徽宗書史文試一 絹本瘦金書 大字特一真蹟

高宗書度人經一 澄心堂紙書真蹟 臨褚帖一

恭裒進御詩卷一 宜興吳氏本 茶錄一 王槐雨藏本

小簡一

蘇軾親書前赤壁賦一 紙白如雪墨蹟如新惟前缺數行余
兄補之吾家本也 小楷芙蓉城詩一 孤鳴岐本真蹟上
上 大字淵明飲酒詩一 全小溪本筆力剛勁奕奕有神
簡帖一 已上四卷 俱真筆 九歌一
真蹟一 政陳氏家散一 已上四卷 俱不真
黃庭堅諸上座帖一 前作草書師懷素顛逼真皆禪語也筆
藏于僊寺李范卷後之枝山草書多出于此云 於風
閣帖一 百字令一字體全似痴絕傲鶴銘 懶殘和尚歌一
已上四卷 俱真筆 山谷墨蹟一 修
山谷千文一 又即前卷二 伏波神祠一 山谷草書一
蹟一 山谷遺筆 黃庭堅墨蹟一 草書 已上十一卷俱

宋第三十二人 十四

宋第三十三人 十五

宋第三十四人 十六

宋第三十五人 十七

宋第三十六人 十八

宋第三十七人 十九

宋第三十八人 二十

宋第三十九人 二十一

宋第四十人 二十二

宋第四十一人 二十三

宋第四十二人 二十四

宋第四十三人 二十五

宋第四十四人 二十六

宋第四十五人 二十七

宋第四十六人 二十八

宋第四十七人 二十九

宋第四十八人 三十

宋第四十九人 三十一

宋第五十人 三十二

宋第五十一人 三十三

宋第五十二人 三十四

宋第五十三人 三十五

宋第五十四人 三十六

宋第五十五人 三十七

宋第五十六人 三十八

宋第五十七人 三十九

宋第五十八人 四十

宋第五十九人 四十一

宋第六十人 四十二

宋第六十一人 四十三

宋第六十二人 四十四

宋第六十三人 四十五

宋第六十四人 四十六

宋第六十五人 四十七

宋第六十六人 四十八

宋第六十七人 四十九

宋第六十八人 五十

宋第六十九人 五十一

宋第七十人 五十二

宋第七十一人 五十三

宋第七十二人 五十四

宋第七十三人 五十五

宋第七十四人 五十六

宋第七十五人 五十七

宋第七十六人 五十八

宋第七十七人 五十九

宋第七十八人 六十

宋第七十九人 六十一

宋第八十人 六十二

宋第八十一人 六十三

宋第八十二人 六十四

宋第八十三人 六十五

宋第八十四人 六十六

宋第八十五人 六十七

宋第八十六人 六十八

宋第八十七人 六十九

宋第八十八人 七十

宋第八十九人 七十一

宋第九十人 七十二

宋第九十一人 七十三

宋第九十二人 七十四

宋第九十三人 七十五

宋第九十四人 七十六

宋第九十五人 七十七

宋第九十六人 七十八

宋第九十七人 七十九

宋第九十八人 八十

宋第九十九人 八十一

宋第一百人 八十二

宋第一百一人 八十三

宋第一百二人 八十四

宋第一百三人 八十五

宋第一百四人 八十六

宋第一百五人 八十七

宋第一百六人 八十八

宋第一百七人 八十九

宋第一百八人 九十

宋第一百九人 九十一

宋第一百十人 九十二

宋第一百十一人 九十三

宋第一百十二人 九十四

宋第一百十三人 九十五

宋第一百十四人 九十六

宋第一百十五人 九十七

宋第一百十六人 九十八

宋第一百十七人 九十九

宋第一百十八人 一百

宋第一百十九人 一百一

宋第一百二十人 一百二

宋第一百二十一人 一百三

宋第一百二十二人 一百四

宋第一百二十三人 一百五

宋第一百二十四人 一百六

宋第一百二十五人 一百七

宋第一百二十六人 一百八

宋第一百二十七人 一百九

宋第一百二十八人 一百十

宋第一百二十九人 一百十一

宋第一百三十人 一百十二

宋第一百三十一人 一百十三

宋第一百三十二人 一百十四

宋第一百三十三人 一百十五

宋第一百三十四人 一百十六

宋第一百三十五人 一百十七

宋第一百三十六人 一百十八

宋第一百三十七人 一百十九

宋第一百三十八人 一百二十

宋第一百三十九人 一百二十一

宋第一百四十人 一百二十二

宋第一百四十一人 一百二十三

宋第一百四十二人 一百二十四

宋第一百四十三人 一百二十五

宋第一百四十四人 一百二十六

宋第一百四十五人 一百二十七

宋第一百四十六人 一百二十八

宋第一百四十七人 一百二十九

宋第一百四十八人 一百三十

宋第一百四十九人 一百三十一

宋第一百五十人 一百三十二

宋第一百五十一人 一百三十三

宋第一百五十二人 一百三十四

宋第一百五十三人 一百三十五

宋第一百五十四人 一百三十六

宋第一百五十五人 一百三十七

宋第一百五十六人 一百三十八

宋第一百五十七人 一百三十九

宋第一百五十八人 一百四十

宋第一百五十九人 一百四十一

宋第一百六十人 一百四十二

宋第一百六十一人 一百四十三

宋第一百六十二人 一百四十四

宋第一百六十三人 一百四十五

宋第一百六十四人 一百四十六

宋第一百六十五人 一百四十七

宋第一百六十六人 一百四十八

宋第一百六十七人 一百四十九

宋第一百六十八人 一百五十

宋第一百六十九人 一百五十一

宋第一百七十人 一百五十二

宋第一百七十一人 一百五十三

宋第一百七十二人 一百五十四

宋第一百七十三人 一百五十五

宋第一百七十四人 一百五十六

宋第一百七十五人 一百五十七

宋第一百七十六人 一百五十八

宋第一百七十七人 一百五十九

宋第一百七十八人 一百六十

宋第一百七十九人 一百六十一

宋第一百八十人 一百六十二

宋第一百八十一人 一百六十三

宋第一百八十二人 一百六十四

宋第一百八十三人 一百六十五

宋第一百八十四人 一百六十六

宋第一百八十五人 一百六十七

宋第一百八十六人 一百六十八

宋第一百八十七人 一百六十九

宋第一百八十八人 一百七十

宋第一百八十九人 一百七十一

宋第一百九十人 一百七十二

宋第一百九十一人 一百七十三

宋第一百九十二人 一百七十四

宋第一百九十三人 一百七十五

宋第一百九十四人 一百七十六

宋第一百九十五人 一百七十七

宋第一百九十六人 一百七十八

宋第一百九十七人 一百七十九

宋第一百九十八人 一百八十

宋第一百九十九人 一百八十一

宋第二百人 一百八十二

宋第二百一人 一百八十三

宋第二百二人 一百八十四

宋第二百三人 一百八十五

宋第二百四人 一百八十六

宋第二百五人 一百八十七

宋第二百六人 一百八十八

宋第二百七人 一百八十九

宋第二百八人 一百九十

宋第二百九人 一百九十一

宋第二百十人 一百九十二

宋第二百十一人 一百九十三

宋第二百十二人 一百九十四

宋第二百十三人 一百九十五

宋第二百十四人 一百九十六

宋第二百十五人 一百九十七

宋第二百十六人 一百九十八

宋第二百十七人 一百九十九

宋第二百十八人 二百

宋第二百十九人 二百一

宋第二百二十人 二百二

宋第二百二十一人 二百三

宋第二百二十二人 二百四

宋第二百二十三人 二百五

宋第二百二十四人 二百六

宋第二百二十五人 二百七

宋第二百二十六人 二百八

宋第二百二十七人 二百九

宋第二百二十八人 二百十

宋第二百二十九人 二百十一

宋第二百三十人 二百十二

宋第二百三十一人 二百十三

宋第二百三十二人 二百十四

宋第二百三十三人 二百十五

宋第二百三十四人 二百十六

宋第二百三十五人 二百十七

宋第二百三十六人 二百十八

宋第二百三十七人 二百十九

宋第二百三十八人 二百二十

宋第二百三十九人 二百二十一

宋第二百四十人 二百二十二

宋第二百四十一人 二百二十三

宋第二百四十二人 二百二十四

宋第二百四十三人 二百二十五

宋第二百四十四人 二百二十六

宋第二百四十五人 二百二十七

宋第二百四十六人 二百二十八

宋第二百四十七人 二百二十九

宋第二百四十八人 二百三十

宋第二百四十九人 二百三十一

宋第二百五十人 二百三十二

宋第二百五十一人 二百三十三

宋第二百五十二人 二百三十四

宋第二百五十三人 二百三十五

宋第二百五十四人 二百三十六

宋第二百五十五人 二百三十七

宋第二百五十六人 二百三十八

宋第二百五十七人 二百三十九

宋第二百五十八人 二百四十

宋第二百五十九人 二百四十一

宋第二百六十人 二百四十二

宋第二百六十一人 二百四十三

宋第二百六十二人 二百四十四

宋第二百六十三人 二百四十五

宋第二百六十四人 二百四十六

宋第二百六十五人 二百四十七

宋第二百六十六人 二百四十八

宋第二百六十七人 二百四十九

宋第二百六十八人 二百五十

宋第二百六十九人 二百五十一

宋第二百七十人 二百五十二

宋第二百七十一人 二百五十三

宋第二百七十二人 二百五十四

宋第二百七十三人 二百五十五

宋第二百七十四人 二百五十六

宋第二百七十五人 二百五十七

宋第二百七十六人 二百五十八

宋第二百七十七人 二百五十九

宋第二百七十八人 二百六十

宋第二百七十九人 二百六十一

宋第二百八十人 二百六十二

宋第二百八十一人 二百六十三

宋第二百八十二人 二百六十四

宋第二百八十三人 二百六十五

宋第二百八十四人 二百六十六

宋第二百八十五人 二百六十七

宋第二百八十六人 二百六十八

宋第二百八十七人 二百六十九

宋第二百八十八人 二百七十

宋第二百八十九人 二百七十一

宋第二百九十人 二百七十二

宋第二百九十一人 二百七十三

宋第二百九十二人 二百七十四

宋第二百九十三人 二百七十五

宋第二百九十四人 二百七十六

宋第二百九十五人 二百七十七

宋第二百九十六人 二百七十八

宋第二百九十七人 二百七十九

宋第二百九十八人 二百八十

宋第二百九十九人 二百八十一

宋第三百人 二百八十二

宋第三百一人 二百八十三

宋第三百二人 二百八十四

宋第三百三人 二百八十五

宋第三百四人 二百八十六

宋第三百五人 二百八十七

宋第三百六人 二百八十八

宋第三百七人 二百八十九

宋第三百八人 二百九十

宋第三百九人 二百九十一

宋第三百十人 二百九十二

宋第三百十一人 二百九十三

宋第三百十二人 二百九十四

宋第三百十三人 二百九十五

宋第三百十四人 二百九十六

宋第三百十五人 二百九十七

宋第三百十六人 二百九十八

宋第三百十七人 二百九十九

宋第三百十八人 三百

宋第三百十九人 三百一

宋第三百二十人 三百二

宋第三百二十一人 三百三

宋第三百二十二人 三百四

宋第三百二十三人 三百五

宋第三百二十四人 三百六

宋第三百二十五人 三百七

宋第三百二十六人 三百八

宋第三百二十七人 三百九

宋第三百二十八人 三百十

宋第三百二十九人 三百十一

宋第三百三十人 三百十二

宋第三百三十一人 三百十三

宋第三百三十二人 三百十四

宋第三百三十三人 三百十五

宋第三百三十四人 三百十六

宋第三百三十五人 三百十七

宋第三百三十六人 三百十八

宋第三百三十七人 三百十九

宋第三百三十八人 三百二十

宋第三百三十九人 三百二十一

宋第三百四十人 三百二十二

宋第三百四十一人 三百二十三

宋第三百四十二人 三百二十四

宋第三百四十三人 三百二十五

宋第三百四十四人 三百二十六

宋第三百四十五人 三百二十七

宋第三百四十六人 三百二十八

宋第三百四十七人 三百二十九

宋第三百四十八人 三百三十

宋第三百四十九人 三百三十一

宋第三百五十人 三百三十二

宋第三百五十一人 三百三十三

宋第三百五十二人 三百三十四

宋第三百五十三人 三百三十五

宋第三百五十四人 三百三十六

宋第三百五十五人 三百三十七

宋第三百五十六人 三百三十八

宋第三百五十七人 三百三十九

宋第三百五十八人 三百四十

宋第三百五十九人 三百四十一

宋第三百六十人 三百四十二

宋第三百六十一人 三百四十三

宋第三百六十二人 三百四十四

宋第三百六十三人 三百四十五

宋第三百六十四人 三百四十六

宋第三百六十五人 三百四十七

宋第三百六十六人 三百四十八

宋第三百六十七人 三百四十九

宋第三百六十八人 三百五十

宋第三百六十九人 三百五十一

宋第三百七十人 三百五十二

宋第三百七十一人 三百五十三

宋第三百七十二人 三百五十四

宋第三百七十三人 三百五十五

宋第三百七十四人 三百五十六

宋第三百七十五人 三百五十七

宋第三百七十六人 三百五十八

宋第三百七十七人 三百五十九

宋第三百七十八人 三百六十

宋第三百七十九人 三百六十一

宋第三百八十人 三百六十二

宋第三百八十一人 三百六十三

宋第三百八十二人 三百六十四

宋第三百八十三人 三百六十五

宋第三百八十四人 三百六十六

宋第三百八十五人 三百六十七

宋第三百八十六人 三百六十八

宋第三百八十七人 三百六十九

宋第三百八十八人 三百七十

宋第三百八十九人 三百七十一

宋第三百九十人 三百七十二

宋第三百九十一人 三百七十三

宋第三百九十二人 三百七十四

宋第三百九十三人 三百七十五

宋第三百九十四人 三百七十六

宋第三百九十五人 三百七十七

宋第三百九十六人 三百七十八

宋第三百九十七人 三百七十九

宋第三百九十八人 三百八十

宋第三百九十九人 三百八十一

宋第四百人 三百八十二

宋第四百一人 三百八十三

宋第四百二人 三百八十四

宋第四百三人 三百八十五

宋第四百四人 三百八十六

宋第四百五人 三百八十七

宋第四百六人 三百八十八

宋第四百七人 三百八十九

宋第四百八人 三百九十

宋第四百九人 三百九十一

宋第四百十人 三百九十二

宋第四百十一人 三百九十三

宋第四百十二人 三百九十四

宋第四百十三人 三百九十五

宋第四百十四人 三百九十六

宋第四百十五人 三百九十七

宋第四百十六人 三百九十八

宋第四百十七人 三百九十九

宋第四百十八人 四百

宋第四百十九人 四百一

宋第四百二十人 四百二

宋第四百二十一人 四百三

宋第四百二十二人 四百四

宋第四百二十三人 四百五

宋第四百二十四人 四百六

宋第四百二十五人 四百七

宋第四百二十六人 四百八

宋第四百二十七人 四百九

宋第四百二十八人 四百十

宋第四百二十九人 四百十一

宋第四百三十人 四百十二

宋第四百三十一人 四百十三

宋第四百三十二人 四百十四

宋第四百三十三人 四百十五

宋第四百三十四人 四百十六

宋第四百三十五人 四百十七

宋第四百三十六人 四百十八

宋第四百三十七人 四百十九

宋第四百三十八人 四百二十

宋第四百三十九人 四百二十一

宋第四百四十人 四百二十二

宋第四百四十一人 四百二十三

宋第四百四十二人 四百二十四

宋第四百四十三人 四百二十五

宋第四百四十四人 四百二十六

宋第四百四十五人 四百二十七

宋第四百四十六人 四百二十八

宋第四百四十七人 四百二十九

宋第四百四十八人 四百三十

宋第四百四十九人 四百三十一

宋第四百五十人 四百三十二

宋第四百五十一人 四百三十三

宋第四百五十二人 四百三十四

宋第四百五十三人 四百三十五

宋第四百五十四人 四百三十六

宋第四百五十五人 四百三十七

宋第四百五十六人 四百三十八

宋第四百五十七人 四百三十九

宋第四百五十八人 四百四十

宋第四百五十九人 四百四十一

宋第四百六十人 四百四十二

宋第四百六十一人 四百四十三

宋第四百六十二人 四百四十四

宋第四百六十三人 四百四十五

宋第四百六十四人 四百四十六

宋第四百六十五人 四百四十七

宋第四百六十六人 四百四十八

宋第四百六十七人 四百四十九

宋第四百六十八人 四百五十

宋第四百六十九人 四百五十一

宋第四百七十人 四百五十二

宋第四百七十一人 四百五十三

宋第四百七十二人 四百五十四

宋第四百七十三人 四百五十五

宋第四百七十四人 四百五十六

宋第四百七十五人 四百五十七

宋第四百七十六人 四百五十八

宋第四百七十七人 四百五十九

宋第四百七十八人 四百六十

宋第四百七十九人 四百六十一

宋第四百八十人 四百六十二

宋第四百八十一人 四百六十三

宋第四百八十二人 四百六十四

宋第四百八十三人 四百六十五

宋第四百八十四人 四百六十六

宋第四百八十五人 四百六十七

宋第四百八十六人 四百六十八

宋第四百八十七人 四百六十九

宋第四百八十八人 四百七十

宋第四百八十九人 四百七十一

宋第四百九十人 四百七十二

宋第四百九十一人 四百七十三

宋第四百九十二人 四百七十四

宋第四百九十三人 四百七十五

宋第四百九十四人 四百七十六

宋第四百九十五人 四百七十七

宋第四百九十六人 四百七十八

宋第四百九十七人 四百七十九

宋第四百九十八人 四百八十

宋第四百九十九人 四百八十一

宋第五百人 四百八十二

宋第五百一人 四百八十三

宋第五百二人 四百八十四

宋第五百三人 四百八十五

宋第五百四人 四百八十六

宋第五百五人 四百八十七

宋第五百六人 四百八十八

宋第五百七人 四百八十九

宋第五百八人 四百九十

宋第五百九人 四百九十一

宋第五百十人 四百九十二

宋第五百十一人 四百九十三

宋第五百十二人 四百九十四

宋第五百十三人 四百九十五

宋第五百十四人 四百九十六

宋第五百十五人 四百九十七

宋第五百十六人 四百九十八

宋第五百十七人 四百九十九

宋第五百十八人 五百

宋第五百十九人 五百一

宋第五百二十人 五百二

宋第五百二十一人 五百三

宋第五百二十二人 五百四

宋第五百二十三人 五百五

宋第五百二十四人 五百六

宋第五百二十五人 五百七

宋第五百二十六人 五百八

宋第五百二十七人 五百九

宋第五百二十八人 五百十

宋第五百二十九人 五百十一

宋第五百三十人 五百十二

宋第五百三十一人 五百十三

宋第五百三十二人 五百十四

宋第五百三十三人 五百十五

宋第五百三十四人 五百十六

宋第五百三十五人 五百十七

宋第五百三十六人 五百十八

宋第五百三十七人 五百十九

宋第五百三十八人 五百二十

宋第五百三十九人 五百二十一

宋第五百四十人 五百二十二

宋第五百四十一人 五百二十三

宋第五百四十二人 五百二十四

宋第五百四十三人 五百二十五

宋第五百四十四人 五百二十六

宋第五百四十五人 五百二十七

宋第五百四十六人 五百二十八

宋第五百四十七人 五百二十九

宋第五百四十八人 五百三十

宋第五百四十九人 五百三十一

宋第五百五十人 五百三十二

宋第五百五十一人 五百三十三

宋第五百五十二人 五百三十四

宋第五百五十三人 五百三十五

宋第五百五十四人 五百三十六

宋第五百五十五人 五百三十七

宋第五百五十六人 五百三十八

宋第五百五十七人 五百三十九

宋第五百五十八人 五百四十

宋第五百五十九人 五百四十一

宋第五百六十人 五百四十二

宋第五百六十一人 五百四十三

宋第五百六十二人 五百四十四

宋第五百六十三人 五百四十五

宋第五百六十四人 五百四十六

宋第五百六十五人 五百四十七

宋第五百六十六人 五百四十八

宋第五百六十七人 五百四十九

宋第五百六十八人 五百五十

宋第五百六十九人 五百五十一

宋第五百七十人 五百五十二

宋第五百七十一人 五百五十三

宋第五百七十二人 五百五十四

宋第五百七十三人 五百五十五

宋第五百七十四人 五百五十六

宋第五百七十五人 五百五十七

宋第五百七十六人 五百五十八

宋第五百七十七人 五百五十九

宋第五百七十八人 五百六十

宋第五百七十九人 五百六十一

宋第五百八十人 五百六十二

宋第五百八十一人 五百六十三

宋第五百八十二人 五百六十四

宋第五百八十三人 五百六十五

宋第五百八十四人 五百六十六

宋第五百八十五人 五百六十七

宋第五百八十六人 五百六十八

宋第五百八十七人 五百六十九

宋第五百八十八人 五百七十

宋第五百八十九人 五百七十一

宋第五百九十人 五百七十二

宋第五百九十一人 五百七十三

宋第五百九十二人 五百七十四

宋第五百九十三人 五百七十五

宋第五百九十四人 五百七十六

宋第五百九十五人 五百七十七

宋第五百九十六人 五百七十八

宋第五百九十七人 五百七十九

宋第五百九十八人 五百八十

宋第五百九十九人 五百八十一

宋第六百人 五百八十二

宋第六百一人 五百八十三

宋第六百二人 五百八十四

宋第六百三人 五百八十五

宋第六百四人 五百八十六

宋第六百五人 五百八十七

宋第六百六人 五百八十八

宋第六百七人 五百八十九

宋第六百八人 五百九十

宋第六百九人 五百九十一

宋第六百十人 五百九十二

宋第六百十一人 五百九十三

宋第六百十二人 五百九十四

宋第六百十三人 五百九十五

宋第六百十四人 五百九十六

宋第六百十五人 五百九十七

宋第六百十六人 五百九十八

宋第六百十七人 五百九十九

宋第六百十八人 六百

宋第六百十九人 六百一

宋第六百二十人 六百二

宋第六百二十一人 六百三

宋第六百二十二人 六百四

宋第六百二十三人 六百五

宋第六百二十四人 六百六

宋第六百二十五人 六百七

宋第六百二十六人 六百八

宋第六百二十七人 六百九

宋第六百二十八人 六百十

宋第六百二十九人 六百十一

宋第六百三十人 六百十二

宋第六百三十一人 六百十三

宋第六百三十二人 六百十四

宋第六百三十三人 六百十五

宋第六百三十四人 六百十六

宋第六百三十五人 六百十七

宋第六百三十六人 六百十八

宋第六百三十七人 六百十九

宋第六百三十八人 六百二十

宋第六百三十九人 六百二十一

宋第六百四十人 六百二十二

宋第六百四十一人 六百二十三

宋第六百四十二人 六百二十四

宋第六百四十三人 六百二十五

宋第六百四十四人 六百二十六

宋第六百四十五人 六百二十七

宋第六百四十六人 六百二十八

宋第六百四十七人 六百二十九

宋第六百四十八人 六百三十

宋第六百四十九人 六百三十一

宋第六百五十人 六百三十二

宋第六百五十一人 六百三十三

宋第六百五十二人 六百三十四

宋第六百五十三人 六百三十五

宋第六百五十四人 六百三十六

宋第六百五十五人 六百三十七

宋第六百五十六人 六百三十八

宋第六百五十七人 六百三十九

宋第六百五十八人 六百四十

宋第六百五十九人 六百四十一

宋第六百六十人 六百四十二

宋第六百六十一人 六百四十三

宋第六百六十二人 六百四十四

宋第六百六十三人 六百四十五

宋第六百六十四人 六百四十六

宋第六百六十五人 六百四十七

宋第六百六十六人 六百四十八

宋第六百六十七人 六百四十九

宋第六百六十八人 六百五十

宋第六百六十九人 六百五十一

宋第六百七十人 六百五十二

宋第六百七十一人 六百五十三

宋第六百七十二人 六百五十四

宋第六百七十三人 六百五十五

宋第六百七十四人 六百五十六

宋第六百七十五人 六百五十七

宋第六百七十六人 六百五十八

宋第六百七十七人 六百五十九

宋第六百七十八人 六百六十

宋第六百七十九人 六百六十一

宋第六百八十人 六百六十二

宋第六百八十一人 六百六十三

宋第六百八十二人 六百六十四

宋第六百八十三人 六百六十五

宋第六百八十四人 六百六十六

宋第六百八十五人 六百六十七

宋第六百八十六人 六百六十八

宋第六百八十七人 六百六十九

宋第六百八十八人 六百七十

宋第六百八十九人 六百七十一

宋第六百九十人 六百七十二

宋第六百九十一人 六百七十三

宋第六百九十二人 六百七十四

宋第六百九十三人 六百七十五

宋第六百九十四人 六百七十六

宋第六百九十五人 六百七十七

宋第六百九十六人 六百七十八

宋第六百九十七人 六百七十九

宋第六百九十八人 六百八十

宋第六百九十九人 六百八十一

宋第七百人 六百八十二

宋第七百一人 六百八十三

宋第七百二人 六百八十四

宋第七百三人 六百八十五

宋第七百四人 六百八十六

宋第七百五人 六百八十七

宋第七百六人 六百八十八

宋第七百七人 六百八十九

宋第七百八人 六百九十

宋第七百九人 六百九十一

宋第七百十人 六百九十二

宋第七百十一人 六百九十三

宋第七百十二人 六百九十四

宋第七百十三人 六百九十五

宋第七百十四人 六百九十六

宋第七百十五人 六百九十七

宋第七百十六人 六百九十八

宋第七百十七人 六百九十九

宋第七百十八人 七百

宋第七百十九人 七百一

宋第七百二十人 七百二

宋第七百二十一人 七百三

宋第七百二十二人 七百四

宋第七百二十三人 七百五

宋第七百二十四人 七百六

宋第七百二十五人 七百七

宋第七百二十六人 七百八

宋第七百二十七人 七百九

宋第七百二十八人 七百十

宋第七百二十九人 七百十一

宋第七百三十人 七百十二

宋第七百三十一人 七百十三

宋第七百三十二人 七百十四

宋第七百三十三人 七百十五

宋第七百三十四人 七百十六

宋第七百三十五人 七百十七

宋第七百三十六人 七百十八

宋第七百三十七人 七百十九

宋第七百三十八人 七百二十

宋第七百三十九人 七百二十一

宋第七百四十人 七百二十二

宋第七百四十一人 七百二十三

宋第七百四十二人 七百二十四

宋第七百四十三人 七百二十五

宋第七百四十四人 七百二十六

宋第七百四十五人 七百二十七

宋第七百四十六人 七百二十八

宋第七百四十七人 七百二十九

宋第七百四十八人 七百三十

宋第七百四十九人 七百三十一

宋第七百五十人 七百三十二

宋第七百五十一人 七百三十三

宋第七百五十二人 七百三十四

宋第七百五十三人 七百三十五

宋第七百五十四人 七百三十六

宋第七百五十五人 七百三十七

宋第七百五十六人 七百三十八

宋第七百五十七人 七百三十九

宋第七百五十八人 七百四十

宋第七百五十九人 七百四十一

宋第七百六十人 七百四十二

宋第七百六十一人 七百四十三

宋第七百六十二人 七百四十四

宋第七百六十三人 七百四十五

宋第七百六十四人 七百四十六

宋第七百六十五人 七百四十七

宋第七百六十六人 七百四十八

宋第七百六十七人 七百四十九

宋第七百六十八人 七百五十

宋第七百六十九人 七百五十一

宋第七百七十人 七百五十二

宋第七百七十一人 七百五十三

宋第七百七十二人 七百五十四

宋第七百七十三人 七百五十五

宋第七百七十四人 七百五十六

宋第七百七十五人 七百五十七

宋第七百七十六人 七百五十八

宋第七百七十七人 七百五十九

宋第七百七十八人 七百六十

宋第七百七十九人 七百六十一

宋第七百八十人 七百六十二

宋第七百八十一人 七百六十三

宋第七百八十二人 七百六十四

宋第七百八十三人 七百六十五

宋第七百八十四人 七百六十六

宋第七百八十五人 七百六十七

宋第七百八十六人 七百六十八

宋第七百八十七人 七百六十九

宋第七百八十八人 七百七十

宋第七百八十九人 七百七十一

宋第七百九十人 七百七十二

宋第七百九十一人 七百七十三

宋第七百九十二人 七百七十四

宋第七百九十三人 七百七十五

宋第七百九十四人 七百七十六

宋第七百九十五人 七百七十七

宋第七百九十六人 七百七十八

宋第七百九十七人 七百七十九

宋第七百九十八人 七百八十

宋第七百九十九人 七百八十一

宋第八百人 七百八十二

宋第八百一人 七百八十三

宋第八百二人 七百八十四

宋第八百三人 七百八十五

宋第八百四人 七百八十六

宋第八百五人 七百八十七

宋第八百六人 七百八十八

宋第八百七人 七百八十九

宋第八百八人 七百九十

宋第八百九人 七百九十一

宋第八百十人 七百九十二

宋第八百十一人 七百九十三

宋第八百十二人 七百九十四

宋第八百十三人 七百九十五

宋第八百十四人 七百九十六

宋第八百十五人 七百九十七

宋第八百十六人 七百九十八

宋第八百十七人 七百九十九

宋第八百十八人 八百

宋第八百十九人 八百一

宋第八百二十人 八百二

宋第八百二十一人 八百三

宋第八百二十二人 八百四

宋第八百二十三人 八百五

宋第八百二十四人 八百六

宋第八百二十五人 八百七

宋第八百二十六人 八百八

宋第八百二十七人 八百九

宋第八百二十八人 八百十

宋第八百二十九人 八百十一

宋第八百三十人 八百十二

宋第八百三十一人 八百十三

宋第八百三十二人 八百十四

宋第八百三十三人 八百十五

宋第八百三十四人 八百十六

宋第八百三十五人 八百十七

宋第八百三十六人 八百十八

宋第八百三十七人 八百十九

宋第八百三十八人 八百二十

宋第八百三十九人 八百二十一

宋第八百四十人 八百二十二

宋第八百四十一人 八百二十三

宋第八百四十二人 八百二十四

宋第八百四十三人 八百二十五

宋第八百四十四人 八百二十六

宋第八百四十五人 八百二十七

宋第八百四十六人 八百二十八

宋第八百四十七人 八百二十九

宋第八百四十八人 八百三十

宋第八百四十九人 八百三十一

宋第八百五十人 八百三十二

宋第八百五十一人 八百三十三

宋第八百五十二人 八百三十四

宋第八百五十三人 八百三十五

宋第八百五十四人 八百三十六

宋第八百五十五人 八百三十七

宋第八百五十六人 八百三十八

宋第八百五十七人 八百三十九

宋第八百五十八人 八百四十

宋第八百五十九人 八百四十一

宋第八百六十人 八百四十二

宋第八百六十一人 八百四十三

宋第八百六十二人 八百四十四

宋第八百六十三人 八百四十五

宋第八百六十四人 八百四十六

宋第八百六十五人 八百四十七

宋第八百六十六人 八百四十八

宋第八百六十七人 八百四十九

宋第八百六十八人 八百五十

宋第八百六十九人 八百五十一

宋第八百七十人 八百五十二

宋第八百七十一人 八百五十三

宋第八百七十二人 八百五十四

宋第八百七十三人 八百五十五

宋第八百七十四人 八百五十六

宋第八百七十五人 八百五十七

宋第八百七十六人 八百五十八

宋第八百七十七人 八百五十九

宋第八百七十八人 八百六十

宋第八百七十九人 八百六十一

宋第八百八十人 八百六十二

宋第八百八十一人 八百六十三

宋第八百八十二人 八百六十四

宋第八百八十三人 八百六十五

宋第八百八十四人 八百六十六

宋第八百八十五人 八百六十七

宋第八百八十六人 八百六十八

宋第八百八十七人 八百六十九

宋第八百八十八人 八百七十

宋第八百八十九人 八百七十一

宋第八百九十人 八百七十二

宋第八百九十一人 八百七十三

宋第八百九十二人 八百七十四

宋第八百九十三人 八百七十五

宋第八百九十四人 八百七十六

宋第八百九十五人 八百七十七

宋第八百九十六人 八百七十八

宋第八百九十七人 八百七十九

宋第八百九十八人 八百八十

宋第八百九十九人 八百八十一

宋第九百人 八百八十二

宋第九百一人 八百八十三

宋第九百二人 八百八十四

宋第九百三人 八百八十五

宋第九百四人 八百八十六

宋第九百五人 八百八十七

宋第九百六人 八百八十八

宋第九百七人 八百八十九

宋第九百八人 八百九十

宋第九百九人 八百九十一

宋第九百十人 八百九十二

宋第九百十一人 八百九十三

宋第九百十二人 八百九十四

宋第九百十三人 八百九十五

宋第九百十四人 八百九十六

宋第九百十五人 八百九十七

宋第九百十六人 八百九十八

宋第九百十七人 八百九十九

宋第九百十八人 九百

宋第九百十九人 九百一

宋第九百二十人 九百二

宋第九百二十一人 九百三

宋第九百二十二人 九百四

宋第九百二十三人 九百五

宋第九百二十四人 九百六

宋第九百二十五人 九百七

宋第九百二十六人 九百八

宋第九百二十七人 九百九

宋第九百二十八人 九百十

宋第九百二十九人 九百十一

宋第九百三十人 九百十二

宋第九百三十一人 九百十三

宋第九百三十二人 九百十四

宋第九百三十三人 九百十五

宋第九百三十四人 九百十六

宋第九百三十五人 九百十七

宋第九百三十六人 九百十八

宋第九百三十七人 九百十九

宋第九百三十八人 九百二十

宋第九百三十九人 九百二十一

宋第九百四十人 九百二十二

宋第九百四十一人 九百二十三

宋第九百四十二人 九百二十四

宋第九百四十三人 九百二十五

宋第九百四十四人 九百二十六

宋第九百四十五人 九百二十七

宋第九百四十六人 九百二十八

宋第九百四十七人 九百二十九

宋第九百四十八人 九百三十

宋第九百四十九人 九百三十一

宋第九百五十人 九百三十二

宋第九百五十一人 九百三十三

宋第九百五十二人 九百三十四

宋第九百五十三人 九百三十五

宋第九百五十四人 九百三十六

宋第九百五十五人 九百三十七

宋第九百五十六人 九百三十八

宋第九百五十七人 九百三十九

宋第九百五十八人 九百四十

宋第九百五十九人 九百四十一

宋第九百六十人 九百四十二

宋第九百六十一人 九百四十三

宋第九百六十二人 九百四十四

宋第九百六十三人 九百四十五

宋第九百六十四人 九百四十六

宋第九百六十五人 九百四十七

宋第九百六十六人 九百四十八

宋第九百六十七人 九百四十九

宋第九百六十八人 九百五十

宋第九百六十九人 九百五十一

宋第九百七十人 九百五十二

宋第九百七十一人 九百五十三

宋第九百七十二人 九百五十四

宋第九百七十三人 九百五十五

宋第九百七十四人 九百五十六

宋第九百七十五人 九百五十七

宋第九百七十六人 九百五十八

宋第九百七十七人 九百五十九

宋第九百七十八人 九百六十

宋第九百七十九人 九百六十一

宋第九百八十人 九百六十二

宋第九百八十一人 九百六十三

宋第九百八十二人 九百六十四

宋第九百八十三人 九百六十五

宋第九百八十四人 九百六十六

宋第九百八十五人 九百六十七

宋第九百八十六人 九百六十八

宋第九百八十七人 九百六十九

宋第九百八十八人 九百七十

宋第九百八十九人 九百七十一

宋第九百九十人 九百七十二

宋第九百九十一人 九百七十三

宋第九百九十二人 九百七十四

宋第九百九十三人 九百七十五

宋第九百九十四人 九百七十六

宋第九百九十五人 九百七十七

宋第九百九十六人 九百七十八

宋第九百九十七人 九百七十九

宋第九百九十八人 九百八十

宋第九百九十九人 九百八十一

宋第一千人 九百八十二

宋第一千一人 九百八十三

宋第一千二人 九百八十四

宋第一千三人 九百八十五

宋第一千四人 九百八十六

宋第一千五人 九百八十七

宋第一千六人 九百八十八

宋第一千七人 九百八十九

宋第一千八人 九百九十

宋第一千九人 九百九十一

宋第一千十人 九百九十二

宋第一千十一人 九百九十三

宋第一千十二人 九百九十四

宋第一千十三人 九百九十五

宋第一千十四人 九百九十六

宋第一千十五人 九百九十七

宋第一千十六人 九百九十八

宋第一千十七人 九百九十九

宋第一千十八人 一千

宋第一千十九人 一千一

宋第一千二十人 一千二

宋第一千二十一人 一千三

宋第一千二十二人 一千四

宋第一千二十三人 一千五

宋第一千二十四人 一千六

宋第一千二十五人 一千七

宋第一千二十六人 一千八

宋第一千二十七人 一千九

宋第一千二十八人 一千十

宋第一千二十九人 一千十一

宋第一千三十人 一千十二

宋第一千三十一人 一千十三

宋第一千三十二人 一千十四

宋第一千三十三人 一千十五

宋第一千三十四人 一千十六

宋第一千三十五人 一千十七

宋第一千三十六人 一千十八

宋第一千三十七人 一千十九

宋第一千三十八人 一千二十

宋第一千三十九人 一千二十一

宋第一千四十人 一千二十二

宋第一千四十一人 一千二十三

宋第一千四十二人 一千二十四

宋第一千四十三人 一千二十五

宋第一千四十四人 一千二十六

宋第一千四十五人 一千二十七

宋第一千四十六人 一千二十八

宋第一千四十七人 一千二十九

宋第一千四十八人 一千三十

宋第一千四十九人 一千三十一

宋第一千五十人 一千三十二

宋第一千五十一人 一千三十三

宋

籍黃米蔡墨蹟一 宋四大家一已上二卷 俱不真

文彥博真蹟一 真蹟上上

歐陽修真蹟一 皆金石錄跋尾

陸游詩翰一 簡一

朱熹和張敬夫詩一 小簡一

張即之大書詩一 不真乃絹本雙鈎者真本在鬼山張浩家

釋靜賓書歲寒友詩一 詩字皆佳靜賓姿德也

晉唐宋墨蹟一 集米名筆一已上三卷皆偽

藏經二

法書四

元三十二

趙子昂六體千文一 真草篆隸并種焉章草為六體松江顧氏所藏 三體千文一 千文二 行書千文一 西湖題詠一

寫經文書一 即范平舟所藏後有先待詔小楷跋 臨十七帖二 臨蘭亭一 種唐人不全帖一 小楷洞玉經一 後有廣伯生題王南原家物歸松江曹氏焉吾故翰林孔目何柘湖得之余所見松雪小楷惟永嘉趙氏焉路絹本多潛筆此用澄心紙精勻筆意精妙毫髮無遺恨矣石刻者字大如黃庭與

吾家道德經無量文陸儀山亦有道德經一奉然遠不及

吾家者 心經一 書右軍四事一 臨東方朔畫像贊一 洛神賦一 臨洛神十三行一 淵明詩一 翻筆一 書樂毅論一 金書道德經一 金書金丹訣一 慧聚寺莊殿記一 常清淨經一 寫文徵真跡一

趙仲穆篆書千文一

鴉海粟字一

錢良祐書麻姑壇記一 即江淨徐真山本襄山江陰老儒嘗寶一鐵硯及此

劉元祐等游仙詩一 元祐字明德憲副人少時右臂脫骱用左手書猶而左生傳學能詩文

段天祐臨十七帖一 天祐孟詩人書不甚工此十七帖過異

宋畫

俞紫芝書白石續書譜一 和字子中號紫芝少書作松雪偽書松雪見之遂留賞焉續書譜松雪書書之有陰陽二刻其陽字太刻者九妙先侍昭臨得一本以為珍玩偶失去

通未不可得索定晚年平時書帖及見獻之十三行真蹟
劉應秬擬之亦名家矣

法書五

明二十五

宋克書陶淵明詩一

名賢翰墨一冊度書 聖學心法一小楷精謹

李東陽草書詩一 春興八首一 西涯墨蹟一 西涯詩
高宇詩一

祝允明狄與八首一 文賦一 草聖一前後赤壁賦藏經
紙上所書真蹟也陽大書其前題曰枝山草聖敘人
字一

藏枝山翁卷一 枝山翁卷一

徐霖篆書赤壁賦霖金山人字子仁號九峰又號髯仙真行
篆皆能而篆尤妙

文俊明詞翰二 詩卷一

詩一 詩字二 離騷九歌一 翰林詩字一 雜詩一 大史
千字文二

六藝之一錄卷第三百七十九

歷朝書譜

鑒藏

王弇州酬雅攬藏法書 稱湖紹

龍鯉太得薦李西表

晉王右軍三帖 大熟此月
及門下帖 鵲不佳帖 墨蹟更真諸
法小字

王大令送梨帖有加訛墨
大與可跋

嘯翁書小師 文孝山古
帖跋 章草法

鍾文忠公送裴將軍詩 書具樂篇

柳誠懸書蘭亭詩文

懷素千文

宋宣家藏本古雜墨蹟

名畫帖智永劉禪河南斷簡層山第二劉裏陽諸詩元諸
名家書

六大家十二帖

錢塘 倪濤 撰

顏真卿帖 柳公權玄秘塔碑 李邕麓山寺碑 蘇文忠公書 蔡襄荔枝譜 黃庭堅松風閣詩 米芾苕溪詩 趙孟頫洛神賦 文徵明赤壁賦 董其昌畫禪室隨筆 王鐸擬古山水冊

易也

宋名公二十帖

李學士宗諤送胎兒詩 范希文蘇眉山 晉羊浴前米 司空圖二十四詩品 黃山谷贈張大年借墨帖 沈與求知常州馬祠歸歸王 詩論 彭乘墨客揮犀 文徵明題山谷詩帖上清童 范文正公復議學士汪虞卿石相奏劄 周與司農總領虞允文 王龜齡待制降除 趙孟頫書畫奇物杜 蘇軾傳正札 王鐸擬山谷 大學衍義補 書畫三絕句 書洞庭春色中山松醪二賦 文徵明竹賦 此君軒詩 雜詩二卷 懷君帖 書畫舫 伏波神祠詩臨本 又書錦亭 米元章詩卷 跋吳模圖 跋米元章詩真蹟 游道祖塑像贊 頂山詩帖上 清遠帖 米芾 君子無大年三帖 蒼梧 君子無大年三帖 蒼梧 君子無大年三帖 蒼梧

于歸帖行書詩尺牘

趙承旨與婦管夫人及子仲穆總管三札各寫中峰師

鮮于伯機書千字文遊高亭廬記又詩記與趙為子昂書

雜詩卷

虞道園賜碑贊為柯九思 虞文靖公手書 元學士真蹟伯生雲石

柯敬仲錄古詩十九首 張伯雨書諸公贈言

俞和家藏臨樂毅論 楊維楨相竹龍吟老家婦誌

元名人墨蹟

趙孟頫鮮于樞鄧文原胡長孺數家元曉墨寶揭傒斯

顧安再行書杜本張伯淳李謁張天雨汪澤民泰不華

鄭元祐周伯琦楊維楨倪瓚顧玄緯玉笥陸繼雪蕉增海光

國朝名賢遺墨續五卷

周宋文憲公濂至徐中行子與共百人手蹟

二吳指法 十四冊

宋仲溫至方袍大林金賓婦及石刻七姬傳志

又三吳指法十冊

第一冊陳文東墨妙民則學士宅民望大理卿雲閒風

也第二冊徐元玉臨褚周伯器跋錢原溥吳原博蔡九逵

三人第三冊祝京兆書臨及古近體詩雜詩第四冊黃道

申掌致甫用虎筆作楷而間帶行法道中即事又姪水晚

舟書益推致精處其尊人五岳公第五冊文待詔小楷甲

子雅稿蓋徵仲每新寫輒寄舊詩文一冊至老無復遺友

徐公敬諸子天第六冊亦衡山小楷第七冊王履吉楷拙

致周暐第八冊文壽承彭孔嘉許元復書第九冊為

陳道復小楷千文程子傳命仲蔚書第十冊顧德育牡丹

暐周公瑕黃雲卿袁尚望王叔華張伯起書

三吳墨妙上下卷

何元朗學士宴弟大理少卿梁至陳方伯憲王賜又二吳臺

妙另一卷

三吳諸名筆扇

原峰希哲路南奐伯道復復約履吉祿之孔嘉陸子淵顧

華玉金元玉筆

吳中諸帖

吳文定公寬祝京兆枝山文待詔徵明陳太學道復王徵

士龍

諸賢雜墨

李文正張東海館閣卷
云諸事便當如敕死一貧正不要人知
名賢遺墨
自米文貞公景通至雍文恭公達共三十六人
宋太史手書鄭漁仲名解
宋仲珩方希直書
宋克書張長史筆意又急就章又書畫帖
沈民望書姜堯章續書譜
凌中丞金剛經臨洛神賦
李貞伯游滁陽山水記又書古逸民希哲贊後
天全翁堂巖勝游卷又聯句詩卷詞卷
姜大僕立綱書四子全文句讀各有圖畫是莊先朝春宮理講本
李文正陸文裕畫卷又聯句詩卷又文正詩翰卷
文待詔題勝王復古等取態
沈石田倣雙井畫傳得其神髓而不得潮也
李范菴書卷

祝枕京六體書又論體書隸書卷又真行雜詩賦等書冊賦
書太伯傳又青蓮詩杜紫微詩書卷壁去樣綿紙一卷雜詩三卷
一卷雜詩三卷杖懸八角為王明輔題淮木圖歌季靜圖序
卷書唐文詩章如生甲好杜少陵錢左丞詩卷書晚唐句樊川詩公七章白唐人第一流書書
一冊詩百則作行草書
則異不第一流書書
氏成趣園記　震陵英甲古處復七家
文太史小楷周名二南詩又三詩寫金花古局戚徵仲行書
詩篇海白詩絕句卷四體千文歐體千文歐體千文蔡襄米三體詩
赤壁二賦卷休承補圖小楷趙莊武外傳精楷蘇易杜陽編
書進學解衡山手札二十八紙書程鄉令遺愛碑書牘
陸文裕公倣山手札
張東海冊
陳後甫手書詩卷陶詩又書壁賦
玉磬居詩墨又雜咏卷書玉磬圖歌小楷四六書江文通擬
古詩書是根歌仆雅帖
馬太史書東封紀行
徐駿仙墨蹟
豐存禮手札病癖又病馬行學業行草

俞仲蔚書金剛經
莫厚父書田園雜興卷
古樂風雅華茂才之英
周陵才之宏書 古逸古樂志卅陳白陽少
五山程孟孺書
華藏華卿邪去書十卷 朝鮮三塔弘治嘉靖
間吹古
外國書敘焚卷
為而天女直難組高句麗回回番百表緬甸八百媳婦共
九紙多類箱章
續名賢遺墨
楊堤撰廣夫王學士建善解舍人被劾劉參政欽謨余太
保子俊陳太常鼎樊羅祭酒明仲張修撰亨父萬命爭文
明謝文肅鳴治李文安世賢謝文正子發程侍郎敏政林
員書待用部文莊周賢陸太宰全卿顧文康士熹王文定
廷獻劉清惠元瑞顧文康九和錢秀舉子材夏文愍公證
俞卷甲之一
為法書九十六人徐舉仙子仁李西厓實之白洛俞奕
朱財政子价許高陽元復吳鮑卷原博顧東橋華玉金表
松元玉唐大如伯虎王前峰縉武王延峰履約袁尺章袁
之為孟河員閩吳霞裏墳伯
俞卷甲之二

祝京兆王雅宜陳道復王子新蔡林屋九逵諸人書
俞卷甲之三
為文徵仲及壽承書
俞卷甲之四
俞仲蔚周公瑕文休承陳子兼朱子价黃孝友雲卿王
敬美張伯起袁會望彭孔嘉程應元各小楷逸賦十五面
俞卷乙之一
王文恪禕之周原傅伯明夏文愍公謨袁谷虛補之石田
希哲徵仲雅宜白陽
俞卷乙之二
高唐王冀王前峰縉武陳雨泉子與許元復朱子价馬
孟河俞仲蔚周公瑕
俞卷乙之三
為湖州世顯陳布政鎏次秀才書漢禮部攷俞山人允文
王山人逢吳陳山人廣王太學穉登文弓訓嘉
俞卷乙之四
宋提學匡徐方伯中行張少參九一吳提學國倫吳中丞
維楨董宗伯份董南宮其昌俞仲蔚廣文憲王太宇可大仲含

人春龍張比部燭李茂才言蔡周衣卅珠

扇卷乙之五

大師華亭徐公宋中丞望之曹中丞子誠吳方伯子良張
中丞尚府吳大參明卿王大參陽德張孝廉伯起王太學
百穀歐博士懋伯爵山人仲爵顧茂才僉德其人多時代者德清時勝流或
毛山人仲章顧茂才僉德其人多時代者德清時勝流或
檀長城或精賠池偶以所得尋晚第皆是耳非有所短也

臺刻

淳化閣帖

至道御書法帖十卷 宋太宗 晚研堂

秘閣續帖 元柄中刻

大觀太清樓帖

絳帖 汝帖 鼎

臨江王帖

秘閣續帖

寶賢堂集古法帖

真賞齋帖

小西舘墨帖十卷 王凡夫家刻

文化停雲館法帖

摹本

禹碑衛夫人 長沙本
禹碑趙模本

泰相嶧山碑

漢太山孔宙碑

漢景君銘

漢圉令趙君碑

漢隸校官碑

後漢桐柏廟碑

吳天發神讖碑

孔子廟記 魏文帝 五碑

鍾太傅賀捷表 戎路表 王虔 手摘

索靖幼安月儀帖

明書畫題跋記

文肥本勝事

草書韻會舊

宋搨蘇建碑 又舊本

宋搨孫過庭書譜

宋搨聖教序 心經

樓霽李碑 李正規 趙宧光 卅種仁集王書

玉人全十二行洛神賦 落搨

唐本有初字十七帖

右軍書陳蜀

小楷曹娥碑

周柳淮史初搨

宋搨褚摹禊帖

真定武蘭亭 元陳有 刻

周孝侯墓碑

漢太山孔宙碑

漢景君銘

漢圉令趙君碑

漢隸校官碑

後漢桐柏廟碑

吳天發神讖碑

孔子廟記 魏文帝 五碑

鍾太傅賀捷表 戎路表 王虔 手摘

索靖幼安月儀帖

明書畫題跋記

文肥本勝事

草書韻會舊

宋搨蘇建碑 又舊本

宋搨孫過庭書譜

宋搨聖教序 心經

樓霽李碑 李正規 趙宧光 卅種仁集王書

玉人全十二行洛神賦 落搨

唐本有初字十七帖

右軍書陳蜀

小楷曹娥碑

周柳淮史初搨

宋搨褚摹禊帖

真定武蘭亭 元陳有 刻

周孝侯墓碑

智永真草千文 宋米芾書刊
陶隱居入山帖
青州大佛寺碑 高齊武平四年建
唐文皇屏風帖
玄宗御書孝經又篆書孝經 又篆涼國公主碑
元州夫子廟碑
武后書昇仙太子碑 雙鉤 傳摹
歐陽詢書皇甫君碑
化度寺火 宋米芾書
歐陽詢書虞恭公碑 道德經 九成宮醴泉銘
諸河南孟法師碑銘 趙模也 案唐劉肅唐傳聖教序記
歐陽通書道因法師碑 柳公權子 案唐書通傳聖教序
趙模千文 自題跋 拜表
易州鐵像頌碑 李陽冰篆書
唐御史臺精舍銘 八分書
評過庭書譜 石刻 不全
張長史千文 高郵孫侔縮摹本 又千文數行 後小楷千文 高閣跋
官壁記又肚痛帖
王縉書清源公忠嗣碑
陸鴻漸 茶山許長史碑 陸君書有行
隋八分書孔廟碑
秦王告少林寺書
虞永興孔子廟堂碑
褚遂良倪寬贊碑 陰記 關羽功德記
千佛寺多寶佛塔碑 案文貞碑側記元次山墓銘帖 自推
文 金天王題名茅山碑 李北海書法華寺碑 伏羲 女媧
雲麾將軍碑
唐臨大字廟碑 李邕撰文 顏延年書 韓大卿秀納書 碑妻碑
李陽冰篆三墳碑又篆書譜 刻
僧懷惲實際碑 天贊
顏勤書唐摩崖碑中興頌 浯溪 武昭公李抱玉碑 文忠公家
柳誠懸書西平王碑 立秘塔碑
集柳書普照寺碑
柳公權書諸葛武侯祠記 柳拾遺墓素書 齊安侯廟記
曉素聖母帖 吠石 附 濮真律公二帖 乃洲書 懷素自叙帖 又行
元結唐銘
圭峰禪師碑 裴丞相休書
附 建祠祈雨碑
王士則書成德節度紀功碑
裴寂公淮雪 少林寺碑

通徵院體楚金碑　蔡士隋書章化玄素碑
華陽十二頌
徐浩書心經石體書高陽觀記聖德感應頌李劍州碑
唐人書董宣傳
僧夢英篆書偏傍字原孙高僧傳序
郭忠恕三體陰符經　汾陰壇頌書晚得記　尹和石墨
宋真宗書先天太后贊　盧侍詔崇望嵩獄廟碑銘
楊特詔遷度書淮瀆廟記　吳律詔郭大相國寺碑
歐陽文忠集古錄跋石刻二卷
韓魏公書北嶽廟碑
蔡端明書萬安橋記荔枝譜畫錦堂記
大觀御製五禮記并書
蘇文忠公書表忠觀碑三十六峰歸帖松醪賦帖書絕句
三十帖書黃州二詞荔枝丹帖馬券帖等史全部語書
金剛經書歸去來辭書陶詩帖在天池石中書蓮昌宮詞書
南豐李二亭記　李書醉翁亭記行草定惠院海棠詩海
市詩乳母銘　公自書於黃州在黃州臨王右軍拙大司馬懷素雜帖
興文興可詩三十首
黃文節公中興頌碑後詩書秋果公碑　元文五公作　書東坡大

江東去詞書東坡小筆手劄
時玉觀帖草書雜帖書廬山高歌
蔡卞玉巖寺臨行書書城碑
米南宮天馬歌雜帖　裏陽父子詩軍
吳中夫子廟碑元柳貫　金王庭筠書劉先主廟碑
元待制吳炳重書淮瀆廟碑　汾陰壇頌書晚得記　尹和石墨
杜待制書清真觀碑
趙吳興書胡州推官廳記書文賦服食帖永福寺碑書玄教
宗傳碑書杭祐聖觀碑移真人碑崇眉廟碑雜帖事計
石刻十卷　重建廬山東林禪寺碑記
虞文靖書重江橋記　王學士利用書馬丹陽碑
桃枝卷璇書玉重陽仙蹟記
鮮于太常千字文　刑士李道謙書王重陽碑
雪庵茶榜元僧海光撰并書　明宋璲書午文
俞紫芝四體千文
祝京兆大體帖書唐初諸君子帖枝山十九首帖嘯泉歌
帖書王文恪公墓誌銘書毛中丞夫人墓誌銘
文待詔書蘇氏義田記

王新建紀功碑 勒石南昌
王子裕先生玉墨刻 先生之子冲明刻 石藏中書忠基堵
豐人翁筆訣
梁晉龍為寧建伯李成梁勳績
王敬美澄觀書品 弘毅奉常集 珊瑚網
王大令送梨帖真蹟
歐陽詢千文真蹟
永師真草千文
東坡酒經
趙氏三帖 子昂書仲穆
趙文敏千文 書苹齋 真行書
洞玄經 陰符經 黃庭經 度者經 中峰歌
淺渡行 十五詩 于鬯帖 臨義之東方畫贊
宋中翰仲珩書卷
宋仲溫書畫帖
吳贊帖
王雅宜楷書
休承書後十九首
泰山崖碑
古捐義法書
宋搨褚河南度人經變 相趙字
諸暨善書孟法師碑
唐本廣永興孔子廟堂碑
李懷琳書指授夜絕文書
玉子裕先生玉墨刻 先生之子冲明刻 石藏中書忠基堵
羅文瑞書醫無問碑 為原中校太平
顏清臣麻姑壇記 錫玉
坡書赤壁賦 有都西搨下之別藏公去州十時搨 其北有洗者為一時鐵東坡書堵
坡仙宸奎閣記并銘
綠宗伯存民家藏
南陽書法表 梁溪華維序
原夫書法之興肇自蒼頡初制淳朴史籀詳備于李斯程邈之徒並稱業擅一時足可法程萬世然以世代綿遠真蹟無存鑒家僅于金石遺文畧闚一班而已厥後人趨簡便篆隸之用日徵而書始分為三體矣三體維何一曰正書始于王次仲而鍾繇造其極逸變而為王羲之虞世南歐陽詢褚遂良顏魯公柳公權以迄乎徐浩張旭懷素二曰行狎起于劉德升而羲獻父子窮其變而為王僧虔謝安謝靈運顏延之徐嗣伯以迄乎虞世南李邕蘇軾米芾蔡襄三曰篆聖創法于杜度而張芝皇象繼其神逸變而為索靖衛恒衛瓘子阮研以迄乎旭張伯英晉唐諸賢楊凝式趙孟頫鮮于樞上下千年縱橫萬里豪傑名賢隨珠和璧如拱璧或稱人之大觀或號筆林之巨擘揆諸風格良不誣也國寶流傳實賴好事厥後梁武唐文宋高元文金章孝宗則以帝王之尊而酷嗜夫寶書亦有始京廣津易簡公齋佩書似道則以碩輔

之黃而爭收夫法窠波瀾風靡浸淫成俗無奈真贋雜陳玉石並列求彼真鑒如貞白登善元章元鎮之研窮頡末何見底稟者則且代不數人億不得一也歟書之任厥維艱哉至明建極百務聿興而獨鑒書一塗茅塞未闢世廟時有徐章楩相者沈湎金珠淫聲雅遠石計苞苴一味耳食何異坐井窺天刻研求剔數嗣後二美（元美敬美）博訪于荼東于京力購于秀水一時故楮新麻雲烟霞聚南碓精閩閩無其人謂能鑒玩名書深加精別者也維時韓存良宗伯以妙年登講席位帝師爵元老與藏雄絕人文收係生平別無嗜好絕意求田問舍事俸薪所入悉市寶章齊唐宋元之書所收不下百本多與名流品定甲乙物物連城云言畢衆仍長公朝廷以余敢尚時楷討論環寶在陳前履無計乃以暇日即其家書讀日錄作為法書表行世紙未敢判弥賞鑒之真編寫此子長十表之例云爾

正書

晉王羲之曹娥碑唐懷素宋高宗元趙子昂等跋

榮毅論唐開元小璽宋張敬夫等跋

黃素黃庭內景經宋徽宗題前後小璽并白仙題名

王獻之洛神賦十三行唐宋人共趙子昂跋

唐慶世南真草千文臨永禪師有宋高宗孝跋

補遂良正書千文宋高宗璽宋景濂跋

柳公權翰林帖宋高宗璽

懷素論書帖

宋蘇軾宜春帖子訓宋元人跋

米芾小楷快雪時晴帖跋

元趙孟頫臨王右軍東方畫贊後有公甫題

書無逸篇後元人跋

黃素小楷過秦論三篇鮮于樞等十八跋

高峰和尚行狀

行狀

臨大令洛神十三行　勝巴帝師碑

晉王羲之王極寒帖 宋高宗帖 增小墨

行穰帖宋徽宗前後小墨 嘉興帖宋高宗小墨

氣力帖宋徽宗前後小墨 諸從帖宋米元章并外國人跋

唐太宗晚來手勅宋高宗前後小墨

孫虔禮北山移文宋高宗墨 孝經宋元人跋

宋蔡襄精膳帖

蘇軾前赤壁賦前元人跋 墨妙亭帖

李伯時三馬圖贊宋高宗小墨周竹坡玉霞苑跋

虎跑泉帖宋元人跋

陸宣公像贊前有唐人畫像蘇東坡米元章文彭公跋

黃庭堅大江東後附書和韻題郭熙畫山水詩

米芾蜀素跋 來敷帖等九帖宋高宗前後小墨

高宗書洛神賦絹本

元五鷹搠西江月詞

趙孟頫臨定武蘭亭前後六本

臨王右軍十四帖 書歸去來辭大小四本

書陶潛贊

書東坡贊

元鮮于樞女史箴後元人跋

庾里嬰書杜詩長卷後元人跋

草聖

晉陸機平復帖宋宣和小墨元張斯立等跋

王羲之謝司馬帖宋高宗前後小墨

韻寺帖唐柳公權小楷後又宋元人跋

大道帖趙子昂鄧文原跋

思想帖宋徽宗前後小墨元趙子昂明文徵明跋

胡母帖宋名賢跋

王獻之冠軍帖元周伯琦跋

梁武帝異趣帖

唐孫虔禮書譜前有新訣二王和跋小墨全

張旭狂草古詩四帖宋高宗跋并前後小墨

宛陵帖宋高宗墨有文同并元人跋

懷素書千字文宋高宗跋并前後小墨

李太白自書詩

宋蘇軾寒食詩黃魯直跋 論書帖

挑耳帖

黃庭堅草巖跋　秋浦歌前元八跋
元趙孟頫書蜀道難　歸田賦
左太沖詠史詩
石刻
唐搨鍾元常賀捷表　臨閣帖石軍第六卷
宋定武蘭亭序　石本宋搨有褚臣陳繹曾王士熙等詩及
臨江王帖宋搨有顧仲瑛印識
定武蘭亭辨僞書　是玉堂珍藏本有喬行簡顧仲山諸名公
題跋
跋

宋搨淳化閣帖雪堂藏本有承家藏
明明何良俊書銘心錄
兩爲衣冬子以老病南歸見士大夫收藏之永書畫皆佳其
石凡二十五人計七十二帖又石刻十帖
親雖有僞雜出然有一二佳品思之終不能去心凌錄于此
以備遺忘云

米南宮小楷書品　泉州文物是米書絕一妙者爲米楷
書第一
張州産都憲家藏
趙模帖趙模行草初書唐人詩共十五紙今存十三紙字髣
髴虞永興書
陳暘教序絕石神采變法者二人柯敬仲胡若思亦好當是
宇宙間神物也
趙文敏行書米晦齋送子從學書後有規約數條是爲賢嗇生
品
鮮于困學草書一卷佳
蘇長公寒食帖裝絕句詩並管於閒暨若故雪衣女常念
彌陀觀世音　陀故寧字大如錢類縱中有法度神品此後
有虞邵卷柯丹丘張貞居悅幼度和篇每人六有絕句皆精
絕可愛
松雪書是與中峰和尚手簡書共二玉紙墨精好最妙有管
夫人書一紙亦與中峰和尚者琢弟子管道昇亦具書家軌
範
衡山簡小楷書離騷經文九歌此乙卯年時書祖其孫西官

者擲山命其孫出示遍媚靚逸何減古人余欲臨之與洞玉
經並傳同客農萬索代早即發舟終當為有力者得之耳
華補菴家觀
寧波祕閣續法帖宋搨本真蹟尾所收也
龍亭不損本真似猶搨但上下俱散去金薤玉虎八字與跋
李界行省無從考驗其是定武歟吾當細辨之耳米南宮三
帖筆意飛動神采煥發米行書當以此卷為第一餘皆在下
風矣

米南宮書簡一段文氏已刻入帖中雖真蹟亦不甚佳
趙松雪此行書單條一搨帖內臨右軍神品也
陳文東小字依打草一搨帖幅亦是晚書佳
宋高廟打草搨帖小字七八行予見宋高書蹟無如此臨之
趙者國初稱三家亦不虛也
晉唐小楷書趙景遊帖并絕句詩八首
晉張旭草書蘭亭春草帖灌畑帖
唐徐季海樂林寺詩在麻紙上
趙子固定武蘭亭落水本天順丙寅年正月二十五日重裝
宋人手簡十七條在端上
宋揚補齋公憑華嚴經卷首有羅漢世家印
米南宮小楷七帖在楮上
黃山谷楷書趙景遊帖并絕句詩八首
王右軍六帖在端上

明郁逢慶書畫題跋記
宋人手簡十七條在端上
宋揚補齋公憑華嚴經卷首有羅漢世家印
米南宮小楷七帖在楮上
黃山谷楷書趙景遊帖并絕句詩八首
王右軍六帖在端上
唐張旭草書蘭亭春草帖灌畑帖
唐徐季海樂林寺詩在麻紙上
趙子固定武蘭亭落水本天順丙寅年正月二十五日重裝

帖前有方寸朱文聚齋二字印子周二字白文印方寸朱
文樓公家記印卷尾有朱文楚國米芾印白文孝友世家印
朱文存義書府印
唐摹懷素客舍帖宋徽宗御書金字題籤船花及拜經齋
俱有宣和政和絹與天水雙龍小璽賸尾有內府圖府之
印又有秋壑圖書
唐柳誠懸楷書度人經在麻紙上橫卷神品
唐摹懷素食魚帖在硬黃紙上小橫卷
顏魯公正書宋巨川語在絹素上後御文原喬觀跋
趙文敏行書詞二闋臨張長史京中帖

趙集賢行書歸去來詞卷在宋紙上書後有仇摹明像
趙文敏行書詞二闋臨張長史京中帖
趙榮祿楷書湖州妙嚴寺記在宋搨上橫卷首子昂大象
趙子昂行書煙江疊嶂歌在白宋紙上橫卷李西涯大篆題
松雪翁大書快雪時晴卷
松雪翁真書五字
趙文敏公小楷麻姑壇趙仲穆書讀書城南司馬溫公勸學
六字
趙子昂行書煙江疊嶂歌在白宋紙上橫卷李西涯大篆題
三帖卷
趙松雪書中峰懷淨土詩後系讚
趙子昂臨智永千文 趙文敏小楷陰符經

宋蘇養直二帖真蹟 宋張樗寮正書金剛經
黃文節公正書法語真蹟在紙上其紙長三丈餘無接痕
米南宮九帖卷有機暇清賞印格與仇內府書印符

趙承旨小楷高上人大洞玉經在宋搨上模糊

琦楚石真蹟

俞紫芝楷書悟真篇在黃宋牋上共七紙

張伯雨行書

康里巎草書柳子厚論龍詩在紙上

倪雲林題帶軒手簡

康里巎草書柳子厚論龍詩在紙上

張伯雨書歸在紙上

柯丹丘石屏記屏在雲間朱氏舊藏

張伯雨書歸在紙上

汾子仁書歸在楮素上

唐仲擇書八閩春詞

張外史行書挽帖

石田書懷四首

石田書送歲歌

祝枝山草書月賦

石田書送歲歌

文衡山跋宋搨黃庭經

吳寶恭茶歌行書挂幅

姚敬茶書卷

唐子畏畏齋小詞帖上行書

文衡山題山谷代波神詩

文衡山洗鉢元常季直表跋右筆表牛帖

徐武功游靈巖小詞帖上行書

石田書閨情

祝京兆誄書

唐子畏書枕上聞雞鳴詩

石田書閨鄉手詞

石田書懷四首

石田書送歲歌

祝枝山草書月賦

唐子畏畏齋小詞帖上行書

姚雲東詩二篇

明都邃庵書畫題跋記

朱女書姚碑

王右軍二謝帖思想帖

蘇東坡武昌西山郡壁來詩石刻

趙承旨小楷高上人大洞玉經在宋搨上模糊

琦楚石真蹟

俞紫芝楷書悟真篇在黃宋牋上共七紙

張伯雨行書

康里巎草書柳子厚論龍詩在紙上

倪雲林題帶軒手簡

康里巎草書柳子厚論龍詩在紙上

張伯雨書歸在紙上

柯丹丘石屏記屏在雲間朱氏舊藏

張伯雨書歸在紙上

汾子仁書歸在楮素上

唐仲擇書八閩春詞

張外史行書挽帖

石田書懷四首

石田書送歲歌

祝枝山草書月賦

文衡山跋宋搨黃庭經

吳寶恭茶歌行書挂幅

姚敬茶書卷

唐子畏畏齋小詞帖上行書

文衡山題山谷代波神詩

文衡山洗鉢元常季直表跋右筆表牛帖

徐武功游靈巖小詞帖上行書

石田書閨情

祝京兆誄書

唐子畏書枕上聞雞鳴詩

石田書閨鄉手詞

石田書懷四首

石田書送歲歌

祝枝山草書月賦

禁忌惠公進謝御製詩卷
歐尚功種德歌式冊
元天曰禪師劉順法語真蹟小真行書
鮮于樞常菴書昌黎琴操四章真蹟
蘇東坡書離騷九辨卷
薛紹彭臨蘭亭敘
坡翁行書四詩
米南宮行書天馬賦
黃山谷草書釋典文語
秦太史草書李太白憶舊遊寄譙郡元參軍
時道祖書贈小詩真蹟
蘇長公兄弟答蔡繼道文
李西臺六帖
蘇長公書陶魏節清晨閒叩門詩一首
趙文敏公諸賢天祖山詩
雍國公虞丞相古歌歌
鄧文原臨急就章小洛仙詩
趙松雪書洛神賦卷高上大洞玉經
虞伯生書虞雍公誅玄論
元賢翰劉珏

趙文敏真草千文
趙文敏楷書千文四體十文
趙文敏行文賦
鄧巴西詩卷
文壽承草書單條
祝枝山登心高銘楷書
陳白陽題扇
馬伯庸行書
張雨居雜詩冊
鮮于樞學楷書
沈啓南行草二詩
沈啓南有竹莊閑居詩卷
董玄宰書卷
姚叔祥草書

歷朝書譜

鑒藏

明張丑清河書畫舫

韓存良太史暘藏鍾元常墓鍾帖考父銘亦當為漢駙
逸品之冠其次則王元美尚書家正考唐季真表上有重錄
堂等印及元人跋尾元美續收補河南哀冊文類平原送
裴將軍北伐詩並屬真筆

晉武帝平吳帖真蹟宣和秘府官本今在震澤王氏第為帝
王書法之冠

錢塘 倪濤 撰

錢存良太史家陸士衡平復帖計九行墨色有綠意紙亦不
雜碎前存宋徽宗尼金樓題又開玉軟之破羌帖王獻之
春神十三行晉人小楷書城碑楊義黃素黃庭經唐云京
鵲鴒頌諸逸少千文張旭宛陵帖鍾紹京靈飛六甲經吳
通微千文懷素論書帖或云山水帖徐浩逝往上冬賀知章千
文摸真卿書語吳融博士帖蘇軾自書八歌米芾草書

趙孟頫小楷道德經全本種種真蹟在其家未及全見之
零陵章事出師頌一卷用黃麻紙書之上有宣和印識朱色
如新與古講文令文壽承為真蹟為之刻石或云續文
益山薰子墨元初藏霍清夫處見雲煙過眼錄宋時在秘
府下京見米元章書史
聰房小圖元小璽御府書也永存珍秘印
謝安石書六十五字小簡閒閱元小璽御府書也永存珍秘印
入唐相王在家翰林之印建中御府所用
東方朔畫像贊相傳逸少真蹟乃永和十二年五月十三日
書與王敬仁者筆精茂密法律森嚴其廣破處歐陽詢補
之宋初在丁謂學士家尋入宣和秘閣有御書璽記暨南
後復歸趙與訔家雜見書史書語雲烟過眼錄中
王羲之表生帖、蟬嫗青愛遊天姥吟留宋府秘物考吳王元
處本並神品也
周敏仲攜示逸少行穰帖一卷亦載宣和書譜中前尾蠹破
宛然手細辨乃唐人硬黃臨本定非真蹟先輩言秘府御
題書畫真贋相雜驗之信然
逸少草書司馬帖今在山陰人家宣和秘府故物把筆法序

古可愛為真無疑

五字不損本定武蘭亭序一卷元初戴諫宗文許有壬庭元
章等題名張仲壽趙孟頫袁桷諸賢跋尾相傳歐陽率更
所模臺花滿面春世之寶也茂書府居曠得一本筆法
精勁高古較唐宋摹搨字形纖小一掊後餘之大兄笑
陳仲醇妮古錄云今皇帝天藻飛翔雅好書法每揮戲之嗚
頭丸帖度世南臨業毅論米芾文獻以旬題董其昌閒之
中書舍人趙士楨言如此用考右軍曾書文賦今可見者
趙榮祿書耳
獻之中秋帖卷藏于橋李項氏子京自有跋細形乃唐人臨
本非真蹟也卷首截去大半

十二月季六字亦無米賈可考第
裝潢綠錦則宣和舊物也宣和寶帖元末魯輸入大內
知
震澤王氏閒隱居黃庭外景絳帖法度遒勁不屑云係張
可與故物可與據續正前元進士生平寶秘籌子實進寫
古文落真嘖及此
李文正公家藏智永千文一卷是蔵經書前有宋徽宗瘦金
黃綾帖云梁釋智永真草千文今建甯宣和等印雖歷世
久遠字畫格無殘缺今裝成陵高久
吳原博先生家藏林逋深慰帖宋祐陵故物也有紹興二璽
柯九思陳彥廣等印有李倘張仲壽黃中印亨甫袁桷跋
通家東陽文徵明八吱波戲珊瑚網中
唐文皇手勅一通用黃麻紙書之今在韓存良太史家宋松
存故物也石始金倣右軍風神散朗品在宋思陵上羣欵
唐玄宗御書獨鳧鴈帖麻紙真蹟結構精謹筆法縱橫迥出
吾家思陵御書敘文之上後有蔡京六二跋亦妙逸周
敏仲購得一本乃樊夢堆墨者至精時不悟良可歎也

敏仲所收唐玄宗血獄詔當特勅付毛處全者黃麻紙書舊
在揚李頊元朱存汝物也
廣永興北南公主墓誌稿凡十八行見米老賀章侍訪錄後
入郭天錫家元章收尾句存今蔵郭氏
物也頃全壞王字奏不史蕭其墳按為摹入歸岡齋帖中
嗣李頊元祕蔵歐陽詢行書夏蕓帖清玩絕塵乃楮紙蕓蹟
宋末蔵郭天錫家子昂二跋尾勁有堂故物也真後又入
楊東里家有東里跋今不存石帖校定有缺的是名物
陳仲醇定為宋人書蕓窓世所流亂耶

近閒歐公臨蒙帖及顏書處所帖俱在楊李項大當往觀之
稽可南黃麻千文一卷瘦勁絕倫楷書在第後有宋漁等跋
今存歸宗伯存良家凡十數開唐人書法世不多見此真
可寶者

碧玉藏稽瑞良楷書千文黃麻紙大類所書聖教序疎瘦妃
暢逸趣翩翩按宋漁洪跋尾云河南真蹟千文如鐵線縈
結而成即此本也

陸柬之書法似智永風氣過之傳世蘭亭詩五首今在楊李鴻
閒之家筆法雅縱妍媚動人品在李北海顏平原之上故
米南宮極稱許之或云此帖與王雅江山雪霽圖李昇溝
相煙雨卷皆太史公朝夕屢玩者也

陸柬之時工臨寫今梳理錢延年有柬之書蘭亭用綠麻紙
押尾署陸司護書

孫過庭書譜真蹟亦藏歸太史家聚分宜故物也前有宋徽
宗參金御題政和宣和等印元初在儀真卿相家後歸李伯允楊凝式鑒定寶
寧賜玩記王洗寶寧賜第書廷堅觀候讀八月十一日觀
用軍司馬印銜記亦舉刻于停雲館後歸文氏自史氏
歸嚴氏今已入內府矣蓋晚年書也

懷素酒狂帖舊在光福人家後歸李貞伯氏

右嘉靖壬辰復在華中而承而文徵仲為之跋至甲子歲
為茂實府君物贈後歸趙孟頫項氏
宋巨川語并跋在孫氏
啟南翁所藏予僅得南宋五公手札一卷後有李西涯吳匏
菴諸公大跋即都玄敬寫意編中所載也
王氏又處沈傳師出塞詩一卷于伯機故物亦見雲煙過眼
錄中
柳誠懸小楷度人經真蹟後有華山道士及又玄洗大觀室
和小篆趙叔穎為子振宋唐題識舊藏項司馬家以校

仲子希憲
項氏寶藏吳彩寫正書唐設金部郎于承音故物後為陸太
宰全卿所購
五代楊凝式草書神仙起居法小米鑒定後有思陵標文五
行而奉張溉等印記高提留屢及跋語乃即人王氏所藏
地
貢父道家藏名蹟已載于前
茲不重錄
祝希哲藏宋李建中千文一卷在其後人處宋元人品
題極多下迨文徵仲太史有跋語真名蹟也近為王峰妙

宋宣獻公校楷法為宋初第一楊
州事久廢其小楷千文一卷宋潛溪故物即天章閣所貯
舊本也
陸放翁自書詩一卷共計七首筆意遒勁可愛後有山陰杜
思永跋今在吳郡王氏
宋文公自書武夷九曲詩卷在欽人畫菜處
蔡君謨茶錄有蹟一卷王敬止故物後入嚴分宜家小楷精
謹紙墨如新文徵仲太史極賞之
趙定宇榮酒藏箴忠惠公中楷謝賜御書詩表字大如指頂
結構謹嚴後有文同米芾等蹟堪與錯存良太史家蘇文
忠公元祐二年宜興舟子墨蹟作對其題識多至十餘人
悉宋元名手榮酒飽飲流傳至長宅伯含處故亟得見之
先子累處購求書法僅得東坡小楷數種求碑有真蹟庶幾近之然未及見
王氏世藏城第小楷芙蓉城詩真蹟神品上上蓋得之數分
宜所筆意姿媚可喜與吾家乞居帖絕不類或云徐氏小
楷金剛經項氏小本最忠誕碑有真蹟庶幾近之然未及見
文衡東坡行書九辨帖筆意妙絕而無款識豈遺元祐黨人

之稱當時收藏者削去之耶

楊李項氏藏行九歌一卷止錄文徵中所載六段

東坡草書表忠詩後黃山谷跋今在楊李項氏又行書楊

帖乃與錢脊明者今在金壇于氏

御珊王氏購藏薛道祖楔飲序一卷宋秘府故物即停雲館

帖所載也

秦少游小楷黃庭經在長洲顧氏管山公故物也後有吳傅

朋李泰發鮮于伯機康里子山四跋尾

秦太虛楷書古詩十九首一卷今歸震澤王氏

易安詞藁一紙乃清閟閣故物也卷尾略無題識僅有點定

兩字耳

黃魯直諸上座帖草書師懷素頗遒真即歐陽公書畫記所載

之舊藏李范卷家

黃魯直草諸載元祐丁卯歲行書大江東去詞全似蘇楊楊

法後附次韻子瞻題郭熙秋山圖詩小楷精謹今在韓太

史存良家本歐公宣城故物也

文徵仲藏黃魯直行書書子建詩二首用澄心堂紙李廷珪

墨為之

發氏藏黃山谷草書頗殘和高歌筆法妙入神紙墨完好真

尤物也

宋牲甫藏米老臨黃庭經一卷後歸石田翁

伯時晚年又藏米南宮晚年書字室崇國公墓志銘鄭居中

楊文總二千字極得多力豐腴後紀急送俊有表楠御文

原普潛柳貫楊左葉盛吳寬七跋是廣省參政劉公欽謨

故物跋載朱牲甫鐵綱珊瑚中

米老行書杜甫題王宰畫山水歌等帖並嚴楊李項氏米尚

有自撰日書登黃鶴臺下賜金山賦在履分宜家行筆奇

偉足稱墨寶

海岳翁行草書帖今在城西王氏

馬生事物之藏米臨顏魯公爭坐帖全本上有賈似道之

印元時入表文清公家表公前後已再跋云

張漢藏米南宮帖十二冊各以類次如手柬家書詩文分四

類上有閱古珍玩大印乃韓侂胄故物也

思陵行書手卷題奉先劉少府新畫山水障歌黃蟬製其牘

前後用乾卦御書內府之印及格與三璽

武林胡氏藏高宗御書損齋二字并御製損齋記右僕射虎

該以下聯名親書表在後並屬真蹟此卷前元時在王子
慶處亦見雲煙過眼錄
思陵草書一卷墨蹟藏在海家每行止二字字大如拳押縫
有御書之寶印識尾有御書瑞印收藏有癖之圖印及三
槐堂印
思陵洛神賦卷絹本大行草後署德壽宮書李嶠詩題後
思陵行書蘇武李陵詩共七首每遍可書與吾家杜陵詩帖
正同今在黃氏
項氏藏子昂秋興賦一卷左方有張東海跋尾
一卷雲煙舊藏書目 卷參三百八十 十二
王氏舊藏宋人小楷史記真本一部原是松雪翁物
信國手書過小青口詩一卷後有原博潛之二跋乃徵仲故
物也今摹刻停雲館中
予家藏祝希哲懷知詩卷字小而結構雄偉謂之謝氏真
蹟也
祝京兆楷行雜騷經九歌行草孔雀東南飛二首並藏吳中
王氏是盛年妙筆
吾家世傳希哲京兆行書莊子逍遙遊師慶世南拙南陵代
藏王優吉草書枚乘七發做十七帖又一好事家收文徵
仲小楷古本水滸傳全部出歐陽詢李
明董其昌容臺集
予曾有石軍行穫帖真蹟十五字字大如拳押縫
侍御何安福傳來唐摹絕交書紙墨用筆與行穫帖同考
家為予勒石甚識之
謝惠連臺賦新都汪氏所藏予令人摹勒入戲鴻堂帖中
破和論是唐人小楷與柳誠懸蘭亭淨經並是真筆一見之義
興吳光祿家摹刻戲鴻堂帖中
壬辰九月過嘉禾所見有褚摹蘭亭徐季海少林詩顏書公
參州伯文摹趙文敏道德經小楷皆真蹟也
予昔于宋光祿見永師千文後有永師押字辭始彰收藏印
魯拙碑與曉公有高下皆是北宋物元文宗命柯九思鑒定
御府書畫因賜之以旃其物在婁江王文肅公家
墨皓六甲經絕急書有宋徽宗標題後有倪雲林虞伯生
跋海寧陳氏當次公所藏
袁尚書外集經真蹟與內景經同一筆法又有云是
宋高宗臨者在吳江吳憲副家
顧愷之女史箴不全本在嘉禾項氏

行書蘭亭序楊河南臨澄心堂紙米元章跋在海寧陳家缺
三行
又蘭亭褚臨墨蹟絹本王弇州家藏復歸新都汪太學有米
元章小行楷跋今在廣陵
代書畫舫
大令東山松帖真蹟送梁帖真蹟皆見之今不知歸何人
顏魯公送劉太中序綠鬱書北京國學刻石真蹟寺名為建
東李卻所藏
顏魯公登琴臺文真蹟鮮于伯機所藏跋云吾家典第一天
下無第二在新都吳太學家停雲館所刻乃米臨于刻之
戲鴻堂帖者是也
丁丑三月過京口訪張太學修羽出所藏楊少師真蹟實玩
信本有小楷九歌予得宋搨世無一本為宋御書以古硯去易
歐陽率更今所書千文楊補之家藏本
謝萬疑帖真蹟在新安汪南吳九
玉獻之送書狀有裕逸風摹本予見之
歐陽率更所書千文楊補之家藏本
信本有小楷九歌予得宋搨世無一本為宋御書以古硯去易
襄陽吳九祥玉徽如寄褚登善千文示予披覽數日
歐陽信本有楚辭諸帖刻于長沙
宋珠玉麗事碑有宋以後重刻大照禪師碑乃唐時硬黃摹
鈎于嚴嗜事書始獲觀此遂摹勒上石以公同好雖謂之
唐搨可也

摹出
予在長安得趙伯駒畫老桃授陰荷劇及蔣伯英見趙子昂
小書陰符小楷并竇臮中
清淨經蘇門高士粟家藏今歸義興吳光祿坐散如宋搨精
妙定非俗筆今在新都王
秋水真蹟一等耳
柳說懸有小楷清淨經子摹于海上潘光祿刻之戲鴻堂中帖
知建德以師古齋刻為第一乃遂良所臨也淳熙續帖亦未之
黃庭經是褚本曾于沈繡南司馬齋頭見之今歸閩卿收藏
趙文敏收定蘭亭獨孤東屏二本皆有真蹟或十三跋或十

晉顏平原庶甫帖宋時在李觀察士衡家今為石玉所藏
爭坐位帖在永興安師文家安化桥居分石為二人多見其
前段師文後乃并得之相繼入內府今前段為項德新所藏
杜牧之書張好好詩深得六朝人風韻予所見顏柳以後若
過龍卿與牧之亦名家也
一篇予亦得三馬劉閻贊皆奇絕
徐浩道德經上卷在無錫華學士家乍見似紙素諦觀知為
絹本
張長史宛陵帖有李建中跋始欽易簡三公題跋歸宗伯所
藏以為甲觀
楊凝式小師韭花帖宣和書譜所載五書今在嘉禾項氏
米元章行書雜帖宜興吳氏部所藏近始裝潢成帙真海內
奇觀
唐碑懷仁三藏聖教序行楷新都吳周生不惜十五城購之
非賈鑒家求一見不可得也周生發硬刻石令悔迹千年
始復出見
吾家有黃庭經梁敬論秦方贊書姚碑心摹家摺加以十三

行洛神賦及米元章弁盦帖絕海內
明董其昌畫禪室隨筆
石軍宦奴帖已卯秋予試留都見真蹟蓋唐冷金箋摹者此
帖後歸婁江王元美子子已丑詢之王潛生則已贈新都
大令谷神賦真蹟元特揭在題予昂家今雖宋搨不復見矣
今日見此四行亦唐摹冷金箋蹟在搨本項內
予在梁溪見徐季海道德經
襄陽書天馬賦予所見已四本一為擘窠大字後題云為平
海大帥書後用水丘公觀在嘉禾黃復常參政家一為檜
詩王復秦范乃仿顏平原爭坐位帖一在吾鄉宋參政家
一在新都吳氏俱有黃子久諸元人跋
陳素仲舊收六有金臨之宋錦衣家宋得
之內府蓋嚴分宜物沒入大內後給侯伯為月俸朱太尉
希孝旋收之其初吳郡陸完所藏也文待詔曾摹刻停雲
館行于世予二十年前在趙季度見真本年來不屢得懷
素他草書鑒賞之唯此為最
予見懷素一帖云少室中有神人藏書蔡中郎得之

歐真書予所見不
滯古為宗
趙文敏臨禊帖無慮數百本予所見亦至數
米元章書多從褚登善悟入登善深于歐率為唐賢楷則
一此本蓋其未變時也
予三見手蹟自書赤壁賦一在楊李薦承玄家一在江西楊
寅秋家一在楚中何子慶家黃卷有子瞻跋尤勝然皆前
賦也後赤壁則惟趙子昂有石本又思陵書之更妙至
為補圖亦在楊寅秋家
設風規矣知接人誰為競奧
客有持趙文敏書雪賦見示者予愛其筆法遒麗有黃庭梁
秦太虛換龍井記真稱蘇家勝友元章此碑絕得李北州三
昧惜多殘闕予為補之
鶴宗伯家藏子敬洛神賦十三行真蹟
爭坐位帖予以陝本漫遠乃摹此宋搨精好者刻之殿鴻堂
蹟昔藏新都殷尚書家予在長安會于殷參軍家見之後
中
褚遂良西昇經墨跡寧熙秘閣續帖所刻黃庭堅同一筆法真

歸武林洪黃門黃門遂以贈予
鍾氏伯藏書姨碑真蹟絹本乃宋德壽殿題元文宗命柯九
思鑒定書畫賜以此卷趙孟頫跋記其事甚詳
袁水王奉常家藏趙吳興詩帖致佳予於高仲樂見之
新都汪太學珍仲以宋搨爭坐位帖見示神采爽爽字形較
陝刻差肥時有訛字乃是米海岳所臨米書有記有臨爭
坐位帖在浙中此始莫真跡入石者耶
唐鍾紹京書遺甲神經有宣和政和小璽宋徽宗標識悅元
子尊京師得摹李伯時西園雅會圖有米南宮蜆頭題跋已
丑四月又從唐完和處借海岳千文臨成副本
鎮家藏有元鎮帙語
十七帖建業本宋時稱泰家藏淳熙秘閣續帖亦有刻予在
翻下文人汝陽王思任得硬黃本已于濟南邢子慶見所
刻石本即王本也
梁敬論承世所摹與唐摹字形多異淳熙秘閣梁摸本也予
家戲鴻堂帖唐摹本也又有一本唐摹在長安李氏書屬
余收亦有文壽承跋蓋與觀中太宗命褚遂良等摹六本

麻紙真蹟為新都吳生所有
趙文敏得宋忠陵十三行于陳瀕孟頫先九行後
山行以悅生印款之此予故真蹟至我朝惟存唐摹耳
陵唐本常家藏宋搨為當今第一書一見于長安臨為刻
石恨趙吳興有此墨蹟未盡其趣

觀于楊氏之衍澤樓蓋雲間世家所藏予得之吳太學每
心賜日展玩輒為心開
宦奴帖真蹟在淳熙秘閣續刻昔年見之南部已聞為海上
潘方伯所得又復歸玉元美玉以貽予座日新安許文穆
公文端傳之少子書君一試弁揩觀因轉售之今為吳大
學用卿所藏
宋搨絳州帖乃宦奴摘家故佳本在汝帖長沙之上此本已
具各體即不完善此之戚嗣一毛可藏也
雲麾將軍碑文多不全獨此刻前後讀之皆有倫次當是石
未加賜拓本殊可寶藏
予得趙上禊帖較各帖所刻皆在其下當是未剔宮所拓入

石者其事未竟似耳
吳中卿得黃庭經予定為唐人臨右軍
王珣書滿飛右軍用卿得此可作寶晉齋矣
王元美家有虞永興汝南公主墓誌
米元章評帖與吾文王子泰所藏天馬賦同是一種書
朱敬韜所藏趙榮祿鮮于伯機真蹟借歸摹之戲魂堂帖中
彼公書赤壁賦真蹟在王履吉家每波畫畫處隱隱有聚墨
痕非石刻所能傳耳
懷仁聖教序真蹟視此本特為婆媼吾家有宋舍利塔碑云
習王右軍書集之為署正合
趙善公送劉太中真蹟在長安趙中令士禎家以予借摹遂
進於事者瞞去予亡再見不復見矣淳熙秘閣續帖亦
有刻
楊凝和黃庭經元時在鮮于樞家予昔從歸宗伯借摹數行
茲勒以冠諸帖
晉淨住似永嘯破邪論海上潘氏所藏宋帖也
宋諸出師頌在楊李項子京家故是甲觀
張長史真書壁記世無別本唯王奉常敬美有之陳仲醇摹

以寄予

定武禊帖唯賈秋壑所藏至百餘種今其家廖墅中縮為小

本或云唐時褚河南已有之

丁酉三月十五日予在吳門韓氏伯家其子石周攜示予類

書類書句身告徐季海書朱巨川告即海岳書所載皆是

雙鑒

明陳繼儒太平清話

米庵宮樂圃墓志手蹟予從長玉家見之

顧光祿有唐朝人兄妹共寫法華經七卷楷法甚精

予見蘇文忠手蹟與郭昆平帖又與中玉提刑帖又獻臣帖

又蘇過題郭熙平遠帖稱為朱子修所藏文太史跋

予藏有東坡清醇帖手蹟

予于項子京處見醉道祖字一幅又王晉卿謝鯤帖一幅又

豬蜂字一幅又吳傳明節婦詩一幅又沈文通秋扇帖一

幅又蘇文定公和詩帖一幅歐陽玄字一幅又宋拓懷素

千文一冊又東坡乞田帖一卷又趙孟頫帖二卷又黃文節

公詩帖一卷又米襄陽杜詩山水歌一卷又子昂文賦一

卷吳興賦一卷而其閣如蘇門允題懷素詩御志完建平

秦張旭千字文之書省生平未見之翰墨也諸蹟中宜

以東坡六帖為輔而以懷素苦筍帖後有米數文跋者

壯之矣

紫陽山下有米南宮大書第一山三字于石壁予從文人張

元汝處得其搨本

俞紫芝有跋十七帖向藏林汝大家後有大勒字世傳為勒

本紫之過其家跋之

顧書米巴川詰真蹟有二卷皆絹本前後絳與小璽藏項子

京家其停雲館刻墨蹟後有鄭文原齋贊成二跋者向為

予昂齋林碑其真蹟曾黏村民屋壁上王野實買之以轉售

項氏

思陵草書詩墨蹟藏項家押縫有御書之寶印書後有御書

私印收藏有王濟之圖書及三槐堂印

精河南聖教序有三本其字有肥瘦方圓寬窄不同予有瘦

本元美公題跋

乙未六月初四日過項又新觀曾公類真卿行書定襄王郭

公帖趙子昂書張文階送奉尚寧叔王羲之淳書二帖黃

太史星如趙子昂歸去來辭
子得俞仲蔚手鈎金剛經一卷
大令送梨帖十字柳誠懸書題十二字尚歲玉敬美家分授第四
子閑仲常見之大令字疑鈎填公權書與神品也
子昂書秋興賦行書墨蹟向為吾鄉玉緝之所藏後有張東
海項子京諸家
張顛帖德頌宋學士云曾見之
子見鮮于伯機草書高參琴操心章及秋興十首真蹟後

題云為閻寶井撃書
趙魏公書子見其秋聲賦一卷晚歲筆也後有文太史徵仲
顧應祥跋
宋高宗手書龍王勅向在三塔寺傳信大海貿項子京家
高宗書養生論姚侍郎物也贊吳伯宗跋
七月十二日見蘇東坡觀海詩黃山谷雄清道人船米庵宮實先
明郎中帖東坡潤筆帖黃山谷贈道人船米庵宮實先生帖又米南宮臨蘭亭帖真蹟項元汴所藏
柳誠懸度人經藏項司馬家今授仲子希憲
子見晉仲姪書一卷平安家書附二哥牧游此池湾北代所

藏予趙文石跋
子得俞仲蔚手鈎金剛經一卷
大令送梨帖十字柳誠懸書題十二字尚歲玉敬美家分授第四
子閑仲常見之大令字疑鈎填公權書與神品也
子昂書秋興賦行書墨蹟向為吾鄉玉緝之所藏後有張東
海項子京諸家
張顛帖德頌宋學士云曾見之
子見鮮于伯機草書高參琴操心章及秋興十首真蹟後
思帖行楷書止存二行約二十餘字在黃麻紙上後項子
京自敘收行董玄宰題
大令十二月帖歐中秋三行紙色與行楷相似無疑語玄宰
題教行送熟帖真蹟
晉相大司馬羊燥帖楷卜、
謝康樂石壁帖歲下一老公山五少年贊
梁鴻樂毅論真蹟項元汴出此帖索價六十金
唐馮承素臨本樂毅論在重麻紙上摺裱
唐摹蘭亭墨蹟 趙參軍摹晉千文
歐陽率更摹歐帖真蹟 唐褚施東觀帖

褚河南書枯樹賦真蹟兒鷹類真蹟跋石軍曲水序世稱天
歷蘭亭
薛稷書真蹟
孫虔禮草書千文帖在白麻紙上
唐文皇哀册諡遺良臺蹟
李北海縉雲二帖
唐建天進帖模本
張長史春草帖又混沌帖上有明昌鑒玩御府寶繭玉中
秘諸印
顏魯公與書宋巨川告身真蹟底購帖真蹟
柳誠懸楷書度人經卷真蹟
一帶雲根卅帝藏字百

一帶雲根卅帝藏字百
欽定四庫全書 卷第三十八 二五
顏魯公與書宋巨川告身真蹟底購帖真蹟
柳誠懸楷書度人經卷真蹟
褚河南書枯樹賦真蹟兒鷹類真蹟跋石軍曲水序世稱天
歷蘭亭
薛稷書真蹟
孫虔禮草書千文帖在白麻紙上
唐文皇哀册諡遺良臺蹟
李北海縉雲二帖
唐建天進帖模本
張長史春草帖又混沌帖上有明昌鑒玩御府寶繭玉中
秘諸印
顏魯公與書宋巨川告身真蹟底購帖真蹟
柳誠懸楷書度人經卷真蹟
宋范忠宣手簡司馬溫公史草跋敘帖
蘇子美草書二帖真蹟在松箋上留別王原叔古詩帖
宋高之翰尺牘
王荊公介甫正書楞嚴經典
歐文忠公天際烏雲帖在白麻紙上
又新處子蕃騷合為趙石集行書二詩真蹟行書二
詩真蹟或曰山谷書非也小貼記
楷小楷參老篇天慶觀乳泉賦歸舍人帖勒碑師帖
病眼與徐得之札又一札與曾子駿九辨卷九歌卷跋
一帶雲根卅帝藏字百
晴卿唐履閶扣門詩一首大楷書開明欽禹一首書唐古
千詩卷六十三首為王越石物酢翁亭記
顏魯先生詩帖
杜樊川紫張好好詩并序
真文節公書漢人得道陰長生詩三篇正書古語真蹟在宋
自楷上楷高尺餘長二丈絕無接縫楷書連經為真文端
公所藏草書韓典小真行書三帖共一卷在楷上伏波祠
詩草書李太白憶舊游寄譙郡元參軍詩大書贈元師詩
兩楷黃庭道德經并經句詩八首草書秋浦歌題元上人
北君軒詩卷王虛周卷行書蓋長書墓志銘稿在紙上橫

卷行書宋改瘟南詩老史湖感慕志銘摹文手簡一道雜
錄冊名山谷志林
石曼卿大字楷書古松詩盡蹟在宋榻上橫卷
米襄陽行草陽說大行楷書天馬賦小楷七帖草書九帖行
書四段前有修內司鈐縫半印吾鄉項子京公所藏今歸
盛念情長者明公二帖南宮書翰卷兩扉篆于卷前行草
集英詩蹟字大如掌平陽久藏中岳詩卷湘西詩帖都梁
十景詩蹟苕溪詩卷華書畫山水歌并絕句真蹟在精上
本朝表忠徵家物也今歸於陽史君峴山詩蹟小詞真蹟

薛道祖雲頂山詩真蹟臨蘭亭敘
趙子固趙松雪師道場詩行書墨蹟
薛尚功鍾鼎款識冊 宋賢劉子十七帖
宋名公翰墨 宋人手簡二通
宋高宗宸翰行書詩四首在白宋紙上用御書之寶大方
印住押行草洛神賦書絹上後款云德壽殿印
胡邦衡劉子翬楷書真蹟
韓忠武王二詞遺蹟 張桓相方火翁詞翰
汪龍溪手札 陳剛齋詩蹟

徽閒文正公朱文子手帖墨寶卷卷首有亮山王綸篆書
收故翁草書大聖樂詞長松心詞五開手簡二通真蹟行草
在楷上 吳大有詩帖
真西山與王周卿手簡在粉箋上
張樗寮正書金剛般若波羅蜜經收項子京所藏又一本為
項子長所藏與子京本紙墨筆法不異蠹髮
張叔夏過鎮平原東慶園賦高陽臺詞蹟
宋丞相文信公劉子小行草真蹟在紙上橫卷
趙文敏公摹蘭亭敘臨褉帖在紙上真草千文四體千文跋
智永千文小楷麻姑壇子仲穆書讀書城南又司馬溫公
勸學三帖卷楷書過秦經真蹟二卷小楷高上大同玉經
在宋紙上有三千餘字橫卷高上大同玉經金碧古文龍
虎狀經楷書洛神賦又書洛神賦卷又昭華書洛神賦行
書歸去來辭勉學部并序光福寺重建塔記真蹟卷楷書
湖州妙嚴寺碑記在宋榻上橫卷公有冢卷前中峰懷淨
土詩後集贊春暮詩卷天冠山題咏行書詩詞雜書八則
真蹟每則有款南谷二帖簡覺軒路教真蹟卷子識劉行
書坡仙煙江疊嶂卷書陶詩冊

鮮于奉常書詞手又草書唐絶句跋墨蹟
慶伯生書慶雍公誄蚊賦詩卷真蹟
郭天錫手録詩文雜記又手抄語賢遺藁
貫雲石詩卷真蹟
吾子行書古文藁贊二帙　柯丹丘山屏記
虞文靖公手録詩文雜記
虞伯生書慶雍公誄蚊賦詩卷真蹟
貫雲石詩卷真蹟
吾子行書古文藁贊二帙　柯丹丘山屏記
虞文靖公手録詩文雜記又手抄語賢遺藁

卷詩戲墨題雜題絕句墨蹟附題
楊用修太史詞草
藥林屋詩翰碧筠精舍記并諸名公詩卷
文太史摺書老子傳及書前後赤壁在為終黃宋牧上盡摺
法之妙林承為補兩圖拙政園記并詩長卷今日歌行草
十美人詩卷三題吉祥卷卷詩餘墨蹟
祝京兆行書在山記文選及書語性上下帙卷末有王守溪
太傳筆記五德間異聞二則為墨林項氏所珍後歸吳
功甫太學名顯科者功甫去世又歸之吳荊府君草書月
賦卷僧美賦卷并叙急就行草懷知詩帖書古詩帖閒放

詩軸詩單諸墨詞蹟
唐伯虎詩蹟歎世詞八闋
王雅宜遊山詩行草題咏墨蹟題畫語蹟增書石湖八絕句
陸五湖行書詩箑 王西室詩草
徐子與送聊聊王氏昆季詩草
彭孔嘉書冬游石湖記卷卷首為文壽承大書石湖春曉圖

文文水書澄心齋銘 周幽海詩草
葉夢卿筆塵與劉生手簡詩詞墨蹟
王伯敭詩卷 白石山樵詩詞墨蹟
陳眉公各餘記 張元汴書尚友山房記
高鳳初仿蔡蘇黃米書燈夕詩

錢塘 倪濤 撰

歷朝書譜

蔡端明謝賜御書詩

臣襄伏蒙陛下特遣中使賜臣御書一軸其文曰御製賜宰臣
讓者庶孤賤遠分無大材襄陛下初濯宸翰推著赤忱保臣恕
詩一首以叙遭遇干冒聖慈臣無任荷戴銘荣之至 謹奉即
起居舍人知制誥權同判吏部流內銓上騎都尉賜紫金魚袋

臣襄上進宮詞一行
書
皇華使者臨清晨手開寶軸含煙新公名與字發揮音容宛
落筆絢文精神高遠照日月勢力雄健生風雲混然器質不可
寫乃知學到非天真越襄自詩價希代誰顧四壁嗟空舍臣聞
帝舜儼聖域最閑大禹為其隔叶俞敕哉欽與要垂履後世如
旁皇坐下仁明如舜禹豪英進用叫鴻鈞臣襄材智最駑下豈
有志業通經論獨思丹誠抱忠朴常欲贊奏上吉珍又聞孔子
春秋法作吉褒貶者經內尚莫能稱但思至理書諸紳
紳大施入洪化將圖報効無緣國誓心頓起誤詞庶裨萬

一卷宋元明書 卷第三百八十一 三

山僧九十五行是百年人其香猶度起意尚見天真生平持戒
定老大有精神那知不變者却試故時新 右題龍起僧居室
歐陽公題其像云此
一幅極有古人風格
雙眼為一流新楊楊鮮潤淳岳嵩高雪傍卧影登川下峽深風力
豪石响扁聲馮古劒數神龍商帆來陣馬晴光轉層山翠色看
定元汀州生芳州香樹門閩治生即黃士公高文章板賣顧我
久疎俸霜髮海盈把酌津旅席遥夢墨傳清偉舞壁驚狼藉歌
扇婚雲屋雕餘滴晚窗望外淡空野曾是倦游人意思亦蕭洒

右題南劒州延平閣

大雪慶空野雁車猶遠行晨抽初一色晝夜忽流明有物皆蒙白元慶鋪翠滿只看孤水在却喜亂山平遠繫舟觀二起投花點點輕玉墮天上出銀闕海中生舞袖鴻洛態聞餘雅聲客燈何暇媛官酤未能經夢吹滿春承新陽祝晚晴更登分界嶺雨望不勝情 自漁梁驛至衢州大雪有懷

穿越門前路歸臥駐石梁西山氣色好晚日正相當 石橋州

穿越門外石橋看西山晚照

吉祥亭下處千枝看盡將開欲落時却是數紅有深意故留春

色總人思 烘黨微照自生光吹面輕風與送香誰把金刀收

一帶雲根卅堂藏書 卷第壹拾壹 三

絶艷醉紅浮淡上叙梁的二名花斜簡華燈夜沈酣月賞時

今朝關外尋蘭惹忽見孤芳欽斷魂 玩州酤平精廠寺西軒

見石藥甫枝追思想吉祥院賞花慨然有感喜呈薛書劉四月

七日

風音神都別于今相水遠故情獨望却佳月事在於大字才當

重清明土俗家犀珠來戲削征鼓去啾嗚湖湖添天闊船旗背

日高醉春渺渺秋外日閑閑新曲景聲侍名花遲桂蕊吟亭枝

越地愁杭賢客游論詩飲乃多快心懷銀石牢沈酒旗角倚斜

忘霜毛雖鑄紅隨動十支江流波綠兩鬢塵紅說思南北路始時

暗雨蕭蕭 宗德夜泊永福建提刊登之山思錢塘春日并送

小字
自法

盡道瑶池瓊樹新仙源尋到下塵人陳王也作登高賦未必當

時見洛神 嘉禾即馬書

經閱喪故尋吳珍元遺音好在 把遠竹倚風新綠滿春承新陽祝晚晴更登分界嶺雨

半每思唯有吟堂住既自如世味隨浮沉琅玕抓雲裘悵望空

山李直不悟至理悲來雖獨任 無根

此泉何以珍適與直茶遇在物兩清絶於予獨得趣解香筋下

雲母浮杯中豈當能變俗骨直特前塵盡忘慮靜清風生襲襲入

一帶雲根卅堂藏書 卷第壹拾壹 四

庭樹中舍古人意來者應實悟 汲惠山泉煮茶

家於金直被龍帶望庐茶意律參尋只知江海能行遍未識朝

廷為有名笑花病守相 主刀小芸即春生膏腴未花尼知

石岡手公數老成 蜀陽蔡襄

茶品譜卷 帖 內山堂藏

丙午三月十二日晚 飲等軒樓到清樟江上煙雲向晚香梅

倩東風吹散雨明朝待人花開

十三日吉祥院採芝 花未全開日未剖宿花待月思依然明

知花日無情物若使多情更可憐 十五日山堂書

雙眼已過魚眼生題：試作松風為家童出磨細珠茶施轉缾
瞬飛雪輕銀餅高湯潑第二未識古人煎水意但不見昔時李
生好客手自煎貴從活火發新泉但不見今時於公煎茶學西
蜀定州花瓷琢紅玉我今貧病長茗碗分無玉盌捧蛾眉且學
公家作茗飲頗鑑石銚長相隨不用撑腸拄腹文字五千卷但
願一飽長安睡足日高時　煎茶

大瓶盛酒和且平小缾庋雪煎香餅以膏我口以清我生未識
鳴蛩中雜登來門前剝啄誰知吟門山借未聞扣門聲與鼾
一帶雲根卅雪藏書

千斛水淨洗煩前筆苗耳　聽賢師定慧琴

云何見祖師為識本來面亭亭塔中人問我何所見可憐明上
人遠自知指月無復瞎我本脩行人三世積
精練中間一念錯受此百年譴摘衣禮真相慶動淚雨霰借師
錫泉洗我綺語研　過南華寺

我欲乘輕舟東訪赤松子逢萊不可到弱水三萬里不如金山
去清風半帆耳中有妙高臺雲峰自孤起仰觀初無路誰信平
如砥臺中老比丘碧眼照當几瞪：玉為骨霜：霜入鬚機鋒
不可觸千偈如瀉水何須參德雲即此比丘是長生未嘗與

徐龍友王學高項元汴諸跋見前

蘇東坡李王文父子拜之前二詩柳存書

江上愁心千疊山浮空積翠如雲煙江上愁心千疊山浮空積翠如雲煙
飯山依然但見兩崖蒼：時絕谷中有百道爭來泉繞林絡石
忽復巳：杜谷口為秦川五山開杜蘭研小橋野店依山前
行人稍渡筒未外漁舟一葉江吞天使君何從得此本熙寧紹臺
未分青與白不知人間何處有此境徑欲往買二頃田居不見武
昌樊口並鄂東坡先生謫五年春風搖江天漠：莫雲卷雨
武陵豈必皆神仙江山清空我愛主雖有去路尋桃源還居此
盡三畎息山中故人應有招我歸來篇　書王定國所藏王晉

山圖：卅楓翻霞作水宿長松落雪驚醉眼桃花流水在人世
御煙江疊嶂圖一首
來坂先生來歸時自種來禽與青李五年不踏紅塵路夢逐東
風上苑春種益江梅山杏為誰容獨笑休：臨野水此間風物君未
識花浪翻天雪相激明年我復在江湖知君對花三歎息　次
韻王晉卿送梅花一首
僕去黃州五周歲矣飲食夢寐未嘗忘之方請江湖一郡書此

二詩寄王文父子辨兄弟求請一示李樂道也元祐四年三月十日

元通玻見前。

蘇東坡壽武昌西山贈聖求詩蹟

春江綠漲湧鼉鼓昌官柳知誰數憶從樊口載春酒步上西山尋野梅西山一上十五里風景明晦變態百出西山之勝在武昌而人罕至蓋未有能上吳王臺中原北望在何許但見落日低黃埃歸來解劍亭前路君唯早入雲巖推浪翻醉處今尚在石臼松欹煙樽罍爾來古意誰復留君有妙語留山限至今好事除草林堂

恐野火燒春苗當時相望不可見玉堂金鑾閒豈知白首同夜直卧看棕燭高花摧江遠曉夢初驚新鉤環玉鎖鳴春雷

山人根空候鶴怨江湖水生應為語雕肝放懷漫落江山堅松風哀 右武昌西山贈聖求一首

李委求攜錦李東陽三城見前

蘇東坡端硯詩卷行草書

披雲離北臺度扁入中夏重簾蔽芳畫鮮爽檻墻驗意冥遥庭石語修參匪學道所如常防鉄鈐鎖 觀門整

同屋律：司馬旺宋：楔羊雄氣追松滋袁姻聯雪濤姚公立堂

却瑞姍飲水何甘閒寺墨面豈點金貞口終啞靜惟脩壽為珠

出可處也學史記獲麟昔帖題累鮮健有形空衆緣風字仍雄哦戲題之八絕句

有信矣俱出跨地知昌公他不媚王孫貴銘詩奚器傳家刻當

裸打盤顧拾手遺嫩者任聊且蛩鳴端硯詩句脫落暮歸復拾

餘韻別題一首時録畢後

蘇東坡村醪帖

村醪二盞獻張平陽

萬戶春濃酒初油想須有甕列床頭主人日飲三千客應笑窮

官送督郵

詩裏將軍已築壇後來稱將欲登雖已驚老健蘇楫在更作風流王謝局肥出足知書藝服瘦生應為語雕肝放懷漫落江山

外番與人間激懦官

張公高處不可到我欲托扁舟雖事業已歸前輩恩梁刑猶畏後人為詩如珠雪清才類身觀飛龍吐臨肝少負高名晚方

川白溪翁竹作仙宮

廣集陳侯孔壽書清智及徐達左侯瓚張當明吳寬九疑

見前

蘇東坡食荔
白我來嶺南三過冬食荔：欲借春春去不忘情今年人苦
雨雨月秋蕭瑟聞海棠花千樹春光閣中簷負夜半真
有力何殊伴侶愛少年子字去病起頭已勾春江欲入戶雨
勢來不已雨字疑主小屋如漁舟漾漾水雲來空危竟寂寂
靈姥憂斯知是寒食但見鳥銜紙君門滯九重墳墓在萬里
也擬哭窮途欲吹不能起　右黃州寒食二首

黃山谷跋見前

蘇東坡天容城詩并序

一瑞雲軒堂藏書　卷第壹拾　九

世傳王逸子高與仙人周理與游天容城、元豐元年三月余始
識子高問之信然仍作此詩柱其情而歸之正赤壁風止乎徯
義之意也

天容城中花宴二雜其主者石與丁琢鼇王棄翁翠屏空舒雲
卷千傳停中有一人長尚青往來三世空錄形竟坐談論黃庭

註天門夜開飛棄靈舸便白日乘雲軒俗緣千却應不盡華被
冷落春餘馨因風縱山朝帝庭夜聞笙鶴韻飄飄而乘謫
使令彼如明月入懷抱而去不可執寒食盧帥風冷：仙
宮洞房本不屬夢中可踏鳳凰翅住處爲里如奔雲玉樓浮空

傳明叔教授各乞一首載上

蘇東坡詩帖小冊

別君二十歲生失兩鬢青吾儕雖艱難斯文終典型盛作浪花
鷗羞看兔死螢一汲我禹聞五鼎葉寒夜談空說劍春夢猶
擾紅塵科斗復鷹實童子方乞靈須煩委雲手去作一蜀星蒼苔
高睨空古柏文翁庭初聞編簡香始覺鋒鋩吷有雄風相
竹養修翎鴻呼應嘶律飛舞集實庭吾儕便點老本足經鉏整

送泉友國教授成都

蘇東坡虎跑泉詩卷行書

虎跑泉 蘇

案寺黃瓜村路香烏乳白曷道未實未實原墳去京關門野寺松陰
轉溪枕風軒客夢長因病得閒殊不惡心安是菜史無方道人
不惜增前水借與瓶缾護月在掌社當

眾圖直班述律錢公道能將佳句屬杜本祥宗初依神沙
白清溪釋弘道九坂見前

蘇東坡獨鶴南飛詩墨行書

獨鶴南飛送好音山中檐桂吳成音陰深衣偏僕初知命色酒
從容向晚斟城裡班家開寄域堂東多士作儒林清霜未落黃

華在突析高枝艱難嘗蘇軾

蘇軾潘毒雪詩帖

報謎賦毒雪一首奉撰府運使司封郎中一笑

發函實大一喜封題賦雅客三日餘旋見雪花投院落未應天
意與人球見乾淅：知鳴雷時畦潤滑：想浚鋤高會梁園還跡
在早知詞賦似相如

蘇軾潘再賦毒雪帖

再用毒字韻賦毒雪一首

春秋無麥似當毒況復秋田水潦餘一雪尚來救焦爛千箱已
與等親疎市於溫廣貧非藥鋤病陳根不用鋤猶恐遠持沽未
及更呼農圃問何如轍上

蘇軾潘詩帖

潮落戲公定官舍中愛其風物遂卜居成都方未能歸因其西
還為短篇送之眉山蘇轍上

峽山初見月江水已生波客子念歸舟風帆何太多
及兩岸開野曠林木列遠峰孤城帶落日亂流若奔江
事為言父老莫相猜

蘇軾黨試後回詩帖

過録呉金陵上呉閣府兩絶句

時平恩事清吟好得霍公功未足奇爭似一篇人膾炙四方傳

誦卧龍詩　閣府帥席間賦詩有卧龍故云

覆前俱好之句為世稱誦故云

病堂陶鍛人材盡流落江淮老病身又踏黄花隨鴈子思量卸

禹是何人

一再海儒真呈張使君

江淮莊蓋閣如林未一已知何處尋風月欲說嫌詩帀山川不

淺似人心使君德量如天遠舉子科名自陸沉秋氣未悲先感

一帶雲林神堂藏書畫

下黄花雖好不曾簪

哥如暴葉賦詩

伯禹石莊去天寒曉出門亂岡打兎盛歌熊人為村父醉酒力

事如述海氣吞客海無限事端的向誰言

羅氏一門諸帖及二蘇諸帖跋已見

黄山谷贈元師詩冊

元師自榮州來地送余於瀘之江安綿水醉困復用前所賦此

居軒詩贈之并簡元師從弟周彦公定堅

歲行年已逢中年踏谷起廢自林泉王師側聞堂下聖恩欽

卷四十五

覺社湖中有明月庵南草木備光輝故應剖判登王室不若行

沙善夕露　右奉呈外舅孫舉老

小點大癡螳捕蟬有餘不足婆憐蛙退食歸來北窓一江春
月趁漁船　右歸月門下後省卧酺池寺書堂

映日低風整復斜綠玉層心黃袖應大梁城裏雖罕見心知下
是卓家花

九疑山中暮綠華紫雲承諾到羊家真箋森蝕詩句齒猶托餘
情開此花

仙衣碎積篤黃鵝草木無光一史閒人間風日不可耐故待放
盡葉下來

曷沐水肌照春色每牛抑羅風不開五言紅塵無路入猶僧蜂
須蝶翅來　右和王仲至少監詠桃花四首用其韻

溫皐石湖表立儒都務六賦見前

黃山谷題元上人此君軒詩卷王周彥卷

此道況霜多座平喜君之半廚龍泉拂開明食乳當庭豈有
意師無絲滿而豈非俟舜命道人的中有水鏡霜鍾堂下月明
前栽竹雪壓如懸磬敲帝不掃舍人門如願不謁青鳥居來謁

道人富風竹手弄霜鐘看向雲平生寂閒公子舊今年雖舉賈
生秀未知來帛何當央但有一坤相倚寢欲栽老龍吟夜月無
人處共江山說申郎解賞柯衆掾玉局歸時居為傳建中靖國

元年三月辛未鍾陵黃庭堅會直奉答周彥

黃山谷水仙花詩

凌波仙子生塵襪波上盈盈步微月被誰招此斷腸素花寒
花寄恨絕含香體素欲佩城山樊思君不見夢魂繞

悵出門一笑大江橫

黃山谷三言詩帖

寒岳雲公九夏無閒綠重巖巖碧屋頭古松下卧盤陀盡復夜
入德水清且美盥精神凌矛鑑亂雲根累峰裏相更群隨器衙

右陸游胡長孺一坂見前

一榻空花卅堂藏書

黃山谷憂邯詩帖

汉郎江南洞隱處古木欠天意手栽石出為夢酌花鳥自計作
鄰洞盤梅平生四海蘇太史酒處不下的崔嵬黃州副使坐閒
散跡無路重銀臺鸞鵷列前弄明月立起舞徒生峽次山
醉魂招勢踏步入寒矣金罍雅洗淨庶幾命道人的中有水鏡霜鍾堂下月明

作墨誰知文章照今古野老爭席魚爭浪鄧公勒銘留劃劃
易銀鉤先練苔磨琢十年烟雨晦摸索一讀心眼開論去長沙
愛鵬人歸來杞國痛天推玉堂却對鄧公嘉北門喚仗聽歐雷
山川悠遠吳長計高貴峥嶸今鼎未鼎盤松實如在年意不及

此友生哀　舊詩一首唐蘇公實甫何能稱提要之意承見索不已故漫寫去甚歎污此江南紙也可留辭几不必刻之

西山庭堅稿首

黃山谷花氣薰人帖

花氣薰人欲破禪心憍真當過中年春來詩思何所似八節灘頭上水船

米南宮中岳詩卷

拜中岳命作帝

雲水心常結風塵面久虛重尋鈞蓼客和入謁仙閭崔真官

一帶雲根卅雲藏書

耗龍蛇與衆俱却憐閒祿虜不敢著潛夫

常貧須漫仕閒祿是身榮不托先生第紋成裕吏名重能謀法

口靜洗盡山晴暴惠中何有圖書老此生

徐有貞題應龍二跋見前

米南宮湘西詩帖

湘西未冷捐留雲此日還如入夢魂六月薛蘿嗟我欲一生林

壑與誰論吳王舊賞今何在惠可餘光宛若存對榻東堂清話

歌長風快雨洗松門來觀

楊廉李簡呂企中吳寬東陽謝鐸元沐文璧見前

卷

米南宮都梁中景詩蹟卷

京洛風塵千里還船頭山沐翠屏閒莫論衡霍撞星斗且恁東

南第一山　第一山懷古

龍岭高聳接雲樓擅月鍾聲吼錦牛一百八聲俱聽徹夜行猶

自不知休　龍山寺晚鍾

塔遶雲影住鳥依簡遠清風自在飛山海望遠人久渴不成霖

南又空歸　五塔寺歸雲

西山月落楚天低不放紅塵點翠微鵝喚一聲松露冷水晶簾

漏道人依　瑞巖庵清曉

鐵笛誰吹一曲哀清風約我上層臺悠揚正到堪聽處怕君間

恐却下來　清風山閣笛

山徑重重鎖綠苔松花當見數番開屋仙貴盡招呼力那得休

官一簡來　八仙臺招隱

風輕雲淡午天春花外誰人戴酒樽不是山屋遮隔斷牧童錯

指是孤村　杏花園春畫

半山亭下老巨鼇破破琉璃引碧泉一卉玉蟾窩不住夜深飛

入鏡中天　玻瓈泉漫月

自是韶光不時秋水光山色一時休細得九嶷分明看作飛
來落葉愁　會景亭陳迪

怪石森森：玉作堆登臨晚景更徘徊夕陽無限堪娛好更到奇
山空自還　贈積山峯熙襄陽米芾題并書

米漫仕茗溪詩卷

將之茗溪戲作呈諸友襄陽漫仕識

松竹留同夏梁山去為秋久居白雪咏更度采芹緝五鉏雖
采菊滿洲水宮無限景載欣謝公遊

幸家依脩竹三時看婦花懶傾惠泉酒熙盡經濟茶主席多同
野犀峰作不讓朝來陰霽間便起故巢居

余居幸叔諸公載酒不一而已後借書對客同三姓
好懶難辭友知豹宜念通貧非理生拙所覺養心功小固能留
客青寒不厭鴻秋帆幸賀石載酒過江東
住僧出、硯落堪頻慣轉運熙來隨意住亦宜坐逸緣惠人境親疎
集他鄉彼此同煖衣貧食記但覺恢無鴻

旅食懷交雖浮家為與未句留制水話標向卞峰開過刻如
載旌梁意賦枚漁歌堪話處又有魯公陪

密友依春折紅微過夏榮園段味自得九嶷分明看作飛
包車無石對望幻情皎二日依喬滿船行　元祐戊辰八月八
日作

米南宮是陳建州詩卷

又年為情抗黃塵書卻歸來世又許若曾去襄山下看人間不
大敵精神

題何氏文東堂靜先黃塵眼界花萬營精神左風月好詩追
取不須貽　數忠詩呈上陳建州載欣謝公遊

深詩首唱云日泪塵埃閒裁華青山相見認空花清住風月元
無價建仕詩約為我賒又「篇云衣潍千古月底東六月成霜
日日盛天降玉漏無少處夜山園在月明中絕唱也為之刻而
不復矣

米南宮峴山詩跋

皎：中天月圓：程千里裂潍乃一水所為已過二次羅即峴
山勝云形天地地惟米吳儒山水古性襲中有故、人壞石玉
為餌位惟列仙掌學與千年對越操久搓盛迹：願招類嵐高
歌遂雲檜重朝隱樂叔颺谷逸秋光秋畫有風巒嶂鬱
有刀利亭　太陰宮無乃暗星表觀深處陰一理洞軒當檐」關
自

坦坦忘懷易活之得哉行矣須公起　石和林公峴山之作

鹿門居士米芾

米南宮醉墨草

下淨名

鳥覆真禪智晉山雨半閒遶屋基種裏且喚竹與來

不集南山

山翁苦节鳥隨庭下青春鶯雀飛幕府倘為方外客風前憶

易道衆衣　襄陽米芾醉書

安雅堂跋見前

一帶雲根卅雲藏書　卷第二百六十　三

米南宮三吳詩帖卷事

跋謹以都詩送聚樂通真使江西襄陽米芾上

松一歲數榮使秩水浮朝月薄遠塵觀止言別不可攀裏盧有

雲馳

米南宮多景樓詩帖行書

三吳有大氣砍石海水開口論世事借著對天子端宜高如

縱目天客曠披襟海光開山光曉眺到雲影度江來世界新製

足惟素入閩生涯村一杯橫風多景愛應似滕王堂

米南宮砂步詩帖行草書

砂步

砂步應皆令松門君持操修之得我行矣須公起　石和林公峴山之作

又

已有扁舟計宿有過刻閩翻思名子墨誰復賈工夫

米南宮諸體詩卷行書最高戊寅歲閏紹興內府鈐印

擬古

青松勁挺姿凌霄壯盛種之出枝葉東上拟端秋光起終

煙蘿施雲錦殷不蓋不日立舒光對見之相見子欲歸疑緒

頹滿青松本無華安得保歲寒

一帶雲根卅雲藏書　卷第二百六十　三

龜齡年壽齊泪介所託修種之是靈物相待忘形骸鶴看冲霄

心龍獻出尾君以竹雨附口相得上雲衢報汝慎勿語一語墮

流空

吳江垂虹亭作

新堂一片洞庭帆玉破鱸魚金破柑好作詩寄春守垂虹秋

城擁客里時為卅州之行

西滿東南

天二五湖霜氣肅度二不辨水天形何須織女支機石且戲蟾

入境時集賢林舍人

揚帆載月送相過佳氣葱葱聽歌珞下拾遺知政肅野多滯穗息時和天分秋署酒吟興晴獻漢山入醉眠使挑蛟螭共研墨綠綾書盡剪江波

重九舍卽樓

山清氣爽九秋天黃菊紅萊滿泛船千里結言寧有後庾賢垂至懷抱前杜卽閑客今爲屈謝安風流古所傳獨把秋英緣底事老來情味日詩偏

和林公峴山之作

皎皎中天月圓圓徑千里震澤乃一水所占已凋二毛羅卽峴山讌其如沈周功名明主衡五嶽見前

一卷六朝卷書 卷爲言公 玉

山謀云彭人地地性來民偏山水古佳麗中有皎皎人瓊衣玉爲佩雖則仙長學與千年對並採文猶處地願招類金觀

蕃秋歡歌逸雲指是朝暉與赴眠暮送光子快雲高有風馬也

鶯有力利學太陰宮無乃陰星氣與茶禽陰一理洞軒棠倚

給會俗勞坦志懷易古我將行盒 須公起要前塔著有異月故

送王漁之勞舟

東吳春鼓鴨稍歌神武天臨光下徹滄瀛初唱第一聲白面王卽平十八神武樂高天下遠不使疑神使傳道衣錦來南宮

卅林壁湖山雨清照襄陽野老漢皇不愛汾華愛泉石相逢不約約無逆與種書書同岸酒深朋樂賞初月暮環斐洒心琴易底翩翩鶴雲中招玉笛飛鵬那一顧過來忘業何深至遇遲早客不愛汾華愛泉石相逢不約約無逆與種書書同岸酒深朋樂賞初月暮環斐洒心琴易底翩翩鶴雲中招玉笛飛鵬那一顧過來忘業何深至遇遲早客不愛汾華愛泉石相逢不約約無逆與種書書同岸酒深朋樂賞初月暮環斐洒心琴易底翩翩鶴雲中招玉笛飛鵬那一顧過來忘業何深至遇遲早客不愛汾華愛泉石相逢

四方足多賢英才並起時少有俳聲能爲鬼老學鴉夷漫存口一官聊且三徑資取採蘇堂莫迴首 元祐戊辰九月廿三日

溪堂來載記

並其高沈周功名明主衡五嶽見前

一卷六朝卷書 卷爲言公 玉

京名公翰墨合卷 王王水晶本

蘇東坡壯年和韻詩帖

九風爲花好真一真清溫潭理當情趣招連蝶夢魂飲酣浮劍雪作快新翻水竹勞遠意羽紅似故園 壯兵五言和人韻

蘇潁濱和子瞻詩帖

墻牆公折才不辭白髮衝雲路折春忍過銀鉤迷歸路誤認瑤臺故人訪我不嫌泥正滑留君深愧酒非醇歸時九陌鋪寒月清絕空教僕射頻 和子瞻元招子高晚飲

米南宮雜書詩帖

鶴來招要意已真拔堂許到轉相親巧栽花竹益多地淨掃軒
窓無一塵傾倒不知情話密衷賀未畏酒行頻茶花一夜成珠
連風雨還增客恨新來疑

六藝之一錄卷第三百八十二

歷朝書譜

宋賜墨跡 詩翰

羅漢組雲頂山詩卷

山廬秉峰首寺古柴雲頂西邊金泉來登山緩歸鈔時暮下三
學出谷之迷頭山名高劍外回首西面前嶺路攀田難到賴此書
帝永記七石城出步七松徑引青霄屋為崔下倚二州境玉壘
連金雁西軒列阡畛青城與峽城天際暮雲隱少城白烟裏水

墨黑燈影江流一縷動不復聞魚舟東斷棹洛臨右書錦川迴
望沱石不轉粘持手頭四更月春拙惠喉天風暫客行蓉船
指到此見屋舊時方外接的情性青心靜明朝武江路拘官冬
成帝建中靖國元年又月廿四日題徵君士隱

上清道東賢高超塵物外自製亭名也錄示詩句未見
生最相難逸老鑒已庶雲下存為可記憶

雨不熹行在雲綢依故山看實醒醉眼乘月棹迴獨水上三更
月烟中一葉舟寒臨重閣迴影落亂山汽暮烟春樹暗落日渭
川明平林映日疎野草經寒組翠帶乱葉飄零日出水清淺官冷

懷非吏事地偏相訪定開人
無慶鷗驚鷺飛起秋風愛荷花
生四面當年世人建謀理無行路蒼苔露未晞曾愛暮塘照碧
草偶來露夕看紅葉無人雲閉戶深夜月為鉤時雲凝華理琴
陽滿畫橋不眼疎竹雨高卧枕風清渡雨時鐙
窓半夜撰微風拂涼吹清烟生遠樹天寒湘水秋雨時蒼梧暴
秉月多忘歸往返蒂霜露日然鴻鳥覩日與漁舟思去意已輕
千里陌深杖難斟九回腸斷後葉落秋風鬼思對霜天數雁行
已上雜記然全章皆忘之矣語同未佳要之忘平生於心一事

老友必憐裏最落便風早以為寄也絶影再拜更有第三篇今
亦不見來信不言及必不在仕不知失志何處如何如何
石綿山中多青松風俗既之让供熬鬱之用君魯僧剃才見一
本欲而太息輒謂遠守晉伯相携植庭庳使人知為可意東川
距綿百里餘入境途不復有嘗伯因以為忘昔流而來及此皆
活作詩述謝併代簡師道史君能史君能之
越王樓下理戎行水來一葦航便益可須千歲幹封侯已
傲九秋霜禽風便有望等謂幕雨倫垂玉憲光免作爨烟爭屋
底華軒自在拂雲長

通泉宇宏出官奴日日臨池恨不如
作使莫書報閩何處二春路馬足經年萬里餘多謝玉華宮畔
客新詩未覺枝人疎　私臣應韻
賞事也不笑笑不

錢子華承師詩帖有相書
絳侯成社頌寄仲師長老頻川韓絳上
承師一指使心空為泉系羅網處通則後自它知不陽漫之積
雪起寒風

蘇子美船到王原故古詩帖

交道今長吾難以古義責錙銖欵利害便有太行陽子生性閒
珠逸人出物腹一旦能欵机所向盡支戟平生交遊者化為虎
狼頻請氣愈烈中之若病疾逢令老公人坐是忘見斥既出
雲香署又下金華虎符寔鞅任宦名非所惜罪始賜于時
情未當除令來忠州涯日夜門蓋陽高風激頹俗打渴追平晉
日玉露肺肝晴雲見顏色已和天琢削自有清氣向明日大昔
行嗟：四海窄　韓欽作詩留別　原叔八丈閣下　慶曆乙
酉清明日書
文徵明跋見前

秦少游竹詩蹟草書

墨君颯颯風雨鳴垂鸞舞鳳翻青綾一中珍真教有縑素帝胄
川三百畝金鋪玉鍵宮瑯玕婢打奴顏謝花抑揮意真從波寶
閒車古高標壓屋龍不須辨真致湘江使樂屬窓寒意遠挺然
地春華幻塵垢拂手掌端可有神性來平生於意支前時振倘
後無繼君賞祕靈宜永久元豐三年上元日住海居士秦觀記

陳晉之詩帖行書

太常少卿陳晉之

行藝雲年齊所閱歷名久矣動筆紬支境東里別摩師席設
經業履歷白髮忽驚萬里慕青杉雖隔茅屋春雨京樓藏垂芳
遠多少生徒淚滿巾

岳武穆題池州翠光亭詩

愛此倚闌干雖同寓目閒輕陰春晴日秀色隱空山島樹藏
秋紅帆杳靄問予駐江上老心羨白雲閒無飛

蘇後湖詩翰

德友近在只尺乃不相過因成小詩呈座上

十日已吹梅信風絕悔未許一摘同春居不寂習主簿悵我昧
非庵德公

德友求墨蘭花數數作小詩代簡呈上

閒訊雲蘿小隱家剡藤新墨半欹斜西鄰落筆已殊絕發興不
須琴自花　前席中席　逸得非有酒餘落筆之興乎呵呵

徐渭書連蘇崎陳雅言以見寄前

東閣群詩帖

秋耿堂一揭秋人閒高枕載王侯亂實未放曉山出岸月不
滿溪水孤檢蚊　身里是蝸平章千古得無愁湘波見說清入

骨恨不移家向郴山　花

水宿長日靜鷗少便覺京塵隔塞喜風在花荷　雨急

安在長干里書信春未起花香繫夢思路遙山水闊
鏡盒色照江水即此千幅輕漫不開檐簷曲岸轉秋蓮一見分
明故羞閒蝶致辭心許郎與情一株兩年少相看恨不早酒慣
娛歲閑閑嬉索閒來舍笑盟吾與心以偕老即行有程期即

知安未知鴈有生羽翼蛟鼉無光輝寄與紙上字不盡心中事
閒鳥相逢人不如白鬼真心吾淚更苦酒燭閒中主寄語里中

兒莫作商人婦　長干行

風雨長江冷雲天故國除扶頭呼白酒指眼認黃花客夢蘆溪雁歸心雁字斜明年又何處高樹聽鳴蟬　九日原山去非張寒汝見前

蔣宣卿詩帖指指

兔井橋邊鵲荷樓過客仍法乳鄉情路人失喜大師詩都大句知拂塵重到雲房約吾與孟須金閨早築成百年唐大進兒慣見琳宮全盛時趙來荒梗倍傷悲虛堂不復瞻遺像先考遺畫本吉甫志始信吾家世濟荂

一卷雲泉并雪義書　卷第壹百　六

三八將兒敬堅總容貫鳥題伯夷傳本韻本史院借抄本字帝傳前修皆知

霞孫後裔合樂躋與裏補弊宜高略德侍心扇日欽西

中敘親去南巡數里望建于有唐建令數百年中間衰弊吾家曾祖太傅公為司出納且主贊舉起之相繼累世不並兵火之板殼宇大廈弗理居室荒敝聚合尊卑不眠獻歌故作二詩以與甲乙季秋乙亥蔣璨拜里

吳傳朋三詩帖海鹽吉

樓前暮靄暗平林樓上人愁寒思深未必真能作雨從來秋日白多陰三年客夢連歸路一夜西風老杜心欲作新聲寄遠

恨直教先斷腸無奈

久陰思時已可喜況復夜來驅蚊風將三秋涼北雁歸雲人日快更有白月天心當於來萬古有未盡侍子一夕心胸張

刻氣宜高侍莫宜男兒日：鎮心胸莫藏牙爪伺麋虎好名風雲趣自能世說王侯無宿種古常富貴及幷震須將大道為奇

滿吳塘人間雖歡跡　招興成　依歲十月十三日喜於賢巷吳

張敬夫寄劉公詩帖

一卷雲泉并雪義書　卷第壹百　三

柱、頃在湘中嘗約劉公倚斜川故事越南有五嶽然因以南岳名之庶家于柱共負此約三年冬戊戌五月與周元敬吳德夫宇文正父侍父登雪觀和五柳前韻謹書以寄劉公載再拜

打客念故里嘗者思少休如何品題白名流聯復指病眼沙邊鷗輕飄和風著冠巾春意動林丘將復千載人孤高誰能儔亦有一二士舉觴相勸酬未知吾故國草木如此否政拙甘下考智短忘百憂踈鎬倘蒙幸寬盟良可求

敬夫寄斜川時叙往年之約殊不知兩今病矣非如昔時猶心
心不忘耳勉和一章以叙謝意兩再拜
病者不住事庵卧心自休終時不出門兒僕斜川遊趣劇物
換況驚時序孤少年喜追逐累散水上鷗池舟枯木伴風帆春
抱丘我病正賴許懷念老朋倚酒不能飲徒有歌樂酬故人
酌佳日亦復念老生章焉懷抱一讀當一百憂吾君念我歸
計未易成三月七五順寧閣

朱文公書寒詩卷
一亭心在水雲外三峰畫裏看
朱考亭書寒山一谷道人何年來借地結茅屋種藥供晨
餐
倦洲數千伊下有雲一谷道人何年來借地結茅屋種藥供晨餐
綢繆此娟幽獨榮榮伴書窗閒徑玩秋英游得名勝自住有
扁牘坎履或鼎來共此歲千宿夜燈照奇語曉案散遠目君相
共甘寒園黍為書復至今發問字來者必三請舟科和高山懷
然心神禹我生雖已後又此寄聲謝孤興屢呻吟屋頭數遍遠
十年落塵土尚幸不遠復新涼有佳期救日成征軸雪與出門
去急南過原陸入谷尚輕屐解裝上銀燭虛空一瞻望遠思翻
感而祖既亟臨拳社山如高冰雲泉增積觀此磐雲寒深眷
藏書樓上頃讀書樓下屋懷哉千載心俯仰數緑尼山翁
先生湖海豪眾舍自關銘坐御兒賢默盡存家繫蒙軒
疏北竹下渠激彼澗中石幕館寒聲秋空動澄碧石穩

西山雲氣深掩何一野嘯浩蕩忽驚開為君展暖晚老雲亭
渚華初出水滿樹杰氣行吟發龍天津切薰風拂面原柳汉
月色三秋白湖光四面平與君凌倒景上下極空明月榭
步江來吳客十反心無數不遇無極翁深衷竟誰識坐看
朝吟東渚風夕羣西嶼月人境諠非遥湖山自幽絶西嶼
湖光湛不流嘉賓亦清洁倚杖忽凉暮竹深無覓處涼詩
綠舟停盡樂客異得放眠夢破遠雲雨寒聲動一川酸雨
仙人冰雪姿貞秀起倫擬醉使記知聞尋春問煙水梅堤
湖平秋水碧桂棹未闌舟一曲菱歌晚驚起下鷗樂天集
一卷雲水三疑書 朱氏藏書 吳氏家藏 十
高丘復屢顧何日去登臨一月長空盡寒江到暮冬高生
千文傳跋見前
陸放翁自得我心詩陸務觀行書
能自得我心無人不自得靈府長慢閒蕉鹿烏能惑蜀酒吞數
升浩氣澄澄雲醉來隨几枕夢到華胥國人生貴適情何當朝
諸默放翁游作
洪聖俞道場詩卷
何山如幽人道場如大家積大柚子即判二絶翁才快最愛
颶收光躡晨霧危巔媚幽事時吟汗卯巖泉晚風落程松葉
龍芽鐘梵破深寂金碧開苔砌修廊步屧岐傑閣望眼聆山勢
渚華初出水滿樹杰氣行吟發龍天津切薰風拂面原柳汉
琳泉蠡湖光鏡奩對清節杳霞入古井空家庭列翠不可唾屋

歷朝書譜

元賢墨蹟　詩翰

趙文敏書卷

仲春尚寒氣林花典艷發新衣風雨何妨其如雷發東陽雲晴陽光披微風草際動客與池面移出舍繞門呼童魚撈

四鬢未病自比會稽氏舟農水留小與指南益短筇步東畦機心不復有高踏農與義

一帶雪根井堂藏書　卷第三百八十三　一

玉帶雪根井堂藏書

趙文敏書詩冊

白髮思家萬里回小軒已水為花開故應動作詩千首知是風流甚客才

趙文敏書絕句

古墨輕磨滿几香研池新谷繫生光悠悠有源水風至閒為黃庭一兩章

趙文敏過兩郊渡詩帖

玉山舍繫高野泛雲霧直北歸時月留連西澗夜深當文星

玉山雅集

元賢墨蹟　詩翰

趙文敏書卷

仲春尚寒氣林花典艷發新衣風雨何妨其如雷發東陽雲晴陽光披微風草際動客與池面移出舍繞門呼童魚撈

四鬢未病自比會稽氏舟農水留小與指南益短筇步東畦機心不復有高踏農與義

一帶雪根井堂藏書　卷第三百八十三　二

玉帶雪根井堂藏書

三日雪推書撲筆歌帳像客與杜士遺屬和表懷盧老詩頻往閒起思都送歸作客句欲上官軒品又和春侯竟不顧方冬獨入雁宜忘我今進退數時決十年叙之隱朝行家論官給不敢答與崔鳳儀太倉行狀手版付丞相不待彈劾還料奉子

張翊遺伯楞伽古木詩帖

楞伽古木山川前下有山石摩蒼天道林皐錫禪種此髮鬱千

千八百年數度到眼不勾愛猶見童子一車蓋犖然化作龍虎

蜷勁勢不為霜雪改或時孤高烈風起蒼苔白日雷雨至從容

下蘆數百人帶金六月風清氣卷曲擁腫也可憐天晴秋散終
天全道林下世貴已朽人間歲月何足言辛卯五月十三日
題于伯機遺墨卷
留題高宸寺
送客時平古佛祠閒公方丈住多時題詩不已金閨虎兩聊
參玉版和龍象雨雲徐塔收靈齒缺有疫卑藤花未發風清
短空詠參寥之字詩
道中一絕留題淨慧壁
野酸圖投案蕭然睡起時驚雪入船全得鴻飛三百來空合健

客口孔雀
宇慧寺四絕
寂寂僧房半晝深修竹山風唯聞外危巢縣定解孤鸞信州
危樓簷
晚雨纖收日已西石梁沙路淨無泥清泉激激千峰地綠樹陰
陰一鳥啼
猿壁巷二上綠苔籠斜與後庭深只應杜鵑山客愁為故
仙霞墨來
學道當知離與定聖門閒異衆塵寰十年來往臨平道字信山
中有許奇
又戲題廣德房壁
數年門外策征驂不料能來共一龕壁上未須書歲月禪河南
是我加亞鮮于樞頌首
郡文章盤塘二玖見前
袁靜春寓錢塘雜詩帖
高錢塘雜詩求教袁易頌首
舟行漫興
步世恒多故謀身轉益迂馬周睡逆旅阮籍豈窮途驚宿依船
尾棚閒落酒盞遠行懷悽意對此不能無
回蓼龍舟楫青山失畫圖往來迷尺只枚叟忽斯須野曠連飛
鷗江清映遠島暖將明揭色且復慰征途
浸柳歌船纜江花笑入舟高歌兒鷗起獨視水雲流東西江海
恨親衰疾信愁都付等閒短髮得葉秋
憂患看知老得況住轉堪照詩翁葉赤對酒嘴花紅拉花精何
喃閒章意未窮前賢負高興不必萬人同
重午客中南
此恨湘蘭遠也知於俗同流得存幸當日淺見英雄竹葉於人

綠描花此日無來須嗟旅泊吾道豈終窮

朝上巳：兩和愁細似塵舉虛汕玉塵清潤通綸巾他日尋浪

非茲晨徙步秦淮語山水意有為苦悶人

金閶珠方客虛棲暮雨時何心吟鏡裏髮改感當歌淚洛

五芳酹且滿巵今朝羈旅思更用獨心為

懷吳中諸友六首

風雨蕭齋裏鷄鳴夜向晨簡編心力盡燈火鬢毛新餘地知將

力何人解斲輪頻君毋劇席滯轉增塵劉德鈞

並馬春風陌高歌夜雨琳追尋前夢失漂泊此身壯綠酒西湖

一帶雲莪艸青青幾度春

色冰肌六月涼難招騷似歌來對玉瓶行吳子中

卓行拘常調徵官更教移君懷同臭展吾道欽如絲履悉才高

世飛騰合與時晚成器棟豈判立年庸為劉言

玨築招尋密高談證浪俱他年懷舊侶何日攬相須白月垂叔

綠青天落酒壺看君話心事餘子豈時雌唐寅

吳語巴山雨曾題夢步秋儒宮雖寂寞公子尚風流即擬同英

詠為知幼楚因江南新作賦寄爾恐難酬明

右十二詩各意閒遠下語清警可謂不沿於俗矣然少加精

密杜少陵貢山谷不難到也因學民無陽鮮于樞題其後而

還之大德辛丑冬至前一日也

覓少壑考論吳中前輩當閒黃文獻公文集載袁靜春先生

墓誌知其為吳人而七以不得見文獻公為恨他日社學師

來以貽氏過予談及其家世因靜春乃其五世祖也又明日

挾靜春所寄鮮于太常游鈔雜詩來示於是靜春之子春

孫既得見之又得見其手跡而詩有懷吳中錢德鈞以下諸

友之作又因得見前輩數人於一日間為欣幸久之吳寬

吾中有巢曉干文傳貢奎陳方勤孔碩柳貫姚安道黃溍

明王逢吳訥卞跋文繁不及備錄

吾子行手通白詩五篇

桃花雨樂府一章贈莫之

泰酒春夢陽臺晚風散驚紅作秋苑閒陰碧樹捏暖雲萬昔羅

水香翁蠶蝶飛石濕烟錦路天姥怨溫鷺階步參差海羽雙燕

來休徵石無滿湘竹

右詩一首送莫之回吳

游子動歸思南風起秋聲我不當此時相送難為情交朋尚如

斯況爾懷父兄三吳亦都邑一水非遠裡君還姑蘇臺我留凰

墅畔兩地各相望勗心互牽倾流光若頹波彼此即高岸浮世

苔雖散艱難百慮縈何能慰子懷握手花營營

永韻謝鍼翼之

筆翰西臺妙文章五鳳樓美才須此土直道豈如君欲解會稽北衆山青錦衣歸日春風色江鳥散旅愁吾廬正蕭瑟二仲得羊求

菌耳偏沃野

菌耳偏沃野環移亦谷旁蔭拾其茨誰知爾良我館待此草移根就崇岡簡札紫金粒抱露晞朝陽飢食綠皓粒聚高巢皇招揖三辰游與之同輝光

與鄰寓人陽屋對月夜話

響屧連墻屋神交得謝郎自注謝有陽屋事倘使吾所契安語夜當長徵孫終何補良才尚此淹慮趨玄論未性發幽旨

名教人吾才行于此十二歲旨前賢得之於書典所嘉復此

散落集而存之吳高人見石塘胡先生所為墓銘益不勝後

三年嵩至正五年己卯九月九日江卻民錢良佑記

仇山邨之言詩卷行書

我本江陵客托人尚頭歸雪高懷春益山有灰身恒健壁熱

絕想更真性歲效官殊淺老來學佛難貪嗔真却懶衛鵝與雞

翠空費心機不庇身

野鵝清島不翻經孤雲萬里去來

喜遷教經好趁江南諸老在盍簪剡北衆山青錦衣歸日春風

過期醉沙隈覆玉餅

帖學羊吳漢子陵亦非解印晉朝明好山好水恒相對滄利浮

名不願爭詩酒每尋朋友共田園都付子孫并野心直與閒雲

伽郎先孤雲出岫軒

未容由來不貴儒愚大患緣恐拂檐揄未易合向山林隱終逸

豈名利空勝上有孫賓事樂門前桑債酹如思白平慶士真堪

美死守梅花住吳湖

一帶雲根艸堂藏書全　卷第壹仝　九

庭海漂流四十年老來默守吾言艱危頃得文章力校學谷隨兒女緣仍飯先能昭當南好音到手不論紋閱心懶作細鄭

衆取南窓一枕眠

單視生涯獨善緣一區花竹四時春青青未吳門朝廷事有耻難

交市井人羅外高衣冠上京前路忠指論國鑑如居士泰鄰住肯借我室為宜

詩得心交在他拙亦無高相九方皐門今說子多雪誤白古山

人家僧高來論言能知鵝志一瓶何足戶牛刀偷醒擺醉俱堪

樂妙理依然有禪勝

倦游懶看小高山短髮蕭疏白滿顏信手拈書聊慰眼隨緣隨意
事不無心突他杜老頻看錯愛我白文不數樂喜有山林方外
友時携往祇榮新吟

北風雨後想南風頃刻開晴又轉東古人豪蕩知音旭日臨前
補帆無功小樓瓦生思猿鶴好客相逢斟恐偏望上蓬閣香可
招令人長憶所南翁

家氣平來漸弭除蕙蘇自歌字腥腸江頭孟諫明古事時行吟
楚人人愚里鍥鵡何必美一官嶮巇不如吳下草廬從人笑

夏閒青移山葉枯

一帶雲根卅堂藏書

主聽上人昔定好修禪野鶴閑雲隱長老三世文昊求不得
通信手寫七言十首寄呈上人其為我傳機悟辭語參玄旨

元年九日山村地友外連書於北橋舟行辭

程妙普弘道寺道行四時已見　　卷外又百

松閣昏晨眺表望白茫茫空蒙妲坐客重青聞度聲初遠地句
向非雲易逾清官府屬兒歌朋從多俊成揮麈名山兩過時鏡去
限平當味一何長禮期浩已盈桃蹊自成徑楊柳晨扇作密康山中打　次

韻累初傳康元佐見訪

離騷之內載千里十晴高帆順風駛風順猶須兩月程旧誰移
來隱量已所居要妙游歌爾翼峰周居接天起蒼然吾未權不

二年孟夏二日襲璸識

張天爵李鑒亭二政見前

郭元錫喜遇林上人詩卷

題呈春柳城市山林

功名身外聊復爾正整胸中寔過之盤谷壽康懷李愿翔川蕭
洒及王維何人供案牘如意老子放懷金粟臥雲市共枕聲赤風
永竹風杉月亂書帷

晉熙寺楚山閣　乙

白衣處士息屋梳高閣登臨是夕陽是地荒涼征鳥盡楚山空
閣新霜旅雁回塔影來來戶月落鐘聲殷翠微直下先人敝廬
在吳牛遠社得相依

大年使西

陳仙洲荷風徹涼生柳岸閒亭不受暑生高清廟心無客且罷
春有風宜放檻但來行路錯足底黃埃深此意一傾會落日孤
蟬吟

題僧作山水

門有方把客同放水是山我非來古似此境當閒索掛雜分

有客投方祀令不前致辞不忍爰公盡仍復愍公持永緘意
誓了此一段奇世人料三絶公胡不自知我心了不知晚歲
婚姻何累用世心轉苦成委遺所望閒道晚倏已覺終前營
三已表來有未可期為形宇宙間俟何之願論斯石言再
拜真吾師

三月十日書了即景

白水起寒霧蒼林騰遠烟會心閑已喜假室竟誰傳一徑呈中
色相忘定外禪裏茶煮竹虎風雨落花前

美衆伯善起都

一瓶雲棲仲宣藏書 卷第壹全 七

石磴雲常濕城花春未深惟黃仝畫局地形聲白玉壺
深春日長之子頻提神所樂無過酒良人小康臨行捉手出故
語東鄰夜雨林鶯床
林趙忽忽數恨氣江湖搖落嗟盡暴艱危恩豈為憂國事累無
成非繫家江是隱見魚龍窟雲每屬鷗鷺少桃花水長三月
暮岸帆挾雨飛天涯
蒙鶴理床寵芝蘇歌詩劍耳遺古音忽筆正似化學屠世事真
成時代琴前毛肥羊快一飽沒駕駿骨輕千金暗風挑帽春衫
等小聽宮墻柳陰

一瓶雲棲仲宣藏書 卷第壹全 八

趙千里小景

鵲鵲喧柳陰生龍聚清洲竹風通荷氣主夏凉如水王孫騎墨
仙舟青絕纜將何當寄與人能手沙頭藏

元暉山

莊木歷名州開堂登當嶽累波在只見尺地路渾莫辨黃家玉印
章綸豈此兒悠悠望海戲春來春西風轉

下陸朱氏竹山閣

露重東南山萬點山人暮坐何從容乾坤當不可遇一夜春
需起雜龍詩家禄度府高朱百尺瑣行日應長我欲驅車款此

一瓶雲棲仲宣藏書 卷第壹全 九

君只恐山靈拄朱杜

題朱判官像

烟載春空青已仙風神超邁量中傳凌雲象非凡俗人
問路來錦

題洞川花馬趙子昂

曲水流劇雲滿身雄姿逸態何超塵眼中但覺肉勝骨餘心合
讓書將軍法若今人是唐馬藝精亦出曹籍下王堂學士重名
聲八疏千金不當借山雲擁雪都馬圖牆壁錢便欲摘於蒐天廄
真龍有時自杜老歌行絕公孫

客有高青丘奇盤色
瘦作盆奇十几點青
天所設人无復知命
碧雲亭二水天永翠
落明珠冷紫夏綠葉
沃宇宮血點斑二翅
峰高鎖路遠但覺兩
詩雄鳴子古詩調高
石近詩數首書貴子
過衣易尚最喜稍與
日與世情遠學人師
數山禽亦不驚詩書
雙松臨古屋翠洒高
譬復愛晚風清世事
天唐牛中秘閣閱授

客有高青丘奇盤色　瘦作盆奇十几點青　天所設人无復知命　碧雲亭二水天永翠　落明珠冷紫夏綠葉　沃宇宮血點斑二翅　峰高鎖路遠但覺兩　詩雄鳴子古詩調高　石近詩數首書貴子　過衣易尚最喜稍與　日與世情遠學人師　數山禽亦不驚詩書　雙松臨古屋翠洒高　譬復愛晚風清世事　天唐牛中秘閣閱授

錢良祐敬見前

指文安雜詩卷

家居絕學北湖濱　過衣易尚最喜稍與鄰人異詩書
日與世情遠學人師　數山禽亦不驚詩書五車　題真竹堂
雙松臨古屋翠洒高　人情至戶常深閉山格時獨行
譬復愛晚風清世事　如雲屢生肆路塵高兩過官

家居絕學北湖濱　過衣易尚最喜稍與鄰人異詩書　日與世情遠學人師　數山禽亦不驚詩書五車　雙松臨古屋翠洒高　人情至戶常深閉山格時獨行　譬復愛晚風清世事　如雲屢生肆路塵高兩過官

題真竹堂

客九疑無處望重華　憶昨山前
書劍空二十年明月
王章閣時　揚雄宅
項氏亦故里前

客九疑無處望重華　憶昨山前　書劍空二十年明月　王章閣時　揚雄宅　項氏亦故里前

馮惠祖贈春境詩

曾出名門正妙年
何稔放船石湖中
天唐牛中秘閣閱授

曾出名門正妙年　習舟師衙奉　番宦　產生　路　廳高兩過官　何稔放船石湖中　花綴玉　山堂下　却　棹　過　歸公館　多

瞰好對其窓理鶴鳴編晉陽漫興五
　　虞道園雜詩卷
勺雲誰窓雪鳴竹地爐煮茗來午未覺真人自
與燒香處
罏中鉛汞輕千裏窓外月飛雨蜜尚有度生情未斷侍人長
疏梅黃庭
玉田梅霜月當戶竹窓映雪喜渴床客來忘揖不交語自撥丹
火燒山香
蛟龍雲鶴立瑤厨異饌風竹鳴庭除窓閒有客白鳥集堂上真
人方讀書　十一月壬辰明復真人約華陰王建鎮閒中論子
文四明王安道談道於仲孚丹房微雪窓虛夜靜
復於日即事雜詩
松雲鶴立候客車風送水花香隱隱
在城東湯近來擬進新琴操載筆親題真意圖大夜雨餘皮屐
動龍舟初望散魚鳥　早朝
高閣丹青起中天紫翠分宮當太白書門對九疑雲氣未山人
去吹簫帝子聞臺中歸未得春思轉紛紛　錄寄元鎮兼兒訓
後一笑虞集

　　虞道園詩續
九月二日移榮門向水廣亭栽外史錄師賦詩相屬
及詮是易之要佩服雅意作惟古已軸次韻一首為
謝仙凡之語頗不類矣望恕望恕集再拜
老學凡過舍新移竹下門高人知獨樂妙語杜相存次韻答
歲大章付子行性求超絕筆白髮共清等
　　寄陳彥格自蜀中持舍姪書至因讀就呈上
有客持鄉信殷勤遠及門拍衣同夜話老淚竹窗昏
夢裏忘形老猶呼小兒手一帶雲根艸堂叢書　卷第二十四　五
人基上指真性局以奉應所教雅公有辨烏賦答　所示
詩也指桑麻年更生大慈閣先公祠前生竹一本手開而栽培
心復榮納人以為榮當歸文祥卿中丞朝士皆有詩也是日楊
中書
　　題扇
黃金鋪為帽紫蘭夕成冠中安窈窕轉斜月漾遠動微風持底
樹華燈連玉虹無明待顧問不知清嘯級即屋
　　李寺白雲閒公講師所
寺白雲閒鍾磬竹樹閒房講時經鳥聚雲外遠鄉關稱神霜前

送梁尚書出鎮河東 …… 五
送梁尚書出鎮河東 …… 五
送梁尚書出鎮河東 …… 五

唫閒落花柯下繫驄馬
事一路東風帽影斜齊張起巖

歐陽原功贈李虎臣

至正丙戌昌谷亞相王公本齋之子李虎臣以公事乘傳至京師訪予玉堂之署臨別求贈李虎詩

閒參差以公事乘傳至京師訪予玉堂之署臨別求

贈言為賦唐律一首

南來驛騎錦障泥春雨都門雁影低性濃慣遊唐使館江淡郎曹

棄相居恩道逢常棣友義君年少踐雪揚鷹隱欲攜

友義君年少踐雪揚鷹隱欲攜

歐陽原功送白得詩

叢章熙君自得揚所著書入都戊西山晉堂村山深

民淳地僻俗質隱者之所宜居嘗真張宣相真人樹

性作詩送門得并來宜妇平心老人來見五

先生去隱寫堂村境趣佳處如桃源西出都門二百里山之盤

屋水忠盧一重一掩一衆落一溪十度深而庫羊腸險徑掛小

腹蜂房小屋粘雲根立當咫塞若閉絕視人行次門川道市朝

甚通俗塵遠土產雖少人烟繁銀畚藝沒宜救麥樹柵作圍能

雞豚園蔬地美夏不燥煤炭價賤冬常溫前平熊即入貴藥施

貪者棄人處恩熊居揚兒今就子親舍木葉書牖播榮真真人

青山翔鳳壓紫氣統吳閩玉泉進君錢雪鶴飛不還重疇在何
許泪濺莫能攀
華晏竟南渡老門不復都長城乃自壞黃龍孰能居空令三宮
祐頓首
拉五國聽啼鳥
尚父擁玉鄧錦衣當晝行輝光照閭里千載英風生至今牛斗
下猶瞻紫極
懷古六詩謹收韻錄上
弔古上聖慕日暮下琴臺蕭蕭紅葉落來客人不來鴈去今得
訃句踐未歷埃
吳宮事已遠王謝宅亦無山鬼話亡國松閨夜相呼白露沾紅
蘭青燈照碧蕪
荒丘壞古隧言是孫策墓墓草生輝光雲注清霧想當立岡
時英雄稱獨步
南渡中興日君臣建都共憤太宰譖子胥忠見武穆何由
死秘聽延秋鳥
國亡喬木在烏鳴白閣人隨雁遠春從沙塞還悲別性宮
柳長條復雖攀
山僧講經地玉輦昔曾行寢殿野花落空巖雲氣生數七猶得

士千古壞四橫
鄭明德齋課詩帖
齋課詩寄伯貞兄伴篤伸致舍人弟方孝廉也遂昌鄭元
祐頓首
武帝初知太乙神孔光亦旭動星辰竹宮與禮猶存漢鼓道山
河已易秦香理至今啼木客霜盤無淚泣仙人紅燈微點東風
裏猶是元宵一度春
錢唐江上望初晴踏踏前月正明鳥鞘金吾開大禁六龍翠
蓋降瑤京簫韶並入鈞天奏宮掖誰聞下玉聲猶是向來歌舞
地鬼燈寒雨暗荒城元宵懷錢唐二首
上元甲子天開日泰元更新詔下時祖舍晚休芙子劇客意山
近假王祠場陰宿草春泥濕屋角鳴鈴曉日晨西猴指華政如
雪晚衆橫船為誰吹甲子新歲
華發重感別舊春故人抱生同夫木但分芳不見知
風鴈有巢棄澤生涯千樹梅社隊屋殘書不禁朱年舞玉樹
火韻將春卿見寄
羅城孤起暮雪中煙燈深沈樓閣空危燼不銷忠義血史臣誰
易簡書功銅鹽利梁吳王閣歌船香殘煬帝宮牲有紅樓舊時

月朱富隨廢卷春風揚州一首寄嚴治中松之

錢王宮闕莫烟平陸海金蓮此夜明湖去潮海霸業花開花落

故陪京九之歌舞錦塵翅萬井輪蹄接市聲今日相伊江上笛

卧吹落月下空城和徐生帶元首有感

子原學士衆行之教授當同於一史元祐

六藝之一錄卷第三百八十四上

歷朝書譜

元賢墨蹟 詩翰

柯敬仲次謙父詩帖 行楷書 盛昭

謙文監潛有山林小像文嘉清使為唱以詠之謹欽

其韻柯九思題首

青松白石豈易銀操翰朱顏似謫仙鶴鶴承恩陪侍日麒麟圖

像看他年身居鍾鼎多清事志在山林入短篇唱和拾二組珠

玉同知大府盛才賢元規乙亥十月鈔訂堂書

來雖院白下長干詩帖 行書

白下長干春水生送子東書燕前行幽燕路曼多荊棘浮雲野

旬春寒閒居彭城舊郊外暴骨滿野無人耕念子欲行意良

苦踐勝捷登道誰相家有老閒鶴髮親紅錦為子兒衣布毛裘

羅裳未可期行行迴首望吳堤侍門心切須早歸莫學溫太真

忠義懷懷天下士新裙一事今人嗤至正甲午之月望後朱德

潤漫跋、贈別

郭仲誼詩德機詩帖

詩書德檢判薄
于載無家客東西數播遷已拚書馬券猶作買山錢庵二判花
好枝二棟暑連將車日來住豈比草堂前六月廿七日書于吳
中客船舟
館介二雅詩帖
虎中對梅花欣然有作若有會也錄似西墅 孟
載峯迪兩先生一笑介頓首
病中雅意豈堪論澄水能清槐不薄添却妙香無長物祇應靜
坐洗二沙今李察秀才來補此逃書遠之齋史記
博士還二沙今李察秀才來補此逃書遠之齋史記

王季野呈女方詩帖
早春十詠
春日流熙小米光射屋角晶瑩動凡桑梶燈軍簷暮秋窠鼠人
溫軽寒侧衣專情意望來久盈管真意樂
東風生庭陽拂二翻衣浪仁及紅緘封德布緑回望芳情遠金
閨調聲遠喜曉也擔溢波觀衆條歌貽湯
江梅獨清高不與花爭發自是水雪姿豈受鉛華奪數朱風雪
底五人翅蓋相照米音青時孤標更超越
依依垂楊柳青眼窺陽春年二郵亭路繁折送行人臨風寡翠

樓映日餘黃金如何不自持親揚逐芳塵
瑚璉先春雀風暖喧晴聲驚人鮮得食閭階無淨睛不起太倉
中小腹恣膚厭高秋露下大水須深潛
春流溫芳塘倒影關天鏡荷衣綠生漣漪王澄壁間觀可暑
盟海鷗樂行泳清渥纓鏡心鑑其底
鮮之墻根草春桑千堆盛光凌青袍色夢入新詩趣前忠寒
北陰高辭江南依然樂吾日生意性所既

張仲懋與季憶詩

公子朝下英妙時皆順 便到京師長河春張熙龍水利驛馬
生高生旗家自高女通世譜人依鳳闕歲朝後雪虎賁安頭如
一帶雲根卅卷藏書 卷易言卷上 二
雪高日雲霄未厭遠
遠使注西石上初居歸春已發琦枝將月下吹黨破滿及足
前把酒屯錦堅金錢餘蕙仲高綠紅柚有新詩故人相見如相
問老益當壯杜牧之 季境歸會克明九章二老友出似一史
張翥

張仲暴贈松雪詩

次韻奎章先生寄題松雪隱居老松著上

燕垂趙際中有村正在西湖之上原頭落花每流出亦有洛
鳥時在簷隱居昔年探幽勝勢躡小莊如陸平環之眷松數十

放情

愁到心中結事思心自亦無處息何疾痛衰且何妨聲雖
出床龍已穩藏拙付天地澄虛將山香

晚思

薰風自晚息吹動一身愁意谷情換美心雖事只休爲衡宜日
皇雲垂大流今古無窮恨令人早白頭 王吟梅首

秋收大古盧五根攢峰處壁何盤二地多磽确少平原先生
生計雖苦漢最喜靜無人事繁廢耕木肥水甘船澄湯有瓜牢
有豚吟詩作亂百不理一家共語常春溫功名祇貴世之棄紀
暖已荷皇天恩近聞京邑將貶竄百氏手自摺朱黃堆案
墨滿硯鈔寫況有能書孫雲晴輒尋羽客去餞熟方來山鳥喧
土床暖炕石窗炭香酒香生田家盃盂和精舍日鹿胡不待公
車金馬門

高則誠哥倪仲權詩并識卷行楷書

十五明星近紫宮東燔香裏珮步瓊庭自卸起卷時秀元帥臨
一帶雲根井中義書　卷之壹合二　七
還整總戎黃閣風雲開益世蒼生霖雨望屋公當年禮聘一千
字今日須看反物功
處士祠邊梅已放還知載酒到巖阿西山烟霞連朝好南省官
曹暇日多詞客錦旋題水調佳人翠袖拂雲和馬蹄歸路賞春
月一路清香送玉珂　寄月房明省郎二首

遠音聞九有道時官像濟：盛威儀樓連紫禁諸王禮代人天
蒼百辟隨回首漁陽急鼙鼓傷心利閣驻旌旗回江感北重歸
日驀日宮奴莫亦悲　題閻元人物圖

暨陽別駕真清官彈琴蒲喜民安心居却近范蠡宅官舍政

之苦海則亦當共濟衆共仲擢乃共黃為卷帙刊之以詩名勝
間朝當時事繇藉世方以詩文來高閣而仲擢以明友之厚言
處字亦無遺棄亦可見其好尚之清交道之摩而不為世變所
移者也惜乎之學問名位視往日不少加進使負故人期待
之意耳展卷一覽殷歎不已因書于左方以自警云爾明
顧仲瑛虎丘詩帖 行楷書

登虎丘有感 行楷書

柳條折盡東風軸人家戶戶空只有虎丘山色好不堪人

在客愁中

虎丘城外鼈籠無數紅花帶血開靜聽劍池池內水聲不引

上巳蘭亭來

僕將發濠梁因登虎丘序楔上人款茶話間始知若中禪師住
此已久矣因思二十年前與姚子章同見時真若夢寐何相見之
緣若是又直吾師遠出使此行亦不知何日還鄉謹寫前詩北
古道轉遠且當一番相見也日南歸即參座下作有髮侍者也

二月廿六日金粟道人顧阿瑛合什附寄若中禪師侍者

錢思復蛮人詩帖 行書

蛮人好擾居嘗梯離鹿塢倚巉江練澄仰敢雲罷牧須史擢蛮

儻為象森列宿先得油衣月光入意牖屋然半者分珠吐蚌
胎剖吹簡和龍吟金罍卷吾手擎松鮮吸玉兔墮吾口天高
路悵抱露下濕衣袖肯乘鳳翩乾坤識此叟人寄豈惟接得之吾
心月自有影舞且歌大白千古友曲江老人錢惟善

錢思復田家詩帖 行草書
小字自書

新玉詔軍史館青瑣鄭史高作曲江錢惟善上

田家歌高堆雨月人日多陰重卜年豐雪給下祝易落燈花同
向吹猶憶故鄉夢亦也是幼即買花栽再寫元夜宜於再寫元夜

累欲看斗來直三鎖書單作雲連
元及作少陵

周伯琦感舊詩

鶴齋隱居浮海至京師為其母夫人請銘予中書參
政是居既得之復來吳請予求篆題并以承旨張君

蛮、經銘來予嘉忍難其壽賦三絕句以請予嘉其

寫孝思以昭之仍次韻為答時至正癸卯季春上

古也老友郡陽劉伯禹卜葬先壟萬里得銘如見母何慚蛇

劉勝餘光

陝郊古句人爭誦美訓猶如教一經慈範堂：傳百世敬應玉

共望江東日暮雲吳門千載對琰春論文何日同樽酒但恐詩
成泣鬼神　是日書于寓館之文星亭

揚慶大壽元鎮詩鎮

松院山下問禽吾新長青松六七株已說近前求相於矯求自
寫草堂圖

北窓高卧東皇嘯鄉里小兒慚折腰今朝一醉醒未醒小吳扶
過虎溪橋　晴春雪始消覺毫端有余樂為之昌也維揚

揚慶大壽相古劍歌

一卷雲根井中藏書　卷四　宋詩鈔　十一

余昌寺舍上

余昌寺舍上

余相慶忠肅公八世孫進場予雲間草言閣自云先永相有古
寶劍四口飛琴石磐為王砥與此劍也劍長古尺三握具五寸
弱握有二棱起鈔識可辨書曰千禹成其鎮橫寸一坎繁誓志
甚銳續文為水銀古中末間勁添色芒可吹毛星月下出之鞘
發孚尸慶二然可畏鬼瞰是說千載物也於是對坦以思海鮫
為作慶相古劍歌使與古慶公劍同傳焉歌曰

青閻慶公古劍可以降騰空迎落日千年宗社已丘墟子姓四
來傳不失江生豹督憤開變八陵飛灾二千秋氛石江頭一根
出寒芒夜走完浪　提今堤今傳八葉金閨不啻山西俠沐頭
管匣不敢鬧黃蛇上天表雄雷持謁雲閻鎮龍父洒以延津水
拭以赤堇王蛟光一道裂蛟胎上指黃星落黃雨鳴呼舞鳴門
刺魚肚二豎俟何數足我將假霜鍔伐天子西山斫白額二東
血斬蛟二頭然後裂虫尤殪羅喉大開太陽照九州農兮堪兮
勿失收到今使我健筆曲方斬長鯨之妖然朱將至五二十五年
青龍在乙巳王正上月拍遠妻揚雄賴在雲閻草玄閑喜

雍公孫子氣甚清亦我楊顏古劍行劍鋒詩律兩奇絕放逸
光彩五庚：楊顏健筆老劍橫是下錦中之錚：此詩學雍
鳴不平鳳凰來為啟世鳴一代雄教賓翁生子也學白學劍
晚老阿山而成名倪瓚已丙冬

玉正庚寅十月予遊於唐通四壁山中要青城山熙遇出示
予古劍乃其先公雍門所遺也予為熙作古劍歌以遺之

古劍古劍元非鈍赤非干將與鏌鋣御自從混忠鑄成來出鋪
入鞘何生威輝天煤地不須磨礪霜雪是以魯將
破敵斬朱石江頭建數旱海晏慶清歌太平環庵藏之在窟
穴或時拍出鄙人看千古萬古鋒猛烈野人鄙用

李友慶勝伯隱居南山讀書排鈔不求人識所與遊者皆藏
山之士也其先丞相雍國公忠義立朝具在史冊所佩古劍

以遺子孫代不乏賢而餘風遺烈揚未泯也至正乙巳歲勝
伯自山中來命余賦此劍為度相古劍歌與勝伯歌以發其
所蘊云匡廬漱惟寅　吳山人何人城訪我衡門亦要作古
劍行云是雍公所遺之古劍出石江頭大破元顏安百蠻
世不敢動忽然光怪夜夜蛟龍鳴遂軒拔鞘日起舞蛟如月
下秋霄明燐磨泰山石鼻斬東海鯨何不獻書見天子快意
一揮風塵清吁嗟此劍本神物又於遘也同垂萬古名

倪雲林醉歌行

雍國丞相虞公古劍一具今藏其孫勝伯家昆侯悅瓚匡廬
盧陳維寅既作歌詩詠之且要予同賦為奏劒　應公古劍
一帶雲根卅年藏書　卷為吾公上　三
日星鐵冶鑄出秋霜側寒光欲飛、試一揮魑魅閉衆都退舒
匣歌嘯風不敢動鬼躡虎文驚且跋閱歷皇霸三百年社稷
山河已丈重雍公義概雲夢胸吐虹蜺電符吏同有時呼渴
辭明月浩歌起舞多英風來石江頭却胡騎一戰突營誰可
比材官勇將誰如雲每視奇功獨懷慨劍鋒揩清恨血鮮神
物不隨陵谷變只愁雷霆破屋壁化作蒼龍糞上天

楊鍾、崖詩帖

我尋天上張公子新買江南宅一區桂樹小山金作窠芙蓉秋
水錦成幛青龍鏡屋疑三斗翠鳳箜篌門卻一珠世事紛紛何日
了好將真樂問克夫　至正丙午秋七月四日放舟龍江入笑
浦訪文旭舊之張侯飲于真樂齋席上賦詩、鮮素堂客子山
德昌雨雪主人謂我竹窗稽抱遺卷楊維楨明日在任老人讀
易齋新製秋心頌書

倪雲林醉歌行

昔聞杜陵之弟風汀花界：汀樹綠叢題新咏客年重種未行
松龍山麓石林丹壑音琅玕春渠流水夜聲漫當年寶劍淪黃
土空餘山月照波間今我不樂懷往古知世紛、誰此數花下
歌逢李白來山鳥溪童亦歌舞酒酣長嘯五情熱野鶴何榮菜
一帶雲根卅年藏書　卷為吾公上　三
嚥蕨迹然抗節飢首陽何異伴狂把貧梁君歌已竟歌我詩
悲學舞百年期少文宜少壁閒畫老疾投衣難命駕仰視翁忽
浮雲駛安得乘蟾與雲花楊夢馮騰天道望春雷啟為辭眠
李侯神清色不動手敲茶雪落鼎烟相浚為樂試草：史欲搆
居卧烟氛城郭秋然白鶴飛海水深霞不知老　右醉歌行次
韻酬李徵居春日過草堂賦贈瓚

倪雲林雜詩帖

二月廿日宜澤留別勝伯徵君先生倪瓚再拜已酉
清才真行處徵士食鵝三年致毋喪等法境閑能總武畫傳洪

谷早升堂獨高落、松鶴郭不通徐二歷駕行此日到居江海
去孤帆回首指料陽

是日晚過燈居所寓笠澤湖館東院與虛舟潘二君閒宿寒齋
海闊至夜暮燈煮菜粥酒作茶夜分始歸田舍旅寓困殺今人
情世道日以倫薄見炎而趨遇冷而却之者皆是也虛衆而日
不暇給乃能存念故舊以無而有留人宿食雖古人情義不是
過也儒衣冠而語偽卑不愧死乎噴

寬公雅吳語嘗誦少陵詩遂孫有古風隱溶淮水得閑館望青
山尋真歌紫芝銷潮似清淮烟濤春渺渺何當掉洞艇與爾相
娛嬉水言以盟庶無獻馳群酌之但昔龍眠莊山水舍清輝松桂
扉佳色四時足芟夷結茅改於卞忘言幕默、從此山為好問
心勿遠未叶
諧

江清暮湖初落風林露葉渥物色至正癸卯秋九月望日戲為
此詩紀實

雲卷燈下記

贈仲夏當歌一詩奉寄故重改以呈求教益也

吳松江上宅青壁映丹楓欲言一盃酒人去風牆牲好司琴鶴
隱遠社憶雷采閣通秋風夜清琴寫幽松

天鈺郎振郎與余交最久死別忽忽二十餘載、余之
悔、如何可言鈺山子河上主元道館鋭慧善畫二君留宿寒齋
舍其畫壁最多余、為題軍旅之居或高仆免之處顛
沮遺址風景未異雖余之故鄉乃若異鄉矣因勝伯
徵君攜此卷相示為之展玩感慨并敘述其時昔相
與之所以警者其中有不能自已也抆望漫然久之
至正二十三年癸卯十二月夜宿淳蝸牛廬中
寓

郭翠吾所愛詩嘗於名家水際三叉路產綠五色霞采頗能每
酒間令酒能賦摘憶相過處清吟夜青茶

為料雲賦山居

空竹鳴寒泥清影閒名雪窟幽裏松南石旁斑心靜境相
欲何必君在山窗余有行旅日暮不知還幻聚予悅塔
行雲閒無事軒居湖上臨時宜坐釣春水聲行吟夏日林明
雖疾雷夕暝淮相高有鄰更應只論閒心

送王元剛歸義興倪瓚

橋西綠水斜春樹陽烏相喜倪處誰云客千峰只一家

倪雲林寄陳惟寅詩卷

戲為文言近體奉寄惟寅機息賢伯仲聊以為文問

丁未十一月一日在湖滸西窗清晨對雨後題詩以

寄南京尊者嘗置之右左如與僕對也瓚記

張貴甫處容萬菊花發紫蓋滿燒上營茅屋千仞岩

為一間松

泉間聲疾如雨甚悲風起大金花九神芍九各求

一兩服也始時得罪得罪增廿二日

招腸膏酒得吳醇既醉渴心真欲狂為能曉醒帳地痛大金花

劑性倫治

昨日聚真尸之供薇商言永日也則後與元興秋陽

招衆員普演精舍盤薄林影水光中而今予來始知

公者散芳堅橋急走介性候則從者與盃已久雖

宿不雨當雨大作相與軒窗趣妻剖此甘爲

茶之高秀也發然今日得

許道文何不見至歷仕小時促之頓首默卷有道

先生

閑居懷人庵山春日雲林寫

湖雨松風鮮宿醒虎頭宅東生忘形清歌擊筑趣永日東倒君

家雙玉瓶題松泉畫赴東海倪瓚

丁未十一月一日在湖滸西窗清晨對雨後題詩以

寄南京尊者嘗置之右左如與僕對也瓚記

張貴甫處容萬菊花發紫蓋滿燒上營茅屋千仞岩

為一間松

泉間聲疾如雨甚悲風起大金花九神芍九各求

一兩服也始時得罪得罪增廿二日

招腸膏酒得吳醇既醉渴心真欲狂為能曉醒帳地痛大金花

劑性倫治

昨日聚真尸之供薇商言永日也則後與元興秋陽

招衆員普演精舍盤薄林影水光中而今予來始知

公者散芳堅橋急走介性候則從者與盃已久雖

宿不雨當雨大作相與軒窗趣妻剖此甘爲

茶之高秀也發然今日得

許道文何不見至歷仕小時促之頓首默卷有道

先生

且茶抽高鋪翠玉艳紅密雨更數股豆吹指大眼孔小毛取先
生一鉤鈴

四月十日過江浦花屋雜興山絶句錄呈雲浦明公
以代對面笑謔

百年風雨幾興亡睡起西山尚夕陽四月雖舟向茅屋一庭春
草獨焚香

燕子低迴掠地飛海鷗來去水侵衣中流雲度宅山影落日帆
從何處歸

燕崖生來喜近人家投屋破去泥一巷雲花雨裏門門門一樣生

始蘇地郭草花小城外腥風鷹戰場花落空垣重馬跡猶餘燕
燕說與亡

我自無心何愛物無人情加我本從人青山不改如如性雲
生依舊春

五月涼風特地寒閒閒浦口性未乘飢暗野芙蓉村落我本無
愁也發狂

震旦虹光貫孚奎君持端合圖風來接春流學二江路永更青荒
持時竹雞

服底繁花一旦空寥二西北馬生風鴻飛不與人間事山自白
雲江自東

使亦欲二往山中相見俟後期便舟至彼矣雪巖寺山門上春
氏題石一刻拓手倘便乞拓一二本見寄甚閒醜桑椹酒不
足發生曦再

容居北海靜庵臨霜葉蕭蕭雪滿簷玉石在山聊混璞金蘭性
子久同心如懷往事 令事桑弄分塗指寺陰白笑嵎廬無長
物宜前留器與華 長亘復十日蓋十一月十日也發與德

機伯昌二高尚公並伯克二賢良共詠桑齋有道先生見貽佳
製雖數數屢復非得唐人句法奈詩老性情也張尚尚令即次
韻奉和書紙尾所謂山狗尾貂多已直不知量也把之幸甚
足下迎候而行

八月七日倚耕堂夏訪耕圃翁出所著詩卷九日耕隱賦詩見贈輒次
韻奉答璞再拜耕雲同一時三日有閩客軍硯之製今
雲卧兩聲集走樹颯以秋剪刊孤飛鶴心若不繫舟握灰當於
持時竹雞

菌席竟臨溜流蘭芳日周悼吾生行歸休可作蟋蟀夢淮神服

蘋洲青山淡相對白髮忽滿頭仙去雲舟飛鳴竹修修詩歌

代木詩鳥嚶尚相求君兵二十載未及故山游居才如鯽謝揚

辭亦云優憒然歎愛客率不為爾留桑主夙所徵戶牖何綢繆

地無塵雜況此巖穴幽既晴引飛籟心望林間搖影久立中

秋日寓

題耕漁軒

漫水東西合人家高下居烟書忘產業洗耳隱耕漁清閒客留

宿新晴人起墟歐喧來洗耳清溯艇前除 僕來軒中日七日

至此已四日矣風雨不晴神情閒頓而又與耕魚耕雲味吉娛

樂如行玉山中文采自足照映人也喜而復賦此詩十日晴

倪雲林靜寄軒詩帖

靜寄軒詩三首

靜寄軒中無垢氛研石磴墨泉如雲重展卷紹秦胡印白玉蟾

蜍小印文

獨行應如魯擢居心同柳下動云汪教勸女衣古澤我問高

人安穩無

身似梅花樹下僧茶烟輕漾鬢髯疏山鶴瘦骨冷

竹絕交閒 雲林子

王叔明漫興南醉歸詩

青山如墨東清溪溪水流花春不知白從識得南溪里夜夜夢

南扶醉歸夜深夜黑我難辨東風吹折溪邊樹采山鑿石深魚

梁歸不知春夜長共坐溪邊聽明月綠雞飛花散香雪酒醒

日暮正愁人山堪又與風前別醉眠草堂春日紅山妻報我酒

初沸萬壑千巖紅雨裏環佩溪南隱啼鶯 余為時作漫興醉

歸時空齋寂寂在前溪之南他日余與令兄主度自爰於歸小

舟阻風主賢忽出此紙求書因書此王冢

張德機論文詩帖

德機頃首次韻答朱德載將歸室鄰村作詩見寄

論文州里間不愛更欲海岳大奇趣公如仇冤客知窮為

業却攻詩一丘風雨書堂共十載水雲鬢影知不用裹糧勤訪

遠門憂患是吾師

紅塵冠蓋今紅夢風雪相逢白一奇便欲傾家多釀酒不須結

社苦吟詩君近有窮吾方悔拙味如鼎玉未知塵市山林竟誰

是歲寒懷園有餘師

張宣度題畫詩帖

題雜畫四首言度

離離江樹暗芳洲江上西風穀度秋別鶴未歸天又晚不勝眷
戀意秋新盡雨美春

思情丹丘

亂雲飛雨盡漫漫水閣風林五月寒步倚江上若偏舟行

向晝申后

我情草堂臨洞門月明夜夜到松蘿今朝見畫懷歸去收拾閒
情托詠歌

水闊天低鼓盡頭柳花如雪暗歸舟平生解識滄洲趣何處紅
塵是宦遊

采蘋白鷗

胡惲呈德檢討作

明朝

一帶雲巢井堂叢書　卷第壹拾上　三

明朝又上閶門城江上春風一舸輕過眼莽皆如昨夢自多情
本因世亂依劉表誰謂才多累禰衡武問龐公歸隱計南陽何
地可躬耕

贈張伯高

共是多情惜歲華故應美酒送生涯金盞細斟秋風鶴玉龍新
煮雨茶每愛夫容依北渚還思胡蝶過東家江南三月鶯啼遍
不信櫻桃未著花

平生家就慕山川臭性當揚萬國酌不知春正輔前人官
祀鬱春秋新盛而美春二月劍閣寺多歲一周中夜聽雞
舞高知生屋在磬石　作為呈德機兄求教胡侍再拜

沈仲說次叔方詩

次叔方先生見示詩韻石頭首上

一帶雲巢井堂叢書　卷第壹拾上　四

裏龍昌原蜀人屋託支郎賦天市垂看衡玉牽數簡映照如收
成南德意格然忘世情武門無客到戴氏江行兩過山如染
步緣春風竟倍然忘世情武門無客到戴氏江行兩過山如染
潮迎水自生鷗少到千頃要理到承明　石留笠澤別業詩
沈仲說中酒雜詩四句五首

中酒如卧病天寒霧鳥霜東軒候朝旭曙光映書牀
江頭風浪急每小力耕桑　桑娟來遲長林月已恒
太玉海公士辭倡五經閉考槃詩賦罷采菊對南山
歲問煮酒專風迴水自生秋聲隔小步杯日大江橫
明酒事公堂農家盡修場縣官蒂稅欽田野足耕桑　石拙詩
借易至上件乞裁正茲因端便勒此具記不備右再上叔方教
授先生

沈仲說次叔方玉書二律

次韻叔方先生五言律詩二首兼簡伯行敘初終一

咲石上

憶昔陪二子吟嘯到田中風急江皃白霜明木葉紅去留身若

寄閑寫興無窮更喜凍夫子幽尋許

攜登坐忘歸喜晴秋景曉愁獨月華垂勞發故夜風與神清慶吊宦

竟挑愁賴酒生何時重相聚一握手話平情

沈仲說詠歸亭二詩

叔方先生過詠歸亭賦詩二首以志感昏之喜況古

上

短棹相邀更便回詠歸亭上且低佪斗堂拜母稀陽後陶竹呼

童逸茗來八尺駝尼分紫錦一壺增展破蒼苔空江草木到搖

落猶有寒華幕雨開

積雨空林喜霽晴杖藜隨意傍江行天寒木落青山出日轉沙

虛白鳥鳴漫緻東林時釀未同悄南浦晚歸耕穎川高士能相

送閒把瑤琴膝上橫

沈仲說與慎獨詩簡

東林蒋酒或新嘗中有松花酒杜香遺法紹川陳有道書寄湯

飲勝谷詩

廿八字備一壺蒋酒春寄上惜不多耳槐試嘗文寧不曾枚得

所謂勾藥屋趾只是用幄帟覆護者古人稱牡丹為本芍藥白

居易有詩云上張幕生芍本諸此未審是否更乞考正之

右再拜慎獨先生坐下

歷朝書譜

元賢墨蹟　詩翰

俞紫芝和雜詩帖　行草書　錢塘倪濤　撰

次樂府臣詩慈濟沉上人詩韻

攜琴相訪輒相迎塵遠由來有勝情避世歌仍紫芝曲忘機肯負白鷗盟城頭雨過陌除淨樹底風生九廟清我亦平來味禪悅伏冀蘭若踏春晴

題悌本中新居次葉學士韻

禪房花木深幽處每見黃鸝語自雙雪色一方新構室樹陰三面半開窗驚茶聯句龍團碧翦燭翻經雁足紅清勝了無塵俗事時將綠綺奏飛

題張羽士小像

吳山羽客蓮菜侶閱世青松白石間煉就還丹飛日月心自與野雲閒

遊天龍寺

江郭幽尋杖策來龍飛鳳舞盡回開里從勉法留蕭寺更欲凌雪上古臺笑傲不妨雙鬢登臨唯覺可心厌百年與廢同誰語日送寒潮又一迴

遊雲隱寺

小朵峰頭訪大顛巖扉無復舊禪烟清猿嘯月音響聽古樹拂天令設停陵谷變遷成小刦林泉栖遁是何年我來試勺亭前水一滴曹溪問老禪

次沈斷平見寄

我家新塘種竹所門字時有人敲門天風直翻翠羽海月夜照珊瑚枝哦詩政爾遣佩刀對客樽與通吳溫且傾新釀百壺

兩與予日醉梅花村

葵影行詩翰

胞下紫塢事故物長腰如潤玉如溫體龍光燈夜生影鸚鵡眼活秋無痕已遂銀杯同化去宣若青鐙能復存却笑渝兒翻解事兒使王家池水滿　夫硯

夫硯黃旬今復見卻童捧望吹顏溫墨光熠有風霜色石面淨無沙土痕詞翰發揮欣得助鬼神呵護幸仍存需毫便欲開圖寫貌我山莊似陵澤　復硯

新正清凉境夫硯既而復遘遂賦二詩前以自解後復次韻兩

昌格言
唐白雲忽逢佳節詩帖
九月翔德昭稽同志倡和聯成卷軸意欲求予詩而未宵言也是日同俞廉道宴予病不能食酒莫歸證
下三復得之白雲居士唐仲頻首
忽逢佳節憶兒曹門巷秋風插上茱正爾休官歸更里未妨病
飲讀離騷百年抱病身來先老九日登龍興最高惆悵山鄉無
味香橙安得學霜橙
一帶雲襄外書卷第二十四下 三
一天風雨重陽節千里江山戲馬臺客落白頭然後見漫漫黃
菊病中閒雁新沙漠無書字日近北安有使來治世已詩芝應
臨故宮貴賦秦與衰
形骸慶盡髮鬚髯遍歷江湖行腳僧計田園清似水課生筆
硯冷如冰煮茶官店除來吸釀酒鄰家喚得應納丶乾坤更為
較寒丶吾道一青燈
猶憶相過岸幅紗揄分上下路三子應居未與王官谷論課還
稱御史家野雁炊烟迷柏樹溪船載月入蘆花明時若負如椽
筆好立蟠頭草白麻
病能眼昏手頭不能好書時年六十有

二
張毅七言絕句卷小字白註
隱居城中地應從秋菊春蘭手自栽一卷楞伽讀未罷南山相
對翠屏寒
戶庭不出倦迎淨室焚香也自清未客莫煩訣世事石床分
坐話無生
翠石峰岫分外幽裴蘭生近澗西頭盡岡來白重居寺相對令
人憶能秋時秋遠者為
文昌西南石
清閟閣前森有時一枝酣裏鴈臨沈田風遠寄梧神侶山寺迢
遙水涯雲林竹屋白鳥
今時文昌西南
丁亥戍夏五句吳孜敬
余日強答大章上錢塵二詩
四韻詩奉答大章貢士見寄
晚日放船歸渺上滄灣遲予耐然不河來有眠烟傳送比日無
次又可書之佳一經能取榮庭即三徑豈忘魚明歲門生求座
主相看喜色動皇居臘月八日客壞上今日深再拜
又一詩奉上錢塵先生先錄去一過覽後當別寫上
也
楊子十年官不調才白高者高為即田觀南歸多留越句愛西

胡又入杭仕宦豈無三語掾風流誰似四明狂水南山北題詩
過猶憶吳中錦繡坊

陳頴昌別來三載詩帖

別來三載感德彌深小兒迎吳又蒙清盼此實之情何其厚也
足見仁人長者之心吳感佩夏初顧朋友至詢知計偕文老先
貴體勝常為慰顧理偶得鄙言二首錄呈恒軒有道尊先生狀
乞電賜幸之寓武攸友生陳頴昌稿呈

楚雲吳樹別經年世事忘言最可憐炎熱久傷流俗態寒誰
高古人賢日遲紅杏春風老籬下黃花晚節妍却怪疎狂無寸
補塵衾吟寐酵衆眠

三年除缺客珠方人事如常兩鬢蒼故舊暌違難會面兒孫長
大漸成形一朝喜共鄉人語何日重登君子堂戴就詩頌奇
去宦情離思兩茫茫

月一日書奉恒軒有道尊先生文几　春王時學先生書奉

寓武攸友生陳頴昌稿九字
分見恬復

中峰禪師書九字梅花詠并松月詩

昨夜西風吹折千林葉渡口小艇泛入少灘坳野橋古梅獨卧
寒屋角疎影橫斜暗上書窓敲半枯半活幾莖撫蒔無欲開未
閒數點含香色縱使畫工奇妙也縮手我定青香故把新詩嘲

松月詩

天有月兮地有松可堪松月趣無窮松生金粉月生兎月把明
珠松化龍月照長江松抱柚松回祥定月當空兎搗冬指松頭
月松月何妨一處供

釋楚石詩翰

虹上見月如可呼愛之且復留斯須青山倒影水連郭白鷺作
花香滿湖仙林寺遠鐘已動雲隱塔高燈欲無西風吹人不得
寐坐聽魚蟹翻蒻箔　中秋後二日與覺隱諸老僧晚過西湖

襄王元也平山堂北看紅藥折木津頭識紫芝文獻通家遠一
老逢鴉鵲別馬烏絲至五六年丙戌三月廿又三日

張伯雨登南峯詩草書卷

緣覓雲路作清遊身似飢鷹脫鞲一上愁臨飛鳥背載趨荒
立三巻頭神來甲帳風飄瓦月墜下方鐘隱樓為問登高能賦
者陸沉誰復嘆神州

張伯雨山居即事詩帖

寒食今年二月晦又分新火入廚煙碧桃花落閒誰掃白苧衣
輕老自便餘庶足健金盡墨老年正在玉堂編大書絶類顏光
祿小字騷騷過嘉田
夕陽扶醉試登臨暗壑峰頭望不禁倦鳥欲高樹足知一松時
溫晚風吟雲開列岫爭浮淨鑑虛瞑平湖畫望全歸去主人情不
淺重傾春酒細論心 贈漁樵侶 永仙 春日感歌 彭
歲暮 歸白天柱山招瑛僧巻 白雲青間 次韻
度公賦鶴巢贈趙伯容 野桃華 殘梅 次韻度
公和新江和尚種松 萬竹亭 謝僧送柑 晚句
外史自贊畫像
忘機心淑身清介濁世同類而親猿狎毒厚味而美葵羹學取
道園先生送張元朴還龍虎有云塵尾有懷張外
史鶴君今屬薛去鄉元朴索次韻 雪園絶句 鶴
華秋色圖 玄覽堂絶句二首 次韻段推官觀
贈紅梅大監 長安一首悼瓊林真人薛外史 首
湘阿對雨二首 寄劉伯温大監 九日風
宿南澗明日進寄此詩 寄劉伯温大監 九日風
雨清齋 道館雅集聽琴次韻彦卓韻 讀戴集
老學齋書懷寄京師故人 中庭古柏 李道道画
耕石 題唐輔畫圖 秋日晚興 冬日五言 雪
作 晨興 冰筆 梅華 周北梅歲三月始華
白蓮峰晨坐齋 南真人池上菊花仲穆畫華
歲暮 歸白天柱山招瑛僧巻 白雲青間 次韻
度公賦鶴巢贈趙伯容 野桃華 殘梅 次韻度
公和新江和尚種松 萬竹亭 謝僧送柑 晚句
外史自贊畫像
忘機心淑身清介濁世同類而親猿狎毒厚味而美葵羹學取

益而不勝其損事知危而姑與之安一龍一蛇不獻已之深助
惡衣惡食先憂人之飢寒忽然為人而反常若此若何以祛有
身之患
乙酉歲月春狂夏雷雨之時多五月來僅一見日天處洞阿幽
篁中未有農牧過子桑者閒暴筆研寫謬詩盈冊以自料理耳
詩凡五十五首子英過之持去勿示不知我者而告
右向曲外史與東子英所寫詩五十五篇書畫題跋記册
珊網俱云載集中因不錄惟式古堂書畫彙考備載其詩
今以筆跡不能全寫僅列其目如右

不識華陽舊隱居高情還憶酌松餘百篇真蹟今都編滿卷
新詩手自書一去丹臺閒日月幾回飛珮在空虛重來化鶴
應無恙華表春風動里閭至正甲辰冬十二月郎人陳世昌
拜題謹識

張伯雨褐詠數帖

十年著一冠一冠已三載緇塵無留跡色若哀雲露長樂安所
施輕舉猶足說每弭出新沐泥丸映朝彩短髮不容被初服起
可歌 右言冠
衣褐暖者徒為仁則由已粗號實寬博彼賤孰敢擬實溫屢闕
閨補紉亦云幾信有不變玉貞哉居白裏使與粉黛皓難淖銘骨滑易伸配此木匡
袍趾 右李褐
文從麻姑來遺我楮桑食肪膚皓難淖銘骨滑易伸配此木匡
永共保一色純勿吹風雨集雁度野霜晨楮君方春之固之乃
被神 右楮衾
粵昔大知舜有作陶河宿光民高其門後世稱其醇我亦舜之
徒對之稱素臣未祭仰承足水秋酌及屑寧此三代實孰謂吾

盧仝 右陶尊
南郎中檢校陪集賢諸學士宴集約賦十韻得清字
中湖禮鶴村南筒鳥龍汎待命舟車集探奇水陸并即官思出
出木岡老令辭榮遂接丘園士益勝風雅聲席遠陸草展觴對
渚蓮傾遊處處外趣仙題臨者性雲物屬塵暗天容殊移清非
關盡享奏此局榮劉偶逢敷刻歌尚蓄十載情幽夜甘自廢
時哉修令名 至正三年癸未歲冬十二月十有三日為盧山
南高舊詩夜寒酒困老態如此覽者毋哂張雨
張伯雨書舊作歌

桂花下約黃祕監飲
翡翠黃金屑檀欒秋桂枝涼風何日到庭樹已先知一杯持問
月更待霓漳來
課山奴竹林采筍雜麥食
疑有鮮早奴過此玉鏤地挪向泥中長鏡為我入竹去勿飯筍
當也不空
馴鷺
予於馴鷺雪霜明下瀨求魚自在行碧玉燈藥雙足瘦白麻衣
秋一身輕海鷗見事應何晚凡鳥題門也不情輸我駕行高傲

侶舉頭庵扉總雲程
題雪景三香園二幀
春雪無聲入畫堂東風漸北似花忙東風亦為人情重
應落墨強青鳥下迎羅襪步蒼苔來迎玉臺妝臣應也入幽閨
夢曉東山花各自香
雪羽飛來雪意濃園香狼藉嫩烟叢情誰與剪冥淞水愛爾能
吟柳絮風翠袖佳人玉條脫平頭奴子錦囊籠劍南盡手看前
輩著粉施朱或未工
過寫近詩未滿紙珠水孔肅夫過澗阿固以為模老矣倦於

筆硯劇夫毋責備也張雨書以乙酉仲秋望後一日
結廬句曲號貞居石鼎千年句法如所有白雲難贈客空留
清露可為書湖陰小閣題金粟圖月下高冠製玉葉白首交情
珠水上歸儒深恨早迴車吳寬題
送雲峰水出具區連雲莊里得白娛高齋松月足吟嘯濁世詩
酒忘榮枯我無丹砂錄金液君有田上成膏腴穫能捷秋遠相
致與爾日醉壺公壺

卜居海上僅三年春日繁華思遠天練水澄清宜釀酒溪魚鮮
美不須錢欲尋野艇尋幽賞多謝雲山作勝緣寄語風流老韓
子定須裸日過莊前
問尋芝术保餘年信是神仙別有天造地有書能教子窮居無
術學飛錢桑麻統舍田園計竹素堆床翰墨緣慚愧長沙每招
隱時臨車馬到階前
幽居甘寂寞豺虎動成羣地僻傷春草江空憶暮雲友朋難得
會書札近相聞世事今如此慈悲為嬾學文
久客黃岡地新年白髮侵笑歌恩執手憂患苦關心市井皆吳

語山林獨楚吟羨君漁浦上高欲貴要金

次韻陸秀才春日幽坐

新塘雨餘流水新陽窓眉花如美人晴好再 陸復起幽鳥啼

啼頻白憐華髮在海嶠誰守野服隨山氓故園荒穢久弗治

且復飲酒從吾真

觀友人所藏古墨

書堂手劑不可得色如點漆無光安得一丸歸我室臨池剩

寫十三行

至正二十年十二月廿日華境京師贈行卷輒題一絶卷歸

一蓑雲飛州雪處書 卷第三十八 四下 十三

張伯雨校書詩帖

史局先生示以孝境京師贈行卷輒題一絶卷歸

校書若借青藜杖下馬笑拈金屈戌好是淮南師子弟鏡塘相

見落花時方外張雨書以丁亥二月

張伯雨書詩帖 行書

室通人遠疎闕岡記歲時篇詩銀瓦佳筆與俱感佩勉強之後

是夕風雨牽課次韻不足仰酬先施所以傾寫鄙懷亦至矣惟

改容降禮稍垂顧覽哀朽不勝幸甚張雨上謁且啟君開下

烟雨潮頭暗雨寒潛妝西子若為容平生自信千金帚老庾誰

勝百罰鍾豈有勝情如許樣只輸豪氣與元龍鐵心把筆猶能

賦羞比門牆桃李稚已丑至正九年四月十一日夜二鼓書

銑公之書張伯雨題池精雪詩卷

蕉池精雪詩

猶有漢鋼洗一作碧玉色受水一斗復有贈白石上栩小芭蕉

吾同置洗中名曰蕉也精雪仿佛王摩詰畫意賦詩一首蒙公

時多次韻僅存師魯二篇句曲外史張雨

洗玉之池割園橋上有玉笛甘露零雪山凝寒塵太白海氣正

綠酒帝青是身非堅須是物絶境無塵畫真形寧令罷霜榻翠

草誰勝矣永哀銅餅

劉師魯久韻

銅駝陌上得銅洗曾見漢朝風露零寒光未變却灰里古色猶

帶宮苔青金人盤淚漫懷古玉女洗頭真寫形與君作之媚燕

曾何以報之雙玉餅

仙掌金盤列風露人間琛宵多飄墜誰念銅洗土花暗側想玉

女雲鬟青千年偶在聊高意萬物於毀無非與進形吾徒及古寧玩

物願子反衆資緝餅

右海昌張伯雨蕉也精雪詩二篇其稱摩公次韻僅存者劉師

魯二篇伯雨之為蕉池積雪去今十餘年吳江村婁周君亦為
崔池積雪與伯雨所為無少異周君喜其暗合也求書其實併
詩以表之始周君豐於貲財好蓄古玩器無何兵起其貲與故
物一昔蕩然俱盡唯守小屋數椽日以此為娛悅人以是多之
伯雨已矣在承平時擁為清鳴珠特者而周君當事變之際不
薩象境而迹而乃寂意于此又其奇也雖狄氣化感哀之故恒
相迭而無窮也以金石之堅尚不能外此而待人顧於一草之
微而獨致意焉者其有所寓矣夫何寓哉斯雄鉅細不可得而
稽也消長盈虛不可得而加也彭殤死生不可得而齊一也日
月之逝固不可以形器求之也求其趣者舍詩無以也余既書
伯雨之詩而又書其始末如此至正庚子七月十日甲子葉蓋
洞著書者毓介識

金問跋見前

大化洪鑪誰真宰範金削玉紛飄墜雙魚傳來漢家洗秋風
飛匱仇池青花扇六尺本無象秀聚三奇真有形重恨摩詰
作詩畫小物分清歸硯研姚江魏翰次韻
好事品題成小巧古來風韻未凋零仙人掌上一團碧摩詰

中山序青靜對我信世生嘯傲唐洗是忘形何當月色下
仍招我嘯于中冷水滿研後學嘉禾吳常
雪不設著綠煙況是深夏獨未零幾度疑窓外綠一枝閒
元向禹中青遥知造化也繪事却羨良工能賦形好在南山
白石爛柁根同置古銅研松西吳昂
人間芭蕉最大雪花一沾無不零云何池上數片葉載
雪不減天家青乃知仙翁有幼術山骨倘來宣化形何當拘
取九霄露洗根栽上琉璃瓶慈溪王淮
過眼繁華成一洗至堅之質何周零一卷秀發岩昆山玉幾葉
艷以芭蕉青至趣誰翔川筆歲寒自帶春風形先生
愛此清入骨想得詩成室玉研 菊亭子酷愛古書墨重暉
此春日不去諸子蓋伯雨師魯之奇句介之之遥筆自有不
容不一顧者顧何人可憤貽乎時以菊亭之好尚不可不嘉
爾漫為書之華事朱應祥識
世間萬卉遇霜雪便覺素心多周零崑山片玉閣銅先像有
崔槃恒青心始知眾物章直性造化鼓鑄生殊形丈夫亦有
如蕉者日落相看倒玉研 斯善卷乃統介之臨張伯雨書劉
師魯請作字法道勁無圖動於筆端真可寶者也淮南憨翁

蔣誼拜和

句曲仙人遺舊跡百年繼續無閒客漢時銅先玉色碧雪裏
芭蕉猶影青題詩弔古多高意看畫於我獨忘形君家石屏何處得實：造化春無
臨釣石：杓大瓢何用辭成化乙巳四月十九日送史泊南
湖上松菊主者搆在雪卷來索作四大字為引卷盖銘介之
臨張伯雨及劉師魯之作且保予退和再章：應答百年故
物流落人間幸歸之許書家什襲保護可以長久予名將赤
松之並以並存耶緣

清池白石芭蕉老不與蒲柳望秋零寒生六月水漫坐忧疑
庾絕文理十二巫峰橫隱起芙蓉照影之亭：遠落巴江一

瑞草書中生靈根獨得乾坤氣壺天壯觀山河形何當喚起
王摩詰歌對春風酒一斟姚江鮑浩自題及以下皆行書
與蠡為器本同出何事杯回受盈餘千年懷古寄珍訊一斗
貯清齋糞除瓜皮綠積入清理硃砂斑駁辭泥於雪中芭蕉
傳妙品詩入無聲良不虛七十六老人夏時正行書

抱遺老人楊維楨書謝氏巫峽雲濤石屏志卷內詩翰

石理庚：有至文江濤鼓浪忽蓋雲鬼神不露雕鑱巧那得
陰陽一線分 逸昌鄭元祐
巫山十二多雲雨暮：朝：怨神女江流峽束樓奔濤幾點

蒼陽洲清白雲自飛明月高黃牛懸瀨爭雄豪峽口猶思思
舟征權霜寒夜聽鶴猿號君家石屏何處得實：造化春無
迹却構宋玉老多才望斷湯臺楚天碧何南陸仁
木蒼清江帝子悲陽臺雲雨是何時哀猿啼斷三更月猶憶
巴人唱竹枝扶風馬文璧
山青：子欲雨谷百：方生雲望楚臺今何處歸將賦守屏
丈吳僧晉者

謝家綠玉屏不琢龜甲形方若陟岸紙縑帶苔青秀絕庾
庾絕文理十二巫峰橫隱起芙蓉照影之亭：遠落巴江一

江水幸為洶湧翻綠濤長風吹雲白月高三峽瀑聲滿人耳
簡中獨欠孤猿號胡僧設有金壺酒向壽猿風不得安娟
鉢石作五彩點染料應無此色此石產景田天工畧假石人
庾郎功石色發盡玉色起沈：天碧涵清空君不聞火食煮
石管如玉中有奇松四時綠六月涼風搖翠濤琴：秋聲戰
空屋又不聞楊家古屏刻水精中有為雲之美人海納衣裳
為烟霧姓名自語非真：二物化去固已久儕重所珠誰再
有君家寶屏獨在世勿落忍人手我聞古人楊鐵仙來
帶拜之如朱顏起來發狂捉鐵筆醉墨鴉入青琅鈐何日乘

舟上兩復喚取巴童唱巴曲更惜丹丘粉黛屏對案巫山真面目　寺僧住震澤閘松陵謝氏伯仲賢而好事而予水仙之舟未得一遊所其令高君叔攜此卷至別業求題且知楊鍊庵亦到湖上由是益知其賢而好事故製長詩一篇奇觀實屏他日或傳君善薇花下幸此為寂本云至正乙巳七月二十一日金粟道人顧阿瑛書于合溪別業

郭天錫抄諸賢遺稿內詩品

林愈憲善之春日絕句　賈家香消雨散綠誰撩詩鮑上花枝春風吹度南牕竹一片紅芳落硯池又西湖夕佳亭句暗木末山一帶雲橫舟中義書

四園新月花荷波萬頃

石敬若柳花詩來時萬緣春輕黃去日飛毬滿路傍我比楊花更飄蕩楊花只是一春忙

吳雲石道中道與九絕句　雨餘烟柳綠如苔水淨沙明白鳥迴花氣滿船無覓處隔籬村舍瑞香開　水村烟柳暗花叢蓼汀吾衆豈名世詎肯苦勞青山入度節晚泊楓橋春睡重滿船風雨不聞鐘　晚入招提寺樹春怪來松相老龍形如何剎落冰霜盡依舊春風吹　得考

吳國池臺幾刼灰城闉闌若鬱崔嵬老僧笑指荒苔裏曾見永平出蜀來　一枕落花溪上春倏然意與萬天鄰世間多少邯鄲夢　覺依前說不真　水光淨盡月波隨每遇垂虹起過思不信鴟夷五湖去扁舟只為載西施　花柳清明過雨初修篁風動鳥相呼青山如此不歸去時向溪流照白鬚　眺山嵐翠入苔溪曾倚荷亭晚夕暉回首交朋半凋謝烟波無際白鷗飛　卜居擬向水晶宮深築茅齋萬竹中三月江南菜美季鷹何苦詩秋風

盧山鶴令士云鶴鳴方欲楚臣憂此緣玉孫滿地愁試借星圖看分野春苗秀處是何州

高彥敬題初陽臺道中云二千里地好耕桑無數海棠官道傍風捲亂紅撩馬去春光更比路人忙

子昂詩庭槐風靜綠陰多睡起茶餘日影過自笑老來無復夢閑看行蟻上南柯

鮮于伯機湖上新居云吾家吾廬好臨池攜小杖無人致青李有客覓黃芽樹古藤書葉草平鳥篆汀吾衆豈名世詎肯苦勞形

題光覺雪山句前山積雪深隱約形體具後山雪不到查牙頭角露遠近復有千尚山一、倚空金太素聽崖斷溜冰滿壑野店閉門風倒樹

戴表元題子昂墨軸云百折雲山路不通無名怪木皮書空相
逢欲問秋風客不是巳中是刻中

北村題壁靜齋女柔德一日三剔股救其兄云女生他人婦兄
死誰養親剔股與終屢徐敏甫郭天錫詩詞合卷田衍翰

元袁伯長貫酸齋徐敏甫郭天錫詩詞合卷田衍翰

一卷首坐久客大慈比得會予為毒深湛宏博連屐和篇
不可虛其雅意用韻奉謝楠和南

堂、相國金寺布魯許高人住夏來不見鳥衣游別墅時有金
彈落生臺千林有鶯風調巧萬寂無聲雪舞杯頻罷梅嚴誰與
伴獨於松徑且徘徊

蕭齋圖綠長深蒼忽見談空玄虛來已信虛空卵有相極知明
鏡本非臺開門掩息雲生几振錫忘言水役杯獨擷九皇清吹
徵青於林下久徘徊

步至學道悟真如晚嶺驅馳鬢漸疏碧落俗既同鶴金門龍
扁比鰥魚還家重拾琵琶趣山前叶鷹叅此乾坤

幻掩關從此悟棄除

永嘉老子貌溫如破帽蒙頭禮數疎彈指十方歸砌頂拜頃千
祖謹鋌魚雪飄釘坐蘆花繁雲聲扇動具無書古調長松傳美

陰背令藤蔓兩陌除　師水嘉人故末章及橫川長老行書

雄雪怨別雌雪老雲海鏤沙地無草胡塵不受榮權風三寸盧
中元氣巧微聲輒喘不栖魂魄夢哭猩猩血滿堂

鐵眸燈冷焰春亂滅神妻夜傳髑髏杯倒鮮崑壽缺腥血滿堂
雲散月荒京歸路人稀腔更長酸齋道人為西瑛子公行草

四禽言　郭天錫

脫却布裘貧家僅有一尺布寒機剪盡無可裁可人不來庵杜
鹿脫却布裘

一瓶雲根卅雪叢書　卷第三十四下　三四

不如歸去錦官宮殿遠春樹天津橋上三兩聲叫破中原無處
住不歸如去

提葫蘆今年酒賤斟沽衆人皆醉我未醉哀哉誰問醒三閭
提葫蘆

行不得也哥制南湖北秋水多九疑山前叫虞舜奈此乾坤
無路何行不得也哥　右和臺泰隆吉作延祐丁巳春余客

春陽吳昭德同集于餘杭之一碧亭酒酣聚似次年歸故里
書于家藏隆吉詩卷後京口郭天錫

元人贈筆工卷　內詩翰

贈筆工沈日新

玉翁洒翰唯鴈頂製法授以柯山徐當年松雪所新見故使類也能鴈如擇毫審固用工久枝白陳京駿奉走若洲若陸真可人俱是文場斲輪手沈生晚出亦舊家肚肝秋菊爭春華南洲使老重題品不日聲價十倍加老非雲山僊之字與範拘來那有思一枝持贈鴈用之殊異江海夢中事　宋季太末徐信卿

筆名重楷紳閒玉溪尚書趙公以徐法授之鴈應并俾之日縛一管不合意即折裂復為之必如法乃之松雪公乃玉溪從子嘗親見其事故以此法授之陸類鴈陸齋名寶本於此南誼張

復亭

獻賦是楊人又去試呼毛頴即梅家鳥使三百何時足欲老江南烟雨村甲戌春中沈生持筆過予有感而作三山林附鳳

吳興鴈筆妙無倫近有能工沈日新倘遇玉堂揮翰手不妨索價似殊珍杜本伯原

沈生筆妙能隨意曾記蓬萊應制時三十六宮花漠漠　王陽研露寫新詞五雲閣更柯九思

南州先生真玉人蘇家李孟世絕倫良公騎箕上天去先生餘不屢水磨東老之家酒熟未其狩猶以紳筆閣公家兄弟不負筆我筆老之天且嗔不如醉用楣皮鴈仙人童东能書者遂昌鄭元祐

我聞善書須擇筆千金求買嗟未得何人縛兔中山來禿稍不也能鴈如擇毫審固用工久枝白陳京駿奉走若洲若陸真可帶山烟滋雨風颯颯吹霜急快利入手如鉆刀寸鋒一日空萬紙慕鴻作陳遵雲鳥鐘王不生書體絕伦筆誰能辨工拙無人致之自玉堂贈我空山書落葉季坦之　元人題朱氏方寸鐵卷

筆見

元人賦竹深處卷　內詩翁

一帶雲根卅雪藏書　卷第三百公四　三四

高風遠市門植千竹箕蒼雪下庭初立陰翁齋房晴旭鵲聚盤鮮飈風鳴陽碧澗用簡編幕沿浮冠棠披圖有貞趣風抱非羈寓庭踪自南北夢寐還相遇朝暖栖遲詞藻韻琳琅句恍即故園君森、竹深處　雷亭石字

種得琅玕萬個蒼滿林烟露似瀟湘九秋露滿琴書濶六月風侵枕簟凉昔為詩陽留勁節今奎府散清香掛冠有約來相訪並坐吹笙引鳳凰　廬陵王復原

樂徙數畝園青、萬竿竹中有讀書人開軒伴幽獨軒前輕陰拂不開軒後繁聲訴雨來春風凌鴈翠羽白露冷、生莓苔

八窓無塵從不掃吐蕃在地瑞花老夜深對月任光徹晝永乘
風覺原好有時早起坐石牀口中吹笙鵝管長有時枕書卧軒
中清興窗入進秦宮蓮幕關幾千里紅塵不到看几書彩檻
紫鳳情翻、一段青光照流水昨日我乘造竹下主人開門笑
相迎山嶽滿盤酒滿壺鮮歌一曲為君謝君不見園中桃又不
見道傍柳昔日媚春華今日成衰朽何如此君含彩故青、獨
向軒楹托根久勸君更種松與梅歲寒清絶成三友　陸龜蒙
仲珠

萬玉深中構草堂風清幽致逼瀟湘羣龍垂影秋無際獨客高
吟興正長雲壓四簷翻翠羽月寒消三伏問玄霜青苔不許紅塵
入寒溢黃花滿石床　三山江輔

一室幽偏半竹宜四邊修竹綠猗、通宵明月無塵到夏清
風只自知每喜玉猷同玩賞更從蔣詡共棲期皓高勿見分龍
角疑是春雷夜雨時　安城彭敦悦

碧琅玕下覓幽蹊行盡喬居路始通烟斂月稍金頭碎風生雲
幹玉琤琮秋光滿座陰長合翠色清神暑自空淨植喜君夜留
客解衣磅薄與無窮　秀州金灝

我愛高人賦考槃買山結屋種琅玕烟捐影落庵花散風乘涼
生翠葉秋已喜秋深存節操更期歲晚教平　安何當吹徹參差
玉共看朝陽宿鳳鸞　吳郡朱復吉
公家種竹一萬箇已喜比中謀結茅珊瑚戛玉天籟動翡翠敲
空雲氣交呼童去尋化龍杖留客坐看樓風梁何當開徑迎益
友共論文易明義文　劍江徐暐
種得貢篇數百竿蕭亭深處伴秋寒危梢禽露秋堪掬密葉籠
雲翠作團夜月座濤翻素壁晚風清倒響雌雄棲猿、幽勝其圖
好會扁意前宿鳳鳥　文江鄧資深

帝雨含姻碧玉枝蓊森偏與靜相宜風生萬壑秋無際月到孤
亭客未知遠慮楚山吹笛夜迴疑湘水泊舟時此君自昔行高
節長結幽人茂晚期　莆里趙宗文

琅玕三徑綠成林瑟、涼生漢、陰蔣詡琴尊閒自逸王猷車
馬靜相尋四簷雪分鴻影一榻清風引鳳吟客去洁歌其裏
罷永言同結歲寒心長洲沈宜

種竹雲深屢迴、一經過訪興翛然湘浦月高翻習風川節操宜幽
客適逢梅老筍晚來丹鳳下梢向綠雲中　余學夔

倉皇名岳始蘇客客裏相逢見劍色手持詩卷鏘雜、珠玉聯
篇光耀日自年平昔題此卷手栽十畝笑江湖蒼龍起舞琪園

久彩風長鳴湘水春容未倒應知著紅塵
半點飄不來好爲一雙向人語
龍心何時買棹東歸去願借警陰事討尋　閩中陳淵

劉侯愛客仍愛竹種得琅玕滿書屋一片湘江兩外青千年嶰
谷春前綠三徑荒蕪已蒼雪深四時時翠生繁陰迎門二仲偏知
已假榻羣公白孟嘗元龍逸去真湖海前樂帝常兒女能移來
長損俎酒質錦囊不惜供詩債清心獨有比君知程落冰霜也
不移爲籬擬讓新栽掃徑應教舊斜通來阿閣增光儀五
彩鄧雲見揮塵根須終隨野鶴棲
秦雲閣中之秋書　卷

六逸溪烏啼烟草碧萋萋風流文采如君少自有丹屋爲品題
三山林誌書於玉堂之署
君家借住東吳上白社賓客盛長門明影拂青琐簡凌
雲絕塵理宜游南北今十年朝回劍立春風前虛心不忘久要
好夢魂長從霜筠過故託高人爲高致藝圃琳瑯羣屈鐵
文加篋箱文真假相參凡不與被圖庳似故園看桃余六月生

愁地自涼幽靜有然品物外塵間澤諸是仙鄉一從高步清霄
上楚雨湘雲思渺迢　吳儒湧
修竹千竿一草堂幽深偏愛水雲鄉碧陰滿地春蘆濕蒼雪侵
帷夏氣涼詩刻新句初解籜聲傳茶白遠龍香宜莲十載天南
北猶想閩林思不忘　竹枝
吳門烟雨梅荊扉湘楚青分一徑做叢起蔽空意盡永涼生入
夜響寒歸玉敲疎影向人笑劉向操待世不違儒業已閒老莵
渥休官思綠初木　倪維哲
先生幽趣在琅玕手種寒前可羊萬三伏清陰不受暑一天明
月自搜高翠滿夜搖湘雨蒼雪晴飄燕語谷寒珍重鳳池留直
節青青常與興後人看　錫興王鉉
華軒萬竿綠徬林堂萬玉秋疎護石棚雨洗沐風吹有無鳥山空月
白聽鳴鐸時調佳人青琴談晚閑芸編綠字宜佳趣可人君獨
得青三分德共益壯　天台陳廷
高人道幽趣爰此琅玕清新相和歌淘無
慶時見新烟橫翠手遺編鉅有塵塵紫一自館章紋贊入吳中
行樂來高幽意滿抱涼吹生　天水趙汝
脩家吳下住萬玉俯堂清綠色連花圃清陰接柳隄稀稠無隙

地宛轉自成吳琴就中最前和詩從部下覓摘云萬幹青承露碧
梢底佳趣王無馬高情阮與稽查容畢鶚集早見瑞禽相班羅
堪寫玉爭或饌壑林、森盡戟矗、列文犀門有軒車過爭
多枕簟移久晴聽鼠出積雨鵲噪晚同洪洪分青若漢雨
細雜疏代篠截杖勝扶蒼密葉堂多紫枝缺落時娛書端畫
使枯口蛾行齋新譜選課撰遺編必自給載培志歲月暎前
雲泥得信忻無忘拳思夢欲速青珪聯玉筍何日聽論鸞好乞
還山假從容穀碧閨 同郡釋啟
分得瀟湘類卻陰中藏著屋往來深半窓色淨涼偏入一榻聲
清暑不侵而長子孫金個、風生頭角玉森、此君應向閩中
見時報平安慰客心 方外釋同
憶寺山行到竹深綠凝陰合晝森、麈衣微挂應難入熱子興
懷每見桑騶雨洗枝滴者色微風翻葉隱清陰笑舟未住聊憩
者休息誰從此處唫 中吳釋嘉
客至類留醉僧過只對吟、習川多雅興、異有遺音採未應
在冰霜老更禁七賢堪並美六逸謾同心莊宜今來往多悠情
舊尋 三衢金閶 珊瑚細云
知君雅性恒愛竹幾共封植當茅屋此君終根美得所風和年
年長茗王綠陰清地法增堪拂雲蕭幹直承露碧

錢塘 倪濤 撰

歷朝書譜

明閣墨蹟 詩翰

李獻吉春日東莊帖

春日宴豫齋王孫之第

紫宮華殿映春風密樹初花日映紅向暮簾櫳香不斷始知春在綺羅中

思齋曲樹稱春遊酒綠花紅白玉甌借取游絲繫兩日晚風吾

上海棠接

東庄送杭太卿憲副其兄澤兩年友

久卻日向無風波羣欽送客游卿卿到時定生春問草有誰問

醉歐尊花我今五十半涼劇君日高貴元才華至細為問澤兩

子老吟何處多煙霞嘉靖四年十一月也空同山人

夏桂洲五言絕句帖行書

蕭二溪上竹逕二溪中水何處訪幽人只在溪水裡

雪步青溪曲林深路轉遲數峰青竹到溪西桂洲夏言

揭開修石馬泉詩帖

九月廿六日始會于石馬泉共二首

勝地荒蕪久華亭結構新清泉分鳥嘴白石勒龍鱗玉鴻琴中韻

龍花插鉢裏春里游人樓意擬問釣璜人

卷馬環城下紅雲指海東登高臨遠水採菊感回風清望徵范

外生涯畑畔中故園千萬里秋色可能同

楊用修客定宗聖寺二詩帖 行草書

春次九日客遊韻一首

兩年九日客中行泛宅浮家水上萍為米傳須海信來更倚勁

蜀山橫空度露白犀鵲載古木荊黃獨鶴驚博酒初忘拄落地

江湖不陽夢歸程

崇聖寺

屋敗小人境周窓是佛都山圍銀色界海湧玉琳珠羣形猶

壯伽藍跡已無經山飄粉都香雪利天吳雲雨翻起草鴛鴦廢

井移禪心同夜夜於望對秋孤月窓千里狂歌引壺作觀

意興極感此歲云徂升庵楊慎上時川先生詞伯改教

陸儼山白鷹詩卷 行書

比日邑中文士並賦白雁之詩雁介鳥也天寒而一即子感焉

因有斯作一以寄東石一以寄鶴洋

秋傳孤雁過瀟湘人在南樓望故鄉閨色總異新愁能羽毛錯

認清曉行關山雪後雲無影未來風前夜有雷驚夫婦照應

世久從靈治近文王 一首感的遇也

物相和月下三湖叫鄉夢天涯雲水鄉宜為羌地於盡化棲愁門

壁夜分行北書不到夢清秋南地初聞帝室霄飛近東山甘白

骨膏腴行雨賦裏王 二首皆時好也

澄皮照影度衡湘過雁峰高近帝鄉望陣雲平淺雪侵風

急字斜行疑花深處逢人未棄住時援晚霜南去北來狀也

一帶雲根卅雪藏書

裡大開三面憶先王 三首樂處大也白鳥是唐世相所畜物

作祇雁耳再為之和思王

一為米姿歲浣相不相人素奇江卿愛鶴池畔卿同浴故鶴亭

南不作行老去西風別落日暗來千夜報青霜主人思東於堪

戀故予猶知借謝王 四首懷故主也

良怨何須更吊湘翻三來向白雲鄉新就鵲巢堪同住鶴

夜十分晴江山自覺神仍助竹樹真疑畫不成況是松陵多得

事不作禽荒有聖王 五首美聖德也

絕雲緣影墮清湘足句奇書出異鄉可是成深能絕色祇緣形

化愛誰行時除印跡兩宜兩毛羽生寒本利新記得上林提荷

處却向形夫織男王 六首織紝勤也

未使星漢下滿洲牧點拽入醉鄉錢字傳情通萬里銀筆移

柱送斜行深三月色條孤影照三路心潛映霜猶吠揚雄頌盡

白重時羽猶青君王 七首梅未放也

北窗池館初江梅自為民承即故鄉回取碧應須照影蟄雖雲

路得排行風光正好遊宮南月色庫疑海地寒敢向幼勞然憔

悴且將詩句頌宣王 八首卻中興也 嘉靖丁亥九月之吉

徽山人陸深子淵父試事坡歲研書於此六峰之麥懷望時作

五十有一

陳繼儒跋一則見前

陸徽山夜泊詩帖

七月十六夜泊憶閔次前答時望丈拳

滿天雲月滿江鷗明又是秋風起海城一上小樓無限好不知人

夜十分晴江山自覺神仍助竹樹真疑畫不成況是松陵多得

和更於何處問歸日西齋試筆徽山老人案拜稿

陸徽山望夫石樂府帖 行書

過東壁驛賦望夫石

望夫嶺近青天天高心遠遠忘身化為石夫歸是何年　夫
不歸妾誰憐夫歸石能前夫有文與母高堂意懽妾脉前
誰炊黍姻　自唐人小頭風之角作而北趨日盛有泳製于亦
嘗有撰作為補古樂府一篇要止於義理焉束指子微翁已立

八月三日

徐伯臣五言律詩帖行楷書

善卷洞

玉洞疎仙宇月光掩暗雲
紛憑虛閣遠分萬人間內景連眠洞庭君

大澤氣石綠葉雲文東山泉流

一帶雲根卅堂藏書

張公洞

洞經閒房峰照曠府碧流旁泉飛雪閒重石起樓基定十年
閱手尤五色浮青閣指隱去仙風結濃幽

秋日陽羨舟中

秋序生江面窮涼歎平蕪數行雲不渡獨鳥下天孤
投人文聯雁分尋幕辦水錦鮮腮落浚紋　長谷山人金鼓志

書嘉靖丁未之子月

彭隆池詩帖

卜築青溪館新開秀水斬雪連明月長曉愛落花旋鶴引攜琴

一帶雲根卅堂藏書

三絕陰池

江南春色滿門郊繁燕初飛未定巢最愛石園新柳外一枝濃

李侍風月親杏

君家庭下有仙樹異現天上走移竹秦及映月試當窗幽韻同

風雲林寺　咏玉蘭

粉合胭脂作曉妝富於顏色香於香東風不肯全分付相對梅

花名斷腸　咏海棠

庚信風流賦小園碧山當戶綠池翻煮茶滌硯足幽事永日忘

形與客言　彭年

徐子與中行送珊瑚王氏昆季詩草

海內於今大有名自耕黃絳隱衡論均未必推公幹作賦還
應過長卿萬里白雲知我癖十年青眼望君情故人西去多相
憶別況復相逢慰此生

十年懷筑夏長拍兄弟倚滄海此度別離俱擊缶不知天
地有崢嶸孤鬼欠把千秋恨元戎方高兩觀橫正是昭明新句
露豈波應已決玄廬　鳳洲兄弟赴闕上書賦此送之

昭主初網法令寖萬方歡喜韜金知蓁劾埋丹棘詎有忠
能漏學泣北折　清遠徵南駭日域靜晏蔡功多誰記翻成
一帶雲

送許檜門先後題　閩越後再贈鳳洲兄弟歐志

珊瑚網云向論此枚山詩情韻甚見之日此天目先生筆也
遂改入此　式古堂云向論枚山改入子與而詩缺係歐志
未詳

表履善詠梅詩帖行書

純過纖朝津折倫只清一雲又吹空何白掌擇能泡雪便不為
臺與疎風

尺搖銀為千年用滿樹空當百日歌苦乙卞可憂盛裡秋寄雁
千鳴鶴間

仍雜宗繪塵少一到齊梁綺語多老子七十雖失角何曾一
字犯陰何

有花多處便能擱掉在金甌日日春百計量珠真富貴兩枝剪
綠太寒酸

賦葉雪雲物幕歌最花月未殘客至苑啓瑩不樹兵來并
用玉為閒

起來無賴吻風狂使典輕裘揖歐芳飛鶴不將身欲去綠裙雖
墜晚猶香

江左風流屬謝家諸郎如玉女九佳如何雪裡同聯句不比梅

花比柳花

收作園丁負鋤春風投筆到吾廬且看書畫論芳澤綠鬢朱
顏恰可渠

生長荒山野水旁何曾何市及朝場逃妍已致施朱女高歌
如得彩郎

漢魏晉詩韻已單六朝人物更何為平生老子無依徑不識桑
與梧桐

浮休嘆物所為新子美情梅管戰塵只應玉關峰火息老身常
作看花人

環子魔華令併去過仙押客相堪應知十載難洞洗唱傳沈
春結綺詩
百齊洞雲持深然谷風栗列潤水堅松山餐高座即中野飯
霸亡母憐
哀年景基等黃病高病黃濃各羅休奴所長投新水未夫胡
用置春等
看來盡種聚精英与斷人間一味青換作花王應不奈春時良
周水仙兄
吐吐心肝拱衛難是沙除步移時按奴霸定角走潮敲衛晚

詩屬午炊
錦囊玉笛喜逢從度曲聯篇雪月中老對北君無味大詩無
苗步花筍詞孫秀蕃

表順善曉仙探帖 行書

王妃喚月歸海宮月色流白鳥春空銀河決傳星魔碧玉人
山理早紅宮花有雲如新月小苑裏入寒琴綠窗傳喝海
聲細斷天陰凌雲子逸逸珠帳連湘煙鎖扇水霜金宵仙期天
曲盡綠霞動下視九州俱指掌王女騎紅尾鳳半空日前展
對美雲蓋狂塵憶北家世人猶竹幸情夢 余老懷仙逢閒拟

曉仙逢一篇以山人醴泉流高士不食烟火夜驻花容晨興北
將天馬雲氣露重若有所思而拟
舍乙未嘉月既望余西峻陽舟中與楊君逸至欣已高為高一首載
張敖書稽作詩帖 行書
稽作數首錄似春山老先詩教
次答禮川翁
釜井我茶事已多方舟安可別相離空屋也仰文章美汲引康
斯數逸山斗白今姓未娶萬事一身閑
夜月向潯江路幾何

昭帥雲壁宿山中
江草江花繞暖夕猿山同禽陽春空銀河決
追鹿屋北日行將是共倒清樽
坐隱雪吾敘上文
外以小住鹿鹿而先生不暗一字之教得非走而能
肉往知來之技即用是不揣很書一首少貝懷私未
二句以意逆之可也
前嫌高談惟待年初來清煎兩注然通詩久留更風字腦欽無
妨破秘緣入宦多君先即期逸名我但足林泉元龍百尺江城

裏何夕床分上下眠嘉靖乙未季春望前二日侍生張鐵頓首
拜稿

黃淳父詩冊 行書

茲山信靈氣南望接蒼梧海近壇峰時天寒鏡水枯裘微空玉
帛登金符捐仰玄宮在千扶片石孤 右題南陵

共遣區中累來從物外逍遙小勝不改吳越空留煮茗燒
晚陰唯薜荔來寒花送歸棹漁唱起江鴻 右和拙之

春烟蝸二兩蒙蒙梁苑隋堤一夢中織葉空憐半江水殘絲猶
怯五更風水豈園裏情無限藏小門前曲未終寄語桃花好栖
一帶雲根井宅義書 卷第三百九十 十二

浅白深紅開合歡然二香雨畫難乾會見一日三百盞無那春
消莫教飄蕩恨西東 長干柳

豐南禹詠史并登瑞石山詩帖 行書 兩紙 縱

詠史二首

唐虞去我意想像有書書三苗猶敦德丹未儆兜虐如何詩謗
戰坐見指鹿馬宜不懷若生寔名喬天衢大廈非一夫衛門即
可娛

肅宗陞妲已凍祀領臭姬綠珠感李倫鞭玉戕知之害端琴天
地舍歟決數希王愈由恒禍長生同舍夜思君淮海

登瑞石山

紫陽仙人今何在瑞石奇峰千古留掃雪經年映紅葉春光
郭榮來樓日捉江影帆檣動風起湖皮鼓流吠雲丁公去鶴
引共君汗漫遊瀛洲煮生超奇上子和先生清正

陳白陽詩草

蕭疏不設處吾道是吾家地僻車行絕林深客少來九與閒彎考
至力傳最遠踏最愛節簷月依依追復往白陽山人道復

巢僧人看新歷暗觸忽不怡惆悵遠行客戍成春日遠復書
綠雜百轉霄華輕紫翠重三綠帝城天上神宮鉉作屋雲開仙
樂玉為笙澗盤九渡三天淨峰奪星一劍揖此日分英發鵬
馭月明衍佛步鹿鬟 九日登高和作

自愧迂疎常取咎更煩多病酒經營一生落二弄如哥舉世論
酒亦可驚身外事機爭人夢眼前杯酒却關情知音成德流芳羽行者時喜
閒風雨明朝未許行 客過田舍奉贈

城上新月白溪邊新水深多因心跡倦不得往來吟 陳淳淳

復

陳白楊有鵲詩帖行草書

有鵲三南枝居然旅風雨下上美好音成德流芳羽行者時喜
閒坐青亦喜晴何旨鳥噪喜日來非門戶門戶洞落時風雨乃
旁午得語司形人甚勿自相苦 疾作書呈有道老第一笑大
兄義府閣舍田累日不得同話之苦有小詩承惜教和廿二日

方岳醉歌

物君且盡一杯酒身外無窮莫問口近聞淮直白玉堂或傳其
佩黃金斗與君何干與我美有不如雨詰耕夫烟呼釣叟問竹

活無看梅閒客天下事白有英龍人山中居只堪麋友乾坤
蕩之吟不聞令古恣之嘗俱杯鶴作農兔沒商春風來時又花
抑不知抑令義青花幾紅但見吾人成老就吾欲埽殺而山播
救南畝吾牛雖健吾衰久只可飛榮大酒醉幾鵬村田樂首吟
歌首不然空山寂之白晝長閒較一雙無用手

馮咸甫微風詩帖行書

微風度完日閒之閒字人歸便掩關樓面四意高教墻東一
閒帶青山春成書的維夫天後州得詩從大雅還神謫罷時暗古
帖蕭疎竹影研屏閒馮大受

人日立春前風光併作好湖雲酥映日湖水淡生烟乳燕銜花
勝鞦鶴送酒船韶華生樂事端不負請時　為明夫道丈書師
道
小迴水轉洛宮闕翠樓雙船暑來六月湖中天鏡晚百花深
處美人田鳳泉瑤苑擣春色玉釵金鈿又到庾性有漢皇綠精
抱千絲柔揚掌中舞　消夏灣作
蒙山橫海南前春紗帽龍頭接竹扇祖風飄詩成就題望殘
轉酒初醒何人可敵駱當英有客曾為品水經待汝山園生紫

筍還期千里及申冷
春光滿地百花枝鳥帽承塵半醉時莫放玉鞭催馬急理移
記宴歸時
坐古溪亭松樹陰紅塵不染靜中心高山流水千年調此趣塵
知不在琴
霜葉赤：落木秋江城細路遶山幽扁舟載渡者誰子溪上有
人歌遠遊
千山一白照人頭養豈生涯此釣舟不識江湖風雨裡豈能干
得廟堂憂　子傳陸郎遊書

錢功父詩帖　行書扇面
閑花落
金雞消息香難期銅柱功名北一時南報借分陳同晁東來新
斬莫支離烹魚不信書無字憂戚應於路有故聞說擢船方出
道
海短衣裳用忽歸遲　寄懷伯耳
鐘梵驚移夜向分林端月出高氣盈中庭繁蟲千人應下帳銀
漢橫雲斜香霧滿歌湘竹管牽情花氣石榴裙如何此夕抹中
酒不為傷秋也易醺　中秋夜立
越嶠吳雲坊佛春湖頭烟火衛家村山浮周黨非無主谷到當

客情快秋雲落日時　秋日同周總修諸大登浮碧閣
金昌樓上偶逢君把臂如二論文已驚座上珠玉起重筆
成閒堤雲閣君得七有新賦次韻酬之　時朴山下境即今吳中之東
雨住：未秦生秋聲清風滿君更舉起坐令寒上無憂矣　次
答吳翁升短歌
結綺成大閣車空祿莊氣寒野花紅杜鵑未是歸管窗入春
心醉夢中　無題　錢允治吳搞
徐文貞與白谷詩帖行草書畫扇紙本墨蘭
孟春五日奉候白谷老先生尊欽從辰至申感念令

今昔因成一詩錄呈博笑

尊酒忙軒覓日留向頭重續少時遊漫恨名附天閑騏且喜身陪谷水鵝膝漆有情原不解兵圍無事足相求滿歌伐木君休聽一月鷹湖一繫舟春生徐孺榻前頭

徐文貞五嶽詩帖 行書

五嶽一首

五嶽分五方迴薄凌雲蒼蓮從太極判秀色新如常中藏古仙人玉記與洞陽日月掩靈岡雲霧封石床黃公有高標拔俗心飛揚駐遐齡食思與煙霧翔同天不相知投契在短章書爲

今日來報予度江湘涉歷遍九州躋攀湘蓮荒天時羅雨虹度窺石梁僕本淪靈人間之時肝悅勝但思陰陽移人命如朝霜何不早歸家鴛鴦鞭紫鳳四載尚歸來高丘是五柳若果三花樹行過白鹿傍 山人有超世之志非乘儒業思遊五嶽滿得贈予詩予往予遊放喜予同志誰未捨平生而走高千里固霧本懷以要一詩予細欽高風西翁遥期爲約

王弇州書雜詩帖 行書

西山一何高高不殊無極上有兩仙童不飲亦不食與我一九藥光耀有五色服藥四五日望臨生羽翼酔藥生風雲俟忽行

萬傾流覩觀四海茫茫非所識

人生不滿百歲常少娛歡意欲奮六翮掩雲霓羣翻跨蓬萊湖劇翔九天上馬轡委路傍水流北極玄天海南翔沙丹丘

九州不得安願得凌雲翔遥遥八紘外遊目歷遐荒披我丹霞衣襲我素霓裳華蓋紛晃曜六龍仰天驤日月相追隨俯見羣物細大鳥殿登涉太微皇上帝休而憩屋后集東廂器我瓊琚佩敖戲九衢與知朋玩靈芝徒何美華芳王子春仙樂奏門延奇方服食享遐齡延壽保無疆

瑯琊王世貞

襲子勤送牛首山詩帖 行書 金粟

為探屬外勝載酒恰初冬逶迤由可百折山未知幾重晚烟連百木度月出高峰一望諸天近雲端起暮鐘

贈滕與茅柏穿雲宿翠微攜篇時月入倚檻遠山圍佛偈風鈴語禪心霜葉飛酒熟塵慮淨初對共忘機 送牛首山二首數

所襲勉

莫雲卿詩跋

小閣聯溪流山深事幽恩知音公遠寄洲

羽客不可尋烟雲自来去時三神鶴飛誰辨丹成處
明月来何時花深露華冷酒醒去空階佳人弄花影
晚霧散金波翠旗千乘閙羽紘堪自著客来品泉来　為懐荊
汪文書於龍潭舟次是龍
十年裘馬氣長千飛夢還君去不難桃葉渡明歌傷棄木蘭舟
上採芳蘭誰家明月酣春此京兆梅花犯雪愁絶倚擬嫣眼
在於時容易傍人彈　雲卿
乍出蘭盆倦晚妝紅綃不掩雪肌香新縫羅襪勾春興何用偏
飛小鬟皇　咏理紈美人
十帯雲根卅雲藏書

周幼海詩草
山盡雲邊路林窮湖上天身疑出宇宙已極風煙幻遠舟
外閒情短策前桃花春更好為憶遊秦年
三月海歸候孤帆待好風稍山認水面望不及落日思何窮水闊煙光
外天低樹影中江南不能賦詩客旅愁同
扶杓看山出同人載雨過寒生巡谷早映入亂峰多孤塔插層
露長鴻拒遠波村寒湖口勝指為借風裏
巖際破雲抽高爽夢不迷數峰孤杭上片月大江西更盤頻
小垂指象經低裏裳看未足何處數展難　右舊作田尚天球

城上高臺早打雲平臨畔晚送斜曛西山曲抱神京紫北斗中
睦帝座文晚色千門雙杆動　天萬里斤渭分黃金已改當年
築綠華何洞太史聞
扶桑一派碧琉璃春水洛洛漫拍隄兩岸綠蕪飛白鳥半窓紅
日暗黃鸝磯雨歌尋源共柳外風吹行杖蔡白髮慶樓歌濕
處憑將詩酒樂逍様
醉倚高臺雲霧重青山歷歷見江東天風忽向閩千度一片交
蒼落掌中　牛首層巒

十帯雲根卅雲藏書
廬湖石掬寄富山竹雪松雲共洒然我欲逃名堪石去無如此
地陽風烟　山居
小窓秋色滿庭梧客自貪茶翁有短墻芳草積不教蝸
蝶過郊家　秋色
綿綿春雲拂翠文綠軒春酒醉羅裙不知門外塵埃滿惟挾山
中鶴翔群　周天球書

徐文長詩詩帖　行草書
廿載神交後尺書長跪展過魚幸不死閱月亦徐春碧抑深高
館紅雲侍臣相過不能數秋夜蟾方真　書建賠關鴻臚

人多驟馬容君慎白雲司秣署了公事梅花作雪投帶宜知幽
在馬重覺塵煩橫洞庭香旭夜半三時
宜無蘭蕙好獨結澤陽桐訪友必裹去楚奇足對微風雷聽一
壁山水伴千重一片梅花美都令雪滿空　任棨爲梅子賦
賦
阿媽不含笑西子却宜顰膩濕雙啼月花溫二月春拭絹卻製
袖濁杯到朱唇欲得千金借詞笑　梁挑葉津　賦得製花工
枝春帶雨乃是一麗人爲所私留絆不得渡挑葉而帝座上投
賦
一帶雲根卿雲爛

角於闐食長新香異信香音年留朝北日復求風玉觴覺明
鎖金陵教妙妓夫君冀早起初日未高梁　約妾詩
昭陽寒混鉛華垂老參師日未斜不向秋風怨團扇却教明
月進琵琶朝留楚策身爲雨夜續茅君線作霓笑妓能山閒妹
妹尚論恩罷舊誰家　宮人入道
赤霧城陴女郎自將羅袖揮　座車風竹淚痕暗月一水麥
花解照人那取葉砧還破鏡祇持完璧棒強秦初天風雨來何
急似覺詩成泣鬼神　清風嶺
長春明月夜劃千起視當扉尺五間千里林光俱遠水一杯江

氣亦浮山南望錢唐似聞陽羨吹長笛欲喚真官語大還忽憶
催一棹
廣武清冷甚有人孤風響珊珊　宿長春祠眺月百八仙室
昨宵聞波樂今日聽舊曲何事來廬裡能爲白雪流逸韻凉夜
永脉脉故鄉越數行梅花寄塞鴻
十年多患難北日一音稀幸免清霜鬢俱羊生三四
見晚飯一瓊魚復作羞別臨岐各贈如　訪王山人於吳
門
一葉逗流去不還　君驅向大隄看阿翁風流今如此步輦堂
後杜白彈古狗陽刑江活　謂曹操挑葉津　賦得製花工
裡校圖畫流落風前共燭殘　陸孝子詩
十帶雲根卿雲爛

方山先生今七旬學道冷詩細里閭自成青衫是舉子不試黃
揚比封君疑長七尺朝疏雲門對千峰暮捲雲既遠塵襪如此
扣下拜鶴不爲屋　方封君七十其子刑部郎索　注山中白
長七尺

金在衡撥墩隱居行

隱居行爲撥墩武衛壽纲　金纓書

屐公隱鹿門意豈殊東海從古科名人高風振千載先生有言
不居自清時跡魚玉川裕先生有財不自蓄散與兒孫買書讀
閒來一局棋頻到三杯酒慷慨發長歌從容閱芙缶眼看生世
七十年家有園池野有白蛙將意氣向人吐落得風流薄海傳

我本逃名君避世自謂平生心膽契恁昔春令白頭分明異
姓如兄弟君家作德昭含實緻人福壽康而寧披圖致詞何所
願但願南山相對長青青

邢子應送高徵君詩

百舉卿夢無進事雖鶴鶏經歲敝風雨去逢黃度菊梅初
發還家鴈已殘故園無物美天末恨加餐送高徵君

邢子應五日即事詩

遲矣樓閣晝長閒與物蕭疎面遠山瓜本卯平淨秦巾拭勒
泰折青綸天朝命相初宣制人世還山且駐期湖海茫茫同底
十卷雲根井雪窗書

事規君暖鉄有緣書來會倘期簽詞具楊

何事抑送友南遊詩帖

行行送子將秋天秋風蕭瑟到水邊兒當鞚旗經方遠揚雄耳
前致身直上雲霄通公車奏闕當三千新詞拿得金花紙不枉

贈書畫秋畑奉淮淡頭水勢便風風雪上月華鮮此時得意如
登仙正與公子同翩翩送友人南遊之作為林處先生高何
三畏

王百穀詩卷

萬里還家一草堂佩刀猶在問王祥心同玉女寒潭水好寄鈿
雪晚山霜中理且教田種秫長生須待海成桑春風何枝榮門
下無數南山近女墻

千里山川命駕行鸂鶒兒魚服暫藏名詞人畫謝青雲特鵲尾
聽蒙氣迎吳苑游絲三月繫蘇堤芳草六朝滿里家載得詩盈
笥笑指扁舟似葉輕 扁長卷作二首

東山別墅卓泰田夢仲詩成憶惠連陽崖映烟千嶂綠當樓明
月一洲圓林中竹葉人沽渡口芙蓉日照船此地不妨雲共
臥載逢誰送買山錢 范仲昭別業

九山場外水如烟雨暗湖時不繫船此地人家無玉塵梅花開
日是新年 為受判官王將登

龍場暮引青油幕珊瑚碧玉拌日午漢宮劉暑殿佳人共
唱水晶盤 方鵬高第大尹王拜登書

杜子約裏烟生詩跋 草書

望裡烟生是子約草堂應近鶴鶴步江汀每恨無由見野店空
惟有酒旗亭可寫成風外雪依稀春動鵑中花相思高陽客村
連獨倚柴門數去鵑杜大紋書似之果世大

會春正效白居易知足吟

紛紛世人幾知足爭如野老拙未忘機扶石聽琴鳴泉俎荷
行傍柳綠古書細閱兩三行杜友相逢或五六有時對奕無
心鎮日滿意即免俗乳鴉幾點爭樹喧玄鶴一聲碧空谷一輪
明月掛松梢呼童拍塞傾醽醁清光映入酒杯中欲配漫吟助
仙曲紙帳梅花春復秋藥煙丹灶烟凝屋雞鳴報曙夢回時被
襟又起看朝旭粗衣淡飯隨分休不識是非榮與辱且吹義皇
太古民竇華謝却還純朴

六藝之一錄卷第三百九十一

錢塘　倪濤　採

歷朝書譜

明諸墨蹟　詩翰

項墨林南園雜咏詩帖

南園雜咏

深林既晝翳修竹復繽紛濁酒可自遣鳴琴誰與聞
綠綺横膝竹間以百花重雖無勝絲管聊用代相親
揭梧攄況寞吾亦忘吾形傳觴把虛牖清吹來空庭
夏夜敬軒序蕭蓋有餘馨一奏雲門畢衆籟寂無聲
晚涼風色和日落浮雲多鳥喧知歸樂事魚戲動新荷
遊心假翰墨晦迹托林坰品水思和諧評茶候清經
種竹深林中竹生日以廣新根千尺封但須三五莖
陰機如無鞭巢林當結根寄言廊廟友卒歲論同盟
時流好年少士務棄微寒白駿何由變塵冠不復彈
當漆樹堂前合歡生階前寒心與物化憂憤自相捐
良木材先伐猗蘭芳見鋤芭蕉獨無心迴時自萎舒
烏棲百枝鵲繞屋何依迷陰不擇其下自成蹊

唐門驟雨卷凡獨坐細塵不見乘軒者共來存故人　右凡十四首閒居寡歡風雨兼旬言成章詩以遺知者耳少狄山人淇三弟

學圃理荒穢把鋤及寒泉竟趨成餘蔬汎覽無生篇　前集錄補之

項墨林遂嚴少梁詩帖　草書

抗手辭紅易別雄天長日遠未云夜路連燕翼張如水下潤淮疾似馳寒鷹雙羽衝塞起扶搖千里信風次知君亦是垂翅者慷慨行游及爾時　嚴子少梁北遊既歸二月將乃成宜情

落不能言即項元淇

項貞玄近作詩帖　行書

夜闌靜無語上方墜群形浮雲澹碧空萬象息冥冥風起層雲去依然見太清人心與物情欲障明重恬淡忘欣戚勝理自常惺

月下步虛辭

形從圖後減光自時中生減已到光時生復圖形後訣本神代謝照係替升一氣布萬象化機無停輪寂寂杳杳保性靈不須假羽翼輕舉跨青冥　近作二首項德純書上雲樓

大時年四十六也

項貞玄書折楊柳詩帖　草書

折楊柳詞

山鳥巫峽長垂柳復垂楊同心且同折故人懷故鄉山似蓮花影流如明月光夜夜攀離散荐子淚沾裳

楊柳亂成絲攀折上春時莫蔡鳥飛得風輕花落遲城高短蓋狹路小車迷欲寫雙鴻意併是為相思

欲寫雙鴻意曲中無別意併是為相思

娟娟河陵樹依依龍主管江陵有曲洛下作新聲妾對長楊說君登高柳城春還應共鳥萬子太無情

萬里音塵絕千條楊柳結不悟婦園華誰同故鄉雪春心自清

萬春對即攀折共依依情無奈若年年別

萬里黃城外三陽楊柳青佳人連鄉思相將高樓別不思御年華會當窗裏攀折

倡樓故曙原園和正依依鳥啼知岸隱花落覺衣輕莫道攀折早書信稀　貞玄道人項德純

腕風花亂舞衣攀折和將奇宜年書信稀

書述

項貞玄元旦詩帖　行書

過去難云增將來漸以減長流恒相報新歲命不再辰年壯志輕

肥老大徒悲感浮生多坎坷大造何爽坦青陽品彙熙所遇欣
仰俛玄寂保真虛化機同舒　戊戌元旦作贈玄純
項良材扶夜詩帖　行草書
扶夜同伸醉宿能師房
黃花寄來收閩爲五更頭此夜不勝攜一年虛度於良材
項良材九日詩帖　行草
九日
九月九日南花曇片青山落酒杯青山萬古青不盡昔見六
朝歌舞來
丁春卿　雪巢井水煎茶圖　書畫合璧
莫道重陽無菊花與君燭酌各天涯白雲似解遊人意滴却東
南不見家　項良材扶夜詩帖　行草書
項良材具革請政
丁南羽詩帖　楷書扇紙本
市重指日赴神京千戶歡歌載道行咸謂榮陽仕異政宣徒倚
武得能名貢時不為貶高賞抱玉終非報主情苟課論功科內
治一時帝里動清聲

萬方玉帛會丞燕報政無如茂宰賢故事承恩歌慰寄寫上
計謁甘泉王春欲動宮墻和客在聊揮草又絃何日環仍賜
及三農盟酒樂堯年　送祝明府入計北上二首
拙日湖陵思不禁重雲擬書吟：黃金久夫燕臺色明月長
悲閨玉心秋盡關門翻樹遠其生易水雲華深唐閘腰鼓勝
入誰向天劉曦陸沈賦得黃金臺送祝明府北上
歲暮山寒氷雪深高軒千里託雲岑春日捧茶延佳色膳破梅
花伴苦吟惟耳等聲鳴急酒後簷蕉滴夜半扶無論寂寞沈玄
宰時許侯芭載酒尋冬暮相尋過訪感劉博晉叔山居丁雲鵬
董文敏花開揚酒詩卷　大行書
扇
淺深紅白宜相間先後仍須次第栽我欲四時揚酒去莫教一
日不開花其言
二喬宮裝井水煎茶圖　書畫合璧

松亭一揚　款
書玄幸
坎知是龍雷應：是松亭亭中有靜香桌論淨名經其言
陳仲醇詩詞諸體
步：穿鹿徑幽雜引夏長竹深山夏綠松老羽衣香琳果從猿
摘清泉共鶴嘗石墻跌坐久松壑忽斜陽　入山一首　似文荊
先生陳繼儒
綠成丹臺生結廬長松間仙客未通名對奕不知歲雲來暮局
暗雲去分黑白獨有雪驛猿窗觀無物色　右題仙奕圖
山上多松柏山下多花果松老已千年果熟垂百顆摩挲與

寄鎖石傳新火焉經未終山已得前生我　右偶絕作

捌底恩微明才容靜者爲終朝醉花露画債買松風掃梁山中相註經河上公往來不一里隣比竹給柬　右避暑作

不憎杖頭錢買花載滿路賣花如爻子一步一回顧花前繫船人酤於風雨妒勿君莫採花還作花都盡　右種花示客

大隱在城市仙人好樓居四五百竿竹三千卷書竹可知名書可讀況有新松翠如沐就中上座是阿誰男兒梅花兩箪看

陳繼儒似玉水詞元正

我有好山長苦出少年未去獨安牀閉門刪草不解案對月傳經猶未眠窗夜留桑拓火郎堂扶淡荻麁烟穿林乍得琴

至德到松風第幾紅月公

仙女吹簫勿下樓問年十七尚羞含五銖錢重同心結百和香

旬半牌梅鏡裡見人寫却步夢中索母擎杭頭契來天與花騎

載多子先教採石榴　友人五月納妾之作

春風久唐突花事亦支吾猶有殘紅在折花以相贈　暮春遊訪李二

和投宿鳥擇不定笑跡斜陽中

絕書似受判先生陳繼儒

問往閑來獨晤歌柳花煮子水微波西湖堤上平如砥春事青

寺放白鷺　憶西湖作

滿三潤三拔頭月長一落三千丈

月打山鐘　迎秋早坐

秋三山堂報晚鐘纔三更月能底事帶上明日野

來是老杜　和解脫偈

湯陰初做蔡薇黃宋惟多詩田閑

琵琶五夜酒寒光散作青蜂滿下方無限素娥春萬統半天煮

錦半露裳　鄰初煥

光生碧海　天空萬井晴拈玉樹風註春石家紅粉恨一時移

入水晶宮　湯煥

水晶簾箔夾珠璫映映虹搖落九衢已見台階符泰運更看人

壽比方壺　海初道人

雪裝深裡按琴歌吹人間玄吹生座客西樓更畫不知東

海曙先生去大

珊瑚網跋一則見前

扇面坡處士詩帖（行書）

成化御府一章錄寄世古秋元福契一呎

滿堂簫鼓賀新年城日晴雲萬里天毛袂已非三祝福衣冠原

似十年前林行小閣無燕味詩吹東風有剩腰分付與童休卜
富氣堆經史飛良田西坡顧持揭辛已一日
甘製泉門巷詩帖 行草書
門巷深三竹作籬曉高紅日共雲低何因人老東南釣喜却吳
空水月枝南海雙泉子甘學
段子卓地迴通波詩帖
地迴通波接林迴曲岸斜人逢丰者詠棋答判漢援榮閒泉湧
國花明雨映沙停舟一簡問知是高共家廬山段金
沈俊明不律引詩帖 楷書
不律引
有橋老先婚寫秋拔毛脫類序快、制筠新綠深花杜天丁東
十番雲棲井雪義書 卷為三百九二 一八
綠風飄體便如戈重快心手於壁長雨雪風過驟奉象忽把
吼雨降堪、寫妃走虎虔誤典閒鴻蒙白史事削拔天功令人
製作堪古用意非今司本學黃金武詞賦巧將長笛曲
情素風雲月露雕蟲妃落花飛雪滄江某神緣龍賓斛杜力
陳晉生留別少石詩帖 草書
排山岳輕毫芒鬼母夜哭蚊蝠敢管城真、無清光吳興流俊
天涯倘盖意如何落日津亭慨多客的風塵解大澳雁先寄

招猶欲來更著花一枝紅艷倚屏斜不禁連夜雨盡吐芳
菲散夕霞醉後折來驚客夢杪中堪去惜年華武陵挑樹漁郎
識又負西風八月槎鶴仙仁調苦
倪鴻寶晴山詩
晴山點不上多烟一味幽清淡遠天最愛秋松二下水秋光都
在釣魚船 題畫似玉谷老公祖元璐
書能始花朝社集詩
倚仗芳春物外尋城隅津似入山深百花放盡空生日亂為衝
開即放林詩酒雖然娛勝境水田猶未露秧針座中若有樂也
術與墨偶宜戲作雪 娄東花朝社集有介詞文酒閒時正舉

佺
黃石齋篤筆披襟之印 草書
寶筆未盡意披襟一唱北海埃臣子祖荊望古人遠雲未斬燈
火何須論俸錢長戈與白石往往謝虎牟
擇一初守螺山隱士歌
螺山有隱士飄然仙者徒朝旋螺之麴英風螺之陽紅塵拋落
身外事白頭讀畫人間書來駁琴高鯉未釣任公魚手披宮牧
萬架列山海風蛾司受給五斗俸螢蚊浦宜燒瞳明珠拋壘封作

笑螺螺楚閨脫網蛛蛛人言大隱朝市小隱螺山無不是
何物老病香山前隱作男官良可鄙螺几生對螺
山淨如洗鉤屏矗三鉤曼來佛塔峨三望中起千林風翠散晴
空半島寒雲淺秋水我尋螺山居系維螺山路一見螺上人母
論螺山句約三笑堂文佐三逸初眠丈夫無遠謀千載何足慕
我本吳人亦有里網漁貿山海客沃洲書參落江湖歎足暮
江鄉豈皆不可留便當小結山之幽安得神駕向山去共嘯青
螺海上遊
妙少師 程 詩錄
白雲生江海客成陵水歸公十年雁書未到風塵慶洛日淮南
現舍遣海望東流白雲白雲相依久鼓天地悲銀牀紛三遺珠席
琪花夢裏莫遮天莫笑仲春深雪雜碧雲生滿堂不為鬢霜忠
爭負國海書只見記姓名掌劍須書萬人敵白雲生勉勿忘把
龍蹄田澤級不能取封破胡將軍專將軍將軍真佳士不失漢家良臣
三千石胡為乎庸人上賢生書空白雲為歌烈長歌轉慷慨
倭行役聽母在堂年半百為君重賦白雲篇
右白雲生歌為王履道賦懶閣前
牛衣辛隱者流一劍事君田野扶策不肯干王侯十年從軍

不得志歸來自鈔漢書一過牛衣為食石為枕雷鳴良自泰詠之
醒來復夢之復醒不知蝴蝶為莊周又安知魯侯翁泰焚舟
晉盟踐土齊桓葵丘戰國縱秦何足道黃金用盡空貂裘漢家王
章不解事妻兒對泣良可羞牛衣安得為不拘莊叟門不應明
生不達竟與時違馬能感之增煩憂夜夜風飈之東方吉未
出長歌且眠南山秋 右衣斗卒為王景度武昌行

妙少師五言詩帖

我本叢蓬人不樂城市住從來禮法疏自得山林趣山林有何
好窮寇忘世慮素積澗口雲綠窗山晴樹深林 相與長空孤

鶴者遠峰聚有無飛瀑如雨洞其中隱者居茂衣安得
十卷古農舟堂藏書

天隨子莊徒扶廣此詩為與

邢夫人挽自述詩帖 與書局藏祝本

儂自閨房處女子聞君博聞通古史路君海涵宜於多光陰幾
度如弹指萬里歌方曲路長松相森森雲淒遠陽刀劍如林
忽征馬南征弩似霜何知君房抱沈痾奠君報國酬英王日為
三苗亂我恭君家昭烈血跡幽旅不見夫君借日容誰惠携手君
所言君家何處倡煙霞白雲來處空歸路君惠故鄉情
遠萬里多夫涼昔去雲擁駟馬車今日孤舟住夕陽子母寒

金骨寒山趙氏陸

華家數於一字衰儒家妙緣出塵名動彩臺 廣陵雲滿烟鬟氏

花殘屬ㇾ有儂名欲勒春風欲轉萬對月臨雲吟秀句幽閨一
倍使人清興楚玉液纖纖袁氏
綺牕得聽梅花奏至今暗香猶襲人也小女閨妹吉倩秋鴻新
詩特遣婢子頌影即領歌戴氏二姬一絕附正
雲鬟月動兩相宜清作扶疎夜是時我見猶憐而況君江妃漢
女莫猜疑　外曲中衛宛若錄呈一品題之眉社
女弟張徽卿

明閨詩輯合卷

牡霞閣鑒藏明名公詩輯

野寺垂楊裡春畦乳水間美花多映竹好鳥不歸山城郭終何
事風塵益駐顏誰能共公子萬慕欲俱還　高陽許初元復
青天嵯峨擁高峰江光倒映千芙蓉長松百尺盡無日飛泉直
出澤林中綠樹荷石棟仙客春吐江山與丘壑先生方青手
為出意態殊縱橫千年不改狀山色萬古朝宛流芳名林滿聚
黛展此幅身在室廬與天同濟南李攀龍
謝却塵凡求上房推蓬納受人意虛持勝長珠書牖夜夜影連
連雲影珠客至烹茶洁市酒與來垂釣笑江魚多少住翅雖云
異終向林泉樂有餘　劉績

北館清虛落照紅麻衣涼拂鬢花風蘇蘇鷗歷亂平沙外老樹含
牙曲水通是雨山光清似洗涵秋江色碧如空喝桃山女黃山
採織步行雲入紫峰　瓊
維揚津載漫江泉涉三洲烟霧中雲黑欲能噴凌清天青日
月度虛空山嵐林屋陰蒋祝水接城池瀾氣連綠鴨未棋局勝
賞千秋文藻仰名公
東南襟帶滙群川汗漫浩浮銀漢連春吐雲霞朝浴日動搖星
斗夜涵天荷蔽亂捲千重雪孤鶴斜衝萬頃烟挂樹參差珠斛
綠浮游真欲控飛仙　右太湖二首王守
春湖萬頃玉溶溶搗上春山翠掃空神女月明珠返滿仙人雲
映宮迎風花枝香霞琳宮外草色青連紫洞中昌挂一帆凌絕
頂看鵬翻悔賦雕工
臨破萬山雲言採千歲藥歸來春滿時杏花紛紛落
木落遠山出天空雲似低朝來賦秋興結社過稀西
野鳥穿過流雲排屋來有時復對月懷抱得無閒　陳鎏書
江頭春色晚重重萬樹桃花帶雨濃尋芳出門去閱妓人
語水聲中　獨坐洪亭酒半酣閒看春色在江南沙鷗舞風科
日裏前烟漠漠柳絲絲　近作二首上高門仲山王問

幽人每愛菊村樹背郭昧卜林塘茶烟冉冉晴雪戶籬月約約夜到床何日杖藜尋洞伴悠然鶴詠賦義皇　張章科儀

長溪東注碧流清舸水能令道眼明暖浸抽花渾是錦淨漁星斗若圍拜放歌自得林泉趣拂釣相忘物外情泉石徜徉終俗慮年來性癖白鷗盟　我嗣沈璐

地厲無秦流水濱青山白屋是閑人簑鈎暗映先迎月蓑笠陽和早領春不到西陵無別業自知仁厚有比隣清秋相約荷衣後去放滄洲採白蘋　虞川歸有光

上巷雲巢井水寒幽人每愛菊村攀卜林塘茶烟冉冉晴雪戶籬月約約夜到床何日杖藜尋洞伴悠然鶴詠賦義皇　張章科儀

長溪東注碧流清舸水能令道眼明暖浸抽花渾是錦淨漁星斗若圍拜放歌自得林泉趣拂釣相忘物外情泉石徜徉終俗慮年來性癖白鷗盟　我嗣沈璐

地厲無秦流水濱青山白屋是閑人簑鈎暗映先迎月蓑笠陽和早領春不到西陵無別業自知仁厚有比隣清秋相約荷衣後去放滄洲採白蘋　虞川歸有光

穴晨光謝晴旭軒牖見平疇躬閑理耕牧魚鳥日相親辭利不問曙時鵲天陰雲或逐溪上月車轍往來稀舍下和繩桅閑統林春草長綠溪行世事竟無聞所樂幽獨　海濱消南金

溪上風雜雲淡溪頭柳如絮花明倚門誰家笛聲斷曲中度

雪霽珍林青疇白沙寒白鳥雙雙鵬畫酒香熙熙月高梅影吸塘　觀察張志揆

明光九級畫琉璃為答玄功詎情替地異赤烏寂寂後基同白馬碣名時翥峰直與諸天接風劫從下界窺登眾欲書多寄

事奈無江總善題碑　右報恩寺浮圖皇甫百泉

把酒登樓明月夜交遊不似去年親張弓插矢追飛鴈未又送人探揚有狀烟火少兵車無戰功書劍却憐醉裡丹摐葉似與吟翁意泰　謝時臣

日日尋源統白雲也堪堂下每年勤泰即好事能成約陸羽與姓許見分及取宜酬風雨往來亭趾處處張屋纔同小集秋林下石鼎茶香除酒瞋　漢次作

畫樂嗖扶一葉舟常時載酒泛滄波清風明月情無限水色山光興最多楊柳岸邊和雪釣蓼花汀畔影裡如經過客形

六十年來瑪耒無優游林壑為青山滿戶搗盃酒此是居
家得意時　錢穀

天寒雲東地欲裂飄風吹人草木折深牲墮水翻白雪長鯨滾
滾水如立侯曼古樹烟火斷荊榛重關無人迹中有老僧太奇
絕獨明悠：自鳴世宜弱垂：散珠粒納衣片：沾瑞膚指蓋
那能障思賤手脚半皴唇齒龜魚舟漁子畫入淑芙蛟老僧太
癡方冒險無求自得意舉世尊能論巧拙子卿瘦食求人顏蒸
州半夜真人傑指圖令子三澳息濡楊之思令已滅　嘉靖癸

已夏至後少華山人須初書於紫步閣

紫門寂：掩青蕪空谷音徵跫欲無一水故人通尺鯉九霄仙
令擬製鳧可南宅　盛龍句卸里人歸和靖孤早晚課書禽畫
於今淑問滿新都　答丁明府王世貞

玉扃初殘曙欲生千官端菊候華清烟南碧瓦秦差鬼月冕金
門上下明仙仗乍移雙扇合侍臣徐退萬花迎孤忠自許酬真
主況復鴛鸞榮太平　春日早朝之作豐南男

鳶蔽盤雲陣虞虎羆峰那祇向等奇周圭日倒千尋影漢指雙
封萬歲枝野色中原龍戰地鄉心南望雁來時西行未散盤陽
慨一與緱山子晉期　中秋一首從中秋之晨西去為緱山故

及之莫如忠

鵝鴻何如鵠：拂羽東為未忘落月承宇志王及閒閒之起舞
此生何為逐累縲：振吾衣宴坐以待旦壬午春二月廿一日
書於白龍潭舫　莫是龍

秋日幽尋物外期行：出郭得招提官閒自覺紅塵遠地勝何
妨白日遲雲散空花供結社涼生別院試閒棋星都車馬紛馳
迹只隔城闉已不知　文彭

朝元山高：入雲青原玉筍連氛氳石蓮古銅鼓交翠蒼蒼蒼銀
陰飛記文從來人傑由地靈天降羅公應歲星胸藏萬壑吐奇

絕第一膽傳趙帝座帝座宛轉石梁側倚肩玉煩桃花色雲光
錯落錦袍新珊珊出海秋月白丈夫得意須少年少年惠須金
閨籍忽然與動碧山樓翻然長往楚銀魚換却歸蓮閒一
綸閒釣長生書白飯黃精鍊道具河門時挂笏華中齋房乞缽
飲玉夜別有玄境無纖塵也前途春浪客落魄無閒頭已白
卅年誤客塵網中時一思公情他：當時愚公戒苑曼容惠猛
筆爆生華一別逸：入夢頻何時去會盧江濱盧工水遠笔查
陽商山何追尋遺民事逸古洞受窗訣桃開口三千春　嘉
靖乙未暮春寄羅念菴石蓮洞歌閒雲文隆社

刺骨清寒病不禁空中寒落强登臨塵抽每吹窮途厌幽時難忘入社心竹院靜摇斜日影松壇徐拂度天音朔風吹酒路外鼓鼙殷城憎迫陰　氣候治平寺作文元發

海擁峰頭路長松落日前筆歌隨處有羅綺照人斬池水和烟碧巖花着雨鮮生公片石在相與話因緣　劍池近作岐雲庵治

龍戚矣氣高蟬聲灌木風征帆指江上浪迸且山中晝永長林日涼分獨宇風泰淮醉花處還憶此遊同　虎阜別友二古泰尊尼

喜楊夫御河廣陌治遊多雜耶當場聞人將拾翠歌雲間鮑画鼓花裡度鳴珂勝日不為樂其如春色何

映日窺金鈎連雲峙玉樓豪華給越時俠少就吳鈎鳥鳴全城曲林香元入頭砍知麗春當不減在濃洲　滁進二首成元佐

湖中日氣午氣氳風外歌聲洲上聞青天不動閣沈樹白鳥下處溪成雲浮空草綠春無盡隔浦搗平野欲分暗觸此日即倚棲却自亭前憶右軍　烟雨樓登眺

溪邊坐流水水流心自閑不知山月上松影落衣間　萬竹霞

北應長日盡初覺門前一片石新張巳塵跡　中岳元佐書

煎風吹暮雨蕭颯入簷燈前花垂落窗外葉同疎雁濃應難斷猿聲豈暫除石堂虛　賦得虛牖夜雨頃元泉

永日實風泉序催雨山逕沒階苔雨生空中飛鑿挽人去岩畔餘花待簡開寂寂芳林裡幽泉碧澗可浮杯與君莫負山靈約早晚移文獻詩來　初夏約赴西山得杯字同禹門兄作元漢

蕭疎短髮不勝冠卧起空齋夏午餐數種鳥聲新雨霽一畦花信朔風寒指猱學圃於陵子未關志年當如要懶慢不須酬客難洞裡聊欣重交數　書所知過南國之作步岳山人書

編衣道者水雲家白衲先生醉臥斜幽興不窮清晝永風前筆硯竹邊拳墨林項元汴

猗猗谷中香鳥作琴上聞萬古聖人心幽花數枝玉　習居為

鬱如美人作

翡翠成雙戲晚汀楚天烟炎扇春晴靜人底事多題咏香芯芳

撥共此情　心原野夫為蘭如妹

湖上堂開霽色分湖空風落水如紋家　燕乳揚花落屢之韓

眠柘葉紛將竹欲滋三徑雨秦黃常護一溪雲不料好事頻相

過時向槎頭釣夕曛　南溪別墅野漫興張服來

秀色凌雲益有神年來養就赤龍鱗和雲寫入高堂上相伴人間住世人　古松咏陳芹

已入雲林識知無軒冕緣栽園息鶴抱葉翻鳴蟬永日虛榻盡涼風枕簟偏石閒閒種藥不是慕長年　長夏閑居張鳳翼

旅食寄南國王程計北燕閑樓期此日分手愴何年即景秋增感許光祚

色儒衣初拍船逢迎雖不盛問訊自相憐　寄朱北部張獻翼

天上佳期近林間暑氣收送憐河北渡正及火西流日暮雲連夕星閑月在樓七襄終入咏還擬賦悲秋　七夕立秋張獻翼

雨收江水綠送別孝廉船陵到墩墓外磯采燕子前當壚女二八射策士三千贈子黃腸綺成名在少年　送友金陵應試王稚登

欲識林中士言遠山外樓靖天容淨到專浦為停留心鏡若曉松喬樹下秋從來空寂地不用姓名投　三堂杜大中書

堂稱千峰裡雲常載雨回新篁青欲滴古木翠成堆雖試期公務且傾尚令孟將窮奇絕處端不獻重來　杜大綬

石上松千尺攜西水一灣秋藜從此去應意有青山　吳門張元舉

閑支角枕宿消魂樂硯藻畫梅門忽憶天涯芳草路教人低首怨王孫　莒蘇香清酒半醒回頭一時歲網情誰能繫取西窗月照人　明佳世人　古松咏陳芹

已入雲林識知無軒冕緣栽園息鶴抱葉翻鳴蟬永日虛榻盡涼風枕簟偏石閒閒種藥不是慕長年　長夏閑居張鳳翼

旅食寄南國王程計北燕閑樓期此日分手愴何年即景秋增感許光祚

色儒衣初拍船逢迎雖不盛問訊自相憐　寄朱北部張獻翼

天上佳期近林間暑氣收送憐河北渡正及火西流日暮雲連夕星閑月在樓七襄終入咏還擬賦悲秋　七夕立秋張獻翼

雨收江水綠送別孝廉船陵到墩墓外磯采燕子前當壚女二八射策士三千贈子黃腸綺成名在少年　送友金陵應試王稚登

欲識林中士言遠山外樓靖天容淨到專浦為停留心鏡若曉松喬樹下秋從來空寂地不用姓名投　三堂杜大中書

堂稱千峰裡雲常載雨回新篁青欲滴古木翠成堆雖試期公務且傾尚令孟將窮奇絕處端不獻重來　杜大綬

石上松千尺攜西水一灣秋藜從此去應意有青山　吳門張元舉

勿嗔莫愁房櫳窄婦欲留儂恨路永織月流不知此景誰能
酬空將好句為君投　題項子京攜金華吳摘子
數杖津如拭白頭何處來乾坤無汝並狂朋有人於詩句經年
鍛衣兒擬古裁每聞秋雨後蕭寺有僧來　贈吳玄鏡康德慮
真心無散亂他事不須論過去已過了未來何用求玄宰書於
墨禅齋
鷗友鱸鄉兩不猜蓴羹千里數秋懷應憐六代風流地畫有新
蓮滅晨臺　方金陵作
池邊荷葉衣無盡畫裏松花拾有餘剛被世人知姓氏又招吾

屋入深居　為愛烈先生書董其昌

明人碧筠精舍卷內詩翰

水滿清池竹滿樓長廷六月是深秋山僧愛客頻來到愛畫
鏡與若成　六月望日過愛日軒題贈　應禎
步來禅榻畔涼氣通園滿花雨檐前乳茶烟竹下孤來閒杉盡
卷習靜對香爐到此忽終日浮生一事無
老碑臥坐處疎竹翠冷二秀色分隣舍清音墜覆佛經蕭二日
暮雨載履統芳庭　雨中同李范卷過天王寺舜舉二首　吳寬
檻外山光落經卷土岡高竹晚增秀茶妙笋能迎客欲去岡君

須少留　宿天王禪院贈南洲清主　劉溥居士
眸望令成似添稠不語廣前翠欲流莫怪秋來涼思早暮中村
鳥也如秋　辛巳八月朔過碧筠精舍偶題次韵　盧雅
高帽短袍雲霞光偏舟繫纜野蘿旁焚香潔坐了無語山寺閑
門春竹長　坐碧筠精舍　太白山人孫一元
遠公能愛客高會鬼謀才五室香貂滿天華窗掛閑林筠逕型
谷象外徵攜室對此復能賦長歌甘草東　陪林屋師會碧
筠精舍　雅宜山人王寵
日出池光欲上樓雨餘脩竹似鳴秋相廣堪處龍鬚熟坐吸清

風翠滿甌　右和范卷先生韵
陰數鴨脚樹翠意成幢滿境叙心同遠僧閑與不孤霞蓼松下
石餘茗竹間爐欲聚無生話扣底詩本無
雨苔春寂寂風鐸晝冷冷有客來自寺山僧自課經經殘客亦
去林鳥下空庭　右和范卷先生韵
爰此森森竹滿頭涼陰覆榻草堂幽秀鎖瓦鳥春眠學何處一
聲黃栗留　右和南濠少卿韵
暗勝平生雙不借穿林老去一扶留白雲每倩高僧檻黃葉時
尋野寺秋　右和盧師台韵

竹影參差滿日長市聲不到足僧房掃巖轉覺殘陽在始覺空
門白晝長　右和孫太初韵

上相遊行地屢賜眎味才殘稗侵蘚跡遺瑞白花開風池清齋
磬鴉鳴施食臺故宮愁入望落日滿高萊　右和王殿吉韵

徵明屢遊天王寺未嘗作詩戊申南洲聞出示諸賢留題詩卷
因走用韻和之共得七首所詩雖多亦莫以為也文徵明識

故歸陽羨復作一篇

歸去來兮清溪無底上有千仞崖我晝樓東畔天遠夕陽多老
去君恩未報空回首彈鋏悲歌船頭轉長風萬里歸馬駐平坡
無何何處是銀漢畫處天女停梭問何事人間久戲風波顧
謂同來捶子鹿爛柯青山破屋仙笑我千縷掛煙蓑

米南宮登海岱樓玩月詞

海岱樓玩月作調寄蝶戀花

千古遺將清絕地海岱樓高下瞰秦淮尾水及碧天天似水廣
寒宮闕人間世　謝：李和生海市鼇載三山頃刻隨輪至賞

歷朝書譜

宋賢墨蹟　詞翰

蘇東坡菩薩蠻詞

貧由陽羨吾將老杖初只為溪山好來往一虛舟聊從造物游
有書仍懶著且謀歸去筋力不堪詩要須風雨時

蘇東坡滿庭芳　並序

予居黃五年將赴臨汝作滿庭芳一篇別黃州既至南都蒙恩

故歸陽羨復作一篇

歸去來兮吾溪無底上有千仞崖我晝樓東畔天遠夕陽多老
去君恩未報空回首彈鋏悲歌船頭轉長風萬里歸馬駐平坡
無何何處是銀漢畫處天女停梭問何事人間久戲風波顧
謂同來捶子鹿爛柯青山破屋仙笑我千縷掛煙蓑

米南宮登海岱樓玩月詞

海岱樓玩月作調寄蝶戀花

千古遺將清絕地海岱樓高下瞰秦淮尾水及碧天天似水廣
寒宮闕人間世　謝：李和生海市鼇載三山頃刻隨輪至賞

錢塘　倪濤　撰

月圓時多異氣夜光一顆千金貴

宋南宮詞蹟

風爐煮茶露刀剖瓜暗香透窓紗是池中綠花　鳥桃碧鴉農

妝臉霞玉尖碑動琵琶閒香醪飲塵米骰

王晉卿趙昌胡上詩蝶戀花詞卷

頻昌湖上余有贈諸公詩其畧曰清影十分月暗香千枝蓮不

知從此別高會復何年韓公詩曰浩歌輕白雪密意得青蓮詩

就西樓月留為好事傳而蜀公云憶秉霄漢鶴翻說於尤蓮可

惜玉塞處等閒幾年蓋公不喜擇民故有是句亦可一笑也

一卷雲根井雪義之書

小雨初晴迴晚照金翠樓臺倒影美蓉沿場柳垂絲風裊嫩

荷無數青錢小　似此園林無限好流落歸來到了心情少坐

到黃昏人悄更應添得朱顏老　右蝶戀花余簡不餘病近

年頗能飲故多醉中所書耳韓公韓持國也蜀公范景仁也

書容跋一則自見前

方少霞黃鶴引詞帖

生逢垂拱不識干戈免田隱士林書圖終年膚非天龍才初閣

菜老去支離何用浩然歸算似黃鶴秋風相送　墨事蔡約心

浮世莊生夢漆舟遙指煙波肇山簪動神閒意猶未有利錢名

只恐塵逆子賢末有脫字　右南卿口子世忠

陸放翁劍大聖樂詞筆書

雷轉雷驚自嘆浮生四十二年試思量往事原無似漫悲歡萬
狀合散如烟苦海無邊愛河無底流浪者成百漏船何人解問
無常火裏跌打月堅須史便是華顛好收拾形骸歸自世又
何須著意求田問舍生須定達死要名傳憑天窮通是非榮辱
此事由來都在天從今去任東西南北作個優游
陸放翁書長相思詞五闋

雲千重水千重身在千重雲水中月明秋釣筒頭未童耳未
聾得酒猶能雙臉紅芳尊誰與同
橋如虹水如空一葉飄然烟雨中天教誇放翁側船蓬使江
風聲舍參差漁市東到時聞暮鐘
悟浮生厭浮名回視千鍾一髮輕從今心太平愛松聲愛泉
聲寫向孤桐誰解聽空江秋月明
面蓼然鬢皓然滿腹詩書不值錢官閒常蓋眠蓋浸烟上甘
泉自古功名屬少年知心唯杜鵑
慕山青慕霞明慕筆橋頭船子橋蓼風次酒醒春潮生者廟
平小住西陵莫校遲事緣初可喜浮跡或申八月下幹並澤

陸游書

張叔夏過韓平原慶樂園眺高陽臺詞蹟

古木迷鴉虛堂起秋欲莊轉眼驚心南圃東窗駁風掃盡芳塵
蟹舟飛入平原草最可憐還是秋陰夜沈沈不信歸魂不到花
淚吹簫踏葉此夢去任船依斷石柚裏寒雲老桂懸香珊瑚
碎擊無聲放閘已是愁如許撫殘碑又却傷今更關情秋水人
家砧杵西林

吳夢窗詞稿

玉漏壺冰淫度中秋夕賦
腸逸風訊小庭瓊望杳碧雲先晚露念關千定怯鶴綠水腕淨
洗淨空庄玉勝花影春燈相亂泰鏡滿素娥未肯分秋一半
一簪雲根卅雲義書 米芾三十七十二 十五
每圓處即良宵甚此夕倚競對歌臨怨共一輝娟娥許羣屏雲
笑孤免妻照水曉風起銀河西轉摩戛恨誰堪素魄人遠
思嘉客賦閨中秋
井梧花開第二番裹誰展却愛朗寬人閒寫鏡誰堂今每上仙
槎去復還分不盡半汀天可惜閒割此嬋娟素娥未隔二秋
夢贏得今宵又倚闌

心閒春水畫舫方泉寬客請以名齋遂賦此解
浴罷西湖趁紅衣陌銀河地穿見華星次第棋小滔川一弘地解
處瑞玉表寒針谷山來望春樓遠無此嶂蠻小滔川一弘地解

不及不過獨憐狂關　老蘇而後坡仙絕韻井磊名相與傳試
摩挲勁石無今角折丁寧明月莫宛規圓漫結願那知異樂
心止中流別有天無庵夜聽吾伊正在秋水閣于
齊天慢　此陵兩別萬招飲丁園索賦
半吟草　獨存清樂易懶案燒人未格樂書長少卻下停車尊
前岸情同拍雲根一笑秋香未老謝風雨西城暗數客智背川
移舟亂鴉漠樹曉

蘇武慢　賦芙蓉
綵閣凄迷翹澗登映忽入粉烟蓝點杳龍霞水臙脂紅成一統
萬妝爭妬相女歸魂珮環王冷無聲敏情誰知又江空月倩凌
波塵起繡鴛愁舞　還暗憶細念蘭橈除非瓊碗見的更情心
苦玲瓏翠屋輕箑水綃翹鞠雲留住生怕衰　晴餐秋被紅
衰喘珠零露能去西風老盡羞趁東風嫁與　老盡下疑脫二字

八聲甘州　和施知言姑蘇臺韻
步晴霞倒影洗閑愁深掩翠風將望越來膚淺吳歈香露江雁
記睡農更苦妻風緊鴈迴心未起送曉色一壺葱儂財如花夢
初飛蓬路凌空粉冷濕妝池歌舞烟書項樂景沈暉　別是新
準　湘妃化作此嗎若凌波路古岸雲沙遺恨臨砌影寒香亂

凍梅藏韻素爐畔旋移傍枕還又見玉人坐紺幕料峭寒清華
池畹臺括須蒲引

元賢靈蹟　詞翰

趙文敏書詞行書

雲淡風輕傍花隨柳將謂少年行樂齊園林閒小車城裏千古
太平西洛瞻被決二吾思君子流水儼然如昨但清游天際輕
輕未辦暮愁離索　長記得童冠相隨浴沂風雩吟咏萬載魚
躍逝者如斯吾衰甚矣調理自存野酌清崩朱綠舊堂金石隱
几似聞更作農人告有事西疇宿雨

北隴耕雲南畝釣月此是野人生計山鳥能歌江花解笑無限
乾坤生意者畫歸來挑燈閒眺風景又還老醫吳人生奔走如
狂萬事不如沈醉　細看來駿功名戰蛙事業竟又成何
底有分山林與心鍾鼎誇與廉頗老矣堅飯風雨准寒月古今興廢助烏江滿眼驚濤卷雪分明
是水雲風味順吾生素位而行遁化任他兒戲　右調雨中花

總是英雄氏　末末北二母子載何人斷烟流水平沙盡處青
山數點江東千里大喝風前無人會我登臨此意但黃蘆古木
暮天無數白雪無數暗水統亭無數漏陵橋上望西川動不動
八千里路　來時春暮去時秋暮歸來又遇春暮人生又十古

來稀好相看能得幾度漁陽困學書

鮮于伯機蒲江紅詞

迎覽鏡白髮漸多戲作滿江紅長短句繡江先生拜
參上馬敢錄呈醜幸已一笑鮮于樞頓首

詩酒名場人都羨榮幹如戟今已矣星二滿鬢不堪重損衰老
日知來有新聞愁誰道尋無迹笑劉郎幸苦覓仙方終何益
東逝水西成日年易失時難得頻此身健在寸陰須惜生死百

年朝有暮盛衰一理今猶昔問人間誰是昔陽戈杯中物

楊仲弘水龍吟詞帖　行書

爲廉定的東歸又誰遣赤龍迎指青娥舞罷重瞳飲泣斷腸聲
裏空餘風雨准寒月古今興廢助烏江滿眼驚濤卷雪分明
總是英雄氏　末末北二母子載何人斷烟流水平沙盡處青
山數點江東千里大喝風前無人會我登臨此意但黃蘆古木
暮陽四照有漁歌起

蔡芳洲滿江紅詞帖　行書

鯤魚朕斷楚將軍驅虎鞭龍而起空費咸陽三月火鑄就金刀

砷弩坂下東桥陰陵道溢月黑雲如壘楚歌四起山川都姓錯矣　悲泣與醒虞姬和伊死別雪刃飛華騧霸業休休雖不返遠恨爲江流水老廟頹垣斜陽紅樹盡付鴉聲裡興亡休問烏陵秋草空翠

王雲巷香奩八詠卷　詞內評語眾論

寶鐵凝膏温泉流膩瑞紙一把青烟墜水層淺漬鮮檗春花香

石髓和雲洗　王女峰前戚池月底臨風軽把犀梳理陽臺行雨乍歸來羅巾猶帶滿湘水　右金益木髮　錢雅評作家語自別出筆心仔可剑

冰鑑懸秋瓊肥凝素魄鉛華夜揚長生鬼玉容自擬比趙飛成一卷雲根舟中叢書　卷為三百九十二　二

只恐短姻姤　花影涵空蟾光龍霧芙蓉一點海秋露年年只在廣寒宮今宵鸞影驚相遇　右月奩匀面　用事善於運綫雅評在第二列下

粉疑紅冰香銷鬢鏡鸞兒不似青鸞樂分日花房蓋化彩蛾飛銀牀曉思　錢雅評高出妻作

鬟畫遠仙娥信　錦屋瓊樓薄情飄性碧雲望斷紅輪暝珠簾暗擲龍文無盟鴛鏡鸞兒不似青鸞樂分日花房蓋化彩蛾飛銀牀曉思　錢雅評高出妻作

梧雪遠仙娥信　錦屋瓊樓薄情飄性碧雲望斷紅輪暝珠簾暗擲龍文無盟鴛鏡鸞兒不似青鸞樂分日花房蓋化彩蛾飛銀牀曉思　錢雅評高出妻作

立盡西棠陰待温遲夜寫衾冷　右金鏤卜歡　錢雅評用意措辭

杳奩八詠俱調寄踏莎行雲巷夏王德建誤

雲閣詩社杳奩八題無春坊才情者多為題所困縱有篇什正如三家邨婦學宮妝院體終帶鄙狀可醜也晚得王樓子八作衆推為甲而長短句樂府絕無可指出者雲巷老先生剞示踏莎行八闋讀之驚喜先生蓋松雪翁門倩今年八十咽而有韻色

鏤色　錢雅評前闋善於形容後闋因有鳴

有二美而堅強者奚出語項羽流便此始雪月中神仙人也
謹以付梨兒度腔歌之又評付龍洲生附八詠詩於後以見
王孫門中舊時月色雖閱喪亂固無恙也至正丙午春三月
初吉錦窩老人楊模敘

華清森書賜温泉館既青睞撥一編革兩亂桃花底月黑雲
半掩鏡中天鋼仙盤滿承香露玉女盆傾拾翠翹攏得雲髻
高一尺晉冠新上玉臺前　金盤未髮
一片清光照膽寒玉容滿鏡掩羞顏素娥照見黃金闕峰雪
鎔開白玉盤羣默柳尖春未透紅生櫻蕊落初乾好風與我

披羅幔一朵芙蓉正面看　月登句面
天然玉質洗鉛華怪底偏將半面遮紅滴香冰融懶髻彩拈
賦雨上梨花收乱通德言誰盡點濕明妃畫裝加聚得斑
在何處軟綃寄與薄情家　王頓啼痕
按樂園閣列滿堂春愁何獨擁清揚菊山煙雨雙尖瘦寒抑
風霜兩葉蒼索畫未成京兆譜欲帝先學壽陽妝蘭即忍有
歸期報喜色天長一點黃　蛮眉墨色
是誰催步仰微范使似石家春滿袂軟雪消時痕是底好風
來處步生香綵雲飛上鞦韆鈴芳草侵來跳蹋場愁似

成獨立休篤拾得在東墻　芳慶春述
曾令魏清商力微路遠籍草是還非羅浮曉月相將去巫峽
斷雲何處覓金鉀撥過鸞忽二王龍嘶斷了尚依二不知直到
釣天所記得霓裳樂譜歸　雲窓秋夢
淚痕泰米日正遲香城倦理一支瞬心游飛絮運無春身乾
枯蝉忽若如花悄錯指愁伴覺金針閣任計註印絕憐小玉
情緣重到死春蠶如絕緣　續床疑夢
紫坊壇上獨方兄忽聽呼盧鄭地龍星斗未分牛女會陰陽
先判雨雲生青奴呆子寧無兆玉環化身元有情寶鏡重圓

三五夜重摩半月閑歌盈　金錢卜歇
倪雲林詩餘手澤
東東風花外小樓南海山橫展眉窗欲愁春爽不管梅花瘦無情
水自流　屬閑愁語嬌妾驚回夢難尋舊遊江日闌鈎　右
調水仙子
火滿螢斷更盃棲獨自憑闌獨自迟斜陽悵惘紅消瘦長江日
除流　百般嬌千種温柔金凌翠袖　前調
捧砂羅雅稱如鈎
扶疎玉蕤雪樹影闌干曲一襟香露幾枝金粟　垣機鏡掩秋

雲綠無端風雨聲相續不須澄露為沽醞酵
參差玉笙聲莫起瑤臺曲清風香夜涼肌粟　黃雲巧裁翠綠清吟未斷秋霖續恐孤花意倒尊中酵　右賦憲秦娥二闋

春渚芹蒲秋郊梨棗西風又綠杖紅稻蒼前炙背烟晴暘天涯轉瞬凄芳草　眷望庶村閭朱煙島嶼風岐節物今非黃鸝咏

春濁醪香開門迎笑東鄰老　右調踏莎行

夜永愁人偏起早容鬢簫疎鏡裡看枯槁雨葉鋪庭風為掃閑門寂寞生幽草　行路難行悲遠道說著客行真個令人惱又

客還家貧亦好無家漫自傷懷抱　右調蝶戀花

蓬上雨霽三蓬底幽人夢故山烟林雁元不閉蕭閣只有飛雲可往還　波冷玉珊珊一聲松風引珮環咏得池塘春草句更閑行盡千峰半書閣　右調南鄉子東林橋南亡逸夢歸曲全要

倪瓚

徐敏甫詞　表貴徐郎四卷內

中秋後四日春母挈家遊閩政之興道觀望黃山俯綠水遶賦

水調歌頭徐遶拜

盤馬萬山頂彈禽擘木中追思年少行樂誠盡儁豪雄三十六

峰青入三百六雉碧折歸路杳重重拱手問仙伯謫宦豈天公　春慈細携稚子訪琳宮太虛點雪島處一杯馳但得挈家歸隱何用舉家投宅雞犬亦昇空長嘯下山去脚底磐松風

郭天錫妙諸賢遺稿內詞品

張玉田山中白雲詞題紅葉云萬里霜千山落木寒艷不招春妬楓冷吳江獨客又吟愁句流水孤村似花非陽芳樹甚流海一片妾涼載情不去載愁去　長安誰問倦旅蓋見衰顏借酒覷雲如許謾倚新妝不入洛陽花譜為回風起舞尊前盡化作斜霞千嶂記會三緑過江南夜窓聽暗雨　右調綺羅香

眠松花云碧序春益黃點秋棋細芳洲又月露要殘飲烟梳為髻曾戲折幾度泊寄山多趣處雲屏香入蜂翻蜜房風味應別

翦酒洋場愛霜三粉黃清絕嫩苞新子為誰香歌玉粒倒只怕東風吹盡長亭三黃髮獨鶴歸來滿屋寒亂金雪　右調華胥引

冰蚕云桃葉怨送清商怨依稀作開元遺歌改苑熱深苑絕調苦前夢蛇痕枯葉傷情許別是幾度斜陽送回新月轉眼西風一襟未恨向誰說　低鬟猶記動影翠帶應快我雙鬢如雪枝冷恨移陰陳難憑空負好秋時節漫三切切劇迤邐黃昏砌蟲相

接露滴凉柯晚来声更咽　右調齊天樂

題周草窓志雅堂云製荷衣傍山窓卜隱雅志可閒時次竹門

溪移花檻小動人芳意菲菲怕冷落蘋州夜月想時将典笛静

中吹塵外柴桑燈前兒女笑語忘歸　分得烟霞數畝乍掃苔

尋逕撥紫通池放鶴幽情吟罷夢老去却須春屋愛吾廬琴

書自樂好裸懐初不要人知長日一簾芳草一卷新詩　右翼

洲漁笛譜

送人之西江云寒侵柱葉雁風輕珊瑚宵研凉開試新霜晴

帖綉楓驛闌秋事正奇絶　放人又作西江別書接廬度中秋

節碧闌倚遍愁誰説　其人又作秋思是新愁月是傷時月　右調醉落魄

嘯翁詞云草夢初回春羅畫放閒愁去書長無信自對黄鸝語

繁影籠香春在無人處移舟去来成斷句一枕梨花雨　右

調點絳唇

圖書一室春暖垂簾宻花滿翠壺覺席睡覺半窓晴日　手

寒不了殘碁箸香細勘唐碑無酒無詩情猶欲梅枝雪天時

楊慎夫書巫峽雲濤石屏志跋所書詞二章

踏莎行賦巫峽雲濤

雪練橫空箭皮崩岫女媧不補蒼窮漏何年鑿破白雲根銀河

倒瀉驚雷吼　羅帶分香環識擘酒銷魂桃葉烟江口當時樓

上倚閒人如今恰似青山瘦　畏與王國器

烟外斜陽雲中遠岫翠眉輕補恨船頭見女南朝待史経過波都是斷腸

聲斷腸史聽哀猿吼　暮雨凝愁朝雲帶恨腸如何也似離人瘦七月之望晩起試筆用前韻

同賦蘇大年

明駝星蹟　詞翰

曽子啓蘇武慢詞帖　行書

二十四橋樂事消盡惟有月明如故回首長安舊都猶在何事

獨留南土玉樹清歌翠娥嬌艷縹緲絲絲窓宋户到如今楊柳春

風還似細腰輕舞　曽記得禁花宴珠簾半卷對酒縱歌金

樓燭火飛觥羣雅笑散賜新綈歸路龍旗鳳扇波冷雲霄　永樂癸巳春

隔海天雲霧待何年來看瓊花坐對寒潮月　又作西江別書接廬度中秋

二月舟次維揚客前胡公作蘇武慢詞以寓懐古之意因用其

韻賦此云翰林侍講應陵曽陪書于北京之卷雨軒

文衡山詞蹟

富春山下畫舫新來正雨過青林波生碧滴千峰日照兩岸花

開北郭池塘東門楊柳二十年前載往迴重登眺愛風煙如畫

臨水樓臺　追思少日情懷猶恨先人舊廊齋向范老祠前春風走馬容星萼上雪夜觀梅往事分明故交零落嘆息光陰一瞬載佇立又念白雲芳草頻去徘徊　右調心園春儆明

輕風驟雨捲新荷湖上晚涼多行春橋外山如畫綠山去十里松蘿滿眼綠陰芳草無邊白鳥蒼波　夕陽還聽竹枝歌天遠茶愁何遽舟隱映垂楊度都無繫來往如梭笑花玉堂金馬何如短棹輕蓑　右調風入松泛湖作為紫桑書儆明

紅雨慶花陳倦趁日名園景色換人花移初試汗漫羅新節馬　但願年康健百年依舊白首甘田野天上多桃根者桃度候今年差晚增歲閏四月猶春慶無那煥烘韶麗牧翠慈游屢處有哉培者儂栝雲也儂秋雨潑未便風期下將他博換郡來坐何曾問主斜陽亂生亦忘宿拚沈醉太湖石畔翠軟草數茵右初夏賞牡丹調寄滿江紅徵明

沈石田詞蹟

向尊前花下聽歌莊莫接笑逐延古來四事難得是良辰起誰道金張焦亦稱兩朵芙蓉沒在玻瓈鏡頭白老翁學此勝遊江光盡金山與　隔水焦山閣小恍客語西風復日來當定白鶴如期驕我東一聲獨笑江聲靜　右春日登金山望焦山有作沈周

殘葉林梢風瑟瑟秋波照眼通天碧南北東西聊送客人不識江湖自有江湖客　裘一釣竿三百尺金絲鱖魚白船本窄一般自有容身策　漁家傲

天地一癡仙為畫題詩不換錢畫債詩逋忙到老堪惜白作人情白結緣　興興是今年浪泊茅堂水漫田筆硯只宜收拾起休言但說移家上釣船　右寄南村處士白石翁

紫門晴也喜山意方舒春明堪寫拄著藤條門外走見打鼓喧村社逐隊隨行南間北巷傷趁兒童爭強於游宦公卿萬里封馬　但願年康健百年依舊白首甘田野天上多桃根者桃度處有哉培者儂栝雲也儂秋雨潑未便風期下將他博換郡來坐各自難捨　春春試筆和楊儀部念奴嬌一闋因錄寄德潤云唐六如嘆世詞八闋

沈周

春去春來白頭空自捉花落花開紅顏容易改七事等浮埃光陰如過客一瞬因緣奇德潤云春去春來白頭空自捉花落花開紅顏容易改七事等浮埃光陰如過客一瞬因緣奇德潤云

終如是隨休慕雲壑功名安在哉休想蓬萊神仙真浪猜　清閒兩字錢難買枉把身拘礙人生過百年便是超三界別無閒計策

極品隨朝誰似他高你萬世浮名誰似她三老富貴不堅牢連人須自時蘭漁蓬萬賀來都是鳥鳳鳴晨笑來都是鳥　北

印落兒人怎逃 反早尋懽樂 痛除一萬場大唱三千套 無常到
來猶恨少
禮拜彌陀也難憑信他曜伯閻羅也難迴避他枉自苦奔波回
頭總白可口是懸河也須束閉呵手是揮戈也須束袖呵 赶
不聰明越快活 省了些閒灾惱 家私那用多官爵何須大我笑
別人人笑我
暮鼓晨鐘驀得咱耳聾春蘇秋鴻盼得咱眼瞶猶記做頑童俄
然成老翁休遲疑容難逃青鏡中休使英雄都堆黃土中 莫
來不如閒打供枉自把機關弄跳出趙牀盆打破酸甕甕誰是

一卷山窗夜雨書 第三卷 二十三
慳慳誰情懂
有酒與花詰的為省過 看酒有妓不佳也難當做有美妓最纏頭方
纔是對手不論酸甜酒須頭一百斗爛醉能酣通宵不肯走
老頭兒非是要出醜世事多參透一朝那話兒不要呵不能勾
想人生有幾個到九十九
莊萬春兒不覺歸去早老朽容顏怎能又還少明月尚可趨昨
宵難再我祿蟻紅禪一刻不可少萬事由天何勞空自炒 甜
的苦的一般樣老甜的多歡樂赶了些有名席睡了些風流覺
把一本張揚老兒乾罷了

一卷山窗夜雨書 第三卷 二十四
一年一度一個知心表一味一壺一輪明月皎或把話兒嘲或
將琵琶掃只唱新詞舊曲多丟了只論今番往事多句劃 今
年邊比去年老緊要著先尋到今日說你忙明日說無鈔問先
生那一日纔是箇好
競短爭長世事何時已富貴貧窮由天不由己七十古來稀而
今豈止你風雨晨愁又常多似喜傷春秋鴻盼得咱眼瞶猶記做頑童
舍的從今日受用起莫為千年慮對景且開懷有酒頻招妓既
為人須索要高到底 右調對玉環清江引吳卿唐寅書
樂處甜歌時光容易過苦處奔波早晚偏難逃世界號安安
苦樂平分破佩刀為坷生辰不似他戴笠披蓑安閒不羨他
到人跨馬我騎驢更有捷行個日月旋如梭天地旋如磨
非過意相推挫
美竹幽花便是清涼界淡飯粗茶且共閑閒話白日裏莫嗟
嘆有約來良夜細停魚蝦壺傾明月酒家筆走龍蛇詩成付家
世間福福亂如麻我也難禁架休言鴟與鴉任作牛和馬
歲輸翻舟那箇曾回首大劍長矛那箇曾丟手血數世間愁
還著人承受拜將封侯是英雄釣釣竿萬持蓑是愚夫抛扭

休題能向死前休更莫千言後步二使機關也要天公奏
行年五十曾參透
皂帽緇絲一第猶難料紫綬緋袍一品猶嫌小量盡海波濤
人心難忖著翠羽毛為誰頭上好求養胎膏為誰腸內飽
千尋鳥頭上雲霄何必都經到平地好逍遙高處多顛倒
世人只是回頭少
畫棟雕梁推收紙半張淚彩紅妝消除淡幾行記事本尋常
謾說多麼陣百草芳芬須防秋降霜萬木蓁蓁須逢春再陽
假如倜儻一登場多少悲歡樣旁人貴忖量元自生憎悵

不知判定傳奇上
百慶黃鸝頭了今生事一縷紅絲須是前生繫人爭有推移
總是天安置智似蜜蜘何常脫死期巧似蜘蛛仔肯不思饑
命通若在四更時夜半猶憐悼千年鳳翅九日滕王記
勸君且等時辰至
鐵鎖銅關財寶終須散玉液金丹產速難違限但放此心寬
萬事從天斷不必苦苗園西方掉臂還不戴連冠南華合眼看
人間苦海果漫漫送盡聰明漢饑來粥飽鱉睡要床和衾
此外不須多總結

慶慶山邊終日防弓箭鸕鷀灘前終歲愁猫犬身在畏金閨
頃刻變機變恩愛纏綿多因仇恨緣弟次流連多因歡喜緣
白駒過隙難留轉何若又加鞭雲堂一寸閻羅起來和炭
任教世事如電閃
慈多病多早已鬚毛瞎恩多寵多轉入是非窩洗耳聽漁歌
一一多嘲我憂天網羅方被浮名惑三載沈打兒被阿爺候
今九表向天呼誓不上長安路黃昏夢已破衲還堪
補聊就人間小結果
一粒芝麻救饑也是他一片黃瓜解渴也是他其餘萬事除

到頭來虛話說西家救牛與李馬又說東家贖龜共打兎
他們圖甚王和霸一任的閑落掛待來情望樓看過天河界
卯時碌二幾千罷
南陌東畴是兒孫馬牛趙斡秦論是歌喜完全事已悠二
勞生何所求一簇眉頭皺前又莫後三寸舌頭說強又說龍
虎君一日可千秋安落得多條悠青山影裡遊玄北空中
守義皇一夢君知否
你會便垂別人也不关你要錢財前生須帶來我命非我排
自有天公在時該運該人來還你債時交運交你彼他人賣

常言作法可消灾怕汝福難擔戴有酒且閒懷見怪何須怪一任桑田變滄海

右倣唐六如對王環帶清江引王錫爵

珊瑚網跋一則見前

唐六如醉瑤香詞帖行楷書

香閨長日不勝情把春心分付銀箏巧弄十三絃閒花底風驚寫出怨綠慘紅愁還記得天寶年中舊曲調促方清且移宮換徵試奏新聲　能彈更美人如玉生香笑語盈盈十指弄纖柔傳芳意致語叮嚀催象板一任他翠鈿零落金雁欹横恁風流也應未數薛瓊瓊

右醉瑤香詞蘇臺唐寅

祝枝山詞蹟

燈火三更把笑喬風沙萬里覓封侯蓬兒作謊生憑虛越子親燈死却休　身外苦夢中忙渾無此子為吾謀世間富貴真何物瞧得英雄白了頭　調鸚鵡天

南阜小亭臺滿有山花取次開寄與多情飛少府晴也須來雨也須來　隨意且銜杯莫惜連朝醉夜波去只見舞迴風都把行處踪在天涯春在天涯　調一剪梅

楊用修詞草

号鞋一拇凌波迴弄舟盈盈羞顧影笑倚一枝梅　產名露冷　雪被雲欺情郎整羅帳燈容蓮瓣暖掌中無力搦瘦枝消思半消殘酒醒　右題情本調木蘭花升菴楊慎

陳道復梅雪詞帖行草

萬姬號梅雪金陵人也年最幼性最淑與尋常妊大不侔余其號稱情矣山人見於妻之東加其顏未則其前半山人之二十年文也予酒盡醉且作梅枝并翌一詞贈之詞奇艷纏花云

梅子花開春事早瑞雪霏霏滿日明如掃高下一天渾是鳥誰云世上無瑤島　花下那人真箇好就裏溫柔似玉無瑕藻人皆相稱難細道多情恩地為傾倒　白陽山人書于虞西旅館時嘉靖己未中秋

菜雲卿書蹟內

金香莫惜連承步長趁羅襪凌波去只見舞迴風都把行處踪　倫等閑模捻立雙趺用纖妙說應難須從掌上看

右咏弓足詞調寄菩薩蠻

歷朝書譜

唐賢墨蹟　啓札

錢塘　倪濤　撰

釋致虔手簡十一帖

昨日奉示及不任悚荷屋以風毒腳氣發動今日亦不任入謁彼此抱病彼切詠思出得且以相面為意奈甚〻謹狀　八月二日屋狀

某許閣甚不恒勿惜示及

逕今日袁迫情地旦夕難勝況又孤住已下蕪與少　等四處分設甲庶往〻驚叫便達曉號咽哀遇之年不自堪忍計申令聞此寇動必賜軫念不更滯留亦望眷私委曲見為仰托小版計日夕相見諸郎君學問當進自此分袂未知何時復遂相見言及此煎然久之珍重〻謹狀　屋狀

持惠粉藥無非膚安不任佩荷之至楊氏方寫了竟未勘罪既承切要徐送何故又忽急徵此方也本欲奉拜謁見眠藥方或慮無暇接客以俟別日香粉合複并裹半袜複并元模楊子方複子伏奉撫寔熱蹔甚曲不成字此信　寔狀

此藥神効已願驗紫微不小煮兒必達中書地垂不濟入口便投特謝謹疏乞不容易與人必恐所言詮處切〻托〻不是惡心肚蓋名方神藥自古皆等妄傳縮水法亦乞不泄見有人相尤竟未見他非試驗不敢發大道無事且下訪何太踈徐所不會恢二日屋狀

問其欲暑出人馬若開伏願一借若可乞速捎早令來免衝甚熱苟或有幸他使亦乞在賜斯處謹狀　廿一屋狀　登下狀曲不成字

旬日前所諮啟乞一書與建州為右司李郎中並過希捎送接況永舍人亦與正郎舊知聞必切予施分今晚有的〻人套若可淺言速乞封示幸甚〻淫雖承建州八座眷私自是旅客難于托人伏惟照察屋狀　十月十五日屋狀

楊學士兄弟來此消禁子兩日前已奉得花時代望拴投謹狀

十四日屋狀

今日若不他出可以暑借人馬否先奠到宅奠別行一兩處人事既或有所拘牽即乞不垂形迹以俟後期伏惟昭察謹狀

六月廿七日早屋狀

前者三賢來戲共輸弟羅吾弟主办淫偶先擲五隻深覺鼻樂幸有輸右省長行三隻輒欲助成一味適舍人傳語來使令謹

送上所以在前狀中不言今特修此伏惟照察謹狀　廿六日
渥狀　老楮甚小簡甚欲拜侍且是怕惱亂此會不知何時定
為之
眷私借及女使衣服不任悚荷來早令入州人馬必希賤寄泉
州書謹封納書中亦說容諮托必望周而述之幸甚謹狀　九
日渥狀
憂眷借及來貳頓不仕喬荷鈍拙無謀惟挽知與不勝愧赧之
至即冀拜謁它冀面述謹狀　廿二日渥狀
韓偓借米與魯公乞米何異哉蔣之奇領袂題

江李格非題
黃庭堅馬駒張仲壽題跋三則見前
唐樸懷素食魚帖
老僧在長沙食魚及來長安城中多食肉又為當流所笑深為
不便故久病不能多書寔媿予報渚公興善之會當得共饌也
即日懷素藏真白
吳話李瑛張宴沈石題跋五則見前
素公客舍等帖

吾自京反今食噉苦不下非常悶亂復在客舍所求者並之加
以年老期汝等復得年月耳　一日
閩而能轉字二合節同桑扶之舞也
常以憂悶為其勞也冬熟持紅取米物必寄千斛乃可時也藥
物十月內示來取之遠人不復耳　三月一日報
帖首及接縫處俱有宣和政和鈐璽天水雙龍二小璽尾有
內府圖書之印又有秋壑圖書
曹用薛紹彭二跋見前
梁楊凝式韭花帖

韭花逞味之始助甚肥脊寔謂珍羞之腹之餘銘肌載切謹修
狀陳謝伏惟鑒察謹狀　七月十一日
楊少師韭花帖來元章一見得正書之變余與董思翁見秀
州項鉦墓碑中今年丁丑八日子此攜過山中老眼摩挲頓
覺一番明淨陳繼儒記
張安國希朱董其昌三跋見前
宋賢墨蹟　放札
李西臺六帖

所示要山母今得一小蘇龍子封全諾送不知可用否定新安缺
門所出者復未知何所用望批示春冬衣原頭贊即未檢到其
宅地戶族者根本未分明難商量耳見別諾穩便者若有成
見宅子又如何細希示及　　並諾　押

孫琥西行少東今有舊事如到極不用可貨却也全却向平城
風甚慰私抱殊未款曲旋值睽離必然來晨朝車行邁適裘示
諭愈傷老懷惟無保愛也萬〻不勝銷黙見女夫劉仲漢秀才
并第二兒子在東京相次發書去如有事希周旋也　押　簡上

金部同年　九月十六日　王道昭表兄之物也　　王

懷相南批詩附上　同院劉學士隱同年部兵部希孟令通達
戎與面聞也　建中又白

賞宅諸郎各計安侍奉所示請改章服昨來封原得出身慰仕
家狀一本并須賫擎官誥勅牒去未審此來如何行遣也萬為
壯子事已令彼備在三學院安下近已往彼去未見此庄始初
見說甚好只是少人管勾若未賃可且收拾課租亦是常計不
知雅意如何也侯親家未言可惜拈却　押　諾

建中白近賢郎秀才去專馳手書伏想已達　左右支律行半
陰風向嚴公理之外須養無奈此雖復寢佰望風懷賢無日不
然也時光流速同年知心洞悉大率耳加之官途人事何辜遷
玉是我惟再三保愛度得〻內人無恙王音今在十秀才行
止為狀諸閒起居不宣同年兄李押史
也田仁弟　十一月十一日
左右為河中有少里會家業被人羅織公甚是分明希特與
照燭　建中白

齊古同年仁兄　三月六日
近蒙寄到書閘却封却恐是留量陳公也已附西京去要知之
文及第仇遠楊維禎三政見前
蔡君謨二帖
富陽帖

裘江血言逆慈深重扶護南歸死亡無日不可畏常禮不通誠
急于左右今至富陽平安明日登舟或雨水少增當舟行至
三衢也裘素多病遭此苦毒就令不死足膝日甚氣力日衰
亦為屢人豈復相見即辱君知愛之心不殊兄弟一念哀痛
哽塞何言哽塞何言在道程頓官員勾當齊整無一閒乏感
惕感惕裘叩頭　子發郎中足下　十三日

遠承帖

裘啟遠承惠問厚意所存益有感著知日來體氣佳勝殊為
慰也近被命尹治日以穫劇居不得暇移書致謝不盡悵悵

惟眠食自重不宣裘拜手　長官足下　八月廿一日

徐勃跋尾前

陶生帖

裘啟示及新記當非陶生手然亦可佳筆頗精河南公書非
散卓不可為普當惠兩管者大佳物今尚使之也耿子純逐
物故殊可痛懷人之不可期也如此僕子直須還草：奉意

跋晉正月十一日裘頓首　家屬並安楚擾旦夕行

入春帖

裘啟入春以來屬少人便不得馳書上問唯深瞻想日來氣
候陰晴之不齊計安適否責屬亦平寧裘舉室吉安去冬大寒
出入感冒　勞百病交攻難可支持雖入文字力求弓祠今
入衆思復供舊職恐知專以為信前者銅雀臺瓦硯十三兄
欲得之可望寄與旦夕別端石奉送也正月十八日裘頓首

公綽仁弟足下

思詠帖

裘得足下書極思詠之懷在杭留兩月今方得出閤歷賓劇
辭不可勝計亦一春之盛事也知官下與鄙侯情意相通此
固可樂唐侯言王白今歲為推官否裘頓首　通理當世屯田足下　大

清和頓君侯自壽為佳裘頓首

斛拯珍物肯飫微粗臨行匆匆致意不周悉已上二帖草書

賜君帖

裘再拜伏承賜君吉葵有日喜裘以行路并亡男齊僧赴期不
及謹遠州校少持菲儀聊以伸親戚之好殊非豐腴深自為
愧謹奉手狀敬聞旦夕前行此不一一　裘上　郎中七兄

京居帖

左右　廿七日早

裘啟去德于今蓋已游歲京居鮮暇無因致書第增馳系州

秋遠來特來手牘兼賜惠貺感戢之極海嶽多暑秋氣未清
君侯動靖若何眠食自重以慰想使遣專此布謝不一不
一裹頓首　知郡中舍足下　謹空　九月八日

謝郎帖

謝郎春初將領大娘以下永安年下朱長官亦來泉州論候
今見服藥日覺瘦倦自至於人事都置之不復留意眼昏不作
書無少賓客省出入如此情悰可知也不一一　裹送　正
月十日

中間帖

裹啟中間承勞紆問遠會庶未平殊不從容示書兩通知頓
指幹新第有未備且與錫倫却候別作一番併了之四人閑
子只與門下每人一間閑中地分與四人分種要他戒煞也
不一一　裹奉書　五日　已上四帖　皆行草書

大研帖

裹啟大研盖尺風韵異常齋中之筆非是而至花盆亦佳品
感荷厚意以珪易却若用商於六里則可真則趙璧誰舍尚
未決之更須面議也　裹上　彦猷足下　廿一日

山堂書帖

丙午三月十二日晚
欲尋軒檻到清梅江上煖雲向晚容須倩東風吹散雨明朝
即持入花閣

十三日吉祥院探花

花未全開月未圓看花行月思依然明知花月無情物若使
多情更可憐　十五日山堂書

裹惠帖

裹惠水林檎花多感天氣暄和體履佳安　裹上　公謹太
尉左右　已上三帖　皆真行書　倪瓚陳文東二跋見前

蔡端明寶客七兄帖　已下俱見式古堂書畫彙考無題跋

裹啟前裹惠書伏審尊候萬福閒閒七兄入京都即依政此士
君子所以回處始終也甚善甚善公卓數日前見訪敘齋道
話終夕近日保養之法願見門戶然且能自保消

下南國遣人勾還謹奉手狀問起居不宣裹上寶客七兄足
下正月廿五日

蔡端明暑熱帖　行書　紙本

裹啟暑熱不及通謁所苦想已平復旦夕風日酷烈無處可

遊人生韁鎖如此可歎二精茶數片不一 衆上 公謹

左右 拈屋作子一副可直幾何欲託一覩賁者要百五十千

蔡忠惠離都帖

襄敏自離都至南京長子匀感傷寒七日遂不起此疾南歸殊為榮幸不意災禍如此動息感念哀痛何可言也承示及書并永平信益用悽惻旦夕度江不及相見依詠之極謹奉手荅為謝不一 襄損首 杜君長官足下 七月十五日

貴眷各佳安老兄已下無恙永平已當於遊中馳信報之

蓉莆陽連日山中帖 行書 吳本

襄連日山中從容全閤所欽也處別益用悵企是晚亦復下山方念走訊而專帖已陸前矣河豚甚富甚肥與諸人大嚼無不贊美市貲甚鶴為給人貲為有堪耳香餅已買方糖霜餅範皆遠去幸視至掌座處極荷重言亦已從鄙中投河以應之矣見錄損有隨即無之苦千庵中固當言之矣大儒欠道世務未易救療為可惜耳一事日屬心至遲其中無曲折云襄上 一哥制幹 新班賀物承奉不別簡前日謝過訪未須行答

倪瓚陳文東汪珂玉三跋見前

范忠宣手簡司馬溫公帖

純仁再拜近人回書狀上必計通呈伏惟尊候多福伯康必更奉予純仁勉強苟祿自取疲耗與足恢去念者曰企軒御之來以繹傾渴天氣計寒必倦出應且鬱極過冬況伯初 諒難離去尺無由往見豈勝思仰之情更祈以時倍加保重其他書不能盡

純仁頓首上伯康君寔二兄坐前九月十一日

石伏蒙尊慈特有頒賜感佩之至但積下情謹奉狀陳謝伏惟照察謹狀 月日具位 狀 元祐公手筆

次述明仕帝喪萬晉朱閩四跋見前

蘇子美今春帖 草書在粉箋上

今春偏遊蘇城之民圃絕有佳處奇花偉石非它所見也如歸京風月甚可再使使就熟志歸來足樂耳

孫之翰尺牘

之翰啟孟冬為寒伏惟 德者兄長朝奉尊體起居萬福之翰即日蒙恩不審近來動止何似之翰改使河北向已上狀日後江行寒便不數拜問之翰八月廿二日方到本路十月中始還

治舍內外幸亦如常未由省侍伏乞善保寢興專奉狀拜候不
備第之翰百拜　德表朝奉兄坐前　十月十五日狀

蘇老泉臨顧帖　行書帙本

洵頓首前辱臨顧未由詣謝承惠教祇增愧悚晴暖尊體佳勝
旦夕走前次人還具此布謝不宣洵再拜　君懿郎中仁兄閣
下　錢已如數領訖何用忙也

題跋已見前

卷蘇氏一門冊

蘇東坡病眼帖

軾春時病眼不能閱眉黃夢軒舊事盡足下想已知之葛明塘

三希堂藏書
添情告府昨求于僕不知錢君錫肯為一辦不若果爾不難耳
日來閭中桃李顏色無盡同輩應移坐雪堂前可作一絕強支
歲月何如僕夜夢中有一抗人多惠龍團數斛盡皆一時飲之
請解意何也昨周彥閑見訪送二水底余送書蓉花詩二首雙
酬軾上得之三月十六日

周景遠高殿會和三次見前

蘇東坡與朱康叔簡

軾啟近人回奉狀必達比日後茲春候豈弟之化想已信服吏
民坐歆之樂豈有涯哉無緣陪接但深馳仰尚冀若時保練少
慰區區不宣軾再拜賀朝散君老兄閣下正月廿四日

蘇東坡東武帖

東武小邦不煩牛刀實無可以上助萬一者非不盡也雖陽數
政伯望掩忽且其川房侍已令子由面白悚息〻〻軾又上

黃石翁跋見前

蘇東坡一夜帖

一夜尋黃居寀能不獲方悟半月前是曹光州偕去摹搨更須
一兩月方取得恐王君疑是翻悔且告子細說與後取得即納
去也却寄閩茶一餅與之雖其好事也軾白季常廿三日

三希堂藏書

蘇東坡起居帖

舍弟不及別惘惟起居察見舍弟幸為道無恙也浙中有幹示諭
軾再啟

柯九思鄭元祐二跋見前

蘇東坡與朱康叔簡

閩名文思未獲往着吏已詳閱之所向反側近故事迹為幸董
義夫相聚多日甚欵未嘗一日不談公之美也舊好誦陶潛歸
去來常患其不入音律近輒檃加增損作般涉調啃過雖微改
其而不改其意請以文選及本傳考之方知字字皆非創入也

謹小楷一本奇上却求為書拋磚之謂也亦請録一本與元弼
為病倦不及別作書也數日前飲醉後作頑石亂篠一紙私甚
惜之念公篤好故以奉獻幸檢至

蘇東坡作書帖

尊丈不及作書近以中婦喪亡公私紛冗殊無聊也且為違此
懇試又白

蘇東坡京酒帖

京酒一壺送上孟堅近晚必更佳試土道源兄十四日

蘇東坡寶月帖

上帶宗室井堂藏書

大人令致懇為催了禮書事兄未及上問昨日得寶月書皆有
承赴問也令子監嵐必安勝未及脩染試頓首

蘇東坡試茶帖

道原無事只今可能枉顧啜茶否有少事須至面白孟堅必已
好安也試上恕草、

蘇東坡令子帖

令子所示事在意來日相見即達之但未必有益也輒送十紙
省為一奠之用患難流落中深愧不能展意未也不一罪、試
手啟

蘇潁濱重馬帖

輒啟頃承重馬按部獲少奉談笑殊慰瞻奉違未幾即日不
審起居何如輒幸比辦罷免於敗闕皆出餘庇感戴實深未遑
走謝左右惶悚可量也酷暑千萬為時珍重謹奉手啟不宣輒
再拜提刑國博執事六月九日

蘇潁濱雪甚帖

輒啟雪甚可喜宴居應有獨酌之樂區之書不能盡輒損首定
國承議使君廿三日

蘇潁濱惠教帖

上帶宗室井堂藏書

承惠教兒子相次上謁輒上定國閣下

蘇潁濱暗寒帖

輒啟晴寒發況清安今晚有暇一況甚幸不一、輒頓首定國
使君仁弟廿七日

蘇潁濱文字帖

安居文字今日已畢來日當之次海即作之改中無從義理可
為太息

蘇伯達台蓀帖

遠拜問台卷一、萬福別紙所悉尚容細度之宅委勿鄙遠拜

黃浩翁糟薑銀杏帖

庭堅頓首承惠糟薑銀杏極感遠意雍酥二斤青州棗一部是
將懷向之勤輕瀆不罪庭堅頓首

黃浩翁天民知命帖

天民知命大主簿霜寒想八嫂安裕九娘四娘大新婦普姐師
哥四娘五娘六郎四十明兒九娘十娘張九咩兒韓十小鞠曹
兒湖兒井兒各安樂過江來甚思汝等寂寞且余煩不須發路
上不甚安穩但所經州郡多故舊須為消食留連乃家中上

一帶宗根井堂藏書

下凡事切且和順三人輪管家事勿屢規矩三學生不要令推
病在家依時節送飯及取歸書院常趁鼓文字勿借出也知命
旦掉下發藥草讀書看經求清淨之樂為上大主再請漢書必
有功哀十月十四　押　報　諸郎子以下各小心照管孩兒門莫
作炒切、

俞貞木跋一則見前

黃浩翁與立之手簡

庭堅頓首暑侍奉萬福為慰承頒書緑陰頗得閑樂甚善
善欲為素兒錄數十篇妙曲作樂尚未就爾所送紙太高但可

書大字若欲小行書須得矮紙乃佳適有廣客奉答草草庭堅
頓首立之永奉足下

陸游跋一則見前

黃浩翁竭力田園帖

雲夫之弟得書知侍奉甘五叔母眠食甚善慰幸慰幸此間
中有肯為衆昭力治田園者乎鄙居亦何能久堪復議舍對否
寄示兄弟名字曲折今族屬幾為完書矣但欲為其中有才行
者立小傳尚未就耳龐老傷寒論無日不在几案閒亦時一擇

一帶宗根井堂藏書

數識者傳本與之此奇書也頗按正其差誤矣但未下筆作序
序成先送成都開大字板也校信可寄矣歙州藏記亦不忘但
老來極懶故稽緩如此耳壽安姑東即一月中俱不起閒之悲
塞二子雖有水碓為生資子顧第亦能周旋之乎宅舍之事計
子顧必能盡力矣叔母不甚覺老否徐氏妹婿居如何調護不
乘即无期相見千萬為親自愛十月十一日兄庭堅報雲夫七
第

黃浩翁伏承帖

庭堅頓首伏承遠歸道余之勤未得休息而躬粗湯藥亟輟寢
膳惟起居不遑率有安平之候想遂釋然矣時雨沾足春風

妍暖想親家母萬福民有食寒之慶令嗣校官亦得申省美亟
作此狀候服藥者安閒極不周至續亦到通啟左右矣庭堅再
拜

米襄陽無能帖

帝星恐頓首再拜上覆前後蒙閣筆無能報德清獻之諸為資所迫
宵昧宣遊試吏于江陵司計之官商幸善能到　侍郎選擬會
擢征屋庭次罹罰謫而閒閭淮壖窮儀真睽違之禮數年又以
內艱而去流離困頓無所告語靜思慮鬱乃分之宜自此絕意
榮望啟意字民復在襁褓邑家無縣譜斐然學製安逃傷錦之譏
曠敗必矣此帖之所甚懼也不圖當路幸會獲庇所天尚賴餘
光下照圖報之仁庶免於戾北心日切私意自幸帝星恐頓首
再拜上覆

米襄陽淮省帖

帝昨淮省劄為昌邑昌化實治所忽者瓜時甫及當代卞從
此近得書報以二月二十二日滿罷俟第如期第旦夕鄉治台
壁少伸恭謁之恭祇受約束事惟麾山叢爾之地屬隸京師號
為難治假帝恩蒙無似豈應在撫字之選惟是仰依威德宏量
無所不容　閒下

米襄陽一介帖

帝星恐頓首再拜上覆帝一介晚出獲盥士夫之後隆名碩德
竊服為矣名東官下典從踐附實易瞻拜光儀今幸祇役部封
當備使令之末平時慕用願見而不可得者沒沒獲伸矣引頸
宗堵不勝欣躍卬誠之至帝星恐頓首再拜上覆

米襄陽府判帖

帝潛日星恐頓首再拜上覆府判中大台坐即日孟春之月青
輝向緊恭惟賛貳王畿神明拱相台候動止萬福帝謹稟沐榮
翰捺閒樂居伏惟台察不宣帝潛日星恐頓首再拜上覆

米襄陽疎述帖

帝星恐頓首再拜上覆帝疎述下察不敢進誠申閒台閣仰惟
中外泰定祖禰流美帝退惟惜易不任銘勒之情帝星恐頓首
再拜上覆

米襄陽司戴帖

帝星恐頓首再拜上覆帝申詢司戴廟戴右記通辰不審台覆
何似仰惟貳車之貴密佐守貞正真是堪何福不除更祈惠令
上體春隆節宣自愛專迎　（原有闕文）帝星恐頓首再拜上覆

曹孟光疫一則見前

五月四日帝啟蒙書勿附審道味清邁連陌邦也林君必能言之他至此見未有所止歸涂不能容舟閩士沿海客舟甚衆來問館者常十輩寺院下滿林亦在寺也欲去海出陸有十程已貽書應求僕能具事力至海乃可此一舟至海三日耳海壁云自山東來在樊邑境未過聞榮冠所居國不足豈賢者欲去之北乎呵呵甘貧樂道乃士常事一動未可知宜審決去就也便中奉狀頓首葛君德恍閣下

葛叔恍家計如何何人經理子弟長成不莫且依卻氏過不卻氏一子弟生事如故不令人念之息老住院隨小師在舟供安否久不得好　白沙有何僧人子平所苦何庵庵宜城住即也然既以疾辭莫難便拜命不須且辭免也度過山陽或入夏之日明窓焚香西北向吾友其永懷可知庾文皇大令聞不及他書尋臨爲數本不成信知者在前氣欲懾人也有暇作諧葵一笑於事外新歲勿招口業佳別有何得酒戒東下未已有書

至彼候之

柏惇奉議部授連水何處人非子中甥乎　詳問以告中間紛紛了無事蓋子中不留遂皆遠昭代有此老不能與人爭得

岳色不可言

岳色不可言

岳色不可言

岳色不可言

書畫老親見聽有不足里親授以首館使隣之常日香祝女
夢雙角人手携一軸物自空下故芾每得一書初任客觀亦罷
于飯几亦升車手執之既窮其趣則以良日以紙鋪加書净几
上復用紙覆四紙開以皂角及水浸良久按覆紙洗之上紙糊
即開以拂書塵垢一去紙後覆書除背紙去手澤有不可除者
則又加開洗展白而後止親用乳香作糊于百幅紙中心取剪
四邊多近手有垢者而加背焉背訖即覆以紙加糊置一室中
或綾錦皆先舖安訖亦洗加數紙取數紙如背紙工畢入一色
中非明窓爭几與見知客來嘗發每一發之庋整致紫檀錦

綺裝然溢目印以來往秘玩書印文其所謂書者皆非前所聞
可比也亦非今好事者所多有也余每示人者印以米姓書玩
之印文以待暴不可告以情之客秘玩者當隨客以手指點衣
袖印摘之偶一及之必洗書如初紙素不可數洗必欲戲一蠲
之是毀書也褁密唐公志東欲觀而以情告見許遂啟出閱書
之法洗二紫粗比芾以紙緣鋪記灌手親取書于盒中鋪展以
示客客拱而過几坐從容細閱芾趨走于前客云展芾展安云
卷芾卷客據案甚尊芾執事趨走甚卑舍佚執果者止求不以
手或衣振拂之耳老母訓之不能改朋友誨之不能悛子弟設

米元暉勅止持福帖

友仁皇恐頓首再拜宗正學士至性坐右即日伏惟節抑順變

米襄陽真賦帖

真賦一行少持微意欲買些采實去又一兵陸行難將都門有
幹采下賦是胡西輔所送芾皇恐頓首 虞老可喜必相從歡

米襄陽真賦帖

昨日陳攬試之陳虎得虞宜侯之已約束後生同入莫不用
筆他人也矜之只女子生十官如到部未緑面見欲釐伸區之

也芾頓首再拜

米襄陽真賦帖

真賦一行少持微意欲買些采實去又一兵陸行難將都門有
幹采下賦是胡西輔所送芾皇恐頓首 虞老可喜必相從歡

米元暉勅止持福帖

友仁皇恐頓首再拜宗正學士至性坐右即日伏惟節抑順變

錢塘 倪涛 撰

欽定四庫全書

六藝之一錄卷第三百九十四

歷朝書論

宋賢書跋 啟札

呂寶臣子安學問帖 行書紙本

子安學問博贍材智果遠豈能久留常還方朝廷搜揚俊異用
奉手啟不宣友仁皇恐頓首再拜宋學士至性生右

特立之士何必借譽平常之流公弼再拜

柯謙光跋一則見前

韓魏公小憩帖

琦再拜啟琦有小憩容易干瀆台聽所向之日并易相事簡公
眠因剳後開起一堂名曰畫錦蓋取古人晝錦之義時杜
正獻公以降往往有詩以光盛貴之已而被召歸闕常欲求公文
百十字以記之為郡中不朽之事拜接幾十年幸嘗諾不敢措
一語今守相趙元甫知琦欲有求于公遂能用心獲一美石磨
礱已就且有書見諗云果馬公文至則使可鐫石琦以此不自
量度輒以誠請公若惜而許之不獨參耀閭里誠獲託公文遂
為無窮之傳矣如曰未可幸賜寬恕妄作望恐罪戾謹奉手啟上聞
不宣琦再拜啟

韓魏公信宿帖

綺載拜啟信宿不奉儀色共惟興寢百順琦前者頻以畫錦堂記容易上干退而自謂耶未之事不當仰煩大筆方夙夜愧悔若無所處而公遽以記文為示雄辭潑發警天江河之決奔騰放肆勢不可禦從而視者徒聚駭嘆烏能測其淺深哉但褒假太過非愚不肖之所勝遂傳布之大恐為賢者之玷此又捧讀慙懼而不能自安也其在感荷未易言悉謹奉手啟叙謝不宣琦再拜啟參政侍郎台坐

朱文公跋一則見前

曾子固尚書多暇帖 行楷書

尚書多暇動履福祉遠誨論之益忽二載之久企慶窮僻日迷汩于吏職之兄固豈有樂意即去受代之期雖寄適而替人寂然未聞亦旦夕望之果能速遣使賜白賢者之力慰秋之交道出府下因以致謝左右庶竟萬一餘冀順序珍重前即名擢偶便事此上問不宣鞏再拜

文日謹啟

曾湘潭五十郎帖

五十郎人來得書甚慰遠念即日同汝母五十七已下一、安樂此中如常諸不復道知漸習舉業甚好莫須入州總否且近

勉勵但立不可更作少時可恠事也五十七等修學有次第否冬須勤學不可因循有文字寄來看此外與汝母各好將息陳郎四十八今在何處已到官未因書言來人回草二五月四日

政付五十郎甫伯仲宰上

曾子宣被召帖

布政被召經逢特厚垂訪迫於行役不及謁謝幸冀財恕乍遠保愛為祝即奉啟代面叙不宣布手啟上徐君茂材足下、、

曾子宣與宋親帖

布叩頭為別滋久良以馳想每屢書示審比兒佳福無承旦夕遠還侍下趣裝諒亦勞止新堂去此不遠、風頻惠問為佳路未相見間多愛五娘子不日就家想維總不易更宜寬中加愛六妗已下一、同此伸意為煩恤中未及子細不訝不悉布叩頭宋親茂材

曾子固奉別行復帖

奉別行履載暮傾卿實倍常情但公私冗為悶不數甚用媿也別紙丁寧悉惟益友忠告之誠亦出于愛國恩恋之誠反復數四不勝感嘆衰拙于此豈能起執但再三則漫終恐無補爾餘非會面不究所懷遠書萬一流落不可不慮也海陵過此

相見試如所諭廣陵之傳通即吏誤報來說得坎住其们
狀未審以此為念上下遭逢所在皆爾非獨彼也歲晚益寒強
食自愛為禱肇又上

曾子開造門帖

肇頓首啟比獲造門幸承餘教遲晨手筆感服并深稍閑即參
候謹因還使上啟伸謝不宣肇頓首再拜拾事閣下

曾子開五十郎帖

五十郎久不得書計侍二十嫂同諸弟各安此中如常不知文
已納婦否必不輟講學為文有新文時寄來看北外且須侍日
謹慎每事三思不可用脩目肆取諸細思之愛汝至切故及此
言能相體否餘惟與諸弟多愛晉二行者修學必斷成立更且
勤學肇哥亦計長進即君傳語廿郎已下更不別書各好料理
為祝陳家四十八娘必常往書計安二月五日叔容三十

曾子開近疎帖

肇近疎聞問方深企想辱書其以為慰訊後安否何如冀萬比
幸安宅他不復道開居講學想甚自得為阻恨見千萬望常
莫不悉肇手啟宋親茂材

曾子固草稿帖 草書冰本

行以道半雨凍狠狽之甚欲煩左右罷草稿以脅兵辛慶昭公
文去幸留念今晚恐不可行來日相見纔再拜久直和縣七爭
借一二十人來相接左言

右曾氏諸帖有李學衡定徐謂王 趙汝談董居誼劉良
翁陳黃裳曾紆子九跋見前

曾公道夫出示先世手澤敬祖拜觀之餘敢題二小詩嘉定
壬午下元日里人聶子述 香

遠津只趣黃閣官尊貴不敢近前亦相手 一門翰墨森圭
璧諸老題評策錦花珍重重仍好收拾之虹貫月定居家

廣騎當堂賓出示先世手澤敬題廿八字脉斌 西風吹老
梧根霜幾度青山送夕陽同首棣明今已矣黃花猶帶晉時
香

前人手澤滿修楼藏月舫多已亲捐誰似文安遺帖在主今
珍襲作家傳 片言足慰總吾師策熹字二妙救時但恨故
家三四紙起人無限從來思

禮

南豐而校經齋居忠義詞筆華一門手澤流芳處刻火欽承

猶得到來孫大德丁未立冬日前宮講陳隨隱拜題

趙清獻山藥帖 行楷書紙本

非敢辱誨示以南都山藥分惠昌勝珍感介遣布謝崖畧不宣

非預首知郡公明大夫坐前即刻 海相四十顆容易為獻望恐皇恐

孫之翰農候還帖 行書紙本

甫啟農候還附手啟必呈左右即叙歸又辱啟誨承即日體況休豫深以為慰毋極荷應副已差人申取亦欲完葺也有所教令時惠音餘惟慎時自重以俟迅擢宣商手啟子溫還

一卷雲麓神骨云藏書 卷第三十九之二 一

判志田同年侍史三月廿六日謹空

司馬溫公兩淮帖 行書紙本

先再拜秋日兵興兩淮幾為桑地朝廷雖欲新謀經理而兵食

悶然未易倉卒辦也餘俟後訊詳具伏乞照知先再拜

文路公祠部帖

彥博頓首祠部同年近累得良翰深荷勤意審美轉伏惟歡會未遲披對春申萬之愛重彥博頓首 靜萬已安且令模書必

慮過憂

呂維仲私門帖 行書紙本

大防頓首私門不幸悲女喪亡伏蒙台慈特賜手問仰荷軫恤無任悲感未由面謝哀悃奉啟不次大防頓首

非敢辱誨示以南都山藥分惠昌勝珍感介遣布謝崖畧不宣

非預首知郡公明大夫坐前即刻 海相四十顆容易為獻望恐皇恐

滿傳正夏中莆兵帖

崇孟頫苕溪中海兵還府榮歸遲懷德誼無時暫忘伏惟尊候想維適日視履均勝南北悉遂江河阻修引領詰言實勞蓼慕初暑惟冀倍萬珍衛子削革率不宣崇孟頫首知府鈐轄子中待制十二日

唐林夫征南兄坐帖 行書紙本

坰啟征南兄坐忽辱珍翰意快日明殊增感昨日紙再納一

一卷雲麓神骨云藏書 卷第三十九之二 二

省朝夕期諧左右次不宣坰再拜

韓子華家食帖 行楷書

韓子華家食帖 行書

峰啟暑水見顧皆失候望勝慨快來早餐請家食畢希垂訪

庶少接清論也餘不宣悉峰款啟節推同年廿六年

韓 滕懷帖 行書

燁頓首再拜留守司徒侍中燁瞻懷鄙下驰情旦暮昨以庆冬仲嚴寒伏惟台候動止萬福

竟宂久疎左右之期悚作至荼冬仲嚴寒伏惟台候動止萬福

通二鄉往來錄言侍仰覲保調寢味下情之望謹奉啟不宣燁

惶恐啟上留守相公司徒侍中台坐十一月一日謹空

韓王汝欽閤帖 行書

頲欽閤制命來副領言禹此守蕃莫是修度鴈風馳想言釈莫
唯頲又上

錢病父跋先起居帖 行書

先起居贈明府儀同三司司空一帖先叔父脩懿尚書僕同十
八帖已上元祐庚午十二月知單州事記因移高陽安撫使辭
壇遂命裝褫付沈氏以防遺墜云

蔣穎叔厚書帖 行草

之奇啟厚書承比來體履佳愈遠宦抱羊忠難於行計也住使
一卷內有程舜賓藏書 卷第三百九十 八

陝右乃所嘗到一未只有羌人與兵馬使之以習邱才也呵之
承國門嘗見訪非論及則不知也方暄自愛不宣之奇頓首
彥和河洲司户二月二十日

蔣穎叔北客帖 行書

之奇頓首啟改朔伏惟台候萬福比來少留方此甚熱大虞室
臨審良不易處亦聞小苦痔疾更已調飲食將息為佳久闊不
展某以想念也謹馳啟上問不宣之奇頓首再拜脩史承旨侍
讀台坐

章子厚會稽尊候帖 行書

會稽尊候萬福承侍次雅揚想必迎侍過浙中也宜與度鴈留
旬日二十閒必於姑蘇奉見矣冀盡從容惇 別紙

呂望之蒙恩進職帖 行書

蒙問衰晚無堪榮恩進職易郡老出交趾延譽之賜將何補報
有媿而已辱誨示副以慶函禮意之厚益重慚畏嘉問至青社
累月乍脫東南之劇就一州之安良以為幸但未知睹語之日
馳情悵 嘉問再拜

林子中奉見風範帖

希再拜前此四年嘗於武林奉見風範然一往來之間未及深
一卷內有程舜賓藏書 卷第三百九十 九

接嘉謀而心所嚮慕固亦異於此矣秦隔 來不審侍下福履
何似希閭居吳門相望才數舍耳未嘗前見徒切瞻跂輒奉手狀
通問幸恕僭瀆不宣長柴林希再拜劉君秘書文几二月十三
日手狀

王逸老杜門帖 草書

升再拜衰老杜門多病久不承與居之問日益系詠近穉端叔
見臨能道動止之詳用以為幸累累見訪一過輒圖竟不聞足
音因出切幸迂臨望升再拜

劉德初又啟帖 行書

正夫頓首又啟遽辱手翰得聞佳履殊用慰戚正夫在至都下
公私擾怵叙布草略惟亮幸甚他冀珍嗇以需復除正夫頓首
陳瑩中仲冬嚴寒帖 行書
瑾啟仲冬嚴寒伏惟尊候萬福瑾榮恩遷叙兩官昨日祇受聖
恩深荷無以論報拜命感涕而已五六娘已成親十娘在後月
恐知之又八行謹此上問餘乞保重不備瑾拜上思濟使君大
夫十三姐賜君十一月廿二日
薛道祖晴和帖
紹彭啟兩日途中不得少款為歉晴和想已居佳安二盡欠假
上是希檢收許借承晏張過墨希示一觀「為」天晏若得
真完錐墨熟帖亦可易更俟續布不具紹彭再拜大年太守執
事廿八日
薛道祖二像帖
紹彭啟早奕蒙教多荷借示二像甚佳得觀多幸誰畫更借教
種所喻智永墨林二書於左右不惜但苦太大輒耳
紹彭頓首大年防禦執事 雪山非不佳但苦太大輒耳
薛道祖隨事吟帖
紹彭啟寺中日昨頗來教不足為報望悚可知枉論伏審經夕

氣涼台候萬福隨事吟賞借示多幸謹還納去劄二乃云有兩
軸若并得一閱幸也古經紙若空得盡贊小字三十行可耳古
德帖亦求一閱羅有難書美人還不一紹彭再拜大年太尉
公三十行兩段亦可也元本自是兩段
右三帖有孟頫金應桂居仁三跋見前
紹彭再拜
薛道祖昨日帖 草書
昨日得米老書云欲來早享吾人過天壽素飯二罷閱古書煞
後同訪房昭想亦嘗奉聞左右也侵晨求見庶可偕行幸照察
紹彭再拜

張芸叟姻期帖
舜民再啟姻期必嘗經度舜民以初二日次洛中自爾至初六
日息吉又以一行兵冗不能久留欲於初六特財定併行并以
是日納壻留在門下冀日逐行未審可否餘俟面質舜民頓首
陳仲修歲晏帖 行書
師錫頓首歲晏伏承起復休嘉辱手書需納名部野人豈當享
賜仁者之粟懷惠為多餘面謝不一師錫頓首方迴監即宣德
執事
邵仲恭到京帖

鱖故到京俗事匝二遂不果頻上狀鄉往何可言秋暑尚酌不審述成公外動靜何如鱖無狀承足衷排岸勉力祇賦未緣聚會謹勤手啟候起居唯祈以時保衛不一 鱖再拜存道良覿司理閣下

蔡元度雪意帖 草書

下拜覆雪意殊慮旺故大冷殊為可慮紫賜荅詣尤以感慰通行有司呈賀雪箚記似未穩試為更定如可用即乞令寫上也不備下拜覆四兄相公坐前

李端叔別紙帖 行書

之儀再啟伏讀別紙延予加重深畏非據兵自捐遽一向杜門時到由舘閒與村老周旋外堤坐而已高誼素所景仰累趨而趑囿所欣領況近在數十里地邪便當擬置以圖傾盡不愚早晚可回閩其婦家已有代期何猶遷延也丁居閒好事都語書於賀轉應劇過煩娶予皇恐皇恐叔掌定肯書否果得之足以借重也乍到過從必未閒又端若將遠別得無應接稍勞否之儀再啟

何文縝即辰六月帖 行書

棄拜覆姑夫都大提刑寶謨郎中姑：令人即辰六月祖暑採寶苦益惟疊祖輝華底春益增之悉 累侍所生數門忌貧仰指洪休知感知自比當一再重大嗣以無謂弗敢圖戚史若唐休依一忱則食息未始少替鄉閭之榆雪足日來晴炎泉流易涸日今更得甘霖一飽可指期矣江右提：聞已平戡戚惠所孚固宜屏迹知縣表兄敏惹已遂向安溪切慶忭內除尊表安閒如織兩院便恭人尊候曼福慈祝之拜鄉里應有騷策伏祈嚴戒不備棄拜覆

趙德麟家餉黍帖 行書

令時頒首唐惠賜伏承久雨起居佳勝蒙示梨栗悃荷比拜上惠賜茶分一餅可奉尊堂餘冀為時自愛不宣令時頒首仲儀

兵曹宣教八月廿又日

李商老公謂家兄帖

公謂家兄得彼相從當其歡也然亦以親老思北歸何時遂即小妹子與諸孤幸此糊口粗安勿煩為念但念八長成未有親親三十已許與小子房二弟十二子為婚須候念八了當方議之也令嗣去年相見或云尚未出京久不訪及諒當專人令來使所耳別紙示諭備悉來諭敢不在下懷即未間千萬珍重彭損首

惰初冬薄寒帖

惰頓首啟初冬薄寒伏惟衛生有經啟處祉福別來傾企不少置比奉書海副以土珍良戴孚意惟比從寓常熱閑居一勤勞曹滋甚乍到人事袞袞略此通訊自餘尉布睠集均慶令弟省幹美除有所尚未宮拜并三意山邑有愉不外正寒惟千萬爲器業孚護或有警悟片札仰吏只附來常熟可也不一罪一十月廿又日惰頓首再拜叔至省幹舍人契友

宋 蔵參蘇黃米四大家合卷內

黃山谷承諭帖

一卷 宋董其昌書 卷高三寸九分

庭堅頓首承示諭數往助崇德姆母此蓋一孝友之素仕宦所得唯此而已其餘亦何足道即頻數顧省亦則參於前在與則倚於衡也庭堅頓首

五更起迎駕作此書極草草也

米元章再啟觀使帖

帶頓首再啟觀使樞密太尉先生釣席帶頓首再拜恆宿恭惟白候萬福伏想報舟良勞神用侯到講問參見次前蒙賜嚴命不許辭然今有所獻公亦何辭以拒之通圓頓隨葦錦增光又爲選人銓帶非稱也若不以爲決願捨入謹奉啟不宣帶頓首再拜

宋濂吳寬張弼三跋見前

蘇子瞻官舫帖 汪珂玉藏

載此閒官屬中有荐九思誠之自長沙遣來攝經幕其人有志趣曉民事亦嘗從先晦遊又有嚴島翁慶曾永州人載舊與之款愜實可委信又有李惊靜翁見爲經屬雖才短頗氣直敢言此外又有兩三人頗習事自楚來亦頗似首向前亦未有顯過者凡百姓教詔之甚而不悛然後不免治之耳諸郎守得人者寡例多苟且亦多闕向來三司共作一味是人情今與兩基約請公自此不可一毫欺朝廷但却似目前難得人到任後今已研兩處口詔願以爲然也吳仲到遵州後彼中事 殊覺血脉通暢見已攝守極通曉也李天章規畫只是理會兵財兩事其有條緒至今傳道之林君本政書 未盡要其根本之論得其家更有數書已往録矣廣州農事 尤臧裂若今冬尚備數千此亦當考究料理也此間士人聞見極陋然資質寧無佳者試再過學中與之講論經史學宮頹甚已脩治增廣講堂之旁列前政生利不免徙置備寺用其處所廉深二程先生祠庶來者知向方耳試比領御筆理

會置馬事既而軾奏聞又御筆批下依奏依奏往返日更迭共
不廿日尚　上不棄外應之如響軾凡有所見其敢不自竭況
敢自有踈外耶其他可見者口一二示免之軾再拜　偶有肘
子納二十枚并川墨兩笏同寄軾又拜

按帖內有嘗從先晦遊又有新淦二程先生刊又有
御筆理會置馬事皆非東坡語或是南宋人與東坡同
名者此題作子瞻帖似誤又按此帖似是跋而軾軒
蘇子瞻寃海帖　全上

在寃海與青社密邇嘗得希文侍郎音問忘得謝　閣下見季
動靜深在念也朝城三叔中舍嘗侍書人二叔母去年十二月
傾逝在遠官極孤寂也雄州四叔推官在官下無恙軾再拜

汪何玉跋已載墨蹟詩詞類

朱忠禧藏宋賢十七劄子

宋公垂度支帖

頃頓首度支學士近奉宴言深慰勞忽承手札曲示勤私貺
及兵中碑本及蘇楊茶一奩傷費頗多不敢辭拒但增視佩之
至謹因來价輒奉片幅為謝餘頓首四日

葉道卿近遠帖

清臣啟近遠一幹隨府伉持書并錄覽二書問詣鈴下計已呈
覽數日前遠零日使還厚手教歲不我與忽焉隆夏言念出處
光景載環感切之政如宿昔天休海道深萬報上忠純樂職
秘人無有內外願為簡書所縻不得專騎相過此可恨耳生拙
守退伏盡族戶給閒齊晝眠夜池晚動杜糧之於踈同海鷗之放逸故人不忘念也清臣擾着五月十
八日

董子平承示帖

承示諭張恢者蜀以明公昆玉世契之孚付之以禮不謂全不
值理切恐仰玷盛德亦欲小警大戒可以免其出處也該惟深
器公文如命領下縣鎮矣衙踈息

林子中前日帖

布啟前日屏屈臨感刻感刻歸聖兄弟並入閑賢奢逸當獨踩
奈何天清一室遠治之閑寶舍亦望令人喻主僧且那與小子
處并一二親情同處也恐見令煙般出便援之也無舉手紛然
不可不先慮之也阻於面奉先此布一二希損首完夫府判朝
奉學士兄十四日

符鎮叔逸往法濟帖

之寄啟知遠往法潛不勝依依長安酥二个蔥雀酢二罐水梨
鳳棲梨各十枚小藥少許聊薦蘘韭莫容納以鞠大狀不果
拜違悵之懷不能勝述乍違已保重不備弟之奇再拜九兄
知府郎中

口達七月帖

達啟暑七月五日暘教承已西上今想對還當有休嘉也秋暑
未熄伏惟動止住福違山閒粗好兒女來歸已餘月矣衆如夢
寐聞耳未緣欵晤千萬為圖加愛為圖加愛不宣違上頓叔知
晉大夫閣下八月六日

一卷六行草書

劉無言昨夕帖

劉無言昨夕幸得坐早來庭中瞻望顏色不缺奉告伏審既
壽再拜昨夕幸得坐早來庭中瞻望顏色不缺奉告伏審既
劉等候萬祉改月自當主左右適自為王家親覆納無違今未
定旦夕專得面拜使是不備壽再拜五伯父大人伯母縣君座
前

口煜久疎帖

煜啟久疎脩問秀州道中賢子見過傳推誨極荷意愛之拳且
承聞燕多適氣宇泰快至慰至慰比欲詣邑圖一笑之樂偶治
行迫寫悰頗不擇不克如領但向風快心無已劇寒惟以時自
全保問壽福瞻壽瞻禱煜再拜致政太保大初兄執侍二日

崇石林人至帖

崇得叩頭人至辱教示審閒頃煜動止安健良深慰荷兄幹枉
荷紹念悚不知幾時定可還日屢面款入此月來次皆損咎
痛作字艱強勉附報草餘唯珍愛不次崇得叩頭拳貢貢元
親契

張天覺女夫帖

商英惶恐女夫王韓之蒙收錄八月又日已辭商水任蕪極餘
溫逸可改京商英受賜與王氏均等會第二女夫揚開袁罰亂

一卷六行草書

周美成前日帖

邦彥頓首啟前日特屈降顧門念之中倍增感歎負荷無逆造
詣不建第承悚惕物邦彥頓首啟

林彥振承誨帖

上知商英惶恐再拜
邦彥頓首啟比不承誨下情渴仰知數辱顧訪皆失迎對但深愧
感豪教伏審晚來尊候萬福嵇刻已鎖奏暮當下祇詣遞中地
此拜稟不宣謹再拜右司彥和尊兄座前

韓良臣近閣帖

世忠沓日頓首啟運使直閣侍史近閣言誼良勤懷向比展春
雨伏惟唐執餘閣台候曼福少慰近得吉以本司官兵二月下
旬以後券食錢未有准擬擺於責司兌撥應付已有公文奉聞
今去支期不遠敢煩詧吉運司兌撥錢三十萬貫告為厥戚所
屬星夜起發得二月中旬內到軍前以濟急閣候朝廷降到錢
即便發遣也千萬千萬恢及未聞自安不宣世忠頓首啟

運使直閣侍史

吳傳朋門內帖

說拜問門內春駿伏想長少均協多慶賢塔以未接識不足別
狀孥業事乘二巨鱟轉江入淮旬頻逆二今猶未至次第經由
高沙兒輩若知良臣在彼必往請見大兒子近堂差泰州如皋
監鹽偶得見關便來赴官朝夕先過此相聚數日而後之任仲
子調真州推官尚有年閒叔子嶽祠滿已一年半未得赴部同
二季隨骨肉俱來賢嗣昆仲一二均福況再拜

吳居父伏目帖

珞伏目廿二日吳禀報之後深慮音揮未到勢不容留逕行牌
印除以次官權管姑作急難給假起發方登舟間忽鎮珍飛龍

示劄如解倒懸感佩特達之意無以云喻即星往前邁矣瞻
望鈞光在邇茲得以略切白炳照珞星恐拜覆觀使開府相公
尊兄鈞席

王稚登書與光二跋見前

歷朝書譜

宋賢墨蹟　敕札

沈忠先高秋氣爽帖

與求頓首上子明知府侍即親家台席高秋佩爽伏惟台候勝常與求屏居里社未有晤集之期千萬為國保重不宣與求頓首上子明知府侍即親家台席

胡文定與信伯二帖

一卷雲煙過眼錄第三百九十五　一

安國頓首頃在行閣奉所多教方欲再造問信已以罪行矣既渡湘水之西山居自省相望數千里無緣復通聲息悚息可重去此見報伏審賜對受知名寘論館豈特交遊之私慶也已辱書脫欣承校正多除德履增福未期晤集切冀順時為此萬自衛不宣安國頓首信伯學士執事

安國再啟一別三十年暮光既及而學未至回首初心日以自愧每閱德譽想造養之益深也信伯既親見伊川丈人其堂奧責任亦不輕矣使斯道遂行郤說不得汨之也直有望於君勉之安國再啟

胡文定稍疎奉問帖行書

安國頓首稍疎奉問但企仰不忘再辱感尉郡久不面今日方得少雨不審治下何如劾農之仁所留惠者故以奉問也安國此牖自如未有占對之日幸為人自重不宣安國再拜伯高太博尊兄閣下

呂元直台眷均福帖行書紅粉箋本

頓浩再拜台眷均福承奉即惟富陽縣徐端義乃舊同僚之弟前為富陽丞諸司嘗奏乞知本縣會諸使屢更易辟不成邑人頓安之幸為檢會集牘再為奏乞庶惠及百里也頓浩再拜

李伯紀近被詔書帖行書

細再拜近被御筆詔書以向降其遣防刑害特加見諭上恩隆厚何以克當孤危之跡去國十年間閻險阻無所不至拳拳孤忠今乃見察第深感泣令錄詔書并謝表劉子去恐不如也細衰病日加不復堪為世用然靜而謀之則有暇矣近於所寓館舍之側葺小園蒔花種藥為終行捐之歲作上梁文及畫中十二詠輒以拜呈如得數句為林下之光幸甚幸甚細再拜

劉平叔即辰秋思帖行書

光世啓日頓首啟上知府侍即台座即辰秋思寖蘭伏惟撫字

之暇神貴忠嘉台候動止萬福先世駐軍淮右未緣詹跪伏冀
時為國保愛前膺異拜不宣先世沿目頓首敬上知府侍郎
台座

尹和靖前月帖

焞頓首啟前月特蒙寵顧以病軀不得趨奉教益為恨統惟賜
書併錄示定夫所撰其叔父墓銘顯道書先生易傳後捧領披
讀欽慨之心有不勝言專使至承惠翰荷眷予不忘甚幸甚幸
焞即此遠依庵庇諸事粗遣腰痛亦減七八不煩過慮冒寒來
寓兔丘日穫相見或去可居同日車馬閒欲來此亟得款穩益
論未閒尚冀為斯文自重懇切懇切使還專奉啟起居兼謝下
情不罄焞頓首再拜

尹和靖易傳帖

錄示易傳差五且攜焞所收本寫呈乞撿至更望訂其是非他
候面議焞再拜

尹和靖兔丘帖

焞再拜啟向寓兔丘時蒙寵顧枉荷眷予之勤去秋過訪辱
館待至犀拜別之久日益瞻仰遠承惠問獲聞動靜感慰無量
即日大暑伏惟尊體萬福焞去年冬末來會稽凡事客集不敢
有煩衷念來由拜會惟乞為斷文侶加保重以副願望真切謹
專附手啟上問不周焞頓首再拜

尹和靖會稽帖

焞再啟自至會稽以還間不修講人事不過便人故久不得上
問必能深察向承教論語二事今已改正或更有未定疑有的
便無惜賜論朋友切磨之道庶而不講正賴吾信伯也萬一留
念頤望頤留萬萬保愛為祝小姪璞已受恩

三月得兵祠亦蒙有祿庶俾侍養非恩知之焞再拜

尹和靖教益帖

焞頓首啟拜違教益兩見改歲瞻仰之心與日增積仲夏謹時
伏惟尊重之暇尊職萬福焞守拙碌碌隨分而已無則平日所
聞不敢不薄衰老益甚幸未容憤不煩過念未由拜會啟裏順
時保重前需名除以副友執之願謹專附狀起居不周焞頓首
再拜信伯通守學士賢友執事五月十六日謹空

尹和靖兩狀帖

焞再啟近兩狀所惠教墨獲聞動靜感慰無量過荷不忘甚幸
甚幸當州往來衝要應接不能不生勞神用在信伯處之必不
廢力有暇進道否有學者來講此道否必不倦以告也塊居僻

寺向風不勝馳情惇再拜　貴春合惟上下安裕夏暑敢以保
愛為請惇上問聯累特蒙問念感愧之至惇再拜

尹和靖父子帖

惇頓首拜改大暑益論日增瞻仰尊使至特辱教伏審即日
按察之暇尊體萬福感慰無某惇居此甚安諸事粗遣不敢煩
念慮未有拜會之期向風馳情秋暑尚宜伏乞調時保重前當
大來以副顒望下情豈勝拳：使還謹奉狀起居兼謝不周惇
頓首再拜信伯通守學士友舊執事八月上辛幹旦謹空

尹和靖那壻帖

惇再拜啟那壻以日到府中不敢草率上狀小好樂近已娶婦
只此中人家老拙又且了此一事伏恐知之皆辱流問荷眷與
復拜起居禮惇再拜上

尹和靖主簿帖

時主簿紫芝到任未久不通問陳聲之今赴官未當通訊否或
訪我存亡盡為告之惇又拜

尹和靖貴春帖

惇再拜貴春各叶喜慶啟以保愛為禱惇上問

汪藻跋一則見前

蘇後湖二帖

門中伏候萬福妻子俱拜起居之禮必蒙已行告或面留告道
區區之意山中雖荒索欵歸金壇亦便道也僕家肯賜屈摩不
勝至幸摩再拜

庠再拜上問尊夫人共惟壽體益康寧門中上下均休老媳婦
輩敢拜起居山中有委寓、疏示庠再拜

徐湖州壽臣家藏蘇嶠陳雅五版見前

范景圭春澤帖　行書黃紙

通問有一冊自北來未入門已遣介催促前來稍堪即押往閘
頭候使艤之勝務也乞速州中諸暮谷有差朱簽菊告獨當勤
事務可知也餘答筆率察照其惡悚、棨啟

范景圭春澤帖　行書黃紙

春澤可喜今有豐年之望也陰事相煩經畫裁賞之外必易應
副子細孫兄去可先談也

徐商老久不上訊帖行書

葦頓首白：久不上訊企想不勝前中陰中蒙問伏審公暇履
用安裕數日前得帖合部尚未知各在舊治所還會於北都矣
子正已自申陳恐已得明文及其他裁置行遣並乞示諭但恐

靡舍不足當煩為應又此孤陋再獲歎奖喜可知也未間切垂
保重不宣萃敬上
安國贊善閤下廿日新樂縣燈下

趙元鎮劉子揩書

門以罪名至重不敢復當即寄舅奏陳未賜命先陋之私
不免再陳悃悃伏望鈞慈曲賜贊助俾遂所請實荷終始之賜
門方在罪籍不敢時以書至行閤併幸憐察 右謹具呈伏候
鈞旨八月日特進知泉州軍州事趙門劉子

韓忠武王杖著尚煩帖行揩書

世忠容日再拜敬緘
一卷宋高宗書 宋高三十七之一 二
榮秋暑尚煩伏惟神相公忠台候萬福世忠溘叨攻務無補於
朝尚阻良晤切奠仰副眷倚以時珍攝上伏不宣世忠溘目
再拜敬緘
韓忠武高義帖

世忠再拜日者事緒種種每荷周全自非高義何以及此世忠
近以私家錢物悉進朝廷復得聖旨令世忠般取綵帛專遣人
拜聞涼已來念若更蒙頒告早與發遣乃出專賜也眷自平涸
悚仄之劇世忠再拜
汪彥章誤食胡桃帖

去年得下血疾半年有餘今春誤食胡桃能下血則知胡桃當
忌之汪藻彥章

吳傅朋叙慰帖行揩書

說頓首上啟邑叙熱已具右暖即日凝凜不審孝履何似未
由一造塵欠惟冀節宣以承家世寄托之重不勝至望謹
奉啟不宣說頓首上啟大孝宣教苦次

張樗庵書科帖行書

凡成再拜閤宮祠已滿且復有瘡痍之苦計今已安平三八哥
得書四一哥淡有一男子可：喜：想見其室中亦自此無事
矣渚全弟讀書不輟尤用勉懌范蘭止以武舉得官不聞其能
文也去歲能賦者乃向來對門居程逆耳范亦可往來一見自
知其人矣凡成再拜

朱希真別後塵勞帖行草書

敦儒再拜別後塵勞都不累謝書亦寂不裁寄聲第勤尚想比日想諸兄安遣向者李西臺書久塵文府乞付示又不見此書日夜夢想告寀封付此兵回也必不以煎迫為罪幸悚悚偶作書多不能覼縷何日得相從於黃菊懷玉間臨書神馳敦儒再拜

張彥正乞授封號劉子行指書

綱比以小兒墜乞回授封號事上千鈞聽方懼冒瀆乃蒙特為開陳俯從所請非參政留公之力何以得此畢室榮感不可言堅以宮祠任滿東裝造朝已令申乞呼召面列謝悃僕庶無進一帶雲根舟車處處 第三百九十七 十七

略賜提耳之誨使晚學小生得所矜式幸甚幸甚 右謹具呈

資正殿學士左大中大夫致仕張綱劄子

張魏公遠辱手劄帖行書

後再啟遠辱手劄良佩勤厚治郡無補丐祠榮允有上塵恩鈞以異數方具牢辭未知所報行李已出城謀為湖湘窮居之計筆牘為況慰感益遠會集唯祈加衛後再啟

張魏公早上封示帖

後頃首再拜今日早上封示彬父回御前處論事劄子聖意甚偉哉深切著明之論也今士大夫才識學皆不到而又重子為己輕于謀國尚烏足與國事哉幸公留意川陝上流近事及人才之可用事機之可為措置之可行者歸以告上至望二十日午不宣後頃首再拜彬父劄置尚書友契台座

張子湖陽徹帖行書

置招撫勘除偲當事會朝廷倚重巨鎮一聽規模切望晤言早

孝祥拜覆適一再具書當既開啟即日恭惟尊候萬福孝祥少
愆趙不夜　魅既出門下極深感激開以來獲劾眹差人督捕
此固當然但閱日已久賊終未可盡獲欲告且與追還使臣者
渠當日夜究心期於必獲也僭易皇恐之極謹拜覆不備孝祥
張于湖學士帖
孝祥頓首再拜左右以何時來涇川官居諸況佳吾學富識暁
進益不已州縣渠能庵久即臺閣須求會有薦者孝祥頓首再
拜
張于湖暗存帖行書縑色紙本
孝祥昨者過廩臨存仰佩敦篤之春不勝感著之極畏暑如焚
恭惟神相行李台候萬福孝祥無緣住見益以愧負馳此少致
謝悃　右謹具呈應辰提幹校書年契兄六月六日弟張孝
祥劄子
張于湖啟寒帖行書
孝祥伏以啟宴苦寒即日恭惟提舉宗丞持節觀風有相賢業
台候動止萬福孝祥鹿鳴如昨　不足言者何當再給臨紙馳卿
願言以時節宣愛自為國即須召用　右謹具呈提舉宗丞李
恭尊兄十二月八日左承議即充集英殿修撰知平江府張孝

祥劄子
龍大淵啟華帖行楷書
大淵竊以嚴華將暮寒威益凜伏惟某時多暇神介靖共台候
起止萬福大淵即有承顏接詞之便預增欣躍謹再奉手訥上
詞與君衷謝來況　右謹具呈十二月朔日昭慶軍承宣使知
閤門事兩淮撫諭龍大淵劄子
王曙題即日薄寒帖
之望頓首再拜李思通判學士尊親台座即日薄寒伏惟台候
萬福帥司差體量賊事想又一出今必已了可作一書與李承
宣鴨梁或恐奏功薄當賞典也恭器見買近得十五哥書報浙
東早來大熟我閒亦旱昕論成兵六月間作亂子重廟堂七月
間劉下田侯統行李侯已差百人於桂陽二百人屯郴矣得此
想可莫忙也大率勞時日應辦亦良勞也未間保重不宣之望
頓首再拜李思通判學士尊親台座　九端以次均休百一哥
妹方進茂老妻兒女比問有妻無外服餌藥須面見方傳
洪景嚴暎違許時帖
暎違旬再拜眹違許時可望向仰之深里居屏迹不值端便只
尺之間無從而前專使伏枉教賜累楮周淳尉感興已涇川昨

章既久細計實惠數施彼民何幸來諭迺欲奉祠何即未即再
暗伏幾宗練裂對新渥至扣遵頓首再拜
廣雅公鈞堂帖
鈞堂仙集伏惟福本崇大綢閒有長子之戚盛德積善少門慶
應有此天道似不可詰矣然去來修短皆前定鈞堂豁雲世法
具大定力自有以處此蒙符制幹兄榮改事有涯此心望：甚
久今得報而喜不啻其自之得也漢上相處甚樂前此每辭為
兄又留別當具稟次家信一封謹封納伏乞鈞照兄文皇恐上
覆

吳寬跋一則見前
慶雅公適造帖行書
兄文適造見尋辱訪別樂處既久數十里分攜可勝心惘惻
也蜀墨二種久所秘愛春秋慕例武侯將苑二書文與可石竹
大圖軸皆蜀舊本連二麥光牋鹿角膠霜餅下併以為故人壽
入夜倉卒微甚有愧幸收其意也來日發舟不甚委吾為修治
自副不勝再三之懇 右謹具呈宮使中書舍人台坐正月
丞相手澤得之于黃舜臣先生家藏時至止二十五年七月
六日也嗣孫堪謹識
胡邦衡台慈分賜劉子楷書
銓伏蒙台慈分賜細肋上榫敢不跪受然頗有畏矣朝夕奉誦
硯廬以謝伏幸台照 右謹具呈宮使中書舍人台坐正月
日左奉議郎賜紫魚袋胡銓劉子
曾純甫論帖行書
覩啟惠論喜聞朝寒萬福陵長重蒙問餽之及拜兄銘荷謹上
狀不宣覩啟上子發承事
曾純甫楓橋帖行書

觀啟楓橋宰堵在望中念欲更詣久不克被誨存喜聆清塵毋
車地來道俗之譽籍然信名下無虛士也不宣觀啟上盥老

王梅溪罷示宝銘帖

十朋伏蒙罷示宝銘題跋并和詩三復欽嘆詩詞意俱工但過
情之譽非所敢當耳銘跋高深微妙然有所未論者不數二字
竊恐學無力量之人所敢擬議以是名室自知得罪寬和古人
生右銘鄙以自警云前張丞相以合天人為不欺保傅中庸謹
獨論語一貫之旨其說非不廣大其為訓戒也亦深且至矣而
高見以為未廣如是則吾夫子所謂惟天為大吾誰欺欺天乎

之語亦未廣耶近世學者多流入于異端反以吾聖人之道為
小又以天為小而求其所謂大於虛無荒唐清淨寂滅不睹聞
聽之間是之所謂大者非欺而何不謂賢者過之而亦為是說
也大是銘古及神游此即離城指百丈宝等語蓋出於彷彿天
墨然先聖賢所不道六經所不載恐非先生長者為後學之訓
未敢承教全幅手之學亦雖於佛老至其清和韓詩有想見大
顛師不應談羅磨之說者偉之聖直不明父笑諸儒不能無
罪固高論雄文又及輒敢布其狂言卜朋惶恐 右謹具呈左
奉議即充集英殿修撰權發遣饒州軍州事玉卜朋劄子

王季海上恩帖行書

淮鎮罪機疚每嘶恩補上恩過厚延貢政金愈免莫從風夜憂
懼曲承雅養旬遺慶緘感服之私非筆右所及尚幸台照
右謹具呈中大夫參知政事王淮劄子

范石湖書海帖

成大白蒙書海先夫人志中欲改定數處即已如所教一一更
冀悉入久已寫下草子正以二兩處疑封題在書集數與處而
未敢遽一則今之所增賸與及諸孫及壻官婚姓名等皆是目
今事而僕作志乃是吾儕在湖蜀時恐公點檢出來却是一病

若不以此為病則可耳公可更細考而詳思之若有所疑即賜
介見諭當即日回報不敢復如前日之遲徊二則本欲力拒自
書而苦體日增倦之不能如願不知吳興想不乏能書者就令
求書於石尤良便耳揮汗草此率略不罪不罪成大再拜

范石湖金橘帖

成大紫柚金橘三百枚荷意珍厚屢面敘感 右謹具呈十月
日端明殿學士中大夫前建康府范成大

范石湖玉候帖 行楷書

成大頓首上問尊坐宜人王候萬福十姐兒女輩悉布起居之

禮朗娘侍奉均勝女婿甚難容睡慰目前也諸院安佳何時得
至後堂即新法玉麟春十斗并蠔鮓黃雀各十瓶已設四生伴
書以賣椒盤一笑 不宣 成大再拜

范石湖中流一壺帖 行草書

成大再拜上問尊嫂宜人艷候萬福老姨兒女輩悉拜起居之
禮朗娘侍奉均慶元日四哥見過却云得大哥書近曾不快從
容書又來為渠覓升聞大段虛弱甚懸念之也四哥云得某嫂書

交之只批數字耳不知先之彼中曾得書否鍾醫治我而它之
亦緣貧病交攻可亮想數魯相見如聞鏡卿頗問其急可謂中
一卷宋嘉泰中吳興書

肆也平江有奉不也成大頓首再拜

范石湖春晚晴媚帖

成大雖時春晚晴媚晚惟知即中大旅食燕居台候神相萬福
賢即來辱惠書審問動靜且拜快書之既併用慰感小隱自是
益增輝笑迷者還魚樵粗支風露無足云賢即吳淞公幹事毒
未由承晤伏紙馳情惠頓首上覆

鏤璃吳均楊譽金幼孜楊榮玉跋俱見

謝昌國傾耳剖切帖

誇昨日承垂訪傾耳剖切之談執事如有遇其機鄭公陸宣公
之流亞于吏箕日宅時用不患無特達之知也拙句漫奠一笑
區區尚容面詳 右謹具呈益夫宣教舊友三月三日朝散即
試右諫議大夫謝誇劄子

朱文公編輯文字帖

暮投有拜覆竊聞作築鍾山以便親養去營慶而就清曠使前
日之所望於而寄實者今遂得以為耳日朝夕之玩寫計雖懷
亦非獨為進哀計也甚善甚慰所恨未獲一登新堂大快心目
一卷宋嘉泰中吳興書

耳蒙喻翻文此深所不忘者但向來不度妄欲編輯一二文字
至今未就見此慙負秋冬間恐可緣淨何後特間當得其業求
教也所編乃通鑑綱目十年前草創今憂再修義例方定詳略
可觀未恨未得拜呈須異時携歸請教日之間庶可就得失耳
未由承晤伏紙馳情惠頓苟上覆

書呈朱六十書才叔朝奉大夫致仕惠賁封 八月廿日書報
六十郎賢姪叔重人來得書知比日為況安佳足以為慰又聞

大劉子

它固似筆舌能既侍須續晚案笑想未知會并惟奠冬衛以前
字復慰此願望 石謹具呈三月日中大夫提舉洞霄宮范成

有析居之擾想見諸事不易此即納祿又有嫁遣之累宜不可
言想吾姪既無館地亦是此模樣無可奈何只得見州草草
摧倒此合與小七即又四九姪五四姪諸人商議打併若本位
那得脩莊周善然亦須吾姪同八十姪與衆人說過此不及一
一作書也叔重人還附此草草餘惟伯愛房下諸孫一一安樂
楚必有書諸兒女婦孫一一附問叔嘉白

楊雄賴錢惟善況存端周伯琦陶九成五弟俱見

朱文公賜書帖 行書

熹昨蒙賜書啟慰之劄偶有小職事當至餘姚歸途專得請見
一帶雲巖卉雪盛事多矣 朱子二十七 十五
人還擬冗布稟草草餘容面既

石諲其呈提舉中大契丈台

生六月 日宣教即直秘閣提舉南康軍事

劄子

朱文公與趙子欽劄子 行書

熹前者便中累奉釣翰之賜去月末間拜啓略叙謝悃計已
逐登徹達此未遑嗣問下情仰瞻仰意前所具稟減稅請祠
二事伏想已蒙鈞念矣但延頸之外加以洞泄不時萬旬未止
有聞衰病之軀日益疲憊舊疾之外加以洞泄不時萬旬未止
兩月睿澤殆不復見物如此作字但以意模寫為成其大小濃

次略不能知又以鄙性狷者不能自覺寓書期會之間又不敢
全忘曠弛日夕應接更无有閑文素若更旬月不得脫去即精
神氣血內外枯耗不復可更支吾矣至于即計室之有失料理
猶未暇以為憂也今有劄目申銀包賜樽念二公之門不敢數
叙私慕亦已各具稟劄訖劉克國正宛陣閒仰矣論道之餘
賜以一言俾得早從所欲實不能無企于門下更望拜手不勝
祈切之切伏乞鈞照 右謹具呈宣教即雄發遣南康軍事施

管內勸農事朱熹劄子

熹昨日過閭已具稟劄到發訖有敎民不從敎者不免具奏申
省聞某人姦猾有素伏想丞相於里社閒久已悉其為人特賜
敎奏重作行遣千萬幸甚即今走三衢前路別得具稟次
右謹具呈正月十六日宣教即直秘閣提舉南康軍事施

盩公事措辦朱熹劄子

吳寶陳牧宗慶莊李秉陽四時 行書

吳寶疑急足帖 行書

急足回收書忻審威暑適寒所履康勝示及告命已領良荷介
注多感二已專人為壽有懷併數前幅矣茲得以略敘上復
壽甫親使太尉賢弟 續已附納

楊建秀荀夏清和帖 草書

萬里代以荀夏清和恭惟達孝尊使判府中大新拜祝難高踰
事外天相台候動止萬福萬里素發有緣亡補縣官夫以霍乃
疾固所諳達知感知幸荀至良說致慰盡珍愛理即膺子環之貺
右謹具呈四月廿二日朝請郎守尚書左司郎中兼太子侍讀
楊萬里劄子

陸放翁拜違言侍帖 行草書

海頓荀雨拜上放仲朝侍郎老兄台座拜違言侍又復累月仰
仰無緻頃忘顧以整霜窮候吟況亨尚不三暉邈如萬里難聞號
一磬雲裾井未遑奉

召登用省不能以時修慶惟有愧耳東人流離滿野今距春秋
旬日奈何如僕謬膺[illegible]憂餓死又從到劄日夜慄慄而復
未止所謂交足困境中實朱元晦出衢發來還此公寢
食在職事但恐儒生素非所識又鈐束有限事拓不審亦未可
盡其必能活此人也海若重評歲荒尚可廟堂閒亦矜其窮
狀賊爭至軍斗升之糧亦未知竟何如日望公共救如望歲也
無階參省所冀以時榮護即慶延登不宣海頓荀再拜上啓五
月十六日

陸放翁與仲信明遠二帖

海頓荀再拜仲信學士老友兄即日秋氣清快惟尊候神相
萬福兒子婚事蒙荀留念初五以吾輩氣類故敢有請已令媒
氏具道其詳尚何疑哉今又煩重海已依論而決矣餘令媒氏
口白此達不宣仲信即日學士友兄
海頓荀再拜仲信學士老友兄即日秋氣清快惟尊候神相
萬福兒子婚事蒙荀留念初五以吾輩氣類故敢有請已令媒
氏具道其詳尚何疑哉今又煩重海已依論而決矣餘令媒氏
口白此達不宣仲信即日學士友兄

海頓荀再拜仲信學士老友兄即日秋氣清快惟尊候神相
萬福兒子婚事蒙荀留念初五以吾輩氣類故敢有請已令媒
氏具道其詳尚何疑哉今又煩重海已依論而決矣餘令媒氏
口白此達不宣仲信即日學士友兄
文彭跋 一則見前

歷朝書譜

宋賢墨蹟　啟札

桂大防梅天雨潤帖　行書

錢塘倪濤撰

錡江血再拜上啟叔清宣教親契兄生前梅天雨潤伏惟尊重
有相孝履支福錡區區東訴之悃已列前牘不復重陳伏冀
喪比者蒙頒奠之遇且勤臨慰偶以負土山間不及踐訴歸見
弟運言之方欲尋使修謝忽又被尋書心慰心感益增不勝
一帶雲根卅堂藏書　卷為幸之

魏況門下遭艱無由一拜總帳乃符周緻如此尤見忠篤之誼
錡老矣去歲積病之餘纏以大禍去死一髮苟延視息以圖大
事已卜臘八舉葬侍了此段則此身必不久於世還將相尋於
九京不敢自期於再見爲紙悲哽惟冀節宣以時前途言者狀
力不次錡江血再拜上啟叔清宣教親契兄生前

真西山與王周卿手簡

德秀鄙拙久煩仲納重併敷布及伏幾台照德秀頃首再拜上復周卿學
士座右

洪舜俞寄道場山釋法舟札

啓變利後無日不病狍病庶酌病念其猿鶴入夢屢寄手帖來
承雲氣稍温恍然分半席梅檀林之下辭流可量舊詩入石呈
慨為多政語非所敢當承朝家頻移旆錫於茂苑隨處結緣有

何不可而力辭近時納子祿莫座與平產遣同安知青菜根通
天下只一般滋味靜退高風可勝欽仰盥陀花竹無恙大衆安
隆六月八日告慶皇恐上記舟公堂頭禪師住茗多感香香

仁一包試參之告覆

與道場詩同參法舟趙孟頫黃滑錢惟善法眞五跋見前

卷

倪筆父昭代親友帖　行草書二紙凡第一行

提刑提舉朝家尊卷文所謂昭代親友兄弟問成以諧音衆趙
謂大用所致謂八月四日午時之謂文謂九月廿七日作了豹書猫
於枕間卧語也吁何憂至此中興熙德之家令子賢孫相維零
謝況於事變錯出人物眇然之時而善人云亡閒俟甚淺豈惟
一家之私誄惟孝思追慕榮親任或又曰九月廿四日卄喪

東朝祖十月十五日即定了分荷提刑知予爱憐誼均骨肉而
疾不得候問死不及見相莫不及清役五溪之濱伶俜影遁
絶交游孰知此心也迭來親友遭喪死喪不相赴指問不遑故
窮而後拜此亦未知伯仲自離茶毒體力何如心憂予靡所
限極更惟強飯節哀以紓大事一門眷屬各計勝喪遠州閒已
閑府石泉恐留江上或在東山瓜生不問赴音之詩失於弔唁
也妻等附致問禮儀連簡伀促就此草貢俯之誄文五是副誠
乞為萬陳不宣謹狀了翁頓首再拜牧上機宜大老賢伯仲翊
兄服次十一月十九日

一帶雲花神堂爲多

奇哥服恐動帖

行簡恐動柔報不敢親往少意拜稟女夫王太社位令亡矣有
少田力乃典物爲人營葬事已結髮乃復與訟諸舅人小人
之喜詐殺孤如此望爲洋的而分明之小女亦不存其人與管
仍乞追真鈐人是事項紙平材記其如數告照 右狂具呈
十一月二日少傅平章軍國重事益國公奇行簡劄子

方秋厓觀廬札

岳皇帖端拜申東岳觀廬府行矣解角齊閑墓嚴英下是離之
拜端奉狠題重增起企返語非盡淺學者所敢儻下問如此當

於舟中倘等拜哈此酌棗餘候副音益乞纖哈 右謹具申呈
三月望日文林郎新差主管句容刑工部架閣文字方岳劄子

牡丹相爲動帖

範本存來辭前日奉答爲動珍品未承示以先睹乃知程門師授學
閒關原所以開悟後來者多矣謹之起敬來意良摩何可忘耶
即庶已於仁恨未明識拜略此奉復伏幾台照 右謹具申呈
三月廿日劄奉即右之旅修撰知事閤重府事杜範劄子

張樗寮從者來歸帖 行草書

即之通閒從者來歸喜寂起舞想見大夫人悲顏之喜可
知也野衣黃姓擁楊及煨羊之火不能亟謹已拜謹染脖此南
行李甫息肩奉於首及候爲頓何以報之敬須修謝次令弟
婦新已領即之厚意元擘士茶飢笑兒台座 李物甚佳

張樗寮從者來歸帖 行草書

即之引年得謝不負初心私窗自幸富直中秘北朝來優老之
手色恐未能即承命也即之和南大貴和尚各種師修者

張樗寮引年得謝帖 行書

即之引年得謝不負初心私窗自幸富直中秘北朝來優老之
恩以筆硯師即之何若一旦得之忙不知其所自重日驚惶未

寧也慶語手題非受令之深何以有此感慨 即之如承門
墜一生捐餅捐餅方始大結局此身得以自由矣老兄知我者想
亦為慶快也李三州盛稱令承律已之字人多能言之但承日
久未敘謹重而或者不察其形而徒其皮耳字想來能即過
我瞻企膽企素領縣佳期即之再拜上慶致政朝本老矣生石
剡工況生在邑中否去令縣未家船內報二色手廿三十兩同
庵橘口十餘負酢回生金鋌業正一盃奉等從可供一酌即之
即之少盡思溪莊幹去年約和雇米為平江捌約人役盜已荷
張樗寮溪莊帖 行草書

吾弟為之主盟更與終志事自鬼別代即之數廿一承知縣及
一帶宗親卅家成十月 三 五
議郎新除
蕭遠民與先之劉子 行草書

先之有賦元卿相遠民下序臨頒度春從容方此懷人想沐教
豐閑讀竹快跌折之苦幸喜勿藥家涔粗荷不外且非都門的
高作著知門下有子如此可嗟可喜但旅閑事力優恪者得至
兩住如兩神童則自相移琢磨不煩師資妙吉之足仲則子弟皆
幼且習他經至若蝶溪諸周使作芸人之田者也度未有可推
郭長孺仇東二跋題前
文信公端陽帖 小行草書

軒成奠妨多為之圖他有所聞商及賢德政不在詳焉楷百

天祥皇恐頓首 荷翔
殺字申作請尚書左丞先生台坐前天祥在瑞
陽時嘗以一介人往候先生盥所先生錫之書教之以聖賢向
上之學若天祥者雖非其人先生不鄙之益日切自放發而不
敢自為暴棄者也山林之日長學問之功深味前輩此語竟吏
事妨吾學卷末一考被召除部即乃香火以歸不復反俾鄉鄰
辭又不獲請不得已往事往特泉司所職者才刑獄一項猶去
春新有評提又適值氛不靖承此二事而任大責重竟未得
以稽為本職第一事日夜劇切利病詳悉問諸百姓惟恐拂民
太祭只以血忱至公感動境內未嘗專事刑戚稽功之所以重

成也頷鬼猖獗血江閩廣三路十數年于此天祥自手用兵了
萬人奉罪致討首尾三月始難之平未幾天祥以先人本生母
之喪即解印路里里之廬不遑約為一庫啞勳京師天祥遂因
乘捉將威虎之功未幾又遭天祥計捕之敗又遭天祥訴遣
服又築黑墻壁殺其舍私不值一錢出後知邵部之甚難而父
母之國不可以行政也昔者吾宏齋先生益當為鄉薄矣其所
以能鎮服一路者益出於宿德重望若天祥小生乍出其以名
爲冒稱也固宜往諏諸前之耆舊之所動不復見察況以侍郎宜其成閩將先生當其時適在

經界九天祥一時所行事先生侍之閒閒耳之迎來如人言
之太甚予隱任事之難尚矣直當體國以聖賢向
事功之每作而虛心徐心利招移仕有事廢弛一如不問反如
愛根本邱人心之美名曾未知根本在植人心在物管無財用
何以安人無政事何以立國奈何其是非顛倒之甚邪先生忠
忱愛國者也憫世疾邪者也適心肺肝安得從先生一日獨倒其
一語以自信在者仗閒先生以教天子端揆表帝之勳為時一
出自大司寇進長六卿典事樞務柄仗衛武公之耆之德之
益千有餘載之下炤然垂光儻何幸身製鬼之天祥頂首為國

賀為世道賀不獨為先生賀也天祥誥毀之餘糧居相保全無
大計造未禮書入深林温理敢謂為吾所為益自是活然方外
之想矣先生即日膺準六合儀益太平與受公鴈臨書馳
仰垂欽承伏白照 方謹具申正月 日承心制之天祥

劉子

李時勉致君前

文信公諸劉

一唐信任不刑有申之宜速庶之成崇修章奏遵別即事二謝
兵馳入城生之共守邦欲報行殺萬兵即下 又在日矣

一諸處取到物色已有幾無數陸者同是難理矣如候
令所要如前所項下有數目者即與報行根行根究須斬法法
者數人然後取得起若有納還者人可稍寬其刑如平素有到
如即紙他們收得亦何用此納結之人結在其手則有到即紙
勅旨皆在焉
一徐徐同柳娘在劍平戶下傳住之親之但　指不成相柳娘
託以為別人女不直指為吾女也住柳有夫可託其夫往贖幸
圖之

一環娘十歲處中既無名想亦在民間此項須逃到永平諸陽

一巷雲根井雲藏書　朱多年之六　五

物色方有出場
一在北無片楮可用費力費力全靠使司取此物色來彙舍弟
與良輔來有吟少期帶此外無策無策
一瑞州同都統死於瑞全可憐可憐可憐
一在瑞金時賤體一病甚可再憂人汗以來幸已勾藥
一合家書與舍弟又一書達民章又一書達　旗千戶道達天
祥皇恐拜筆十月八日發

一峰道一則見前

日子謨兩兵帖

子謨頃有兩兵還　想已達多日矣北建安使果方待八月間
所沼一書亦足料歷老情即日冬暖絹維佐政之暇所履勝常
衰朽自春徂冬脾病不能入食形骨癯庸服藥無效今一切罷
去安之以命亦自厥其餘生矣元素弟皆能通曲折疫癘不復
動繩可細問之來由占賠千萬以時自孚不宣子謨頭首顓道
通守銅奉友契

口讀賤息夫教帖

讀悚恐再啟賤息夫教未生青幸臨履靜延八教宣少後而
過兩慈真罪人此年屬先親為喪葬所擾尤更煎熬王擬拜

一巷雲根井雲藏書　朱多年之六　六

日造請安海之仍宜宣幸指宜
宣乙時於我以狗如簡勿渝風諾今日
就冬寒未堪溝壑尚望有以勿區區之也來日伴服一紆顧幸甚
幸甚讀再拜

元賢堂稿　啟札

趙魏公與覺軒六簡

孟頫連日甚欲一詣打館共談而人事絆之意未能去知罪知
罪昨日蒙惠帖下徵畫札并前者同此奉約但竹石紙狹不可
作且寫一詩讀當為公作竹石也今日又有少事明旦得風台
重過此一飯如告勿阻至和至和連面言叙不宣

孟頫近寢略言甚慰數年契闊之懷方欲奉陪尚羊湖山間而微恙乃能阻之每承惠字則知仙舟已解纜矣瞻望悵然惠及珍不至奉愛居秋氣著人近中摩自愛不宣

孟頫一節珠拜上記室仙人眺八極而自得惟有仰企而已草二具復寒煩朝暮冀他善保不宣

孟頫久別頓渴無喻伏承惠書審之動至止不勝欣慰蒙惠白米稍麤茶果果見盛意祇領感戢無已台體所苦小耳今服何文書已一如來意見之行移旦夕當奉約也裹患間未細茶深

仍尊意祇領感激無已

一帶宗枝神采威士日 茶禽二

即走都下匆匆情事每師所深悉政殿下築漢上以為終老之計而情願未遂祖令人傍徨而已放所書之史便當納但行役

寫石碑同大字冀遣人至杭見教所以副教未暇而石尚未得至殊恨

孟頫本為先人墓石未立所以稍緩未暇而石尚未得至殊恨

頃再州州前往事宜左令還宜興視移住領在此為政且平堪

邀家甚親今在貴里望吾兄照庵幸甚因便奉記草二惟加察

餘無善談不宣

孟頫奉別甚久馳仰珠深去夏得旨南還日國處事不得上記

門候惟切傾企而已行次岷陵承尊人惠書就審即日之候勝

常慰不可言且蒙過愛特賜摩賜拜領宣勝感激祈中草二具

谷新建惟損護興息不宣 統

即如來成各題小詩其上甚愜虛懷

詩空

倪瓚楊梅馬治二跋見前

趙魏公南谷二帖

孟頫頓首拜候南谷真人尊師靜侍孟頫頃到珠勝甚假待遂

聘言旋竟成交臂而失至今以為恨舊年廿六日是舍降夜來

復清新歲二日忽路家遣吏見請三日急迎城中乃崇隆福有

書經之名今日至便清別望明日即過杭詣省中計事數日間

一帶宗枝神采威士日 茶禽二

即走都下匆匆情事每師所深悉政殿下築漢上以為終老之

計而情願未遂祖令人傍徨而已放所書之史便當納但行役

寫石碑同大字冀遣人至杭見教所以副教未暇而石尚未得至殊恨

孟頫本為先人墓石未立所以稍緩未暇而石尚未得至殊恨

頃再州州前往事宜左令還宜興視移住領在此為政且平堪

邀家甚親今在貴里望吾兄照庵幸甚因便奉記草二惟加察

所遣書舍門人閻純奇往城中乃成望池汝勤事狀深似情事

既不能一語侍下以為恨大不可言承惠筆至以為感

孟頫稽首再拜南谷真人尊師侍者數日來苦腹疾不果詣前

無乃所望也餅奠萬二珍重不備人日弟子孟頫稽首再拜

杜師來侍盟適舊壯為至今物未成當令家下奇去也

問候不勝馳仰盛被海帖惠以新茶感領次感激無物叙貧不幸
長逝昨日聞之爲之痛傷卿以十兩奉之庶爲陳運今付還矣
興不能詣別惟善保道體不宣孟頫再拜

趙魏公答子誠劄

孟頫頓首再拜知州相公子誠閣下孟頫去歲將從秉興因
得暮吐久別之懷所恨貧家無可將接坐果簡慢加我最深必
不見咎別後賤體老病交侵藥累不離左右者一年于兹獨坐
空齋情悶無聊子誠閣之必能見原耳他人前不敢道也茲承
專介惠書就審履候勝常深以爲慰承諭三皇廟碑及先府碑

銘托爲如此其敢不盡但恐筆墨不稱不堪上石耳漫畫付
去人更在裁之外紫禍筆之贈子誠何必滿也不敢引辭領次
惶悚之極草草具復餘惟上尚冀
頓首再拜五月十九日

趙魏公丈人帖

孟頫上復丈人節幹丈理縣君孟頫一節不得奉書每與二姐
在此懸懸而已伏想合宅安佳孟頫萬此無事不煩憂念但除
授未定卒難動身恐二老紅人作奉秋間老發二姐與阿龐歸
去幾時若得外任便去取也今因便再此上復間鄉里水旱想

望通達不宣六月廿六日孟頫上丈人足下孟頫再拜

趙魏公希魏帖

孟頫頓首希魏判簿兄足下孟頫奉別海言條尔兩載追惟
從遊之樂毋書之贈南望傾感未知何報惟是官書難閒而廉
忭夕暇以敎欲作數字隨品之情而不可得希魏愛我甚至
當不以爲遠也即日毒熱伏想水精宮中冥猶自得履候安勝
孟頫賴戚如昨社間欲發牡婦與小兒南歸以避二老之患是
時又當致書并以拯書爲獻也家間凡百希望照拂因便奉狀
不宣六月廿六日孟頫再拜

錢良右李時梁子寅陸友仁王禕宴集文璧諸跋

俟見

錢鎮鉛鈞到者希鵠汲字上墨如漆後人何處求書法華表
千年待鶴歸南陽無遲
餘不淺還來白頭錢鋼珊瑚寸寸珍天上玉樓盛不住虹光
夜夜墨花落一冒朝元詩
書中若說從除官客舍逈州六月寒近接阿龐歸後語婦翁
强健賜居安與修嗣孟

趙魏公與季總管書

付至祇素索及畫小軸至吳門未暇寫須俟吳門還乃可奉命耶當尋備副處付去外蒙口味之惠一作珍非尋意俯允得此祇領感激無已英公忠撤承用俯就管閒真適謝先此奉復餘俟續書新春惟加愛不宣十二月廿八日孟頫再拜

季總山長祕書足下

趙魏公八年帖 行草書

孟頫再拜進之提舉左丞大人台侯事孟頫去家八年得行望還何日可遂一帶雲根卅年舊隱敕賜大人台泰新居以為別業仗計專候協帝孟頫三月之館兩日留暗尋支閒不辦人物足盤桓行步艱難非久於人間者永寧作記為作記投領書達的摩崖即白望凡存殁承感託交廿年餘蒙愛至厚為望吾友一來以仗情苦而又不生悲想之情情者不能盡承成千萬劫訴人望早之其答於惟珍重不宣孟頫再拜

院紙哽塞不具七月四日孟頫再拜

趙魏公遠顧帖 行草書

孟頫頓首門前山長人英坐右近承遠顧趨不能款曲別後起居著即日履體佳善適珠公為留數日發至徐鄉仰慈侍惠帖就當即領感增腥感草草具答不宣孟頫再拜十六日

趙魏公卅從札 行草書

孟頫拜尚戶相公尊親家坐前孟頫頃承舟從杜顧立閑白惟領家無以將接至今以為懷別來伏計尊履協帝孟頫三月間還城中雜況尚安而已衛竹所入道為中山建道院住玩門廣得蒙眠然至幸二二前者從蔡塘回舊花竹藏脩已得許諾又張萬戶處有洛神賦後第二者并望用情求至不勝拜賜不宣四月廿五日孟頫頓首再拜

趙魏公心腹帖 行草書

孟頫頓首之足下數日奉仰殷之疾大作行慈珠甚令親至得所惠書知安善為尉不可言付至西洋布及柑惠諸物一一

一帶雲根卅年舊隱敕賜大人台泰新居以為別業仗計專候協帝孟頫三月之館兩日留暗尋支閒不辦人物足盤桓行步艱難非久於人間者永寧作記為作記投領書達的摩崖即白望凡存殁承感託交廿年餘蒙愛至厚為望吾友一來以仗情苦而又不生悲想之情情者不能盡承成千萬劫訴人望早之其答於惟珍重不宣孟頫再拜

院紙哽塞不具七月四日孟頫再拜

趙魏公風木帖 行草書

孟頫再拜楚堂提舉友篤執事孟頫不望風采忧不記時僧來得所惠書且審和寒其體何如石柱仍不鄙況旅今所臨人有景慕之篤即已如戒焉行去德仰孟頫再拜十六日

趙魏公卅從札 行草書

孟頫拜尚戶相公尊親家坐前孟頫頃承舟從杜顧立閑白惟領家無以將接至今以為懷別來伏計尊履協帝孟頫三月間還城中雜況尚安而已衛竹所入道為中山建道院住玩門廣得蒙眠然至幸二二前者從蔡塘回舊花竹藏脩已得許諾又張萬戶處有洛神賦後第二者并望用情求至不勝拜賜不宣四月廿五日孟頫頓首再拜

趙魏公心腹帖 行草書

孟頫頓首之足下數日奉仰殷之疾大作行慈珠甚令親至得所惠書知安善為尉不可言付至西洋布及柑惠諸物一一

也外承潤筆之惠尤佩厚意感激感激草草具答不宣孟順頭
首再拜

趙魏公懷想帖 行書

孟頫書致明遠提舉懷想極寒許惟
動履勝常茲有桑毛一牽羊物十封朱橘一杆奉呈十柑專候
驗納聊見微意一笑留之幸甚不宣孟頫書致

趙魏公遠賜帖 行草書

孟頫頓首上記教諭聘除賢親坐右孟頫頓承遠賜杜顧至以
為歲別後伏計天候膳常近者王宅剡事專屈即忘僭為守判
一帶水根井當成書 卷為二十九之六 十三

旬日前方來經事託其代申而已就有金魚十尾筍子一樣菜
毛一牽米粉十石柳見微意笑留之幸甚不宣孟頫頓首上記

十一月十一日孟頫頓首上記

趙魏公鄉人華昇帖 行書

孟頫記事頓首再拜廣訪監司相公兄門下孟頫近拜答後伏
聞日昃龍候膳常美孟頫託賴庇得超有漂泊人華昇所同
菜間今欲投再仗台光望吾兄以孟頫之故淨與主張改正
如小弟受賜也此泊會晤專候尊重不宣九月十五日孟頫記

事頓首再拜廣訪監司相公兄閣下

趙魏公與中峰十二帖 附管夫人一帖

中峰尚尚吾師事者孟頫和南謹封 趙 西 未文孟題名十
頫印 一帖封署俱同

孟頫和南拜覆中峰和上吾師侍者孟頫歸白吳門得所惠字
備審安隱深慰下情示諭陳公蓋志即如來命鴻付月師矣
宗弟子趙孟頫和南拜覆 月師云吾師近到激念而弟子偶
過是門不得一見不勝悵然

孟頫和南再拜中峰和上老師侍者孟頫泊俗塵中每蒙尊
一帶水根井當成書 卷為二十九之六 十四
者不棄時時賜問頫性何者乃爾過愛如此當不是前世有緣
故耶近一兩月幾至不起得飽居絕理方似小差然眼合未
復常氣力微憊憂之深至於死生之說師所說柔順者固已知
之矣感師視海情何敢忘蒙寄示滴跋粗皆是禪味殺頗莫
知所報何時回草草謝奉不宣孟頫頓首

來知過體安隱慰不可言茲有少菜薑杭州報國寺在僧內中
為通謝

弟子趙孟頫和南拜覆中峰和上老師侍者近數有人白山上

辣宇極大去歲九月火災正存三門豹足稱雄於諸寺直以大德訢老住持欲求大和上信筆一疏深欲持以為師復之計弟子與訢老有之字之交故敢干聒方盛暑中不宣語者無數度老師必大厭之而孟頫又復百端請亦惟其悉故耳唯知之而曲從之幸甚感甚餘惟珍重不備弟子趙孟頫和南　六月廿一日

弟子趙孟頫和南上記中峰和上老師侍者孟頫侍白南遷何商商專道卒哀痛之極不如無生忘者去逆三千里覆柩東歸與死為鄰年過耳順罹此荼毒唯吾師慈悲必當哀憫蒙遣以一帶水裹神宗寶幸甚　孟頫二月廿二　元

中致名香之莫不勝感激但老妻無恙時自有普度之願吾師亦已允許孟頫欲因此緣事以資超度不審尊意以為何如又聞道體頃苦渴疾不知能為孟頫一下山石若仁者肯為一來存沒拜德不可思議以中遲遣具拜復表成不能詳悉侍衍師照不宣弟子趙孟頫和南上記六月十二日

弟子趙孟頫和南拜復中峰和尚師父侍者孟頫白老妻之亡傷悼痛切如在醉夢當和諸幻未離理自應爾難時蒙師教誨到此亦打不過孟是平生修持之助歷世年一廿二哭之豈特失左右手而已耶哀屬之極如何可言惟蒙和上深念遠遣師德賜以法語人重以序章又加以祭文亡者得此固當超然於死生之途決定無疑至於祭饌之精又極人間盛禮尤非所宜蒙存感戴不知將何上報師恩雖亡者亦已感銘於地下矣惟是存歿之情不能無望於左右之而曲從之幸甚感甚餘惟珍重不備弟子趙孟頫和南　六月廿八日

弟子趙孟頫和南拜復中峰和上老師父侍前

草具字陳仗下倩筆承嘉上人下訪特為遠書寄即日道體康常保用為慰又知以中十七日方登天目所謂普度功德此乃先妻願心必須為之但日期未敢定臨時又當上稟丹海仰雖有登山之約然未可必外承指示世事漸遠宛若幻化此理臨快夫復何言但幻心未滅隨起有不能自已者此則鈍根俾未盡入斯消散耳周覽經南有三章未果一得躬手便當重上人恐拙愚不堪人板供唯師意教不敢久滯嘉兄弟此具復餘惟慧珍重理不宣孟頫和南拜中峰大和上

老師侍者廿二日

弟子趙孟頫和南再拜中峰和上老師侍者以中來得兩書投請如對項相感最感念不覺度流孟頫與老妻不知前世作

何因緣今世復成三十年夫婦又不如因緣如何差別遂先棄而去使孟頫栖栖然無所依令既將半載病未定所以奉養欲得師父一臨以慰存沒之心耳今蒙論以病惱之故弟子豈敢復有所請賜教普度務之情宜仰慰悲憫此事度非以前必不能辦一則事緒紛忙二則氣力難辦已與以中子細商量孟頫東衝房屋完備就彼修設庶望山靈川祇方隅禁忌亡者神識冥報之等皆洽福利耳想老師亦必以為然也閤老師有疝氣之疾已焉方與以中恐可服也嗜此拜復周覺僕再為約并乞清照弟子趙孟頫和南拜

謝丹藥之惠言不盡意想蒙涼察南後漸涼山中氣當已爽伏惟道體安隱孟頫仰先事云亡凡事切知所指幸時雅子種種用力稍異照領日來憂服食粗佳但衰年無緒終是苦惱小兒時去來衝峰治葬事客有次第擇九月初四日安厝勢在弁旦日起電臨臨處躬詣大室拜位尊者為先妣設座拈土亦想師父舉常憂念之篤私心感銘授記先妣永師父所言所念字字所付話頭未嘗頃刻忘今日生此寔是可憐師父無奈何只得特為力疾出山庶見三生結集亦一時偶然今合之葬緣丹弟子本當親去禮拜而老病不可去矧今小兒去又以喪葬事擾草於一帶雲巢卅堂義舍一時大和上尊者尊前孟頫和南拜復中峰大和上尊者尊前孟頫近奇拜書

弟子趙孟頫和南拜復中峰大和上尊者尊前孟頫和南再拜中峰和上老師侍者

一帶雲巢卅堂義舍一時大和上尊者尊前孟頫和南上復中峰大和上老師侍者孟頫和南拜上狀惟秖駝觸熱伏計道體安隱孟頫五月十日老妻忘厄一如前狀今千江卷主特丁艱日度一事只作一書夜日滿法筆

一帶雲巢卅堂義舍一時大和上尊者尊前孟頫和南上復中峰大和上老師侍者孟頫和南拜上狀秖駝觸熱伏計道體安隱五月十日老妻忘厄一夜施十燈十解每二時宣禮法華懺法四過不覺秋風等重殷勤拜德宣有已哉因幻住道者上山注附起狀余惟珍重珍重孟頫和南拜上

一帶雲巢卅堂義舍一時大和上尊者尊前孟頫和南上復中峰大和上老師侍者孟頫和南拜上狀秖駝觸熱伏計道體安隱孟頫五月十日老妻忘厄一夜施十燈十解每二時宣禮法華懺法四過不覺秋風等重殷勤拜德宣有已哉因幻住道者上山注附起狀余惟珍重珍重孟頫和南拜上

暗無策可免難吾師直大語妙不可以此為比然其疫於應接
亦豈不然耶和上既各入山在孟頫筆使未有望見顶相之期
為之悵然殆不容說又未知先妻無恙時分痛時字旁生曾有普度之願
滿擬和上一到來衡為了此緣今既不然只得請平江主且事
若其他人孟頫集要信想和上亦以為然也聞有便草草具
復臨紙不勝馳情之至山深林寒地多淡泊惟乘珍重不
宣弟子趙孟頫和南拜復四月十二日

弟子趙孟頫和南再拜中峰和上老師侍者孟頫跋以久不止
狀倒閣苦屢疾之深助耿耿體亦為老病所纏眼今日
復臨紙重感戒師道昇商量甚重無人人事擾擾不能安靜
題跋石交重感戒師道昇商量甚重無人人事擾擾不能安靜
長想戒師亦思相救專思話頭但提起終究用道昇與良人
一瞥山根卅堂藏書目 卷第十二集十七 三十四
成器無住況大壯來秋兩書第二書投以中示寂不覺天摧孟
平生荷以中至為相愛今其長住固是無可休悲但人情世事
自不能已耳和上年來多病恐亦不必深惱人誰無死如空華
然此不待弟子言也惠茶領次知感因大壯還筆具答時中
唯珍重之祝不宣弟子趙孟頫和南再拜閏月廿日

管仲姬與中峰帖

道昇和南拜復本師中峰和尚大禪師法座前道昇別頃相
動是數載瞻仰之心日積不忘年時得以中青生來都如見師
又尊顏備審道體晉安甚慰道昇手書報若經報禹先父
人與道昇祖上父母兄弟外祖祖叔伯叔及一切法界含靈莫限
三立是書領皆得早生佛界此乃良人與道昇心願已托以中
兄先代知師久大和尚今春僕回又拜吾師惠書及心疏道昇
等拜觀如心加領良人見之生歡喜心尤增感佩我師如此大
恩何以報謝不能一切衆生是道昇等之世師父之恩何以報謝不
恩今日的便特拜此書報安更乞慈保愛不宣六月初六日女
弟子管氏道昇拜復和南

趙孟頫等九事祝允明楊循吉重其昌六跋見前

趙仲穆復四忠札

趙雍和南復書四忠講師道契兄座下雍別後不得音問動
靜而白杭來者每蒙寄聲皇恐感激無物足答人至得翰墨就
奉道能安忠觀不可言人有遠祝孔某九鴻感戴但愚札不足
稱清致耳謹奉復書未間唯與畫清愈理不具備趙雍和南復
書

趙仲穆所忠翰墨帖

趙雍頓首再拜復書承清相公專與兄閣下近同成伯員郎中
一卷此根卅字成十日 苯魯三九二 三

便才 旁注十六日早四字 方附左轄一書兄長一書午後李總領來伯所
忠翰墨備悉意雅不意慶門忽復伏審光相公無病樂業寬
悼不能自已恭惟孝心純至來詢奈何即當躬申物之誠冬午未可言還期克
李總領謂春書暗伏表德以襄大事不得趙雍頓首再拜

趙彥徵與衡唐札行書

令早擬欲專造緣執事昨晚云大尹元到設令所以不果再專
候舟從之來臨耳不然安敢坐待以速罪也伏希諒恕不具趙
麟拜啟衡唐彥徵居先生 衡唐先生趙麟完

六藝之一錄卷第三百九十七

歷朝書譜

元賢墨蹟

蘇門材叔餞帖 行書

公楊記事上復義齋宣慰相公足下比承訪別殊用黯然明發
遣小者造門叔餞則尚有先登矣杜頓趙寵有賡酬遊鱗之
此連遍胡為來哉岸嘉之餘喉與量停聽除書天當別控賀
章也帝城書不能子況得報即以緩達何當晤老臨楮奉不

一卷此根卅字成十日 苯魯三九二 三

宣公楊記事上復夏五月廿四日

方萬方台前甚多帖 行草書

回謹呈吕居學士宣除尊契家丈同枝台前甚多旺業之
人始來取答字口所稱執事之貴為令閣叔之同氣有家産之
以曰於曹弘齋相契而凡百公事法不殷千預於叔之有司無
所施其巧也千萬勿罪幸甚百兄走筆他不暇及不宣 右謹
具呈大德四年閏八月初三日四呈記事謹呈吕內機學士尊
契家丈

鮮于伯機權波羅蜜帖 行草書

先塋圍墻急用四獸像欲求寺院加地厚大方磚五枚法師或有之不知思淵子可以下一轉語否檀度罪垂當行所當為事不必吝也呵〻拒頓首思淵路教翰擊先生八月廿六日

高房山眠食安好帖

克恭頓首再拜仲實賢昆閤下別來伏想眠食安好為慰區〻輒有少貢故鄉劉先達先生飽學老成今春留家兄子安處授徒令江西何參政專書敦請到彼授館廿四日卜行特求大手作一序贈之以見交誼遠望慨然不勝感激專容面謝以託未悉仍冀為斯文自重不備克恭頓首再拜九月廿二日謹空

程雪樓可人帖 行書

文海頓首再拜月庭教授學士足下海康未路細想可人於千里之外新春使至故意何長開以慰良摩不薄遠況豈足以慰良摩不薄遠況豈足以慰良摩不薄遠況豈足

所倚堂上竟以微疾奄至大故聞訃驚怛罔能自情然壽世以
與節終始有子克盡孝道為時良二千石亦可無憾九泉矣銘
文見委義不得辭屬體中畧苦風寒而來使以河冰不能久留
未免力疾屬稿且縣鴈約去與於發潛德則未之有取也遺貺
口言之自有書奉答銘文中為字有欠筆別箋紙末專庸鄭地
來使趣行當行駟使使納上來使勞中統一定

鄭善之職來帖 行草書 風紙縱本

一帶雲根神宗戴書 卷第三百九十二 四

杖職來後宜學稿之也文甫亦自供棚寒之勞他可想矣此書
自新安發悉慶長已過宜故特作此吾妻兒事附心小住而下
安為住書中所言同知之說吾妻自知之不必言

鄭善之杖錫見過帖 行書

文原和南上賢叟長老禪師侍者去冬承杖錫見過極慰久別
之懷區區一病年餘仗庇幸安但起居飲食尚未復常作書輒
日昏脫筋故筆硯久廢塔銘已藁就今小子寫去贊語併呈

似珠愧未工耳何時來使到杭相與領例珍重重不具文原
和尚上

汪國良假舟帖

從善頓首拜復居竹按答提舉之几從善昨承惠書燕有佳貺
謹依收領所有假舟之事四月初可遣一介來從善不久在初
七八日間可起乞知之如舍雲而投舉望通拜三意是幸人回
草此仗希照亮從善頓首再拜二月十二日

峻子山十二月十二日帖

康里巎頓首再拜秀中管勾賢友足下十二月十二日舍手振

一帶雲根神宗戴書 卷第三百九十二 五

宣使至得教字深荷遠懷之至申問見詩實是下心然亦自有
公論也於此足見足下篤于吾昆弟至深不肯性多吹盛耳不
知來春可果至都不付下棋枰悶等容已領此特請家兄使想
已達度賢友不必喜也此間公私皆望家兄早來閑報吾兄知
之一書一節克明甚是用心緣不肖小女病 下添四五十日竟
今何在何 生進去不略思塞
及身常有微恙不能與克明相見近月半日來方出當與
彼論之後使來報未由奉見頓盡珍重理令周人使草草不宣

康里巎頓首拜十二月十四日書 諸般雜色素箋及建連付
來些小為稿銀朱亦望惠數兩砑為印色此中者不可故也庸

中管勾賢友足下　康里巎巎謹封

慶邸巷與總管札

集頃者再拜上狀總管大尹相公閤下即辰歲事告成天地方
春攄頴皇華之節尚奈白雲之思神明夫狀度旧清吉集今夏
復過姑蘇不能少候弱氣之遽已覺悵惘及承珍禮乃知遠及
惠泉重重不敢之辱然而千里明月通夕望星何異照對顏色
也亭中清話秋仲閒省自上京還方面及之節次書已達酬酢
不復贅貌伏辱任置造沈信齎神用不勝感激惟與弟兄昆仲
遊四方先能寄彼動輒媿引時歲無由一至托此於一二鄰近
一帶雲泉井亦足賞矣多之之　　二

而已而食不足賠給今聞此稍慰甚望則集可以少行其情然
則閣下錫類之仁何可忘也引望陳謝未究下忱之萬一惟冀
保嗇方今龍飛御天求賢共理有若閣下治最久當簡在行屬
大用庶伊朝夕集雖不武尚能決策來贊謹奉狀不備集再拜
狀上

慶部巷奉記都運帖

奉記都運大參相公鄉契大別企仰之萬一永覽幸甚集頃
首計相淮南重幔帷海上還頻領智囊周慮及疫屏翰鼎
公早計歸畊自得閒常携相贈策狀老向江山

集至道出山見餽紫巖開行道使華之國當以舊吏瞻承風采
當此附此起居紫巖玄門耆宿之士退食之暇必能少役清靜
無為之論進為傾企甚又拜二月五日

慶邸巷不及入閒帖行草書蓋紙末

集頃者拜牀伏審博士學士榮上通苦創不及入閒奉賀千
萬中難案更告為請恨一二日拜鴈多矣集頃者再拜丹丘博
士公左右

杜伯原與本齋札

一帶雲泉井亦足賞矣多之之　　七

本始自升拜尚書相公本齋先生文侍舊誼幸易晉拜旌麾之
下序鴈與原味相續仰慕之心實賜頻頻理意深重何以克
堪惟保愛為國為民多賜指教之望也集衰止百神衛護以士民之望
堪惟保愛為國為民多賜指教之望也集衰止百神衛護以士民之望
大倫鈞極之生甘本醇以正和於抱方開江上有沮遂自奉與
江空晨時西帶二月初旬重哭門俾會季野舍人同列金井山
中瞻視風物為宜大氣磅礴雄偉超閒相合謂為福壽之基當
頻和諸名公所論而鄙淺之見尚有可疑者益人千山脈直下
稍長則來氣如馬偏指加轉換處合古人指高益下趨書遲山
之說必於如閒下龜蛇之北山盡水聚生意蓊書則未能悉

其造化之妙小非面對不能詳盡惟高明裁察而內人便諱奉
起居以致謝私并脫慮其一得之愚無率伏祈想亮餘惟為國
家衛愛式副對揚不備三月十八日答吳中杜本頓首再拜上
呈

黃文靖手札

公望頓首寧極路教先生閣下近侍論談終日歡甚奉違後進
日不免鼓渴心又將塵矣特爲欽未大手臨黃庭樂毅論二
帖以為矜式雖天寒暖閣春溫想不廢執筆也片楮代柬統干
心照公望再拜寧極路教先生閣下公望稽申
一帶雲巢仲冬廿九日

江尚書手札下及帖 行書

澤民頓首拜復季實博士鄉彥文侍王善夫至手札下及借故
足仍不忘隆寒遠審北堂壽福綠修悅愉深用慰悰新安素稱
名鄉賢建堅出紀諸史冊可傚也何期屠盜一至於此所
不忍聞往事已矣天佑此邦得精選新牧下閩

黃文獻兔毫帖 行書

君比承遠賜海墨及新茗之貺之便未由答謝法厚珍農與鬼
類之患尤用嫉悚第以大閫專使一見即行索報甚武奉帶
誰尚吞刷狀以既所欲言皆新恕參不備三月五日潛代簡拜

歐陽原功虞雅公文序簡

玄頓首再拜伯益司監相公仁契玄去年
奉書一通凡下否春和動止惟履侯勝常珠府虞素書來知到
虞先生文定見高誼所序當求名筆乃得意詠切不敢力辭
因使軟首專去到成千萬見恕一本為感錢錄遠乎閒之請卿
里距貴治稍近專容修筆牘之教未中性順序善在不具惟垂
契歐陽玄頓首再拜二月十一日謹空

歐陽原功與季野札

一帶雲巢仲冬廿日

玄頓首再拜季野府判相公友仁玄於左右雖隔而莫睽甚
劇永清相公實有一日之雅向歐克肖契誼不殊相望千里
之至情觀對悟有以也夫近者季追盛雅以清獻神道碑見屬
既而傳旨下諭不敢以病憊控辭已總稿付季恵令閒託張德
常轉達第洗兵後涯憂百感文集何能發潛光之萬一太湖多
善碑材刻成一拓本見寄為幸德常附海艘行到亟奉起居
草率奉干台聽容面欵歐陽玄頓首再拜 季明照鹿同致再三

意玄又白

余延心兩得從海帖

閒再拜啓史館兩得從游喜勝榮幸適區南行又辱盛餞尤其
感烈也鄉暑伏想文苑優游雅候動履多福良慰慰友人趙
子章北上觀光謹此附謝子章有學而能詩作公時時當價增
三倍矣仲舉至道以聲景先中夫希元鳴謙諸先生處不及別
狀望致下忱為感餘惟自重不具五月五日閒再拜文林內翰
先生閣下

書雲西文訊帖 行書

知白手書拜記南金放校學士講下知白稍不交訊已極傾依
兩日前復齋來知動定頗悉為慰且休與伯暘取為雅業尤感
一帶雲衾神宋義書 十 文多 子七上

令岳母傾逝夫於道奠在築伯蒙處使謹附短書以致區區遙
書臨上統鈔廿兩少充賻賜之儀望勿以薄鮮而為焚白是幸
人行亟不及詳具草畢祈垂察不宣知白手書拜記二月望
前一日

朱起山龍瓶帖 行書

朱起頓首再拜龍泉先生文行久不致書又而翁仰之心常為
之東注逖跋心通與不以此為問也閒居中偶有一事奉晚向
者家下初析之時有官窰山龍瓶二枚思與白弟各存其一今
欲以山龍瓶一枚相易倘無殘為全壁可否試一言之乳致微雲

西居竹二親家草草不誥朱起頓首再拜 近日吳中學哥書
殺十種其金根不復武故事等書皆范石湖家藏其所費不勤
文

鄭明德溪游帖

德元學士佳公子侍次前日盛氣到溪湖欲以稍許不平不意
從者方為令弟合巹珠煙總總不得 盡其所欲言明發到西塍
巧值清虛居出只得盤桓留以俟其歸鄉廬兩記見屬許以白
案使元祐得挂名當學與忠義之邦人均於不朽則記雖無潤
筆亦誼在所當為今不消無與而題考不誤人須當摩其禮以
一帶雲衾神宋義書 十 文多 子七上

見勞不然則元祐豈未石也哉以故專書上請元祐令見留西
垣若有謝意即望遣一人來庶幸消泯不平賢主賓俱不失禮
於野老也令高弟仲端尤為謹飭之士試以元祐此情言之仲
端亦豈能私於其親也冬寒惟孚愛不一一嘉定十日鄭元祐
肅拜謹記

朱肇民來翰見答帖 行書

德淵頓首再拜得孝實教論即翰學宣陽春中王建善山長過
吳門奉書云去承來翰見答乃知文旆尚留寧國方望南來具
寫候康勝且有玄黓之患領外多感今就封去畫大小四軸

郭忠恕雨圖雙軸雪寨山行旅幅計道軍幅二軸 至望清
專此以復將命餘容面既不宣四月廿一日米德潤頓首
再拜
蘇西坡米芾使郎帖 行書
大年發政德常判府相公先生侍史副來未獲使郎有玩申詞
之儀且聞離練川時久老居民送者填塞扁舟奉夫親戴琴書
親然而去豈不高哉遐想視政供養之餘神相起居多福何生
幼而有志於學文慶州席諸生之列來問讀書養慈
之計輿有遇焉先生思所以處之餘希文照不一一具白十月
一旁只是中心一表了 天高二尺七寸 七二
廿八日蘇大年拜
頓定之雪川奉別帖
雪川奉別忽又半載其如馳仰何時秋暑可畏人回當又候訊
遠為屬不肖塊坐菜山盡足為道法帖承出借金定未至
極令人瞻企耳欲就城扶翟倉受合當望吾友依數付去者來
為感非特足下至契直敢如此平脂千萬望賜發來如受也一
也執甚草草不具頓安頓首惟照茂才從君賢友足下
饒介之抱疾衡門帖 行草書
介白抱疾衡門忽辱車騎杜顧蔽牖顏色殊歷久懷復一集亦
足矣第以不能走謁為慊也年物秋聊以為禮雖不足具
人一供衙物以時而留之甚幸 平清麗幹俊而雪不具
介再拜白士行閣士先生侍史廿七日謹空
饒介之琴幹帖
琴幹望力為取成就此琴今日所見諸物宜留下餘已送去煩
有寬解銅錢惟明日送去草草介白事性允卿姻畏友六日
明日有使往杭州若附一書與為佳有此
便殷勤不一一廿四日介白事性允卿姻畏友謹遣
朱仲振班李京札
一帶雲樹堂義舊 卷高二尺七寸 七三
奉別百上記季京郎中相公契友閣下奉違聒言已閱數歲比
聞使驭上三山春又湖在城林而一官羈束曾無少暇
區區眷戀適近又承之胄監榮頓日侯吉歸來允其貧而無子
猶故吾也僕消息參從之迎豈意有此為之扁心況事足
至孤其奴天之恨當何如也尚在以人生有數少自寬解為禱
季野令兄相公如會為此名不及頓首惟照茂才從君賢友足下
動以年期惟珍攝自愛前即遠不宣中秋日老蛟張耆頓首上
記
楊鐵崖侯客雲間帖 行草書

維頓再拜奉復理齋明府相公閣下僕客雲間每于別駕顧公座上談及州縣之職惟敬摩俗愛民禮以加士石明允以平獄訟未嘗不以閣下為首稱非特為吾道榮實為世道慶也未幾文伸錄到先賢祠狀謁文為志於是樂書其事實補盛朝缺典伯融涉海來出書稱謝無有悃愊之禮登領不勝悚愧文齋真樂奇子嗣家繙筆付文伸的便送上也伯融回舟其速不可留姑此奉復不宣十月廿有六日容松庵主之抱遺吏楊維頓再拜理齋明府閣下

楊鐵厓與德常札

一帶雲根坤堂藏書

八月四日老鐵拜上德常相公先生康候閣病之力不能接對今日體力稍服急老齊吳讓書法與公協之欲打參情而有後游不期之約惟有冕死地而已其情可哀今令假老夫一言欲相公稍抑一案為來官救護之階見公賜可其北事不徒協東海市作相公事日益多相高不倦 約絲一端 羊一牽 生魚一尾 果一筐 酒一樽 友

生倪瓚再拜

倪雲林月初帖 行楷書

瓚再拜久不承教言惟深嗜詠比來想惟與養侯安康閤學生體中小不快遲失迎候月初參冊往也九月中間許公令乃嗣掛無日不動秋氣凉冷不審何似伏惟隱居尊老德道之樂神相德人百福萃止欽嘆何限瓚之月末忽感痛下庶幾旬乃痊近又感時行以道誼之契輒有流連奉正一子入戒美使知所趨向以為性義之歸不可不慎其始也奉正者敬致一言於左右能俯從其私情幸甚詳曲當別奉書以聞紙此月到館中為使也倘趙上湘高明惟有味恐仰冀恕亮不備頓首再拜 海秋卷圖旦晚脫摹畢即奉呈

一帶雲根坤堂藏書

二大尊漫上九月二日瓚又空

瓚再拜奉書惟稍屈先生執事霜寒伏想尊履清福奉正胃脘迎秋令月十八日開私塾招延先生講授其中謹預於十三日敬致少幣禮於執事者至乞領意幸甚不及作啓陳情惟希相高不備 約絲一端 羊一牽 生魚一尾 果一筐 酒一樽 友

生倪瓚再拜

倪雲林月初帖 行楷書

瓚再拜久不承教言惟深嗜詠比來想惟與養侯安康閤學生體中小不快遲失迎候月初參冊往也九月中間許公令乃嗣掛

至畫軸而跋于適不在先生來館之日幸再約之同一來十千
萬萬足慰以冀自揚蘇絡勉自祖大宇王書杜詩見示迫問之
云是宋孟之家物幸一扣之先生或與就帶至也瓚事冗煩俾
罪罪謹勒手狀不備瓚再拜疑上慎獨有道先生執事兄瓚足上

倪雲林三印帖 行楷書

瓚再拜久不承顏色跧情比來想惟尊候多福冬至三印文甚
佳仕幻處文益大不欲持去略不許惜孟若烟雲
山到借一閱幸甚餘俟新自江上至奮一匣漫上寅吻悚悚
一帶山長水闊安知上知員外相公執事初九日

謹勒手狀每三不俱瓚敬
倪雲林竹屋帖 行楷書

瓚啟昨日承竹屋飲後造謁陶令有云回忽多謬誤君當恕罪
人者耳書約今早同惟寅到田舍蔬取適所滴未可起丁為兄
所迫待其久起亦即過惟會堂遂不敢再速亦恐安素坐早飲
甚早料此時必飲花更加二何鳴蚤八枚酒一尊幸執有手頭一何鳴蚤八枚酒一尊幸執
事平列舉一杯酌惟寅也笑作日見仁儒過田舍時頗有雅色
僕亟辭此物可有可無之再非若圖書墨研不可少之物耳僕
平日甚不喜俗人之交以法已之欲僕之手一切珍玩所謂寫

意而不留意者畫二既久為人悔易持去略不許惜孟若烟雲
之過目也仁儒珍物僕得一玩足矣吳以博易為哉二日當
云是宋孟之家物幸一扣之先生或與就帶至也瓚事冗煩俾
罪罪謹勒手狀不備瓚再拜疑上慎獨有道先生執事兄瓚足上
謹空 慎獨有道先生執事兄瓚足上

倪雲林與良常詩翰 行楷書

閒道淮安之任去尊君令住故乡家求城又鼓吳松杞好過吳
松弄釣車 此間從者來吳城旦夕之官淮安便往吳淞迓尊
君矣舟經笠澤能一枉顧否因令弟候棋便君之使輒成小詩
以寄倪瓚再拜良常明府公執事

謹呈瓚廿五日謹空

瓚再拜春秋淮履佳展賀村野衆人不出每昨有
敬字與令似相會過日晝迎倘要用當走去無用則已來公竹
枝鄙爐小中倘有之希專以見惠無則不煩也玄度入城何日
還日為致意理承候不具十一日瓚啟良當先生執

事

至正辛未十二月廿四日徐常明公自吳城將還嘉定道出甫
里根柁相就語倚仰十霜忧若湯世兄留信宿夜闌更秉燭相
對如夢寐者甚似為僕發也明日微雪作寒戶無來迎獨與明

公道堪者除陽江望天平雷岩諸山在荒烟遠霧中攢綴出
足保約如畫唐上疎林楊柳似我容髮蒲二可憐生不能滿百
其所以異於草木者獨情耳年過五十日覺死生忙能不為
無舊事而說遠情予明公後命書江濱救寒之意并書相與
雖威恢之情除德常本為桑定同知於民有惠政即昔日之良
常山人也末陽館主蕭問仙御倪贈言

倪雲林與玄度札行書

增承示答所云無以奉大者又云為厨傳俊又云年向侯請俊
吁可嘆哉所謂疲人前不得說夢也前之言直戲之耳見以見
一帶雲根卅宅[illegible]

[illegible]天多二十五十二

吾子之儒思罕出人山寺即過我相與話言獨頂首殷玄度俊
君

先仲說與慎獨詩簡

來林蔣尚試新書中有松花膩粉香豈送頖川珠有淚書齋滴
銀豚茶易 廿八字皆一筆寫兩奉寄上惜不多耳楷試齋文
摹不曾收得所謂芍藥居只是用惟帚塵搜者古人稱牡丹
乃木芍藥白居易有詩石上張摹此盆亦木諸此未審是否

吏乞考正之 右再拜葉恒獨先生坐下

沈仲說與叔方簡

唐虞以盡不備性拜敬文月文日謹空

李虞敬不奉論益帖 行書

訥頃肯再拜仲寶翰學先生不奉論益帖 行書

想日來文候起履清適是喜區宇職祖道惟應周之貧民不能應永是務此憲此慮所如之何哉外不煩道谷惟與先生九可以救我者勿惜札示以匡不逮以附鄙懷若斯文交情之至不備乙未月既望越五日河南李訥義拜手仲寶先生前

張天雨玄洲懷古上敬伯清提舉相公行几再奉書問知前信已一卷 行書 共六行 二

達先記中題赤壁圖并寄仲舉諸作皆未及見似為守中事之

吳時論玄洲詩荷公假貸之久誠出于不得已竟成論耗負何言深重二軸元帖奉還尚容暇日盡呈唯祖休是賜如照況深復何容喙

末賤鄙以居疾作伸吟倦卧人事俱廢當此時寧有閑游興二事哉雅弹領惠殊感待怡伊邇感固叙謝不宣天雨稽首上啟

應朝書譜

明賢墨蹟 啟札

宋昌庆與儀靖札

濕暗庸再拜承書儀靖老少執事康伯丁已春蒙恩放歸林下適為疾時舉夏秋春庐山中山色泉聲之外絶所見聞恍若世外人也性足下相思之切每一念及輒欲命駕詣叢時所惠書如覩笑神攸慰恭刀日猥良晤未可以也旬之遇山中云有京口之役是必由仁里況致一函并近詩數篇土物四種聊以寫心伏冀惠答自重不宣九月朔日承務郎日本康端肅奉啟

宋仲珩敬夏札 草書

近敬夜涉日數日便覺氣適頃生第來知何時可見昨日會未暇酬以居疾作伸吟倦卧人事俱廢當此時寧有閑游興令姪女高遠伏富尊侯幼稚為慰潛虞外集望即枝的當人文是事勿忽滯想夫等雖舟也須相想人何時可到逝五滅之鉅虎悉不知幾時可定否此亦有定數耶何燈下草草不能詳盡尚容面既四月三日遽敬覆

秦平仲勤荷卷念帖 行草

伯衡端肅復書孝實隱居先生就事罷令致承教如荷眷念之
孝且篤入冬以來起居住適吾慰不可言書堂記向其葉奉上
正欲求正而不示以一字相可否何現外也蓋辱命不敢固辭
謹用寫去適沿行念之界畫字皆謬望恕之盖僕已得告
歸有度來春可再到此耳傳道意有的使幸易其此申謝節帥
侍就納去之本向日請公不曾入板倘同字校正而後為之所
以居其來也伯原友兄來侍并望致意夏章者已同行矣希知
之未間萬爽以時加愛不具伯衡端肅復書

呂志學祺漢奉別帖

敏叔采漢奉到問吳中相見久違隔懷正深上
竟成茲也再副兩書如未得教帖殊慰眺望吉公老雅鑒復
審起居安穩古心事已諸必詣報區區亦附問訊道重否耶生
青卿本去者主字改二番轉求行翁相公錄書必承與令意諭其佳意
書也丁寧寫為啟名庶免校定豪奪之故藏其成憤亦厚意
復蒙漢陽容就得付文則見來極感盛德可用外封幸甚天
氣清爽重望杜雁來侯上況去秋與何為貴不行耶之則人運
謹勁此草率不悉吕姬奉書惟明教校先生契家足下十月四
日

王英端肅書奉東委行部學士閣下恭御史還京至草草
奉狀申謝并致意問中間諸老而作之私心猶未能頃刻而
忘南行承賜以書與內相當先生達儀城東高秋斯文朋友之
福過厚如此況遠副千里不接言論不覩顏色如之何不慊慊
於左右也僕居此碌碌庸庸百尚賴示教去年秋及冬此地

少雪擬於神臘月初大雪二日今年正月十二十三至十五日
逢得大雪主瑞沃澗宿麥滋長來儒不穹人皆和悅此先生所
喜聞者敢以報及春暄惟起居清泰恩龍加厚深慰下懷無由
參侍專奉此申悃簡率不恭伏冀亮察不具英暗謹正月二十
日

文徵仲與貫泉札 行楷書

文宗儒與勒卷札 楷書 文氏一門次後

兩辱手誨懇懇足見不忘翁猥也所諭云云僕耐寡高世
也特是衰病侵尋而一向又緊故豪人數即無可出之理蒸以
懶廢日久就令可出亦豈能復供世事也是雅意勤渠而已
一番安裹非計也奉答不盡

文徵仲與東洋帖 行草書 卷八 日

區區此心日暮反衷終不有孤故人之望耳前杜生去曾奉數字
亦悉及此意而不能悉今再申此想能深察也即日伏承日用
甚安春聚康慶閉戶無量前者曾記省示小詞而此度却不見
又并向時所許諸詩克示付之卿茫豈政事有以奪之耶和遂
忘之耶何史明古近文集家累次託僕致意且方侯此以為
後生之期不知公亦當念及否也千萬作急寄付以慰其子弟
之望書安庸明仁恕真吳氏之福恐公赴知愛此附告來人參

文徵仲與貫泉札 行書

承伏紙不腹悒悒惟萬萬若時自愛以副朝野之望不宣十一
月望日年弟文林再拜奉書翁少峯先生年兄執事 空後

文徵仲與貫泉札 行楷書

適來謁謝欽階值車馬紛出不獲一望復鈞甚用悵失不觀松
雪雖作真蹟而行筆秀潤亦當時人所慕或是俞紫芝之筆
也寡昧無識屢商奉復惟萬萬照察不考治生文徵明頓首上
貫泉先生侍史

文徵仲與東洋帖 行草書

入春未俗況朗昨日覺頭痠偶思高齋王簡山茶甚開振明日
奉拜等雖數日聊以清吾耳目先此殷懃諸遲面盡徵明拜
東洋賢契

文三橋與中山札 行草書

連日無以為情小畫一幅聊付薄觀是想不以一人為嫌也茶
併乞知之文悅不欲擾厨傳此草草不盡
兄先生

文三橋與高陽札 行書

昨承珍餽多感但遠來恐是膺客回不意尊尓未達悚仄悚仄改
一笑圖頓昨在小兒處遣人送上不審收否近來手頭稍寬便可服飾鮮
機杼破自用未得如命奈何奈何

美吳人故能多性勿住陳
文三橋題墨林十九札與行草書
雲麾將軍有二種一是李思訓一是李昭道安羅樹碑合希有
一本今亦不知在否區區當有一本是宋搨者向已模糊至不
可識況亦甚難得佳本也適康時魚之惠欲沈珍藏尚谷面謝
不一一彭頤首墨林尊兄
馬遠紙上者約少此幅若在絹上當更見筆力其人物似亦非
衆可觀所能到後題馬遠三字寫得甚好若僞物不及此寫
也且題識甚多而皆名人可愛惟楊仲弘詩不見不知何故積

觀前一幅西湖圖後一幅弄劇圖雖無題識亦是名筆草草奉
復尚容面悉彭頤首墨林尊兄
此吳時得天馬以銅範其形制作精古但無所用之耳部復墨
林尊兄
竹林對奕妙甚且玉席幅陶南村錢曲江皆名人可愛可愛但
吾兄不知奕音恐未深識其趣耳一呎一呎其元人基枰公筆
亦精妙伯溫太樸皆以四體而奕孟思超期晤之篇亦未之者
柯九思康里子山皆可觀但李存及解搨卽大佳耳草草奉復
不能盡彭頤首墨林尊兄

此吳中名畫傳畫之必有災禍已燬於火而南豪富意錄云
已書與他方人雖家君亦不曾見但只見跋本而已彭復墨
林尊兄
二卷頗雖高而皆名筆補之梅花九矣中所摹者收之不為過
也所謂自適其樂何待人言一呎一呎白紫之志珍藏珍藏彭
頤首
四十之致亦非少刻本意緣本主不定耳今以物往可有感云
之理況少和老成文故也五月亦無不可雖此奉復彭頤首墨
林尊兄

此原是黃筌美者前面畫一枝指樹其賦樹和十二帖中最小
者其紙和雪亦復卜六兩但不記後有何人跋耳彭敬復
四體千文佳甚若合作四本每本可值十兩其文賦因紙大佳
故行筆澀滯耳雖非佳品然亦可到者也明後日指宅奉聞也
草草奉復不次彭頤首墨林尊兄
千文佳甚但為綠矣抄耳經物明日送表或得造宅一面也彭
復
此范蘭室所藏也筆法高古全學李北海早間問吾兄無間見
及戲為題語以復耳一呎一呎少閒面畫彭頤首墨林尊兄

文賦舊所見者不知尊意以為何如少間欲赴馬泰江之招當
語一兩不悉彭歌復黑林尊兄
中峰簡是率然所書此則用意耳古人之筆大率以簡帖為勝
冊葉四幅煩作淺絳色畫如大癡叔明筆法可也須八日為我
者以其不經意中耳文敏書要如此卷長為者亦少不在題跋
動手有急用故耳切懇切懇彭再拜叔寶老弟
文三橋詩經札行草書
詩經當為料理否幸附意兩日有與於此書耳千萬勿罪中冬
廿一日彭啟厥建言之尊兄几下 外白銀兩錢五分欲易九
成銀一兩幸就付與專待專待
文休承與秉浦札行書

杭人有回者得題目千萬見示朝來頭疼復熾不能走謁家居
近日所書平文付來一看不盡彭白事墨林尊兄
維摩問疾已領定碟區區所愛未得如命奈何倒盆先歷幸亮
萬二彭頌首墨林尊兄執事
適有人持蔡居讓茶錄在此能枉駕過此一看否彭頌首墨林
尊兄大雅
適有研許生持舊研十許并石軍思想帖從有松雪跋尾在
奚高屋過一賞幸即命駕和仲并望同來杜侯杜侯廿六
日彭頌首墨林尊兄大雅
三卷皆佳品但表數其篆顧類吾家行不然其益思也彭又白
彭啟復墨林尊 其篆顧類吾家行不然其益思也彭又白
此竹只元人耳非文同筆也其上題詩亦類梅道人恐梅道人
臨與可亦未可知也草二奉復不次彭頌首墨林尊兄
文三橋與叔寶札行草書
册葉四幅煩作淺絳色畫如大癡叔明筆法可也須八日為我
動手有急用故耳切懇切懇彭再拜叔寶老弟
文三橋詩經札行草書
詩經當為料理否幸附意兩日有與於此書耳千萬勿罪中冬
廿一日彭啟厥建言之尊兄几下 外白銀兩錢五分欲易九
成銀一兩幸就付與專待專待
文休承與秉浦札行書

杭人有回者得題目千萬見示朝來頭疼復熾不能走謁家居
近日所書平文付來一看不盡彭白事墨林尊兄
維摩問疾已領定碟區區所愛未得如命奈何倒盆先歷幸亮
萬二彭頌首墨林尊兄執事

厚吾兄過愛雅意稠叠何以克當昨又叩揆不負佳期古人云
四美難并吾儕豈有之哥勝惘之所委畫府軍研未游候晚閒
誄上不一一摩祉捐首度凡夫四兄至尊足下　承忠惋頓
悚容面謝又拜　力四分

文子悼與羣翁札行書

黑厚厚誼殊感之承詢家書諒送去乞親付行人回有要緊書
在內萬勿使悞至嗚至嗚家婦已于廿六日分先得一罢不擊
令體中已稍愈知在記掛故敢附聞不尽弟參頊首　羣翁尊
丈先生爰下廿九日

文懋先與凡夫札

商固天色將暝迫于歸舟不得飲聆塵屑良用耿耿所寄李女
校章曾一構思否無端下有而去　冥寂嗄屋　亦不拘之甚或以
孝感不獲其償也賤累一扇乞尊夫人大輝并勿金玉貴之教
下懋先頓首凡夫道兄先生記室

文虹光與雲竹札行書

春間擬過山齋一候閒宅興居而弟世中人未免為俗冗碌碌
不果可勝浩歎每想足下高居市廛塵囂雲不識從何却修
未欲羨欲友人俞養甫托弟轉懇尊兄大筆一訊幸即惠付

悃無能報之報奈何臨楮悵悵專此頓首雲竹妹丈大
人至誼

文語先與雲竹札行書

久不晤晚想晚想那廂建文閣閉家叔已作疏矣未尊公題前
已致意即揮之若無股即求尊公款可也此係公德事
幸即付來手至感至感餘容晤悉弟慧先頓首雲竹妹丈大
人奉宿勝釋

文世持吳門文臂札行書紅紙閱笑封

吳門文臂相失不勝悵快弟後為切令所迫勉就道則歲
云暮矣且欲取道金陵一晤家孟長子也從東官以人重地以官
手教知台旬相念為勤如滿感可知也乃使見於台翁矣羅抒祿
清處脂不潤鳴泉漏應古河方之今乃
高以足同相則又能注作用當不使
甫以即是重疾幸而獲起扶病入閩政事又幸而所托者大半
皆名下領赴試則皆不與前列想為座師所累耳仲展名家高
才猶摩三年未復寂寂當亦以座師故學之不肯重人一笑也
下戈庵於海內求人角於朝端令有志之士無處生活以生平未
不合時宜如弟者卻本無進心又無退志宜惟小草乃類觸藩

青山白雲何所不可自老而自經如此哉此則不免達人
之笑者也散屑清涼野趣盎然未足為喻感姬之恉云爾未能
以子墨頌矣肅吉附謝不盡倣宋新到硃茶兼覓書正痛沖
文昌持與凡夫二札
狗記吳山邂逅今且過二年矣每聞道駕里舍閒相尋恨已後
期杜門益深倏倒成癖台旬間中當不復有此韻流人矣過有
龍樹卷倩濟川欵勤周覽經入石謂不得凍先生是卷的流傳
不勝特為不肖一言為謂龍樹在江楓蓮泛之間為最地淨居
之冠詳具文史所撰記中非但云漫信也故公孝不其作
一卷也來索詩一一領悉俟具來當有以應之奉復也早間有一字
來奚來詩一一領悉俟具來當有以應之奉復也早間有一字

一幅雲根艸堂義書 蔡第書畫之
相問想已到矣暗期不遠統須而盡不一叙下小弟震孟頓
首頓首凡夫足文先生
文彥可與文爵札
高賢在陰不宜以俎豸作早日洛留指大益所施其面目汪汪
萬頃使人意滿一種倜儻至今不去永遠
書路北來相攜疑仍山澗色與名士風流帶成一段佳話
望、陳掌甫過貴邑附致八行奉起居拿有藝人溫然有君子
風宜先生深加眄睞也渠亦感佩甚切從簡頓首頓首文爵世
文先生詞壇 先學正草書一幅筆二箚看合一枚梅盃三

簡偉函

沈石田啟明札 行書 紙本 開冊

昨承降臨辱賜深慰之不當通盛使至專此奉謝所索拙
筆在一兩日間已完色笑有言欲言期在後日一會勿悵勿悵

沈周

沈石田與少宰札 行書

冷庵治黃汝安約先詣宅拜送緣重事有未足處二公得
罪因汝和至設奉達不宣虎岡再拜少宰先生閣下

錢孔周與陽湖札 行書

一帶雲巢卅年舊夢

芸香館晉卿知公先意及之矣但今把高寓其地不能進謀以
之相令永加保護徐氏之能明公可以為之圖矣勿以俗筆
庭衍素勿僕僕命為感要晉卿公門摩主何以酬陶希重輕通以
其意達之令若而晉卿後來僕婦其太多渠云家口甚二藉此
修耕芸香館令一虎踞之加市且令有投效以來者不
平為所不意焉其所奪耳晉卿情來迫切伯祥重體同寅頻首

顧湯洲先生大人 行楷

徐昌穀與惟修札 行楷

自徐州別後消息兩絕始從楚回乃聞執事領安吉相去二百
里許不能為故人具備舟修候可知也友人朱存理老詩人也
室貧如整二老不舉安東湖欲求一詩徑申小柬以整通之冬
盡起朝當迎謁道左幸不緣二年生徐禎卿頓首惟修太守先
生下史四月廿二日東

徐昌穀與仁渠札 行草書

陸稽第六冊自廿二卷至廿六卷者不知在君處或在性甫可
作東往取之付叔英物元桓荷令弼小忌無度否頓卿頓首仁
渠老兄

李夢陽與鵝松札

一帶山長水遠

寫南都年生李延相頃首鵝松昨年兄大人先生台次不肖南
行倘於此年兄一會不意不果今歲不果生今歲二人未承志對教足仍
不過程度中間當示之久思念不肖一節不肖請之不覺淚流
之下也蓋老父此止有不肖一子不肖又別無一子弟可以侍
養南於此定何日是了以此踏志思決留有死之身又不崇先
許將奉之何耶惟年兄三十年之定輔設布之亮必有以教我
也人回草復無由罄盡所欲言伏惟照亮不
具二月十二日寫南都延相頃首

王濟之與鵝卷四札 行草書

整頓首自得告還蘇未有一字詢問左右萬里肺疾比復何如
故鄉風土宜人當不藥而肥實慈慰性多病畏近以修
書日朝退赴館過午乃歸疲苒不能歸又不能外去今何奈何
閒全卿無事不入城理正當爾然則在家相會悉亦少也舊
歲小兒似聡乃亟之憂今年恐改行旦學作文字矣得一厥師
皆之寸步不出門也地遠南北不能以時修敬及復蒙時賜及
甚愧甚愧薄儀一端少布遠懷餘唯倍萬自愛不宣具纂再拜
礪卷黃門親家先生閣下

得二月十五日書承到官起居住安吾聚清吉豈勝慰沈僕此
百凡粗遣但舊苦脾胃不和日來轉甚人事殆廢故懷仰惟勤
敬問殊簡亦惟亮之兒向返頗荼奮所知好學但性拳易未
達寸進幸時賜督教之庶平生知受之意耳京無朝野之學有
山水之適高興所至不憚千里僕固素懶不足以想見崔考之況君所不
問者耶平生抱負當必有異於人者僕何忝言之未由瞻奉惟
萬：自愛不具纂頓首礪卷黃門先生親家執事

南來甚煩執事沈才美遂始克藏謝踈懶之過也計方漏不遠
不知何日北轅日瞻望也辱手教豈勝慰沈其始末不及知得
通報數語疫讀爲快北帝天下之公義也但人不肯爲耳此後

中丞尊親先生閣下

有庶幾三四且在此未知何時煥之法欲頓盛仲過此指點頼重
不知何日得服車檢況是傳陳久者亦可用否予鑒再拜礪卷
不能多言惟自愛善再拜礪卷黃門先生親家閣下

頃承過臨慢去悵悵日來清意何如侯風山門兄病未復兒輩未
所者而內外俗事巧捉日無暇時近爾因仍每或食及未嘗不
面皰汗流也因感仲風山雅存而少親少報萬一耳僕閒素依
無一可意於人學爲時流推愛而風山與僕似有深契雖不言
言而心已許之矣連歲館寓迫日不良仰思顏不承教
公人亦何善而爲僕譚之鞋名爲從學實虛度歲月也僕之屬
意風山非一日矣去冬不避謗責輒陳吐辭風山恢然許允僕
閒語即舉手對天稱慶而交游知者亦爲僕喜此非虛語也詎

意思父子丁時不辰復有今日事體可勝感歎蒙示二帖足多
感戴但一帖有微露舍姪之語甚為之驚駭不識舍姪何故罪
罪於吳山也當詢之負荊兄或知其梁何吝見教若館事必無
可解之理若此字無去脫字矣舍姪有深則吳山今日之難似非實病
矣然二者孰為淨詞望致真吳山當勉為僕一行也　不日
當來相見同載往黃川一笑何如餘情種種容面悉不一一具
弟鈞弟均旨奉復華川長兄先生侍史　禹門兄不及另柬同
此致聲

祝枝山中酒札　行書花箋本

一帶雲根卅年舊著
昨中酒矣今日又邀花下耶開尚如態令同指大家風不須再
促也先明拜復

祝枝山與狄田札　草書

專請令午過舍看種柳樹使此等筆莫殷欺欠僕也萬希勿拒
感荷感荷春生祝先明頓首狄田表弟爰下

祝枝山與子行札

早間承王侍御送紅白江梅二枝特此到宅想尚有動事所
言花餅一用對此先春之景烏能把玩不負之意事若萬宜領
乞降為慰三日祝先明頓首子行表弟親誼

祝枝山與在野札

明日請過觀畫恐尊他出敢此預期勿拒為荷春生祝先明頓
首在野賢林大執事

王陽明上父親二札

男守仁百拜父親大人膝下舍姪易主筆來侍書備審起居萬
福為慰男與妹婿等俱平安但北來遠報其急時兵部得移文
調發成陽諸處人馬入援遠近人心未免倉黃男與妹婿不待
滿期即發舟而東又行李須人押管猶兒輩又不見到令渠買
舍納亦不見寄未知之矣骨肉至情老年懷抱須自寬釋幸
一帶雲根卅年舊著

祖母康強弟輩年富將來之福尚可指望道路近復何如順好
到編修時父母兄弟之憂念錢青溪倫之回草二報安小兒一
冊春覽來能多學大字早晚起居出入之詳不勝欣
仁百拜

父親大人膝下毛推官來　大人果
欲弟急赴京平而祖母柔輿暮冒
往留未能遠離不命之所患也人
生以身許國見難而退其為
不可但於時任出處中較量輕重則亦有可退之義是以未
能忘情不然明亦盡道極喜心力之可為者外之而已人

何依違觀望於此以求必去之路我非有一得生者不相識以書抵男書以既不能直言切諫而又不能去位引事今日之仕為貪乎為道乎不早自決肘舉平生而盡棄與日雖悔亦何所及等語之良自愧嘆文遊之中往往有以此意相諷者皆由平日不務積德徒窮虛名遂致今日士大夫不肯其實而部相指目適又當此進退兩難之地欲行何以答之及已自度此殆歟世益多之故是以名之故是以名之故是以名

無不以之理和遂之始祖寧山引疾還可墜氏血穴心于中
間男亦有難言者如啞子見鬼不能為傍人道矣但自能悔耳
西漢諸老向為理賊立碑輪磨未了今大頌張德功業無慮萬
斯遂老不免禁中參于及小兵興大兵之後禍使
之興只民間但得復元而南始復是自家省領耳時事刊此
亦是氣數家中凡百皆宜預為退藏之計第筆可使詩書世
親農圃朴實之事一應市買立計之從勿使五按銀近忠信惰
淡之賢變化氣質以轉善移惰退步讓人為心未知三
四十年間天下事又增何如也凡男所亦皆是實落見得如此

異時分毫走作不得不比書生拘泥之論今時人
亦見得及但信不及耳餘此事亦列十四書大人決不列之類
但信自己恻恒心平直心近步心當時即知此最能而章句不
果中間亦生病痛待雖無而常有此自天命
不勝瞻戀男守仁拜書 外山中及包頭二封

王陽明與弟行書二札行

比聞吾弟身體抱羸病不脫真念今已非獨人人皆病時
親用故皆亦莫不以是為慮也第既有志聖賢之學
是工夫最緊要處若世俗一種徵逐之事已在第所決不
為矣何必亦至於至今方來始之前亦自多病此殆未必盡如
時仙所說疾病之來雖聖賢亦有所不免吾弟
正在今日都須加倍將養日充日茂庶見學問之力果與尋常
不同吾固自知吾弟之心名亦素體吾意每為俗累所指誠乃
於吾適有之也不久吾亦且歸陽明當攜弟輩入山讀書講學
向日始一歸省同行完養精神重陶德性縱有沈疴亦當不藥
自愈今未能一日而遂言之徒有惘然未知吾弟兄終能有此
福分否也果成去算二念之念之長弟兄陽明居士書致伯顯賢
弟收看

此間事亦九兄能道不能頭二所未念者為汝每賢難矣而習
氣未消除施向甦醒而德性未堅定故每得汝書既為之喜而
復為之憂孟喜共識見之明敏真若驪珠之走盤而忘其價染之
習或成加水之趾矣也汝今日當時刻如此最能而章句不
果中間亦生病痛待雖無而常有此自天命
友為望之孚矣此間新添三四友皆質性不凡每見為棟設法
叔賢稱汝將何以副之乎勉之勉之聞汝身甚羸弱養德
養身只是一事但能清心寡欲則心氣自和平精神自當完
固矣餘非所能悉陽明山人書奇十弟伯顯收看印官與正
憲端書畢晚須加誘掖與藉庶有所觀感也

歷朝書譜

明賢墨蹟　啓札

王雅宜與五嶽札　行草書

王雅宜與子重札　行草書

石湖風景頗佳蘆筍鱸魚想已足下何不拉數仲丈過我

僕聞梁水無橘可顧今日發舟已工行矣專此奉約草草命駕

侍弟王寵頓首五嶽尊先生執事

王雅宜與子重札　行草書

兄菱角雞頭可供也一吹王寵頓首子重仁兄

王雅宜嚮者札　草書藍箋

嚮者玄墓之行知戚等官至不曾來相約山水佳勝處每恨吾

弟不同遊也專事竟何如承遠惠多品甚荷多謝令祖隱居山

中風景殊佳幾時能至即懸冀賜擷

王雅宜即刻渡江札　草書

即刻渡江舊空痴重故不能如命耳奈何奈何此復寵擷首

張玉溪方塘翁帖　行書藍綾閣書畫過眼本

方塘翁便人齎賜執事誌銘及不才何德以承之況賢俊滿

朝日侍龍光何有於山林咏歌亦不敢不自守為知己辱也歲時弧矢聊明公之惠亦豈笑矣何敢有他冀便中草草裁謝不能頓人

乾原幸甚不具七月十日朝散

都穆敬與存禮札　行草書

使節過蘇偶以遠出不得一面殊為快之所云石鼓文等因與

掌後圭盥竹及他碑帖等物固與其銀頗多一時不能取贖明

年夏間欲將數文翻刻揭以傳世此亦存古之志也祠堂之

書儀僕有其　字刻已及之俱急欲祕藏者錄本一校對耳雁

塔題名乃金雁中不可少者如欲留原本乞次第其歲月名氏

急錄寄來幸甚幸甚餐慶前鐫夫子廟二碑及金雁一冊奉將

遠意苦累惟以道自愛蜡月廿三日穆拜手存禮吏部大人老

弟侍右　施千中收碑俱四兩餘二兩約去彼云碑不用原價

可索必增下日令作家藥草却之　餘素

張補之與宮輔帖

侍生張襄頓首宮翰祖禮老先生鄉望秩中東坦至乃承

教劄雅念愧之何以堪之敢之伏讀尊翁遺稿敬之大雅之音實兼吳第一名家惜襄小子未之及見也東橋公誌銘足

以發揚其傳必矣在鑑典誠滿擬使歸故里得接言咲何以獨辭此勞有懷欲吐惟望駐想而已觀泊賤寞如髮辣之過患昨事真如要中不盡不盡　石城先生會間乞呼賤名上覆十月七日衰再拜　錄素

楊介夫長小兒札　行書

長小兒回食後冒風停滯未消後食生冷過多昨日又今日作寫前後共四五次乞斟酌與前一服或先劑一二服亟良馬舍弟明出不及躬造不罪不罪提和再拜陳大人先生門手

藥金一錢

許元復去歲札　行草書

去歲華札盛情雖著具謝然昌以壁報拖亂寫深銘刻而已鶴巢歸時即審起居旋勝乎健予舍孫皆清吉為喜諸兄有書見及者鶴梁至淮被却去竟莫知書中有何頓聞者悵快奈何小弟自去年夏秋患瘧火困劈無聊今春復發靡日夕想望出門戶北性之訂定然可咲將以歎慶付人則家下何所安頓欲賀則無物維顒安命如負故人知已之望

楊介夫長小兒札　行書

長小兒自去年夏秋患瘧至冬雖重宜付之得人著賢許以華老先生夫人諸孫文第出水華公禹京時加意於樸甚深遂以此為獻取姓之相符爾公將南歲其如又夫人之逝遂成一詩遠寄來謝仍已晉云公歸以獻吾兄嫂以見諸者自知所重永傳為一佳話也列手前紙頓一拳之吹有嘶依一詩寄水華公亦妙小閒映窗時有便也左右新有所聞不揣隨筆記示無主

拟文欲段為此中元之日和衆頓蒙溥垂老長兄先生知尊

徐伯臣與子元札 行草

胡行簡有来得謁帚近内令叔事將請益卷先生併可見足下也旅見令叔夏季倒腰疼膝軟不得行坐其狀可憐足下何不勸使得事家調理以安暮年想其心亦非好外遊者足下為之尊堂小僕已成謹奉去想足下日來孝思深切得無傷情否右人以理制情亦是至論幸毋過慮之何叔此近為疾人死喪者再其内人家氏誓守貞頓死夫前使得見心於亦人間大節事何子道義行於妻子此亦可見因併奉知女生称獻忠再拜子

一帶雲根卅雪義書 第三号第十九 二

孔孝子足下

錢君輔承安帖 行草書

侍愛生錢師周頓首拜啓上承安畅骨肉諄複致曲非語言所能盡衆狂似為有孤等急雖出處之際有不在我者每念道壞日是益皆不能帖席耳敗北時誠有小就之意為諸家力阻遂爾改圖緣小道未通姑寓海印寺冉勤收圖再奮強顏與士輩頻仕恐力委氣寘爾君所忙僕再四熟籌乃得良策然亦陳於高明惟高明固之舊事者沼惟君一決新舍惟諸子可北僕已道意更不勞費惟是首肯如僕計老文自能句管僕非不

欲為大馬報力何拘北貝人貝文不敢強力任重以期有道之

盡僕非推避電諒小子拳拳不得已之懷不如是不足以為報効之道即能許僕心曲得出入門下矣南人歸促燈下草二不盡候西樓同更有細說但西僕乞峻拙不為豪髮所註則爰僕

旨多笑至嘱至嘱季夏望後師回頓首

何元朗春中東歸札 行草書

春中来歸談語合日殊快快快但別後同舍更增悵悶耳閣邑中長吏得罪民望此舉亭數百生靈含冤地下實天假之手耳何子道義行於妻子此亦可見因併奉知女生称獻忠再拜子

一帶雲根卅雪義書 第三号第十九 三

祖系梓之法甚為善而何太無盾火之情耶可歎可歎可歎可歎可歎其罪者坐吾鄉紳動輒欲遊長學之名更無有正言以聲其罪者坐歎平老數有在氣想必不說也脚耳以後佳報茲小僕歸師附託冬来一担火欲逸意惟照入幸甚脚中近事不新示知至望春生何良俊頓首

何叔皮與長谷札

長傳頓首長谷先生侍下昨行舍至無動靜極荷哥向之情僕旬十五日分袂廿一日至卅途已叫徽州主事舟行矣一入風塵殊便快擊始知烟霞為真相五樂為假至教必不沈溺以奥初心使准南招隐徒勤而北山移文復俏

也城南新社已結青緣尚頼足下綜理其事以俟僕南歸耳前
與議僕素無孝君事此區區、畢志死而無憾者承足下不論為
當理僕特不能負良孝於地耳如欲若為有如此日但此家
父兒友情多僕去後將為別議僕歸必不能奉命者老兄在
鄉不勝懇懇水東西谷賜行促不及走別相見頓一揖悉民榊
頓首再拜 閣數
字 不盡言言不盡意

陳白陽與東甫札 行草書旧冊

一帯雲根卅雪義書 第三十九冊 二

通家生麥接執事廿八日書展論之餘足見親愛昨日小孫周
歳城中無一字及老夫不知乃係執事失檢耶抑潜有理都回
旬書我小孫想發一笑過筆東通筆二比為屢上候麥谷候
微疾未得參候快快餘容面悉不具旦晩將來裝為城居計已
定後當一晋而去也十日二日潭頓首東注等契兄親家執
事 閘朱生云忌玉皆要書楹掛當如命須早來也

陳白陽月餘札 行草書

月餘不奉動靜情眠過大姚見希徴弟知貴體違和殊為縣縣
遣童子奉疾想當勿藥若已康勝幸即計便舟一來有事在此
徬徨不能束束須君來定聲伯夫妾亦不敢強也伏乞毅昭為
為重不宣

陳白陽閒事札

第十八冊道復頓首野朴契學先生執事 餘空

陳白陽秋來札

秋來忽忽昏欲一見無緣也宋生到之更承筆一節含承學心但遠而今人為規畫則又過厚實恐不當如此得假小杉木數莖足矣晩尚令宋生面前耳金允依求近已行矣君必欲奉路所不能也餘容面謝萬事如此嘈嘈澄則我之行計又未必行止非人所能有乘信矣一吠一吠非吾君令急使之於何人即予於舍姪在宅面相見當道此情不具七月望日學頓首東南學契先生契兄

一帯雲根卅雪義書 第三十九冊 八

陳白陽閒事札

僕迎閒事到九陵遂停時經宅前領一令拜計東行矣遠中止然事未教知尚未發始覺會晤之不偶為之悵然老太夫人何為今時住然懸僕行固未就而後長往而百無一備奈何奈何承諸盛坐不入戸文墨日相親亟未快耳魚婦負魄關行期在十五東此連節況況於江月之下狂欲登仙也放舟裏有閘長上相關殊不住玉池閘當朝還候欲附一事於南明後日或面候也不具十一日淳頓

徬徨不能束束須君來定聲伯夫妾亦不敢強也伏乞毅昭為
為重不宣

為子仁與孫內翰札 行書

高才博學如黃山谷者方讀禮記月令篇於後能解子美逸時句意頗致齒何能為役而敢妄肆訾訾不能贊一言也如責怨書意急催人去不可去者不知於尊意如何耳使回筆不復不記備內翰孫年丈先生執事 女婿 □□頓首

□□與聲室札 行書

屢辱手教仰荷拳拳非顧人所敢當也高陽事中言先有來至想有特耶僧谷數奏頗過之微以等意諭之決不為此矣近時亦稍及之但不似當時之甚耳公事之暇觀物心古貴此中頗有所得入多出少亦足喜也閒令郎長安學業大進得息士為榜眼果如此在過即區區之心如此惟恨抱甚遺憾幾憂歟之事舉不足以動其心所以日疲雖不疲亦不增所托求石屋明日方乞即致之真大惠也陰池正發與赴軍門之招建功立業得此機會要當扶守昧為可吹毛石望在此以詩滿句妖言為解類故重此亦壯游之助區區荷其雅愛尤深故漫及之章美鐵筆甚精篆法頗得其力三橋在此三公而下無不傾倒屣迎之且古玩山精濱谷日增令處淮得嘉禾之遺實陸公卅之意想已平復暇中不憚示對說門海洲聞日夕聚荷遂想惠顧數日攜麥虎丘石湖之間而探叢蘆益不能長往奈何奈何文洲鳥至遲在而內柏舟作此不能一一用擬荷再拜上覆

望老先生大人閣下

□修與聲室札

向暖奉期不能踰約即刻有河豚過江享不敢負盟耳幸珍玉雪萬水生望帶來有小事一勞也舍甥楊扇想辱揮灑并希袖過極感極感五日修掃待教聲室契兄先生文侍 眞有要言面陳明日去須三山翁之命恐席間道及何以應之耳餘又

言餘

王龍溪與石山札 行書

侍家王猶須荀拜石山老兄文先生道言下於僧山草出四水家朝得如不再會急貶語益不意凡合數日狀於領等息燒轉等前來尚老先生喜不但一念超脫喜若猶欠會未免內過為仍於恐後之視或猶今之視昔年與時馳高與歲遷不可不發深省耳弟別去不敢負知受狄仁之約千萬此渝俗迎附謝不盡所言節茅一束附光嫂日用五月望日龍溪拜 羊村翁物故吾道之傷

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 二

昨者登堂未見無疾而
未盡之言猶屬於賢契大孝賢契述述之大任於斯一事其
間親友交永務在從厚益光尊前盛德所聞也胡令叔祖之事
可悉悉令師體仁裁處母使破慳中間即未能直遂不撓而
無阻前令祖知之以全彼此之情方為善理善述其時同伴
相繼不及安而一慰此懷殊快之尊翁冀事時或俟退此時定
期入晤剖決敢盡承書惠拜領節下之奉復以謝不具心期

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 三

遠一坏其仲君住士鎮閒依青精氣所叫著賜手吾力不能挽
通家生王穉登再拜道卿春元大孝 方先生爰托致謝所惠例
一帶雲根卅堂表幸
不敢受幸然存文旨

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 四

年侍生王世貞頓首拜大令社伯川翁老年兄先生大人到座
下弟自東土復奉頒色于今十改歲矣伏惟吾丈以不世之才
膺殊特之簡拙有東周入衛之輔訴常是勤明社非淺其依其
休第今春劄副北上為先君子仍見象狀卿魏都門之外半歲
而始復相聚歸第之後長奉西歸無理泊熙於下人之分已足
他作所計也忠恭先盛德長者亦有遺物之累今聞小郡以吾
文為之化當無復他慶矣孫門令親俞生行便聊附起居之敬

前乃文學仲弟子仲弟名重美中州素契分切當此生欲畢姻
於大同一幕僚不能何違故求吾丈為給力出關仍得暫瑞護
生波地餉淫之感不在此生而在弟矣手記海草不恭統惟台
亮神其北上綢繆惟望為道利玉以膺大眷有宣季冬朔世貞

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 五

第頓首再拜

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 六

王龍洲與仲爵八札 行書

廿五日人回忽支生王世貞頓首仲爵等兄足下春時附一
詩及書知當達也數益深無復以課責人常海內兵攻之吾恐
遂一坏其仲君住士鎮閒依青精氣所叫著賜手吾力不能挽
相遣何謂復乃其性所深恨則以左右死者當何厭恨業

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 七

障不自劄諸人之明發仲爵長清奉仲爵也日坐樊龍
與談家依生平所敬然若其人之風格頎袖實當時
遠作則使者雜沓及錄示之一日人嘯不斷晨咲此皆亦當
咲吾此人為使聊以問仲爵住集期已徹村人事為經管仲

王龍洲先生尺牘 卷第三十九 八

民公子積足下不作宿舊殊未祥所以新詩亦便寄來併刻
之徐子與行部關中前輩下相仲爵此與之
聊承示徐子與誄亦有參不能依吾侵晨為之詳如銀萬令人

神倩蓋不獨其辭之宏麗也近舍弟所寄台書已至後有增定一二條旬日內亦須遣人入京故不復寄音墓碑成足下亦不必親行但做百納碑倒量其大小雙鈎廓填入石可也仇次不一一世奐頓首 仲蔚老兄大雅足下

達日苦瘡瘍舵檢甫畢呻吟雖之以故不獲候訊更摩雅貺及慰藉勤拳感甚感甚僕之此補甚垂風懷得逸初服快不可言所以恨者家無聲色之奉動止周旋容與而為人生推依韓非載人此不能忘言耳說及子樊使令人敬慕侯擲歸即當有苔下之行當約足下同往也舍弟遷工也集副想所欲聞者餘不一友弟王世奐頓首復仲蔚老兄先生詞伯足下

陰符經信是趙得意筆雖小有刮損不妨也 仲蔚老兄大雅足下

依改更煩兄教法語前有佳紙書之可也外紙三條求以八分書欲刻之紫檀匣并希即付去力圖覓終大卷可憐鬼否匆匆 王敬美與仲蔚札行書

姚鐵史欲墳墓地也世奐頓首 仲蔚老兄大雅

前得教知苦利未平昨見王明佐道病狀甚悉今暑濕不時脾家精食飲之毒得秋氣轍發宜絕滋味時以仙粥補之香連丸類恐太峻或非其年所宜也僕比欲啖如脫體中亦無苦似得絕欲之力聊以附聞不一世奐頓首 仲蔚老兄大雅左右

不與世奐頓首復仲蔚老兄大雅足下

得書欲若面談渡甲得家報知家老在都之謂不入與王龍池但無生此誠乞世道意不但僕家事也雅屬工兄在能致之列盈為不易耳兄弟素無情人舊此前道鉏後出公論既明進退自由比於勒歸雪懷笑知足下憂喜當同故不憚詳述也僕書尺牘雖小佳較精而政得勝耳老兄所強乃依班定遠窮時態可為一噱得裝可有十二三其意在傳採與足下務精之意別欲私雅語即古人出多不滿人耳 世奐頓首 仲蔚老兄唐宋諸時人即

春日正佳兩岡梅花盛發念足下不得共握雲其間有興能覓舟一到否即日世務稍頗復仲春倣君先生大雅足下

陸平泉龍潭閘札行書

龍潭閘中憑高仰望黃雲稻野秋色可愛擬約來日偕往一舒此也九哲春生陸樹聲頓首拜

錢緒山舟過札 草書

遠江梅有啓旅舟過書頻聞執事村居修逕且洪為廣行期迫城中諸相知俱不通及刺是懷歉歉書院開林秀水建制以配者可賀可賀劉龍陽天真純度頗悟心力正須一識得時便於事

一帶雲根井宅義舍記 草書 李

就有所脅然必得推借有力乃可持且非執事任之將誰責之龍陽書來執事必有復也毛梅庄江東附去一簡更行次第布此亭亭不盡所請作序銳德洪頓首拜石山沈大人先生道契文 黃卿請同志約乙致謝意之初八日吳 餘

莫雲卿與劉生手簡

昨夜生員得住興寫小行書一紙頗有前人法度自中無如書者業可觀足下相賞耳今春去以儻久負行書欲令運筆不輟留滯痛去俗病自能合作學古本聖教序不如學新本蘭亭此語大有會心也諸江南筆趣絕鄙雜頗枯栩賦新絕奇古便與

二王抗行碩夫小楷足為習熟大成規模一時可令書家奪氣

項子聲與三弟六札行草書

心靜養身日空真為張即暗行詩新年須放卅寄去張生屢歲暮於伯無所事亦定為貧驅使向日永繼意春要而反奔走干謁仙說晚雪頗有住輔恨處例俗能素人不能有會細酌一急乾賠四月虛急期再拜二弟 二官性抗何日還老壯從行否屢告書房子要成隆堂此近為異觀錢海石搜報書閒中來

看一咲

一帶雲根井宅義舍記 草書 李

六朝詩遺愛俗筆無可與語且向幕賓閒其良友也病中不敢抽思此所製依依情景如觀來發一奇與其拜三弟

燈到家門雨此石一宿但不如雪耳雪山在此即來一談想連日雨孤懷亦不暢且共咲嚏淇拜三弟

人日頗涼應新竹清陰之可賦也妨不能去心苦也六朝詩十帙還歸世前廿帙別處買人來錢即仲農亦數日之勞也淇拜二弟

時霖則安蓮軒東窗閉窓風雨遠客時宜得多耶繾何鄉還舉

舊去來須一清談何如六朝詩有卑初懶欲手錄日舍竟嫌恐

成盧趙耳得善書者了此亦嘉事也漢拜三弟

秀餅二十不飽多恐況無之陰寒大減人事無一可獨坐則無聊披帙則惘然故行無地敬謝賢人何以排此伏辭漢白三

弟

項子贈施事札 行草書

施事昨已供上抗有日笑明山春色當有待也內馬得書令累

豈真俗故昨晚南風稍動此意今又陰寒矣依滅罪所造實

俗陋不可堪耳無可共一言者況相契分有敬唯尚友於斯編

懷情於耕植耳閒過閑一坐小慰營擾其拜

一帶雲泉卅雲義書 茅鴻臺詩冊 二

項子贈蘭亭帖 行書

姚士成蘭亭墓得甚火以今計之直五分一錢耳用之當愛

重凡不足與不知者道也惜哉士成花費依史精神如狂醉已

有先零者實榮盈何可久先夾貫茶其拜

項子贈惠泉札 行書

惠泉一罐真力遠時餘侯神名過院共相品試直須香根上詩

出本來無味主公方許入普洱一瓜瑣元洱銳行定湖熟空二

上人

項子贈與定湖札 行書

應從吳門選為得趙文敏簡中峰帖一冊此書學人不可無者

特此奉且山谷云字中有筆如禪句中有眼須一看頓上下工

夫始得餘俗面賊具拜定湖老座

項文新收生花前札 行書

極欲生花前煩清話偶以局寒不出事此辭謝暇刻當久坐高

齋不盡兄念也謹之錄之制教下弟德新藉頓

邢子愿雲破句帖并柬

雲破日歇卅行岸移 秦公敏有集指名依中露一聯聚切語

如此意如何相頓有

一帶雲泉卅雲義書 茅鴻臺詩冊 六

邢子愿地名甫札

上客是此不能且酒資殊愧殊媿今以一病為得青錢百文足

下持至市上壚頭試與許孟與共醉也

李卓吾客冬札 小楷書

客冬賜佛本為刻書而書未定好緣益成棄卻佛殺一斫翁

望律僧收筆持論藥師真經小恙清文念福亦不盡也茲正油

來得來賜即告成矣有以附謝事先此書一卅附此請教近況

如此亦可知清福之不易受也餘具詞答奉中不敢多及四月

廿七日贊生頓首 餘敬

顧阿知與侯朋札 手書

往歲拙作偶見此紙錄一過呈上請教昨小校請訂一日少展
風念至望至望衰朽平生所酷好者琴耳著刻譜以傳近欲請
兄之意才雅致者傳吹數語以彰盛心一時好尚在此而不在
彼如兄趙氏頗披高尚流俗為之者可各此數語以垂實于不
朽耶感刻何如如此札將仙掛發物表為瞻也餘容面悉不備

大元後明契兄先生契我眷生頓首陽頓首拜

唐元徵與公覲札 小行書

別後兒即報知墨卷已請告矣兄詮部請告者頗一下即行
例無復也弟以為書可無作如何如何

一帶雲根卅堂藏書

兵興來教叫喚當即修一城附之宜敬謹也第病體殊不堪不
止兩兄妻甘事奈何公親老年史侍史文獻第頓首

錢雅文別來札 行書

別未想姑娘起居勝常骨肉等親此時更無多人不能不野之
也弟近來所業何事古人士農工商各有一業村教雖清苦若
修業有恒猶勝游手奔走耳代儀之全致姑娘充膏之粥且慰
望望諸不一一表兄韻錫頓首

徐子先慎吹羅附札

本以坤吹幸從羅附春日小兒書來伏荷老親家俯賜所請第
塊割人想不勝感歎承問日出都趨赴津門擬在望前後解維
行裝出閘之期不能躬陳謝忱道一介為來見小兒報言未
敢造次乃尊台到先頒且隆儀優渥既感以愧無能為心小兒
之初為當事者陳說其言
管有今日所以仁棄於日月之側哉二名口實萬一之用乃吉
來必然之事方持佈亂教群而後用第欲以一人之力欲弭濫
觴而遏洪流天想造物者或未之許也老親家初至遽值此念無
一帶雲根卅堂藏書

事住於時稍遷附近仍當即圖良田廣宅清泉茂樹以遂世俗願為都人所物色天氣清
和老親家就於彼中覓一佳者為其善萬一宜亦東南來也家
房上淡水陽州亦有佳山水足以資眺借將若意狀惟鑒
存容日奉陳徽恒不盡第先啓不備頓首上

徐子先夏初札 小行書

夏初一書奇遲不知小兒書早送來此即慕黃公祖復得老親
家手書並拜珍貺之賜且感且愧迨今行矣受恩家時工秋風
扶搖即搏九萬里之日也第既來能座歸計猶得把酒長安道

中耳時屢日新甚至受試諸公久奉命計入場期日未免局
常期矣他事盡不知究竟若何矜何故處時觸事屢錯良深
歸中亦有郎謀等抑鬱當誰告語唯待來教告返初服則已耳
如究竟何如有便乞一相聞專俟北來不唯有慢兼復勞其管
鎖極不能安批刻震遽前三叔太欲刻第以棄使相刻之今恐
即中欲翻刻則尚有增定乞一余之當寄回也伏還舉此附謝
老太翁三叔太乞叱名致意諸客副展不盡限月十四日弟光
啓又損 沖

徐子先自笑札 小行書烏絲闌

一帶安棲卅嘗為書

竊害自笑且恨世間之閩茸未有過於弟者也向年來京甚
應酬之書堆案盈几必使人敦迫至再至三卯酉始答稍紙
人來刺吸即日復一日乃至遷延歲月再遷延既久愧負既積
更難伸紙如書生輒譬愈久愈恥也即如親家翁行雅愛趙
踰常格入都已來再承手翰申以重睨然向張年兄便者都遂
爾時一失便日延一日以至於今所以然者稍寒夜只是一懶
字第又益之病與兒為風昔多疾疢至今始愛更非疇昔非徵
偶以多言之故謬用歷法見推初意亦知其難第此事三百年
來無人講究如閩有所見而慢倒推舉似非古人進不陪賢之

薛明益與火室札

流先生授雁山數吳人士則不仰之區區岳事必且一網無遺
者一年不云方以為先生非私即謔言耳乃復商議如此耶第
信之恐無信者蒙屑瞑細楷精絕目力如童今人嘆服尚有所
大總容喉就承發程史雖不詳盡事狀不可不率菜今日為成

司農見名明日塾師到館皆不能對案計望左右可歸趙矣弟
既蒙雅愛尚須沐公願封薛岳祇以魯鈍善忘必求不憚煩勞
再檢祠錄一覽不啻以金鏡濟濛雙也功德豈可量哉敢此申
懇幸惟概諾不具教下薛明益頻首大宗工少室先生足下

足不徧以好者之口信一不識面目之人片言聊許遂欲定為
白首之交俯仰今古良足矜詫然亦以不得見足下為憾回知
造物者忌之要自有合并時耳弟廬樓三載塞兌守雌白分名
不掛通人之籍矣頃荷主恩移擢理官疏脫褊性動與世忤益
若譬海山巖優游載籍可藉以無咎無譽而二三君子詒以大
義賢之就道勉欲於此月中旬度江決彭蠡矣此行倘挹九華
匡廬之勝其恨不得與足下同遊更當何如聲氣常相求耒有
合者獨謬厚奨皆時時把臂論心此推足下愛不憂窮邊境與
行合亦不多得識足下在吳生之先尤其奇遇也海公別去即
世外人無兒女子態亦有依不忍舍者然弟不久當作罷山
計與二三知己結社以老耳叟冗中草率報業倘侯廟頭一棹
即伸積懷不盡以酬珠玉也諸惟神照不盡瞻跂弟正志九頓

首左史

黃鋪山道
周與蔣八公札四則

八公閣下知我念之至凡可以開天心起月宵者閣下必念之
熟矣秦紘以黃綢解奉嘉留以家藁脫綢周肉非黃羊命隨野
麋啟閣下誰使生我者杜口有言能救我者惟初大夫耳綸誣
天上誰傳半舌之言生平孤提枝葉無陰死生區區已委之命
必使聖主不失其仁貞士不傷其身亦君子之所靡閔也六月

二十日南昌字

己墜黑海不問惡龍然猶白日清晝也乃云某以三百金買涂
其又云某受石帆百金此鬼蜮誰為受者即如一僕柴敬十
日始來而坐送潤山書擬徒使蒼天此何人乎欲出一疏到
底不敢詩云匪言不能胡斯畏忠正如昔人所云不過使後人
惜之耳徐蒙老僕悟亦幸甚之講學結社業已自認罪過重如
送禮求薦鉢金求救人類中寧有此理昔子瞻不辨蘇朱姻翁
不辨祠廬正叔亦惟唯受罪今即不敢辯令寧無有心眸人相
痛惜者東翁撰文委晚面閣亦幸受委當之屋友書成無及矣

草：即付一笑

細繹時習不愠之論切實受用欲去任未定下手點脚了無是

處前為易象正元之已久而則人借鈔踰月未畢未有以清教者徵市中賣朝魁亦徒為人駈歎耳更十日當治畢以乞緊定近見報紙知禁旅事動聖念此均在戊寅四月叩鴻力爭者也惜天聽之遼耳大司寇比又請告則疏未得上雖求極邊安可得乎昌孝經已過五十部意亦稍倦別欲起草又苦無書每想一事明日長嘆而已尊翁貧如何可又令藉孝經二本尊處之事者不復知如督撫俱在則尚可收拾終是拋棄不得自武陵議棄義州來寧錦已不能獨存惜前死於閽也從紀跋出年閣手中亦是聖賢靈慧然非罪人所當聞耳紅毫婦調元者再給二枝則事潛矣餘惟謝謝不悉

并展望星辰奉書今文六十五本意港基乃眼小時定本書之又二十五本如鐵皂莢之破香乳也此事紅跋甚詳不宜更定然自唐人而下異論間興先儒亦疑其闕誤近會稽虞本乃中州吕本吾鄉王子彭皆依劉學所編如臺耳此中無書不復記憶驟書定本恐涉唐古有東觀之義今已不書矣闕若為掩其疵也今文皆數去唯定本在一二吾輩爰翫省諸煩喙得教甚感也諸體舊寫不敢復云賜炭已領悉前事乘幸都拜惠但出入未便多閒二日過鴻謝為還來覆為人有在傳幸勉

一部查對數日也閻亨老異信未審果否竟寂寂亦異事也

周長儼張壽孫二跋見前

釋奚簡佳偈帖行書

奚簡再拜報恩僕至承佳偈和章見寄讀之其於高妙處深知徑山家法得不效寒山拾得耶大龍江煞鐵輪若非老漢也難當此一笑但老病之軀致賢乘有異署之念衣衾遠及不勝悵戚鶴林青談報恩茶盞卧碑等物同至一日之間得盡儀何以當此相見時就出此間致謝幸甚天禧方丈亦為助喜佛筆申意不一一奚簡再拜復廿露堂上和尚法事五月十六日

歷朝書譜

名人題畫詩詞墨蹟　都峰逸慶書畫類跋記

錢塘　倪濤　撰

槐元鎮松亭山色圖

阿翁好讀閒居賦桃李春風滿庭戶時與羣賢一觴一詠一笑將青眼對少時里先生住寶淨僧房供瑟瑟已看富貴如風過我來三窗枝更床行路荊株感滄桑

沈周題云雲林先生懷墨在江東人家以有無論價松本此

筆為淮陽趙文美所得特來求跋因次先生韻華屋不能留此圖秀色公來照書戶今父空將恐峰移人仍在月夜佳非人玩物物玩人老墨重拔跋最高務門前桃李換春風只剩青松自凌霜

惠山圖為人

至元五年三月八日云林先生來林下攜乃賦詩曰吳松江水春映江良發江江霞影紅畔田鷗驚見雅舟江畔柳剡溪歌門散林酒盛紅接手生歡石徑蘭若重攜手　雨後共行林下正見惠山先生命攜鴛鴦畫記

王叔明荒溪隱閣

蓼岸蘆花繞水流東老共酣千日酒雨梅同泛五湖舟少年豪俠知誰在白髮相逢得自由莫古榮華如一夢笑將青眼對沙鷗

唐寅翁玉花驄圖

雕鞍寒玉花驄圖秋風起玉關西冷鐵新來十萬蹄得當時第一匹昭陵風雨夜閒嘶

梅道人墨竹

竿竿有考葉葉無量限不根而自生換神詔天教神主原題

吳郎生平直不俗千畝琅玕胸中具有時寫出與人看葉葉枝枝動秋思之子愛之如千金袖中隻鳴玉音莫教風雨化龍去明日萬坡何處尋上文信

魯雲雨山水

朔日趙子昂畫雲山水生歡喜雨人情意雨時松高魯橋玉

元章

金庭江山不數峰茅茨十八仗青松秦望會稽長杜家之室公歸何地　知

在晴雲第幾重郭期洪

晴旭流輝翠微羅烟閣起飛甍雨後共行林下正見惠山先生命攜鴛鴦畫記

深林採藥歸武林領易

倪雲林之堂詩思圖

林堂竹樹蔚交陰求友嚶鳴亦好音雅語諸生時列坐巴中密

子但鳴琴七月二十三日寫林堂詩思圖并詩以貽又新茂才

宋楊補之元夕畫梅四帖

新近新春試尋紅萼編經年疎萬小立風前悅然和見情如相識

為伊只欲頻狂飲自把芳心愛惜傳語東君乞憐取來年早

安勒右未閱

嫩蕊商量無窮幽思如對嫩粧初稍搖鬢影笑含春

一枝常在神堂義書 卷第四十四 四

休將春色色藏拔此地教人斷腸莫待開殘却追明月走上

上田廊右欽閱

和鷹斜拂被伊勾引不忘時臺一夜與香憶人無寐可堪閒遠

曉來起看芳叢只怕伊花梢欲壓折向胆瓶移歸芝閣休熏

金鴨右盛閱

日斜南枝幾回吟境然閒遠南湖風欺寫似雪如却恨離拂

欲調高鼎如期可奈向騷人自淡相有豪端可成水影長似

芳時右將仕 范端伯奕世勳臣之家而深染乳味而胸次

洒落筆端敏捷視其好尚如許不問可知其人也要須再作

四篇共閉此畫庶杜之人托以俱仁祝日乾道元年七七

之前一日癸丑丁丑八楊元誉補之書于預寧伯舍

元柯九思和 懊恨春和颯寒日下輕雛帳隔重幃梨雪作

舒嫩眼羞人曾識 已趣熹笑尋芳準備携手情到底難藏情默默相思寸腸月轉更深漏寒等待

梁楊補之先開却試馳金勒右未閱

射論量新酒永書重試新鞍欲味芳心最羞素臉猶含清

香 此情到底難藏情默默相思寸腸月轉更深漏寒等待

吏倫西廊右欽閱

翠笠輕蓑南枝且暖余收漸雪乱指繁花快張華雲繞衣十

里 玉堂無限風流但只愛冬兒雪塵俗遠一枝折贈相伴

趙屏花鴨石盛閱

瑞鼓我枝照窓次度竹逕幽欲坡 春教別樹相期晚去何須苦恋人自淡相有豪端可成水影長似

復記當時右將仕 補之詞翁稱妙一代此卷尤佳其御精

書四詞可以想像當年風致勉強續貂以貽好事時在柯九

思書于雲谷閣至正元年冬有十一月日南至也

趙氏三馬卷 第一幀趙文敏公胡騎御青驍圖第二

幀趙松雪仲穆父官御玉花驄圖第三幀趙知州彥

徵吳宮御赤驅圖為雪庭作

傅岩曾兒馬翻翻人已云亡紙墨新寂寞九原無弟處空令猶
羨執鞭人 驟子生來奇利奇滿溝汗血活如此空門縱有馱
經日得佰年馬向玉堆虛陵踏昂老李健神師題

松雪當年補荊步子孫今日鮮遺風香撲墨連錢碧色染
秋毫汗血紅塵客頻似玉昂藏龍種氣如虹春風滿目
堅林古木竹石

初奉出對立長鳴莫北空燕山哈珊沙

覺非文多 自題

雲林惠麓圖

秋聲吹碎江南樹正是瀟湘暮雨時一片古今於荒砌水亂
流 枝圖驚歲月猶有黃柯堪說向憑誰更情人問無此清

石調蒼蘚堂筠卷王國器題

八月梁谿新雨霽滿湖風浪釣船回誰家幾樹秋王蒙

碧湾幾樹秋王蒙

石磴清泉急鳴緑樹多雲林惠山下風景近如何素養福

王叔明畫齋圖

老來自覺筆頭澀寫畫如同寫隸書莫笑一聲山館靜閑人正
是午參餘

陳植就懷獨病望

書一絕云無多茅屋滄波遠一半青山竹樹遮定似吾鄉美
寂地直疑割我白鷗沙

錢舜舉金碧山水畫

旭雲出沒自無間半在空虛半在山我亦閑中消日月幽林深
處聽猿猱 自題

堅林古木竹石

篇好共欣篇之兩已具俯花二月忘管竹當柯須漫興硯山忽
覺詩文多 自題

清靖篇敬隊仍空淡墨林溪意更肥六幅真能入三昧令人
一帶雪飛來 成書

相對悵兒汪每見雲林小幅未常不住此紙九其得意之筆
也非得荊關青者能之乎 右章憲題

吳仲圭松石圖

仰池深二畝之許蒼鶴呼風山鬼泣孝舒破窓錄宿茶雪對景潛
空翠毛濕徂徠千樹老雲烟明山九里白蒲珪人何當閱此明窓
下長對詩人弄寒碧至正二年夏四月戊寅梅道人戲筆

趙松雪落花游魚圖

游三緑水漾初發風送落花春幾多頭白歸來舊池館閑看魚
泳白漪波 原題

王叔明卜山漫游卷

人生不富貴何如學神仙神仙之居隔海水樓閣神鄉栖息
烟霞中有人白玉顏從之不受符篇我年十五頗好之生
龜脫筒無宿緣龍馳虎走髮欲白不能生受九丹與六甲
十轉多病妄得堪流筋骨堅掌風動地海水立且住雄氣
山巔通云道士知雄全前朝外家籍蟬脫目擊不得以口傳
高冠戴之衣翩之子當冥慮斗旋石文秘在瑤山鬼神當
受下所難鴻濛一氣權先天爲大鈞持物摩捐人間大藥乃
綿之采之以時性理漫云風雲出沒予自然琅函玉笈陳真篇
一諾靈神掌載筆書

予今歸四只苔上船我亦理神沙舟前先知登堂拜家慶執燭
笑語夜不眠玉祥水魚曉入餘閑頻麗花果獨眠易夢名節
多受指王皇帝臺在寸田品高中不受者羞若貴
浦腴山九月望君來石壇夜靜黃花開 陳方子直翁

馬遠四時典樵圖

高山巍巍上有紫芝翁芝可療飢何論上面微雨伯善老去
古意而掘夫殺上吾將啃依仰金丹子海內威羣絡繹就將
菜爲平生不識下邳兒當隨漢即小兒展向里給里無人知
乾遺老人會搭粉維物在雲閒草玄閣書

山水橫渠

風雨綠秦論美傳法更難
依稀廬岳高僧畫彷彿商山隱者冠戎下抱琴攜素約白雪
課庭拾松花膝東生吟誦
願心上人得杜無爲斬藏跡待部畫上水周敦 山木橫渠
與君二畫師何人無傳部特部筆能世寶得此幅乃是杜公
之所藏杜公平生好奇古於畫收書用心若白頭老死戎山

下散落人間藥如土工人何從得此圖年來妖夢忻移糊塗
崖竟墮失向時茅屋松門疑有無洞庭天寒風景暮空山煙
沒隔烟霧歸來不自辨東西仙記或因雨松樹三人立
者誰就中似有遠法師故園應嘆塵滿眼我欲匡廬愛紫芝

至正九年六月書于碧山吳縣釋宗衍道原

穆之材善動仁宗寵渥時二下九重怪底風雲東海飲溪藤
未朽思花濃至正廿五年乙巳九月望後五日吳郡萬金題

溫日觀蒲萄

明日清風宇炳社久陽秋色庚公樣修心未到無心地萬抽千

絕近水流日觀

濃深纍纍半幅欲起疑月架影參差為石間取來樣使過似
定西舊折枝蜀益州張夢應數題

吳綾蜀箋意墨雲龍一片數：秋快收得騏龍筋下筆
興來一卷揩度有時壁伯寶雪葉烟條老度西風吹不羽
城宇太蘭花山陰曾賦孫奉題

昔年冷竹疏梅瘦老樹枯藤枝馬乳實心明瑞頓首

後改云德壽殿書

花石綱間四海分西湖日：雨芳春孔明二表無人讀德壽
宮中寫治神 趙名

錢舜舉秋山圖 倣趙千里金碧山水卷首有雪屋題

畫四大篆字郭忠恕所後圖長二尺雪溪自題云

一重一鈎雨相過閑步梅邊賦小詩疎影的看真絕句至今誰

復經新詞吳興錢孟舉

錢舜舉竹林七賢圖

詩人好況酌事人不理但逃林中物應世聊爾悠悠天地
間榜樂不知悅名賢名百心九仙無數報誰原題

門巷寂靜鮮溪南竹淺水淨堪染竹色與綠有時淡
相向稍抱如璧玉安得萬答寶過植青溪曲定無捨院筆

世事往踪浩歎日酣然竟生亦云足住處居建康青溪第

一曲與為鄰谷相對修竹林衆君子故有此作今觀圖書後

米友仁瀟湘奇觀

米家父子最風流 跋梁楷為紙赴海盟老兩天欲暗九州
渡口望滄洲吳魏石題

宋梁楷五右軍書扇圖

松雪翁常以幼扇三十把贈故人許其揀擇九者分為三
把每把一絕戲謂之子倣出三九養事為相規倣子言就書
以贈之云 故人當見者幼扇最愛千紗雪色新寫右軍即問
路先定教在甲子上元後五日
張端清夫

道旁題扇出無心晉世風流說到今陶謝詩篇千古在
郭放作知音吳與張世昌

宋徽宗着色瀟湘鷗鷺卷

瀟湘鷗鷺頭和浪隨方王孫豈惜金縷晚歲行看在畫圖
沙鴻未必知羈子振題

忠陵題畫冊

桃李無言春告歸落紅如海引漁磯西村渡口斜陽裡渺渺
烟波繫泊遲 上有辛巳長朱文印

龍門龍馬圖

一秋雲霧降天閑空世先朝十二閑今日有誰堪駿骨久陽

少岸影如山

宋楊后題畫冊

雪次醉風不知寒信脚千山與萬山去馬來人往絕塵
鞍與君看 觀寒飢舟賜太少保有坤卦圖印

宋高宗題畫冊

宋知常見十八圖已作南城九月寒客話重門休上鎖夜深
湖月中看 頤夏主冊賜楊祐有御書之寶印

萬片經荷浮水面孔風翻雨滿人衣前村竹樹田家客時見
斜輪屋後飛 跋趙文貴卿

李龍眠醉僧圖

人言法不可不說日松門掛一壺草堂欲成在俟公真境
畫作醉僧圖董其昌題於惠山舟次

都公慶楊出黃鼠跋記

唐張戩獵騎圖

一大千種五馬追趙孟子昂為駙仕於朝擅飛名北正是
當杜出獵時 文水馬若風

燕角弓弦虎帳中將軍獵騎正驍雄前鋒號有韓盧技指示

王右丞輞川圖與今昔在杭皆故家見者一樣前有集賢院
御書印內合同印觀摩語本後書河北郭忠恕奉命復本則
知為江南李後主時臨本也虎賁中郎吏兵辦處郭市妙筆
笑大德戊戌冬至盧陵民八十叟李玉元郎敬跋贊絕句云
閑閑圖親四早流傳已是人間五百年凝碧池頭秋句在當時
幾負北林泉

輞川圖有二本此從矮本所臨畫格高絕觀此猶有生意為
賦短句　詩中傳畫意畫裏見詩餘山色無還有雲光奉復

靜前溪漁父宿舊宅梵王居千古風光在故園偶趁了　承
棉書寄字
白玉

摩詰當與裴迪唱和共賦輞川之勝今合讀之如身從其
間北本甚精緻尚可想見其景與詩會之時也因次而和之

孟城　春風孟城坳杏花柳當日條垂人何處誰家有
柳　華子

蕨　蕨嗥泉空悵淺古色出雲林何心況雨返無杜
丈書種

辛夷塢　木蘭花小塢懶沙石路通茅宇閉柴荊
茅字

漆園　漆園傲相將坐一暗嘯天風松空聲萬境過寂照
竹里館

北君儀相將坐一暗嘯天風松空聲萬境過寂照

華子岡　秋山斂餘照飛鳥逐還木連峰去不斷隔谷聽
鳴

文杏裁　文杏裁為梁香風動遠堂微雲淡輕雨時鳥
散

竹里館　獨坐幽篁裏彈琴復長嘯深林人不知明月來相照

木蘭柴　秋山斂餘照飛鳥逐還木連峰去不斷隔谷聽
鳴

茱萸沜　茱萸沜裊裊秋山丹木稀江流宛轉繞芳甸
山路元不平

鹿柴　空山不見人但聞人語響返景入深林復照青苔上

南垞　亭亭一風樹脫帽席可即詩句前句雙鶴相迎似相識
歌劇

岸巾臨水浣向醒吟隨君興所適玉杖起拄藤空中雲
卸衣

午日黃金蕊照影翻鷹爪將誰為高浦贈細雨落江干
智成

鑿石浦西北崖古青苔滑漁翁在利呼放船莫驚下
賴

金屑泉　洗耳山下泉水合雪霜成散彩
象

石滿壁風前清水明石可把倚杖獨鳴咽悵然下
北垞

波影照松檜山色亂石間留中南川月不肯下雲端
竹里

北君儀相將坐一暗嘯天風松空聲萬境過寂照
辛夷塢

迎春發荊蕊自吐還自落紛紛成蹊徑各自私先開
鹿柴

已寂到世名仰掌觀天時青苔滿空山不聞人語響
柳枝

申報芳詩遠東使類些人時來高堤帝恩勿復夫君
天台桃源

非真有已了前生不二因　吳湖人的父

開元宇宙承平日華子岡頭書城商至今自紀蜩川閣下有

幽人交莫逆辛酉歲北外史游南亦復偏尚春湯湯竹居水雪

歲寒微孝便申椒能辦從卜生雅志厭朝市　嵊縣能能

心是閒山水敏限赴規迹住賓得裂地規模如像鄭思恕典

四百年留妙迹鶯啼花落君向在誰信長生唉歎兒後來附

奉意述芝且復治松三太息　海南金元師出北圖與予三

十年前張子有家觀摩話直卷無不似考則忠恕神仙者

流信名下之士不爲虛也　海粟子私性
湖人

一帶雲林卅宅藏書　卷四十一　十五

龍兒雄錦湖好三郎嵐映歌妒老阿孃姊弟柳華清判士

宮前誰敢到右丞脫却尚書履石祇書胜青田別業

想畫閣錄本毋書向游載華山岡輞口莊湖亭竹館並相望

小橋相轉青紅樹樂歷二烟蒼二葉家瀕前再舟上相送

一人春風狂詩成與和者誰予我外裔迴誰能與立終風流

妙如此安知畫外清塵凌碧池頭天樂劇向陽紫庭深如

雨龍後歸來傳第中云端綠戶老秋風人生無限意與之

與山僧問梵宇半牀吳稍如傳舍候誰行能此千金債家來

家具莫教二四白年來御海風　楊維禎傳鄭川乃家之門別

豎在盈也後上為清京寺　昭江李核山

文湖州竹枝卷

若人今已無此竹寧復有即將春蛤筆畫作風中柳君看斯

唯工摩伽蛾蛇走何時此需竿復入江湖手　東坡居士題

翰墨真傳壽事西　如山李知判取詩書萬卷來看風雨龍一

枝　此老墨君三昧雲山發興清奇我在筆墨書府曾看晚

為賴救　余冀家京師獲觀文湖州晚雪橫披風山谷題

識其後真絕品也文湖州平日好書之妙不止墨竹故用及

之　鄧文原

一帶雲林卅宅藏書　卷四十一　十七

昭行詩與崔公度判官神交蘇子瞻都是主林神不為時商

家用隨處處　高郵龔璛

清貧太守石屋翁渭川千畝胸中理開紙筆無淨盡概夫走

筆落紙留歌雨相鳴皆各肆態拂池位置分城根鉢峰隱君

拄笻法氣韻生動物無同墨君一派來自東溪材當萃彭城

公平生知己最親厚走書訓笑吾家容陳州官舍亦長吉橋

然化去當元豐烏乎二老不復作安得賢里為龍　汝陽

袁華

李唐虎溪三笑圖

仰鞍行過溪橋正白花一笑三人必有我師不笑不足為
道人生一笑天良難莫問是別青山花對佳音點靜出廣
長舌　山村老杜机遠敬書時年七十一
元亮續孔業修靜研明古遠公生背蓮而屬著此神人異道
豈碎遠散　恒仁日學恢有行矣命名軼典胡人老杜稱
舞喜欲觀論通貴異日禮神仙而不解者
靜約史浪自名窮管於知天　永康胡長孺奉題
龍圖熙稽之楚江秋晚圖
江水流日夜流帆檣未去幾沿林幽閒丁盡古今意相感

全人慨壯遊　俞貞木
和晰夜泊後呻楚江晚悟圖
上人為招岸意為行花飛頻要住御事物換川原展戈千里馬湖海起詩豪
共乞青囊險羅敬法到日舟秋光有餘地更借忠孤
小人生事宜容涉何時了旅思偏悲猿重裘悄忘汎
不可見水禽鳴寒日白鷗湘夢杳江亂雲亮　十回
墨城路黃陵廟下瀟湘浦依稀少年事於此洋風生流當年
洛妃盡此雲天帶水玉月出三千衣船猶盤山空蒼
賜畫農每思楚江海平生志結廬老一丘　鄭元
萬秋光都在白蘋渚　流年時鴻易度向西中空見舊春如

已動漢陽城天空出角山霜盡月落銀河入斗橫吹問楚南
千古事至今江水為誰清　吳郡陳寶
晚情梅岩云晴定閒居作三叶
南浦清霜覆蘇花船帆一半
山寒影斜白髮此時偏九辦菜爲何處注重陽天明望玉
大連湘漢水悠悠水色微芙蓉接素扶戍月已沈三更浪靜
初散九疑煙南方流落鴈將老西信鄉徐客修遊宦採菊花
悵恨佳美人遙遙隔滄洲
夢回江上篇秋程水影色二扶明落永雨理郭鴻亂山
一帶山莊秋竹舊藏書　卷為四一〇　十九
高浪陰陰城鐘遠野寺維僧起霜裏孤帆旅客行徒步獨
南廂設不從貴祖問為生
茂英為二白露晞蕭條江色帶秋暉鴻鴈初來蘆葉滿
鴛鴦欲去蓼花稀三戶似星都不到一瞑夜
南遊客杖向西風悵授衣　長沙風望山近孫對為鄉武
長洲沈周
未盡文楚山清曉卷
老樹筆門生奇峰筆下出濃淡高低表近山陰暗一半雲如
沒漠二江元有二空不勞施力自然中使于沙際看歸路却
憶霜林葉不紅　子昂

兩三家拄杖已傾倒得非杜少陵無乃陶彭澤詩老況淳
籬菊沒狼藉空江無舟機汗漫安所適故園聽書哭惆悵生
秋夕　高作家未詳　伯温名斌
一曲吳山類輞川何人重寫淵明圖烟月明如鏡水色昭
長虹貫客船沒僕趙友蘭書于會稽上陰之蘭亭
過雲舍雨濯層巒江樹如煙暗色寒何似清秋陵墅路上青
雲白望長安　米家公子擅名流一紙千金未足酬本與翁
江上亂峰生蓼烟隔江送笙水雲東雨風戰艘今無數不見
米家書畫船　錢用壬成夫
黃鳥後進生期章蔡是同姓　京北宇文公諒子
米敷文潘湘長卷
畫手自高前輩雲山已爲吾書若魯連泥物色使今醉請能
騷　簽後人端禮處和
水落天低岸遠山勝露叢雲錯疑唤松江小艇歸衆好趁漁

鱸　建寧說友起巖書于池陽郡齋
太湖水入雪溪安峰屯山幾萬般此景古今無盡趣
歸懶拙一毫端　錢後人閱詩書
萬里江天奇觀一村烟樹數茅茨只今歌笑和同悅身在漁

生賢

王右丞高士奕棋圖

觀王維畫名賦雜言一首　摩詰本詩人稱必詰元化諸餘
緣畫妙通方吳子賢寫成三士奕棋圖無聲滿狀各閒暇惰
冠冕服對紋枰老僧傍晚誠可記形如槁木心死灰意識枰
中有機籌抑亦至人神自遠青蚊洗風生交詐慮庶計之
百年一着指間搞未下雌了不關燬爭利閑世紛爭幾王霸
乃知此人看畫人今古箱三等黑白依違已陳跡

明宣宗宣和殿中賞玩題品金重千金價當時內府收藏
一帶雲根卅宗長存天地間在在覆載宜有神物為呵護

吳郡莆道存

鼎立門庭理一同何須局面互爭雄誰知奪角衝關事都在
山僧冷眼中吳僧白雲道英
白玉

崔白林塘刷羽圖

雨後孤莆翠色分水邊野雁已離群杜陵對酒吟詩愛却憶
山陰王右軍　靜學題

歷朝書詩

名人題畫詩詞墨蹟　都邑慶續書畫題跋記

錢塘　倪濤　撰

馬遠山居小景

何處人家水繞門白沙翠竹自成村老翁最得山平樂垂釣
看花引子孫　釣磬叟

買斷雲山隔竹扉北中高築釣魚磯候門雅子鞋相笑齡齡
惟甘老布衣　樵蒸生

白折泉遙瀉千堂竹樹幽飛來何處雁清影落芳洲　立菴
水抱雲根淨林分雨氣涼征鴻歸有信秋色滿瀟湘　林鍾
浣花石畔二鷺飛雙睡晨昏蓼岸秋色裏對景寫忘機　鄭閎
秋淨水龕魚竹多山更雅滿湘無限景都在一雙鷗　沈德全
馬遠雪景

今夕何夕微無涯來訪山中宰相家煮茶不見呼同坐孤棄
妹雪為烹茶　盧彭祖

萬里江天莫水花散入風前不可遮獨絕千山暗六花地靈玩布日

須烹風鼎茶　徐汝成

地白風寒雪不開柴桑屋外屋將推煨煨村杜閉門卧竟已年來少無人訪戴逵　武陵

情人乘興來　蕭規

雪埋門徑失壁樹白差不知已年來少無人訪戴逵　武陵

顧敦

暮雲天一色飛雪滿江干野艇歸來晚柴荊不厭寒　沈中

宋廣廟題院畫冊

理曼無信托書鴈一寸芳心萬端莫向東風待修竹翠衫經得幾多寒　石脩竹士女圖

一帶雲根卅雲藏書　卷四十一　二

消受南薰一味涼藕絲新織舞裙長臨池試展凌波步只恐紅蓮妬艷粧　右荷花士女圖

羅襪生香踏軟沙釵橫玉燕髻鬟斜鴛鴦春水正是芭蕉葉底見

宜男並蒂花

數編屏風小象牀細風亭館玉肌涼含情學寫鴛鴦錦欲試春衫繡鳳凰　右芭蕉仕女圖

雀風露水香　右芭蕉仕女圖

農蠶消香落雨蛾花陰試步學麥波房自得傾城色不怕涼風到扇羅　右團扇仕女圖

宋徽廟御畫蟹龍圖

謝餘機服諫書空民荷江湖入眼中郭索能令天下笑畫圖何必面春風　己未前史臣劉氏菊

遊罷神雪樂意濃香飄小殿菊花風裏重相見留情應只是

重鑒画未工　武林雅佑雅名宋末

寒花初婀娜香風葉搖秋露尾漾要入画堂銀燭下翠屏深

處隔紅妝　右題僧竹芙蓉

秀寒裁範分外工味殺幾畸、級雄蜂鳴黃深就宮粧樣香房

尤宜旁日炊　右題蟬梅

黑花重光額千古尚香三峯雨風高葉秋聲雨後枝詩題春

粉節棚脫玉雙鬼相沛人何在空風閒管吹　右題黑竹

名和本南土來依殘苑閒疎主歌前梅楊起辭後顏為娥腊

太赤故寄秋微斑共言擊折處已覆實枝累　右題書中上茶

方方壺雲林圖　跋云方壺老太僕書友作至元四年

戊寅歲四月記

故人畫在雲林筠手植修濃陰圍二本憐讀書從君谷何言

賣藥直長安白日定超天祝聞青春宜著鶴鶴羽相思洒畫

金壇縣二十六峰生春寒勾曲外東流天馬

仙人危太樸屏連雲林間河東鬼金汝九鵬成大
十載行前髮已斑弱水正清浅蓬萊即可樂婚娥
露雲秋山勿猶松柏操不及桃李顏　卅立生柯九點頭
抱朴先生學大業偶然為客未歸山迎陽館裏有閒無
白雲青樹間　東陽吳師道

海上三山樓觀開壺仙早晚御風回思成定勝人間事
何人寄得來

雲林之高峰可望日出海君子居其間日起紫流溢三年毛
骨換九載神色改翩然升雲去留風翔五彩山中有神藥服
一劑雲根卅雲蔵雪

會稽所採寄語學仙人行立以和待　邵菴虞集

夏姓長江漢之外以嘉平間更主作重須知庶制難考定
雲山萬二江漢之外以嘉平間更主作重須知庶制難考定
為陵地度部悵當時和議成偏安即視如許千年問銷兵
執典史而河谷高無人爭斯圖仙馮高朝士皆有投北在朝
而釣叟棋翁不可呼逸舟野店誰能覺仙覺層巒不同林
泉列處生清風凍黃雀精工於北只許馬遷齊稱舒中原股
富百不寫良士望有村秋雪落心者共將北物艦君懷松仙刺水殘
山也無終思效一得愚史起飛鴻語在閒願君且向飛鴻問五

湖城頭有信無　水村居士
高克明雪意卷

此請稱高克明得李成筆意古意閒方北宋好事名家此
卷是無心者共將北物艦君懷松仙刺水殘
太僕周公所藏第一三鼎竟須美復
張余詩余亦於雪湖得一律并能記之此書以寶向　湖山
林之間之樂大地盡成銀色景一慶才到
水晶宮舟移月同雲庵小在水壺玉鏡中我欲題詩誰屬
和相思兒望與誰窮　洗花已丑春仲大全翁有見書寸處

一帶雲根卅雲蔵雪
山在湖舟中

赤腳真人龍鳳姿翁仙乘花時時下行訪金門重須知庶制難考定
自身在畫即今臺卅里五良久白古但是鹿王維平時的中
無一物能有山水能容之郭熙成名乃能花覓得意總蕭
兒卅高題巧翻院體後學不能其處我卿西神堂是誰行人留
翠峰出白湖深岸傍柱稱仙客船頭一老自閒暇背畫分明入
路天淡淡空望有村秋雪落船頭一老自閒暇背畫分明入
寥廓劉侯翰迴過燕市有復受畫人曾龍偶從大僕得此圖
每閒之小軸喜天仙翁情誰字許品數行北使史翁公已

挺侯亦七兩洞庭元洲湖水石田多才從役況有仕鬼好
文事只今物故有託賦詩獨媿前人丹采在久已屋宋画
如有神地下劉侯切長嘆楚弓得失守老人　延陵吳寬

未數文太師村圖　石田摸本

廣文當日官雖冷可奈才名振世何仙日居家須安手而今翛
復在塵羅　老來尚喜讀書城子史愛好山江上青武林杜鳥啼
欲雨正若此画雲冥冥　三茅別有洞中天我欲居山辟世緣
累行積功多悅氣玉液有地行仙　紹興戊午春二十一日
書于大姚五湖田舍　元暉

一卷雲泉神宇藏古

喟然點也宜吾與不利處今奈若何鳴雁欲來風颯颯三莊商
樹子落杪霜　吳松江上蒲萄綠金井梁邊桂花熟秋高說便弋
人何足我高飛鴻鵠青冥冥　大姚湖水自生涸長物都除
絕世緣望鶴不為歸鶴怨王仙真事勝丁仙　雲浦老人亂
後復得此卷感慨不啻觀其題字可見辛亥八月十五日茅
韶雲浦出以見示感走筆追和米公三詩以寫懷云倪瓚

我昔風流聞未老況家今日親真形千金數畫思一往北帖
居頃化西靈　成化癸巳正月廿四日偶得觀沈氏所藏米
老書画不啻見神情清暢欲眠此以致景仰之忠　文徵明

舊觀宜余鈍眼銷頹
更存風骨驪黃外一路
藝事關人品敢謂今人非古人　後擊衡山文徵明

先氏藏石田先生所揭大桃村詩圖引歌　重山類素陰江

雲映天邊淋漓六尺素滿手秋色移糊似是滄海圖何乃曰
之去五湖圖窮更閱清譽擅百類爭三驅龍珠來家風流賸
眼新細玩乃知身外身虎頭能傳阿堵物虎賁南入中郎
神當時得失屬王郎兩來又復東來陽得耶失耶就主張
茫宇宙浩吾亡神物不可久靜處能走四海生稱老筆宮玉

府謝何許夢寐似聞歸故鄉五湖田舍清風遠元暉眉目不
可見嗚呼元暉眉目不可見五湖之水清如練弘治六年八
月一日祝允明題

石田摸本原跋云小米大桃村圖全心堂紙也詩亦書於
通閱得乃父風不易得之物為吾蘇況公融氏之世藏成
化末王鴻到貨注來養此屬其摩挲徵題　張適手書

者以余嘗觀求之馮其所記憶久亦付之茫然矣近檢
得此詩即其副本耳永陽一見復漫補此
翊出元暉大行書三詩即其副本耳永陽一見復漫補此

山村晚色秋雖二篇係郭西初出時一見復漫補此
詩曲人歸屋重掩綠峻氣促鳥投林風倒吹隣杵偶傳
鷹之此參在王雲浦所畫成弘敖亟亟不擬形模在
失安知其他日不復得乎余請拱而死馬首媿之　弘

治壬子九日長洲沈周跋

宋復古畫潑小圖題跋

雲烟滾容與岡巒爽奔騰修途遠已蛇歸人如凍蚓家僮大
機深於戲精藝能通流各異代卧於聊曲雄肱倪瓚

落日下風巔行人未已稀隔烟望歸鳥亂投林

陽時華秋亟微寒人知復我貴春氣中節　渤海高啟

一望秋風起春路迷入谷無因計陽歌雨未雨別巔歸人幾

人鐘斷鳥流倩塢吹殘雞鳴樵隱峰頭見月出稚子相迎

倪贊　蜀郡王蓑書
宋

溪谷含冬暉幽居入林迴澗底採芝英臨流見節影松鶴已
先歸羅扉掩微暝　張適手書

青山落修林閒坊佛昇平古意存雨外人歸社葉浦烟中
鳥下夕陽村晉年題字宏光合今日披圖野興繁風景西湖
仍不異唯餘故老說中原　吳郡謝徵

山村晚色秋雖二篇係郭西初出時一見復漫補此
詩曲人歸屋重掩綠峻氣促鳥投林風倒吹隣杵偶傳

得相問到門此夜如何其　蘇人王行

曾入巴陵由府藏理現相軸指裝潢山頭怪石如蹲虎路上

行人似散羊鵝谷春遲迸短草綠波起伏見修阪今玉乘

分明在猶帶宣和雨露香　東海釣鰲客陶振

趙大年江鄉雪霽圖

我昔江鄉老水際於懷頗為鱸魚縈征鞍自笑折重裘沒

于時天地閉太空雲氣久陰晦長風扇三農蓄地樹杪葉落

空程牙旗革黃塵色慘悴蘭橈布帆在何許但見黑龍陣

勢雲鴻飛起稻梁謀鵝群鹿捕水戲江上豪家百不憂已

一帶雲根卷春意書　卷每日一　一

備金帳羊羔醉安知不有戴安道應招人乘興至浙江西

史拿元工一帖生巧思閒閣宛似當推峰知是江邨猶

雪意　蜀人唐棣

窓林落日青蒼茫南岸都歸灼霧中分明卷盡浪頭景只少

垂綸一釣翁釣前吳放扁舟至沙上鷺右好賦落盡桃花

不出溪夜來細雨春流賦　吳寬

李龍眠山莊圖為周貴先生題

北心初無住每與物當禪如何一丸墨舒卷作山川　墨神堂

清溪便種稻秋晚重來見新春雨風海白先　劉鈞名

去已盡一段晚雲無不收　石一字至七字觀周賢秋塘圖

有作鄉鄉望與

傍水芙蓉照眼新　集賢大學士趙世延敬題

黃花噴晚香　集賢大學士趙世延敬題

芙蓉滿意波湖秋　枯荷折葦林塘趣　沙鳥野鴨泉清流點點中

鳴雁寒汀洲黃蘆紅蓼葉尚抽水石懶倦不自由大年小景

方綱紀能事更兼全收滿湘之勝買一紅併與空澤長鳴

酬　前集賢侍制馮子振奉　皇姊大長公主命題

家在東南雲錦鄉心魂元是水花香晚詩思入秋塘境物

一帶雲根卅雲義書

驚飛一又忙　數人初自雪香橋花寢龍校鳥自飛莫向西

湖問煙水夜涼風露濕荷衣　至治三年春廿有三日收

修國史長史李洞奉　皇姊大長公主教并手錄有敬書

陰疏枯荷折葦間芙蓉秋水轉硯池鴛鴦飛度江南北知是

溪禽萬意閒　集賢直學士鄧文原敬題

近三層波綠滿池楊風景四時宜郎鴛鴦會戲嬉春去

秋來總不知　集賢大學士王約謹題

禽鳥雖非性稟全知幾猶得氣之先雁兮有信回歸客

都為勢家有猶記小年學牧時

無心卻我眠　集賢侍講學士中奉大夫致仕魏必復題

荷枯葦折滿秋塘庫劍芙蓉猶自香　石一字至七字觀周賢秋塘圖

為農喜蘆湘　中書平章政事張珪敬題

蘆荻蕭蕭秋水清扣舷歸興日關情　集賢大學士趙世延敬題

五天得共行　翰林直學士兼修撰楊敬題

水鳥參差浦晴雲折葦枯荷滿客舟久矣無心得為利江上去

相對兩忘機　翰林侍讀學士李源道敬書

雨意無多風力微荷葉落相依只愁夜半秋聲起滿耳

西風吹夢歸　御史中丞王毅敬題

沙鳥飛時晚來休棹歌聲在白蘋洲題詩每恨無佳句欲寫

一帶雲根卅雲義書

横塘一片秋　翰林直學士兼元明敬題

與人林塘畢承旨錦袍曾在白雲鄉況淨數丈新葉荷香偏寫作

西湖蓼岡秋　翰林應奉兼修撰楊敬題

枯荷疏與淨相依蘆花秀拂釣磯　段秋光成事句人

鴨影自忘機　翰林國史院修官杜禎敬題

江貫道百牛圖

我本山陽田舍叟家有淮田數千畝江南依客老不歸此田

都為勢家有猶記小年學牧時日出歸日四我生衣食仰此

仰此衆父之語于百里奚飯牛辭祝席書文長跪

食考中解病黑牡丹利事是曾相識負郭無須二頃田一
隻栗尚能幾錢數口之家使可飽豈如北闕知何年平生宿
貴非所願城府近來尤可忌何時倒乘牛背照東風曉如仰
有官好而　北村八十二歲老婦能
桃林日暮烟浮白个鳥健得自由殺豕已無人已去不知誰
放復誰收　無所住釋善慶禮題
遠賈連車曉色昏傳聲叱馭度溪渾一鹿入百間歸角可憐
一帶官根卅宅義書曰　卷第四百一　十四
江南烟雨村　仍生題
幾年散放桃林後餘四百蹄猶可駿騰錢拙書多事在龍眠
唯有一疑之　白描
畏三群行四百蹄耕犁和罷樂相隨春深綠雨川原草比首
牧人知是誰　鄧文原
王孟端水墨小景
遠山湾合煙疎樹時逕日亭虛寂無人秋光自蒼茂　九龍
山人王紱
楊補之畫梅
艷愛江南楊補之每將尺素馮冰姿瞻香踪影渾如舊識英
標玉笛吹　曲江錢惟善
老梅誰寫小江南太極一帝侯二金沸川半籠清絕處恍疑
仙子臨塵凡　王安石
梅花得意先群芳野後自孤寒定我忙折取一枝歸竹杖
隨路有清香　都穆
春色到家園樹樹梅如雪枝底暗香清淨動黃昏月　秦觀
華表閑干長花間黃金細自須吃到根方識淡中味　梅道人
梅道人馮兼
一帶官根卅宅義書曰　卷第四百一　十五
戲墨
趙文敏白描明皇後行書歸來辭　題云大德四年
春二月吳興趙孟頫書　跋書歸去來辭與來畫乃作
竹石淵明亦愛此耶
唐銘生清晚高秋霜露時佳菊秀可餐安能為折腰
孤忠馮北郭歸興賦歸與舒余已之玉生幾枝孰謂公子悵不
樂盛人明抱卷三歎自嘆嗟非義服　姑蘇王行
雲林永墨竹一枝
二月六日夜宿幻住精舍明日寫竹林清風學上人并賦長句

春水滿芽亞岸生閒門山色上來清心日與松亭
想養性盡花落鳥啼風絮二日汎雲碧四笑二神座一宿聽幽
鼓喚得禁中醉夢醒　無住菴寶雲居士懶瓚　甲寅
窓前疎雨過石上晚雲生不是崇林叟無人有此清　雲門
山居士紳
之印
遠倚清風玉一枝鴻儒同老已塵成三生石上同緣在翰化
桑東白鶴歸　高城山人玉汝玉
以墨畫竹以言作贊名如泥影類如夢幻即之非無見之不
見謂依幻人作如是觀　丁巳　此處子戲語
曉出閶門首西山滿意青金堂有貴客為倚風皇俞
妙嚴
記得曾攜杖扉松對坐上落花無心未雜碁君子歸時
江南煙雨秋　程居士筆
寫竹仍題句僧房一宿奄如何書甲子初冬日陶峴　鹿場
居士覓元
清堂之雲鍾山下雲石山中有草堂之前森立雪石座具服雨
拜肯何妨晴嵐入簾類硯席暖空吹香拂書帙客來無七款坐

敬

四清閣老李蘭立軸法妙逸文湖州筑招亭蘭制記清祕清
掃作湘雲淨籟龍吟大翠脩健秀出亭之篇玉幹千莖森森
何必多老嫩風晴於地玩味苦節凌霜寒卿新稱用
高靈暗宅度珮環響壁月或照蛟龍蟠虯前立難雨得拖
春令人空憎之品題況有松雪翁從知價重千金直 長陽

偶和

息齋道人帝乙仙不上世之竹神猶全共圖為幹於枯北知
自持留千年事姿嬌清瘦如玉領我行都范園前汲泉便試
一帶雲根卿當底事

行藏茗一洗萬慮閒雲天誰知珍重此音筆倩來梁鴻傳可
賢乾坤妙趣苟會心似勝俄數寬一如時為老人畫鳥卷銀
鉤鐵畫如狂綠古來人貌謂子領城女色誰爭缺郎得
此貴書屋玉函參檢索何緣古人跡矣只竹風晴
過敲 徐源敬題

十年一見黃以仲來自為清風次手中許把芳立竹風晴
老樹凡數枝筠堂六月發清興呼酒酹此瑣林杜想當北老
擬筆跡其用在手意不知欲頓妙用竹神死手亦無用心能
之道人之心竹之根生二化無窮取松雪畫為而第詩書

中有決筏世師我因書法論竹法前理一致當無坡參中三
物總神俊堵境歸觀有城傳墨君什襲當秘惜風雷破壁無

無時 後學沈周題

趙集賢林山小隱圖

雪水秋風動白蘋高錢學士玉為人山林物外別成趣造化
手中殊有神宣其漢傳誰物梁京華高臥不換塵馬君錫圖
長懷寄莫負當時此馬真 宗白得此圖因之名號其語向
可知矣余嘗之不只附此一律所幸赤同作者中人自分交
重九吳郡祝允明志

一帶雲根卿當底事

蘇子瞻高石易長號齋馬米元寶畫精榜意復如瑣茲
小隱圖枕流林麓方高樹和木雅致松泉亦因名實宜矣進
云賜予屋溪山在屋上元水走堆堂前種花木人牧謂子領城女色誰爭缺郎得
白新釣船東小城市即村墟知子日出事堂庭語書 長
洲沈周

展閱三有契數物留待人金陵山水泉松亭殿傳神手亦清
揚口金門為吾臣亦北南昌解性世時理理仍甘布衣老供
號竹窗元可忘山治悅暇則琴尊劉雅高九碧堂稿文空圖
陳嘉永吾常

黃鶴山樵鐵綱珊瑚圖

鐵綱ㄑ得珊瑚枝寄與東吳范高士翠羽飛來毛羽寒石化青羊吐不起金鼎夜煉天地根閒門不識桃花看吳姬拂水揚眉起問種翠竹當雲根更有古樹枝參差白云珊珊鳥啼花落空愁人百壺美酒遙傾倒鎖盡春愁人不老却從天上仙人王子喬由來眼識大下士黃鶴山中出山去三徵不肯起罷裔樹老盤金根青門對舞白鷺飛新賜我神鎗股謂我九老仙都人閒花前同醉倒酒下人間寫易老百花樓中作一醉錢塘新地小天堂生范文正公和

一帶宋根卅六灰書畫 卷第四百一 二二

盃錢勢差起碧苔暗水流石根泥山花落空鶴春琴書几杖白晝靜何因致我廬坟人高平之仙非凡倒睡老狂歌不知老有約叢殼賦遠遊九疑舜堂望中小 趙章胡微次韻

王公獨得天然趣揮毫不效丹青士虛堂銀笑掃畫圖印封外家宅玉堂仙去今何人清尊却憶花前倒憂樂只應懷范公

老畫岡巒寄相思心參淡浩砌珊瑚小 安湖老人王士顯

武韻

建珪墨掃金花紙知是香光老居士風向高岡時一鳴龍從碧海僊飛起紫台應許點雲根與書湖山無限春上題詩句不減處南暗高下英雄人此圖當世似塵劍我亦唱驯寄語

老高堂落葉風雨驚不覺化谷雲霧小　沈瑜奉和

玉崖命和前韻謹賦詩曰　山谷峥嶸沒秋水虎視既已如

宵中看鳥三五聞風來下之瑶塔不飛起攻頭有柯蟠虬根

上凌霄漢中含春天疑老蛟出海成化作千嵐之神人眼觀

北固嘆絶到飛上秀嬪尋五老一等試聆湘江仙笙君望山

隔雲小　諸生張禮

僕既題詩于工與猶未已再賦一首寄於下方尚希玉座之

先清覽云　吳郡顧禄　鵝山老樵列仙徒玉座先生名

世士一時傾蓋而相得作画賦詩高興起欲飛寫竹數根

一帶雲根卅堂藏書

儻有古樹回陽春枝龍蟠擎風鳥能人食安

墨汁都傾倒盡山公弄米老貧史筆均每工粧未

成小

黄鶴仙翁寄余詩画兩畳前友供有和章期宋原玩珠則玉

閣照鉤後先真修篁望古木清趣不減在于忘慮閒也喜不勾

已余初效顰之後復得是詩以謝清公之佳貺云爾　黄鶴

仙翁有詩寄不已　尋常書畫士大夫山水固飛白飛隸地

蛟龍起人生如寄耳仙翁來吳文學城洲

洒二王九是風流人上仙翁來玉山側畫黄金數寒老更

期李白洪崖霞誰作壺中天地小　錢唐范立

泉石閒齋圖

中懷冰如水萬境猶虚空忽聞猿山語喜入東顔紅山中何所

有手種石上松茅屋閒無人如有雲氣封高館佛龍鎮地泉

松風冰崖暗飛泉杜絃如撞鐘群鷗心本在窗塵銷

詩公在要覺非有跡九旬注一妙政爾閒高韻執持去來影超

作真實相法水遠即與雲相從無心任變化泊然齊始終

杜風動江漢波浪皆朝宗雲帆掛海月所之五湖東　黄鶴山

甲樵者王蒙画并題

一帶雲根卅堂藏書

天竺日暮法師得青黒山王侯勢利相攻取明作東石間齋圖予乃題

詩公子為時行奉詔黒故山江船復東下為眠如飛流秋日照

平野天候時開山水氣出雜石崖大松高幾屋長松下清

音盡佛龍妙想寫定假白雲無盡期宋原玩珠則玉

白閒於過無取舍住無改在施使筆老能為乃知富世情獨

有黒山者安得永我身門前共滿迹　武乙卯秋龍河

宋仲高

三年深閉住春詔待黒山猿鶴舊知識雲水故白閒鋼斫成

妙緑為君寫真趣更覺龍香餘留將在世間　永嘉妙聲書

大德和元九月十九日清河張雨觀于泉
月精舍牧羊作山村圖頃刻而成元氣淋漓元
脫去畫工筆墨畦町余石和尚處主無山可明玩此圖為之
悵然而已　南陽仇遠仁　我家仇山陽書數株屋邨酒

城市間讀書學干祿井枯雲煙絕況復門松菊如此五十年
出不可復高侯在整留知我志生獨力寫陰居閒實溪入室
谷谷石壓危檐為雲養每來尚來仇池愛慮之在我日何哉
草堂資政翁飯不足視吾尚在吾居有時卜
我昔住七閩白發五載客戰塵白紵長林翁實日千里行落葉轉頭五十年昨
琥珀無塵燈綠曲折長林翁實日千里行落葉轉頭五十年昨
想正秋冷閒園意忽動悵悅生白執何年賦歸田初志豈所
悵懷哉復悵哉清愛鏡林樹　舟陽老人周密
南陽先生列仙癯箱住仇山雲一隅平生廣文官既冷投老

故村田已無唯留詩卷在天地清名正似孤山鶴我時拂角
山之徒每採几杖從宴坐百年家獨苦畫畫而我今亦容顏
枯梢霞龍望非投木泉用卷卷卷林寒無色瞻青墨重再拜想
見老明洗俗人生有情況乃感生死往昔瞻欲滿白海浩
渺不極至蒼茫一舉安能呼高仗筆力何所如前身朱方老
於兵故能胸次吐嫩整仗怪滿紙風煙起坐安得虹千為一峯
看我中間卧仗君其實之幻輕出便景未家餐為創句右
山村圖卷故尚書高克恭房為御史時為仇生先作于泉
月精舍合乃故淨州參判張淳原湖南之墳卷湖南即湖南
曲水史伯禹之大父也先生一為原湖南即湖南
餘杭王國器山村民柏霞館在西湖北山先生墓在馬弁
陽則草窓用公謹之別號弁山在武康治之先生畫師也大
德和元年甲申冬十有一當從先生出入諸公間今甲申矣者事
尚書得此卷以為觀物年重之玩感事物之非昔悵然于
懷以仗卷未應發覽者知四三君子文獻之徵也至正壬辰陽
月奮老泉五十翁河東張翥謹書于京師所寓是務軒
古跡尚書山澤雲烟條忽變化南天品卉生意畫筆入神品千金
正緣人間無此畫時來者尚「郁」注盖指門如索甫「仇池」先生

刘仙徒握手一见相欢如旧作此龙

柳西湖北山葬空阔旧处绿老树幻作此龙

坤就与斯人俱升陶诵书仍惜古修来宾馆多沿溯蛇虚

游老京国城祇不堂山人呼诗第生世韬晦二西晚白青来

玄英安舆旧是宋宗室多此丹星论稍相晤我诗公为修作

清赏未觉雪泉抚金典好事序空异石入修山翁

方寓此书四山村园荟蛟卷张承旨题跋二种皆此山史

天游得之携以见示物色前来阅谢不能无此石拔昔人也

蛟庵余故人也为次其韵附于左未不一一诗脚纪岁月云

一带安根井底蓑青

第四页二

甬 洪武丙辰长至後五日豫章浦卷来徵题

仇山有遗老白首湖水东堤菊隐家旧庐山庵当时杜陵人皆赏素北

堪与所偏好醉世间少责譬在空名蕭修其代闲不独北堂

木哈子孙柯公对此景驻日平生不识西北一诗足乐山

初元丁卯秋八嘉靖壬寅二月四日书于

次其韵 长洲文徵明

幸我隔老笑颜终卜邻住题谢成山水阁云高志节元

山村作老仇诗在已未受而和之予尝为邻住题画有兴予

果结束西都之句不一年卒临清卜邻宁非偶然者故旅北

时成宪合尊下后住庭祇合成画图留不住

相携留不住 邵桂题

心鳥難渝舊約湖山不改清秋人自與波上下我其辜歲使

游趙前詩意復得六言一首并書其後　覺上契翁
　　二印

疎梅平篠落雁飛斷橋斜日釣船歸海天萬頃杜如畫一笑

人間醉墨非顏元祥敬書

屋後書上門外溪頭絕塵淨錢君智者徒而後能樂此平生豈

三春雁不歸　君資深原父

曖水皇村舊條絕塵淨錢君智者徒而後能樂此平生豈

空林有影連山遠流水無聲雁來不知

一帶雲根卅字藏書

卷為四十一　三

閣畫與誰看　來南仲

長安春郎絕妙辭芳實特合翱川詩舟陽萬點實到此此

孤村又一年　丙午清明羅志仁題

奉題德鈞錢君水村圖　山色溪聲淡欲村水遠之所慶所

不到野老住偏宜碧岸疎柳茅檐知小舟歌似後

是少陵詩　陵陽牟巘

茅舍竹籬玉梅映前後楊柳水榮紆迴人定指扁舟路野客

應尋隱者徒　漢東來孟淳

錢重鼎水村隱居圖記　文繁不錄

四野漫漫水接天孤村林木似凝烟卓言此地無車馬却是

高人遠市廛　學生指理野堂謹題

竹三間屋安竹籬疏戴碧紗窗外眼前都是翠雲堆一月

山舟不出也曾水村高今木落遠山閒唯有平安信留得住

寒梅　晚家童開門看有誰來客來一笑請話舊共傳林

有客只愁無酒有酒又愁無客酒與且伴伯明日人間事天

自有安排　分湖許下無為與北詞同如今不是畫真在水

村中　延祐乙卯十一月十又一日郭薦祥題

錢重鼎水村圖賦文繁不錄

卷為四十一　四

一帶雲根卅字藏書

烏山梅陳水榮浦創烏高超逸設若中有為人生環堵晚風

吹斷蕙花舞　林宏

桑梓未能忘楚句琴書人已寄吳門倚天江海興相隔知是

文陽何處村干丈傳數題

鳧翁居士錢當為德鈞作水村圖余題云

亦有扁舟乘興人伯陽好山等屋外他年倘許我為鄰就還

吳興程棨見子昂此圖意象融會使人應接不暇又何詩非

德鈞能領會耶　姚式書于姑蘇寓舍

水馬百川橋路烏高群木西村天地四方黃鳥先生杜甫業

門忽有溪流向前繞過 吳郡陸柱

几何心 吳郡陸柱

翰林動寫清景概荷屋如何爰有前賢像使後學一笑如今

家在西園門 雨過風門掩落花牧卿過訪前佰人問不信有

張翰莫取吳淞宅向秦中看 汪祐丁巳中秋德鈞指此差

伴賦小詞為題畫美人一闋 楊鴻烈

錢重鼎依然舊軒記之舊

楊柳綠兩岸風前莫路急小橋通人家依約水西東舟一

葉移在華花裏 春景也江空好山青來了暮雲重是誰

笛起幾征鴻天欲雨都在西園中 小重山 仁和吳仕開

青山橫隊元水如玉蕭吳盧扶珠雲未亞耕夫漁

足勝法尚樂誰之厄有陳君子好古號書扁舟何人載酒

來與宴與知者愛作是圖朝川之勝千載與俱 吳興折桂

每憶北苑風流處筆底頃天雁秋影外樣修夕陽無一山色采

忽聽溪聲自當松何當明月夜還鶴與杜陵翁 吳郡錢良佑

幾疊山東松前一行住起汀沙看他水村屋望閉處士誰

家東從虎

澤國漁與定教翁不問漁人無聊物此日西扉修竹外

流水孤村深處茂林修竹人家知是逃人小隱於馬讀書五

柳東之東

此水繞村前孤村抱水前山閉峯不知何處高人住魚其

閒趙駿聲

奉題水村圖 蔣廣

舟棄與客高譚久日對青山 不入山林不入城孤洲容我
寄傲生平來與世群塵飛不到漁閑名利心無亦閒時有扁
舟意曲几茶破曉雲水烟村境元氣須臾回北宋神

贈中令古意 林寶

清溪抱村流第屋蔭綠柳天秋雁行北山翠帝戶扉能納者
誰子垂綸來渡口野情同超逸圖畫傳不朽何當從之住扁
舟落吾手 趙田伊

一帶宮垣外天多白下 七

雖謀田樵與趣閒由來家計在江干墨君圖畫能珠勝懷水
四圍平未安治荒閒雲低樹影蕭條屋數大雪林深夜色
猶堪愛寫取蟬娟設石難 陸承勛歌題

一水護一村風卷荷花十里香門
之

青山半遮近蘭徑古郊墟側住深且窈中有幽人居趙蘇門
半掩竹樹相扶疎平疇浴白鳧清溪滌綠蕪何人之高似
欲相招呼誰令破此寂鴻起雲胡可合會心寫成
圖掩卷空嘆賞修竹之水繞孤 陸郁秀歌題

幽人心地本俗然此境相諧二十年茅屋數椽依約外雲山
一抹有無眼前生意在林屋筆底秋風古輞川勝景有餘
描不盡歸鴻幾點落寒烟 聚山黃尚翁

古木蕭疎板筆處好山重疊水縈紆先生得漁樵無限
秋光入畫圖 建安黃 翁

高房山坡樹小幅

高枕木落天宇曠扉滿淑生著史每樓空月在地老蛟
夜護仙都境 老銭

過龍飲海海水寬銀河干載珊瑚寒真人醉臥時橫玉金粉
夢芳松華境 金果老人題阿翁

一卷山水兼古今 天多白下 七

老龍吹笛海波寬一夜湘君白髮殘笑倚松華境
明月護天壇 秋風鳥唐

房山畫酒初乾墨小水西條筆底海上仙人應投宅却在
林影蕭疎境 鎖廬先生在雲間時朝陽鶴真人偕玉笙餌
仲瑛氏歌酒見之留連數萃玉山名物淵
高高書滄洲石林圖溫雲如絕筆得者當永寶之以名物淵
之 有自來奉和并敬書卷尾云
高房敬寫山居 雲間周谷宿

青山半晴雨色現行雲底佛髻欲爭妍政恐動搖洗
廬汀動江色山翠護雲衣如何千載後再有米元暉　孟浩
修漢草色隔林中望隆雲上翠鬱重長憶雨餘聞鳥轉歸時我來生寬處不傲展
登相覓舒懷問何消煙履隨攀勞俺西小紅尋野趣　郭麟
孫服
屈曲登峰堆青駁有霧輕雲卷踪未高侯駒史清絶塵覺屐
公人觀不足　陳恭

遠樹含空煙群峰礎積翠雁之在外橋落日來天際高侯立
望心點画間之味我欲傚滄洲畫長枕筆睡　郭畀

一帶雲根卅宛義書

居山為書以清公絶俗之標而和同光塵之内蓋千載人也
慨居竹北暇日策杖隔南史詩舟傍于中地甘故事文章之餘
同歌之起伏變幻之出沒若有得于中地甘故事文章之餘
用以作画亦以寫其胸次之磊落者故因閑先以夕學所藏
為色山水　差後有里居賦詩居永日之紀尚書公之一
二仆次韻題画工云倪瓚　乌雲秋鶴夢知還船泊鉄塘看
我山珍重公朝重展卷吟詩作題北窗閒歲己亥六月十八
日也
高侯筆法妙天下跋得江南而後山老筆乾却未減氣與來

移入西閣間　沈存中石

雲山海上千里烟雨江南綠村元宋淮海維揚化南高所墨無痕　辛丙歲秋八月十九日　馬治

淮南春夜風景高堂蕭二雜人語户窗好客無與妖孤屐

描寫烟島放大山魚如獲釜小山蟹二兩張煮人家陽岸見漁舟艇子隨潮知浦口眼寒猶戀於吁魯鈍而

矩千里悠二亦表拙却高意行無窮阻閶閶城中光我家於事判門多峻拒平生唯有山水樂於我登臨每不許門能離家始決旬此物依然入來楚乃知四侯出有神未筯角事與

一帶雲根卅空成幸

卷為四十二　十三

僧住願君從嚴模築寺對青疊　楓糊山空雲斷得流水只八春雷雖二浮帝膚早撥百疊

萬里開江湖依然雖卷世第二在亦復新清述流蒲團無出仕史

意見明晦依晴日千變平生未曾識匡廬玉角芙蓉正當面

宅蜂香籠雲葉烟依稀夏夜澤分秋綠未石梅舟裏夏莊雨醒

獨展燈前卷問誰能事奪天工前元画法推高公已應氣壓

承北苑未合胸次饒南宮已矣北苑死百年此有房山

卷為四十二　十四

圖私本遺墨已無多寫奇托表重摩挲世間必筆爭之處耕

城時往不減高公何　文徵明

趙文敏重江恐峰圖

奇者長江險能生白髮泉百年經席畫一日画圖僧寺依

拍在魚舟白滿四壁松數株樹時有海潮來　虞集

雲事推三絕定情多八哀衣冠大卜士筆硯好懷開虹日徒

經行路沒地去回首九帝鄉客舟中元我家於君不見帝王家貴賤皆山川欽墨開湖共重江魯峰詩作

画來故留題雲錦亮又不見微身松雪森中叟仲約臨摹筆

鮮走楼閣總如出林新屬意皆數白雲飛不盡杳冥

百丈牽江入樊口雙旌幾片射蒼茫我時我為寫芳歌意遊則中

自是仙毛忘世上何許愁洲我親此史猶未化蝴蝶御風

们九州九山四海一時空鏡細費精神大

春雷雖二浮帝膚早撥百疊　楓糊山空雲斷得流水只八

萬里開江湖依然雖卷世第二在亦復新清述流蒲團無出仕史

筆本與俗工多錦紋禁山雲歸楼水鳥里杜老如龍指

來閱董散花禅別出曹劉新輪巧設圖我作如是觀毛詩陶

孔共圖兩吟和馬狗相人高驅象大毛骨論

所以知此筆別自能意後者問經祐胜高於樂和者の數

至順四年夏四月廿四日申陽松翁偉題并書

曠望不可極江山閱畫中晴空開浩蕩元氣闢洪濛遠樹帶
垂露孤雲出遠峰歸帆下吳浦海外扶桑洛海東黃河來萬里弱水出三峰帆影秋波裏潮音
曉寺鐘雨收龍入壑烟暝鶴歸松妙墨真名筆神機奪化工
古來精絶者誰似水精宮　石湖文敏公重江參岬圖

題畫

贈貢師泰謝病弁山圖

五言二十九年今留太湖之濱雪霽舟行溪上西望弁山作此
圃且賦詩云　弁山之陽兆吳與妙峰嶙峋望不平煥然仙宮
陸時下龍山所仰音復書雪花夜積上如掬來興行每須放櫂
平生不識五老峰且寫吾鄉一奇觀

題自畫

是日泛舟歸湖濱至夜雪大作且起賦五言古體一首　夜

寒夜

來天雨雪萬木同一凄飢鴉覓余起視五言古體一首　江行六月既深秋歸來已是
青山似奔馬著鞭稍風厭三江水聲樹色非即是何見山腰隱高
十年事看畫偶然思舊遊水驛溫故夢玉
李青岸滄洲有霜閣處人依然起　移此客來水驛溫故夢玉
孫弄筆何曾停北來戎馬時江湖千年貴恨歸事注　正陵

吳寬觀李吳曹所藏圖

王孫無運閑英雄卿拾江山藏畫中遠從燈燄見高物似有
涕決舍孤忠聲才高貢未暇讀一圍萬里知瀕封張雜劉岳
無其功入閣蕭相將組同王孫本號松雪翁能事錯詞學立

空閨門未掩燭飛花碎風萬木同一篇四野變其容恨深

公丹青逸墨二隱水其妙貴淡不數吳興曲瀕崖已菊皆

金山雁過悲仙由寫

七言律詩一首　得天字韻在思仙閣賦花比慧不才擬鏡
期曉雅人能改推窓三見六花開山中酒戶衡寒去城裡行人
踏雪來安得晴晴風日好竹林深處且啣杯
東雪可畏雨風律詩一首　階庭積雪勸酌物自豁二夜向
晨四望莫分天地色時逸書海山唐舜風不住經何事見
日景消市快人猶欠故交衆叩戶洛中高卧是前身
七言絶句三首子敏安得何為者自是相忘意最真千載安
二風雪夜始知梁興更無人　一冬飛雪又將春能說年豐
不救貧我亦曾閑數花手不知天女意何如　眼前能執動
一帶雲根卅雪藏書
成水東筆頭枯字不成獨生火煖煎吃細飛撲打吹寒
聲

雪晴知宮周清川和余林宇韻詩作九奉酬　亂山指雪劉
崔嘉對景懶無倡和才晴日當在梅花飲好懷余為竹林開
仙人千劫能居此衆二生始一來詩句相落吾手明朝
相約共傳杯
衝風催嵐落到仙洗來白鳳曾同渚素鯉初浮漲銀永花枝枝
千樹水谷蛩蛙洞琳宮隱不見安重對桂棹舟子程寒烟行
人識晴凍長松偃玉笑山空鶴夢　升上樓望作九

踏雪溪頭天風散花女巧能
助

雞外滴滴水流竹西花草春來處爲相問生能日一日
不鳴山更幽　仲穆

翠玉叢中在屋東主人號作竹四節品題英說楊州夢好當
雪閒人老中　山居自人楊維楨

鐵衣道人名季輔楊第二甲進士官秘書監著有竹西志文繁不錄

雄宅茅居在竹西風林宜月影春日聽管聲東老應同樂南
隣憶舊遊東風又吹笛相與及盛年　石外張雨

楊子宅前好修竹閑看萬箇碧龍來許高人倚滿掌吹爲數春山色
一卷雪泉小集圖　第四百二十九

庖盡玉芽茶白戎問來北苑風味好時修竹西林培植共化功閱歲
川去杜杖尋君又日斜　扶風馬玉現

理紫紛之暇凡日子猶課僮灑掃竹下以爲常客至則茶於竹
亭之石玉穀之老筍雪餘滴之數竿烟雨足高枕幼節
君子貞孤堅雅韻幽人獨深愛一勤殊不到滿地漏陰清
嘉生平不作千户侯自欲素雲支案百年成異物西風
吹淚寄新愁　聲振用章錢鈞頓首書志不凡詩亦工清苦何
異貧到骨當時有古人風　倘璞盛世松鉤釣徒壬寅九月廿日登
澤堂館東齋

當時筆老貞期爲作園亭看

唐人畫竹推絕倫翔川真為竹傳神筆端拈出鉤鎖法片
商略湘雲春琴清亦得此君意金錯刀成世爭寶數葉蕭疎
玉一枝鳳毛龍角誰能辨張君畫竹何人傳落筆往往到綱
川住人天寒翠袖倚滿堂烟生風物平生跌宕不羈逸趣
南空山與凡夫長松古石挺和親九霄北君情更遠大錄劍
為張顛書高妙自與等人殊我來大叫數公畫手探得驪
龍珠君今騎龍躍雲機百年真迹絕世無誰從何處得此圖
重價自合傾名都我來乃賦長句清成掛壁江南秋相
如意搔首時不如攀折翁孫松樹 永樂己丑秋五日手拂

一幅空裏非空色

題詠已富又不容辭奈賦此殊自媿也雪城山人王治玉
識

太湖山石玉瓏玩健寒依松白足寒明月滿天珠珊珊警夜
露冷聽飛鳥 海東柏考槃依士安

吳雲善寫斐鈎竹惟懷欄臨湘江綠醉來亂寫金錯刀雪出
千枝萬枝玉和疑珊瑚出洛海又疑珠在貝齒擊鳴聖和
閩風之間耐何許此玉樹交柱柯虛疎九夏簡韶樂洛岸
有百丈王作畫至和塞天地成此千仞瑞羽惠白雲

申落有時應化來翔二鳥君重賦茂陵篇 成化二年夏海
虞劉珏以明仲貞卿友顧志行用以舟游訪予松且小飲
吳雲先生鈎勒竹一卷予愛而玩之留踰時題一時以歸之
冬十月朝旦瀛洲遺吏錢溥題

乃不見古來寫竹知幾人惟有真清居為我側目
聽我今作歌二貝像虎人作品能第一精妙猶數王摩詰
知有龍古書法却對簡堂寫兼從米後出蕭悟律度空聲
翰林學士吳公居士欲得之為作長歌更以屬後畫者云
不問頃有湖州文仲為使君寫竹數百載神契此竹傳其神

一幅空裏非空色

自予生少知者唯有蘇子瞻黃二學凌雲當時好事對諸石
不暇論載之畫譜何紛紛我朝豈亦無作者國初以來誰復
高尚書高公生古英風致不在蘇文下其與復出松字前成
仰之石大溝洫急瘁父子俱解此筠二聲名在朝野并在先
生與秋閒閣書古跡天所假高畫竹葉葉小要比野崖之
枯瘦而少精神畫竹葉中之翰要比與崖之竹曲而嫣柯溫竹
葉葉二異要比簡葉之竹肥而光木畫竹葉葉二繁要比桃
枝之竹秀而好乃知竹本無一類作者隨机各天造所呼數

手各枯槁我依從之生不早清風散落天地間當此蕭條已如寶往時復有張溪雲書生臨池常於二竹葉長枝出處表煤筆濕筆縱橫掃重介姓氏留二吳尚賢私署在焉其神先生今更能夠依倚名俾峥嵘參公相國家世好沙果摩詰之雲仍爛研細墨工畫竹不問雪格更妙繪事生博古能活筆城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金華城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金

華城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金華城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金

華城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金華城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金

華城之南結屋幽清軒公閑高辭時有野客叢山僧一帶回來共成三友多回一日程雖云不受相促迫腕指曲折悠時序君家本在金

歷朝書譜

名人題書詩詞墨蹟 都在廣編書畫題跋記

京口郭天錫雲山卷

錢塘 倪瓚 撰

門有方軌容車地遶叢山我非求道似故來愛幽閑家樹繞分
湖高堂住往景行高絕世事紛老屋三間 天錫詩書畫為良
工人作

飛墨乘從每岳卷春烟靄冰景江南綠蘋洲晴鷗白不為
一卷山水兼并之及予

伍人一解驟 高頌何須弓矢獲歌以南山色硯池波長髯頌

錢塘 倪瓚 撰

楊琳狼墨為作飛雲在硯間 盖昌鄭元祐

人作字每即古筆擬太其處可唯要于法外出新意變化

與庵為神奇襄陽画法妙前代千金一紙爭購之郭公外書
有能名亦復爾之如湯餅今觀此帖始悉真氣前老蒼然俗

盖昌鄭元祐

盖高峰碧嶂在烟霧令人益重山人期沃州天姥只彷彿支
公寺為秋鶴飛梅色雨屋筍與小悟得前度事攀躋郭公久

矣閘泉塡此幻不減留蒲苔前身大白四乃是句法酷似金

山詩 右題良禄人所藏七友天錫先生青山白雲圖者是

元丁丑十二月望松陵釋祖瑛

萬壑青山萬壑雲水邊烟樹隔孤村依稀南岳峰頭住未屬

三間掩掩門　檐拿釋若舟

雨後山光外奇峰蒼雲深三樹翁才子衣鉢妙絕時

襄陽米虎兒　天泉餘事

近山江南邊江北旅食作揚名客春風紅館利新地

莓苔滋翠色殊林日曉集晴鶯紫門靜掩絕俗譯吟心悄

不自得幽棲抱膝吟對霞飛鳥閒門唯聽歌門來自起開門延客

入乃是故人素相訪袖出一卷快然看我主客問酬

一卷雲根卅堂成予是日

恩滿懷清何拘大小山高皆自美流小山徵述如歌衆名流一

帶石城連峰擁地白雲多結屋限盡待茶樹斷梅香水籠

烟籍白噗平生愛山水放閑抱玩情無已喜我他年數事點

鬱結等屋烟雨裏　時至正丙戌端陽後三日雨山　漢拜

手謹書

南徐景物天下雄自波亭峰閒閭中峴山東南米老屋室今

住處留題總峰畫戶日與對扁落元氣堪心助社閒意定

得真理住之健筆收奇地出塵絕俗胸洒可與李范相當

同阿曜筆石倚杠鼎天機多絕念丹朝雲冥樂晚滿就本

金一斛瓦難求郭使北典實肯似歷足萬里神尤工遠峰隱

霧互疑此古樹帶雨流空濛水湄烟樹隔孤村依稀南岳峰頭住未屬

相逢山深路斷人迹絕惟見老屋數株林東窗幽極勝子未歸

耳畔得之生清風快然置我塵世外奚啻迹異鴻願師

此卷重珍襲抱琴他日來相從　三山林逸手

山水高深樹石幽幽鳥相呼起泛舟何處門生我衛第下問看

白雲真自由　茅齋靜石硯點松新畫重張容畫物半隱

幽山老萬壑千岩子不如　中山湯銷和

郭翰余所愛詩畫擬名家卷中一一又題臺北五色霞光顛船

每泊陶令酒能盡稱情相遇清夜裏茶　天錫拔郎與

知交最久不別忽二十餘載今之恨之如何可言錫白河

河上公元遺翁錫鬯公正精舍其世祖曾多結廬限盡待茶樹斷梅香水籠

居武肯於兒之宏類如遠北風景異鄉余之故鄉乃若與

鄉矣不踏吾土亡已十年回勝向徵君擬比卷中所生之屋

玩賦概再和之其略曾相與之所以者其中蓋有不能自

已也後重慨久之至正二十三年癸卯　仰十二月十日夜

笠澤烟中處仙贈

向翁郭元錫歸過吳中山白度朝

金一斛瓦難求郭使北典實肯似歷足萬里神尤工遠峰隱

霧互疑此古樹帶雨流空濛水湄烟樹隔孤村依稀南岳峰頭住未屬

相逢山深路斷人迹絕惟見老屋數株林東窗幽極勝子未歸

耳畔得之生清風快然置我塵世外奚啻迹異鴻願師

此卷重珍襲抱琴他日來相從　三山林逸手

山水高深樹石幽幽鳥相呼起泛舟何處門生我衛第下問看

白雲真自由　茅齋靜石硯點松新畫重張容畫物半隱

幽山老萬壑千岩子不如　中山湯銷和

郭翰余所愛詩畫擬名家卷中一一又題臺北五色霞光顛船

每泊陶令酒能盡稱情相遇清夜裏茶　天錫拔郎與

知交最久不別忽二十餘載今之恨之如何可言錫白河

河上公元遺翁錫鬯公正精舍其世祖曾多結廬限盡待茶樹斷梅香水籠

居武肯於兒之宏類如遠北風景異鄉余之故鄉乃若與

鄉矣不踏吾土亡已十年回勝向徵君擬比卷中所生之屋

玩賦概再和之其略曾相與之所以者其中蓋有不能自

已也後重慨久之至正二十三年癸卯　仰十二月十日夜

笠澤烟中處仙贈

向翁郭元錫歸過吳中山白度朝

見龍神女駕龍圖 義道無窮意江流杳渺間 江浦杜惟敏

元擊鉄簫南越持北向東方題乃涼日即六天錫所臨未來

筆法又書五言絶句一首於其上時惟敏將之永平司訓

用韻答風流翰情見乎辭 洪武三十年丁丑歲八月既

望勉白在書雲軒寫

書濮翁山居圖卷

山居性愛靜白日掩柴門喜鳥不相猜野花開更繁松風

吟細韻溪月印孤痕安得忘機者同盟水石間 余少年時嘗留

湖濱寫山居圖并題詩於卷今復觀之增感慨之懷玩風

一帶山萬壑泉千尺松下清樽坐琴書自在 余為四明

唐子畏作畫并題

春意何如梅之有 吳興錢選

鳥雁集平沙松杉映水屋山中無俗客何是仙家 東當

門前野水可通漁雲裏樓台是著書好山臨北郭西塔

幾棲西湖居處接白蘋紅蓼外和月笛聲中 乾隆甲

午仲春

摇落早梅花消息近何如 制河楊慕

山林之樂樂且閑自人卜居宅半間庭樹高於柏和風淡

科處溪陰之穿細路斷斑竹林疏陳跡微波第頃

白沙天雁陳鴻飛群落雁數聲歌初斷酒鳴鼓少頭人回竹葦

山高鳥不巢水清龍不住空然見此徒故為模糊
想稍都不見上下有雲庭願我三千歲山中學服花
大雪壓茅屋縣官誰得知應知仗杯酒貧白石使宜
閒徑便見竹對人開始詩冷二月梅鶯仰正果明時時
若枝菊酒端枝頭行客村前醉不休斜出短墻看正好不施朱

秋向風流　梅花

雪鬢冰花涼氣清曲闌疎影暗香輕一鈎新月風簾外
名人畫底　菊

一帶雲泉界水香　朱易甫

誰道紅龍夏日芳獨留黃種小秋光五人竹園閒不住果有

半露宮粧　秋葵

老葉擎黃杜歲華佳社點三爭中花無希蕊蒂仙忠勝豈爭

新富貴家　山茶

一帶雲泉界水香　朱易甫

舉傘多如引風長點破銀花玉一雪有韵友休知人意好偏能報

解內寒衾　玉蘭

別枝叢中開名容令風色露淡交濃更獨得春香有都詩

三葉蘭紅　萬蕊

高擎桂子沿衣冠爭住人壓裝黃鎮高蟾宮公得種作朱人

月滿庭芳　桂花

學前松密王成叢風雨枝頭烟雨空蕭管一聲人未寢滿林明
月淡清風　蒼竹

老松庵南舞為此萬壑泉三泉引流繞仰正果明時時
林幾春秋　詠松

萬里隨陽雁寒長空江旅來綠秋香叢桂發花月白帝更罷啄畫
汀一夜霜　蘆雁　長洲沈周

文休承題畫意

畫家閒暇書書為下筆書麻點來翻腸女解吹簫處業添春
兩兩風扶步拄何須長倚為洛海有所逢　文嘉

一帶雲泉界水香　朱易甫

莊梅白是長生樹　熊門百歲

駐到仙家　許初謹題

次韻南溪色山水

題俗此無俚地名學古住深松在六月江閒有船吟葉村詩料
就南山亭白長何須學絕見此地
來風一夕至吹散寒花落春杜書鶯啼千樹殘碧杰山館
靜白萬過衣寬飯後吹新政蓋館

流水眼中山　徵明

山高高控鶴蒼壁白有芳雲時考釣百尺水簾遮不斷月明

空夜寂靈　陸治

文衡山畫山色幽絳

落樹枝疎帶亂鴉蕭齋只伴野人家秋風一陣生竹雨

淨火看茶日色斜雲時弄笛聞鄰舍雪不成花庭中森物影

盡攜有客松能嘯　春雨廿又七年七月十日徵明

虛白檻外水如煙雨晴倚檻不覺船北地人家論王屋梅花

開日是新年　周天球

一帶雲根神當蔵書　卷為四二

謝樗仙山水

樹林重泉雨氣涼石危飛瀑響幽牀杜陵新詩漁家傲竹笛聲

傳到草堂　樗散謝時臣

惠峰駐首雨高樹石危風水墨傳神妙筆仙述石前　陸地

彭年

雨過山含翠風搖竹帶香一塵俗事都忘却去一壺酒

鄉雲來覆竹

閉看脩竹過鄰家翠色娟娟亂發芽數梢何必繁陰滿但得清風日影斜

日西斜　竹有清風石有奇風石有奇風竹有清風兒童莫道勾引此中來笑讀句讀梅

花老何妨吹滿月滿袁　祝枝九

雨過山含翠風搖竹帶香一塵俗事都忘却去一壺酒

麻盧嵐漠供拔扳帥詩與百年身　高房獨樹天邊趣怪石

幽蘭四種情與天王維成老湖只從筆底看秋聲　徵頭古木

經霜葉下有碧蓉村田依向晚秋畑共秋雨洗光一派入柴扉

東風吹竹滿前溪竹裏深路欲半日雨多泥滑不堪

新鶴兩三聲　竹不應泉松間琴為樓日三有餘清雲東流史

盡攜有客松能嘯　春雨廿又七年七月十日徵明

沈石田畫山水小幅

俗汗妙處不可學古木幽篁滿意清我在後塵即跡筆水痕何

處是何生　沈周

不見俗子今百年故山安有木偏全

依然見古賢　龍菴吳寬

清絶俗還不可攀能將水墨繼前閑誰村斜日茅亭外一片

江南兩岸山　文嘉

枝扇喚與俱客來詩歌家業在天執發所樂淡如非人故　孚

仲圭得已然筆意墨法又能軼出其時悟淡當時可謂
自能名家者蓋不得之妙非易可學余雖愛而不能置其為
一閒為此悟生法自不足觀倘即郭人學步而併失其故矣沈

閒

姚綬 卷題画七言絶

山中習靜逸紅塵朝夕惟於木石親昨日渡頭春色到東風綠
水又繞一 紺園疊疊出樹杪山半斜陽鐘磬野窓乘舟何
處去望穎州上水波平 吳江錢竹舟常熟乃一卷何處野
迹宅浮家興最長世途空說有風波 楊邨風急水不收船

我酒樂如何浮生百歲閒春蓋青鏡年來髮易斑 松枝挑滿
鐙頭春石路崎嶇足苦辛薄暮投山舍宿城中重少得炊人
京如箭笠安溪口日似銅鉦掛馬頭但得有山兼有水白來何
處不宜秋 蒼洲老樹碧山前秋來落二一釣船昔日西陵非
俗士東萬庄子在藍田 公趙

沈石田雲山小幅

看雲疑是書山動誰道雲性自閑我看雲山十六我閒來洗
硯溪雲出 沈周

湘君山下樹雲動樹中山一片樓臨影相看凝淚 西厓

吳流泰雨意樹色看雲歷雨數雲歸鬢微注見遠岑 陸師道
雨足日生色五雲滿山餘數重時有炊烟出樹中多隱士高
僧 陸叡道

文徵仲古木高洗圖

春風萬柳弄鵾黃宿雨書原細草香快意人生忘去遠山偏
向翠屏張 徵明

閒往閒來獨和歌柳花燕子水微波西湖堤上平如掌一
看書教白髮 居節

文太史放逸筆

平生最愛林雲子點寫江南幾後山我古馬中聊數梁隔江山
色有無閒 徵明

倪迂棟致令人想步杖即幕轉線溪筆跋要自存蒼潤更法
溪頭人有無 祝允明

山寒有古意未落見清真不見倪迂畫誰能經後塵 周用

項墨林小山叢竹

龍孫老頭和伯仲風光最只數倪迂應得滿堂蕭瑟意為寫
春林活石圖此張伯雨題雲林畫也豈林最似迂翁故書以
題之 董其昌

青山隱水將水映樹簡舟晚更移一棟茶烟徑宿客無人知
是陸天隨不襲着衣坐野航白鷗汎水帶殘陽渭川漁父休
相妬只釣銀鱸不釣橫 畫畫溪山卷畫亭水風吹戶不自席
荷花一色烘雲錦圍着仙人自醉醒 青山長竿白雲碧江
暴映綠荷衣雪將此段閒風物應換人間果與非 詩筒採得
雪中天書屋梅青伴陳窗眠忽見騎驢客詩裏湖邊
夠鞘帽微雨初收陽浦千山翠欲流有約吟詩過橋去風煙
相目杜城秋 山齋南望漫焚香几淨窗明竹樹涼仟里松
一帶雲根坤水義字 卷第四十三 十四
衆色一事自翻殘墨寫病湘 雪霽日午洞和醒殘夢飲香入
砚屏小株吳越雪子點南牖寫黃庭 二年紅日一座香
山鳥聲中醉夢迴千里迫人猶未起年來白眼向紅塵 太湖
石畔種芭蕉色映科宮碧影搖痩骨主人清似水孝養奇貴
閒梅
青山不是世人自遠青山竹裏筍子清風日二間 其一
山徑有宇閉蕭然竹村閒徑無一事靜看白鳥飛 其二
江岸掌論二王雲亂眼銀無杜等屋底清欲讀數經 其三
日落峯山紫江深草閣夾等時得住佳相對倚南闌 其四

陽心處只許張家明月知　徐鉉

掠水穿花元自異江樓勝主額勉池二夜馬涼州月前笛

精映白曲雲第似樹東風舞梨花雪全清笛須知天上

瑤瑟調不入人間鳥雀群　周山鍬閒

雨香泥閉長芳草鈎掠衡烟迎不群一自王敦隨羽化誰將

銀剪恰春分裁紙潔裂作雙飛入故人

乘御史草堂何處語戀動　高陽許初

天女春衫舞社日竟寒棚月皇聞經營半入泰山吐玉治

伴臨漢苑迴直取雲言供作賦更將月舞招飛杯千筆好待

韶光發唯是招歸業統同才　王宇

秋後若池春影飛荊門春盡雪初都王孫陸閉帝年見天女

訶庭昨夜踏彩勝迎翻銀作裙湘雲碾玉為衣常不換如

泥伴遠愁移書海上飛　彭年

驚鬼云何故態非雪銷玉骨世應稀越裳雉尾雖足乙海

鳥頭優使歸亦入梨花難識舊池上下飛　三橋文彭

涼州路住蕭差池上下飛　三橋文彭

擲水為骨雪為衣裁協春祥製舞衣翩翩欲下風高襟協春祥製舞衣翩翩欲下風高襟

自見烏衣門裏客身玉樓殘樹拍手歌

虛彷月華涼娟好當歸湘簟落雪陰春深白晝上下舞詠後宮

臨鏡看紋頭摸玉郎深藏　包山陸治

望成翻似下初疑曉窗滿月暮

烏衣是當年小院風輕蝶去沒洛江日落亂鷗歸也知自惜

李毛羽不向集門汗漫飛　休承文嘉

當景瑤星散作雅差三玉翮月宮來稀疑料翔雪天高度似拔

楊花塵北歸若謂井書員幸羽寧教清夢入烏衣人間不貴

北平瑞好向城丘珠樹飛　莫如忠

映日穿雲院又非瑤光命駕化生稀水晶簾箔題詩入金壁

釵朵去不歸笑舞霓裳婦緑水於翻玉剪製春衣江南楊白

多情調洛浦相見未真
差池素羽度銀嶺亂入楊花拂短墻神女注意瓊作佩天孫
月下玉杼莊度梭多愁更珠樹鎖語佩鳴鸞思梁春色上林
棋自媚翻飛衆欲向昭陽
每上蓬恩拭淚梁御溝東畔幾迴翔理事不易題無影球樹
魯樓半帶霜風裡差比玉兒月中歸來群雪裏元京洛
淵慶化猶是幽恩緣律章
毛鋭媚
改國理雲事已非猶時王謝只應稱月明漢水初無影雪滿
錢穀
梁園未歸柳絮也應香人莫梨花庭院令從衣越家姊妹

福泰景文原韻
吳相如莫向昭陽殿裡飛
沈石田有竹居小幅
小梅溪路有衡門水田殘雨人刺水田殘雨綠茶來熟一家春
乳竹雛啼 北予有竹居即景詩也畫亦蕭疏不知少
鍛盖為天泉涅之而留其跡觀者無深味焉
陳侯衙廨宅水盆邊鶴瘦元非病人問即是仙詩題
竹茶煮石根泉老我惟琢放新閣鑑已然 戊化庚寅夏六
月五日過啟南有竹居為作小山水小幅復題思詩于上後四

宿慶忠精舍天泉出啟南畫幽興系以前詩蓋其白陶觀者
幸恕予懶完卷創作美書
風生客舟終日行三里餘溪知有竹處便是隱君居詩中大
廬畫酒後老顛書人生行樂爾世事其何如余與建美同訪
啟南知家有竹別業而舟逆溪風而即至酉乃達主人愛
客其一喜出所有圖史與相晤語成月云成化二年長至
日天全翁有貞書
放筠盤與句生折地有餘平安雅此著心性愛如君玉臺殤
成忘為潔自入書不名官可教屢話豈能如 秦峻書

東亭風動雨時候水餘竹梢遷春閑竹便移居君子敬
其溪時人新構書齋宜徐清筆交往極事如 温州郡君文
林
繁村高柳下人是十年前為問徐元非病人問即是仙詩題
米畫蒼古盤高書齋常詩題在壁風流欽不如 業余訪啟南
一宿有竹別業今復過之不覺十五年矣偶見閣老徐先生
二作為次其韻以為其地味是日舟其子維時出南七文等
并李營丘筆北苑畫為玩啟及之成化戊戌二月十八日吳寬
書

住無一合遠交近攻華竹術墻種梅屋水屋梶川高
士画山谷老人書況有天仙句果勝百不如　古里錢仁夫
画在大癡境中詩在太癡境外松好二百年來翻身出世作性
石田沙彌說此偈子山風溪月楼中汀柳塘一一點首同
功德無量
石田古松
池氣厚培千歲物雨痕深浸百年苔
中秋不真　長洲沈周
一帶雲根井堂藏書
卷為四之三
石田題画
鶴突影山鶯穿雲乾坤雙眼坐難分百年世界準如此笑把胸
明月贈君　沈周
桂山題画
松陰攲一鳥如水草色算二秋仆苗六月越居如坐動水多輸
與納凉人　徵明
平生最愛雲林子能寫江南四後山我亦南中卿數梁溝江山
色有無間　徵明
石田富春大嶺圖
執筆從無以詩自誦不工爾八十翁沈周
陸包山蚊蚋花
蚊蝶枝頭各蚊蝶相看應是此花身
香拙近人
石田五柳圖
花到開時為杜鵑高地芳金醉眼中千古閑沼音徵士乾坤窺
在此雖東　弘治甲寅秋九月望集數卷東左作此　沈周
一帶雲根井堂藏書
卷為四之三
桂山題米南宮雲山
寒陽松滴未曾新十里滿枸五六株一笑會心無盡意為君
節次雲寒若干作點垂天勢出奇頭石天平山
萬年山堂下高中觀
吟詩寫画似無私不向他人被裏眼生公堂前點頭石天平山
上白雲泉　弘治己酉天地樂老住蘇州脚踏龍蟠仙人衣半騎
龍去未忘時窺石窗丹雲伴鶴松青石野水花肥點碧荷錢
樹根一坐空山老不許將人問歲年　癸未冬至眼昏如霧草快笑
石田富春大嶺圖

人間品有天想得非仙亦非凡田山風雨擬新脫

石田題画

野墨淋漓興未闌滿堂煙雨生寒意人不托梅花賜仙骨全

倫董已毋　成化辛丑春日為楊掌士掌吳仲圭竹　徵新詩圖

并題

唐子畏堂上淺白頭圖

每常牧上白頭公頭映花枝轉覺紅恰似老夫當此興在斯歌抄

帽領春風

唐子畏草閣圖

一卷黃庭神字爲寶

五月江深草閣寒　藤門唐寅寫贈次明吳君

唐子隆造化終語界

亦忘造物還復情願子飲光怪以俟蔵月積　七閒

子且不試藝西村問隣沽客雲而典雨橋物何由濕空山來

者稀白日成嘆惜唐君汗四師英筆徵予積　吕紫次韻

陸叔平鵝鵝

池上文花鏡裡飛翩華都映彩鶯風前浪語傳心緑毛錦浪香　色山陸治

唐子畏題画

紅樹青山飛亂雲白茅茂屋俯斜曛此中大有清遠處難說與

乃西與君　百尺杉松貽地青石床衣和二影人室二空山安笑人

辭絶跡虎中間語遠經　白板為誰隨者居家常脚辦一餐魚

平林落葉行徑時有鄰翁來信書　高泉落周玉深二怪石

烟起似林龍書卷滿前芝滿地吾能北處著吾踪

陸叔平海棠

翠羽朱冠號翹鞚的衆翻床翻花秀人如馬東風面斜跑歸來

帝子旁　色山陸治

東風吹墮胭脂淚散作妖花一樹丹可奈五更清夢斷杜鵑

一帶雲根卅堂藏書

聲歌雨無寒　陸雲鴻

錦城二月春霞和倚東風兩岸力能無寫陽人不見斯粧

粧牌碧蝉紗　顧聞

石田竹石古梅

老夫平枯春不生特寫梅花借春色一夜珠作宮黃謂窮

儒後四壁桃花香花惜可看十人萬人未賞陽看梅何獨兩衰

翁不作枝葉在觀德江南時見客滿林北魯無半指白雲圖

便可似北人抱玉泣三要平識　吕紫次韻

乙巳白跋画卅二幀

唐子畏画并題

白日偏于靜處長軒窓虛淨覺風清兩人清話當何事水流山
經細較量
平頭梳子鏡中過髮時猶驗影知淺梅乙水月丘僧理飢惠州強
飯笑東坡　沈周
文衡山號玉圃
虛齋坐深宵空聲送清美雜佩拄天風孤琴寫流水尋聲自何
來蒼竹在庭北泠然如有應聲再相訪唯竹聲哀已佳吾與亦
清矣誰云聲在竹要識被由己人清心修竹瘦比君子聲入
心自通一物卿彼此伊人漫未聲己在無聲裏不然吾自每竹
一帶雲根卅堂藏書
卷為四百三　二〇
市自竹日雖日與竹居終然親千里請看太始奇意入等也兩
里中契家生文徵明為貳尹程文画并詩
石田廣山三檜圖
昭明臺下老鞋聚成仲祠前石路迎老去登臨詩興在傳在山
水喜重來雨乾草愛相扶緩春淺梅條更綰開傳取吳朝檜神
去柚中疑道有風雷　廣山至道觀有所謂七里檜者相傳為
梁時物也今僅存其三餘則後人補植者而三株中又有當
震風摩尤為說異真奇觀也　成化甲辰八日況周
陸包山烹茶圖
茗外寄無當琴中饒禊音一奇流毛骨為參閒靈襟如寂寞水
天月圖破琴琳餘音與遠味復矣滄忘心
草綠江南興已催月圖今復試新裁知君善為春山雁處草
岡頭帶雨來　為錢子正友人賦
二十三年癸春復與同試陸羽泉重顯乃為歷乙亥二月三
日也而余已八而七辰望書此以紀歲月陸治識
一帶雲根卅堂藏書
卷為四百三　二一

六藝之一錄卷第二百四

歷朝書譜

唐宋名賢法書墨蹟　　朱存理鐵網珊瑚

唐歐陽率更千字文真帖

仲尼夢奠之年有一周八紀仍不爲百歲神童之譽然五
牀性載篤數枝歸宜成紅有得傳信者未有出而不老而
千紀形歸五墓神還所受痛在辛酸何可熬人生恩秋影
隨形必不差二

吉

一帶山樓秘笈書　卷第二百四

郭天錫趙孟頫二跋俱見前

唐歐陽率更千字文帖

新唐書曰子奇年八歲齊名使理問既行齊名怕之莫人通名
及者子奇必能理阿美美載者自言子奇至門踏其人門扉
踏破閉門拒子奇題其破處答曰欲見君家人耳子奇即指
門扉曰既不見人何不速開答曰門扉不語安得破子奇即
指其口曰既不見人何不速開答曰口是禍門不開安得不
破子奇乃出

私奚戰之逐敗魏師

吉地靜勝老人引本觀

慶山黃石翁觀

郭天錫鄧文原班惟志三跋俱見

於角人

此歐陽率更所書千字墨迹先後筆意具在善學者孟有考焉此
改元武森於丙十有一月書門吳子題

唐張長史春草帖

春草青青千里萬里悲城客日見能者清如海上二年別不寄雲
間一鴈背　張旭

歲仲觀於東府之史齋元祐七年中五月初吉

路之記水晶宮之東軒之北窗下書

師林觀於地府之前廊元祐丙年六月晦日

一帶山樓秘笈書　卷第二百四　三

心畫之妙此帖見超脫可與歐南仲校書

杜甫觀於城東草堂之山堂清秋之日會客

長史書法皆同其名不見其字故杜詩云不見其字但見其
爲字乃出於不用力自事有合定才不可強

元日梅山拙逸題

秋高門閉安閑度記長史真跡書

至正辛丑十月十日伊吾吳睿觀

於角人

子159-351

有力自紙字方銭許大金肖碑刻允南妙語寸五大字筆力
不及自紙此劇中使帖字最大觀其筆意點畫如見其人滿
有閒捉慨然欲起之於真希世之寶也時於明熙寧九年
之餘收卷二款後之學者注意焉仁廟主米芾所謂之會和手下
逸也　中常用東坡硯山谷書戒臺或書大勅等齊
北燕蕭成仲山觀

針手把玫一則見前

唐懷素自序帖　唐大已載

大中祥符三年九月五日前進士許著題

四年嘉平月十有八日直集賢院李建中看畢題

昇元四年一月日大府卿使銀青光祿大夫御史中丞臣
邵重裝背并跋副使知宗正寺英茂書勇之孝宗官檢校工部尚

書王　題懷素自敘老後

狂僧草聖絕張顛老後重題大曆年提起倘門名實武功
紹聖三年蘇軾跋紹興二年為村政所見

家世父相傳

大字大師壯行記時至和中作南廊

草書有妙理惟懷素為得之元豐八年十一月廿五日蔣之
奇書

崇寧二年十二月十五日觀御府墨妙南妙語寸五大字筆力
雄老方跋雖時代雖轉徙江湖閒猶能致意於此可見士向
又復觀伯考大行品題仲父嘉數紹興二年仲春廿日陽羨
許琛

范氏自敘所聞多矣有如自序之精妙筆法之龍蛇建昌
太史王子貞見五日永之行文累晉問觀
今時夏日與劉延仲昆弟老都統太尉王公觀法書名畫
如行山陰道上應照人目始不可吉見知兵火之餘珍奇大
都莫此若也因見辨老素師自序一洗累年胸中塵土是真

安舍紀與二年五月十二日趙令時德麟題

洋老藏懷素自敘凡有先人題字為紹聖二年謫居馬安時
如部叶倩仲書也不知流傳幾家入至鄭老紹興癸丑三月
九日逢親於婺女馬軍橋潘氏之第

紹興癸丑二月廿七日各陽富直柔觀

工部尚書臣王綸
門下侍郎臣石村

此素師自敘前紙廢潰不可綴緝僕用書以補之極媿棟朽

也度周八年九月十四日蘇東欽和北補且前也

龍威臨本

判門下給事中所得見于官已累日既和題數語於後實將持去欲摹一通恐流其真趣以乾筆彷佛大略雖形神氣韻本相遠時出自之方究有以人之喜也成化十四年四月望日吳寬在醫俗事書

懷素自序帖拳官見宋尚喬所臨一本然多自出己意蓋欲其相表裏使序原傳先生所摹遠近曲折具得意旨之音于是知宋之不類也豈臨書家法才哉力及有不可以易致與

右何如備于仁得而玉觀之也庚子歲正月庚子玉石主中

展閱圖書之崑山陸氏

吳寬跋一則已見

唐懷素酒狂帖

兩狂昨日過楊氏府家見之氏步兵帖甚珍寶但恨無好紙墨一臨之耳比見獻之月儀帖如此何可以引比但恨無好紙墨一臨之耳比見獻之月儀帖如此何可以引

功數字遂與右軍足配冰後人所貴到一篇一畫使有好事

法此乃得鍾紹京家藏三過度藏於法兩狂見此遂大吐出

百十

五代楊凝式起居帖

行住坐卧是手摩肠迴肚心腹自快時而手肥，下足功之徽防
腰背奉摩腎部總覺力倦來即便家人助行之下厥頻盡夜無
窮數晨久積功成漸入神仙路乾祐元年冬冷風蒸要湯庶上
人尊師處傳楊凝式

右楊凝式書神仙起居法八行臣米友仁鑒定真跡恭跋

釋文米友仁書

尚提師尊人二政里見

一帶宋粮卅雲義書　卷第四十三　大

宋范文正公書伯夷頌真跡

皇祐三年十一月六甲申日十七仰

手公勤奇素所乳卦字多眼力不衰比中

天生前南宜東往至高大二月衍昌比中

見教

昌徙北海守所蒙同春裁簡練監毛求之墨論文傳不妙守所勿

武節將仗高虎中後三十有六日許昌引謁中堂閻文公

陳寔夫

老青錄頌古當無更得高平，楷書薄物佳箱題卷後蘇家

能事復何如　正辰歲正月　大

青州前政寄示小楷伯夷頌許昌相公以許政尾因作書

謝之公兼呈永興觀文相公　癸元上

法喜忘迷使車遠屬幻新從相府頌華一節大地外飛竹

加危三絕古今聞台文競辯高論金聞化筆文揮老更開不

用心吟思屈左豈無神物護重閉

轉運度支得青州前政苗秦書韓吏部伯夷頌許昌相公

以詩及尾遠知之言門前寄及謹用拙韻記誅　癸上

自閉軍衙遠吏部為著高的第二百光德音寂入學亘

一帶宋粮卅雲義書　卷第四十三　大

千碟精致拙雙金題誅益珍秘用昭簡意心

遠茅命使度支以自政前公所寄苗秦二手跡之公伯夷

頌清許昌之公作四公題詩及前後雅什皆寄

長安公首作行久矣休息人實安樂不堪推故本

移意以前本石既俾愚謹之對此恒恰能底且規取爾率

能課成拙句奉呈故言驅人笑鵬石篇和之屯年引上

希文使君鈞鑒文為百門山下人李止一言莊義士狀敘

為古劇甲匡前聲公阻英謀遠事劉龍隨墨清郎高時宗上

復題詠尤宜率土盡善紳

此詩宿所製歟註者請之
治平二年五月六日寒題
河東薛劉昌元宗觀
丹陽郡元荘觀察宅自八
月十八夜孟春月使車數到
芒角入竹設古賢人句義
美矣已歲夏四月昌朝書
送十舍弟赴文安軍伯康領拙官廣代
歲末伏日新川韓駱下華題
偷思凜生風
許昌題後及公二紀乃作
恨覺不覺恨恨泥川逸光再題
番陽劉定金陵陳祐甫同觀
庚冬九日當世題
頴昌韓維玉汝屢當觀之　元豐甲子歲仲秋社日人從安
閩信都西府東廨書
元祐二年歲日晴暴楊傑玄補北牖下　劉

洛陽自彭年建康來豈同觀宜和癸卯夏六月二十有六日
范文正高風長在天下後世之仰服孟不獨其書
也凡所背元兔直儒翰墨使人球然欽尚政和四年正月六
日僕陽李廌跋
宣祐三年侍行于青社時先公卜築京西野運使蘇
公所見手澤不勝追慕元祐二年六月之日嗣子宇商書
右僕射兼中書侍郎忠仁謹題
崇寧五年純粹得見先公先生墓于潁昌伏讀之餘落
紙上之月八日謹題
一帶雲根抄叢書　卷第四　四
文和丙申孟秋一十八日通于唐王孝通同觀於高平二端
堂清江李閒晉陵胡唐老同觀
林和靖公望履說之高公十月廿九日記
高爽地已燕寧、生氣存焉范文正在青社用蕃、素小楷書伯夷
頌甚有筆法甚工當自得承當于杭之懷
甲寅八月望建康李格謹題
皇祐三年十有一月丈正范公在青社用蕃天下萬世大綱常大議論扶
植天下不可一日以無者皆文王三分天下有其二以服事
殷伯夷因知其行誼月而明故孟子稱其心量之殷

我一旦武王之師載木主而以王號于其歿可之王意也況
禹舍世以月為天下萬世爭綱常維之以死其事或與紹堯
人乃或非之至孔子時猶有以處之孔子獨以水火得
仁又何怨哉唐時猶有以勿論而不通者而韓子獨以伯夷
者特立獨行豈天地日萬世而不顧韓子之言止維孔子而
公子天下萬世有功於綱常甚大時無韓子議論廢明綱常
民吾為此懼而幸發晴范公之所書義士仁人往往歌泣事
在心目間使讀者憤者一見以此千破膽知是議論建立公
亦與有功於綱常也公平生自許忠義前後錄論諫修實至
報以誣謗日以朋黨擯斥遠水而公信直之篤曾四愈舍毛
而能廣伯夷須臾其中素所蓄積者鳴呼是祐盛時公之昌

此門義形於色故不幸處綱常之變當何如若公者直可畏
乃何哉大與李侯戰丁丑歲得其碑於二百
有陳君株木梁鹿君偏明前為公祠門其子修而以非
之事實尚義有如此公之降邦瑞士晉敬愛而藏不啻拱璧
始其家蓄以慕本引於義莊歲庚寅堂至是乃得其碑於二百
四十八年之後吾有神物護持以待其子孫而後什佰倘
能二君識勒石傳不朽而邦瑞主手祀領我恭警已重報其

文正公所以師表百世者門仁在喜樂筆法之妙自足
古人故蘇公號稱能書者亦從公求之以為珍玩而黃
時已六十有三距公薨時一年耳而楷法謹嚴一筆不苟如
此真可敬而仰哉夫書雖細事而最足以觀人公書如是中
之所存可知矣同時如文富韓歐諸公書之工拙雖或不同
而其渾厚端莊則七公異此四五公者坐廟堂垂其有無又
俗其有無淳者乎世稱王荊公書如秋風急雨其胸中躁擾
可以想見一點畫間不盡眼成竟以變天下驟然而風
俗一變而趨於篤厚矣後溫公復古而國祚安章蔡紊而
世遂亂其正其邪皆莫逃乎筆墨之間益信心畫之說不誣

然究其大歸則成寧以前之書多重而少輕淳熙以後
之書多輕淳而少厚重蓋世道之所以升降者全賴從政
家益得宋南度前墨跡觀之而寫為之說如此故手識之俾
來者有考高大伯庚子六月乙巳朔陵陽牟應龍敬書（年四十有九）

文正公為蘇守凡喜向夫須名公題詠其留二百年間不知
凡幾傳至於曾孫秋壑來亡乳臭於政事未免有所利而為之矣天道地光
得之寶藏文府大德戊戌侯官陳旅書
公利下民公之後人以與之侯盛德也衍泰故來姑蘇理海

州之微先氏之後長行趨先生出示文正公所書告身及
七月小子李衍再拜謹識
吳郡之詩至夫子而定或謂得夫子而名益彰二子求仁得
仁名之彰與否不暇為身後計也是之謂千古馬裏所
青雲之見遠矣按文正公在青社三年十一月書此大
集以病請汝陰明年五月薨于徐其平生特立獨行之志表
陰一節老且死不變而見于心畫者如此其相劇也時文潞公
子陵以意清風高節字其相劇也時文潞公
公如南昌朝所拜致仕去富鄭公潞公實相知許昌杜祁
公如南昌朝所拜致仕去富鄭公潞公實相知許昌杜祁
公方如月即世矣後二年之富五相繼即世又二年五月之題謂此
跋盡行草有然筆之妙蓋中心應而形之手者
書所以說詩執禮者語之孟子曰言信是集
以說出字私故云爾音謂公晏遺摘
有此之者庶借此以自見世公知有真
于是齋武自必于是齋所未免有所利而為之矣天道地光
龍王千載紀其復歸與義田並傳居子之澤子孫孟之運
燕山之故正不偶然也庚戌三百年承平碩輔姓字皦如

日月見之東往盤桓若擒若縱使人指畫嗤罵
然則士不以夷齊自屬其不為文正公門人者鮮矣
宜觀其和夷齊說大德庚子
文正范公祠堂記 吳興趙孟頫子昂
昔仲尼沒百世之師惟孤竹氏六經之文惟子貢子
貽大德之多使歸於吳中獲覩拜手謹
書仲尼之道凡月日吳中獲覩拜手謹
有斯文訓繪於後惟高平公真
迺翰逸墨為詞為記去琢斯道良玉不啄有物護持復歸于
是實慶寶之有永于祀庶
林處

吳興趙孟頫子昂書
伯夷之行昌黎論之文正昔之真二紀也子孫其寶之哉
定董章
汝郡王蘭溪東嘉同觀大德乙巳夏五十日
文正范公手澤獲見于二百六十三年之後扶植綱常流傳
是實濟南王文公保定行景同觀時皇慶二年歲在癸丑暮
春大名王元宗識
先正范公大武忠孝視仁之德之厚之遠之周密模是以人素上
拱觀者敬仰豈操王敦加溫未嘗書仁字也至今見者嗤之
公所書伯夷頌凡入奏牘賀表及人碑墓誌皆不
予嘗趙閱便錄若干篇若干卷為文正公門人者鮮矣
然則士不以夷齊自屬其不為文正公門人者鮮矣
宜觀其和夷齊說大德庚子
文正范公祠堂記 吳興趙孟頫子昂
昔仲尼沒百世之師惟孤竹氏六經之文惟子貢子
貽大德之多使歸於吳中獲覩拜手謹
書仲尼之道凡月日吳中獲覩拜手謹
有斯文訓繪於後惟高平公真
迺翰逸墨為詞為記去琢斯道良玉不啄有物護持復歸于
是實慶寶之有永于祀庶
林處

後名公題識具存誠實玩也按公書此須臺武功蘇舜欽知
受後歸奉檜久又歸賈似道
京師來寧宋魏公之鄉出謁公遺像以其書歸其後之人
今藏于兄八義莊子孫世守之稱書謂持有代謝世有盛衰
至于天理民彝日越萬世而不可泯者之有人爲王侯之貴
晉楚之富死生之大舉不能以動其心不足貶有勿也大史
公纂史傳思可以厲節義維綱常者許由務光之倫其事不
經得孤竹君之子連爲數千載人物稱首焉之志念果矣虞
韓子稱其微旨著伯夷頌又正公漫作韓子之旨而爲之書
盖公屢以出處關懷斯圖出處始終

而珍襲之永名筆以發其光華信可寶也今當私藏論之伯
夷以特立獨行之節不待是之頌之而可顯惟得是之頌之
則其節愈益顯史記以日光玉潔之文不待文正書之而可
傳惟得文正書之則其文益傳故伯夷之節性知與天義
不爭名節者之戒豈如日星之垂天使世之亂臣賊子奔波若
為一虹光塵杉如之沈霧然見於言辭之表奔若
而珍藏之是其心事猶所視大明而至義莊祠字像為厥
而觀此書此頌則神駭心悸而不敢建其逆已為若而觀此
書此頌則膽落魄喪而無所逃其罪其有功於世教大矣也

文正以清才茂行為時名臣先哲稱其事業滿意陳忠敏滿
朝廷望名滿天下則字畫乃其餘事然猶往往動人如
此真超乘第一流人物也余適以事局吳門利下靜得
成卷子故欣然書之俾夫知音者學為前后輝映再拜
伯夷頌首云士之特立獨行貞於義而已不顧人之是非苟
裏俗之士信重第而自知明者也比數語已足盡伯夷之心
矣文正公親書此頌匪惟知之亦允蹈之觀其立身大節實
千顧人之是非苟自知明者也非參陳之士故其畫
孫靜翁先生恬愉磐薄獨有保有斯之而珍藏之觀此者十

載而風仰槃世矣後學本嘉勤傳再拜書

萬曆戊申日已見

宋范文正公書嚴光先生祠堂記墨跡一卷凡八千字孫可潤刻出置吳珠還合璧事實其書法真希世之寶也已初十江大
虎跑之山頭覽忠義之氣兩在天地間人人毛髮悚立永
俯仰之況萬然見於言辭之表奔放而珍藏之是其心事猶所視大明而至義莊祠字像為厥
嘻此奉同僧此書說也不存大宗伯文肅公之手澤不足珍十世矜天倪復購

之於軍塔中為文肅公之壽在天天祐其忠德公之手澤不足珍十世矜天倪復購
於世是知公之意澤未足也誰生之旨載後而蔭觀覽猶青
天白日景星慶星快千生之心目河東後學王誰拜書
薛文清公與貴莫公書墨跡真蹟珍藏世所共寶吾
故人收藏萬全重遇參戶江范文忠公親書此頌匪惟知之亦允蹈之觀其立身大節實
千顧人之是非苟自知明者也非參陳之士故其畫
長洲董其昌 玄正甲申六月辛未燕山寓舟拜
伯夷古賢人昌黎為作頌文正小楷書尊仰世所共寶吾
故人收藏萬全重遇參戶江范文忠公親書此頌匪惟知之亦允蹈之觀其立身大節實
詩予採用二賢回自注云德不堪稱再拜書五百心勤解清
德已亥四月十五日書南烏船書於平江蔡文舟中

長白山中名相出有門山下老人賢古今如此能多次第
相望越二千貴[illegible]
[illegible]簡掌留得餘芳爽世傳　嘉興張伯臯謹題
班門人表吾疑第一武王下伯夷叔謂伯夷可第一武來
孟夫宜之之述之第一唐之人希文第一宋輔臣韓公頌
范仲淹二絕誰與下讓珍皇金運祚三百年空林度閣諸紀
[illegible]公使[illegible]自公
統仁以下
[illegible]州是文王
始居始蒞行軍元吳萬彼膺義莊睦族春復秋于子孫[illegible]居
[illegible]州杭州[illegible]州長洲人[illegible]
杭參公[illegible]浙提學副使

[illegible]宗今七
[illegible]
[illegible]
[illegible]

陽元不死春風歲 [illegible] 薇香 代壻仇亮拜

心之言作伯夷傳綱常更倚文章重小范老手於墨香喚醒

百陽千載夢兩尺宇宙二百年功不朽安作元姑蘇來候

旨大字如何手筆歸蓋亦因悟石華修褉敘賢來藏之同其

里林卿祠陽仲丁盛堂親量量山兩城美堂

心如聖世表重開風高立遠如許位我聖人守

食則可辭歟之一紙真墨重開風高立遠如許位我聖人守

世師山之殺何獨美可敬二千一年來用處死病生

本書題直生猶北水平文獻傳老今題先度心盡筆亂中

一帶雲根卅堂藏書 [illegible] 第四冊 十二

何人今魏死九錫千是處病 陳化村氏湯炯龍題

是齋迎官拜公人打蔽文正公野仍是綱師子若心敬賢

尚德之心士大夫尚榮之為詩古文無事已不

摘義陶潛賦小詩高淡襲瑞拜手

一序論公位卑無容不臣以官爵位高下故謂人

今古共登倫星肥事建頌聲在昔往人欽拍法新人秉鄙侯

能令百世敦篤詞許哥來仿佛懸陳人心轉銷沉誰人浪定

資善岳顧推餘論祖頑夫

金仰前賢感月來阿衡事家伯夷心義回高是當時張建侯

拜求世看眼天平萬石林廣

集

敬題文正公所書伯夷頌卷尾

如文定所書伯夷頌法獨佳茲卷其世寶凡不必兩公

宅之兩序手敬

父

海濱二老本同歸本公殊遲前定慎柔

文獻之詞行王文節潭之人不華忠介之死義者卒然名
指紳與二君風猷節槩固有相感異代者不勝子長執鞭之
歎敬書於後

范文正遺服贊

范文正褐書道服贊道勁中有真韻真可作歐陽人歐人
筆也政者有名賢大夫而獨文與可爲最得其意而筆化甚
極精妍端雅不作險側態豈見正人墓後所謂心正筆亦正
即然結法時有元人溫厚不可晚也

本朝書譜

唐宋名賢去書墨蹟 朱彝尊 錢塘 汪 鋆 採

范文正公遺服贊

米海嶽記許元製遺服所以清其意而望其身也門生范仲
淹之賢公 遺家先文定建屯戍之道公是庶幾之
室可以房廊華屏之庭可以安武衛紱青紫處台學士豈無狐
裘駿馬揚府重此如師是服如虎在陽之傑無泰於祖

文同物貴一致已見

薄觀文正公之剛節事重青紗知其爲人每處卷誠論未嘗
不想見風采何名德之重使人爰慕如此其朱也富川矣立

禮題

范氏元大正遺服贊之時筆設以見動而公之德實事不朽其人視其友諒哉然事王子
大正八年十一月甲子立世載"大正使"大正八年十一月友江書記作遺服贊言留至理事情動故
至今觀之深然增敬所謂能爲學主騰名揚府重此如師是

彼如虎是又美不已耶蓋可玩味以知其時永相之布公
銘之模興於此與世是替不載文正集中則公之之意皆
有矣相亦盛矣之作以式於後世日綴廿字之寓箴
行之意云云正旨服膺史籍布公銘永垂於不朽之名德行公德
至正癸未春正月廿日金華胡助書

范文正公褒長帖

中春伴 翰長學士伏惟 史府萬福昨張太送新作來拜
真論溝衍勤意欲其妥順件仝不宜偉慮也仲春非思之
冥漠之衷世子康泰門戶一變有初出仕人之福兒是上之
養生送死先其志也 會稽一下神地史復久的無塔知其他
望明公許之不以北事謁見賢者令開府閣之外不從言之罪
甚感憂未拜奉問惟乞自重不宣仲春珪上 翰長學士座前

仲秋日

柳貫胡助二跋已見

度僧開契并泰中閣有所警議公世是合富鄭公使高麗宋定
和議時文正公以西事知慶州此書與翰長所謂慶國之
好亦甚感慶者即其時也其中又言有丘閣之請公答前
此行之許下答欽聖帖中公言有丘閣之請公答前

仲冬上 欽聖殿外右 一月十一日 介甫利害不
戰子細保愛保愛或有書入京進中即易達也
大抵此一日最親同子重如新語不集而言是可以相見其
人物領昌敘題

右文正閣子帖首有答大人書云同有之親利達為何如哉
其常人外論進退之辭中懷俊偉之意不可同日語覽者默
識於詞意之表亦足以感發夫台揚敘述詳說謹識時至
順五甲人日

此行之許下答欽聖帖中公言有丘閣之請公答前
此行之許下及有磨之十與謝家兄弟俱

易者見子即史宣史宣皇祐元年進士公以慶曆八年初登
州未守札明年一月十一日公許得書正南有故進士時也
欽望下著姓今亦莫可考而筆題甚有據決東陽侯
學柳貫書

李部政一則已見

范文正公與師魯二帖

仲尼答孔中得明問知漢東尤甚尤甚四各上京官苦熱
宜下開井救者此可知矣二帖乃來門時從京被召赴天折
支之差人許州能取到即走銀不易尚請是錢者猶前無不足

日給公用：有揣貴趣承如之即商山硯迎將來請改換卻
過已喝候新者去合得花地說定一可日一服甚有功忘疑
之和方寄上帝多愛不宣仲尼答師魯上 師魯舍人左右 七月十
四日 新收舊識候到即有書去東是裏倍七先記仲尼

仲尼此日事在丁魯奉前是中有須來於水 動止依勝仲
淹此甲無事見子為未得全舍一小折退八出元均書來前進上
進得揚州書且問師魯有已報也舍止安也等中且得未動亦
佳惟君子為能樂道正在此日 魯舍人左右 四月廿又日

元公與文仲質之改四見
師魯自揚州來疾至商陽說范公許得書正南有故進士時也
欽望下著姓今亦莫可考而筆題甚有據決東陽侯
此四明樓鑰書紹熙二年十月晦

住客千以得之未主人雙眼有手開生人莫說當時事且治
南亭把一杯 右第二帖當是公自揚來訪范于南陽時也
其文尸以不用樂云云當是慶曆八年二月廿一日

宣慶堂萬主敬書

靜為之次釋此二帖乃文正公貶尸仲淹書也文情古誼
百世之下尚可想見視他帖尤當珍愛 學士大夫所願見

而不可得者見之樓先揭四公之題識不啻復可得乎
洛陽水竹之盛四年五月五日之宇家為初的筆墨

尸公自謂與范公義兼師友而其言談筆及于性命至尸公
之卒之賢先人所推及卒如此嘉祐甲午歲是時風
俗篤古大夫多不言而躬行表立名字以相高此宋三

百年根柢之厚也伏觀范公真跡安厚仁為之模楚而歎
乎至正之年春正月甲子後學黃溍敬觀

范公五尸公往來書一卷凡四帖乃公改尸二十作二字

歷官有能辨之
書
范文正公論事忤執政貶饒州通判
屬于朝尹師魯亦自請同貶可以見一時賢才之盛矣 陳
曾鞏記越州鑑湖公一書甲酒其不及前時事亦不
以卽書而已被點加存問焉范公所論如同也而師魯之
清以長也是豈有一毫私意於其間哉書未之能居下而能
樂道前賢之用心于此可見矣二帖筆力遒勁有晉人畫
龍畫骨往不可名是以 子美文吐出人輒驚比於詩最豪奔
一卷宋名臣言行錄 卷三十二 三
放何遜陳隋間人清絕句中時震南齊
而身不及掩目何為之語言既可駭筆畫亦停滯往往醜怪摩崖見
學三二若天成者蓋非積書言年不自停者 老學庵筆記 已足矜而君
懷掩烟黙盃試恤視久氣定形使我欽老學庵一已足矜而君
衆製美爲文摘自輕篤性出人工謹敬出其高皇臣列井陸發
位引公卿使之來帶立可以重朝廷況今參國議高論止崢嶸
惜哉三十五自發今已生近者去工業作詩苦雖情口誦不及
寫一日帝都城品之庶有物其吟由不平天方苦君心欲使發
其聲唉我非簡難為徒能助嘆二因風幸數寄發我聾與前

趙子松觀于盧陵委次閘伯蒸伯武伯起作戊申歲中元日
右歐陽文忠公酬蘇子美五言二十六韻詩墨跡洪武間今
在北京時于一戊午家見逐案取之曰今平生行潮每工有
年前代名賢墨蹟多見獨文忠書不曾見高公得此詩墨跡
如獲夜光明月焉勝欣喜然卷秘于篋笥中已十五年
矣富說來攻岳士文集有跋文忠公書云歐陽文忠公用大
筆就墨作方閒字神采秀拔膚潤無窮使後人觀之如見其
清眉豐頰進趨坦夷如也今觀此墨跡如出二人手側媚婀
此卷什與往詣謹藏來為家寶永樂十年壬辰七月廿二日虛
一齋吳根卅雲藏書

老人書于京都柴禮坊之官廨

胡儼跋一則已見

歐陽文忠有宋名儒文章翰墨絕妙當世凡許乃公親筆以
予美蘇公者蓋亦人間必介錄二百年而為大子太師衣靖
挑公所得詩刻傳無容言而其書遒勁溫閒尤可愛重寶
靖公謂得之如獲夜光明月不勝欣喜盧陵許侍郎亦
為家寶宜矣永樂甲辰五月朔旦後四日公同政大夫少詹事長
洲吳寬書書

次見原書書

右歐陽文忠公答蘇子美詩墨蹟太子少師挑公所藏實之

如拱璧自識其後云付孫謙永當以集本校之不同者五字
子美文集作辭此集作絕驚集作舒此集作助集作四和文與辭
於義皆通然忽及此物當從集本余素與少師
往來每志之未嘗容坐壽椿堂契者蔡君出清玩論文事緝
以餉酌諸笑為累時時啟歡盛拱手側品然恭謹能琅七誦
諸也余歿日公所惜以老者在此矣公亦謂容日然公沒詔
從其先真善來北京人三年今至北京詔亦長成鄉學余見
如思公人念公之不及見其長也詔亦重大父之交遊而勤
勤過余忽不見數月間也宗喜而品則病死兩月矣余為之
不遠止此先儒論書氣書者不長豈以是與宗善據此卷末
余題每及詔諸歎潛然心未勝悵及詔之所可惜者即少
師公之後永樂甲辰夏五月朔庐陵楊士奇題
公在鄉里好書作眾所名欽之側公自負能書甘當世屠孟
學書不入意獨好之忠公墨蹟豈專在于筆夫乾墨而已
其文章政事固足使人景慕之者東坡所謂清風峻節邈乎
惟如若行足于字畫之間此言可與知者道然則世之士于
為者可不師法之忠公之為人耶宣德元年嫌詔之暇行在

石曼卿古松詩

直氣森森壯盤礴衣生之墨蟠乾影摇千尺龍蛇動蘚疤天風雨定答答鳴盤綠離石上綠蘿山人高臥聽松者

使作明堂一柱看

樸倫道一則已見

論建推官廳事畫有蒼葦擇詩到流傳入郡中師夏請大伐厚俸從為有暇日畫表君木叔家見古松詩筆甚奇健走仍乘興作四株列之以為答謝之意詩未就會有召命不果

一器心泉井水義書

多見於世能然從事之塵破蛩數聞雖不足以辭風雨之

打此立於中夫可以幽也又得文昌樓公命之題識益完

紫芙太叔之先君子好奇嗜古所畜前輩墨蹟甚衆此其一

皇慶元已未正月元日古汴趙孟頫書

士大夫家容易安可漫此跋

故梅詩之珠影橫斜和靖如劍馬此花松詩云半天風雨是

劍獨擅美人口也自昔詩客當謂高手雖狀物最難意

於體物元大之作略于此喻人人之必洋洋大成他物不

足以當之斯詩美甚莫論平生之氣象多慕古人奇節偉

行其見于詞章之末又肯為兒女子軟媚語耶梅聖俞以雲

影清聲之句見此作半天風雨定節推趙公得見端千丈龍蛇動蘚疤未敢以對之石二句作天風雨定答答鳴盤綠離石上綠蘿山人高臥聽松者而此到全存高舉自然使人忘俗意何物不為塵土之歸幸心可得而實之造物者若有私焉嗚呼故家遺物歷年之久而卒復所歸苟非其子敬書此以識今庶歲在玄戲

跋作五月望九山老樵南拾書

林和靖二帖

皇慶甲辰秋朱霽復青高大師去後仲得信來院中諸事如常否

今送到菱角容易安可漫此跋

廿二日 暫借人到此僕去章八郎家

皇慶甲辰春二月教日前剪勞下訪為以多故未果致謝感愧感愧

隆名心以是子從珍重若衆為兩手所指矣可可如時許

相見面馳此不宣 從表林逋頓首 四月十七日 所託買物

代求是前人留下句恐未足餘仍自效多感多感

此和靖集錄新人卿當時許得也觀其筆勢遒勁無一點

塵俗氣正時書家之所珍玩元統甲戌

夏五謝升孫書狀南施下頌

我愛翁書學庾硬雲腕雅蓋西湖深西產比如見真洋教行

高營合水玉宛然風韻溫其間此字比角俱施俗開成里字

即見翁五百年來如轉獨可惜人物相長落我掌中味有

足水是孤嶼我曹球玉冬烟蒐有難因當時州史風勞問不

公紀典誰登錄月周不能知我非卿對湖山歌楚曲我歌湖

山亦不知惟有春鴨味深竹歸茶把酒子雙飛侍燒無錢對

黃菊　沈周用坡韻贈

四明處士於君復結廬倒北湖波深百年何物偽次慶山下

梅花總寒玉萬城凡塵絕江燭獨教鶴老問庭門走待即陰催雙

一帶雲根卅堂藏書　卷第四十五　三

拾翠細歌鍾人夜覺江燭獨教鶴老問庭門走待即陰催雙

足高平笔公意使來等以新高勝餌的風節文章即且等的

幻平生成是銀才多墨妙史人神性許唐有和高曲果於馬

豈似其人如侍青風拥慶竹情哉甫里生天随不起斯文喜

杞菊　吳寬

湖守政燒梅花曲石銀牛洗茅庐胡花照眼花絕塵人老

當年自如玉誰庭獨步難同調字立心工終不俗歌來茶頭

持卷來一夜起看三更燭我從君去何相去有便精神書冰

謝郭居士還京

送望雖事寺楚山悵然西笑／長安今是野僕書列幣引朔
人駐足觀葵禮暗光世情空如雪／夜裝衣虛牖曉來還恨銀色二千條引玉
日出成相如鵬鳥賦

黃鶴

昨村止隱門先下建章立仗中央日把君擁
昨建歌大夜傳風枝為作巴人與朔客神花半重異流霜
彩章集淨寧我類一舉扶雲

一帶雲林半夜書

題項川圖

八千年君已去七夜夜猶聞空山雲

劉文增多

寄靈定寺表

萬里扶堅老幕汗謝公宅是宋學畫閣入同遊上根列三
劉把音贊宅城定生建理竹門人多於芳花簡枝今回往往應
今落白猶青立昊天

藍溪釋居

白鹿原侯門結廬本在林映水何曾出色翔叢桂開門養拙無人
問陽孟陳編日文風

閒元寺凌虛閣寄解唐卿舊回

清高林花一夜發文虛牖檻曉來還恨銀色二千條引玉
玉一簡毛源如塵世庾肝移融爵不如房度化人宮好分明
在恨不同君把秋盞

雄媒

朱社衰分一何群媒貴情驕日得志若亘物情皆錫類姓媒爭
一落世翼卅尘最著

題劉忠宏狀學敘畫人成底事云

媒媒賢

一落世翼卅尘最著 朱易四十二 二

運劉忠宏令先公部功名銀刻公事朱著
當年力戰為妖氛十萬雄師四方動行果如數班定遠家聲高
四十年事銘閩經猶足猶在重初燕山野高分今日閩故有遺
恨可憐生不遇明君

詩劉前衆小清午當當不到人海有手知而不取
華石已古亂後當生鬼猶是劉文公音可謂當日司人者不畏人
言合愚心

謝人惠一奉宋拓

白棉珍紙血竹新折紅林帶尚清泉冷夜歡仙掌露味甘秋

別楚江萍周堆王梳櫻雖在剩薦金樽酒易醒庶公代州清昌
看壁飯封貯到雲扃

過田文墓

當年閒奏雍門琴話着也墓次滿樑何況今朝麥舟味也墓無
跡可追尋

對雪寄崔仲格時在墓即開在酒舍

奉鵠翩震勢新濃奏麗庭館好更知東提路閉實貶凍種玉畦
平曉被封天上珠宮宵月圓海中銀闕聳冀峰山尼不學同吟
賞知在旗亭第幾重

南齋

曲江設宴侍筆裕舞拍歌琴奏公行餘獨有紅妝王氏實解陳村
裸一篇書 注云南齋大祖曲江宴筆裕各使效技藝精絕

琵琶王倡度雅琴九奏文季歌辰收鬼聲王收判拍王儉口匡
無所解惟解詞書閒況齋前前相如打裸事帝笑曰此無曲
之事吾何以堪之

湖上送澳者

雨足烟金洞庭秋獨棹輕一葉外湖安得換歌喉人暮渡歌灘
足下過頭

客過收南靜門閉雀利稻粱芳蓼白忽星村鼓何依井邑組
漁父山遠未歸時情似秋雁一去

清子庶琪

聽解秉恨不同時及到同時值大星爭小唐皇將厭牧禁中言
下用無說

陳公主之一十丈復下遠承其教海也事掌在卿士大夫者
浦國利民傳慶光於先子意暑中得公暨閒訂章湯之如
往意在相退老遠行閒中詩公時為審判官朝中望參知元

大已有乞醉墻閒之歌足知居士自童而仁荊公者屢屬賞
以生意而主如在餘杭縣下仍勝起就公忠言美屬同易等
復出長松旅葵下仁事功可時南遠之地民多狂文章恨不得篤之事第九年冬居彭城
八詩印仲山雜詩蒸詞枚乘曹帝笑曰此無曲之事吾何以堪之
漾若借之云四望萬谷每發征一枝鎮小易安巢暗飢已飽
云化牛遠公社若簡是遠民蓋廬閒南去露侵僧履薄三徑
秋日端居 雪後山中 送澳者 湖上 足下過頭

若張起作句句安復
多閒足為吾人書玩
詩大小一十二篇創中述行不預焉也時叶知己一月三
日曲阜顏復書

讀曾詩綱題帆向秋江歌後
書放一可副使陳公詩卷
破鏡重圓王根金人肉左心為時補葉天壯藏此卷
共青齡畫林霞煙似誰更到風流處一款琴荼話苦心
追先烈子更何須論淺深 元豐二年二月廿三日陳留蔡
一帶雲横卅堂藏書

元豐三年之日公為
以親長樂林希
天聖中先人計與故
與能公事先以搞事
海陳公之孫法曹君
馬子人宋知守其才
高子學陳公於搞事
其詩伏而數之不敢
以文筆教之遺言可也如斯之言詩則未可也已元祐六年
九月十二日山陽侯搞書
世維翰使吏部陳公人貴能公之文文章君之智能類其先行是於

一帶雲横卅堂藏書

破刷此句以後在文章者公之卷已得如是人
多閒足為吾人書玩君子始以之尚為所好翰何樂如之
詩大小一十二篇創中述行不預焉也時叶知己一月三
日曲阜顏復書

讀曾詩綱題帆向秋江歌後
書放一可副使陳公詩卷
破鏡重圓王根金人肉左心為時補葉天壯藏此卷
共青齡畫林霞煙似誰更到風流處一款琴荼話苦心
追先烈子更何須論淺深 元豐二年二月廿三日陳留蔡
一帶雲横卅堂藏書

元豐三年之日公為
以親長樂林希
天聖中先人計與故
與能公事先以搞事
海陳公之孫法曹君
馬子人宋知守其才
高子學陳公於搞事
其詩伏而數之不敢
以文筆教之遺言可也如斯之言詩則未可也已元祐六年
九月十二日山陽侯搞書
世維翰使吏部陳公人貴能公之文文章君之智能類其先行是於

一帶雲横卅堂藏書

破刷此句以後在文章者公之卷已得如是人
多閒足為吾人書玩君子始以之尚為所好翰何樂如之
詩大小一十二篇創中述行不預焉也時叶知己一月三
日曲阜顏復書

讀曾詩綱題帆向秋江歌後
書放一可副使陳公詩卷
破鏡重圓王根金人肉左心為時補葉天壯藏此卷
共青齡畫林霞煙似誰更到風流處一款琴荼話苦心
追先烈子更何須論淺深 元豐二年二月廿三日陳留蔡
一帶雲横卅堂藏書

元豐三年之日公為
以親長樂林希
天聖中先人計與故
與能公事先以搞事
海陳公之孫法曹君
馬子人宋知守其才
高子學陳公於搞事
其詩伏而數之不敢
以文筆教之遺言可也如斯之言詩則未可也已元祐六年
九月十二日山陽侯搞書
世維翰使吏部陳公人貴能公之文文章君之智能類其先行是於

一帶雲横卅堂藏書

破刷此句以後在文章者公之卷已得如是人
多閒足為吾人書玩君子始以之尚為所好翰何樂如之
詩大小一十二篇創中述行不預焉也時叶知己一月三
日曲阜顏復書

讀曾詩綱題帆向秋江歌後
書放一可副使陳公詩卷
破鏡重圓王根金人肉左心為時補葉天壯藏此卷
共青齡畫林霞煙似誰更到風流處一款琴荼話苦心
追先烈子更何須論淺深 元豐二年二月廿三日陳留蔡
一帶雲横卅堂藏書

元豐三年之日公為
以親長樂林希
天聖中先人計與故
與能公事先以搞事
海陳公之孫法曹君
馬子人宋知守其才
高子學陳公於搞事
其詩伏而數之不敢
以文筆教之遺言可也如斯之言詩則未可也已元祐六年
九月十二日山陽侯搞書
世維翰使吏部陳公人貴能公之文文章君之智能類其先行是於

一帶雲横卅堂藏書

名州偉人之所締造成告人世雄不復形容其獨公
元豐七年八月初識傳道於松陵復見此詩又二年一解后數
已於京師今世有二年矣而二君皆以不遂卒安知
千傳之子孫久遠此詩復出於松陵復見此詩又二年一解后數
孔子有後於宋此詩之謂也勤而後世敬世雄哉
況子孫之有賢者乎能修其德而不墜其業而不
如後人之有小善而不錄人國朋正史宜錄世雄哉
世則杜氏言嘉之而子久志二十四日自明仲書於
楼陳公名肯彭城人國朝正史宜錄世雄哉

一帶雲根州雲藏書 卷第四十二

永公官鹿知長州多暇日與賓客遊山水間每登
墓端已而出漕京西淮南東來貴屬五年轉太部入部加
史館次使點檢舊事可見矣公之為人
皇佑元年八月初度日自明仲題於松陵之
張翁私第之十二月一日梦觀音之
蘇東坡惠州帖

一帶雲根州雲藏書 卷第四十二

歐永之不足則其梁何必在夜二時之間子當為公用力秋
十又一月二十日書
蘇東坡惠州帖
予在惠州人士皆以不遂年安為公惜公之於道行歸老始
是明矣公在我幸諸公樂死於此而公獨不然公之於道
如此其大乃好我於此而去在此之日楚
南秋州之日公所以為公者固在一事之小耳
紹元豐元年十月二日書
永叔明日公大筆力鈞在是題五絕時社仇表印延柯九
思張翁私第之十二月一日梦觀音之

元豐知洪州時作

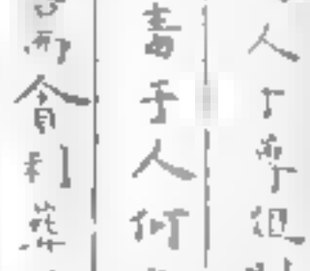
十二月初收拙著集子有感

廿有七年蹉跎過一官是非不到眼憂患已無端

世有七古壓卷一官之長是非不到眼憂患已無端

惟我知公深公知我亦深

題王敏甫所藏李伯時畫



中司出東南之家以
在出而示之日三十六年矣而先參政东泰記十七年詩
書之路不絕如線感慨今昔過此春鋒之士人
當得存遺珠於阬谷間之俗得此春鋒之士人
日集證識
永之句其宰執唯慶雍公為最賢觀其珠玉賦所謂使天下
之為人臣者得以安其居天下之為人子者得以事其親則
知公之志珠玉鉤金者欲以事君親也其以忠孝教天下後
世者至矣定伯生世其家學能本聖時政引西漢被寵春也
一帶雲根卅堂藏書　卷四十二　三七
甚及閒寂中乃書先大師此賦以贈人其志未有所在子開上
人再見伯生其為論之和林魯成叔重又謹題
門請珠玉賦以慰深愛國情二公登　諫四海共昇平覺之
李貴爭期德業成雲仍家世振簪纓華筵祝壽稱觴日
春風華堂神仙客
果是誰曾居洛生王教方
父作更生佛兒為命世英西洲瞻威風南國長對不歎的
是小民扶日月明清教賦重録似鑒世從新元昌鄭元祐
觀雍公父子之作可以徵見報國之志昆弟協謀之實可

永新牧梅王愚二公作皆其也及東安趙文樂唱和真蹟
一卷皮詩集中有之今錄有詩無序云子

瞻和介致齋詩有端向宴閒發史部老來惟欲醉如淵之句門
送萬尚書成都安享皇恩發笑也古人醉以酒蓋未有所寓一飲而
憂人門：前復吳公後醉如淵門：安足詣政寫好畫名聞貴于藝具巧手令皇端此情知有素東
坡和云向壁虛畫兩壁且杜陵篇次韻戲答神仙與玉簡生
世遠轉富坐持玉簡流千載真旦莫青州老從事南立亦所記
惠報音見從知我閑市船閉柴門先益有核誰與共門前趙到
詠真與得之素向壁虛畫兩壁又詩云手時辭更起房立命令傑復用前
詩之韻一首如之登州與儀曹到官如蔡高婚世風危
一潛雪根卅堂義書

朝翔未云莫水色照人清黃色盈中部熊如干日釀一酒酒清
味載筐盈多時公自京師時具款思賢德基猶知我尸素白丸次
韻題其後者一人劉摯以詩致者山人為此是孫仲和高立芳
康之代以子孫題者四人蘇論蘇嘉題自醉劉岑觀龍客多名
者十人排陳王庭秀郭作劇范彥輝前輩仲度景夏尸嫌劉
改姚述克最後王明清題云英宗潛龍日吾陽親宅嫌宗為留
恭憲王薨從最學憲時八年歲在戊子同來各生于同年月日
時其後英宗入繼大統所謂神宗既即天位以是日約同天
節恭惠所言通大嚮往也為本朝登進士第之冠易文階最

先于孫篇仁世科望單龍權公至于今五行之說其可不
作故僧云伯是子孫公居為平分不能自後此卷之年以衆易
之其心無可錄有是晚始與行者別明日十里而止有李叩甲謝小公最佳事有東坡題名真蹟不可
不一刻手是日下山夾路山田膝轉村舍稍結曲作青衣中如是
有數里為蒼鶴山地始平路漸廣塍塹縱橫植桑麻麥菽青州老從事南立亦所記
泉如春蛇流是時小雨新人止農夫日鋤閒相與慨聞一鳥啼
長松間丁有人人日失謂在此矣東坡題名真蹟不可
則出末云華嚴已到山門矣乃擇蒼勝要的甘露泉而後入

一潛雪根卅堂義書

時已破午屋僧宿酵住持惠老入城衆之意方大得東坡真跡
于此宜衆望云住老人山之十三日未古起前都率寺遠原杖
千中子日會別十九秋字之年八月十二日午方四十許又有
贈榮公五律一句石川詩見集中衛東庵于人康定觀座主也
足正色出東山二鬟有石枝花半在水中田公看不堪去
理山間未故答龍洛座注之句遂名曰教西庵入藏經觀元豐
湖州善莊藏有巨跡不改正者久矣守出行西石林山門之左
乃揚鞭自詩馬者仰奉少傅之詩云元祐元年六月十五日還
自海上入佛日山淨慧苑隨禪懷禪師時長安縣公即阿育

玉大覺禪師之嗣也送余出山的甘泉門留詩以佛日山前水行人甘露杯須知源不遠在門西明冬仲云日今若生葉風高竹度亭暮人行處去春五羊舍浪火海云五里喬松徑千年古道場泉聲與嵐影收拾入僧房明手書才仲火海則笔石明庵稿初約元仁同行及期元仁以事不果故前志所見此出許數首州後仍宅似岩翁山村井西存嘗善之仲冕無事閒之寵和

卷內有留題廣嚴寺之言律詩一首高亭遠中一絕淨界之事四絕又載題廣嚴寺僧舍壁一絕已見

一帶雲泉神雪義書　朱氏圖書之印　三

鄧文原巽齋二跋已見

趙松雪詩帖

跋李仲虞所藏劉簡州墓銘後

僕在西州日得劉簡州集讀文令甚于齋軸來欲于先生一言以發遒壯之光卓賜教語乃荷乃荷郡名下見道也大德庚子冬十月

貞觀李原道再拜　學士松雪先生

令讀仲虞之文知劉簡州之為人有川世之才固劉簡州之行事見仲虞叙事有精古之學孟子之為文者是也不論仲虞之奧理而不剖若仲虞之文也哉若劉簡州者真可於古人中十之也哉趙孟頫

南谷先生帖

前人先生杜李珣余自北時識之居昇元觀未十年昇元孟文子清隱其地常有先生在仙臺所栖勝處也師爵余作老子及十像仲未請承之言仙傳十一傳見之所以明老子之道行成諸名山以助後人今謂政事不可以辭乃神文古行跡此卷用成野美師名道堅前人其門徒云至元二十二年九月

吳興趙孟頫

胡汲仲帖

一帶雲泉神雪義書　朱氏圖書之印　三

明及仲大節高卓發言必使自起論比時人所作文但事稱其自適至遠則不留意期其功詩造語則似賜賦其高處寥寥前則似遠莽過此以往吾不知所指矣尊師既仙去重為事安師望書一通到石山中吳興趙孟頫

晉論唐詩帖

詩正品人以詩一定以不易集存于部私藏何物能傳於免論畫剛之學可與精意重論之基門舍吾之遠此書門武德以迄乾符盡二百載始有絕句今二千篇為其體流布未廣將俾學士以刊本以共指請斯之博金僧乃狄仁相血

作新於文印齋名李杜共有興起于騷壇

郭忠孝字立之洛陽人元祐六年登進士第官至秘書省正字有清才與蘇黃游

其無力板行因為書此于昂

作畫帖

作畫貴有古意若無古意雖工無益今人但知用色纖細戰色鮮艷便以為能手殊不知古意既虧百病橫生豈可觀也吾所作畫似未能追古故以為佳兒可勿知者宜不

為下知者說也子昂跋

薛稷書帖

一卷宋米芾書

薛稷作看色花放動攻在生意序動耳無柔曰久元理辭卻告

楚久乃仗可得賢下其宋成之川郎趙孟頫

伯機帖

僕與伯機同學書伯機早捐僕亦衰杜力追之而不能及伯機已矣世乃稱僕能書所謂紙佛處科蚪耳必明清鑒幸恕見示使人歎賞不能去手而又甚度其有手也至大三年八月廿三日將赴杭州車橋寓舍題于昂

臨洛神賦帖

余臨王獻之洛神賦凡數百本間有得意處亦自賞之頗喜夫

今之交人其欲所成者皆得意筆也

余書所謂好事者遂書此試一通贈之至治二年秋孟子昂記

吾子行文塚銘　金華胡長孺譔

吾子行子行大未人大父為大學生留書籍承家貲增子行工課書無雜書律呂之學請大父經號貝的處士墓李長吉樂府故其體為之氣韻軼相似性嗜彼有高不仕之節自比張志和邪之世玩裘一世愚人巧匿善富如嘉姐吳廣將笙柔已甚所蒙者詣門請謁從樓上急與語吾出有閒矣酌彈琴吹洞簫柔如也不敢求室要卷教小學常數十人未成童坐之樓

下與客對談笑喧接工下肇章一是屬安好讀書經傳詩人文學士獨盈稱杖仁之要引教仲汲仙生門百年止有其看作有高景略晉之春秋史楊杭說文層標直書授神安邦氣中納等詩初子行年四十春要所知冤五超天鈞白買兩家仆女為妾大管是人年飢寒陷母與後夫書不言報去之太素要為子行座于教日死前五年當至大四年秋故夫沒知妻處訟之是母妾十所又是後夫度合於子行為持船事覽摘得言生人子行同朝知延平春子行為行安錄事病景慶試十行比雖日是不知情者攝之何為出解從遂歸臧月

秉盡二日甲午子行持詩一章盈玄綸綸笠以詣仁近別值晨出家留詩還編笠子行去不知所之其詩曰今西門新橋是意將從釐切於斯明年三月辛酉衛天隱以六壬五遁之得亥子丑順流泉曰蔵子月已卯貫斯盲亥為水鄉已墓在正惟子與丑亥核當盧墓作墓載風流江明是生代在土為官創之弟勝承絶自棄比其屑朽淵況九十日矣終許合西湖多寶院主僧可權從子行學詩聞其定死哭甚哀為琬石鴈祁院後與浮屠師直塔相望曰當善治吾細請長揖銘庶幾子行得後世名其銘曰生不遺死不辱自我作古孰為非

一瓶一鉢庵藏書　卷四十五　二十

南宮生門

勅南島谷撰

南宮生人傑也幼博覽群書長於詩賦之文嘗慕李賀傳少任俠喜擊劍走南北喜彈指成鳥下之文素厚藏生門門養客及與少年飲博輸數百金自掷功業乃討周徙去學兵風骨益壯嘗遇壯見天下亂思

勝晚而友菊潛然靖處時服陶詩一卷佩諸左右徵吟把勝有
來雖見山意門以菊山自號方外友若許公笑隱之屯成晞詩
以嘉其志嗟夫子見世之慕陶者鮮倘使有之能得其真而已
果能得其心期當與午時大下實授仕而已返者何限刑州乃
能賦歸田園以寄傲予來菊見山之頃所謂几甲有真意欲辨
已忘言者正獨其鴻高飛而世網之設矣之能制也其可便見
女輩管哉雖日刑明之樂所以得獨得于此然者雖欲自形語言
而不可得後之人能於是乎其樂之心雖千載之下宜乎使得其
心不能得其心苟能得其所以樂之心雖千載之下宜乎使得其

知陶然有未得雖日處菊山之間清風之尊要亦與之俱歡南山
子瞻工徵刑明而所之以出處雖千同風味乃相似之說足之
以得其心也今處翁才可仕宦家可伏臘而挽肥一五如此其亦
有見于斯千至元後內子十月既望劍川鄧文原書

菊山賦

時當之夜金方飲寒門之外若有人馬徐映而至金氏居在天
衢之北終日無一客吐香吐秀德著如菊明之則曰吾可擬與之賢鋤山之
英服土之正陶金之精顧吾生之雖晚而不與若木以門築把
趾芳以自架秉餘以孤思日晏飲而風餐乃屐屐之我黍稷

雜興之記案此雜述以事條分幾何未得其生也
書下此疑有脫文外友若許公笑隱之屯成晞詩
予敬賓之有相羊雖落之間清風之尊要亦與之俱歡南山
之詩諒平載而可覩厥後覩世風之揆落撫棒路而多艱周耿
介而秉執劉鬼勵之交戒吾逐翁山晦跡深思于山知我者其
誰周川之君子春荻之春官日相與堅其盟門其節今不知其
幾歲矣矣卑如已之寒倚鋤秋風之孤立既記撲之亂鳴宜蓋
猶之在籍豈陶元于重九致天道于未泯扣吾德之未伊斯
理之同析惟子之清同我之虛樂之心雖千載之下宜乎使得其
所不能得其心苟能得其所以樂之心雖千載之下宜乎使得其

言雖世網陽設形閒意物表千知其所自起金之易馬要之是
孫曰為本在山絕人之負言惟勿試之后起二日是有矣者之
思扣乎松竹之扃薄乎其妄不乎其清抱水霜之雅操傲閒貞
之肥輕重欲號曰菊山續五柳之高風感夢之有契乃吉人
二十傲于是乎在信春有之歸來在門之物化亦各有其故也
逸野為記之寓言以約菊山之賦鳥傷黃昏明

崔氏友竹軒記

去縣而西百里曰小崔其之上有西人崔君誼所居在高屋前
後種竹若干根幽閑靜愛不啻當一高雲出岑也門前其所居曰友

竹盡為其志然耳居雖勝國時出宦于朝遭事多故隱歸山
里與竹居雅好如昔吟咏日漸於其間于世利紛華渡然無關也
歲予齡國朝仕刑部主事公清恒稱閒居友竹詩卷請記于予
予與居雖同衾子弟其何敢辭大竹一物耳嶺詩美其如篇
載記美其有節蓋皆竹德于君子設君子而與友也同值世人
亦以松竹梅為歲寒三友然則松與梅且竹之矣于人之可與
竹為友者必如松如梅而後可晉王子猷有何可一日世此君
之語是于猷有取于竹而與之友矣唐李太白有門門風動竹
何疑是故人來之句則太白亦與竹為友矣施北禹家之未解清先生

其軒復以為號是與竹果交密矣雖死生以之固半及履手者比
顧何以致此哉吾有以知之矣主人清修孟取諸竹主人緑直
亦竹是取主人此竹汲汲相與不知我友于竹竹之友于我
也其節其心當有以有于歲月之寒暑矣不知我友于竹竹之為
凡草木是何以表其特立于松梅之間也故于特作竹所訂
二益之盟以從其所樂云爾不知可與否也是為記其武林八月望
戶部侍郎吳江莫禮書于鍾山之寓

友竹軒賦

友竹先生雪一泉雪半眼室八氣氛愛九秋騰思世表于千古
木景慕于昉修嗟矣人其何仕薇獨行勝國時出宦于朝遭事多故隱歸山
里與竹居雅好如昔吟咏日漸於其間于世利紛華渡然無關也
歲予齡國朝仕刑部主事公清恒稱閒居友竹詩卷請記于予
予與居雖同衾子弟其何敢辭大竹一物耳嶺詩美其如篇
載記美其有節蓋皆竹德于君子設君子而與友也同值世人
亦以松竹梅為歲寒三友然則松與梅且竹之矣于人之可與
竹為友者必如松如梅而後可晉王子猷有何可一日世此君
之語是于猷有取于竹而與之友矣唐李太白有門門風動竹
何疑是故人來之句則太白亦與竹為友矣施北禹家之未解清先生

其軒復以為號是與竹果交密矣雖死生以之固半及履手者比
顧何以致此哉吾有以知之矣主人清修孟取諸竹主人緑直
亦竹是取主人此竹汲汲相與不知我友于竹竹之友于我
也其節其心當有以有于歲月之寒暑矣不知我友于竹竹之為
凡草木是何以表其特立于松梅之間也故于特作竹所訂
二益之盟以從其所樂云爾不知可與否也是為記其武林八月望
戶部侍郎吳江莫禮書于鍾山之寓

友竹軒賦

友竹先生雪一泉雪半眼室八氣氛愛九秋騰思世表于千古
木景慕于昉修嗟矣人其何仕薇獨行勝國時出宦于朝遭事多故隱歸山
里與竹居雅好如昔吟咏日漸於其間于世利紛華渡然無關也
歲予齡國朝仕刑部主事公清恒稱閒居友竹詩卷請記于予
予與居雖同衾子弟其何敢辭大竹一物耳嶺詩美其如篇
載記美其有節蓋皆竹德于君子設君子而與友也同值世人
亦以松竹梅為歲寒三友然則松與梅且竹之矣于人之可與
竹為友者必如松如梅而後可晉王子猷有何可一日世此君
之語是于猷有取于竹而與之友矣唐李太白有門門風動竹
何疑是故人來之句則太白亦與竹為友矣施北禹家之未解清先生

其軒復以為號是與竹果交密矣雖死生以之固半及履手者比
顧何以致此哉吾有以知之矣主人清修孟取諸竹主人緑直
亦竹是取主人此竹汲汲相與不知我友于竹竹之友于我
也其節其心當有以有于歲月之寒暑矣不知我友于竹竹之為
凡草木是何以表其特立于松梅之間也故于特作竹所訂
二益之盟以從其所樂云爾不知可與否也是為記其武林八月望
戶部侍郎吳江莫禮書于鍾山之寓

友竹軒賦

友竹先生雪一泉雪半眼室八氣氛愛九秋騰思世表于千古
木景慕于昉修嗟矣人其何仕薇獨行勝國時出宦于朝遭事多故隱歸山
里與竹居雅好如昔吟咏日漸於其間于世利紛華渡然無關也
歲予齡國朝仕刑部主事公清恒稱閒居友竹詩卷請記于予
予與居雖同衾子弟其何敢辭大竹一物耳嶺詩美其如篇
載記美其有節蓋皆竹德于君子設君子而與友也同值世人
亦以松竹梅為歲寒三友然則松與梅且竹之矣于人之可與
竹為友者必如松如梅而後可晉王子猷有何可一日世此君
之語是于猷有取于竹而與之友矣唐李太白有門門風動竹
何疑是故人來之句則太白亦與竹為友矣施北禹家之未解清先生

六藝之一錄卷第四百六

歷朝書譜

歷代名賢墨蹟題跋

唐陸柬之書陸機文賦

錢塘 倪濤 撰

孫過庭書譜

世傳王右軍有所書之賦不知海內尚有揩法若至柬之行書則精絶一世字字自秀點畫而帶有其體八書求之迹致迷閉機法雅之絶陸小謝書世不多見元人李閒云在世者止蘭亭詩蘭若碑與此四三數陽主簿而已

及於揩法之亂是在世者益數且累累千餘字而紙色完好是海內第一奇寶也秦舊在元人李閒永閒等士弘號錫山秦氏家藏秘玩今皇上留意翰墨博求名蹟購得柬之行書文賦風前勻押屈蓋陸司議書最為精工惜人不傳天所吝文賦風前勻含神采永映真得蘭亭之髓行不獨度視明皇趙子昂遠矣

年書法大進人言其得力於定武蘭亭而不如其合處不識定武之以山陰題云顏真卿書故有千鼎一跋云唐張彥遠歷代名畫記敘右軍書法竟蓋之言也代米元章書史稱歐陽玄云此在四子下即能世學有甚妙故

跋宕世成稱其自創一法乃不知柬之頭陀寺碑耳元章閱而不言以陸書火傳於今人陸時第一又云柬之本世也右之賦累千百言當為後品之物俟斷云柬之書結體多有晉人風格書惟見此卷雖若隨倡而求清恨趙松雪人多貴重太易前人推尊之如此余所見唐賢最入折芳惟書譜及此

張長史旭草書墨蹟

長史自言明紙用唐大麻字去白轉而左視右矩深得山陰書旨余備有其四時帖狂草之甚宛似書耳中中後得此二十餘字真贋備也二行乞祖藏

及向月劍書奉董賓武諸祖尚存奉董之家高宗內作劃夫人門客之室也高宗所寶珍秘蓋今皇之用此印鈐識然非極品不輕用也

褚河南逸良書孝經閣立本畫

河南書去則正類其人皆評書謂如婉娟不勝羅綺未然也所書孝經一卷閣立本畫孝經之以山陰題云顏真卿書故有千鼎一跋云唐張彥遠歷代名畫記敘右軍書法竟蓋之言也代米元章書史稱歐陽玄云此在四子下即能世學有甚妙故趙松雪乃武英殿中書人物字類麻姑增記故人物顏耳不

知非顧辺皆以来画刻字偽正宋人范思正有河南所書墨
寫度人経本立本西字法龍此無慶異尤其佐證耳
徐季海浩書心経墨蹟
冷季海心経一冊書法隷中帶有篆籀脱胎於石鼓文視世
傳所書嵩陽観碑殆勝之今已上仮帖工有大水墜龍
墨乃黄山谷所藏亦有其印
書人墨蹟傳世者甚夥倉桑後如曹喜木客所収林邑乾帖
李江右元易所收章莊樂章事而蜀昭陵所收懐素小字千
文東坡蕃所收顔魯公遺劄太伸序皆唐賢之佳書余
所見已曉閣公重定閣目而公模手曰也無鬼神也無恐怖
借之硯山齋把玩彌日今書與人散奇如海外三山矣
朱元晦城南二十詠墨蹟
朱夫子和敬夫先生城南二十詠字法俊逸大有晉人風致
而詩之清遠亦非宋人所及元向嘗于文雪得之于婺原人
贈第執錢伯廣戊右于城南構城南層引簡淨北中而
曾歌此以送之又録敬夫原詩于其後惜乎得
蘇文忠清尚之記墨物度夫又録敬夫原詩于其後惜乎得
當日張宣公手書與文公書合成一卷且余當有先生武陽
手稿一卷前書先生小像惜今為有力者攜去見此益知惜
范文正仲淹與尸師魯帖二帖

范文正書自人論得之樂毅論觀其與尸師魯一帖清勁可
見其人卷中有楊倫楊惠之朝請郎柳開伯謨諸跋
東諸跋
按景祐二年范公上論憲都事與呂文清並議貶知饒州秘
書丞集賢校理余靖言加罪言者十大率之攻王落職監筠
州周流而大手中允館閣校勘尸漆又言范某義薬師友乞
從降黜不生臣素信軍節度掌書記鄧州酒稅監江州酒稅其後公鎮
鄧尸公再監江州酒稅其來鄧公存没也公急至尸
所已曉閣公重定閣目而公模手曰也無鬼神也無恐怖
如此而已者二公皆真千載以上人也況親見其往來手札

何幸如之
歐陽文忠公集古録墨蹟
文忠公集古録千卷自序題之古今銘親也公暇于書學所
題一百二卷此卷意即此中見公一班公没世未久録已
曼歌此以送之又録敬夫原詩于其後惜乎得
山房叢記一為陸文學傳崇寧中作趙明誠德父録有
其手題德父小石金石録一千卷孟博雅君子也文忠又
章事業炳煥千古其手書又精工如是其為世珍寶有

米元章跋元吉帶來晦翁九表注惠方從義郎儀李贊訪公亦他卷所未有也又一跋載前卷

蘇米墨寶小冊

坡公與唐舍帖一紙計七十餘字原在仇山村家後有惠手跋又米襄陽帖二紙皆晚年書精妙人甚一路原在一卷既于南僧得米小字一紙又在吳門得米元章與惠水康生帖五段凡三段已刻絳帖餘二段已重如拱辰所得五行草筆畫清勁不俗代代山中合裝二

書蹟來當以此為第一工有基址時風日侵蝕
似有不印及秋盛開書在明又入嚴相家錯沒入內如此名
蹟累摹于權奸之手良為可歎黃子久云侯視之時有大星
貫十四星其聲如雷亦一奇也卷既入內府後改背割去今
江南傳一卷後有宋樂甲衣冠跋尾有吳兔床
者臨本也

黃庭直松風閣詩墨
今于甲甲後見山谷最愛松風閣卷其詩清脫妙不可
言字亦正書勁秀全用柳公權法他書所不及也余晚年極
一卷雲巢井堂家藏書畫 第四十二冊 七
喜柳書復得其一二秘本公見此素益知世之學柳者一味
硬直真鈍漫也卷佳絕矣而有可恨者嘉定間向氏書所題
不稱一也黃在貴似直家工有貴似直小印及倪生私記長
書當以此為第一

薛道祖詩卷
宋人書能存晉法者惟薛紹彭一人蓋從時定武蘭亭如石
在其家故行書詩稿五紙筆筆用右軍法無論不肯帶唐人
楷調即大令亦略不沾染之比宋子書學者也惜傳世者以真
如天安劈鼻

武當住小竹陸大夏求而歷題云右家藏薛紹彭書五帙薛八
八一風名河東紹彭其後人也宇直祖號翠微居士好尚其
水村陸公得此卷特愛重之閒出示予仍識數語於後後在
王元美家題識累二文休承云薛直祖書予唯見晴和二像
隨事吟二帖松窗其帙峰唐采齊跋前右陸居仁謂其
誰於六朝唐人當中當無愧後人見其所臨蘭亭孟定八
石刻在其家校PIT陸九如公獲觀其詩帖右上有建炎寇亂
清氣咕及和劉已潛詩真跡軒柱六朝遺法鍾曾宣公元豐
一帶雲根卅空義子書

奉父游諸書帖
火存書不多見端勁大約學之顏魯公楊少師其論書云
書書端正則窮於去度側筆取妍往往豐左而肩石欠端書
如右軍蕭度表子敬之書神至於行書中王家父子間有肥瘦自有佳
以法度病其精神至於楊少師特領其玩其筆跡左右之此不
處世法則學公楊少師特領其玩其筆跡左右之此不
好意唯王羲之書有古人氣味仁皇之書不甚
可謂去拙端觀淮海所書而其書可知定惟海鎮書

同右城公門下士皆善書陸放翁謂公門下士皆善書陸放翁謂
思往不改以書自名故淮海之書傳世若火益見重也
米元宰皇帝書毛詩馬和之補圖
宋思陵極重莊學而元圃心於詩每手寫一章輒令馬和之
補圖今所收者凡八章一為魯頌則一為有駜一為閟宮一
為商頌那一為烈祖一為玄鳥一為長發一為武王皆端
謹有致大約取法于鉄門民後相同不工古人實事歷代之
儀禮樂制之制是隋高九年他同所可及也和之以紹興
中歷官至工部侍郎余又于

一帶雲根卅空義子書
朱子美寓見節彼而山十章山而振八寓見閒性十章皆有
夫子及卜子夏小像高宗又曾書几經刻石今陽安文廟
与有存者彼時戎馬倥傯而能神閑氣定推意於書亦有半
壁百餘年非偶也
宋宣聖皇后書蓼蕭圖
蘇繡圖所繪仁和鍾企翁藏二十四事使閨壽完整男
女各得其一題字極其工敬至
今見婦子幼女不盈一紙之景也每段一題字極其工敬至
元中郵足老題云為顯仁皇后寫高皇手書凡
經過處如右軍書猶人未易辨金華宋景濂公閒出於晉令

樓璹之跋以閣工進工程至宮憲聖而列皇石迄段題之皇后姓氏配高宗其書絕相類謂上開作草石書金此題仁皇后乃高宗好也從宋北敕老年始歸憲聖親安后乃高宗往后史稱其善翰墨之則知安石書無疑金董之言為確矣

宋趙樂局篆書

書家篆法不傳至代擅工者寥寥數人而已趙樂局一為李監書暗去來一為趙識去書監谷序一為小篆為紅印章詩稿工絕趙仍寫度閒人樂易其詩若為未見先生書亦不知其名人侯作書考定後觀者固章四篆皆宋元人也

黃伯思書黃度內景經書跋

黃長睿為山谷表姪稱第一此所書法帖刊誤及校閱古器銘倶載東觀餘論中王順伯摩之蓄稱之印本刻於公集中錄平叔趙德父金石錄至二千卷亦訂其正然摘未免虛誣雲林之書為是順伯益留心古學考稱許如此良

有雲林室元人俗元銀器之為重其人且余又其書精健

于陳山人家見元劉勤書閒一跋王書精工之甚丁丙夏日

山中偶作此卷小字草書全用魏章法甚可珍也按宋書

急就篇一千一百五十字閣七百五十八字在宋時猶存原人硬書照衣墨石林夢得求之不得宣德庚申嘉興錢納本謂氣韻精彩如有仿佛此則乃劉之所書也虞伯生云長睿書厂崇寧之言蓋其然乎

陸放翁詩稿

陸務觀先生自書所作詩八首後題壬寅歲正月甲午川駐端卿所賠狂毛年時年八十矣書法如此詩句中多金石氣蓋公以管章作劇的寔錄

宋邵復孺書樂毅論

昔公旋山谷題此卷云不應筆在長安逸成中亦中書人席間金洛乃傳時入首時所謂他日恨事也

唯魚雁瑞草橘青泉菜概之間與山中人若不甚能崔苻顏梧石冒風慢書榮頂榮五然後出之共讀乃稱且余于公書亦

冬日於京中嘉泰甲子乃嘉泰四年也越五年而公沒

鮮于伯幾書杜詩

西明大家以書名一世今見其書隋楷多最生者沿杜詩秋風夜雨歌風格之有晉人筆意後自改亦自負孟博書畫

也其子去疾小字草書見者或世傳伯機與趙吳興齋名趙

自書一紙爲其一紙數焚之于如果有小事名物足
得一人結束足矣與乃如二也上是余曾陰封時張大理
睦心所賜相隨二十餘年更相聞問輒作累數存亡之感
凡人書足與康陽而收藏者利後康里書則人超承旨日書益何也對曰第字康里以
吾日可書二萬字以其所以俗也然承旨書後人尚有評其
利褒者爲作書則欲氣中氣作字則欲氣中氣作字謂鮮于書勝趙孟頫
于書勝趙孟頫者亦正以鮮于書不取俗耳
趙子昂手文墨蹟

一帶而泉神古義書 卷第二

子昂手文余舊有墨刻本上有晉府印記手澤必在晉府家
作一高日比快生秋當于棋盤街下馬即見此
卷師襄得之子昂書初學鐵門限久案思陵晚乃學顏魯公是
李北海此正是學定武時書風偕山谷神采水血書家仿佛
也後題皇慶二年五月望日的戴舉閱書跋又有至正二年
中丞張希孟字題名
趙子昂臨絕交書
子昂於古帖無所不臨率意合其處往往與神韻俱足
玩之則中直氣慨也跋行合書也後自題余十年前嘗仿

一帶而泉神古義書 卷第二

仲長書此卞意是去後而悔今以都下復得余之觀者書
文述林六年八月十日後有書文獻一記極詳核晚云魏公
書論中散論文書自題云十年前少作此用夫去後
二代是林二年再易補之按前十年至大元年也公以大德
元年初入京師六年除江浙儒學提舉大一年在泰州尹以
題語考之正提舉儒學事也述祐六年十一月謁告歸吳興
而後二紙寓杭子作歸時仲長革齋字也書與公同學者
爲州經歷又數歸延祐七年冒與公避地吳興此子以
延祐二年復在京春官拜公太子心時頗有侍講學士至順
部圖籍閱有如子舊友人王行成出此相示惠處晚者謹識
於此北之歟至元三年又月跋文獻余舊作當出其手潤之題曰學士
即也文集中遺有此文作當出其手潤之題曰學士
今日子昂小行草一四卷題跋文書相敵者惟西川李青甫
所收書東坡書花清前出來後方中最數手持文徵
跋欲仙後書其書花飛作跋於春七言古詩八十餘字詩已
見後書後題至元二十六年二月既望吳
題趙爲順爲先生小像正書此詩先生有神當當其意且此

老在予所數日李殊不知事不欲掩取之竹封還李殊手

揚州無銅卷不如何存夫

趙子昂自書詩稿

詩稿二紙一書天竺山二十八詠一書玄洲十詠寄貞居先

先貞居子所謂以史張雨也字法似黃庭樂毅論是其中年

筆余有文敏大字除隔東方宛從住上蓋因得此卷以相

易後有持修帖來售者書小楷何如大陸贈文沼律一首

字更遒逸可愛及得書唐絹自一鳴本以贈山陰王翁孫

趙子昂書所臨禹和之毛詩圖

子昂效韋蘇州詩意而無詩自效石禹和之在西陵中

名注一時論者謂其猶得古雅之神閱後畫紅書故落人所

書一百篇取處其後八合和之補閱後畫紅書故落人所

好事者爭購之是矣王孫所藏猶有西廡無詩孟頫下揭五

欲追蹤古人貽寫一尚宜想像其詩亦有不待言而知其高

名者如河上之墓比北阮洲而同人從從其下望石動已和

首首有丁思見其遠解戚施之態而利頤腹洋者未折墓字

城隅九雉而一見所愛知謝稼首於下則靜女也洪危亟從作

乘毋忘：若無所薄而淮端父老望而傷思中心養養如見

其人非之諸正之鞠躬／踧

者其餐采之賦式微子寄後序有花正也其不變延和及

有龍丘之篤也而以伯骨居有泉如兒母之谷則龍正之所

以貴僻也倚柱之女有保思高而謂所臨者必黑之流所與謀

新發現之短也宜作衛女之賦采葛城門之外樹

木叢茅其陽如於之北門子仲之昆弟獨出有仕下

得志之意乃其字衛盈北門也夫詩存而可名其風者半喜

之集也詩亡而可知其風旨能詩者也孟頫畫下是古圖

成而更作題出後之人其有不心供者與畫已可稱雙絕遑玉孫

年一月五日識事去都軍拯溺春興畫已可稱雙絕遑玉孫

卷後在上海顧氏家衡山猶見之今在京師劉元公家見和

之一卷有周南無詩

趙子昂畫陶詩小楷

子昂有秋林散步圖上以小楷書陶淵明歲天紀詩計

一百六十字風格遒逸合子昂最得意書陳衍公題云松雪

此圖倣趙千里秋林散步圖上繫以陶泉詩書法風流精

緊有黃庭東方朔讚風格的是安期雙望宜玄室坐即其下

不思去也

精法至晉人而聖意指文人板家人無指即吳汝人指石家
多帶行惟子昂獨得晉人蓋其結構精嚴筆神清妙
以仲謀上比五分年縱橫二萬里此書作是也余於石
李梅公處見之指書最多石蘭亭為之冠最後題泰和妻魏國夫人管氏亦能保守法眾有清風風覽宇宙精工可與西上小楷歐公數篇字
長玄帝世稀已此卷乃徐小色石琪贈大帥帥有大帥不
知重留今爲中經年還歸之公已拓奉中一十大家之

一卷宋米芾書

又寫自記

宋徽宗草書千文

徽宗千文書法學懷素而腕力特豪後題宣和七年御書已
用御書印金押有雲林子久及南琳收柳座諸收藏押余得
之亂後今已贈人

書畫舫借樂善帖

帖凡六十八字風骨似晉人而有不合題余是余家所
物又有真次和和給與諸收在嚴相下錯定入內故有南昌
跋跋印余于摩梅公處見之按草莊杜陵人唐昭宗進士引

余向使粵時中原兵亂家於此家書畫四五建未備號
拜莊名數時當侍列中書門下事以往

黃山谷草書杜詩

黃門收云依作家要與時張旭公主家爭重體勢迎得
十一月四子試卿及重筆余有趙松雪題此卷之跋後
表在李梅公處還歸之趙跋云黃人史所書杜少陵詩筆力
雄健又論至書體能深得其要此書法者不知也至大
二年三月題大申橋偏舍

一卷宋米芾書

蘇東坡書前赤壁賦

東坡既為惠州得米之作故書之此本小字楷書尤有精
本後自跋云我去歲作此試書多覺筆欲之意
人而已欲之行使至京師文
我必深藏之不出也又有後
戴白者前擁後之衛山相之
趙子昂楷書姜白石蘭亭考

此卷乃子昂奉使高麗李梅公坐報國寺拾下見此卷李
贈之子昂自題云白石先生蘭亭考一卷子見德機有此真

跡野翁自江東北得得來京師且以此紙要予作小楷余自
少小愛作小字頗遭來官途無復有意於事墨北方多麻麈不
宜筆研而客中久乏佳几此紙雖出高麗亦非良品偶令
日利俟風塵少息當拳曲土坑上據白木小桌即復書此以應
野翁之命據過庭所謂乘作者也

朱文公墨蹟

文公墨蹟一卷前書文公小傳後書楊定庵寺詩人與
程允夫帖又武閒誠意章手稱小行書極精工後有元人
朱公遷諸人跋此卷原在余家今在韋卿張氏
一帶山根卅六灣書

黃山谷陰真君詩

此卷乃山谷正書極其端勁自題云忠州手都山仙都觀刻
金殿西壁有天成四字人罕登真君詩三章余同年許少張
以謝真人文章也以予考之信然因試生筆偶得佳帋為
抄此詩以與王溫州碓之事手觀陰書所謂戶守去耳猶
須擇師勁者如是乃能行之何況千載之後尚友古人求知

道德之一二等者乎紹聖四年四月丙午黔中禪月敬甲書此

卷余借王長垣

黃山谷贈元詩詩

此卷字法道勁是浩翁手書王西禾子美得之故內合訂
借觀後自跋云余舊時東坡所作醉翁操意本當時元道之
元欽然曰往嘗見成都真刻此聲相汙也蜀人由是有酔翁
部伶指歷耳豈易考之建中靖國元年正月辛未江安水次

偶住亭書

一帶雲根卅六灣

第一卷 續金器題跋
朱曇尊曝書亭集 金石題跋
第二卷至第六卷
朱曇尊曝書亭集 續石刻題跋
吳焯武林石刻題跋
厲鶚樊榭山房集 金石題跋
武林磨崖續考
第七卷 續法帖題跋
一帶山房吐菴藏書 卷為一
朱曇尊曝書亭集 金石題跋
第八卷 續書體
顧炎武日知錄 論字
馮李驊字緯六書疏略
第九卷 續書論
錢泳書苑塵珠
第十卷至十二卷 續書譜
厲鶚樊榭山房集 玉臺書史

金器題跋

朱曇尊竹垞曝書亭集

商祖丁尊銘跋

右尊一銘二字曰祖丁在右杜外詩約彭曰祖丁考商十四君祖辛之子也乃有文作乃形中包六字不可辨識山陽張弨曰此商之酒器蓋飲者必繞以飲詩言發彼有的以祈爾爵是也詳合存弨家弨字力臣精六書篤古實至綜博尊彝款

禹之屬皆取陽子撰集古錄附到仲原父楊南仲諸子釋文句力臣殁後雖有奇字為予釋其文考家矣

商父已敦銘跋

父已敦一上圜下方紫一尺五寸厚四尺底二尺八寸腹受五升舟五尺四寸其文雲雷其耳垂珠飾也銘二字在腹蓋商器也商人尚質作祭器以薦祖考猶以父稱故鼎有父甲父乙父丁父己父癸舟有父甲父乙父丙父丁父己父辛父癸爵有父乙父丁父己父辛父癸觚有父乙父丁父己父庚父壬父癸觶有父己

父辛偉有父丁願有父乙父己盂有父丁父己父辛盤有父辛也有父癸此則數以父己名同其實已不惟是也有以祖名者等之祖丁祖戊祖己祖乙祖丁祖庚祖辛爵之祖丙祖丁鼎之祖丁願之祖己也祖戊是也有以母名者鬲與簋之母乙是也他如世母章兄丁兄癸姑庚子乙女乙孫己父名得通于下銘辭不若周人之煩取足以紀行次而已歲在上章執徐春觀于王公子士既書而拓之裝潢成二卷二刀一聚二鎰一尺

漢器一中有榮次對子既及書林義史公輔諸圖記

宋拓鐘鼎款識跋

宋紹興中秦丞相當國其子熺伯禋陽居賜第十九年日治書暇

刻是冊始其所集如楚公鐘師旦鼎之真工佛奇中卑程處士敦或得之單少董或得之宋希真或得之自大中孟希真和陽居而少董時視時貶程處士敦徵十五種標以青紙末書良史拜呈以納伯陽至今裝池冊內秦人改歲冊題玉牒之誤耿鈴以復齋琳琅之私印且續擇文氏且藏弄之阿後轉入趙子昂家子昂視用人雅印銘跋書辨氏考證手跋物平柯敬仲王以明陳惟寅均有藏弆印隆慶六年項子京鬼之尋歸懷園曹先生康熙戊申宋荔裳先生示予爰就不忍釋手先生屬予跋之未果也辛酉冬予假館吳下先生走寫書及冊復命予仍不果改庚乃打完寄馬先生孰此可謂書畫多散失久之見非真跡于余篋中十載宗人某中丞古貝而愛玩之猶予之不日也用以畀之海鹽書畫金石文銘心絕品性約者矣手可執之人券泰令之胄即嚴世中物之尤者重歸焉然千人所指其亡也可立而待胄不若山林藪澤之知保藏可久明子孫之有中庶其守物勿失也夫

一欽二勇六高四嘉九敬四篤一顧二壹二刀一聚二鎰一尺

一漢器一中有榮次對子既及書林義史公輔諸圖記

周時銘跋

右周時銘一新城王吏部子真之書工佛奇中卑程處士敦徵得之單少董或得之宋希真之自大中孟希真和陽居而少董時視時貶程處士敦徵十五種標以青紙末書良史拜呈以納伯陽至今裝池冊內秦人改歲冊題玉牒之誤耿鈴以復齋琳琅之私印且續擇文氏且藏弄之阿後轉入趙子昂家子昂視用人雅印銘跋書辨氏考證手跋物平柯敬仲王以明陳惟寅均有藏弆印隆慶六年項子京鬼之尋歸懷園曹先生康熙戊申宋荔裳先生示予爰就不忍釋手先生屬予跋之未果也辛酉冬予假館吳下先生走寫書及冊復命

字古文春秋書公即位為公即立明是舊日立亦當作位據傳
定為立從薛氏清也古之動在王室考此父之册謚九銘世名
論撰其祖父之德善功列以明示後世如申伯名尤韓侯大侯
玮子之盛詩書所載煌煌千百之一二而銘之器者絕寡不將
盤盂匜匿數百為然舉凡鋒矛刀劍莫不有銘自秦成陽
厲禁所至為政治改有始不可勝數世技術書之稍不
知貴金為禍之益烈也嗚呼三代之文自九經而外其得見之
於今者有矣碩神物顯晦或有時漫出楮墨之外又安之荒山見宇
中寓之寶措棧令好古君子摩挲數而不已也時乎尺有三

寸履承五寸廣一尺四寸其斗三升增加若干云

周司馬頌簋尊盡銘跋

右周司馬頌簋尊盡注以洞字一似頌服約有銘故其文一曰
五十字可辨識者維三年五月既死魄甲戌王在周康邵宮旦
王格大室即位宰弘右頌入門立中廷尸氏受王命書王呼史
號㦰冊命頌王曰頌命汝官司成賜汝元衣赤市朱黃㡛
旂鑾勒用事頌拜稽首敢對揚天子丕顯休用作朕皇考盨
叔尊簋用追孝斬書其爲年月壽物在天子令故子子
孫寶用此其大略也款識二銅敦圖版

周延婁子鉦銘跋

康熙九年冬十有二月門生吳李良注以洞字一似頌服約有銘故其文一曰
吳谷孫先生整室出延婁子佩劍相示以周尺定之長三尺
脩廣二寸有半重九斤上士之制也脩有銘篆文字不可辨合
之聲凡五十六隸書五一似其曰季良者先生審定之解公
爲先生部曰人辭句冰之時成篆銘文于前徂書款句于後共
界為冊藏之硯山書屋

南海劉二銅敦圖版

廣州波羅江上南海神廟銅鼓二大者唐嶺南節度使鄭絪出鎮時高州寺林為得之嶺尸以獻絪納諸廟面闊五尺餘隔耳龍體色紋書稚以月砂厭其光羅布海魚蝦蟹等紋旁設兩耳龍體色紋書稚以月砂厭其光可鑑小者救大者五之一從海州雄水湧出色純綠稚以厭媚

斑害初之際二若八卦畫每歲二月上壬主人擊以祭神天閒有疾病于廟亦擊之考周官大鼓四金鼓人掌其聲用鼜鼓以土鼙人以木革以鼓之不聞范金也色狀波將軍平交阯時高丞相處嶠始鑄銅為鼓凡得三川百粵頗多嶺南一名廣州有鼓功成歸于廣處牽牲五口于女媧會出金銀釵印之納諸主者曰都老有警然相攻則鳴鼓集眾俄頃而合蜀川凡鼓考藉孔明所遺其直易牛千頭若南海廟中大者至于金銀和鼓亦名錢于掌之鼓人見于春秋內外傳失銅鼓有之一如唐成渾圓如雅鈴大小上下乃未鼎彖義繪三禮圖云其狀如扶壺而空和博古圖一十九器不繪銘識以龍馬虎雉龜魚插鳳山花鎮之仰若井口是守以下為上矣南廂始興王鎖鎮雲州仆郎人陂祖獲鎮于以獻史稱高三尺六寸六分圍三尺四寸圓如車色黑如漆其上

一帶小銅柱州亦藏之

欽玉泉紀食業錄者文作竟並美為方鉦也漢宮闕有鳥柱形制度出方令巫相待詔織屬少府主作禁器物掌上手工作以賞者為之卷冶之處然及杜劍是已自武帝好神仙宣帝亦有方士所製時侯銅爵玉杯雖為時尚方為之既如劉更生獻淮南枕中鴻寶苑秘之方尚方鑄作事不驗張松上言諸方士尚方待詔時當獻明鏡銘始出方士作也宣和博古圖載漢鏡一百有三皆方鉦乃其四銘詞揭盛各殊古人制器

所書倪銘

書畫倪銘

金有時而採惟錢臣家均有之故自漢以來制錢間存者衍魚所藏是錢差堪時物也其銘作前後日樂無事日有喜宜爾食宜亦知止不殆之君子為之

跋新莽錢范文

易通靈為象布帛為利喜矣狄仲尼之徒亟其事而行之有用官司象府掌之景王分小大二品權其子母為利喜矣狄仲尼之徒亟其事而行之有用官司象府掌之者刊固孔子所掌言也新莽間位將重錢法錢凡六品刀凡二品布凡十品既而以剛卯金刀合劉氏文乃禁佩剛卯除刀錢以大錢小錢二品並行防民盜鑄鈚刻庳者入鍾官其時鼓鑄一帶雲根州堂感古

多效至今猶有存者若夫錢范窮鈚排蒙治錄閱志諸家或未之見也歲在丁亥夏初於上谷小村盡山書屋范形正方中央輪廓四其二有文曰大泉五十猶體書舒詩家所云活碧庶幾見之上舍得之石門呂論修葺中寮頗古刻若鈚多皆以此居第一矣

跋甘羅城小錢文

古錢薄而且小文止一字不可辨識下穿一小孔相傳俚口有土臭土人曰為甘羅城往流變遺跡裝考有掘得此錢者名之曰甘羅錢殆聰眼逡環捻莫行葉之對此之謂么鈚幼錢也

景雲觀鐘銘跋

景雲觀在於紫坊見茅元恭長安志鐘銘奉字譌玉順陵碑文略以猶有八分貴風存焉時物也其銘作前後日樂無事日有喜出妙品也由唐以來歷年既久當時古蹟高臺已傾曲池已平殘碑斷碣僅存千百之一而廢宗之書猶留至今無恙不能橫形眾事之希有者也

咸寧縣治金五佛像銘贊跋

唐自太宗崇奉釋教凡宇宙之地軟公侯殿刹卑金五佛寺破宋老生于呂州立尊像寺破宋金剛于晉州立碑到里閭于石州立昭福寺征高麗于幽州立開忠寺猶可指視士死戰而為之為福不失發政施仁之一端足感化於

幽微況神堂建佛寺立一當是時物奉宸翰書玉仗尊宠檢校大像使于白司馬坂合為像都下稱風殊金銅成佛身者益多矣今咸寧縣治存五躯唐長安中所鑄躯光有銘有撰作銘者二人高延賁蕭元春吾鄉者三人常約李承烱姚元崇作撰者二人李約尉長安書者二人高延賁蕭元春吾鄉雪作郎衆銘人粗祝合裝衆成一冊惜未紅版尾像設本未不得其詳惟姚元崇銘乃為光宅寺志像而作故唐會

要俱成二年沿革者言此坊有異承振石得舍利葬於周立為
寺元景元之之弟也仕至常州刺史見拿利世系表
吳大帝安鐵香爐題名跋
曹生曰瑚好集金石文字從上元燈市路得鐵香爐款十字以
示余文曰吳太和五年歲次癸巳七月己丑鑄此香爐收貨錢
及錢打造計重一百二千斤安大安寺敬上為周王吳主府寺
令公十方壽姓永充供養諸司傳者至錢福之即師立所云
國王吳主考唐亡十二年吳猶不改天福年錦至揚行密次子
隆演乃始建元第四子溥雖御文明殿即帝位國人猶稱曰王
而以王代帝也府尊令公者太和二年以中書令仍詔為令
陵尹也十國之主率多佞佛楊氏所有二十九州往往鑄金刊
石若昇之興化浣江之開福院安司李均有銘具于王
象之碑目若大安有寺金陵梵刹志不載姓名既有拓本目錄
器當存與跋題名百人中有金一娘段二娘曹三娘趙四娘孫
五娘孫六娘金七娘盡十三娘兵六十娘并之都力堂工人姓
名中書字大邪丁口無別夫為國以礼務使男女各正其位政
教交不貳不雜坐不同市柳柱加言不出祖所以坊民
閑其可踰乎為國之主教民把持夫禮制之汤品宅不于口腹

而民不知貶君子以為陶甘其風者言此坊有異承振石得舍利葬於周立為
寺元景元之之弟也仕至常州刺史見拿利世系表
吳大帝安鐵香爐題名跋
曹生曰瑚好集金石文字從上元燈市路得鐵香爐款十字以
示余文曰吳太和五年歲次癸巳七月己丑鑄此香爐收貨錢
及錢打造計重一百二千斤安大安寺敬上為周王吳主府寺
令公十方壽姓永充供養諸司傳者至錢福之即師立所云
國王吳主考唐亡十二年吳猶不改天福年錦至揚行密次子
隆演乃始建元第四子溥雖御文明殿即帝位國人猶稱曰王
而以王代帝也府尊令公者太和二年以中書令仍詔為令
陵尹也十國之主率多佞佛楊氏所有二十九州往往鑄金刊
石若昇之興化浣江之開福院安司李均有銘具于王
象之碑目若大安有寺金陵梵刹志不載姓名既有拓本目錄
器當存與跋題名百人中有金一娘段二娘曹三娘趙四娘孫
五娘孫六娘金七娘盡十三娘兵六十娘并之都力堂工人姓
名中書字大邪丁口無別夫為國以礼務使男女各正其位政
教交不貳不雜坐不同市柳柱加言不出祖所以坊民
閑其可踰乎為國之主教民把持夫禮制之汤品宅不于口腹
而民不知貶君子以為陶甘其風者言此坊有異承振石得舍利葬於周立為
寺元景元之之弟也仕至常州刺史見拿利世系表
吳大帝安鐵香爐題名跋
曹生曰瑚好集金石文字從上元燈市路得鐵香爐款十字以
示余文曰吳太和五年歲次癸巳七月己丑鑄此香爐收貨錢
及錢打造計重一百二千斤安大安寺敬上為周王吳主府寺
令公十方壽姓永充供養諸司傳者至錢福之即師立所云
國王吳主考唐亡十二年吳猶不改天福年錦至揚行密次子
隆演乃始建元第四子溥雖御文明殿即帝位國人猶稱曰王
而以王代帝也府尊令公者太和二年以中書令仍詔為令
陵尹也十國之主率多佞佛楊氏所有二十九州往往鑄金刊
石若昇之興化浣江之開福院安司李均有銘具于王
象之碑目若大安有寺金陵梵刹志不載姓名既有拓本目錄
器當存與跋題名百人中有金一娘段二娘曹三娘趙四娘孫
五娘孫六娘金七娘盡十三娘兵六十娘并之都力堂工人姓
名中書字大邪丁口無別夫為國以礼務使男女各正其位政
教交不貳不雜坐不同市柳柱加言不出祖所以坊民
閑其可踰乎為國之主教民把持夫禮制之汤品宅不于口腹

而民不知貶君子以為陶甘其風者言此坊有異承振石得舍利葬於周立為
寺元景元之之弟也仕至常州刺史見拿利世系表
吳大帝安鐵香爐題名跋
曹生曰瑚好集金石文字從上元燈市路得鐵香爐款十字以
示余文曰吳太和五年歲次癸巳七月己丑鑄此香爐收貨錢
及錢打造計重一百二千斤安大安寺敬上為周王吳主府寺
令公十方壽姓永充供養諸司傳者至錢福之即師立所云
國王吳主考唐亡十二年吳猶不改天福年錦至揚行密次子
隆演乃始建元第四子溥雖御文明殿即帝位國人猶稱曰王
而以王代帝也府尊令公者太和二年以中書令仍詔為令
陵尹也十國之主率多佞佛楊氏所有二十九州往往鑄金刊
石若昇之興化浣江之開福院安司李均有銘具于王
象之碑目若大安有寺金陵梵刹志不載姓名既有拓本目錄
器當存與跋題名百人中有金一娘段二娘曹三娘趙四娘孫
五娘孫六娘金七娘盡十三娘兵六十娘并之都力堂工人姓
名中書字大邪丁口無別夫為國以礼務使男女各正其位政
教交不貳不雜坐不同市柳柱加言不出祖所以坊民
閑其可踰乎為國之主教民把持夫禮制之汤品宅不于口腹

而民不知貶君子以為陶甘其風者言此坊有異承振石得舍利葬於周立為
寺元景元之之弟也仕至常州刺史見拿利世系表
吳大帝安鐵香爐題名跋
曹生曰瑚好集金石文字從上元燈市路得鐵香爐款十字以
示余文曰吳太和五年歲次癸巳七月己丑鑄此香爐收貨錢
及錢打造計重一百二千斤安大安寺敬上為周王吳主府寺
令公十方壽姓永充供養諸司傳者至錢福之即師立所云
國王吳主考唐亡十二年吳猶不改天福年錦至揚行密次子
隆演乃始建元第四子溥雖御文明殿即帝位國人猶稱曰王
而以王代帝也府尊令公者太和二年以中書令仍詔為令
陵尹也十國之主率多佞佛楊氏所有二十九州往往鑄金刊
石若昇之興化浣江之開福院安司李均有銘具于王
象之碑目若大安有寺金陵梵刹志不載姓名既有拓本目錄
器當存與跋題名百人中有金一娘段二娘曹三娘趙四娘孫
五娘孫六娘金七娘盡十三娘兵六十娘并之都力堂工人姓
名中書字大邪丁口無別夫為國以礼務使男女各正其位政
教交不貳不雜坐不同市柳柱加言不出祖所以坊民
閑其可踰乎為國之主教民把持夫禮制之汤品宅不于口腹

西湖寺錢王本是英雄人白蓮花開王身蛇卵虎落狗脚
朕何如錦袍玉帶拜功臣天封王開即是聽兩折不用前鼓
覺師來佛子護作持太師當父尚書令一枝修到白石生生
令但有能詩解同袍方外話師兄哦詩礼塔作佛事同禦地
爐山等美何曾重陸崎林供但見打鈴銅紆明哦詩礼塔猶
未畢蓋葉低飛山雨黑

吳州銅柱記跋

右銅柱記楚王馬希範與廣州刺史彭士悊立誓克金石命
掌書記天策府學士李弘皐作記柱高一丈二尺八寸地六尺重
一帶雲根卅常藏金石

五千斤環以石蓮花臺在今辰州溪壁上去府治百餘里人
是宇有拳拓本流傳于世即好古如雅趙魯洪諸家亦未之著
鎮也予年三十讀歐陽子五代史吳文詞及時祀可馬公通
鑑編年叙事反詳于國史之紀傳心竊未安因取鍾希聲所映
約分注歐陽子書既而予從雲中轉客太原訪沙陀北漢故蹟
殘碑斷碣靡不摩挲抄撮則映亦多助考證不韋家死于無遺
搨盡失從此予無相助者興轉劇散矣康熙戊午范山梁徵上
奕范相聚京師語及金石文自言家有銅柱記拓本乃託其和
致具錄記文書定楚世家之誤弘皐止名曰皐彭士悊易以士

欽其子師景易以師禹劉靜初本靜江指揮使不考其官未免
景亦且夫貴撰書人記為正也

續題廣州銅柱記後

廣州銅柱記裴葉氏求之三十年不得歲在己丑七月忽獲
之兩吳書傳舟中文字完好出於意表檢視裹時跋尾于弘皐
本末之詳乃命裝潢手作冊緻詹題于前續考其未焉希範
之悉天策府都尉希廣其同母弟武陵即希萼其庶兄弘皐立
希廣如大校張少敵夏之謂曰希萼久負氣必不為都尉下
且與九兵曾通好若不厚王勢將引譬車為亂幸孰思之弘皐
不從少敵竟舉兵以武陵反合九洞溪蠻
分路攻逼至長沙城希廣于郊外而走解弘皐此事欲湯予
亦略而不書廣州靜逸都句化立檢點狀具于天福五年正月記
撰于是年五月柱鑄于七月竟鑄于八月立于十二月宋天禧
元年十一月移置今府

廣州光孝寺鐵塔記跋

嗚呼僧竊之主未有患于劉銀者也況屠佐有家室稱子孫性
宜者可信不知其施業納賄更甚焉鐵塔建自大寶元年凡七
層合相輪通先座柒二丈有二尺觀其列名皆宦者也當其時

張又範銅為已像并請子列于天慶觀而今已亡之益金石
刻之傳于世今之用博故其鐸也易以予所見自唐以來惟景
雲觀法性寺二鐘銘及是塔而已若哥祠鐵人鑄自宋建中靖
國年則其文在胎實出難以捉摺孟玖識不同發前人之
僭矣

續書光孝寺鐵塔銘後

歲在壬申重修廟表改歲正月甸海東元孝飯于光孝寺南廣
之興王寺也寺僧等主客詣劉張所鑄鐵塔所在見二塔並立
一屋中修短不齊一作記一題名始唐景時拓本合二為一記
一帶雲根卅堂藏書

之不詳元孝語予南漢主劉龔爲晉王時治東二十里北亭門
榮禎丙子秋九月穴中有鶴鳴土人發其墓隧道深五尺余三
尺有金像十二一兒和而坐一并而坐始焉后也又得十人形是
諸子又學士十八以白金銘鑄其他珍異物甚彩有碑一并書
翰林學士知制誥正議大夫尚書右丞上柱金修匡廬府君敦
撰文曰維大有十五年歲次壬申四月癸朔念四日丁丑高
祖天皇大帝崩于正寢越光天元年五月癸未朔十四日丙申
遷神于康陵禮也云子方注五代史景年健忘遂事事於
前冊亡友仁和吳志伊撰十國春秋盧雅更作應門事跡為工
部侍郎大有中加太尉中宗時拜中書侍郎同平章事銜名系
合惜其已逝未得此異聞也

跋晉祠鐵人胷前字

太原縣唐叔虞祠西南隅聖母廟階下鐵人四長九尺分兩行
侍立胷前有字紀銘歲月是政和年造文既奉奉字亦祖靦
無足取者倦閱鉏菜角以金石之文石多金少款多識少遂摹
揭而裝演之此執異族人之市馬骨也

太醫院銅人腧穴圖拓本跋

京師太醫院三皇廟腧穴圖傳是宋天聖年鑄舊有石刻針灸
一帶雲根卅堂藏書

經仁宗御書其銅靖康之亂自汴輦入金或謂安撫使王樾使
宋以遺于元者世祖命阿尼哥新之至元二年銅人象成周身
腧穴脈絡悉具注以木圖載畢達明校讎命工重修裝序載其
鉢篤壁初先太保官大醫院使時加先習焉言明堂鍼灸自
黃帝始其後晉有孔穴側注流注三部五藏十二經失之毫釐
悔且無及學醫者試捫是圖推于躬朝夕省視之亦仁術之一
端也

六藝之一錄續編卷第二

石刻題跋

朱彝尊竹垞曝書亭集

錢塘 倪濤 撰

書岣嶁山銘後

古今篆體書勢韋續述之凡五十六種祇云夏禹作鍾鼎書禾
言有岣嶁銘然見于吳越春秋南嶽記南嶽總勝集衡中記則
稟特寄呂衡州詩有云嘗聞祝融上峰有神禹銘古石琅玕安
祝文蛤虎形昌黎韓子詣南嶽廟謁賦岣嶁山詩上言岣嶁山
一帶雲根仲尊成書

失神禹碑字書石赤形模奇科斗拳身難倒投高鳳水泊蟄虬
蝸下言事嚴蹤踪鬼守護之千搜萬索何昧有
森之綠樹猿猱悲是韓子僅得之莫人之口和銘文仍未之見
也地志稱宋嘉定中有何暈良致于祝融峰下樵子尊之至碑
所手摸其文以歸奉贊韓彥約時人未信致之獄庶幾
院劉陽張世南作記事或有之是銘考古家率以為僞祝融
釋者太支離故記信相半蒙考于錄下配埋山之石不亦可乎

跋漢五鳳二年軹字

右漢五鳳二年軹一出歌曲阜孔子廟庭前殿東壁書以篆文

一行志瑒之歲月後有金高積刻題跋而京兆則有建武二十八年北宮閣令邯君千秋之
宅磚亦作篆書其餘載于洪氏所記者有水平八年軹一連初
三年汝伯寧軹一七年曹叔大軹一元和三年謝君墓軹一永
初元年景師軹一其文皆隸書也或云萬歲舍大利善或云千
萬歲署舍子孫貴昌未央大吉或云大吉陽宜侯王盖東京人
尚識緯民間造宅墓爭作吉祥之語與西京不侔矣

會稽山禹廟窆石題字跋

黃岡張紳修祀學兩浙按部於越拓會稽山禹穴窆石題字見
寄以予書定其文予考窆石之制不載于最崇義三禮圖惟周
官家人之職及喪其葬之窆器及窆執紼以下為
招豐碑之席圖經引葬于會稽取石為窆石本無字迨漢永建
元年五月始有題字刻於石與王廙之復齋碑錄定以為漢刻
列不誣矣石崇五尺在今禹廟東南小阜覆之以亭相傳千夫
不能移及歲在乙酉有力士拔之石中斷部下健兒迭相助乃
拔陷地纔數寸爾土人窆之仍立故處載考古之葬者下
招用窆盖在用碑之前碑有銘而窆無銘窆其文乃東漢書字
趙氏金石錄曰窆石銘誤也隱翁林之陽蒼梧之野已無諫

述可求而均樓有碑陪母廟有闕會稽有宋石益以徵神明德之遠也夫康熙己卯夏日書

漢開母廟石闕銘跋

右開母廟石闕銘存書三十二行漢建寧元年四月立啟焉子其母塗山氏之女也尚書娶于塗山辰孕癸甲生啟禹往見塗山氏女未之嘉而必有事已即去閒有玄狐九尾造于台桑已與禹見塗山氏女未之嘉而必有土女乃歌曰候人子孫實始作俑為南夷引女傳其姓于數語

然則母也賢矣若夫禹化為熊塗山氏化為石啟生啟焉不經本于墨翟之徒隨巢子至漢流傳耶高山母廟南有石闕存焉也闕立于安帝建光二年地志云是嗣川守冢窟造其制累石而成兩闕俊植中不為門庶有石方數尺上琢捷室模盖如佛寺經幢然武梁祠畫伏羲為兄造闕用錢十五萬比五碑費十倍之洪氏隸續具闕闕狀別敘母廟碑少室神道表之及奇兵式至于釋隸而二闕銘實文敘爾子友柔并校筆劄攷核印漢遺周疏本末于册尾

漢武梁祠碑跋

右漢武伯著碑宋嘉祐中宿州薛茂汴渠之泥沙中是本紙墨古色為是谷孫侍郎收藏物即初發碑時所拓也鄭漁洪氏曾

忠臣義士孝子賢婦凡一百六十有二人今是冊存者僅百五十人孝子四人而已闕百五十人之數亦可惜也

元碑以石下半始士與禮部特牲所云毋過者是也視此可悟古人為事故象坐二人而作於綿蕞之際

失其真矣每幅上下兩方有小字分書題識姓名或閒作關語

趙明誠稱其字畫遒勁史地祖謂其筆法精粹可為楷式相者

鑾輿光可鑑元氣渾全四唐本當不虛也

漢朱龜碑跋

右隸朱龜碑碑之江都市上水往淮水出南陽平氏胎為上

一帶雲根神堂處甚多是碑元謂止南有崖泉廟二前有碑是南陽諸郡

東北道相山廟道元謂止南有崖泉廟二前有碑是南陽諸郡

道立又二碑並是延喜中宇令所造斯並其一矣考欽陽氏集

古錄所載碑文中山盧奴君奴下闕一字斯碑云盧奴府君

未詳其名耳其云春秋亦譬碑作宰春秋亦譬作春秋而實

祖下碑缺穀佑二字中云縣郭君以來寺世的舟不仗貝云集

古錄闕其文郭君治即邑也獨柱歐陽抑其文字劉跋而是碑

甚完好殺為後人重摹雖不傳於世宜矣

漢婁壽碑跋

右漢南陽處士婁壽碑歐陽氏趙氏洪氏均著于錄其曰安陵

先生者周人之私謚也易名之典禮官主之大昔博士議之迄

定得以既正之其後但請于朝不者德行惟謚是謚失制謚之

本矣至於私謚多出知人門弟子之私極辭肆意未有限量故

特之于書若展會之於典路最之於說友名不盡加以上謚玄儒先生其一也是冊為中吳唐女

門洪氏所藏雖日展本古容林高手楊墨之表子先後見漢碑

約三十種老年從翁得者矣

漢衡方碑跋

右漢步兵校尉衡方碑在今汶上縣文未其先伊尹在殷陳梓

一帶宅東平東平漢之

阿閣間氏馬楼趙氏金石錄載漢儀令衡立碑言出自伊

尹合之應劭風俗通與或云魯公子行子孫因以為氏則各

有所本也碑以雅拓者少故大縣字顯可讀康熙乙巳秋九月

拙存書齋郎去原傳山書主長水未吳寺錫壽刊題

漢淳于長夏承碑跋

右漢淳于長夏承仲元碑在今廣平府宋元祐間出石河堤得

於土坡中官私祭未予年十五時第六叔父子蕃題同里卜氏

所藏拓是宋時拓本今為王人重摹失其真矣

漢博陵太守孔彪碑跋

右漢博陵太守孔彪碑曲阜石闕多畳孔子廟建獨此碑在林中次陽子集古録第云孔君碑惜其名字昔亡封明誠以為碑殘闕名字可識諱彪字元上證以韓勅史晨二碑乘銭大姓名是本書見之于宛平孫侍郎宅文會堂獨存及字形模尚存乃弘治中修闕里志改彪為震都少卿移書問拠志考之不知震即彪字之誤也孫氏所蔵漢隷約三十餘種尚有欠佚此本公畫款失舊如新故人又絶類郃陽令曹全筆法此正水拭所云碑石不完者則其字尤佳旬哉言也

漢析里橋郙閣頌一跋

右漢武都太守李翕析里橋郙閣頌立于建寧五年同時文有黽池五瑞碑五瑞者黄龍白虎連理木嘉木甘露及永昌人各圖其象摩厓刻之今無存矣洪氏隸釋隸釋載史晨後碑為後人改刊故史字長書之書法太醜疑為後人作碑表志狀每于宮閫之下輒為對偶靡律引他人事比擬令讀者莫晓其生平而斯碑序述全用韻語不意自宋已有作偽者然其書法特在今世所存漢碑上

漢綏中郎鴻都石經殘字

中郎石經初非三體書法乃楊衒之洛陽伽藍記史忠林傳惟張純得以三体參校其文而梁重定等所謂記史忠林傳云孝子惟孝句成注云孝子性孝美大孝之詞今石本子乃引于欤則孝子惟孝友于兄弟施于有政句法正相同也書并下碑則定為隸其說獨行之今観宛平孫氏所蔵尚書論語殘字平生指趣尤之期釋論語書云孝子惟孝友于兄弟施于有政句成注云孝子性孝美大孝之詞今石本子乃引于欤則孝子惟孝友于兄弟施于有政句法正相同也

漢華山碑

漢隸凡三種一種方整漢鴻都石經尹宙碑及武榮劉熊白石神君諸碑是已一種奇古變化孔彪孔耽諸碑是已一種汪洋恣肆延熹華山碑正與此合無所不有兼三者之長當為漢隸第一故史字子長書之書法太醜疑為後人改刊

漢冀州從事張君碑跋

右漢冀州從事張表碑石今不存予時見者宛平孫氏家藏本宋搨本也蓄怪六朝文士為他人作碑表志狀每于宮閫之下輒為對偶靡律引他人事比擬令讀者莫晓其生平而斯碑序述全用韻語不意自宋已有作偽者然其書法特在今世所存

郎中郭香姓名始即答書之人與

漢梁陽長喬玄表字碑

絡興十三年梁水尉翁仲表得漢碑于固城湖中驗之即當書

光和四年梁陽丞尉吏掾為頁長喬玄表立其出也挽

故猶易遠離梅惠我甘蔗聚迫表歌字乃與前用之其曰尚

旦在昔我君存令蓋以周公太公喻乾擬人非其倫矣

漢白石神君碑跋

右漢白石神君碑在無極縣立石者當山相南陽馮巡元氏令

京兆王朋與欧陽氏集古錄所載無極山神廟碑略同文稱神

君能致雲雨法施于民則祀之宜也然所云蓋高者令之無極

廟碑特常山之妄男子耳先是光和四年巡詣三公神山祈南

神使高傳言即與封龍與極共興雲雨寡以白羊高等逐詣太

常索法食越二年其載神君始來上曲書來依無極山為比即

見聽許蓋斯時亟風方扇民牧者宜皆事于打的乃必明社

信亟言輒代為之請何欧非的云爾特已而獨立神者欧碑於

有藉城神君李女神執石神君廢神君名殊的因白石而名類

名之者碑建于光和六年是歲妖人張角起矣

漢北海相景君碑陰跋

濟寧州儒學孔子廟門列漢碑五其制各殊北海相景君碑其

一也地志不載何年所立以予考之元天歷間出州界有李九思曾奉勅歷河南北錄金石刻三為徐迪上進頗其副本為二百卷曰文海典閣于翰詳漢刻九于泗水中亦尋漢刻泰山絕頂冯泰碑閒改陽趙氏者錄斯碑本在任城其移置于學者必天歷閒矣碑雖屢患其堅完石壁工以不能推折歸于留也三有強令拓之題名丁時卽村盆跋讓史書侯時吏行義修行年小史監貢云年當不載于續漢書宮志卽趙氏亦不知也廣韻鉦卽亭卽漢複壁九州十有四張引何承天姓苑漢有司隸校尉水卽奉而斯碑有修行一帶雲根卅雪滅千百

水卽卽雪漢人又有修行都亭台卽是故午都亭台卽是卽在四十四姓之外亦足資異聞也已

漢蕩陰令張遷碑跋

右漢蕩陰令張遷碑不著於改陽氏具氏之錄殆後時而出者碑額字體在篆隸之間極其飛動約書最為奇古字畫亦多相通者如卒成常宣石外門常枝珍工技卷母祝睦親元在二碑其書載字略同而若作市則此碑所獨也碑陰系錢從事二人字令三人故吏三十二人故吏一人為史不應紀錄若是或於雕時先安人爲

書肆勅孔廟前後二碑并陰足本

前里孔子廟庭漢魯相韓勅攸卽建碑二前碑紀生孔器後碑以志修廟置卒碑陰兩側均有題名全夏郭篤汝器所藏碑文公沏

深淺手搨以歸勝工人拙拓者百倍汝器以予於金石之文有
同好也遠遺書寄予乃取題名之參錯不齊者刪之共成冊
思夫孔子既沒褒崇之典歷代有之世本王侯大夫莫不有宗
譜族牒聖人之後獨無聞焉後仙源宗子珍席宋南渡金原
立別子為祖嘉祐壬辰引三禮註以證之且博搭
之古也忽焉元人思復立大宗而子宗辟不文能以礼誘人之
所難也以予前見明嘉靖孔門錄載一書考厘六十一代旁係
承襲即晉府審理正弘幹所撰有世表有宗系圖其於三衛一
支棄而不錄奚繫世弼昭穆者宜如是乎可為長太息也矣

牧前後碑陰載孔氏為商有褒成侯損建壽御史到元世東安
郎中新定伯豫州從事方慶平故從事御史中丞平原朝請大夫
石拳史恢聖文文學可石之德英故皆郎承伯序敘元夏進幼
達和史諱仲助術子伯替元齊睢仲淮惠公孫旭連壽崇安世
太尉掾凱仲悌處士徵子舉巡百男憲仲則汎漢光凡六十三
人而後碑稱碑像孔從事所立殆方也狀合聖人之後有顯子
孫改脩闕里志孔門僉載則宗子支子之流派及書名史冊碑
碣者具書之性非其族必去非聖人之言必削之庶乎其可已

郎中鄭固碑跋

已而之秦伯舟任城南沈之南步入州學見儀門字列漢碑五
左二右三郎中鄭固碑其一也碑文全漫漶不可辨識舍之去
明年冬同岘山顧寧人嘉定陸冀王觀北平孫侍郎承澤載本文有
更定字寧人謂是更迺之冀文是而引三禮註以證之且博搭
援物又謂更度之冀文筆之金石文字記以予考之集韻更商
後二十年更書之均七倫切音義則一耿文恪字云作行作迺
也迺字雖音徒回切而配之以更當讀如是矣如有猶之
猶以為從借則可不得之冀文矣寧人作音論楷集韻不存未

知是書尚存天地間致于諸書以義未盡術明

書王純碑後

吳州刺史王純碑婁彥發漢隸字原謂在鄒州中都縣立于延
享四年十二月而書長以純為紹興以前書碑以王書為中平孟未書額
至其所而傳聞之誤也歲在丁未同譚七舍人元序石觀于北
平孫侍郎祠山書屋未知未也碑陰列門生百九十二人姓字在
具者六數略如之按漢人書名以具名字此碑自稱定伯而下
書字而不名具人府楊侯高陽令楊壽主簿先生畢壽三碑相

同亦門生之變例也

跋竹邑侯相張壽殘碑

竹邑侯相張壽殘碑在兗州城武縣立于漢建寧元年五月土人載作後人碑跋所存約二百字竹邑侯者彭城靖王恭之子阿奴明金骨水初六年封見侯表方後漢書同姓諸王年表

金鄉守長侯君碑跋

金鄉守長侯君諱成字伯盛山陽防東人文穆侯仁之後以平國君更安國君又則卿衣侯判其子昱襲封而增爵封於陵故陽民趙氏已正其為矣碑未書夫人氏族考夫人之卒多于蔡邕全集中碑銘頌贊凡一帶也根州古義書 卷四十 卷四十二 十三

詞皇表神結男女各異其扁日疑東京之俗夫婦同穴者字故廣漢屬國侯李翊墜夫人厥其墓並在梁州各自井椁樹碑可以驗其葬矣終庚之世侯君和外夫婦合葬佳有即中馬江若書夫人氏句書氏祔焉此諸葛雷金石例王行墓銘墓例未發其凡者也

漢丹水丞陳宣碑跋

明成化中內鄉縣高店廟土人得古碑一乃漢丹水丞陳宣之功碑文稱宣字唐成汝南新野人座相曲逆侯爵里去广遍史注漢閒傳欽陽尚書住郡歷主簿特卻除項都鄉有臨時永壽三年七月洪水盛多田敗黃氏先水利卻卓騎維堤修吉跡自月而成長流技注祝田二十餘頃於是野民胡訪孝欽敦序由登山伐石建立金碑勒記為惠後時銘二章建于建寧四年五月是碑傳威家酢有者錄者推品人李裘尊數于丹浦數言原熙庚戌冬都于宛平孫氏盡其伯先生尊知祥時縣得之

漢司隸校尉魯君碑

右魯君碑永平二年四月立隸書篇章中文十七行本在金鄉山崖則拓搨自旗金石錄時已歸置任城縣學至今存焉利傳是碑中郎書特其文不入集中石久剝泐惟識其百一而已 卷四十二 十三

漢執金吾丞武君碑跋

武君紫碑在濟寧州學儀門漢制執金吾一人丞一人月三綠行官外戚司非常水大之事秩六百石緩帶二百人衆服從光尚道路光武當欲出住宣作執金吾和驂行步歌辭辭望下三萬歲臣執金吾中興以來常置榮之本末備碑文已漫滅年月無考惟存其廓落高簡

書尹宙碑後

尹宙碑土中晚出文字尚完結體遒勁猶存第伯之遺是本妍

拓本為對之如百年前物元為盡善大原傅山青主藏判李當
容深酌審定朱桑專錫也書康熙乙巳秋八月

滕縣秦君碑跋

兗州滕縣東四十里馬山古城址有滕君碑出自土中無歲月
可考滕君亦無名字銘辭但言奇計冬得其云系出摯之裔
通知為滕人云為政崇博三年有成蓋出而仕者來云外書引
石垂示後昆以此知刊石書丹實始于東京者矣

魏封孔羨宗聖侯碑跋

右魏封孔羨碑在今闕里孔子廟庭相傳其文為陳思王植時
作而梁鵠書之書于圖經俱有好事者采之入思王集題曰

宣都陽洪氏以是碑文科黃初元年而碑志作二年正月誤以
誤即孔羨為宗聖侯謂誤在史考禮王肅在十一月而碑紀
黃初元年大赦文命置數歷以改物扶摩祀于典文既乃緝熙
睦緒昭顯上世追三代三恪之禮而始宣尼殊成之後以奉其
百戶命孔子廿一世孫羨為宗聖侯則詔三公云云原文碑之
始末且終碑有既乃之文則下詔在明年二月史亦必誤若
童懷太子注孔僖傳以宗聖為宗聖斯則誤矣

跋吳寶鼎甎字

康熙四年吳之打民于小雁翎掘地得甎二千石以下字八
年冬在丁亥作一十有一字蓋歸結時紀元通鑑晉泰始三年
也面有蝸文知此民間物考是年六月詔起明堂方五丈大
二千石以下守旬八山崇棚茂木一時搏埴之工陶冶交作或
分命吳郡助其役理有伏者甎之為書古人取材必精致日陽
銅作寺鑄之瓦皆可寶玩和是碑相之理揣頒象若似大氣之
不交孚不孰者殆為打者為打拿瓦轉氏間未可知也二甎為頌
秀才摩敕時門分其一歸予二既捐孔門五鳳二年甎又投侯
宮林氏掌甘泉瓦合此裝池作冊因寫筆識之歲在壬午又六

晉汲縣新太公二碑跋

月禹穴慶寺書

吳天璽紀功碑跋

吳天璽元年紀功碑亦名天發神讖碑在巖山段石岡山頭之
丹陽記襄山東有大石長二丈折為三段今其石移置學舍
中累之高止數尺頭之孟神其說其耳碑文倒置銷誤不可讀
依祥符圖在後雪谷考定裝演之相傳文出華覈手為雪客模
碑考序已辨其非矣獨其字在篆隸之間雖古近拙亦未必定
出于皇象手蹟也金陵項子京謂是梵書不知何據

汲縣古朝歌地杜傳師尚父爲東
南隅晉武帝太康十年三月尚父
刻石碑在縣西北三十里廟中北
石司農鄭子容正書按李尚詩云朝歌麾
來釣渭廣和韓嬰詩外傳稱文王舉太公時公年七十二與李
詩不合元氏表曰康王六年薨
呂侯文則侯已嗣公爲侯非卒于康王時也洪氏金石之文固亦
有不足信者

晉平西將軍周孝侯碑跋

宜興縣周孝侯碑杜傳平原內史坐王淪拘金墉城又徙
少書孝侯戰歿而碑辭云元康九年舊史增加奄爲喪元和
已甚筆法亦不愜但假逸少之名爲是未知量矣末題元和
六年歲辛卯十一月丞奉郎守義興縣令陳從諫重樹跋文字
皆此君使託耳

晉王大令保母誄志宋搨本跋

崑山徐尚書原一初得王子敬保母誄志宋搨本往觀焉於是宋搨
秦閒拓本往往贋鼎鑒定都陽姜堯章尤賞之東書十一跋于後
尚書以晉石墨難得出白金十鎰易之是日同觀者沈溪姜宸

英兩浙晉江黃虞稷俞邰秀水朱彝
戍錢清王敬哉之會稽山陰二人復之黃閒與寧中保母葬地
也按保母之名見禮刃則鄭司農謂安其居處者儀禮喪服總
麻三月爲孔姬子夏傳曰何以緦也以名服也鄭注以爲養子
者有宅故服者代之緦已長必父母乃爲之緦也保母乳母必父之妾保母以義者
代母或自有所從之夫子敬云歸王氏匪主石軍而言可知也
黃閒不見于施宿張昊二志而杜詩之門對於閒廟門亦巷
門也魏出王時已斬爲四歸于紫又卿爲五合而招之宜有紀
紀而仍若不斬者石夫揚于之忌非合王所能及也歸德安

世風操景林快事流其字不佳語不治然筆精于書法其于
褚陸諸帖評之不爽謂是本有七美亦簡亭不少異且古必大
今自劉倾倒至吳又云有人以別本以亂真然則安君所見毋
乃別本壯惡者爭售贋鼎義之毋爲豪

續石刻題跋

錢唐 倪濤 撰

宋姜尊竹垞曝書亭集

梁始興安成二王墓碑跋

康熙辛酉江南試士既畢爲搨山之游出郭道紅英城村梁侍中司徒曁時將軍始興忠武王臨基在焉王太祖第十一子都督荆湘等六州軍事有惠政州民歌之所云始興王民之多是已薨于普通三年碑解侍中徐勉撰見義淵書又東北甘家巷一塔中有銘卅字云梁昭侍中司空安成康王秀墓存王太祖第七子以中衛將軍領宗正卿尋都督郢司霍三州軍事處雍梁等四州軍事亦多惠政天監十七年處于京師故吏謀郡夏侯直等詣立碑紀其之於是名士將王門者東海王僧孺吳郡陸倕彭城劉孝綽河東裴子野各製其文今存碑二其一全湮惟考綽一碑結銜石工可辨書之者亦見義淵也二王同母俱以孝佈聞于時又皆好文安成招劉孝標撰類苑始興竟接士當與客更相揖而坐史臣合傳比于漢之河間東平其盛也北其匪淺雖宰木已盡而麟辟那員猶存菜宇碑將作勒不能支柱

托之工莫敢指手胠者亦憚于久立也昔歐陽子著集古錄于蘭亭止收贊臧宏師一碑而此三碑在建康都會之區沐京承平日足石尚堅立鎮及遠之何與義淵爵里未詳廣弘注貝氏不載姓源郭租姓氏略于貝氏則引宋登科記有常州貝齊明永嘉方日升補注黃公紹韻會引千家姓韻譜云貝氏望清河古有貝獨坐晉有衛士貝靈該不及系淵羅泌因名既記貝氏吳越多此姓本諸左傳那氏接秋春昭公十九年楚子之在秦也那陽之女卦人奔之生太子建杜預注那陽葵邑二十三年傳楚太子之母在那白吳人而啟之冬十月吳太子諸樊

入那杜預注曰那陽也公定十三年傳殺宮那氏杜預注遂襲改名那氏高平鉅野縣西南有那亭然則文王爲姒爲俱無那字第有那字今南北國子監本悉更那爲那不與說其爲惟唐長安所鐫石經仍作那字足以正其誤矣予公六代孫石之支南朝更爲雅得爰取孝綽文并手模始興碑殘字考之冊而深其未

茅山許長史舊館碑跋

閻隱居書許長史述舊館碑拓本觀于烟霞洞宋嘉泰間隱居以工草隸聞見于史傳嘗與梁武帝論書連章累牘載諸法書要錄表

品書評謂如吳興小兒形容雖未成長而骨體甚異張
則云高爽緊密自然排闥今驗是碑筆跡手勢信昔時之言不
誣碑立于梁普通三年至唐大歷十三年中山劉明書以文字
將湮重加洗刻使原碑而在駿快高爽當更倍此矣

魏魯郡太守張猛龍碑跋

右魏魯郡太守張猛龍碑建自正光三年其稱引孔林者以宣
日有興起學校之功也吾于是乎有感孔子之道若日月然萬
物宜無不向昭乃或叛而之佛老何與義訣實者治世之權略
人者是非耶徒出也春秋之作所以誅亂臣賊子者至矣天下
一帶雲根卅堂歲書 卷第三 三一
之人非者常多是者常少慢無逃于聖人之誅獨佛老以無所
可否之言暢其清淨寂滅之樂恬情所染閒而聖人者亂世
之所惡也元魏之俗事佛尤甚斬山以為窟範金以為像九層
之臺萬金之液竭民力事之及其死成塵不利石勒銘以紀功
德斯時也又安知有聖人之道哉猛龍而平武公執八世孫
方晉之列士崇尚莊老獨式公在涼州啟曾于五百人立學校
春秋行鄉射禮而猛龍克循祖父之教修聖人之學于衆世不
為之時使講習之音再聞于閭里嗚可得也予留大同門拓攷
氏故都記所墜佛宮碑巨碣已無存者而斯碑在代之庶屋

千年不壞雖更歷千年知其有弦而去之者此予所為感也嗚
呼為政之君子可以知所務矣

魏李仲璇脩孔子廟碑跋

右曲阜縣修孔子廟碑魏兗州刺史李仲璇撰文并書孝靜帝
興和二年十二月立石杏壇之下碑尚完好雜大小篆分隸于
正書中差自太武始光間初造新字千餘頒之建興以為楷式
一時風尚垂列江等作式所云世易風移文字改變俗學部
習迄武子時者也黃初太守尉張路高於時錄石柱傳經亦多類
是新亦穿鑿失倫矣仲璇起自兗州還除于作大匠卒
贈驃騎大將軍儀同三司青州刺史
一帶雲根卅堂歲書 卷第三 三二

北齊少林寺碑跋

右碑北齊後主武平元年正月立于嵩山少林寺文本正書雜
用大小篆人分法北朝碑多類此書家媿王華為然以獨筆見
古其後代書星娟者不同也碑後引初化主邑師弘子都維
那忠正北面很主參主多人中有張黃頭馬黃頭按北史海非
小字若為明黃所命名亦當時習俗然兩參主拯之孫以當展
書字但沉文玉為汗簡等書皆無之而不敢知也曹王舍仲經
好古金石文特裝界為卅跋其尾焉

宇文周華嶽碑跋

後周華嶽頌立于武帝天和二年在今華陰縣西北大王廟中碑於題後結銜曰使持節大將軍大都督開府儀同二司司宗治內史臨淄縣開國公方紐于瑾造此文事時大將軍儀同三司縣伯大夫趙興郡守白石縣開國男南陽趙文淵字德本奉勅書方紐于瑾者唐瑾也瑾南燕公子堪器重白文帝言瑾學行兼修領與之同姓結為兄弟文帝乃賜姓万紐于氏庭羅子孫五等勇者皆加開國授大將軍開府儀同者亞加使持節大都督其曰同宗者武帝保定四年更孔部司務宗也複姓古有之三字姓始于代北諱書官氏史載有乞雄于氏紐作忸勿諱方字之訛觀此姓者洛陽則于道狩氏則吳深亞特唐諱也

渊于大統十年追論立義功封白石縣男邑二百户置縣仍下大夫加儀同三司天和元年露寢成以趙殿功增邑二百户北史更渊曰深避唐高祖諱也史稱其精練雅有鍾王之則今觀是碑殆非虛褒云

後周幽州刺史賜少保豆盧恩碑跋

右周少保豆盧恩碑康熙歲戊子孫堂潘氏書屋恩本前

燕支麻姓慕容氏與兄弟州刺史封楚國公賜太保寧先後立功碑云恩字永恩北史後周書俱闕其名止書字永恩洛陽其名止書字永恩洛陽傳閒也後幅漫漶不能辛識實字文建國用蘇綽盧辯牛弘議禮益法不輕假人即宗子維藩弗隨恩德如晉公護曰葛齊王憲曰楊衛王直畢王賢曰趙王招陳王純曰越王盛曰野野代王逵曰晉紀王康曰廣而豆盧兄弟或易名以昭或易名以誠厚孝實孫堂曰昭子故子之言也曷書之於是乎書

真定府龍藏寺隋碑跋

真定府治東龍興寺隋開龍藏寺故址也寺初于開皇六年恒州刺史鄧國公金城王孝倫立石齋閻府長史行參軍九門張公札撰文忘州齊已後入于周周又亡入于隋而公札乃書齊官銜若已亡其故國于勅名見之矣流傳宋太子詹事其地寺重見于乾德元年隆興之碑所由更也然歐陽子氏集古錄稱龍藏寺已廢遺碑在常山府署之門則語又間碑猶在寺外也今入門有殿，北閣五間廣九楹崇十三丈中奉觀世音像高七丈三尺髻四十有二土人目為大佛寺碑亦存具而終南山釋道宣撰神州士各錄自牧佛像倶在及焉何哉若夫隋之碑存于今者寡矣裝界而藏諸也可

題倫刻李衛公告西嶽文

王侯將相時至則居之雖豪俾之士不能於倥偬之平日也劉李起沛上衆推擇可爲豪令者蕭曹等皆文吏自受恐事不就盡攘季當其時安能必之相季封鄜平院栽劉伯温羈管絡興業成傳李衛公未遇爲文告西嶽神竟在取天次則擇主而事若微時於帝王自許考然考之史衛公初仕隋爲殿内直長尋愛其眼明碑未詳書者姓氏記其後利秀逆作王知敬殿仲容不馬邑平唐祖高擊突厥衛公參其有非常志乃白鎖工急能達指及此寺君諱文字緯東漢以後字必以兩字耦一字者

一郡曜字曜字文文字宙李收字於字義方自字儀此外不多見也

唐郭君碑跋

右郭君碑在冷陽縣北七十里于丙午秋經郭社村行溝中仰見土用之上碑額微露環回數里乃發讀其文皆斬儉語首二行剝裂君之名字門世與撰文者皆闕焉其知爲郭君者有頌存者碑立于乾封二年中有云授雷及高斬老生蓋從太宗楊師道馬周衛名後人復之以事而書工以字畫工石特淺

稱為劉弘基所救溫大雅創業起居注又云老生擊絕上城單
頊盧君號所部人跳躍及而斬之世咸不知祖及之為郭君
而君之名以裴終不傳可惜也

跋唐明徵君碑

上元縣摄山佛寺明徵君碑其文唐高宗御製書之考高正臣
也碑立于上元二年徵君考論錄處士山寺其跡宛然宋以
山貴未移徵入閣供俸特為撰文勒之于石石至今猶完好
歲在辛酉十月于與金陵鄭瑴暫熟王軍嘉與周筠平湖曹秀
趙聖予弟吳休司遊建山留信宿各揖一通以歸

唐龍門奉先寺盧舍那像金記跋

水經伊水出南陽縣西東北過本洛縣西又東北過伊闕間
元注昔大禹疏以通水兩山相對望之若闕春秋之閻塞是也
韋應物詩鑿山伊流中斷若天開而引馬君實之曰熊門伊
闕天所為非山橫其前水流禹始鑿之然後通也斯言其
信矣夫山有八寺其一曰奉先像建自咸淳三年而以調露二
年賜額蓋則武洛陽二十五里而近而岸銅金佛像凡奉千合史
侍坐立者武盈萬此杜少陵詩所云氣色日居近金銀佛寺開
也碑開書者姓名或云袁元哲楊令觀主麻慈力刻神弓徐龍建御詞幼常
年記文薛神都書元觀主麻慈力刻神弓徐龍建御詞幼常
正結書之康熙戊子竹垞

跋石梁碑

右唐悼城馬令詩在伏岳觀碑之東側面其名剔蝕題起物使
麻統生者撰令觀中有殿碑其西一品北面第二層有火祖二
年記文薛神都書元觀主麻慈力刻神弓徐龍建御詞幼常
正結書之康熙戊子竹垞

跋唐悼城令祭岳詩

右唐悼城令祭岳詩

秀等物詩此齋醜即其人也祁都即東都故詩中有伊水嵩高之句脈蓋金輪十三字之一自音義未詳亡有顧炎武寧人吳任臣志伊均疑為唐字抑當然矣

唐張長史郎官石記跋

張長史以草聖名止書傳者絶少而墨數九品書人列之上上良以其正書不易得也郎官石記舊本存王太傅洛之家後王元美敖善洪相藏本三公各有題識董尚書思白摹而對裁之嗚呼惜海內止有一本蓋以絶品日之矣相傳是册乃唐人所摹碑本為然豈明之中吳絶聞矣唐郎官題名碑承平時在題名皇在長安其刻石存荊州學舍者吳人徐田之情見此元孚康以書所摹無疑庶乙丙六月朔于高兵宋公節使之廨

開元太山銘跋

莊周稱昔周而王封太山者七十二家勒石千八百餘表歷千萬祀而石碑玉牒後人莫得見其形元果神名之守護也相龍肇始立碑久已埽迹而其名固世一作時述之興問元天子六文武可追之詩於十三年冬十一月式遵故實有事於太山詔中書令張說右散其常侍徐堅太常少卿韋韞秘書少監

康子元圉子傅士俟行果於集賢書院撰儀注已丑日南至法駕詣山下御路以登行升之礼天子製紀太山銘親扎勒于山頂之石以四十年九月景戌告成於是中令張說撰封祀壇頌侍中元兢撰社首壇頌礼部尚書韓朝撰朝覲壇頌趙明誠金石録曰載泰山銘側題有令三列令已之而題頌投梁昇卿書刊御製東銘石明有俗更以忠孝為節四大字銘其上頌文敘法若可誡也碑銘典郎或是燕許手筆而御書通動若於而渴嘆鳥來安閑不比考經之多閑少常若康律書而此何所起疑未為然豈明之中吳絶聞矣唐郎官題名碑承平時在斯屋碑砌于山高四千九百丈二尺行禮節四大字銘其上頌仰視略可觀歲在己酉年戊吾山之覽未多叩天閽步環遠手摸其文詢之野老必謂本緣松而上依後柱梧可施又山高多風雪日晞紙怕易裂老吳其難也冀考先後莊果三本悉虞好事考所尊已丑夏司里沈秀才嘉能分書發此白于白下雖有闕文乃百年以前稽摘及審定元書其本宋于册尾銘書隋作隋書碑之作定文有曰自今而後傚乃在位將多于前功而必從後者益遠天寶之功還在目前也是歲六月丁未舟發江郡祖風瓜州定口書

唐封北嶽神碑跋

唐天寶七載封北嶽神為天王是時錄山近在版服安天王之名得毋為人北乎碑辭理荅招其陰則庚伴文書以八分方戴千齡也事去淳古遠在韓木荅有都梁昇即張建封史惟則論衆之上乃碑辭明致書法獨遒之何與

唐崇仁寺陀羅尼石幢記

而安府崇仁寺陀羅尼大幢唐天保七載五月建張少悌書題銜名有駕出長工技術長工技術副兵部尚書渾瑊勳封可紀頌考校其猶令術衛日記誌色長工有一日工兩日下者有五日工十日下者若長人長工取形軀六尺六寸以上者

一帶山房秘笈之四 卷第二 十二

唐惟忠等賓塔頌跋

右惟忠等賓塔其文事不經撰歌實述之書建自唐至德二載碑歸御史大夫史思明奉為大唐光天下聖文武孝感皇帝敬光之則每日洗長下辣之右監門衛也又有直長長工長孫温元尚儀直長李嗣福元監門直長李善光直長直長工周先孝元左羽林軍長工見于新書宰相世系表外可采嘗有長工魚師此云駕出扶車於明初師之時而春山故處鎮寧人撰金石文字記稱李侍郎又明初師之時而春山故處鎮寧人撰金石文字記稱李侍郎又萬員一祖是碑其文詞處頃處治再刻以為思明復判之後處本元佳刊拙六與新舊書無其本康熙四十有七年二月廿有去及思明殊此地歸唐後人此重刻者今年冬過員一于講城李西清所沿在同觀馬碑首題陽郡二字史思明三字次行大唐今十二字文中凡於唐中及敬命改為郡八川盛唐祥字至范二載字其文源陽郡守李侯復夫役不均於是陽守在李重白郡守李副於郡守

悟侍郎處士所云猶未為定論也考思明之降在至德二載十二月至明年正月肅宗加尊號二月乃赦天下改元碑既建于二載十一月承宣預書尊號又思明初升補字授以歸義王范陽節度使若碑建于降後宜大書王爵不當祇稱御史大夫則是碑之建蓋在思明未降唐之先也陽翟三字其初必二字祿山僭制范陽為東都也大唐亦行其初必祿山文字缺文中唐字其初必燕字而至德二載其初必祿山父子僭號之言無疑故改燕為唐名因命雲改書者兩碑文法其名前字人謂是書并附復更舊名因命雲改書者兩碑文法其名前字人謂是書并于石故之疑祿山僭未可定也不然以刊官秩仁之問降史思明之將復判也表詣肅宗請李光弼為副元帥統太僕卿李抱玉為行軍司馬不務實為起草辭曰陛下明知之是執二人仁智見不免度難獨免可知矣當日思明降和復判既決之後唐人見其碑始之惟恐不力安有反勒其名于石者乎此又事之所必無也貞一閻爭言作而曰有是哉于是人各一本爭為致其始末書于後

藏雲之易州鐵像頌跋

藏雲之書予所見者此帖忠愍忠手摹塔銘及是碑凡已今其石

斬刻飛動之致已失矣其拙樸處亦自可愛此宋人摹本精采其存者尚可想其遒密宜實勝於新搨藏粵氏古林康熙壬午春忽見于花南水北之亭正如久別故人相對古林金石表備載本末以來至五代十國凡七百本近已散失斷碑殘碣識者所得幸矣

跋御史臺精舍記并碑陰題名後

唐御史臺精舍記并碑陰題名凡三通其中李乾祐為御史大夫列于秦狄同當時詩近拘攣之其漸也侍御史東西推監察御史列祇列狄各舉其司治武后時來俊臣侯思止等為御史制獄之外臺獄之外恒滿產遠冤并婦孺以八分制元十一年勒為石碑然列侍御史殿中侍御史監察御史并內供奉衛尉名位崇卑混雜累初二人并卿分書自後惟以下正書二十二人侍御史也是文以下正書百八十四人殿中侍御史也自景伯以下正書三百四十七人監察御史也碑刻人有天寶元載以後侍御史之雜侍御史監察御史共五十人而碑文左右推柏不及焉中有詳偏仙者二名重文碑凡三見此俱一代所僅九也昇卿自監察御史歷殿中侍御史遷侍御史再遷太子文庶子

朝州儒學朝唐研一載張思仲屬予題跋下
弄軸云無有承脈手中有一月泊舟于浮梁縣門之右其
裏之詩其全衣氏放中題名記事後十年宋江張古士尚坂士
之所同題也乃拓詩見貽惜其陰面壁工人不克繕摹然
胡氏紀載李氏全唐詩諸作皆無之疑所載滿月石刻中其
唐人諸句多得無好事者張君能求博之石摹拓之也好學士
明洛陽人尚書寬子仕至兵部侍郎為史有傳

一帶山泉神之有泉也和之號不在祀典以其出妒女祠俗云成皇者必致
旱汾陽宮并州刺史李神元以其出妒女祠俗云成皇者必致
疫風雹之災乃登葛人州史徙之知祠使狄仁傑請天子行風
俗而正滿慶海道何妒神之割耶遂令罷從仁傑有利其東
久矣相傳祚介之推妹也為之者誰游擊將軍杜司馬註也
郡王李神慶望中西石衛州刺史許題洞江王蕭是皆出閻初
為刺史作也神部楊用修不知蒲州稱史許題洞江王蕭是皆出閻初
係王許題為仙人宜句誤矣

唐郎官石柱題名跋

唐尚書省郎官石柱題名兵部張郎中史旭摹記京北許在右盖

容撰後序記出旭正書後序劉禹錫撰并書無姓氏題名云貞元
碑而題名缺于柱白貞元後則今史績書故工拙大小不齊焉
唐制尚書省都堂居中東有吏部戶部禮部三行行四司左司
統之西有兵部刑部工部三行行四司右司統之各掌十二司
書聚正諸道省署符目定其程限吏分設司封司勳考功戶分
設度支金部倉部禮部祠部膳部主客兵分設職方駕部庫
部刑分設都官比部司門工分設屯田虞部水部諸司均有壁
記詳其改更遷轉之歲月而名石柱第注姓名而已廣記代子予
始購得郎官題名三紙字已漫患眼昏莫辨會桐城方生來自
京師訪予梅會里坐曝書亭鎮以界尺審視之姓名可識察者
三千七百餘人引錄諸格紙而同里曾生復以所拓本贈予因
言柱在西安府儒學孔子廟庭之右上有古柏霞之稱總六部
院分左右自當時立石又東西各一今右司暨兵刑工三部所
屬郎官題名無一人者是左存而右已失也孔部司門郎
中考功膳部員外郎治由柱拓者遺失前方生名世舉孝扶
南喜生名曰瑚字仲經皆受業予之門

跋唐岱岳觀四詩

右唐張嘉貞任晉洪公滕某四詩俱刻于岱岳觀碑側而編
代史者不錄任晉公滕三人新舊唐書無攷任又題名云貞元
十四年正月十一日立泰岳在登太平頌宿其年十二月廿
一日立泰再來致祭茶室于茲孟庾時祭畢猶不用酒故宴以
茶也

唐惟澗卞氏墓誌銘跋

唐惟澗卞氏墓誌銘
唐開二十年秋葬地兩編中官劉進成宅掘地誤發古墓中有
瓦甓一墓石二方廣各一尺二寸一刻卞氏墓誌四字環列十
二辰相背狀古人身一刻誌銘而書葬作銑又無撰文人姓名
第云婦于我彭城劉公而已文稱貞元十五年歲次己卯七月

丙戌朔十六日乙酉則卞氏以是年是月是日葬也

唐梅石橋記跋

唐梅石橋記元和元年三月時州刺史崔元亮吳人宰相元方
之曾孫象先之從祖希聲之從祖也先世曰玩仕至司空侍中
贈太尉其子姓号太尉支元方象先希聲三世相唐新唐書世
系表表所歷官福建觀察使當以貴公原領郡碑後列銜實

接武男子從行是亦好事者親書二人子塔試大理評事元益前絳州太平府崔縯男子五人右內率府錄事參軍紓前弘文館明經檜在監門衛率府兵曹參軍紹前崇陵陵即須按世系表書縯即合紓河南府户曹參軍繪信州刺史紹趙州刺史惟純無之崇陵者德宗陵也鎮以大臣子弟充陵郎唐制然矣

跋石橋寺六唐人詩

右劉迥李幼卿李深謝到李沿薛戎詩各四首刊成二碑留石橋寺嘉靖中尚存都御史江山趙鐩修府志具錄之中間闕文僅六字耳迥字踢卿知幾子大歷初吉州刺史紓諫議大夫給事中有集五卷載新唐書藝文志幼卿字長夫隴西人大歷中以右庶子領汾州有庶子泉田幼卿得名深字士重兵部郎中衢州刺史名泰山人大歷中左訶及第戎字元大元和七年以刑部郎遷河南令屢辭湖常三州刺史紓新表亦缺未詳二碑不知何年失去其後官三衢者改修府志乃盡刪唐人之詩深可恨也宋陳耆卿撰赤城志明謝方石續之各為一集合之以行後之君子改修地志者當取以為法

唐齊瀆廟北海壇置祭器銘跋

山川望秩濟瀆神肇源公建廟于唐源將西北而築北海城于

瀆後旁庶羣玉掌之祠官歲立冬日奉祀其來久矣舊俗廟不設祭器先期令請于上官購諸各下酬以歲緣所用兄幣之餘則以車走運心河度口月元十三年濟原令張先字星纓觀廟中檄擬數本為大風所拔用其材製祭器凡百二十有二餘以遺雙林云按爾雅祭川曰浮沉郭景純注以為投祭水中或浮或沉語禹來之詳也碑文謂兄幣雙林蓋林以浮之幣以沉之比于郭氏之注義較明晰今山祇川后祠宇恒有車船置殿左右殆本古祭川遺製商先于事神有九度治人人有方惟乎斯銘不載闕經而先之政事亦無表見碑今藏吳江潘氏稼堂其

藏諸

書唐貞符畢耀詩石刻後

貞符元年十月著作郎河南貞符謁華岳廟詩題五言詩題名太和元年四月其姪男登進士第行華州刺史紓新表亦缺書方鎮之修之者殆緩之也詩題北周天和二年趙文淵書方鎮表于理所據華岳碑之左方仍之除刑開元八年劉升書盛所據耆卿所據耆昭應碑也其右勒前真卿乾元元年題名工每椎拓三面而遺餘詩以是流傳者寡然其詩特醇雅顏閻經未之采高麥裴界書其後

白樂天草書春游詩拓本跋

右白傅草書一十九行錢移父在越勒石置蓬萊閣下今長慶集不載或以其詩補入元微之集中誤也散字唐韻未收而毛晃增注孔部韻皆有之引白詩為證且注云重增欵則今之唐韻亦非唐韻之舊矣從雕本謁欵定雕本謁悞皆所當勘正者

書張處士塗鴉銘雜後

石墨之傳於今有難以聚讀者天發神讖石鼓而為三塗鴉銘裂而為四又失其版由是釋文不行晦古者固其宜也可也移易增益其辭不可也蜀在白下得祥符司空冀神讖碑考既序而傳之矣在黔張力臣秉江水踰峽入住山之麓搨落葉而仰讀之從左一道大篆事起居碑也其辭李北海之法製雄田州刺史張翊一卷以視北海大保者以子貢賢宰也其於大小大夫列之乙弟孝經也手筆足石碑轉先門子矣元濟開成五年是冬河南邵advocate元濟書盖通判書故宅雖在海鹽之橫山而學逵句曲是移庵于此集中有翰王司空贈蔡鵬詩鵬石出于住所好斯庵之作銘理有然者白廖士之裔出足以包衆說之紛紜矣力臣名弼精書法嘗為顏廖士失武寫唐韻及音學五書手苓家藏舊墓款識遺事惜不曾生庵後盡散失并傳刻舉未竟歸之閻人可數也

石刻題跋

朱彝尊竹垞 勝書事集

錢塘 倪濤 撰

搨本脩三唐碑跋

去州之陳三十里遵行官舍壁三唐人小楷書太保李文正碑也其辭李北海撰正書立于長安之年右一通小地行為二段贈進安定郡王李元素立于元和中卷之後左一通大篆事起居碑也其辭李北海撰書立于開成五年是冬河南邵advocate元濟書盖通判書故宅雖在海鹽之橫山而學逵句曲是移庵于此集中有翰王司空贈蔡鵬詩鵬石出于住所好斯庵之作銘理有然者白廖士之裔出足以包衆說之紛紜矣力臣名弼精書法嘗為顏廖士失武寫唐韻及音學五書手苓家藏舊墓款識遺事惜不曾生庵後盡散失并傳刻舉未竟歸之閻人可數也

湖州天寧李建自永永定二年武宣皇后故宅也山龍與日李氏曰為聖母祝聖光孝寺顏後更其曰天寧者仍吳越武肅王所更額也相傳李白學務記謹石陳一十四座今其八匀存

之可辨識者，建于大中元年十一月後題刺史令狐綯姓名
一建于大中二年八月後題刺史令狐綯姓名一馬碑題建于大中十二年四月書督郵李良也一建于咸通十一年二月又新石一平望為文珠立後題刺史韓皋也一建于咸通十四年四月書督郵李良也一建于乾符元年十一月書督郵李良也一建于乾符元年十一月故長水吉清云云一八景據水而來北歸不知其經流之士知名見刻的唐書
莫考李良見益部耆舊傳其官為巫縣令五陵耆舊傳載其官為巫縣令人賀朝為巫縣令人韋駙為巫縣令人皆以文字太和八年開州德本書碑陰亦書此事史工名貴於二年九月大慈禪師碑元和二年平李銓紀功碑均作事良八分書元和一碑亦作良惟馬碑作良不知何本其陰有記則云事良也
山年開元司業章璜碑九年水興李僧伽和尚碑均作事良是
頌是李良于李法潛碑不獨行書也作良楷書碑亦作良惟
楚士石不著其世官據開元圖開州屬山南道至德二載
見于北宋初元豐九域志開州屬山南西道至德二載改屬
其九閩之閩山通志開州屬山南道唐書地理志開州屬山
南道今據以訂之

右唐開州王司馬注西碑陰書有正字郎衛泰敷撰其初題
刺史徐嶠之書既廢事跡開州刺史于季友於修葺之日訪
文題歷士元的重書太和七年冬事也李建于晉大康二年
改開州為永寧郡治所在今開縣唐貞觀六年
自永寧郡治移于開山元和志開州東北至京師取商山路
一千九百里東南至東都取商山路一千九百里西南至成
都府取通谷路一千一百里東北至興元府取通谷路一千
一百里西北至興元府取大路一千一百里東至忠州取水
路一千一百里西南至夔州取水路一千一百里東北至興
元府取子午谷路一千一百里西北至興元府取子午谷路
一千一百里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取
陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路一千一百里西
北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千
一百里西南至夔州取陸路一千一百里東北至興元府取
斜谷路一千一百里西北至興元府取斜谷路一千一百里
東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千一
百里東北至興元府取斜谷路一千一百里西北至興元府
取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一百里西南
至夔州取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路一千
一百里西北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取
陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千一百里東北至
興元府取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜谷路一
千一百里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸
路一千一百里東北至興元府取斜谷路一千一百里西北
至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一
百里西南至夔州取陸路一千一百里東北至興元府取斜
谷路一千一百里西北至興元府取斜谷路一千一百里東
至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千一百
里東北至興元府取斜谷路一千一百里西北至興元府取
斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一百里西南至
夔州取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路一千一
百里西北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸
路一千一百里西南至夔州取陸路一千一百里東北至興
元府取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜谷路一千
一百里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路
一千一百里東北至興元府取斜谷路一千一百里西北至
興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一百
里西南至夔州取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷
路一千一百里西北至興元府取斜谷路一千一百里東至
忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千一百里
東北至興元府取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜
谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔
州取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路一千一百
里西北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路
一千一百里西南至夔州取陸路一千一百里東北至興元
府取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜谷路一千一
百里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一
千一百里東北至興元府取斜谷路一千一百里西北至興
元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一百里
西南至夔州取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路
一千一百里西北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠
州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千一百里東
北至興元府取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜谷
路一千一百里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州
取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路一千一百里
西北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一
千一百里西南至夔州取陸路一千一百里東北至興元府
取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜谷路一千一百
里東至忠州取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千
一百里東北至興元府取斜谷路一千一百里西北至興元
府取斜谷路一千一百里東至忠州取陸路一千一百里西
南至夔州取陸路一千一百里東北至興元府取斜谷路一
千一百里西北至興元府取斜谷路一千一百里東至忠州
取陸路一千一百里西南至夔州取陸路一千一百里東北
至興元府取斜谷路一千一百里西北至興元府取斜

二十八首威振華夷碑云勒于封崇八州之內一行書其十八至是平直武都仇池地其築壘是智永千二百文利師閒也寺馬仲武在此州屢破回鶻邠寧時功第一方政事之成五臺僧多余此州仲武判二刀作書開口所傳入境則斬之及貢茶焉碑開成五年立

是爭前後作相作書蓋神武功名之士宜其好題時務之師

徐無黨書名銜俗作王知敬誤提遠奉化校中仙者

唐卓州院記羅尼石幢跋

右唐咸通四年八月卓州押衙兼都虞侯王利貞建此石幢記其事文字磨滅不可盡讀

一帶雲根卅管蔵書

卷第四

元石摹本跋云此碑字畫遒勁張旭之書也

即使持節梁州諸軍事守梁州刺史都督梁州諸軍事守梁州刺史柱國羅哀石又公書建立

歲月文缺予入千後按其官五代十國之間不見於舊

會要新舊書惟六典載騎曹掌水府兵馬舟楫之事之衙前馬承直配于五吾巡檢於吏者事請其料之如此巡直者之是陷入蕃吳江有檢討校官定為此官

唐北嶽廟李元用題名碑跋

曲陽縣北嶽廟有唐李元用題名一百六十八字文附李仁本年二月書即元次洛京以是年二月至使用三月還京

次元之治海內大定心先用經義成俗度使王廷作引破黃巢人至是平直武都仇池地其築壘是智永千二百文利師開也寺馬仲武在此州屢破回鶻邠寧時功第一方政事之成五臺僧多余此州仲武判二刀作書開口所傳入境則斬之及貢茶焉碑開成五年立

是爭前後作相作書蓋神武功名之士宜其好題時務之師

徐無黨書名銜俗作王知敬誤提遠奉化校中仙者

唐卓州院記羅尼石幢跋

右唐咸通四年八月卓州押衙兼都虞侯王利貞建此石幢記其事文字磨滅不可盡讀

一帶雲根卅管蔵書

卷第四

元石摹本跋云此碑字畫遒勁張旭之書也

即使持節梁州諸軍事守梁州刺史都督梁州諸軍事守梁州刺史柱國羅哀石又公書建立

歲月文缺予入千後按其官五代十國之間不見於舊

會要新舊書惟六典載騎曹掌水府兵馬舟楫之事之衙前馬承直配于五吾巡檢於吏者事請其料之如此巡直者之是陷入蕃吳江有檢討校官定為此官

唐北嶽廟李元用題名碑跋

曲陽縣北嶽廟有唐李元用題名一百六十八字文附李仁本年二月書即元次洛京以是年二月至使用三月還京

唐孝女侯尚二碑跋

乙丑秋杏日華州來者昭予唐李氏州吁為唐安侯尚碑洛安侯者華之城隍神也氏出為蜂建掌書記撰許國公約王縉以

其使志不可絆識如是也當永代非去五代庶且不已世之士
不得詳其名氏家人傳習大祖以來皆不知其父母名統至開
寶初予得其二碑首末缺尚未見其三碑首末缺尚未見其
予乃觀其二非卓於時者十三碑首末缺尚未見也開寶十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
于若干年焉書其後歸之

千峰禪院勅碑跋

右澤州鼓峯山千峰禪院後唐明宗賜額兵部侍郎
張筆具表奏以此金之文曰是維無竹悲思良多吟哦五

代之季安事割亡之者多矣獨子惜明宗武勇出于夷狄之
能不事詩則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考
觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉義成節度使馬都尉史匡翰碑跋

文明山匡翰墓在大原縣東北六十里貴德村墓碑不知于地
村民訪于土不可得之久矣史不入于傳今得之以為去土
至八年乃吹始發驗之則開學士故所撰文也碑名稱晉北
拔其大略云天祐中投代州刺使以勞加使青光使大夫檢校
太子賓客兼監察御史遷州刺使兼領九府都督府副大都
虞侯明等州部署使檢校太師兼侍中雄武軍節度使代北
振武天雄軍等州都指揮使委於投

州部內書原御史大夫上柱國轉檢校戶部尚書潞州刺史
終沒天德軍副使以勞加使青光使大夫檢校
府都督振武副使兼領九府都督府副大都
州刺史開國男食邑五百戶賜紫金魚袋匡翰
子若干年之月葬于鎮西之原大保其先德
郡州刊石而不書何其又傳矣其
學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考
觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考
觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考

觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考
觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考

觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考
觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考

觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考
觀者書缺文于此自銳判上有豐口書印打滿之印于其也

晉故節度使檢校太師兼中書令食邑五千戶食實封一千戶
贈太師太原郡王王公神道碑銘并序

公諱彥超字德興紀氏之先十三碑首永代尚未見其百年而
予乃觀其二非卓於時者十一碑首不及也開寶先生博
采金石有政治遺民之好出二碑于土築之揭本碑于當道
初七年二月葬于鎮西之原大保其先德後歸之官詳矣史料其履
郡州刊石而不書何其又傳矣其學者博洽不足碑辭小侯筆之行有餘力益飛箝之辨
然不能多不猶則知治尚義書不是若和惟思報國未暇時考

之篆之銘則使修筆書廣其卷帙摩拳以從其必傳
幸也子文子則帝之出意知業時出于從諫祕計而非性所好
也雖然七周之原世主佳、社稷之如土不而重絕以之力銘
市猶各之禁侍之列於筆孔事纂述猶非世主所能於嗚呼
是可記也

太原縣重明寺碑文

呂惠卿使人也當時名于社稷見妖而王安石猶任之不疑且
曰惠卿之賢能前世儒者未易比也公觀惠卿拿金打坡碑姓
能文善書之士無以過之世徒知為姻拿其欽之才不知兩人
當日以任行定交石政合于文字也為甘北其所以為姦也狀

桂林府石刻元佑黨籍碑跋

元佑黨籍徽宗書之立石端禮門其初九十八人爾既而奏乘
復大書刻屏豚以上書今人又已所不書者作附題入余八七二
百九人碑每皇帝刷位之五年孟春安少平也是時籍中尊任
幸之執政者十無一存乘之人尽亡矣逮半七者
及其繪像及所著書拿其遺事存者定為邪等降官禁錮雖
禁不得同州住其子弟亦不得詣闕下小人之快意未有甚於
斯時者矣崇復有所

在惟知奉國人之決擬則去其官爵增為其紀年所建住者史
載八被召時皆具兩食告像友曰吾已得近都棄予之地、與
舉命請公幸毋我其遠表曰永興始公幸毋我其遠表曰永興
而公碑文亦曰予築館之三年歲在庚戌冬十月乃遣予往者
欽則所謂立石某寺者乃龍公以文字教
金之貴人子弟使之就學用待人和好之說蓋公之文有不
得已而為之者當其時永興公留手金石字之盛中興散落於
年之後多以文學自命假手傳錄公之手跡足重于世亦以
也客歟之不可弃而忠信所行者是也吟士君子不幸生逸

亂之際又不幸以文章為世所重得其支者或不保其志者所
在輒更易以就時人之耳目王使大節欵然若朱公者幾何人
自在於後世讀善惡子之碑其亦可感也夫

書松本玉帶生銘後

玉帶生朱文亦利硯銘也石產自滄州未為造品其修狹寸餘
厚之厚又微段高帶股玉色深紫有細黑花點如蠅角前京留守對燕王故
小篆凡四十有四字歲甲申視事南京第宋承相實時事行以銘書用
黃紙摹之不敢擊損也生之本未嘗見玉筍生清其名斜亦可
注手詩編按金華胡翰作謝朝傳稱天祥轉徙閩廣至湖陽陂

執翻匿民間流離之間行抵勾越是信公軍政後魂即歸朝
可知其為浦陽永興始也緒陵登釣臺度必携生徒往候者
之君子可以深長思矣

金律志感舍利石匣記跋

永明仙客舍入侍宋王子女置其中也參軍北狩丁錄趙子
砥出示依留地志失載遂不可稽康熙二十六年五月宣
氏門南居人掘地得石匣：穹有記自稱僧律論大德志
感錄并書乃是世宗天休三年舍利佛牙于北記後有千人
邑三字蓋社名也施主姓名首列

女考是史世宗祀乳氏後唐宮人事從太宗南征得之寵冠其
序又即位之初皇子天祿四年方冊立皇后劉氏二后同死
蔡割之亂並葬于醫巫閭山紀刻于三年所云皇后孟即乳也
東明王者疑是明王安端即察刺之又以功王東丹國故曰東
明王也然主大王者考石產自滄州未為造品其修狹寸餘
曰然主大王也則為相公者清安端太后從弟太后從弟撒古魯以天祿
元年為閤門使上用昔以硯
送胎而通鑑亦作照雪為石晉和州刺史後仍歸遼錄于本末
不得其詳是又記有建章堵坡之文疑當時石匣蓋于塔下塔

久矣而石亟佳存土中正之無益其金刹佛牙又不知何故
失也

奎云居二碑跋

右玉正智元云居寺二碑共物一碑二額集書重修云居寺一
千人造會之碑一額先葬一千人之社一千人之心一額先葬一
千人造會之碑一額先葬地得仙人李石玉匣之後有千人造
會已白造頂乙覩者疑是地名今此碑觀之則知千人造者社
會之名爾天順皇帝者英廟復辟之初年也英廟正統初年
留守北京兵部尚書上谷郭公智史聖英明加保安定侯
一帶山襟井堂義書曰

六月上尊號曰天輔皇帝五年四月上尊曰至德廣孝昭聖
天輔皇帝二十四年十月上尊曰至德廣孝昭聖天輔皇帝
今碑建于二十三年尊號無天輔字是則二十四年十月以前
聖宗尊號但云至德廣孝昭聖皇帝如碑所記至十四年乃
合元年尊號天輔字以證之可則二十四年下上之先與五年
無異何用羣臣復上平竊疑史有缺也

金京北劉處士墓碣銘 改

金京北劉處士墓碣銘奉天誥英武功臣張翥文 馮孝從
處士之祖父諱公弼生元七年由令孫慶瑜碑紀則改務為縣令大定
年事見於承安中以恢遠大將舉史公習授來牟是縣足跡

莊儀在泰和之先也碑久委棄初遷東門郭仗掃更名曰豐
門東西郭俟者即舊名玉沈門臨城置時仍名永寧門云
大明開創以來庶民之詩公未已先于許矣民事類天文分野之書云爾元年改開
為門今門于數全元史祖本門字均省水作也碑之書
不工然非足以垂其不朽先後文獻詳相修地志者亦不引於何
哉

羅山廟建文元年碑記

右羅山廟碑建文元年正月壬午祭上帝于南郊二月癸
酉是碑文敘得其實二碑一為王詳事應遂果勤
成其功御史曹述至中城察院官舍詩之未存其後而羊人
鴻遺事序班周文周子暨生文周奉命以考幣往建尔告中興
勤其文于碑敘刷而望上益自次即詩經之後四年之政事也
行幸陝也典章文出之惟也不孟子天之下句曰此一片言
令人則世之君子有志于

特書而在分策者也

文首善書院碑

萬歷丁酉先太傅文恪公倡講鄒忠典周天知試得華亭
白公原先生卷先文恪公器第一文忠謂是卷文雖高壯不像
第欲以許陵第六人領解先文恪曰非文爾雅與不第華

李名不和者之文其人必不學行開于時定先生卷采一後
先生試禮部歸涪為蓬人所工部司務建北部忠介馬恭定
大司開府以來庶民之詩玉沈門臨城置時仍名永寧門云
詩公未已先于許矣民事類天文分野之書云爾元年改開
為門今門于數全元史祖本門字均省水作也碑之書
不工然非足以垂其不朽先後文獻詳相修地志者亦不引於何
哉

羅山廟建文元年碑記

右羅山廟碑建文元年正月壬午祭上帝于南郊二月癸
酉是碑文敘得其實二碑一為王詳事應遂果勤
成其功御史曹述至中城察院官舍詩之未存其後而羊人
鴻遺事序班周文周子暨生文周奉命以考幣往建尔告中興
勤其文于碑敘刷而望上益自次即詩經之後四年之政事也
行幸陝也典章文出之惟也不孟子天之下句曰此一片言
令人則世之君子有志于

特書而在分策者也

文首善書院碑

萬歷丁酉先太傅文恪公倡講鄒忠典周天知試得華亭
白公原先生卷先文恪公器第一文忠謂是卷文雖高壯不像
第欲以許陵第六人領解先文恪曰非文爾雅與不第華

石刻

武林石刻題跋

錢塘吳焯尺鳧著

司馬池周歲錢事石再實陳嘉謨謝景伯昌元康門游

此事集定元年中秋二十日元奠題右引公龍華寺

咸淳臨安志龍華寺為吳越錢王之瑞等閘建二年王弘俗令

為寺壹傳大士塔宋真宗大中祥符元年改名龍華寶東院建

建司馬溫公祠堂相傳兵部公為宰時溫公嘗來者侍令寺

一帶雲棲妙善義寺

內有兵部題名即此段事崖是也考郡守表仁宗寶元二年八

月已自知同州為兵部即此年中來知杭州明年為康定元年月內

轉運使工部張從革之幼九月降知撫州是公守杭已一年

集不傳也予和中自言前後居吳縣中第幼枝永寧主簿歷

建德桐廬尉調鄭州防禦判官知光山縣改秘書省著作佐郎

盩安豐酒務徙知小溪縣終知河南府司錄參軍遷判留守

司因為帥牧判官除開封府推官知龍川縣知建州松利州路轉

運使知鳳翔府累遷尚書兵部員外郎兵侍御史史戶部度支

幸存乃家伯時錫去後人重刻者惟此段摩崖雖壯剝蝕猶然

龍跡救之表忠碑書法大有問矣案公年譜己酉年三月自

州徙晉州辛仁公恩官之故知字誤

吳越公傳稱寶元初中貴上甲科年甫冠除奉禮郎因也在杭

求養蘇州列官事以便親許之此志所云盖公書來自傳是已

考池之去杭傳言其性簡易郡非所長不知吳公以是幾時

閱封建特重使王

龍圖閣學士知杭州六年六月乃是題名之歲公年五十五是
歲方奉祠有閑而詩名之猶傑然天挺全功事和心順
名之猶傑乎次公無為人以即日奉祠伴高僧作錢塘見于
公美傑詩而傑撰能升堂記亦仗其事北公所謂無為于以
王事而從方外之樂者是也傑本傳但言元祐中為北部員外
而出知開州除兩浙提點刑獄年皆不書因高僧出使事是下
史家之闕已補于年表中王各陽人時于金為安陸人人思坡公能
井題名載在武事略安志考公詩有生日與王中丞孔分教
詩之作的在是年而詩有明朝未食之句即是三月初之時
一帶雲根卅常藏書目 卷第五 二
其云故庵千頃地參北一雙鳥二人味不凡是又不得其人
亦可想見當年從井事和余上下千年為之考證味于目表
第志載籍先大參庵題名並同此姓名參質傑北時日亦可
北及為中不載而表前之題實無歲月徵用公書多半簡攻從
八事後書史具真武劉北書無、笑笑動人習歸家去看峯之
慶元二年二月十四日春分北高傑拾于龍華 慶元三年二月二十
松泉院事元仍缺帶于龍華 開禧初元四月十一
六日春分後以參知政事復元高傑初獻壽宿 慶元
四年九月北上事臨海謝承前以知樞密院事無參知

政事元仍缺帶于龍華 開禧二年孟夏雪北上
自張以右丞相元初獻壽宿 開禧二年孟夏雪北上
各日張元初獻壽宿 開禧初元四月十一日北上事
事元仍缺帶北事吳越錢象祖以參知政事無同知樞密院
事元仍缺帶于龍華 開禧初元四月十一
獻也 開禧初元二月二十三日北高傑以同知
參知政事元初獻壽宿龍華 開禧初元四月十一
日雪北上事吳越錢象祖以參知政事無同知樞密院
自張以右丞相元初獻壽宿 開禧二年孟夏雪北上
各日張元初獻壽宿 開禧初元四月十一日北上事
四年九月北上事臨海謝承前以知樞密院事無參知

正月初四日上幸祈穀于上帝初獻齋宿右副承旨臣李
右贊成臣李恒福奉朝賀相領議政臣柳成龍奉
人陳自治之道上嘉納之因問所以治國之道對曰
州人文字自傳慶尚道公引見題名纔三年知安
附逆而起如自強才四年八道人心無所不歸
死服行他如是作心在勤國之事嚴交朋黨國之初一
一帶雲根神量高深在勤國之事嚴交朋黨國之初一
退得色一人主是原其不幾于下陵者幸下揣情果書平主
力學為考官之士盡去舊習不拘格例取士者矣何必
全去時俗學采可觀者取之不能自立者矣何必
一時化習差幼能陳治道之語足適文墨見識不遠
如望希閔之士生土卹之道其能永保守盡忠之
湖遠縣每朱人從事西山記解與申長曲往閑傳集而免文
人家祖與專學之子望庶者辨其主副之說以子雲於後進
知經筵事明年庚元　年四月己未除知經筵事二年正月庚
申進方在刊三年之五年往領相事六年閏二月庚寅除大傳左
刑部判書除知經筵事五年往領相事六年閏二月庚寅除大傳左
永日封興國公八月丁酉辛丑又
慶元之有由從矣余參

吏部尚書余闕知福州院事六年六月戊申以奉告擧官
六年十一月庚戌復參知政事三年五月戊寅參知經筵
院事四年四月甲辰龍時以開濟降四品俸出守泉州而生辛累九表
祀典創于太常義之大祀正月上辛行於圜丘冬至又云冬至圜丘夏
明堂冬至圜丘祭天地于圜丘祈穀于上帝又云冬至圜丘夏至方丘
元德元年十一月合祭天地于圜丘祈穀于上帝者惟宋紹興之事
有久至不於改日正月上辛者惟宋紹興之四月五月改日設位
書禹也左傳祀先王先公先妣時周之六月即夏之四月此
舞雩之義荀子曰天旱而雩用脩婦炊爲雩卽止云虹也此
一卷雲煙古書叢書 卷第五 二
吏部尚書在慶元四年八月本紀書於冬至之祀上帝並云祀也又稱
雩化前于四月自古爲然與冬至之祀上帝並云祀也又稱
慶元中大雩請皇帝狀天地祀帝用酒脯炊以祀並云祀也
先初歌者先導之則皇帝未嘗親祀以奉祀事然慶元之
位代后之儀未可云也本傳往于神主隨車人坐人未同車
鉞爲報謝使令制妾使至則用乘輿以周衣覆車
極吉具不可令人以車士舉易迎之不從車如其請又令用
事緯仁當排下直學士院採眾意之事未著永嘉人亦
事先期奏鉞與吏部侍郎一在事主六記文安吉州人初
以規爲方此書實盡之初書未不保何也

而盧遠屬辭慧工文可知其當官游
淳熙八年閏月甲午筮仕于玉牒周王帝子郡王閤參
舒鄂而　嶂王佐胡趙公恭孟經樂考費定不隆
閤守文伯以屬從至此

方題名九十二人王希呂字仲行文字仲衡眉山人淳熙五年
由江西轉運副使入為起居郎除中書舍人給事中玉吏部尚
書辭房玄齡子昌齡王子晉薛王元昌子元嘉
任知書禹玉新喻郡公淳熙二年書知臨安府鄭興裔字大猷長
樂人積官吏部尚書致仕明殿學士史部不著生除歲月未知

是年前居何官起師說字聖源上饒人淳熙八年權禮部侍郎
除給事中十年除參書任崇憲殿事參知政事右丞史有
傳王佐紹興十八年進士史第咸淳臨安志淳熙七年十
一月除戶部尚書兼知臨安府十年乞祠是年字誤之可
考者惟師說之去戶部乙未紀崇尚以是元二
年四月由史部尚書參書任崇憲殿事右丞相兼樞密使
九年十一月使金賀生辰字文价名見即此傳第稱金使館伴
卿選孟不書官未詳開永嘉人隆興元年進士史第參二年
知禮部貢舉有約札見咸淳志而周志云伴開字應之洪邁撰

記孝宗論木姓幼子貢心悟令自題之而周志之誤周益
公加食邑侍開筆制除樞密使外華制並見都宋紹熙二人皆且
樞要者也開慶時蜀人官至侍御史趙公恭孟經樂考費定不隆
寧史胡慥見宋史世系表可攷者凡得十二人諸人之中師
說有集當與周益公參參撰設制為相日訪搜入才至史於中
興事實水心徒慨一百六十七卷之二人者賢已鄭和阿附
王佐以名臣仲及與朱子為姻定致顯貴道學反之學禁而定
修之史不沒其美忠規心慰名而賢耶列傳可鑒也本紀于修
撰周官書北獨闕如史家之病又于是年而書九月以甲子
迎之當是九月初間至事因地色劃宣導並射之許景昭元年
拿字御製之古詩望天子及舉原參知政事承相曾懷有記刻石
閩中今佚記心無一存惟北戴陽摩崖在蒸翠巖中並係拓
出亦可想見南渡衣冠盛事云

淳祐丁未孟春甲子鴛幸玉牒周益
洪邁為郡守過閩作詩聲人隆興元年進士史第參二年
參預顧師魯劉開瑞胡晉臣徐誼在
知禮部貢舉有約札見咸淳志而周志云伴開字應之洪邁撰
此跋字書

永孝宗淳熙十四年歲在丁未本紀考是年二月甲子幸玉津
園以此題名時也宰輔年表是時王淮周必大為相十五年參
政陳俊卿知樞密院事明年七月俊卿
元年卿進參知政事明年卿拜右丞
相兼樞密五年明年參政龔茂良免十年閏登於右者四人方盛事也韓彦直
彦實新王之子嘉其忠宣公子皆能世其家王信陳亮仁夫薛
良夫趙師睿史浩子太常博士葉適珙果懷王莊鄭汝諧陳賓
及道學時珠累劾朱子太常博士葉適珙果懷王莊鄭汝諧陳賓
一冊宋提舉萬壽觀書 卷第三 二
之龔茂良人是實劾余壬之尤也章森周孚配饗請用
張栻呂祖謙不從其議是林亦能持論考二人是本紀中字文
价性見金使館伴事為公子與懃之可攷考姓字於郡邑志
彦直字子昂嘉定癸酉登第文敏卿子建輔益文定信字誠之登
字安行師尹子爽聖協定肅晉王字子遠益文時薛之可攷者
燒毫臨江軍彦直為建安令鄱陽邵為於與信為丽水
彦仁為興化軍邵曾為能吏晉王為嗣州宦位之可攷者自內
執政外彦直工部尚書勤新春卿公淳祐二年參知臨安府三
日薨端明殿學士彦質淳祐十年冬太府卿知臨安府十一年
冬拜參知政事次年二月兼權戶部尚書十二年正月轉朝請大夫八月除戶部侍郎次年二月兼權戶部尚
書十一年加工部尚書十二年正月轉朝奉大夫四月轉朝散大夫五月
兼權兩浙運使九月除權戶部侍郎十月兼司詳定勅令官六
年二月兼判令行刑修官三月轉朝請郎十月除司農卿五年
二月轉朝奉大夫四月兼權戶部侍郎四月轉朝散大夫五月
兼權兩浙運使九月除權戶部侍郎十月兼司詳定勅令官六
年正月轉朝請大夫八月除戶部侍郎次年二月兼權戶部尚

書三月轉刑部大夫六月轉中奉大夫八月奉權戶部尚書兼
詳定勅令官十月乙丑存事沈友仁即出守在任修建四閣學士之一人宋史有傳是
者六典職者六惠除者四封增實賦四萬餘戶免二百戶是時
實似通當閱記文實附焉之得人陳造崇階知其作戶時撰成
事蹟安志一百卷使羅畸亭傳是役有功于吾杭者先是周示重
撰集祐臨安志至記之後來徐一夔撰洪武杭州志約
為五十卷今失傳是時王撰成化杭州志又廣為七十卷版漫
漶仍舊式之篇至陳善捫蝨新話杭州之時刊本殆盡歐陽公
論至御覽開放失者多矣理為貴祐四年丈天祥得進士第二
人登科錄云李德王小名王老小字寶生甲第五甲一百六十
九名其官位本之詳也

元龍事跡無考字子卿子定上甫師子餘乙亥事然元
戊寅春丁巳閏修子卿子即不至右門在
龍華寺

孝宗淳熙五年歲在戊戌至能范石湖子卿子即不至右門在
幻寶已成大司孔部為書除中大夫參知政事六月乙亥石
湖在政府凡七十日是月題丁巳跋可謂旋之日僅十日本
紀書三月丁巳幸玉津園此從玉也考翁季樹字治州永
年人官至教文閣直學士宋紹二年曾知臨安府不阿權倖是

紀其去位朱子約其墓銘謂孫作傳元吉字又號知周幸
相雄之元孫官至史部尚書龍圖閣學士之一人宋史有傳是
卷六典職者六惠除者四封增實賦四萬餘戶免二百戶是時
實似通當閱記文實附焉之得人陳造崇階知其作戶時撰成
事蹟安志一百卷使羅畸亭傳是役有功于吾杭者先是周示重
撰集祐臨安志至記之後來徐一夔撰洪武杭州志約
為五十卷今失傳是時王撰成化杭州志又廣為七十卷版漫
漶仍舊式之篇至陳善捫蝨新話杭州之時刊本殆盡歐陽公
論至御覽開放失者多矣理為貴祐四年丈天祥得進士第二
人登科錄云李德王小名王老小字寶生甲第五甲一百六十
九名其官位本之詳也

元龍事跡無考字子卿子定上甫師子餘乙亥事然元
戊寅春丁巳閏修子卿子即不至右門在
龍華寺

孝宗淳熙五年歲在戊戌至能范石湖子卿子即不至右門在
幻寶已成大司孔部為書除中大夫參知政事六月乙亥石
湖在政府凡七十日是月題丁巳跋可謂旋之日僅十日本
紀書三月丁巳幸玉津園此從玉也考翁季樹字治州永
年人官至教文閣直學士宋紹二年曾知臨安府不阿權倖是

之王希呂字仲衡又字仲行本待詔子敬之齊名會字子徐丁致者如此益公是時官禮部尚書明年五月除參知政事益公年譜載六年六月詔孔官錢明堂典禮公多定用邵公之說公奏天地亦備祖宗從祀百神如南郊禮部尚書孝詳定孔仍九日祀部太常寺同進大小銅兵刻于十七日行告依行刻并此并見南宋相服和本紀中大比事文年譜載本月二十四日有此約諸路轉運使手詔公即有數百萬計之方上下重歎之遂二十四當是壬本年紀載此事誤為丁卯是十九日矣而事實作此月中而一帶山房叢書 卷第五 三

一開典禮一系到用並相事之大者攻拍出之益公文集詔令孝即孝宗本紀淳熙十年正文節集亦七年以工部與考知臨安府十年六月沿戶部為書記府事依之字德仁見朱文公書劉事狀八年官近台入朝文部郎官題名碑之事書前集卷十年官工部侍郎是歲四月撰工部人民題名碑記碑記載前後侍郎為長卿此題名時依為工部尚書部事參知政事為同列之傳當有中間為工部侍郎事益近成集編安志依得前書是于仲時官文修為郎官題名碑記之手記文獻通考字文修為人部侍郎之前八載之事也施即熟溪遺公中興小紀玉角見宋宗世系表唯不記書知其為孝宗朝樂所修自位執此到十有二人人皆述得之史傳載郡有文集二百卷別集五十卷

合有文集參北八十五卷文獻通考載建有昌卷集十二卷閣有軒山集十卷和俊之昌陽亞有文見嘉安志長留天地間即石應不朽矣

心印銘 唐韓愈

閑果肅作忘形銘群生或動或靜或明或昧六合重用五行莫不因其心白為其形定之大處小入如機如環終始莫知其端或細不可見或大不可周日月星辰或人為爭秋毫之微或以為榮或忘天地或為飲四海舒卷變化惟心所在天尊得表惟心所宰心是地主

神為樂相扶如賓心廣境廣物無定心心無定像明則有天人幽則有鬼本之為體寂兮洁兮不可道分顯矣默矣不可測矣萬有終始若環終於指水而下入內不出不閉不虛不是無感不應無應不神在天而天在人而人常存而未始或存常參而未嘗或參唯我然蓋無物不然惟我得蓋無物不得混而為一

是謂其極效曰心生法生心滅法滅一切相自諸佛 而冥形骸棄智捐明同志刻于石龍院之

唐 建中靖國元年仲冬命拜又有巴石寄路口穿陳始度悉之險峻盡五伏拚朱之行跡又有巴石寄路口穿陳始得上兩崖對引其崖上隆下平日月風雨所不至刻而平如鏡微裂一痕無多酵之使然至今畫松新北宋摩崖鮮見完美若此者已采錄石見唐書蘇原明傳後子口教之大曰寬中隨為量此之後世居法事悉宗建中刻中文辭奇崛科授校書即心前後為升石於通杜右碑石淮南書記入為右補闕給林學士皇太子侍讀卒年四十一此所題之官與傳合是銘載唐文

作卢記用角宋米序以安定梁肅學山觀法門于大門元浩其未知也昌不能知之既知之也不能忘知之既知也必既知之心印其秋盤孟座石之類取其用者必其自悟之序

宋知也日本則不然至以篇古其序末知死日心印銘太阿與性等合為序于映閣無于數朱履与第之林文章閣古人之言故事集有如之首於此序

宗然于佛用全休之文特七依崩之言二十三篇勾擇八年首居多然如文命成而白文命詩王戒語系銘口皓琴北椅碑打盡碑頭也與戒語兩要所有閱注本傑集尔凡八百餘言

涂拜與疾就道不測人疫免朝謁是因康伯不至中書故其下有免押字也宿輔不書姓特例也咸淳臨安志稱康昭惠周化教寺在城中基即其又云開寶六年吳越王就舊宅建寺名六和塔以鎮江潮方脫建紹興二十六年九僧智果重建十年始成今煉移紹興二十六年始工至興二年凡九年於兩宋成于是住僧等給智果功狀故有是命初年住僧復請額色又有復創并府帖時臨安尹馬粹良朋其文刻云最始建塔之名見於書智果之舊今從舊拾遺集搜得六和塔記稱吳越時名也寺同伸統筆刻建今改因名必居其一當思馬志足等字中並闕元符觀行中書右丞相兼樞密院事張商英撰并書篆額

開山住持僧西天高達摩室利沙唐言吉祥海智果功狀故有是命初年住僧復請額未春二月建西天寺至正元年壬辰城于大成戍王之子僖和尚獻王用明為江淮宣慰使宣政院事兼領時臨安尹馬粹良朋其文刻云最始建塔之名見於書智果之舊今從舊拾遺集搜得六和塔記稱吳越時名也寺同伸統筆刻建今改因名必居其一當思馬志足等字中並闕元符觀行中書右丞相兼樞密院事張商英撰并書篆額行宣政院事兼領時臨安尹馬粹良朋其文刻云最始建塔之名見於書智果之舊今從舊拾遺集搜得六和塔記稱吳越時名也寺同伸統筆刻建今改因名必居

六藝之一錄續編卷六

錢塘　倪濤　撰

金石題跋

嶽樹山房集錄所藏名人

武林竹天二祖寺鍾題名跋

太師開府儀同三司上柱國錄軍國重事中書右丞相和忠獻王所書江淮宣慰使宣政院事兼領行中書省左丞相時以開山住持僧西天高達摩室利沙唐言吉祥海智果功狀故有是命初年住僧復請額未春二月建西天寺至正元年壬辰城于大成戍王之子僖

和忠獻王所書江淮宣慰使宣政院事兼領行中書省左丞相時以開山住持僧西天高達摩室利沙唐言吉祥海智果功狀故有是命初年住僧復請額未春二月建西天寺至正元年壬辰城于大成戍王之子僖

元統甲戌大元至正十八年十月初三日望右丞相兼樞密院事臣脫脫奉

西天元僧寺在吳山之東紅亂亂山相接宋故宮基趾也元仁宗建祐六年已未所行者中書左丞相贈大

師和尚塔銘王康里脱脱為兩僧高達摩實理板的建建初為
山西天至正十六年七月收於大子建設時未竟而為之賊所
焚見創以修典之福山門清平寺四天元興寺僧公等各僧
依仁以刺設已等題紀其事於鎮上高騎禪之年即拂子之平
也接元史康里脱脱時入朝行於武宗大宗兵功當
輔武宗為中書右丞相至大四年仁宗即位出為江行省左
丞相開杭城通江河以便商旅明許建部作子史副並惜其澤
不廣于天下而獨被于吾浙賢相不竟其用仁宗之過也等
遠識帖睦爾以至正七年來為行省平章無知行樞密院許以
一帶雲根井堂藏書　卷第六　三
便宜行事是時江淮盜起使為南臺御史大夫訓練
軍實繕城池以固閩寧特材以禦敵狀苗軍之用而撫以威信
識進退之故而討以大義則紅巾可無猖獗之虞白駒可無據
杭之福奈何時略政紀終日文士談之歎而繼完者平至是白沸狠未申欲物生佛功
以報國死何面以見父兮在一寺之建能終先志部實理部師
泰玩齋集有建寺碑載高達摩實理板的遠居山中人一旦拂
袖去莫知所之後有見之秦隴間者蓋已百餘歲矣遠識帖睦
爾重建時人於殿左那屋四楹奉祠先生劉田供祀皆可補此

一人託夢於王子登曰吾欲助國時作吾新像以推於此已而果有國用于燈識其語不忘果發神佑動止協吉欲求衆力同成庶見神功昭著房聊為至正末人像當重鑄於此時不知何年復增鑄一軀訪於五方之神作名錢哥而歟俗不可追矣

盛宗哀五嶽狀紀百代樂仙輝等傳會幽明助順難距臨安宋行都寓僚寺名旅四府知何神封號侯爵序治當巧凭錢而出世如粗論傳沉江風掀出沙洛奇甚神降筆里俗文祖楚語今人鈔誤作木甲沿泰山上方木甲漢武帝時神也見忽幼漢宿儀性有記俗訓改改載玉格當年著靈功志在捍疆圖不為錢可耕不為金可者願鑄

畢懷見許衡寒泉琳宮虛廊竦松風

焦山古鼎記　已見前集
古錢詩二首并序　已見前集第三卷
武林龍興寺石幢詩　已見前集第二十卷
唐開成二年陀羅尼石幢屬士胡秀良書
寺為梁發心院唐改龍興宋改祥符在杭州城西舊基廣袤九里後漸沒人民舍石幢在夾弄空敞中明季智公拾異光居人拾泥重建去今祥符寺里許矣

玉簪隨手雜錄云錢玉有外國頗眩伽寶方尺餘置

龍興寺佛殿中皇朝改為太平興國寺自唐至皇朝凡有十額此其一也

深淵先河橋斜景菊綠路青豆垂隔岸古寺門牛閣千年十寶地秋臨望盡九曲何處尋東城有九曲觀詩廢軒虛塵吟蛤石撞妙東平有谷利納大神降道狄元敕欲令姊子權徽化拜權珍吾保好奇解徙徙奚味今丁君敏有九勇記辯證紛駁述在時將雙明久讀經三而論紙脫其文可供硬黃摹問年值唐李通歷數隋城中為里夫此獨未按拿雲雙龍城中為里夫此獨未按拿雲拳拳然若蘇生右色對

唐柏許評聲閩閩來月再提挈

武林吳山麻姑葛刺佛詩并序

麻姑葛刺佛碑在寶成寺石壁上屋元至正二年壞

朝廷差來官騎衙上將軍左衙親軍都指揮使伯家奴等心喜捨淨財改麻姑為葛刺聖相一堂至正二年

新衙上將軍左衙親軍都指揮使伯家奴等心喜捨淨財改麻姑為葛刺聖相一堂至正二年歲在庚寅月日立石

麻姑為葛刺佛在吳山寶成寺石壁上屋元至正二年歲

吃剌佛蓋梵音無定字故也元時敕改白僧此作像以作標可
怖云泰不識觀者多昧其所自故詩以告之
寺古樟如阮青胥石如始何年施金鑒幻佛梵相向五泉與金
錦幾深猶淋漓一編微笑其塔方日雪山婆那婢女二婢相
夫持玉顱捧仁手盛是軟月之有家王石作師白象青獅獅將
服錦樓前坐用八皮韜鐘乳繫頭珠貫何榮累其餘不盡者復
置戟與被雲紀至治歲舍拾莊嚴寶衣福不唐捐宰官身佛
我聞引元和妙比丘伽梨入於閻浮提人知此像珠山
骨安使千年垂倫翻諸佛名難解姚秦師將人頭宋到敬嚴寺

一瓢小集卷四

惟閻羅天子下古字仙宗驛舍書極鉅量經將妹子細校前復拜
宋人九禁
城內貴戚會元決如有天人與神龍家宮敕之禹政和後
磁紋實藏會元決如有天人與神龍家宮敕之禹政和後
門惟頭金剛經手校摘經妙三物馬係乃采武帝時物九行
門松影蟠趺扶策杖拄子等盖頭供客設氈柱承仙翁係墜
英掛扇氏製
泉注茶除錢司山最次錢塘龍井傳大士真身塔及敲
門松影蟠趺扶策杖拄子等盖頭供客設氈柱承仙翁係墜
經龍樓林昔傳公全身北中庭漁野年亦通碑蕭散久明世人
一柿去泰不識觀者多昧其所自故詩以告之
寺古樟如阮青胥石如始何年施金鑒幻佛梵相向五泉與金
錦幾深猶淋漓一編微笑其塔方日雪山婆那婢女二婢相
夫持玉顱捧仁手盛是軟月之有家王石作師白象青獅獅將
服錦樓前坐用八皮韜鐘乳繫頭珠貫何榮累其餘不盡者復
置戟與被雲紀至治歲舍拾莊嚴寶衣福不唐捐宰官身佛
我聞引元和妙比丘伽梨入於閻浮提人知此像珠山
骨安使千年垂倫翻諸佛名難解姚秦師將人頭宋到敬嚴寺
竹間勇能供下銀鉤伏擬上閻錄來記盡毛藏畜大註其尸陰名久收之相見初成時高昌
伏諫勇鋤仙高林牡丹列上帝卧膝寫圖壇仁何相禮乾其宛
是吾於分走領城安如之觀音鈔自定的青按題以模歐筆譯
紀將老北南宗更遞完好十傳五姓名征討平閒不可磨滅
碑反力賴細合後安自扶別課
原注紀將通名有司為之閒發
名有京館表說友李壁陳自
體分生少休扶汗星雷枳箱路近見指除氣鼓尤銳江西縣虛
登荒雲濱舰水清院宋仁宗佛牙贈吳越摩崖碑
城南丁隱居嗜古有神契山心本清虛時學不承照約我緣工

原注永寿院石上刻宋仁宗佛牙赞七律一首考宋僧法贤
翻譯名義集舍利下亦引此讃共詞部阿盖波托为人
嘉祐武肅勤伐山行旅惠不獨築塘木又合泥来海森然垂玉
峯高紀卯申歲英雄可定賊圖霸耶自衛首題砌山朱如裂路
諫皆

原注惠崇巔崖上築刻云梁中國之歲興建龍山至湖灘之
年間建崇嶺使建両閣城宇崇敞水用今勒之此用紀年月
甲申歲六月十五日吳越國王記共四十九字田氏両湖志
正敬宣十八字考梁開平元年湖灘为乾化二

一帶雲根卅堂藏書

卷第六　八

年甲申明後唐莊宗同光二年盖吳越武肅王所建
所待俱不書何當三品管重来揭亦徒徒為期勿来嘉祐
存留於此帶九日以為期勿来嘉祐

武林良山土神廟碑詩

同安城耕民作良山山在城東北高可二大許盖七年
也唐列古松三四株風雨怒號在地臥碑亡中都
護之不甚了乃元良山土神廟碑大德己亥徐鉉路
徐公孟辛知諸暨以十一月甲子以元
徐公孟辛知諸暨以十一月甲子以元乾元號中大夫柱
柳大人大字宗鉄筆益勁行密久熟知周草窓所
教興唐寺鉢題識至今宋北稱大御史大夫銀青光禄大夫上
之

倚學錄古杞先徐章記并書廟不知歿於何時作詩紀

宇元可作也公主长子祚祚官镇南军节度副使祖川军军
押衙但可補入十四春秋揚氏起星盖振有正注可云一時之
傑不幸作而嗣王庸愚投入以柄僅旋罢丹陽宫之福子孫
無味類禹玉處於無事尚得有志銘以傳子孜不可謂非幸也

已

武林掌故叢編 卷六 十

武林訪山房藏手抄胡志考已錄于前集一百十卷矣
其中題有遺漏今依小山堂所藏抄本補之仍標胡志

一帶宋襄井堂藏書 卷第六

之缺云

南山

賈似道題名

咸淳二年九月一十八日賈似道偕客來尤論史官之疎陋

申嗣公約王庭秉道子約生諸孫皆世侍宇榴書四行

王庭秉題名在水磨嶺上載石室一行

王庭秉題名

胜鴻王庭秉約殿錢塘居平常甫大名王頊正甫約予上
官灌房明臨川王安上純甫同步紀登丑七月己未行

一寸五分

武林掌故叢編 卷六 十一

杜無擇等題名

杜無擇尤振元名中日比安人
朱文公題名

紹熙甲寅閏十月癸未朱仲晦南歸重過鄭居仁山園李周
翁嚴陵之勝裴回久之其日之舍方汉未罷知荊門之越日
父王伯紀陳秀彦李良仲喻可中日來行十六字二十八石

子安世守題名

子安世大張鄂日次山未詳紀今

時茂先題名

二十文石行

周之祥等題名

元佑癸酉八月二十一日周之祥等自貢似自容來尤論史官之疎陋
建安時茂先行投浙東帥府道嚴元行二年八月二十六日
康永正書四行字
二十四石

尚明題名

尚明 中歲 字仕明

辛卯題三字

錢武肅王排衙石詩刻大概是山海

元有二月十五日五字石有

玉上半段已斷止存一三字

□□□

劫摸

觀世音經像精

贊曰觀音淨觀廣大智慧觀及旃檀佛像

佛功德上現今上皇帝聖壽無疆二聖果證金輪天尊共保

平祥四海晏清兵戈永息風調雨順國泰民安法界衆生同

霑利樂時治興二年歲次壬子中元日記

北山

龍泓洞鑿佛題名

日山清信弟子脇[illegible]

一帶[illegible]

日專觀音勢至伏以日身恐有多劫冤愆今生故[illegible]伏願日不

日之脇明修業報之後日時廣順元年歲次辛亥[illegible]月三日

鶴記 小楷八行 字才五分

大元國杭州佛國山佛像贊

永福禪院統江淮馳重望於靈鷲山中而啟東洋之教日

庵石現出黃金像佛名無量壽佛身令現家無量亦無邊一

切人聽即樹此功德憧無能為比日入此大施門喜有大冬

相為府衆名官相繼來瞻當日一佛二佛日記摸畫林花木

四時春可以作供養故為四時啼可以作四月日時畫林

開雲社盡職淨圓而紛紛國風和萬萬願化聖明君與佛壽

無量乃法界衆生盡除煩惱障我作如是說此語即非妄至

元二十六年重陽日住雲院庵題日伏謹述 大都海雲易

雲子安書并

元僧楊璉真伽者[illegible]毒和人患而像[illegible]

大守陳基去[illegible]大快人意而像[illegible]贊得所為石山之玷今

[illegible]以識[illegible]百冀後之君子鄭而去之閒覽者勿與

題名諸刻一例也

飛來峰鑿佛題名六通

一帶[illegible]

靈隱禪寺伏以大功德王開府儀同三司上柱國江浙等處

行尚日日左永相日日各[illegible]施金日日重裝佛[illegible]山請

佛菩薩聖像所集洪門福力祝延

皇太后皇帝萬歲萬歲萬萬歲日皇帝萬歲萬歲萬萬歲

至大三年九月日住持僧日日謹題

大元日日崇祿大夫行宣政院使日日夫人謹發誠心日

將淨財命工鑄造 金剛手菩薩像一尊端為祝延聖壽

萬安保佑院使夫人福祿增崇壽命延遠家眷安和子孫昌

日日大將軍前往安南尸[illegible]府日日管軍日揚日金書朱氏發
心施財命工鐫造阿彌陀佛觀音大勢至聖像三尊兄[illegible]皇
帝聖壽萬歲　至元二十日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日兩年日吉辰建
大元國功德王徐[illegible]錄日日等命捨淨財鐫造聖盧遮那佛
文殊師利菩薩普賢菩薩三尊端為祝延皇帝萬安日恩三
有俾登覺岸者至元二十九年八月八日寅收[illegible]州路僧錄李日日
徐日日[illegible]潭州路僧錄李日日

一帶雲泉卅余義士日

[illegible]

卷第六　十六

大元國大功德王賀政大夫行宣政院使楊日謹發願心日
捨淨財命工鐫造多聞天王聖像一尊端為祝延皇帝萬歲
國泰民安法輪常轉四恩總報三有兩日法界衆生齊日佛
道者至正壬寅二十九年七月仲秋吉日題

總統所董日特發誠心施財命工刊造觀音聖像上谷洪恩
[illegible]新福祿增長高年綿遠者大元戊子三月吉日題

[illegible]題名在龍
[illegible]

[illegible]題名在龍
[illegible]

咸淳丁卯十月十八日[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

靈洞二大字

靈洞清書徑二尺
長三尺

才翁題名

才翁題名河中正書二行
字徑三寸

趙伯衡題名

趙伯衡牧□於□興已知日月十七日 正書字徑一寸七
分半上字二

清虛洞天四大字

清虛洞天篆書字
徑一尺

開禊二大字

開禊正書字
徑一尺

一帶雲根仲冬成古□

東坡賞咸院賞牡丹詩在馬山劈

蘇子瞻賞牡丹詩
成寺中

閒使君何處去漢君說與春風知年年歲歲花相似
年人老矣去年催得春吉旦東坡題正書六寸
字徑二寸

春風小院却來時壁間唯見使君詩應

讀法帖題跋

宋廖瑩中世綵堂集

書淳化閣帖次考本後

淳化閣帖十卷摹自王著守重此之謂矣碑刻之初決斷更無前人意欲當時珍惜其板御書院陛大臣進登二府者賜以一本其所謂官法帖是也歐陽永叔時板已破焚稍舊本力雖得之其公子揚上歲在庚戌觀馬中見後此又數百年矣雪本舊板的大理袁汝錦守臨汝宛平劉一帶雲根仲冬成古□

大夫知鎮江府日購得之其公子揚上歲在庚戌觀馬中名碑大碑以人民唐代所最本皆表不原帖其人夾雪名者鈔食其墨以素紙裝之若六花之散于八席也蓋自棗材既裂後更捶以銀鋌世多以此驗其偽是本裂處以木補之殆在銀鋌未塗之先賜本之僅存於今者矣法帖之傳於世各有所

錢塘 倪濤 撰

可考而吳中好工每割裂破尼圖書以眩人耳目誰善鑒者或致誤焉若是帖之見蝕于蠹其文完轉折纖字畫無損巧過遍痕釵股龍魚鼠尾和葉之篆即至點畫名所忠賢也觀于是而知古人未可輕試水取謂其難者是誠智言

題江都王氏家藏閣帖

閣本桑木傳刻易失其真而世寶之吾鄉天籟閣最有初搨本題以千金後經亂失去予所見亦山劉氏夾雪本已闕二卷補以別紙退谷孫氏則僅存二卷而已是木自尾完好後觀銀鉤木擫時生面宜為鄉里人寶也

石刻鋪敘跋

右刻鋪敘二卷宋建陽魯宏人摹卷末有淳祐甲午魯宏人識語稱其祖魯有開嘗以此帖與其從父魯有開同刻於家塾今其版已不存矣又稱其祖嘗手自校讎凡三易稿而後定其用心可謂勤且篤矣然其中脫誤頗多如以右軍為優如鋒帖筆自能伐其皮毛哦其精氣此諸帖最為上順伯

侍史北部尚府君坐服上使北已七十仕不過成忠余於開元
公必大撰朝請大夫海鹽縣開國公食邑碑伯考待書名政事郎舒
府君者大夫長子承議郎通判舒州可倒也愿如好古當代會
妙奉後章歸之此伯秀有成懿之言要之兩公政治條畫不
類董逌筆之晦談詩所云昔我有先正其言明且清者非歟吾
鄉張元成嘉禾志不傳至元所修失之大簡其後郡守趙
汾劉應珂排纂舊聞日就放失文獻無徵尚論考往原始歎石
之因覽前氏書有感識于左本

尚書宣示帖跋

一帶雲根神采煥發書

古文尚書孔安國序伏羲畫八卦造書契以代結繩之政而
仲尚父師之書起劉淵林注以為古文出於孔氏之家中霤秘之
洪适隸釋考本實義其來不得據信而為遺在書
也鍾太傅八分有受禪碑餘多真書王丞相之尚書宣
示帖不帶過江今之傳本出于王肅而史所稱奉詔寫于
直諸帖打為世重王僧虔雲其妙媚畫如陶弘景許以絕倫庾
肩吾品其天然第一顧愷之本傳所言及其書何必制狀
漢代無真書工之自太傅始當時楷法雖精奇奏之外未大行

一帶雲根神采煥發書

傳劉者家斬失其真往本難得斯于謹家中霤秘之公雖橫逸
生面惟當約法守自手所錫實各手所知用筆絕品也已

閒皇蘭亭本跋

王丞少喜性褊悋筆本最多每之內府所藏凡一百一十七本
資師憲遠朝建分王孟頫傳銀鉤蠆尾家石刻閣亭八千卷今閒
九成所載日銀唐以前本獨閒禹跡州力制矣補氏家藏多後
閒皇御書閒皇十三年敕次于十月筆勢上石高約數刻十九
字視者或疑之按宰輔傳載有智永臨本孟頫本師本宜少
也世孫傳其家法照書永欲手劃楷法雖精奇奏之外未大不下者四十年其勁蒼

若是且千陳天嘉中蘭紙真跡
歸于陳僕射徐孝克孝克薨後
入于隋秘閣其後流傳漸廣故
今有數本其最著者有三本一
本在大業中為虞世南所臨
二本在貞觀中為褚遂良所臨
三本考古之君子可以擇其最
近真者而觀之焉

跋蘭亭殘石拓本

蘭亭殘石不知勒自何方後歸
諸延諫本肥張景元本瘦歐陽
行本本瘦玉石照明本肥釋懷

仁本自瘦後肥王順伯主肥大
瘦不露骨斯蓋中之論與大抵
書家作以瘦本為貴相傳宋初
中拓定武本盧舍二紙加氈粘
下者方不失真安見肥者之不
如瘦爭意氣又云東坡自人少
學蘭亭故其書姿媚知言哉今觀殘石東坡書法絕與相類始
原出于肥本治迄帖今藏懷

跋蘭亭定武本

蘭亭蘭紙既入昭陵書家之論以定武本為第一歐陽公詩謂
禁中或云此石亦殉葬陵則是人間不合有定本矣按歐陽公

跋集右錄謂定武二民家各有一石軟
薛氏為數千迄明胡侍酒若思亦云永嘉本是智永臨鳴沙石
與閻太守摹搨刻置郡齋末有孫鎮公後序述唐紀封二年僧
懷仁集者斷言前後行合篇題建州司馬所臨右陽帝時又
有大業石本見用公謹雲烟過眼錄欽則跋帖流傳有代已有
二本考古之君子可以擇其最近真者而觀之焉疑已

跋蘭亭殘石拓本

蘭亭殘石不知勒自何方後歸于閩嘉肥本也欽帖肥瘦依
諸延諫本肥張景元本瘦歐陽行本本瘦玉石照明本肥釋懷
仁本自瘦後肥王順伯主肥大抵書家作以瘦本為貴相傳宋初
中拓定武本盧舍二紙加氈粘下者方不失真安見肥者之不
如瘦爭意氣又云東坡自人少學蘭亭故其書姿媚知言哉今觀殘石東坡書法絕與相類始
又南京金陵次為中都旧京也吾鄉況先輩虎臣撰野獲
編云南畿自丙戌間北雄為北雄相將以定武本
畔向識者訣其贋謹斫桑石時袁洲韓公在京官國子分兩拓
數石將盡友朋各一次翻摹或即薛氏摹動未可定論

右淳帖二石藏於仲氏妻兩浙家皆拔本也世之論似帖者必準
于定武蘭亭諸系等是之共景慮有云碑刻下公閒所從來但
以書之工拙力精神為知音二本則拔勢遒不為成規所
拘極其飛動宜兩淳心摹手追變化而不棄也而吳拓以暗予
前後鈐以私印蓋不輕以予人云

蘭亭神龍本跋

淳熙帖者十九多推定武獨唐長方謂唐人摹本也置須仔項子京大約
所能及是本有神龍半印正唐人摹本也置須仔項子京大約
閒分投其十倍弘致諸石康熙壬子取字曉得之往照寧元豐
一帶亦根神宗意旨
諸賢當定之人貴識略同比于度本差此然如拇指肩力均
耳假令孫華老見之定移入墨妙亭子

浦氏家藏晉唐小楷冊跋

右晉唐小楷一十六種共一冊鳥程汪氏舊物康辰春友
浦次耕得之出以見示次耕博訪金石又一一裝界得此遂為
拳墨之先審視再三字比近時摹勒者差小又紙墨一色篇末

淳化帖外如大觀淳熙續絳諸帖又未已之時部偶得其
一与爾欲指法已略備試用張懷瓘法佑之不啻百千緡也

聖教序跋

獨山紀勝于谷于成于八月過其家觀宋搨聖教序借名
各里項子京家藏上有跋識改定從字如坐建炎申當尚書石
公用益公得其地年物星往望此宗人欽其人遺不可得今觀
其書法果入格上嘆此冊絕墨絕妙當知為南渡以前物矣于
子題識復以地表歸其物書要未若此本之善

續書體論

東京顧炎武寧人甫日知錄

字

春秋以上言文不言字如左傳於文止戈為武故文反正為乏於文四轟為蠹及論語史祝文申書曰文之類皆不言字惟女子貞不字十字乃字許牛羊曰字之在人其係無子使字敬叔皆訓為乳書康誥于父不能字厥子左傳樂王鮒字而敬小事大大字小柔取愛養之義唯儀禮士冠禮宿賓之禮記郊特牲冠而字之敬其名也與文字之義稍近要未嘗謂文如字也

以文為字乃始於史記秦始皇琅琊臺石刻曰同書文字說文序云依類象形謂之文形聲相益謂之字文者物象之本字者言孳乳而生考說文解字敘稱倉頡之初作書蓋有其說周禮外史掌建書名於四方注云古曰名今曰字儀禮聘禮注云名書文也今謂之字此則字之名自秦而然春而立自漢而顯也與

二國志注孫亮時有山陰朱育依體象類造作異字十餘上許氏序說十四篇五百四十部九千二百五十三人

自說

自說書以來蓋亦明六書之指使三代之文尚存于今日而行以識古人制作之本者許叔重說文之功為大後之學者一點一畫莫不奉之為規矩而點畫之間亦有不盡如者且以六經之文左氏公羊穀梁之傳毛萇孔安國鄭玄馬融諸儒之訓而本以盡合九叔重生於東京之中世所本者不過前漢賈逵杜林徐巡等十餘人之說而以為盡得古人之意則一也

楊慎六書索隱序曰記天有北斗記地有五嶽記水
說修南子說司馬相如論董仲舒說京房說衛宏說杜
劉歆說桑欽說杜林說賈逵說傅毅說馬融說鄭玄說
說尸彤說張林說黃顯說周磐說史安說歐陽備說嚴
爰禮說徐邈說杜都說張徽說
五經未遇孝邕等正定之先傳鴻人人各異今其書所以多
異字而以今經校之引說文為証又一書之中有兩引而其人
各異者後之讀者將何所從二也
如記下引詩江有汜派下引詩江有沱下引書割走廢功
傳下引書菊救傳功卷丁引詩赤烏已已擊下引詩赤鳥
擊　鄭康成當數許慎五經異義顧氏家訓亦說文中有
援引經傳與今乖者未之敢從
凡傳既久宜訛脫不可盡正即徐鉉書校皆曰久傳宜從
所長況今謂此書始開者是古人所無則指一字以當之成經
典而就說文支離牾互三也
如說文鈔字後人以貓字當之鈔由字以雩字當之鈔足
字以跧字當之
今舉其一二評之如秦宋醉皆國名也秦從禾以地宜禾亦已
不同

王莽傳劉之為字卯金刀也正月剛卯金刀之利皆不可行
云 又曰受命之日丁卯丁大漢氏之德也卯劉姓所以為
也元武告天祝文引讖記曰卯金修德為天子公孫是引援神
契曰而太守乙卯金謂西方太守而乙絕卯金也是古未嘗無
劉字也 瑯琊帝太和初公卿奏言大歌以承德舞以象功於
文文武為武臣等謹製樂舞名曰章斌之舞舞去秋更采是
古未嘗無斌字也

趙宧光曰說文無劉字但非鋼今按漢書印信皆金刀之制及古
印流傳者劉姓不下數十百面皆作劉無鉚字

徐鉉校定說文前列新附之字云是俗書

說文原文火弟不可見今以四篇引者徐鉉等所定也切字鉉
等所加也 旁引經傳之言如杜預是元凱李賢是章懷注
等所加也又云諸字不出說文或切語不與說文合者悉鉉等加也

趙古則六書本義序曰魏晉及唐能書者輩出但點畫波折其
蟲魚而入字破碎外狗類六經之象春易至天寶間詔以隸
古定尚書古文經四十二卷人曰孝經古孔氏一篇皆出孔氏
壁中又曰有中文易經而不言其所出後漢儒林傳古惠棟
古文易 人曰禮古經五十六卷春秋古經十二篇論語古二
十一篇但言古不言文而音屑之音則已焚燒無遺後漢書杜
林傳曰林前於西州得漆書古文尚書一卷寶愛之雖遭艱
困握持不離身出以示衛宏徐巡曰林家雖貧財寶千萬不
能動也衛宏徐巡從林受古文尚書漆書即今之蝌蚪文也
後漢書儒林傳曰孔安國獻之於是古文遭
巫蠱之禍未得施行後漢書衛宏傳言魏初傳古文
者出於邯鄲淳淳傳之於衛瓘瓘轉以教子恒恒傳其法衛氏
皆以能書知名
晉書衛恒傳曰恒以古文轉失其法因科斗之名
改為蝌蚪文後漢書儒林傳以杜林傳古文尚書
為衛宏徐巡所受而唐初魏徵

始字說人以為女之初也已不必然而徐鉉乃以至哉坤元
萬物資始不知經文乃是大哉乾元萬物資始若用此解必從
男乃合耳

五經古文

趙古則六書本義序曰魏晉及唐能書者輩出但點畫波折其
蟲魚而入字破碎外狗類六經之象春易至天寶間詔以隸
古定尚書古文經四十二卷人曰孝經古孔氏一篇皆出孔氏
壁中又曰有中文易經而不言其所出後漢儒林傳古惠棟
古文易 人曰禮古經五十六卷春秋古經十二篇論語古二
十一篇但言古不言文而音屑之音則已焚燒無遺後漢書杜
林傳曰林前於西州得漆書古文尚書一卷寶愛之雖遭艱
困握持不離身出以示衛宏徐巡曰林家雖貧財寶千萬不
能動也衛宏徐巡從林受古文尚書漆書即今之蝌蚪文也
後漢書儒林傳曰孔安國獻之於是古文遭
巫蠱之禍未得施行後漢書衛宏傳言魏初傳古文
者出於邯鄲淳淳傳之於衛瓘瓘轉以教子恒恒傳其法衛氏
皆以能書知名
晉書衛恒傳曰恒以古文轉失其法因科斗之名
改為蝌蚪文後漢書儒林傳以杜林傳古文尚書
為衛宏徐巡所受而唐初魏徵

等作隋書經籍志相校有三字石經尚書五篇六字石經春秋三
卷五字石經公羊穀梁二卷一字石經論語一卷今皆不存矣卅所
云唐玄宗天寶三載始
口授敕性載籍討論續典以為先王令軌與越於唐虞上古之
書實耕於前詰雖百篇與義前代或亡而六體奇文獨規猶在
但以古先所製有異於當今傳寫改訛有疑於後學永古刊革
必在從宜尚書應是古體文字並依今字繕寫施行其舊本仍
藏之書府是左宗所改亦上於古文尚書而不開有他經也夫
諸經古文之止其已久矣今詔五經皆有古文而玄宗改之以
今宜其然乎

一帶山房藏書 卷八 三

孔安國書序曰科斗書廢已久時人無能知者以所聞伏生之
書教論文義定其可知者為隸古定又曰悉以古文讀其難者
書或論文義定其可知者為隸古定又曰悉以古文讀其難者
猶古吏以令尚嗚之是則兩漢之時所云古文者不過轉書之
近古而於王所得科斗文字久已不復云宗所謂六體奇文蓋
正始之書法也

宋景公武古文尚書序曰余抵少從作石經考異之餘間得此
古文全編於學宮乃延士張杲似呂氏所鏤本書丹刻諸石方
將配孝經周易經文之右附於石經之列今其石當已不存
而摹本亦未見傳之人間也世無好古之人雖金石且能保收

表紹柳塘孔伐檄次韻王義之千字並使與嗣角之人薦子範傳曰子範除大司馬南平王戶曹屬從事中郎使製千字文其辭甚美命記室蔡邕注釋之嘗唐書經籍志千字文一卷邕子範撰又一卷周興嗣撰是嗣所次者一千字文而子範所製者又一千字文也乃隋書經籍志云千字文一卷梁給事郎周興嗣撰千字文一卷梁周興嗣次韻而成山堂考索同本傳以為王羲之而凡又以為鍾繇則又異矣隋書藝文志又有演千字文五卷不著何人撰陳書沈炯傳是時梁武帝制千字詩衆為之注解是不獨與嗣子範也

隋書又有周興嗣千字文中語異記餘論為王羲之千字並使與嗣角之人薦子範傳曰子範除大司馬南平王戶曹屬從事中郎使製千字文其辭甚美命記室蔡邕注釋之嘗唐書經籍志千字文一卷邕子範撰又一卷周興嗣撰是嗣所次者一千字文而子範所製者又一千字文也乃隋書經籍志云千字文一卷梁給事郎周興嗣撰千字文一卷梁周興嗣次韻而成山堂考索同本傳以為王羲之而凡又以為鍾繇則又異矣隋書藝文志又有演千字文五卷不著何人撰陳書沈炯傳是時梁武帝制千字詩衆為之注解是不獨與嗣子範也

梁書

褚先生補史記三王世家曰王其人序分絕天字之上下簡之錯差長短皆有意人莫之能知譙周古史考曰孝武時詔即已用草書也魏志胡昭傳轉五官將文學文帝器異之令盡通草書則漢魏之間篆隸之文有用草書者矣故草書之可施於章奏者謂之章草

晉書衛瓘傳瓘善草書為機動靜輒以之乃詔特草上

表此以說用焉

趙彥衛雲麓漫鈔曰章草今草之別漢魏之間篆隸之文有用草書者矣故草書之可施於章奏者謂之章草晉書衛瓘傳瓘善草書為機動靜輒以之乃詔特草上表此以說用焉

張懷瓘書斷曰章草者漢黃門令史游所作也王愔云漢元帝時史游作急就章能散隸體漢俗多訛漸以行之是也非梁人作誤矣黃伯思東觀餘論云千字文一卷唐書經籍志千字文一卷蓋即此法增廣之爾非章帝書也

仁壽中行學沙門書其草稿雖州郡書字皆楷正云草不可
不解若施之於人似相輕易況崇飾寶廟中早幼又從其教是以
必須讀筆唐席豫性謹雅與子弟書疏及吏曹簿狀本當草書
謂人曰不敬他人是自不敬也戒以此事其細節仍作楷字
細猶不謹而況臣和柳仲郢手鈔九經二史下及現書南北諸
史皆楷小精真無行字宋劉安世終身不作草字書尺牘未嘗
使人代筆親平生書必為楷字鈿一行草類其為人古人之謹
重此如舊唐書王君廓為幽州都督李道為長史君廓入朝
宴道附書與其從甥房玄齡君廓形發之不識草字乞其謀已
一帶山堂校刊金石錄卷第八 三
謀而奔坂宏道坐流嶺州夫草書之壞乃至是邪

金石錄

金石錄有宋公盛饒州錄云按史宋公無名盛者莫知
其何人今考左傳宋元公大子佐卒則位為宋公漢書古今人
表有宋景公兜與而史記宋世家元公承子景公頭是元是兜
聲之音訛為頭覓而宋公盛即景公也宋均之說為宋不必然
證之碑及宣和博古圖南宋傳云會按府本謚者宋均稱於公降
為直史引解盛逐平事與本傳合而南宋傳作宋本傳作宋其
說頗妙註未及正

庶言摘略

北書雖玩小篆實為楷書偏旁點畫多與六書不合必讀說文而後形聲意義始不為俗論所誤故正文之後附列古通今文為文曰項其本書形聲不同而音義互見者為古通其本書所無而經傳所有者為今通其雖見經傳而疑于六書者為俗文

周氏孚原云六經皆古文唐天寶三年詔集賢學士衛包改作楷書今世所傳反據俗體以此

其俗通于正而點畫譌誤者為訛文益以六書之而五篇餘字雖所未睹敢得默失今且可據而曉也故說文為篆第八

本于中之經

唐韻四萬集韻五萬皆有時令且六萬矣

六書之說許見周禮注玩其本原及通文語學之不與論唯是古人制作一字有一字之義後人不求其解而

云從厶聲而已

段梁茞注某地作厶

見有論字義者便詆之為王氏之學大王氏誠有不免穿鑿者以其不細考說文而為臆說也

如鋼王而余以為白色之類

其實古人論理論事必典六書如其義也左傳止戈為武仄正為征書云詩言志易有大風鼎禮之儀者卿也春之古篆狄之北方其他倉雅之不可枚舉參考眾說而旁證其義再加剖發諸如中心為忠心為恕皆為會意如中而為旗腳三軍全憑指揮種種

非便學者駭故切于此原二十卅畫夜俾著疾痛而不忘律世為造就人材者倘作消採之助也

韻法取象會意方得制字之義六書故云從厶形之云從厶乃先儒沿訛為會意如其字有一字之義後人不求其解而之夫王即之九又安得謂之夫王即之心之所主為志

方虛白與義手

許氏注例有七部首建形部字語證故也云從厶形之云從厶某所謂形聲相包謂之字也雖依會意轉注皆在其中且有無形聲者語人難解書辭于諧聲而略于

于四義非也

聲兼形者兼之書形也聲兼音者柴門桑樞之類是也

偏旁人旁也聲兼轉者雖以周匝轉為雖盡也聲兼借者球形似求毛下垂也求古裘字

其合而成事為義是也其但以一人一聲也而未言先義如味從口聲實以兩口從一聲者重在聲也其但以一人一者重在義也或成本盡明言如瑞從玨耑聲如德從悳省聲本以省為不言以空明之義是也其以一人一聲者重在會意又兼詩聲如德從悳省聲本以省為義而悳又聲是也或以諧聲以兩本同會之或以通義如糟從唐唐本訓曙訓鬼搖之動以之故通此又以轉從人聲亦多不同有直以其義不順訓釋者如中心為忠如心為恕是也有曲從其義義歸折諧如寇從攴而以寇聲又兼而以寇聲是也有合二體成文記之會意義如嵐從山風聲是也

古人制字用字有本義反義借義通義諸種故字從一多有不同其從本義如說從言兌聲兌亦聲也或從反義如乩從乙而訓先已是也或從借義如鴻從江而訓大是也或從通義如通從甬而訓達是也或從兼聲如德從悳省聲本以省為義而悳又聲是也或以兩本同會之或以通義如糟從唐唐本訓曙訓鬼搖之動以之故通此又以轉從人聲亦多不同有直以其義不順訓釋者如中心為忠如心為恕是也有曲從其義義歸折諧如寇從攴而以寇聲又兼而以寇聲是也有合二體成文記之會意義如嵐從山風聲是也

歲音劌合也酢有作以記也譯郭古記字前也

至於一字兼九有不同時從布布一也從其聲者如蒲從甫為大蒲注讀若威言如綿之文色非以

本注詳之

諧聲與會意同乃合體成字但合體和其意可想不必因龍得義則曰會意如音加十為章少在甲下為畢是也

郭氏以二艸為會意非也如其說則无朋可歸矣

合體而就形生意又恰有聲可依則曰諧聲如中心為忠如心為思是也

會意與指事亦多相似大都物之實而可睹者為指事故以上下當之理之虛而可想者為會意故以武信當之

假借與轉注舊訓亦有未安大都物與事為類而災患依則一聲之轉注舊訓以反側取義變形成類為轉注如列山為邑引出為由之正訓以反側取義變形成類為轉注如列山為邑引出為由之

為但此不過轉注之一端不可以此數字盡之有由音義轉為動義者如好惡轉為可好可惡越之走之是也

有由實字轉為虛字者雖本肉之木艸乃未為而本毛之本乃始轉為詩詞是也有由正義轉為借義者汗為潔清為始發為置而為背棄為畏避為訖止為終故在之部非不通用也

以亂為治不在此例盈亂本治字損假借之義也轉注假借二者書之權也不必

以注為引字令長之類便是假借者不轉音而借為別用能

拘泥之類是已詳來盡

北秋相盈如字之取義于集一下從之一端不可以此數字盡之有由音義轉

曲正以度之借舟而生至為之延緩

借作之者可以類推矣

維而借而父為甫為男故在之部非不通用二十為古音

之記也

大夫部所事皆盡四者皆書之權也轉注假借二者書之權也不必

正形正事正義而四者可以通之則為轉注本非自然

其事其意其聲而即從可以比此則為假借故轉注有四以
又為方形之轉也以丁為丁甲之轉也由老而考意之轉也
由工而江聲之轉也假借亦有四以為為之借也以上
為事之借也以火之為明亦為火之借也以亡為之為呼聲之借也至
由假借為同物又為語詞是假借兼轉注由文字為假借
為宗族是轉注無假借轉假之用明六書無不通者矣
分不解義則俗儒為臭考如叩頭袁如兒耳說文作袁訓衣博
從衣從衆衆即保之古文故今文作褒毛傳臧眠也義與大
之衣詩意本對上文裳尾流離而言言伯玉如兒耳不聞傳訓袁為臧錯

而止人實頤之若直如兒耳不聞傳訓袁為臧錯余考在右
二音唐成連之耳實多笑擇之不必袁乃古文袖字
袖故余考打又之袖為擘旨正用許意如大義引本方作袁
袁讀若
漢書董仲舒傳褒以勸善貶以懲惡褒貶為擘旨正用許意如大義引本方作袁
是袖從為擘旨矣段玉裁何據何語即
道推引家語曲何據何據與漢書樂安袁之皆重稱其臧服
是亦以袁為袖不知何乃據之借袁亦袁之誤即作此曲
說英雄欺人耳　家語本作倨倨汪梓作裾裾本於

家訓勤出上憲色班黃黑无駁襟也當讀陳田點賦揚雄賦
勃出試檢說文他在也部而青出於藍韻音分此疑頻擇不
不知仇鞫而青乃勃也非勃也分介相似而誤為師古注漢書
黃對作青亦勃在音分二類沿誤失而丁氏因之案字義
勃美門故從昌能過就也勃昌義近故或
揚鶻或稱他鳥訓鳥聚則從勃經之紛肖與介昌丁不相涉
不從昌形求義自能定其音之是非
說文發訓舌聲從口從發會意之義重之作褒本典叙也俗
作唆從反乃反之省與朝暮夕會夕會之
商聲古音陽入故向經取會反之
商聲古音陽入故向經取會反之
商聲古音陽入故向經取會反

嬰鎖此句皆于使揣之解轉沙雖不改正使之為嬰而有以
[illegible]傳訓為借賢讀為
[illegible]非人于六書假借字繁矣無而
[illegible]事出山海經荒凡日抄云作此書者之世未嘗与人接談何
以知其重起和語耳盤以能如卸龍以自生能在草膜地以
月宜龍在月蛙謂古者人設
不則之至閒以山阜長大起伏生動而以能脫以微雲華川
不是明白以能有皆似傳法瓦以生能富之宜其之已
又字書訓語本訓痛及以專元以盤可從此
古制字之不可解者謂古字以天義者多用如記訓元已
而以已順訓不正而以尸之屬但讀為以專乃是專者之文
也元傳寫譌出出言作使大傳伯姬何出非以從次專正文
不當于六書之法通不可解其所云皇元他葬可從一
語為如慶和笑而辛不求是解何哉
又如論討狼二字詁訓收會意則舉狼以為才以狠戾必
就字之偏傍以立義則狼之從各狐之從犬狂之以走從之
以區皆何所取歟依中才且見皆真如鵬鳳大鵬鯤元蛙字
何以從鳥以鹿以虫部解詁以就以狼以善狠以善狠而
從之者以義在狂中字從元有義
以義皆如犍以犢以牛犯以善狠而已則狼以就以狠而
以義在有取狡終義之義皆以義在狂中字從元有義
如元義皆如犍以犢以牛犯以善狠而已則狼以就以狠而不以善狠何不以

而今連矣
又如正戈為武在有明徵記在許氏數百年之前正六書會意
字庆祭必帥之而龍旺旺曲以義取之而書之失又以為古
武有作戊又作戚戊前張家執戈揚盾之義
可見矣杉家自有義
戚之以皆有習用干戈之義
人以伐戚之戚下當用鏚字則何不云戚以習聲
則自相矛盾不遂矣又云武之從止以戈以武之從戈以止
之以戡戚之以戚止之用戚皆寓干戈之義以戚有
戚伐之義用也獨不曰戚有強力之義以戚有
歌舞之義在有取象終義之義皆以義在狂中字從元有義
如元義皆如犍以犢以牛犯以善狠而已則狼以就以狠而不以善狠何不以

六藝作戔戔何不从二戔作戔戔機仞不从二戔作戔戔大抵前人于形聲為解每從省文立說此便于用筆者耳顧以儒先義理解字為從簡用心其與說文字碑相去幾何

岳珂程史載王荊公照寧中誤字說行之天下我宋興小學書多從之矣王介甫字說未見全書諸家所載如論淸氛如茨云云茨初生非草色故从炎不知茨字本作薋从次初生別於已長也即从次者从炎亦為義且与次章如墳俊矣玉氏亦不細心說文故多為世所譏

作之

宣行曰暄而廢食邪

唐兒璧珠仁和錢唐汪振綠

書名起于古人字畫繇于倉史庾信詩書品

則篇坑古則千載共朝制簡傳今則萬里對面

張芝紙胡肥鍾庾紙之左伯施門吾如新蔡公陶侃居如吳興小兒求書庾翼與小兒求書庾翼與

分行紙上類出蠶之蛾結書篇中似聞琴之節書品

拔其叢毫非無香軟視其筆岸背有剡珠全

崔子玉草賢張伯英草聖書斷云

秦皇重程趨隸書令奏事皆法之漢帝奇杜度卓書洛奏事皆

玉足之口勿取數行尺牘即表三種人身論書

承敬書年少打白紗絹書羊欣白紙論書表

祭邕碑而不白處之白而不碑碑云

平真孔草蘭行范篆 兼并書評

日書月書風書雲書蟲篆兩庾元威論書

李丞相見楊王書七日興歎患其無骨答為書觀共都碣十旬不返嗟其出肆衛夫人筆陣圖

智永筆塚懷素筆塚

張旭草書得之公孫劍器猶學草之飛白見匠人施堊帚也

臥王家子紙中生徐偃於筆下大有論

想抵抉石窗鐵劵象徐告起飛白出林情妃入草豈得也草以

得水鏡免走穴歐陽詢也

徐騎臣論畫法陸希聲撥鐙法

索靖銀鉤蠆尾金剪

秦昂曰上谷之翮未覩鳥跡雲壤之勢空傳厲本書評

春秋秋虬之評家維野鶩之論

鍾繇墓誌據草誌墓取余筆去温和蓮掘昭陵取逸少自東人

木二分飛帛六跡

伯英墨成池智永硯成仁

智永得右軍用智業得右軍骨

元常老骨子敬嘉肌陸居士書評

象家可識亦當復由事耳六文可工亦當復由習耳梁武帝答陶隱

許慎門徒后漢盛師樹恒子勇寧不勉哉庾元威論書

逸民方外縱在短中李約著贊

鍾繇曰用筆者天也知美者地也

周禮以維斯為并維禮記以相近為模衍庾元威論書

度制笑郎云不識古文鐘鼎笑義之便得俗字

參有芸角下主鮮章頌有四目加觀垂雲之狀也

文有三等以陽春亞以朝那告大以婁舟告起施書有二倉李斯作倉頡揚雄作訓纂賈魴作滂喜倉俱見漢書藝文志

史記曰蒼頡造書四足鬼哭龍蟄造佳南子曰蒼頡造書天雨粟

鬼夜哭

古文任工象門王倉俗曰工求不知誰書壁中墓中科斗流是

當有龍鳳始秦有讖起之

鄭刻山嶺碑刻日升宜王刻石鼓日月升宜王刻石鼓日月

鳴呼北延陵季子之墓九字孔子篆款

銘在汲郡

海島功勳法帖卜商碑在江州夏侯古文曰韓韶立春本在江州薛常用此夏字為

泰之嶧山銘規式排列漢之金人銘董卓分爲九石虎移其三
生城之銘收永之書
衆二李斯陽冰異代也二徐兄弟也
方劭古狂僧書法也神采工巧纂古法也
欽謂陽字是四入者識謂陽字是四出者
秦文姬白亞父卽鍾字八分取二分引篆字一分取一分
鍾元常八分象隸王逸少轉筆象鵠
江州有翻摹裝本又兵燹石石中有是小頭眩心
妙盡許昌之碑窮拉鄱下之牘
一帶宋拓卅堂藏本目
卷第七
觀歐無虞觀頌忘柳題无咎題跋
識山之銘竟未習發雲之壁無同拔子書
學班史而買王得羊
域拔一角猶虛半肢頌
首題五書大雅盡詩衛夫人賜丁敬大雅吟書
東西林題名魯公小廬山寺頌皆雜作也
顏麻姑壇記神運藏古拓皆有大小字兩本見跋
柳公權溈復東林寺碑歐陽率更虞山西林道場碑
一字齋蕭齋老梁智藏碑晉三藏碑

一帶宋拓卅堂藏本目
卷第七

黍法善本北海鄭中書碑多兒規模
衆口異實群目改望廣川書跋
無法得可學不絕前而合故信
字中有畫如碑家句中有眼長山跋
智永四十年不下樓寫書三十年供完不成
筆不辭素食事仕不及草書姑孰谷跋
古法不失尚規雖不取失真
今人論書于帳耕者極摹帖手得古人之法而得三昧自在
皆眼前之景而合萬里不盡之情明李錄
見此間而筆法雄閒雖險而運能神題石門跋
得多鉅唐多王而筆
以手效書種蠶子以東坡書擬平肉
張文潛一年不作草字杜伯公一生不作真字銘跋著
禪有奇成針術鍾紹京謂智永研成白刀詒右軍
城曰鄭道之學小敖言谷曰蝦蟇之神止一跳
北方字法學趙裏氣元章謂朋筆如蛇蚓樣
刻小又謂晞善我所學書之小臣公所學漢之篆賊耳刻字壁

魯公朱字學孟德

智永禹不字天八百本書皇甫東之五百本

漢人碑首稱神漢唐人碑首稱聖唐

鍾繇代人墓表第為以書法

海神借看永叔記汗青碑江神却獻當直卓書桌庭白詩

江神索浩翁字逢萊官效浩翁字

影書帖淡墨楊湯筆告身

黃山谷姓道王刊公書法蘇才翁極道范文正書法

柏家元和脚貴家元佑脚

楊少師敬當入聖李西臺法師參禪東軒筆錄

一帶雲堤卅堂載書日 卷九 六

風檣陣馬北牧之北李長吉詩稱手腕北人元章字

晏元獻以誌宋紀慕仿而參忠惠以不書溫成碑見紙

宋祁之謂高祖曰書雖小重如公小復留意李武令之業日書

不長進此是一條耳

陳仁北軍人於丹徒於都雲春大復鍾王遺頂多得如興王伯

宋唐師度使溫路發大字昭陵大殺鍾王業孫亞諸城山陰

則天造十九字魏太武造新字平齊

唐狀元盡在屋

士鄭元素

唐高宗幼戲草成勅字今絕後王百年學作數勅字

漢人碑首稱神漢唐人碑首稱聖唐

鍾繇代人墓表第為以書法

唐太宗書法過真以冥世南所補也宋仁宗只學唐絕得唐

御所造也

百碑未盡小雲書高層請歐易說書

吳女子門上高一門字王右軍子敬尾書二門字

頌書直行筆書右行筆書左行

理宗親書西山二字表事元之又親書西山二字賜鄭應龍

書詩獻足韓侂胄郭果媚宰君談

一帶雲堤卅堂載書日 卷九 六

高平到筆仍一章天碑記虎兒不書

晏元獻以誌宋紀慕仿而參忠惠以不書溫成碑見紙

宋祁之謂高祖曰書雖小重如公小復留意李武令之業日書

金迹無手作仿紙又字仕方人物大碑不銘功作號及

家碑蓋行楷製

朝知玄山銀鉤一般多承成群鵝行楷多白魚盈床

頌公書碑令家僮刻之北海書碑手自刻之

保素狂雅廣學刻意訪山居明白汪

唐太祖善書與高祖書相雜出人莫能辨也公實聖善書總入

宋高宗書入經入米易辨也

張公藝應詔進一忍字陳和叔遺未進以大得水口字石已
冷字去水為雖先武已赤伏也本字加水為冷加氵則也
猶大抵可以悟書伍伯扶可以畫時
沈融士年過八十大下細書二千卷僧智俊八十一學歐王
書體日吾習表生爭耳
文宣稱唐太子作人書曰且復分耳人能爾是異人自史稱
劉毅之日見鮮於手合發書來行跡父曰并剛直不可矣涉
宣城書文明太后令成宣王碑明發泰昌子及李仁人體取
王法正恨二王血臣法
漢章帝貴杜度叫的度叫書上事如人帝書劉廣通叫百令廣
百官上書表天子取為度峽或也天復圖書無單士取為性棄
通叫書上事
衰也
一卷字根非字義書
李北書深淘雖高作堰六字於開雖義勝書山高月小水冷
石出八字於黃時道程十日即北是
李挺之曰學書妨學道而筆法進文於可見把翻而筆長
唐太宗曰閻立雖百筆法進文於可見把翻而筆長
王梅溪筆記有罵陳止齋市口余性不解書
吳季札墓碑字李陽水學之及侯學作城字取系通簡之
註楚人字本嗣王敬用吉玉王子吳歇肝云擇其吉金

劍父解作鄧人問丞夫何以為之丞曰非天家所產下非河洛所吐申非聖人所造超賣非草書也
書空曰出法書斜書曰吐法書曰出通人
參已書法父於神人義之書法成天台天人
義之書成山老姥云用的十許人爭市去東坡書負後約人白
周史行扇二十許人爭去
不恨我不見古人恨古人不見我名言也張融門人恨臣無二
王法正恨二王血臣法
漢章帝貴杜度叫的度叫書上事如人帝書劉廣通叫百令廣
一卷字根非字義書
通叫書上書

逸少書門生非凡其入刻盡古筆十紙門生以十紙書種藝
義之自書表稱帝使張翼復後冬之當時不刻于紙上表多在
中書郎崔瑗稱蔡邕之相沿不缺
王丞相過江人便學書欲帶中王平南過江以素扇書四壁
一級未中
蔡邕感論衛夫帙中說武陵王的書于張中
顧愷之三絕其一畫起屋世南五絕五曰書翰
書有七石尺寸北海之埋書未刷許乃李衰山之跑

鐵鉤鎖柳誠懸法也金錯刀李邕法也
宋景文手抄文忠二過洪景盧手抄汲古過鑑三過
蘭澤傳書寫畢品讀真過王僧孺書寫畢品讀亦過
庾翼與逸少書曰昔行伯英卓過江上失廣文皇贊逸少曰伯
英臨池之妙無復書疏可見伯英之書
衛夫人筆陣圖長史之為也
羣仲將奏曰若用張芝筆左伯紙及臣墨外復可逼真小異書
曰子敬之紙研妙揮毫仲將之墨一兩如秦伯英之筆窮神
盡思

太宗初真卅書屏風以示羣臣宋初館閣書制勅文時於屏風
號屏風樣以示翰林官
鍾會荀公上章冥有知者張懷素跋高正臣書五代高不留
張延範唐賦也善書跋事更為或說者淳曰公所師者吳賦也
元次山中興頌科頌為臣書之欧阳修集古小科參唐諸書之
我敬宗州黃樓賦兄蔵刻之今於楚而中白樓賦手跡刻之
顏清臣千佛碑九江守磨去另刻於政和間唐平三柳公權所
進治碑太和严磨去另刻新製用必太恨之

劉胡氏買書名亭王晉卿買會名蓉卷米元章買晉名蓉
杜云能琉法書盧佰素善尺牘
玉臺則列聖推能庾亮則羣公挹巧書品云
僧虔拙筆自全猶鮑昭累句自悔之
虞永興褚河南二字得麻一千房材二字得羊十頭
晉武以千閣青紙明版華嚴寫勒古文以大泰圖審紙明杜
預以為大泰圖審紙明版華嚴寫勒古文
顧命太狄釋例
永公藝化有八字論開祕書一大書字而作二十六小書字之統
晉大康二年參理安釐王塚得竹簡一在汲縣一在襄陽
皇極三十二字傳于箕子卅書二十九字傳于周公
李斯之博雅以東秋色之知書文止戈為武文反正為乏字說之始也
謂鍛吮程邈脩飾森劃公權文已同今楷小篆仍李斯即泰詛
楚碑文已同小篆
雲氣時飄五色仙人課作雨童度為書品云
汉迎靈鏡之詩形頭雌陵之部象箱也書品古合
斬失觀川之言竟注雲鳴之字叢花書也

比類象形謂之文形聲相益謂之字著於竹帛謂之書
許氏說文立一於專畢終於亥
蒼頡石室記秦李斯識八字漢扶猻通識十二字
篆則統乎科斗玉筯亞蟲雜葉大小之屬也隸則統乎義獻雖
唐歐虞顏柳真草之變也
語
軍陳為陳始于急少形象為影本于程邈
春秋傳以左則為賊而反正為乏而定伐惡之謀以四海為盡而主養生之義
上比崖柱不足千方羅趙有餘
漢之諸儒以屬五易識哉
指自謂略須識字字音豈易
引保氏之六書指事象形諧聲會意假借轉注也鄉大夫之
多骨肉者筋書之肉微骨者豐
胡電霧結狀若斷而還連
張懷瓘曰雖讓禮樂獻不及義風神散逸義不及獻
徐吏部得右軍皮膚眼鼻所以似之顏太保得右軍筋骨心肺
所以不似誰耶

大字難於結密而無間小字難於寬綽而有餘東坡云
筆成深黑成池不及羲之加訣之筆意千常出鹿勉之不必强
生作索靖
黃山谷云右軍如大令之狂周
山谷云把字須要有肩足字須要有用又云不到不到度不到
肩乃為合作
坂詩云運筆如山未足珍書苑神山谷亦云右使胸
中有書數千卷則書不俗
小心布置大膽落筆姚
楷言
一卷雲麓神雪義書 卷第九 十四

真多用折折欲少駐然真以轉而後迴東多用轉轉欲不覺
第以折而後勁蔡白石云
臨書為失古人作畫如多得古人筆意蓋書畫
多失古人筆意
作度者書法之終也當
執之有力虛谷云腕欲其虛指欲其實虛實之說非難書
執之長短虛實使氣入指
折釵股欲其曲折用力
小欲其抱之止之疎密
雙鉤懸腕須在側右虛掌實指說實筆從此古人所傳重筆

之快迅如屋漏雨畫畫短促如錐畫沙如折釵股古人所論
筆成深黑成池不及羲之加訣之筆意千常出鹿勉之不必强
生作索靖
黃山谷云右軍如大令之狂周
山谷云把字須要有肩足字須要有用又云不到不到度不到
肩乃為合作
坂詩云運筆如山未足珍書苑神山谷亦云右使胸
中有書數千卷則書不俗
小心布置大膽落筆姚
楷言
一卷雲麓神雪義書 卷第九 十四

真多用折折欲少駐然真以轉而後迴東多用轉轉欲不覺
第以折而後勁蔡白石云
臨書為失古人作畫如多得古人筆意蓋書畫
多失古人筆意
作度者書法之終也當
執之有力虛谷云腕欲其虛指欲其實虛實之說非難書
執之長短虛實使氣入指
折釵股欲其曲折用力
小欲其抱之止之疎密
雙鉤懸腕須在側右虛掌實指說實筆從此古人所傳重筆

之快迅如屋漏雨畫畫短促如錐畫沙如折釵股古人所論
筆成深黑成池不及羲之加訣之筆意千常出鹿勉之不必强
生作索靖
黃山谷云右軍如大令之狂周
山谷云把字須要有肩足字須要有用又云不到不到度不到
肩乃為合作
坂詩云運筆如山未足珍書苑神山谷亦云右使胸
中有書數千卷則書不俗
小心布置大膽落筆姚
楷言
一卷雲麓神雪義書 卷第九 十四

真多用折折欲少駐然真以轉而後迴東多用轉轉欲不覺
第以折而後勁蔡白石云
臨書為失古人作畫如多得古人筆意蓋書畫
多失古人筆意
作度者書法之終也當
執之有力虛谷云腕欲其虛指欲其實虛實之說非難書
執之長短虛實使氣入指
折釵股欲其曲折用力
小欲其抱之止之疎密
雙鉤懸腕須在側右虛掌實指說實筆從此古人所傳重筆

虎千兔之翰聚無一毫之動窮萬毅之皮飲無半分之情
龍鸞龜動衆所共寶天日清明臣何敢會用盡人致
子雲曰言心聲也書心畫也相押字法謂之心印
入則重規疊矩出則奔蛇絕鼠山谷
右軍筆勢圓云弱紙強筆強紙弱筆可正危乎安矣安乎危矣
米元章云一日不書便覺思澀黃山谷云三日不讀書便覺語
言無味面目可憎
得趣字輒換羊肉詩曰和文孰喫羊肉是文亦可換羊肉也
山谷道士以一籠鵝換王逸少何道德經會稽上人以百鹿洞
乞吳道子畫菩薩壁
書不與力吳大帝書屏風誤筆成蠅楊修租布絹太祖書示以
筆成蠅
字用晉帝劉水牛盡雖堅帝亦可用
梁武曰王獻之書白而不飛庸少雲書飛而不白劉洽曰吳道
子畫有筆而無墨項容畫有墨而無筆
歐陽辛更兒索靖書宿三日而後去閻立本situ張僧繇宿十
日而後去
韋孝寬臺應召成子弥勿學書閻立本春苑池庭召成子
孫勿習書
張旭觀公孫大娘舞劍而草書入道

明字未正丁字不屈
不識一丁不識一个也不識紀字也

六藝之一錄續編卷十

錢塘倪燾 撰

續書譜

王慶書史 錢塘應鴻太鴻輯

宮闈

吳 大司馬車騎將軍平恩侯女也后聰慧善史書

孝成許皇后 漢書外戚傳

章帝竇皇后 伏氏平陵人大司馬融之曾孫也年六歲能書

親家嘗奇之 後漢書皇后紀

和帝陰皇后 光烈皇后之曾孫也后少聰慧善書藝 後漢書皇后紀

和熹鄧皇后 和熹鄧皇后諱綏太傅禹之孫也父訓護羌校尉六歲能史書十二通詩論語家人數曰諸生是時方國貢獻衆珍號之物自后即位悉禁絕或時但供紙墨而已 後漢書皇后紀

順烈梁皇后 沖帝大將軍商之女蒸獻皇后弟之孫也少善女工好史書常以列女圖畫置于左右以自監戒 後漢書皇后紀

物妖　楚王侍昔揚妖能
城郭諸國敬信之焉
王美人　趙國人也祖父范五官中郎將美人貌敏有才能書
會計仿學書
左姬　字小娥安帝生母也善史書喜詞賦和帝踐諸王宮人
因入清河第清河孝王傳
魏

文昭甄皇后　中山無極人明帝母漢太保甄邯後也父逸上
蔡令后年九歲喜書識數用諸兄筆硯見謂后曰汝當習女

工用書寫當作女博士耶后古賢女未有不覽前世
成敗以為己誡者不知書何由見之本傳

吳

吳王夫人　丞相達之妹善書畫巧妙典要能於相間以絲
綵織雲霞龍蛇之錦大則盈尺小則方寸宮中謂之機絕孫
權常歎超蜀未平軍旅煩興武庫人也后少聰慧美容儀善書計能誦詩及楚詞南史
權使寫九州五湖方岳之勢夫人曰丹青之色惡易敗不可久實要能刺繡作列國方界之上然以
五岳河海城邑行陣之形既成乃進於吳主時人謂之針絕

雜珠村木雞實梧桐鳳過此麗也

晉

武元楊皇后　泰始二年立后名艷字瓊芝弘農華陰人也少聰慧善書
女德王皇后　諱神愛琅邪臨沂人也父猷之尚新安思公主無子唯一女后立為安德皇后后亦善
猷之尚新安思公主無子唯一女后立為安德皇后后亦善

書斷

衛

衛鑠　汝陰人有文辭永和中與賦被實入宮宋明
帝時用以為宮中職位及武帝以為撰書博士教六宮書學以其

其年老多識時為鮮公西史部史
即吳氏傳

梁

武德郭皇后　梁徽高平人也后幼明慧善書諸史傳

陳

武宣章皇后　諱要兒吳興烏程人本姓何父章明為章氏所
養因改姓焉后少聰慧美容儀善書計能誦詩及楚詞南史
後主沈皇后　諱婺華吳興武康人也后性端靜聡明強記歩
儀經史工書翰

沈氏后德名楷婺華允光孫署獨善可嘉初晚晴陳雲傷日

殘霞注云今見署敕一紙實東王
後主皇后朱氏吳興人君理之女善書書史
書錄
文成文明皇后馮氏 長樂信都人也父朗秦雍二州刺史坐
事誅后遂入宮高宗踐祚立為皇后后性聰達警書計作勅
成歌三百餘章又作皇誥十八章 魏書后妃傳
宣武靈皇后胡氏 安定臨涇人司徒崇女也后始為尼世
宗初入請禁中諷左右稱后妄行世宗聞之召入後遂專冰
筆見為充華嬪肅宗踐阼尊為皇太后臨朝聽政性聰悟多
才藝略得佛經大義親覽萬機手筆決斷 魏書后妃傳

太穆竇皇后 京兆始平人隋定州總管神武公毅之女也善屬
書明了類高祖之書人不能辨工篇章好存規誡 隋書后妃傳
則天皇后武氏 諱曌并州文水人也上元元年高宗號天皇
皇后號天后天下謂之二聖弘道元年為皇太后臨朝稱制
天授元年后自稱皇帝改國號周改元二十八人編成一十一卷后
大聖皇帝 唐書本紀
唐則天順聖皇后武氏漢英斷脫去鉛華脂粉氣味豪
有累代祖父書迹保傳於家昆弟二十八人編成一十一卷后
初皇后時改制得四石果王公方慶即晉朝宰相孝十世孫
武后臨朝時依順天意內不相疑外不偏黨高時大周金
金注曰則天皇后帝國武氏主據女臨朝稱制大周金
輪聖神皇帝時改制得四石果王公方慶即晉朝宰相孝十世孫
有累代祖父書迹保傳於家昆弟二十八人編成一十一卷后
皇帝號天后天下謂之二聖弘道元年為皇太后臨朝稱制
則天皇后武氏 諱曌并州文水人也上元元年高宗號天皇
才藝略得佛經大義親覽萬機手筆決斷 魏書后妃傳
筆見為充華嬪肅宗踐阼尊為皇太后臨朝聽政性聰悟多
宣武靈皇后胡氏 安定臨涇人司徒崇女也后始為尼世
宗初入請禁中諷左右稱后妄行世宗聞之召入後遂專冰
成歌三百餘章又作皇誥十八章 魏書后妃傳
事誅后遂入宮高宗踐祚立為皇后后性聰達警書計作勅
文成文明皇后馮氏 長樂信都人也父朗秦雍二州刺史坐
後主皇后朱氏吳興人君理之女善書 書史會要
書錄

集序其載其事當別述
書帙

薦福寺天后帳白題額崇福寺武后題額 書代名
書記

周昇仙太子碑聖歷二年武后撰并行書 書名
錄

延載初周元旻鳳閣鸞臺平章事證聖元年中則天為七
字詩傷之又自縊焉時以為讖 舊書
元傳

上官昭容 名婉兒西臺侍郎
文本傳

天以來文章宗匠可數者四人位進拜昭容掌中詔令
舊書元宗令其藝取所御製時稱之晚增者賜焉後
王環親遮後主又自為書請筆

呂溫上官昭容書樓歌序云貞元十四年友人張仕炅於東
都買得研神記一卷有昭容到名書絕弘州牛

千福寺額上官昭容書 唐代名
畫記

臨川公主 太宗女 韋貴妃所生下嫁司農卿王福畤 舊唐
宗立孝德帝下詔褒美谷水徙封遂長公主思賢早興 書本傳

韋陽公主 太宗女 字明達幼穎悟兒字文德皇后加生主臨薨
自書下不能辨 舊唐書本傳

貴妃楊氏 宋張端義云真定大層寺有藏經其藏皆唐宮
人所書經毛題名皆楷可觀有金書藏心經一卷字體尤

蜀禁其復題公等女人楊氏為子
後唐

楊國夫人陳氏 襄陽人也善書 舊唐書列傳

吳生仲民 八分良家女也性警悟通書記計 舊唐書

後主昭惠周氏 小字娥皇大司徒宗女通書史善音律尤
工琵琶元宗令其藝取所御琵琶時稱之晚增者賜焉後
主環親遮後主又自為書請筆

出元宗所賜琵琶文宗嘗召玉環親遮後主又自為書請筆

蔡 助教南唐書

保儀黃氏 江夏人後主選為保儀書學伎能多出於天性後
主屬意令小司寇奇品秩不加第以女學士賢而已初二宗後
主如筆札文書有獻者必令書往往自佳句雖通首似之
鍾王墨蹟皆禁保儀所寫小楷書等畫往往自佳句雖通首似之
馬令南唐書

耿先生 軍大校歌詞女好書等畫往往自佳句雖通首似之
所能拘制也飛霄現世忽焉如其所由來為女道士自稱元
自在山人保大中國宋齊丘以入宮元宗愛之別號號曰先
生常被彩繡帔手如白水服時增壁自和大先生 部文
歌見先生
傳

李氏　李後主手書金字心經一卷賜其宮人喬氏喬氏後入
太宗禁中開國主薨自內庭出其經捨在相國寺西塔院
為且自書於後以故李氏開主宮人喬氏代還開主百日讀
捨昔時賜妾所書般若經一卷在相國寺西塔院代頒弘
勤尊前持一花而見佛云云其後江南僧持歸故國置之天
梅寺塔相輪中寺後失大相輪自火中墜而經不損若金陵
守王君玉所得君玉辛子孫不能保之以歸海國子僕家喬
氏所書在經後字極整潔而詞甚擾按所記止此餘集南
唐劉詰有喬氏宮人出家昔直新人也

曹皇后　仁宗曹皇后真定人極宮使武惠王彬之孫也性慈
儉重恢猶常於禁苑種花蓋習翻曲後等筆也人藏一美字
萬聖曹大后工花鳥筆蓋習翻曲後等筆也人藏一美字
徑二尺許筆勢飛動用慈壽宮寶　宋朝事實　卷
印　筆記

向皇后　神宗向皇后河內人宰相敏中曾孫哲宗立為皇
太后　宋史

向皇后工行草書　書史會要

安妃劉氏　安妃本酒保家女初事禁惠宮下罷出居宮者何

所記作楊戲誤矣宣和四年加貴妃封
才人進收妃政和四年加貴妃封
以技進因為九華安妃肖像于神霄帝君之左宣和三年薨
謚明節和文冊贈為貴　宋史　木傳

明節劉后一時寵遇傾六宮忽苦疾臨終戒左右云我
有遺恨在領巾上俾我衣此葬之以歸海國子僕家喬
右臂左上至哀物悲不自勝銷出上蛇頭細字其辭云妾出
身微賤而典主長一旦遭遇聖恩得執婦御之列位分實屬
至此天折班理皆於九原昭曉不離左右伏望陛下以宗廟
社稷之重天下生靈之衆大王帝姬之多不可以賤妾一人
也有巴公深動聖懷兄後當千計勝如妾者不少妾深欲忠
元而與君父訣到前良已盡不得少留宛屬之清言不能盡
仰後左右每於旨辭必提領出入民間皆謂李夫人不
凡是也林屋叢談后是九華安妃臨歿開本殿異香音樂久
年有青城道士見后於玉山仙境金釵細合云鈿
宋聖思皇后　高宗宣慈聖烈吳皇后開封人入宮王即位封和義郡夫
封吳王年十四高宗為康王被虜入宮王即位封和義郡夫
人后博習書史久為郡王由是寵遇日至尋進貴妃約與十

三年詔立為皇后高宗內稱太皇太后名所制殿曰慈福
宋史本傳
德壽殿稽古閣御書觀音經共八段元在碑石庫嘉定三年
置架於翠玉堂東偏中興館閣錄
翠玉共帖十卷第一卷有憲聖慈烈皇后翰書千文陪回賦
中興館閣錄
憲聖皇太后喜親翰墨尤愛蘭亭善作小楷一本全是玉牒
法傳內外故睦升之代劉珙造春帖子有云勾仗朝初立朝
賜羣臣御筆寫蘭亭蘭亭模
書史妙於翰墨帝晉書六經賜國子監於石精像印行今
書人不能辨書史會要
宋憲聖皇后書善藝圖自記二十四事使閱者
知所種至當第九
如欽置身田舍見一婦子勤動不遑之景也每段下題小字杜
且工緻至元中鄭氏老題云為顯仁皇后宇后習高皇宇高
皇手書九經每供則后書續之人未易辨今墨宋景濂云開
出於皆令楷寫乃藏石見以開之國之道上攜至宇憲聖慈烈皇
后逐段題之皇后姓吳郡高宗其書絕相類謂非顯仁皇后

會之亦善畫上用秦筆堂印書史會要
王子慶於景陵得李伯時畫神宗朝十志前有秦華堂大小印
句當收入劉娘子位者後有閻閻頌酒之裔一印此雖用劉
伯倫故入劉娘子位者後有閻閻頌酒之裔一印此雖用劉
伯倫事然于婦人恐不類耳
寧宗恭聖仁烈楊皇后 上饒人
封婉容進入宮寶元三年四月進
為貴妃與賞美人俱有寵嬖侈書史知古今性復機警帝竟立
柔順勤帝立會后為貴妃施步書史會要
之望子時即位加尊號壽明仁福慈寧皇太后宋
恭聖仁烈皇后楊氏武云會稽人楊次山史
后逐段題之皇后姓吳郡高宗其書絕相類謂非顯仁皇后

知古今書志類寧宗時見
會要
太清宮寧宗時建楊皇后書道德經石幢 武林
舊事
楊妹子 馬和中遠進御及妹書
有楊娃印章楊妹者學宋恭聖皇后妹其書類宋尤御府馬遠畫
文供奉內庭其筆性遠而見之
楊妹子乃宋寧宗恭聖皇后妹其書類宋尤御府馬遠畫
多命題永余曾見馬遠松院晚歸圖卷上有楊娃題其左方云閒
中一弄七絃琴此曲少知音多因爨桐聲在松
院靜竹樓深夜沉沉清風拂檻明月當軒誰會幽心詞寄訴
表情皮襲秀韓妍媚之能映帶綠細韵石畫
寧宗皇后妹時稱楊妹子書畫大抵筆細疎略相似二

子題馬遠楊柳竹枝二冊字畫差大
冊楊華題絕俊衣綠金垂鬢上黃山枝興南步韻云淨風
吹細雨香滿杜陵門
曾見馬和之四小景有楊妹子名款一絕云人道中秋明月
好我偏叫雪夢如何華亭洲裏秋堪上今夜青光處多石
柚葉各小池唐詞下卜楊再有行儉日錄陳與義病不如歸
去兩三聲杜宇數先生杜一鉢故應熟為是家傳註知我鼓與
紅曲時句珠宮舞罷仙雨注東坡月西清史人行畫野人行
為寧宗書畫楊妹子書用御書之印再印卷尾有士夫
家主鑑
題跋
英妹常領坡項路自愛裡然畫枝聲 小清史
題跋

唐宗時儀王氏　會昌朝夫人將儀王狄氏即位後為機之嗣恭書閣式克依
皆出其手　舊唐史后妃傳
前周大長公主　大宗女幼不好奢貞觀中即位封為鄭長公主下嫁駙馬都尉王敦禮　舊唐書列女傳
將軍王虎好讀書古文章善筆札　宋史本傳
越國夫人王氏　端獻王顥之妻作篆隸有古法　宋史本傳
魏國大長公主　英宗第二女神宗時封魏國公主下嫁左衛
華國夫人章氏　魏惠獻王恒妻特封韓魏兩國夫人　魏惠王傳
謝翱翠錄亭逸詩云仰而無以翻景而有題字問此何人
書姬姬有所紀云晉韓王妃學書於李懷琪宋到此山得
在空翠自注云亭有魏王妃題字前新王當以成德軍節
度使明故妃至其處

金

元妃李氏　章宗元妃生衛紹王大定末以監戶女子入宮是
時宮教張建教宮中即典與高名公皆從之學章宗尚建宮教
中女子雖可教者建功然中音聲清亮者最可教章宗以建

殿前指佛便甚精細今嚴吾杭雖今林斜中余題絕句四首

明

恭聖李太后　神宗生母也東安人神宗在位上尊號恭聖宣
文明肅皇太后崇書演謹行家四字以貽其父李公　名山藏神則記
故壽寧坤宗為恭聖皇太后建也實藏開位聖母御筆題　都城

雜覽

文華殿後殿前臨池十二字每行二字共分六行其文曰
四十二章三王治天下大經大法乃應天聖御筆住下但見龍翔

殿前結構及樓之妙以為御書而是非也　第居集編

貴妃葉銀泉山　稗史集

貴妃吳金昌初世音菩薩普門品經一卷在碧青紙上梵
本刻絲銘裝有題云大明萬歷甲辰年十二月吉日皇貴
妃葉謹發誠心手書金字觀世音菩薩普門品經一卷
恭祈今上聖主祈福萬年與共福永吉康泰安裕吉祥指去
秀製前指佛便甚精細今嚴吾杭雖今林斜中余題絕句四首

名媛

周

曹秋胡妻 雕毒著曹秋胡妻所作秋胡隨官走仕莊尊三年

無時閨政集為此書亦云戲筆書其體道律章盡織長旋統

盡曲有若蚓形 傳書錄十八 名曲有若蚓形 詩名

二十二藝書曹秋胡婦女所作亦以雕蟲篆刻 二十二書

漢

扶風馬夫人 安定皇甫規妻不知何氏女也初喪室家後

更娶之妻善屬文能筆書時為規答書記衆人恠其工 後漢書列女傳

扶風馬夫人大司農皇甫規之妻也有學工隸書夫人喜 後漢書

重卓聘之夫人不忘本秩之 見後漢書

安定皇甫規妻馬夫人行隸中中品 書斷 後漢書列女傳 書人論

文姬 蔡邕女也博學有才辨又妙於音律

興平中胡騎犯於郭外文姬逃難河上聞夫人家多積

筆荷能悟識之石文姬口授父賜書四千許卷今所流
載四百餘篇耳據曰今當使十吏就夫人寫之文姬曰男女
之別禮不親授乞給紙筆真艸惟命於是繕書送之文無遺
（後漢書列女傳）

蔡邕傳筆法於神人傳女文姬文姬傳之鍾繇古今筆法

我生之初尚無為我生之後漢作衰矣（晉書王羲之傳）

後漢胡笳引自書十八章極可觀不謂仙俊餘閒亦能

斯人身世耶山谷題跋

晉

衛夫人 晉中書郎李充母衛夫人善鍾法王羲少之即（此條）

衛夫人名鑠字茂漪廷尉展之女弟恒之從女汝陰大守李
矩之妻也隸書尤善碎玉壺之冰爛瑤臺之月
（張懷瓘書斷）

嫗姚芳樹擅芳清風有軍少習師之永和五年辛卯年十八
工草為中書郎亦工書（張懷瓘書斷）

鍾繇傳之衛夫人衛夫人傳之王羲之（此條筆
意不似）

庾肩吾書品列中之上

李嗣真書品云衛夫人正體尤絕

羲獻書人論上中品有李矩妻衛夫人正行

唐人書評衛夫人書如揮花舞女低昂美容又如美女登臺
仙娥弄玉如蓮映水碧沼浮霞書苑菁華
（衛夫人筆陣圖）

夫三端之妙莫先乎用筆六藝之典莫重乎銀鉤昔秦丞相
李斯見周禮玉書七日興歎書其無骨蔡尚書入鳴都捐碣
十旬不返況其云羣故知建於其源者少閣於其理者多近
代以來殊不師古尚緣情喜道統紀姓名或學不該聞見
又喜改使成功不就費耗精神自非通靈感物不可與筆斯
道也今用李斯作法更加羽色總七條并作其形容列事如
（王羲之題衛夫人筆陣圖後）

山娥弄玉如蓮映水碧沼浮霞書苑菁華

者聖無力無筋者為一從其消息而用之

一如十里陣雲橫千狀其勢有形

丶如高峰墜石磕磕狀貴如崩也

陡斷牛象

丨萬歲枯藤

丿勁弩筋節

右七條筆陣出入斬斫圓轉筆有七種有六種而執筆緩者有心緩而執筆急者若執筆近而不能緊者心與手不齊急後筆前者此若執筆遠而急意前筆後者勝又有六種用筆出入如飛白狀介特立如鶚頭磬折縱橫如古隸然小存妙曲每為一字各象其形造妙矣書道舉矣永和四年上虞縣

結構間備如篆法縱橫覺落如章草草山微可畏如八分勻勁

晉衛夫人筆陣圖

衛鑠字茂漪汝南太守李矩之妻也善書師宗鍾繇衛恒風骨備盡其法傳於王羲之羲之少時筆勢平正恒不稱意後改變體勢遒媚可詣晉尚書郎書耳仰求至鑒大不可言弟子氏衛

晉衛夫人筆陣圖

衛鑠字茂漪汝南太守李矩之妻也善書師宗鍾繇衛恒風骨備盡其法傳於王羲之羲之少時筆勢平正恒不稱意後改變體勢遒媚可詣晉尚書郎書耳仰求至鑒大不可言弟子氏衛

晉衛夫人筆陣圖

衛鑠字茂漪汝南太守李矩之妻也善書師宗鍾繇衛恒風骨備盡其法傳於王羲之羲之少時筆勢平正恒不稱意後改變體勢遒媚可詣晉尚書郎書耳仰求至鑒大不可言弟子氏衛

晉衛夫人筆陣圖

衛鑠字茂漪汝南太守李矩之妻也善書師宗鍾繇衛恒風骨備盡其法傳於王羲之羲之少時筆勢平正恒不稱意後改變體勢遒媚可詣晉尚書郎書耳仰求至鑒大不可言弟子氏衛

蔡夫人　羊衒之書續九品書人論上中品

桓夫人　唐人書評云桓夫人書如快馬入陣風仲隨人書物等

李意如　劉邠王獻之保母也姓李名意如廣漢人也在母家有志行歸王氏柔順勤恭爲文能草書解釋老旨趣實慧妙

宋

謝夫人　孔琳之妻謝氏亦善書　張懷瓘書斷

北魏

李夫人　高植妻李氏趙郡李徽伯女能且於書法工騎衆

北史高乾傳

李庶女　幼而聰令也教之書學讀論經傳及宮武閒其名召爲婕妤在宮嘗教帝妹書論授經史後宮咸師宗之　北史

北齊

魏夫人　葉續九品書人論下下品有北齊魏夫人正行

唐

劉泰妹　馬家劉氏臨劫遺作安西蕭庾信真蹟如宏妃傳形於巧書再見如在之古普注云新林書人劉泰妹歸馬氏

寶泉述書賦

劉泰妹善臨蘭亭及西安帖奪真亦唐新林書人法書苑

房璘妻高氏　太原府文城縣石壁寺鐵彌勒像頌并公美政碑俱參軍房璘妻高氏書石壁寺碑乃行書學林新編

豐也編纂書斷云房璘妻高氏嘗書石刻字書絜娟

太谷縣令安庭堅美政頌碑跋

開元二十八年安公美政頌房璘妻高氏書其筆畫遒麗不類婦人所書余所集錄亦已博矣而婦人之筆著於金石者高氏一人而已然余嘗與蔡君謨論書以謂書之廢莫盛於唐書之廢莫甚於今余之所錄如于頔高駢下至陳遊瑗等書皆有益指可數者其三四人非皆不能蓋忽不爲耳唐人書見於今而名不如於當時者如張旭正郎師命之類蓋又不可勝數也非今錢之則將遂泯然於後世矣余於集古不爲無益也

金石錄

夫婦古跋　撰人姓名缺房璘妻高氏書開元廿九年三月

太原府文城縣石壁寺鐵彌勒像頌碑跋

太原府文城縣石壁寺鐵彌勒像頌者林謂撰參軍房璘妻高氏書余所集錄古文自周秦而下許於顯德凡若干卷唐

房其十七八其名臣顯達下至山林幽隱之士所書莫不皆有可傳人之書惟此高氏一人而已其所書刻石存於今者惟此碑與安公美政頌耳二碑筆畫字體遒不相類殆非一人之書疑模刻不同亦不宜相遠如此又訪好事者寫名以

為奇也識者當為辨之（集古錄）

薛媛　永州刺史博陵崔簡女嫁為朗州員外司戶河東薛昊妻善筆札請書通古今（柳河東集）

林勢撰房璘妻高氏行書閒元二十六年六月（金石錄）

柳夫人　崔簡妻宗元伯姊善隸書為雅琴以自娛（柳河東集）

楊夫人　柳下州宗元室善翰墨（書史會要）

金鑾　白氏金鑾居易女十歲知書北山移文示家人居易又

終南案石刊之（書史會要）

陳燕子丁德宗時人獨卷比丘道行法華經改云鹿僧義首與女人

陳燕子丁共以小楷細書是經為萬巳母解脫清界默畫皮

擊若出一手（金華府志）

廣女貞　善楷書常為內中學士（李遠）

鄭敬妻李氏　鄭敬封敖門生婚李氏其父善為福建從事官至評事有女二人皆善書敬之所行卷多二女筆迹敬官至

秘書少監王泉子

閻伾　南楚人閻之妹甚聰慧文學書札固不動人閻常語同

僚曰某家有一進士但不識耳後閻以妹妻常修閻氏與修

薛媛　處兵部郎中薛苞妻楚材旅進嗜書二十餘年才學優博越絕流輩咸通十年登科（南楚新聞）

媛有奇之曰砍下丹青筆步拈寶鏡不動人閻常語同

勢凋殘兩眼猶將易整腸寫出難忍君渾忘卻時展畫圖看

夫婦遂偕老焉時人咸之曰當時婦無夫今日夫妻婦若不

薛媛　善書畫妙屬文（女紀事友議）

還丹青空居應獨守（女紀事詩話）

封絢　僕保晦妻針工孫也名絢字善文能文章草隸保晦歷

校書即黃巢入長安共匿韓陵里賊悅封色欲取之封罵曰

我公卿子守正而死吾生也終不辱逆賊手遂遇害（唐書本傳）

後唐

李夫人　西蜀名家後唐郭崇韜代蜀得之夫人以崇韜武弁

五代蜀

黃崇嘏　臨邛人周庠知邛州崇嘏上詩稱列貢進士年三十

許氏對詩敏復獻長歌庶益奇之名與諸生姓同遂善琴與
妙書畫冀日爲福府判司戶參軍俗史畏服著牧一方年美其
風采欲以女妻之業敬袖封狀謝仍貢詩曰幕府名容為担
腹頭天建愛作男子席賢詩駭名見詰問故黃使君女也
乞罷歸臨邛不如所終 玉溪編事

宋

朱嚴妻 王禹偁贈朱嚴詩云妻裝秋卷停燈坐自注云嚴妻
能書小畜集

安國夫人崔氏 崔嘏妻善書札體法基殊無婦人氣 宋史

一帶雪根州堂藏書

楊夫人 夏竦妻工筆札 宋史竦傳

權太君 大水郡太君權氏善草隸書通數經能略通其義 宋
武昌縣君郭氏 郭氏曾祖忽祖道式父昭胸貯明孝謹能讀
書史善書畫遠師於皇從係右盧門翁書世業封武昌縣
君 歐陽文忠公集

和國夫人 王氏宗室趙仲艷室能詩章善字畫 書史會要

章氏 友直女工篆書傳其家世友直納筆自高逸直客至地
如引絕而氏亦能如其父 書史會要

唐氏 能書梅堯臣而州韻唐氏書詩云唐氏能書十載聞誰

數行賜到紅牋百金買盡蒲葵扇不心更求王右軍
史玩 字文玉州刺史張開聘為家子祺之配祺亦有才倡和
成集名曰和鳴仕子州先軍職去古勁黃山谷與祺父有內
記而祺弟杜亦以進士名青神舟山谷祖東坡之父王致書
皆稱姻家以道山谷為之贊曰慈之可以為蔡姬嫁之衣亲以盥翁
則繫在蜀則綠頰我旨蓄史君炎玉盖相眉徐家中發山谷綠茹贊云按此贊末句言史君炎玉盖相眉
陽望族史氏女名玩字文玉髮如冬筍眉如遠山名翠來坊之炎王致書
子履之婦文玉日將心於編簡新書平生存覽之勝笑笑之下彼江一曲有茹生
高逸不仕許通酬唱移詞酬雅文而盖筆子自序次目曰和
物集而少卿之室於山谷老人為始筆子復貢其翁表也因
寫書致綠茶為信山谷珍其品以贈謝之復其為吉女校書
云紹興甲戌秋徐宏中跋式古堂書畫彙攷
慶國夫人邢氏余與天台謝傑景英為忘年之謝趙仙也為余
言外氏出自家法基悉今見邢氏趙夫人手書戒婦子一
紙往往與景英言合邢山書趙孟相事且國史主其故家與

刑要自令人起敬止齋集

謝夫人　諫文州要郡川女陳人居家鄰農以興家之事無不

通規合此則謂書觀古文書畫二事皆精

李清照　號易安居士禮部員外郎格非女知明州趙明誠室

易安居士能書能畫而又能詞而尤長于文筆点不學士每

讀金石錄序頓令

李易安一剪梅詞帖

紅藕香殘玉簟秋輕解羅裳獨上蘭舟雲中誰寄錦書來雁

字回時月滿樓花自飄一種相思兩處閑愁此情

一帶雲根卅卷藏書目　卷第十一　十一

無處可消除纔下眉頭却上心頭　右調一剪梅

跋李易安書一剪梅詞石易安詞葉一紙乃清閨閣故物也

筆勢清真可愛此詞載玉集中后載所謂離別曲者卷卷後

無題識僅有點定兩字耳書畫

跋

秦國焦夫人　周必大跋徐夫人所書金剛經果武懷

祖妣秦國焦夫人從祖父初任丹州司法時俾劉州以祖母

姚氏書夫人富大事公弼孫其石氏文乃宣使余棨及秦使

太師小字後批一管敕一行余紫年十四代寫前記祖母張

秦國遺稿久之吉稽小吏事上官極恭太守禮上夫書卿他

趙夫人　廣州鈐轄俞仲舉妻趙夫人所書詩句澤甚不凡

壁題四絶句廣州鈐轄俞仲舉妻趙夫人所書詩句澤甚不凡

行字畫徑四寸遒健類薛稷柳公權

俞仲舉廣州鈐轄題英州金山寺壁云時食脫粟後卜閒林

泉高步永容攀興衆尚有平生樓苔痕東到壺山仲舉妻趙

夫人親書此詩于壁字畫徑四寸遒健類薛稷柳公權

張夫人　蜀之故家英伯史綱之後通判宋若水之妻也性賢

孝讀書史善筆札通古今議論理而不背為詳章其方直之

一帶水寒井亭晨夕日　卷第一一　十三

之學士大夫或有慚焉

蔣夫人　建安郡夫人蔣氏晦先妹大夫黃榮妻而子則端明

殿學士中也建安建陽人幼通大義至定紹初

筆札之藝皆不待刻意而能觀過人

張穠　張俊有愛妾巧慧婉娩張穠也趙漢詩書俊文字穠皆

與之拓羣之役俊發書喔穠輒曉其指意而為之家事穠親管

裳事以堅其心且言今日之事惟在宣撫不管以家為念勉

四報國俊以其書緘奏上大喜親書獎諭以賜穠仍加封雍

國夫人　新義縣

高筆記

胡夫人　黃子由高書夫人胡氏與可先功尚書之女也後敏

強記經史諸書略能成誦善筆札時仿詩人未可觀於琴棋

行竹等藝尤精自製應齋居士時人比之李易安云

黃高書子由所書中閨乃胡給事普臣之女適宮臺行書亦

壁賦於壁間改之從後題小圖春一閨其詞山按樂徐勢卑

童賢胡神仙畫閨正午塘而過兒者路軟金蓮自折小小蓋

與修柳與許宣花蕊的吳藍縷條得句如經行處有蒼松夫

過不用修好肩泉怪石盤打信風景江佳名美殊想東坡時

能紙畫畫西山的好事卷　珠

文君載後車挑琴題者林尚書壁真卅行書後黃知為宣作

摩有錦即

宜此閣

陳述古女　陳述古浦女亦多有文有商李氏者從其夫仕晉

陵學士中曲屏雖四小簡相屬各秋風蓼半黃雲淡

永軍判官部使者以小雁屏求詩李婦自作黃魯直小楷題

其上紅蓼黃蘆歌曲水幾叨容與對西風倚每阻向江鄉去

部喜相逢一枕中曲屏雖四小簡相屬各秋風蓼半黃雲淡

南疏孤嶼遠泠泠清夢到高唐　李結詩意

部夫人　安人部氏通中字用之武經門林延齡之室家定海

世朱氏方娠夢丹書金篆在雷英間生而敏慧未嘗知書稍

長卿漢書貢石甬鐘至成誦賜于杯姑蔑君公愛子作卷其
書典雅新色姑庾經年嚼穗至人稱其孝延齡仕不進
一閨十二年卻妾之鵬咏琴文以相娛書繪內典手書法華
圓覺金剛等經 實慶四明
年縣志

方氏 桐廬人陳牌經略子婦賜蓄亭并自作草書留可觀 畫徵

李夫人 名玉姐號淡軒宋狀元黃朴之女尚書李杞子
善撫琴畫蘭為郡中孫榮育作九畹圖自序其後曰予家雙

井公以蘭比君子父東野翁甚愛之予亦愛之每女紅之暇
輒寫其真脚以備閨房之玩初作以此求閨于人也 王惲秋
澗集

丁夫人 共受善夫人賢而有文字畫助鬼 張綱華陽
先人集

朱淑真 海寧人文公姓女也文章幽艷才色清麗嘗閉門之
室有回匹配作句勿遂素志嘗賦紙鳶詩十首以自解 外
史

辛亥冬于京師見宋朱女前以真手書塔碑一卷字法妍
媚有似云若蘭名慧姓孫氏陳留令道貴孝女也年十六歸
於朱氏淑真書首有孫瑋序稱淑真為女前將軍以若前才色之美
抗風塵當游宇建庆任行秦為女前將軍以若前才色之美
甚敬愛之為有能姐前陽臺善歌舞若蘭苦加拯禁由是陽
臺積忿遂交至淑大率憤時詬詈自寧襄陽若蘭不勝忿
行舍挈陽臺之任若蘭悔恨自縊同織就字而文五色相宜

登心敬日名四壁機前直古
詩威其妙把送陽臺下關中且與從迂若蘭手筆南巡
好尚初其芳字文五千餘首世久湮沒獨見閨婦序唐則天
當宇圖前今已當魚笑雖矣初家君宦遊浙西好拾清玩凡
可人意者貲重購不惜也一日家君晏郡倅衙偶手壁間見
是圖像其位得師書予于其坐旨字也悟緒跋之理詩
經求之大果有鳴岐瑤琴考天盤之經經考星辰所行之
道也中留一照者天心也極星不動益運轉不離一度之中
所謂居其所而眾拱之處中方太微垣也乃置字四言詩
其二方素微垣也乃四言回文二方之外四正乃五言回文
四維乃四言回文二方之外四正乃五言回文首四言詩其文則不
回也四維乃三言四文三言四文三言四文三言四文二言四文
詩可周之而讀者也始定三年季二月望後三日錢塘幽棲
居士朱氏淑真書首有孫瑋序稱淑真才色雙絕幻小象後有小朱印予幼
見衛腸集不載斯文明北
朱修女 尚書朱修女烈人也歿取行狀質工舉書主南和裴愈
奉使兩折閒其事裴之召至京師入宮被賜號曰道花
夫人後出俗刻仙書集乃統一部改題為廣慧大師世稱
州府

吳氏二一娘　樓鑰云令王篇性超本最善末題云會稽吳氏二一娘寫閒之趙人世有知者楷法最精

王排岸女孫　盧陵王排岸之女孫眉目秀慧能翠墓書

失其家世對下不樂墓名勝而終焉卿有朱門未第集

寒窗家事不治經營一妾頗難其人劉超云王排岸女孫歸久試州官人謀之朱笑曰恐無此理行成以八百券為貧一至其家內外之事皆若素定

元

管夫人　趙文敏公室　管夫人道昇字仲姬延祐四年封魏國夫人翰墨詞章不學而能信佛法手書金剛經至數十卷以施名山名僧天子命夫人書千字文勅王工嘉玉軸送秘書監裝池收藏又命孟頫書六體書六卷雖亦書一家且口令後世知我朝有善書婦人且一字不能書亦奇事也

管夫人題漁父詞　集趙山堂數樹梅凌寒王萃發南枝山月映疏影只為清香苦欲歸　南望吳興路四千餘時間去雪溪是名與利行之天咲把漁竿上畫船　身在畫山近

帝后歸心日夜懸東兵對美酒掛新氈除陸清閑抱不如人生貴在是王侯爭利爭名不自由爭似一扁舟弄月吟風處去休　右漁父詞　仲姬書

吳興管夫人不學詩而能詩不學畫而能畫得於天者然也

此文詞皆利物以歸之意無金蒙苟進之心其與老妻強句已雙鬢未全班何苦行吟澤畔不近長安者異矣皇慶二年十二月十八日子昂書　清河書畫舫

書畫人士第條相與在京師閒　管仲姬與中峰帖

道昇和南拜慶女師中峰和尚大悼師法塵前道昇拜別頂相勤是數數聽仰之心日積不忘七年時得以中首塵寒都如二師之等頓備答有體膏安甚善老所喜昇手書般若經報父母深恩及救厲亡兒女數事也　大書卷

若先父母深恩及救厲亡兒女數事也　大書卷

趙文敏公　趙孟頫書六卷雖亦書一家且口令後世知我朝有善書婦人且一字不能書亦奇事也　大書卷

管夫人書膳行婚與歌頌　管夫人為趙山堂書及銀鼎經譜法語寄來至

容堂集

管夫人題漁父詞　集趙山堂數樹梅凌寒王萃發南枝山月映疏影只為清香苦欲歸　南望吳興路四千餘時間去雪溪是名與利行之天咲把漁竿上畫船　身在畫山近

昇幣茲聽書知前年吾師和尚惠書及銀鼎經譜法語寄來至今並未曾收得不審當時何人送去聞知快活道昇一面作書并發開閱舍姪去之去歲以來般若經五卷又蒙本

師其非異語如化又各得期滿存沒重感我師其川留景慧
重每日人事擾攘不能安靜長想我師慈悲指教益思訪頭
但提起終得受用直界與良人誠心至願但得到家只就家
直修設拜照本師大和尚大發慈悲普度一切眾生同登
主成一切無主成就一切眾生同登
女外祖妣如婢及一切法界
生佛界四子女人與道界心願已託以中先生屢如所久大
和尚今春得回又拜各師慧書又心與道界等拜謝如心如
願良人見之生歡喜心加增感激我師如此大發慈悲度脫
一切衆生是道界等七世父師之恩何以報謝深望今回的

便將理此書報母之善保愛不宣六月初七日女弟子等
氏道昇和南拜復 氏古堂書
重發
人右道承白千請十一紙提用夫人 納受天日幻住
公者可許安慰夫人 俟後與住商許收的事庶晨時
上千老矣安詳閒讀之 何以為其憂也夫人以書
誠九為超切本之徒專通作一卷今歸黃公祖東書
院藏之閒出以相示本謂三士皆從善薩地來所謂應以

北丘李官仁公勿行度者即現身而為說法如此今皆還淨
七天學士大夫不能曉然於此在之時而令勤修於定
去之日相對一字拳移日不能以其難量之妙如之也
三門祖先世代
超觀公書牧為天下古時 穀翁生夫人直隨為世宰有
此者之可者考正化五年或留於泉支十月在家支君青住堂
而不當語夢為實也弘白 吳支
書前進士 吳郡楊循吉 同
上同

子弟書中能象當與之同世者皆為作成名家死而
眉間房室不傳受筆訣與之俱化即歸魏國夫人尺一題
董其昌
上
管大人家書
公山管仲姓字一區平安 公書付 一哥
一哥吾之此日福山寺住來行五月十日知女安好及
此間平善為得其可收者盟寺呈先是借銀一百
定如得入手可與四五哥大一哥吾園苗地式已分付五哥了

此地若引竹竹竹竹竹了竹竹竹竹竹

劉氏　孟運判妻也性巧慧能臨古人字出出逼真 會要 史

柯氏　天台人九思之女通經史善筆札 書史會要

段氏　天柘之女能詩亦善筆札 書史會要

士女曹妙清　自號雪齋錢塘人善鼓琴工詩行書點墨皆有法度三十不嫁風操可尚嘗寫詩寄錢塘崖鐵崖答之云紅牙管帶紫狸毫雪水初融玉帶袍寫得薛濤箋幾幅西湖紙價高 列朝詩集

可能高玉帶袍其硯名

陳氏幼　能書適南澗姚氏一章奉佛有手書翻世音普門品 列朝詩集

趙榮祿題其後六研齋筆記

一帶飛花舞碧灣 三四

明

高妙堂　字叔筠解縉母也通經史傳記善小楷晦音作算數 列朝詩集

女工極其敏妙 名山藏

蔡氏　隱士韓奕妻也諳書通大義善筆札 張采人物志

徐氏　南出吳之太平山師水東 隆興記書通大義知楷法于 震澤集

錄入翰林封孺人

馬氏　名閏卿字益居全陵人陳翰林書刻之綠窗女史書法蘇長公得其筆意酬與魯南相類 列朝詩集

黃氏　逐寧蒸簡肅公珂之女新都楊修用之繼室也總慧博通經史工筆札閨門肅穆用修亦嚴憚之寄用修長句為藝林傳誦而用修亦云易求海上雙枝樹難得閨中錦字書讀者傷之 列朝詩集

金元寶妻　萬歷時人元寶為優吉上足故書去亦用之錦麗多能而閨閣之氣未除 王世貞 吳指法雜

楊夫人　邢子愿妻盧德水云子愿九嫂乃楊船石女弟書法自成一家傳學於文待詔於慈靜 列朝詩集

那蘇慈靜貴州左布政馬拯妻少卿刑侗妹也書宗孝穆 武定州志

一帶飛花舞碧灣 三五

慈靜善仿晁書 列朝詩集

那夫人慈靜自述詩帖　行書烏絲闌舊本

僕自閨房處女子閨君博雲通古史時君簿海岳游多光陰度日如鉢指萬里路方道路長如林密征馬動催拏似電何以君病抱沉痾與君報國酬英主日為三萬九我聚君家喚血解思携手君所言君家何處住煙霞白雲來庭空舒卷獨伴遠紀之故鄉修金萬里多炎涼昔去雲擁馳馬車今日孤舟生夕陽子母哀啼次暗流幾書欲寫江魚腹恨昔白頭人去時

依稀點首將予賜數字劃多名未成春先不駐東風小巷
日日拜宝王百鳥啼靡驚夢裏學來猶是呉千行思君不見
空斷腸君家功若小丘山誰與夫君奉廟廟平生功業皆塵
沒儂身何自見君王恨殺烏紗能悞人始知名利如羅網春
去秋來愁又結生看衰草心懷熱杜宇啼我心中悲我啼杜
宇枝頭血慈韓自述式古堂書畫彙攷
黄氏 編修道景妻也少工楷書通書畫晚大義初學集
姚氏 號青城居士秀州人姚宏端女歸范君和日讀漢魏以
來諸集暮書諸家書法時時多散佚不盡傳王鳴盛蛾術
徐夫人 徐媛字小淑副使范允臨之室也多讀書好吟咏與

寒山陸子卿唱和稱吳門二大家利用集
近代名閨以書表著者吳中為首夫人係小淑姪大家陸卿
子清潭為柯孝廉配張微卿寓勾干有女弟子實潭月夜
與余清瑤君校分所遺詩札期慕舞雪種鵑寄嫁之
張玫卿詩札墨蹟
綺窓作聴梅花弄至今暗香猶襲人
新詩付遠婢子叩幽暗氏二姪一絶附正 雲鬟月面兩
相宜壽作秋波兩脈我見猶憐而況君若江妃漢女莫猜疑
外曲中衙寄楊三秀作容保呈一品夫人之屬社女弟張玫卿
雲淳 王微卿女弟子清瑤君贈詩云妙擅學歌行波皴鐵
作穫閒青田小龍耕時烟蔽宮桂花秋露濕星剛王孫悲

畫銀鉤小字樣同妹正臨池處　端石妹先題葉素輕明

雲壽王夜詩札墨蹟

華容婦於一字褒儂家姊妹出蓮葩無分別但形史法所

庵名動緑鬟　唐陵雲清煙裊

花飛處有儂石成動春風欲轉管判月聯實吟秀句幽閨

一倍使人清　過楚玉夜織傳

葉小鸞　字瓊章一字瑤期水部葉仲韶孝女四歲能誦楚詞

工詩多佳句能模山水寫落花飛蝶皆有韻致日臨子敬洛

神賦或藏真帖一過靜坐疎古劇董燈花與琴書為伴而

已年十七字蕊山張氏未行

表氏　名九枝字若娥通州人錢良臬之妻四川左布政表

之女也少詩經史尤深內典故文清麗書法一筆玉筯一

年年修十八有伽音集

池仙姬　眸黃復素年十八字

葉紉蘭　字昭齋三歲能朗誦長恨歌十三能詩書法逼勁有

晉風歸趙田表氏列朝詩集

蔡夫人　孝少司馬摩蒼說黃石齋先生閩死蔡夫人今年方

九十尚無恙能詩書法學石齋遺次不能離尤精繪事嘗作

瑞花圖卷其女太夫人居云　居疑君

蔡夫人黃石齋之配也花卉一卷共十幀今藏友人趙谷林

小山堂每幀俱有題句其山茶云爭風愛雨過注鮮明千葉

秋云不言成墜緑色婚芍藥云折花時行賞然消魂諸篇

第荷牡丹云蘭湘宰宓小竹風之翠栗云對此果實可以

療妒芍藥云春風云歇馬化堂勿之谷閒鐵線蓮云小草纖

莖自立全將桃品字蘭云浙江武陵或產他鄉秋海棠

大竹葉云君子從閒中腸斷月孝長春云兩枝並芳四時

容春此幅上題云石道人命石閒摹代寫雜花十種時崇禎

丙子小印二四石刻玉鉤朝珠玉太宰吸云

朝珠玉太宰吸云石齋先生被難以前蔡夫人致書詢到此

地位只有致命遂志一為更無牽人語數百言曰于王矣

和之生祭則剛中成業也後裔立節死者復生生者不媿

兒當斯語矣寫生得五代人遺法一花一葉俱帶生動所謂

為君坡筆賦梅花不害廣平心鐵者耶珠江鄭干仞

蔡夫人大節在殊工部太宰政語中今讀夫人自題句云不

當白字兩綠名媚以姓品也對此來裘可以海風以安貧也

小草纖莖自立以勵節也君子于役閨中腸斷以古情

也跋馬公堂帖之後陽以教孝也蜀相軍谷小草山之以勸忠也言簡意長得古君子箴銘之體焉而之生動解妍後關性惲正叔可以希風此又第二義云壬子夏月　沈伯潛題

於雲岩靈岩山居

光好閣　字明親秀水人司諫黃承昊妻也幼攻書史雅善昭法葉以孝行聞著效顰集女史

馬瑞人　翰林陳石亭繼室陳朱氏知馬賢而有文延娶之年八十不廢吟咏書法得蘇長公筆意有並君稱君稱

二方夫人　漢上蘭寫韶大茹公夫人婉娩張計部　人夫人

皆姓方皆能圖寫諸佛像又好以尺金結乃語經佛菩薩供養

明之張詩說附事

徐範　吾未有十三齡女童能筆諸家體書字自法為沈伯姬風華所書古詩十九首入石徐媛收有云筆彩生芳墨香含素歐摯更先拜下風衛夫人終當北面並自謙每草楷使作

康轉徙全沙留常雲門其所紀述多流離患戚之辭而温柔敦厚發而不怒哀而足觀其性情見於筆墨間且可以改事變此閨閣而有林下風者也　紅雨樓詩史

王元常云未申女子黃媛介字皆令自詩名數十年近為予画一小幅自題云幽谷高樹空青山愧我年來學閉關摩墨遠傳紗帶心孤筆只在有無間

黃媛介字皆令嘉興人楊世功之配善詩詞楷書葊黃庭經

十三行画山水小景有元人筆致長安里秀多師事之 晴圃藏
黃皆令女　黃皆令幼女不知名吉水遠山夫人朱中楣壬猶
記閨坐湖樓皆令携幼女過訪故有寢園叢能以咏詩寫悵
楚之可人今依然夢想間并載小詩依之張心耕羅洪二妙
瓠靈多記謝蠅頭妙指通鉅王夢田猶記殷勤引數於箋詩
柳眉管語朱詞黃鳥雲應拂春山小紅茶初含夜雨香寫水
燕子忙　隨州續編

姜氏叔齋　膠州宋方伯子婦姜氏字仪齋庶子內史善端
十七帖筆力矯健不類女子　通小儒成

一帶雲根卅重義書　卷第十一　三三

沈無非　嘉興人項門鉄之要與鉄云先室沈無非氏酷情筆
硯翰夕讀書不倦九章臨池絕肖楊子南九成云有手書所
撰朝鮮詩士女集小序一首先為其兄虎景倩臨摹上木今
記之以為兒輩存手澤云是編內有國士女詩景與詩若文
考色過人出：無脂和氣普稱絳仙可與佩女並其儔伍耶

閒剌劬古人如水屋珠璣二語似肖景處故不害為画師
後身世母曰龜蓀王所謂融也而易之無非氏題於窓實之

吳貞闇　字首良通判村金氏書未適劬尤精琴理妹靜閨字
采蘋詩村日記

佩典適汝南周氏幼篆黃庭得其筆意　華樓集
郭珍　字春女其州人適陳門頗氏而鄉
書法大小俱有古致　華樓集

張在貞　字蕙娩天如先生女也通經史工琴書與妹文琳倡
和有月空合卅

一帶雲根卅重義書　卷第十一　三三

錢塘 倪濤 撰

續書譜

王臺書史　錢塘倪濤太沖輯

姬侍

六朝

姜妓　姑臧太守張重艾之妾也善代寫書札 並傳姬侍

宋

王朝雲　錄東坡侍妾　朝雲始不識字聰悟學書能有楷法從而上比

江尼義冲學佛亦略聞大義善書

朝雲字子霞錢塘人藉子瞻宦錢塘納為侍妾初不識

字既事之聽讀學書錄有楷法 書史 元紀

梁氏　共白新作人字畫婉媚 書史會要

梁旭工墨竹每自題其後曰翠翹戴筆手畫蛾眉氣清

修事 備考

日田　錢塘　幸氏女二妾也同其姓而名之字善筆札常代

摹蒼尺牘書史會要

章真　劉元世侍兒姓州名石方住烏山之上有岳武穆飛與

術王敬劉大翁先世題名翁不能書公侍之實代書甚充

章摺詩云諸老凋零庭可哀尚留名姓壓崔嵬劉仍可是陳

文里錢塘縣脏屏花竹林 王臺

丽娘　京師中之户每有女則愛慕之稍長則隨其姿質教

以藝業用備士大夫採擇娛侍名曰不一就中丽娘最為下

色然非相慕意亦不可用書閣時官東中有婺人某者奮身實

妻座一俾一宵枕席間不改儒服俾奉灯居里便室大

足使令飲饌且大親幸守令皆留事宴侍之實代書札 並傳

姬侍

京師妓女多以善書聞者如京謂作承受人書訖以物色貴衣

眉掠末裁承受人復書曰得之矣其人年可二十餘有容藝

既以四物接取庶成體面辭甚委曲殆非庸碌女子可及守

一見為之啓顏及入門容止侑雅紅裙綠裳參視左右乃退

申狀案乃其親筆也字畫姐媚歷叙愛幸即日伏事左右未

已以四物接取庶成體面辭甚委曲殆非庸碌女子可及守

一見為之啓顏及入門容止侑雅紅裙綠裳參視左右乃退

守益善過望 明名 畫錄

明

何玉仙　號白雲道人史應翁之妾能篆書 列朝詩集

張家婢　張天駿家有廝養婢善書翰者嘗卜楊貴 管城碩記 又續

柳如是　是字如是一字藤華本吳江名妓徐佛弟子姓楊名
愛柳具詩姓也幸妓麗朝若驚鳴性猥黠喊詩輒工九大
兵體七言作書得虞褚法年二十餘睇虞山錢宗伯而河東
君之名始著　紐汾
臧晉

國朝

韓郎中姬　韓郎中聖秋姬人葉氏好蓄晉唐法帖獨廢雖
書韓詰所以對曰李漢正統閒侯也義而乐以賊帥任博甚
矣書雖工抑何足取韓有詩記其事云誰知太傅千年後敗
閨端從残路聞　居易
候

一本云葉小紈　戊寅
高密單氏妾　學石筆精書似黃庭遺教二經之
一一

女仙

晉

南嶽魏夫人　諱華存字賢安任城人元君仙上真司命
魏夫人左僕射郤之女太保公掾南陽劉幼彥之室也一袂輒
璞之妹天才卓異少讀莊老及春秋二傳五經百家後脩真
得道夫人善書　書史會要

豫章女丞　太元中有神降之能空中與人言且善書　書史會要

唐

吳彩鸞　女仙吳彩鸞自言西山吳真君之女大和中進士文
蕭家爲鍾陵判官風仙中秋夜婦人相將踏歌婁妃月影中
盛為盛也蕭生攜馬而彩鸞在歌場中作調弄語以戲蕭
心也之伺歌罷踵踵其後至西山中忽有青衣牧松明以燭
路者彩鸞見蕭遂留住復歷山椒有宅在焉至其處坐帶未
脫而彩鸞為據案如府司治事所判皆江湖弱死人數萬他日
詢之彩鸞初不答問至再四乃語之我仙子也所領水府事
言未竟忽聞雞鳴晨霧四合彩鸞為拂手板伏地作聽罪狀
如聞訶責以女世機宜事毋為民妻一如彩鸞立謝訖蕭
一卷　葉小紈
四與女自有良契今宮住人世矣畫拙於為生彩鸞為小
楷書唐韻一部凡五千餘字計缺不出一日閒能之十
數萬字人力可為也錢復還後一日書之且所市不過
前日之數由是彩鸞唐韻世多傳之歷十年蘭與彩鸞遂各
棄一虎仙去唐韻字畫雖小而實緯有餘全不類世人筆當
於仙品中別有一種風氣今御府所藏正書一十有三唐韻
平聲上唐韻平聲下唐韻上聲唐韻去聲唐韻入聲唐韻上
下二卷韻六百五十五　書譜
純陵西山有游姓翁每至中秋車馬喧闐十里若閩閩豪傑

多名姝善誦者夜與大夫間立擡肩連踏而唱惟對答數
遍者勝太和末有書生文簫住觀觀一妹甚妙其詞曰若能
相伴陟仙壇應得丈夫兼好彩高自有繡裙并甲帳瓊漿不怕
寒誰能將盡陟山和石窟陟妹曰莫是文簫郎文簫即
相引至絕頂坦然之地後忽風雨裂帳霞機俄有仙童持天
判以吳綾數尺私欲淺天機簡為民妻一紀妹乃與生下山
歸鍾陵為夫婦(出纂異記)

仙女吳彩鸞書孫愐唐韻凡三十七葉此唐人所謂糸字者
也按彩鸞隱居在鍾陵西山下所書唐韻民間多有余所見
共六本凡一本二十九葉彩鸞書其八葉後人補寫韻止四
不知入之(出黃山谷集)

裴鉶傳奇載成都古仙人吳彩鸞書小字會書唐韻篇之
今蜀中學士史祥院經藏中佛木行經六十卷乃彩鸞所書
亦異物也(出邵氏聞見錄莊漫錄)

共龍久朋寫韻亭詩云紫極宮下春江橈紫杜當中百尺亭
水入方洲　玉局雲映遠山羅翠屏小楷回聲餘翰墨主人
一粒盡仙靈文簫彩鸞不復返至今神界莫冥冥(出本事詩)

按倫敦字文甫注所藏玉篇鈔云始子詩文蕭傳言吳彩鸞
書唐韻字疑其不然後予注事路尚書家見之雖不敢必其
一日可辨然亦奇矣考之賦詩且辨其為楚辭言切韻蓋見
柚岩宇文公所藏玉篇鈔曰又遇之是尤可寶也世謂之鈔
筋以為如此筆書鈔之類蓋節文耳以今王篇驗之果然不
知有此鈔爲書之誤抑彩鸞以意去取之耶有可用之字
略之有不用之字而反取之部居如今本皆以今字別之
如三字五字止以糸字書之文序皆不與今合皆不可致詰
徵前載所與注氏詩攷手左庵集者得以曾攻媿集

字文甫玉文孫家有吳彩鸞王篇韻今世所見者唐韻耳其
書一先為二十二先二
先一先廿四仙不可混又真上出祥寺有彩鸞書
佛木行經六十葉或考以為寫經(出郘亭生書雜記)

郘亭伯幾有吳彩鸞書切韻一本其書一先為二十二先二
十四仙不可混字書尤古(出惟恕堂雜抄)

說鈴極富的韻軒世傳吳彩鸞書切韻於此軒以之得名予
昔在閩書之所及好事之家有其所寫唐韻皆硬黃書之紙
素芳潔界畫精整結字遒勁皆人間之奇玩也(出國史古錄)

唐寫韻兵彩鸞唐韻真跡後歐章城硯寫韻軒經筆窠地月

娟工專常郡吹霜如月書到人間第幾篇 道園學古錄

元曲玉題寫韻軒調柱枝青紫薇花露滿西作涼雲映高句

羽字飛仙下筆一萬風雨江亭月觀令如許歎飄零重香

千古夕陽芳艸客花沈水依然南清甚西樓珍珠簾

孫樗犹月娥眉鈿一笑生春那學世間兒女筆狀砌滴皆窗

處有西山青眼如故素姿奇與玉簫聲微吹鳴鳳舞用林書院

羊高與文蕭遇在文宗大和末而法苑珠林 則寫於天

寶年間豈神仙陰騭原非時代之可限歟陳弘緒

吳彩鸞龍鍾楷韻後柳誠懸題云吳彩鸞世傳編仙也一夕

一卷雲笈七籤序 秦氏三十二 上

書唐韻一部即鬻于市人不則其意秘閣此跋字見其書數

載勤求方獲此本觀其神全氣古筆力遒勁出于自然非古

今學人所及也時性大和九年九月十五日題末刻共五十

四葉縫次相接皆留紙縫天寶八年敕 內子筋

項氏寶藏吳彩鸞正書唐韻全部原作詳于伯機故物後為 夏元

陸太宰全卿所購名跡也跋字細惟若蛇驚而位置實神有

餘全不類世人行筆當于仙品中求之乃得 清平調

謝自牧 華陽女真也幼而入道篤筆札能屬文 續仙傳

盧眉娘 永貞元年南海貢奇女盧眉娘年十四幼而聰悟工

巧無比能於一人約上編法華經七卷字之大小不逾粟粒

而點畫分明細於毛髮其品題章句無有遺闕至元和中憲

宗以金環環東其腕眉娘不勝任禁中遂度以黃冠放歸南

海蛇驛口竟莫知後神遷香氣滿室弟子將葬棺覺輕卻撤

其蓋惟巾履在而已後人往往見眉娘於羅浮山 杜陽雜編

女子劉氏八年可二十餘髮鬆鬟衣左右莫侍頗謂侍者曰 卽君書籍中取一幅紙兼筆硯來

乃作贈詩一首筆札秀麗後三日來又贈二篇良久出門閃

一卷雲笈七籤序 秦氏三十二 下

卽上空中去地百餘丈矣觀此則知仙人見於人生以三篇示於人皆

知其神仙矣 神仙感遇傳

曹文姬 本長安倡女也生四五歲好文字數及弄妄節綽倫

尤工翰墨自暇素外至于羅將窗戶可書之處必書之日數

千字人驚為書仙筆力為閨中第一後歸任生三月晦日皆

生乘雲仙去 前定錄

曹文姬本長安倡女豔絕倫尤工翰墨秋閨者請先投詩明

山任生詩曰一朵塵心滿九天玉皇殿上掌書仙莫怪叢香

黃昏賦後衣留帶御爐煙女曰真五夫也不然何以知吾事

郡遂事之五年忽對任曰吾本上天司書仙女以情愛謫人寰二紀將歸子可偕行騰雲而去後以所居為書仙里 會稽志

元 尼

妙湛 比丘尼 妙湛管夫人為寫長明卷圖妙湛小行書與其上 珊瑚網

青樓

唐

薛壽 字洪度西川樂妓工為詩當時人多與酬賭武元衡奏為校書郎 名妓公武郎 蜀讀書志

婦人薛濤成都名姬也以詩名當時題吳身卑下而有林下風致故詞翰一出則人爭傳以為玩作字典女子氣象力破數其行書妙處頗得王羲之法少加以學亦衛夫人之流也

每喜寫己所作詩語亦工思致俊逸法書警句因而得名非若公孫大娘舞劍器黃四娘家花柁於杜甫而後傳也一今御府所藏行書萱竹等書 宣和書譜 寄難得見嚴句空潛知其無每遣

元稹以監察使蜀知有薛濤難得見嚴句空潛知其無每遣薛往洎稹登翰林濤歸浣花造小幅松花牋百餘幅詩獻稹寄舊詩與濤云長教碧玉藏深處想向紅牋寫艷詞 蜀

劉采 宋景似道家有薛濤萱草詩 恬生堂 古逸記

王英英 楚州官妓也學顏書公書蔡襄以筆法晚年作大字書不學常子事極先親傳筆法中郎孫妙畫蕊頭魯公體又觀王氏書詩云先觀雅姐舞六么妍若猥數春風楊舞罷英英書大字玉指握管濃素飄風驟雨驚起變怪文鰩畫飛明珠跳 宛陵集

馬盼 徐州營妓也性慧麗蘇軾守徐日甚喜之能學軾書得其行佛軾書書蕉城未畢盼窃效書山川開合四字軾見之大笑略為損色不復易之今碑四字乃盼筆也 會要

李琪 東坡先生在黃日每有錄事李琪者小楷而顏能書札營妓供侍日書帶畫亦時有之有李琪者小楷而顏能書札坡亦每韻之善收來書輒復公之暇至公移文卻將祖行酒酣奉觴再拜取紙書公書公頗視之久令琪磨研墨濃取筆大書云東坡之於黃州住何事無言及李琪即掷筆袖手與客笑談坡乃大笑口幾忘出揚州時書云吟似西川杜工部每常雖好不留詩一座醉翁亦醉而散 春渚紀聞

楚珍　不知姓本勾澤娼女草篆八分皆工董史云家藏七沙古陌標簽皆其體署宣和間有旨取其後者曰楚珍益江南奇男子初維豪放不群終以節顧吾嘗見其過湖詩清勁簡遠有丈夫氣故知其人不凡　書史會要

謝天香　和野有穠芳專色人狀戎報祭所也一日鄉耆謀立石其中延大士人王維翰書之維翰未至有妓謝天香者問不知事就舉何為遂留不欲去曰俟維翰書石耳謝遂以袖代筆書穠芳二字會維翰至書畢完之父老感仰列之石　青谿道人花記

王謝　是成夫婦後維翰登進士與天香偕老

易安　甘棠倡孟瓊字仲玉初姓趙氏本良家子六歲貫明獻訓以詩書遂旦不輟日誦千古得婦人體道韻有格有律之者寶藏珍重之不啻金玉能采指事　書尤妙　宋清虛子　甘棠遺事

嚴蕊　字幼芳天台營妓也善琴棋尤工書作小楷　山谷集

陳相　衡陽妓也歌舞出其類此子書作小楷　山谷集

天台營妓嚴蕊之子幼芳善琴棋工書畫兼能作樂府　書史會要

趙總幹　能著棊分茶寫字彈琴以扇頭乞詞士鄉林向子諲開作詩詞有新語歇拍語　野語

楊韞　湖妓楊韞于寫孟革經每棊第必先寫畫盡未更未病卧之夜其母安韞來別云以經之力今即往生烏程聽處士棊家作女時棊妻方娠是夜夢有僧與及門者迎之則韞也云未育宿寇而生女其母他日來視女為之泣韞一笑入咸

吳之振家傳　事志

吳昌齡　劇人名梁昌齡涪歌也才藝精妙善文墨能作樂府

時珍小詩亦住字畫楷正　書史會要

梁園秀　姓劉氏行四歌舞談謔為當代稱首善翰文墨作字

楷媚閨吟小詩亦佳所製樂府如小梁州青歌兒紅衫兒於
婷兒春兒合等世共唱之 吳伯和
 明 詩集

姜舜玉 號竹雪居士隆閒舊院妓工詩兼楷書 列朝
林奴兒 號秋香咸化間妓風姿色吐于一時僊于史兒 詩集
直玉元父二人筆最清閒落籍後亦能如故求見困西柳枝
于所詩以謝之 昔日章臺舞細腰任君攀折嫩枝條從今
寫入丹青裏不許東風再動搖 列朝詩集
沈周題妓林奴兒畫詞寄臨江仙云舞韶歌聲都指起丹青

留筍芳名在數場妹自前生筆妙畫山橫 描
得出風流意思足粉黛清來會相見倩誰情只憂相思
日花老 詩集
馬湘蘭 馬姓名守真小字元
之名獨著竹居在秦住勝趣 列朝詩集
明湘蘭雙鉤墨蘭立軸傍作篠竹瘦石氣韻絕佳題云草書
擡相工書苦學畫於谷子申青和月的于秦淮水閣和蘭雪竹
真文雙鉤墨蘭小軸題云幽花生空谷無人自含芳以奇
之去然之工落公雨申春日湘蘭守真子二軒今藏余友處

吳興李楨蕭中
薛素素 女度妍雅能書仿黃庭小楷尤工蘭竹下筆生楷各
具千態又善馳馬挾彈能以兩彈丸先後發使後彈擊前彈
於空中又貫珠於地以左手持弓向地以右手從背上反
引其身以擊地下之中百不失一絕技翩翩亦青樓中少雙
者甲乙剩言
范夫人徐小淑暗素素詩云東城薛倩舊名姓蒼紙芙蓉雙
粉奇綠筆揮寒更健錦誰古蜀女謀稱詩 幽蘭九畹墨花
妝走馬章臺弾欲斜邦賈駐車駕油壁西陵松下結同心

馬如玉 桃葉妓善楷書詩奕有致閨筆王孫社中人也 書
馬如玉字共興本泉姓余金陵勾市樓住居檀吃熟精文選
唐音善小楷反人分書 列朝詩集
朱無瑕 朱靚名無瑕字春玉桃葉妓工楷書兩蘭能詩畫
朱無瑕字春玉桃葉渡畫女子幼學歌舞長而安靜文史工
詩善書時人以方馬湘蘭云 列朝詩集
顧大奐 善書以瑣細作小行楷纖之盛鎖裹以寄所歡 列朝詩集
王寀 秦淮妓後為道士引玩王京兆人工小楷善畫蘭鼓琴
亂後游吳門西梅村贈之詩作醴女道士卞玉京彈琴歌贈之

板橋雜記

下賽字賽賽自號玉京道人善詩所自出或曰秦淮人知書工小楷能畫蘭能琴僑虎丘之山塘所居湘簾棨几嚴淨無纖塵雙眸汪然日與佳墨良紙相映徹晚依良醫保御氏刺舌血為書法華經既成自為文序之梅村集

王少君　名曼容白皙而莊清揚巧笑殊有閒閨風其居表以長揚人遂呼為長揚君擘字於周公瑕學詩於余宗漢學琴於許太和爭以文雅相尚

郝文娣　字昭文金陵妓居珠市領其談吐慷慨風生下筆成蠅頭細字書法絕佳後題云乙卯中秋同仙習琴能棋作小楷有東方讀曹娥碑筆法識小錄

孫瑤華　瑤華字靈光金陵曲中妓歸新安汪景純讀書賦詩屏却繁華汪仲嘉有代薛姬寄怨所教詩一時詞客屬和成帙吳兆熊尤岸然自負靈光詩一出皆閣筆歇絕景純子駿聲以手跡示余詩字皆清勁娟約真閨房之秀也列朝詩集

楊宛　字宛叔金陵名妓也能詩有麗句善草書歸茗上茅止生止生壻其才以殊禮遇之列朝詩集

茅止生云宛叔歸予年纔十六能讀書工小楷其於詩游戲涉獵若不經意鮮澗流利雉山歌序

董其昌云楊宛書非直媚秀取姿而遒腕出鋒絕無嫵骨畫旨

汪歷賢題楊宛叔蘭亭臨本詩云獨就規摹出新意更留粉本與蘭亭雙鉤響搨誰能事直與昭陵片葉醒 香祖筆記

楊慕娘 名皖英秦淮女郎工黃庭小楷 明湖 湖

沙嫩 名宛在宇未央桃葉妓善絃管著婕妤集 書

沙宛在名彩姝檀暗蘭亭 明湖 湖

楊叔卿 喜學麻姑壇一染霜毫紙可易百錦大足抢映林下風 春渚紀聞

仝上

靈異

宋

紫姑 政和二年襄邑民因上元請紫姑神為戲既書紙間其字徑丈或問之曰汝更能大書否即書曰請速粘袁表二百幅當為作一福字或曰紙易耳安得許大筆也曰請用麻皮十斤縛作仝徑二尺許墨漿以大罌貯備濡染也諸好事因集紙筆就一富人麥場鋪展聚觀神至書云請一人執筆手項其人不覺身之騰踔往來場間須臾字成端麗如顏書復取小筆書于紙角云持往宣德門賣錢五百貫文既而縣以妖捕羣集之人大府聞之取就鞫治訖無他狀即具奏知有旨令就役苑再書驗之上皇為幸苑中臨視乃書一慶字與

前書福字大小相稱字體亦同上皇大奇之因令於袁邑擇

地建祠歲祀之 春渚紀聞

李娥 遂凡子碩送客餘杭步伍亭就觀壁後得淡墨書字數行仿佛可辨筆迹道媚如出女子云夜臺夜復夜東山東復東當時九龍月今日白楊風後題云李媛書詳味詩句似非世人所作亭後荒閒有數十塚疑塼塔間鬼憑附而書 春渚紀聞

雜錄

宋

南陽驛女子 靖康間京戴士人往；南窻鄧州南陽縣驛有女子書字清婉留題于壁云沉落南來自可哀避人不敢御鉛華却思當日驚；事獨立東風淚滿衣 馬純閒居雜錄

盱江驛舍婦人 劉仙倫云盱江驛舍中有婦人書一憶字筆勢頗姿媚游子明王相之皆題詩其後率予同賦 陽臺雨收行雲杳天涯鴻稀春悄；滿滿孤眠怨芳晝夜；相思何日了妾非無聲不敢啼妾非無淚不敢垂柔情欺擲青黛眉春風着人嗔窓落綠窓書字寄心曲細看香翰婉且柔中有閉愁三萬斛向隅無筆惆悵時此情默；誰得知無緣相見

空相憶不如當日休相識 柳山集

明

墨陽子　書陰符經玻云墨陽子手書陰符經昭學使徐公是經論者以百言演道百言演法百言演術徐公仕宦至中大夫歸不待年其于法于術用誠有所未竟而茲所可竟者神仙抱一之道耳然其大致則一矣道之真以治身其緒餘以治國家其主莫以治天下有味乎先民之言或謂是受之玄女或謂軒轅氏與玉女論陰陽六甲退而自著其事墨陽子居嘗好書是經夫豈以二女自命耶余復觀所貽王廷尉元美心經烏跡能文若出造化其原反終始又必執于正經余不敏無能知墨陽子故為徐公跋而歸之　宣城梅鼎祚　慎思石室集